

空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第9冊

(県立図書館・文書館建設事業)

空港跡地遺跡Ⅸ

2007. 3

香 川 県 教 育 委 員 会

空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第9冊

(県立図書館・文書館建設事業)

空港跡地遺跡 IX

2007. 3

香 川 県 教 育 委 員 会

序 文

空港跡地遺跡は、高松空港跡地整備事業に伴い発掘調査を行った香川県高松市林町に所在する遺跡です。

発掘調査は、香川県教育委員会からの委託で、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが平成2年度から9年度まで実施し、弥生時代から江戸時代までの遺構が検出されました。本報告書に掲載したB地区では、弥生時代後期と古代・中世の遺構・遺物が多数出土しています。特に弥生時代後期の竪穴住居跡からは鹿の絵が刻まれた土器が出土し、当時の生活・文化のありさまを知る貴重な資料となりました。

このたび平成16年4月から平成18年3月までに実施しました整理事業が終了し、『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第9冊 空港跡地遺跡Ⅸ』として刊行することになりました。

本報告書が香川県の歴史研究の資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から出土品の整理・報告にいたるまでの間、関係機関並びに地元関係者各位には多大なご援助とご協力をいただきました。ここに深く感謝の意を表しますとともに、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年3月

香川県埋蔵文化財センター

所 長 渡 部 明 夫

例 言

1. 本報告書は、空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第9冊で、香川県高松市林町に所在する空港跡地遺跡（くこうあとちいせき）の報告を収録した。

2. 発掘調査は、香川県教育委員会が香川県土地開発公社から委託され、香川県教育委員会が調査主体、財団法人香川県埋蔵文化財調査センター（平成16年3月解散）が調査担当者として実施した。

3. 本書に収録した地区の発掘調査は平成3年4月～10月、平成4年11月～平成5年2月・4月に実施した。発掘調査の担当は以下のとおりである。

平成3年度 森 格也・山本主税・間瀬 香

平成4年度 山元素子・土佐修治・安藤くに子

平成5年度 山元素子・山本主税・森澤千尋

4. 調査にあたって、下記の関係諸機関の協力を得た。記して謝意を表したい。（順不同、敬称略）

香川県企画部地域整備課（調査当時）、林地区開発協議会、地元自治会

5. 報告書の作成は、香川県埋蔵文化財センターが実施した。本報告書の執筆・編集は森格也が担当した。

6. 本報告書で用いる方位の北は、既刊の空港跡地遺跡の報告書と整合出来るように、既刊の報告書が採用している旧国土座標系第IV系の北であり、標高は東京湾平均海水面（T. P.）を基準としている。

また、遺構は下記の略号により表示している。

S A 柵列跡 S B 掘立柱建物跡 S D 溝状遺構 S E 井戸跡 S H 竪穴住居跡

S K 土坑跡 S P 柱穴・小穴跡 S R 自然河川跡 S X 不明遺構

なお、本文中で溝状遺構は「溝」と略記している。

7. 挿図の一部に国土地理院地形図「高松北部」「高松南部」（1/50,000）を使用した。

8. 本報告書の石器実測図の網目は摩滅痕を、輪郭線の周囲の実線のうち矢印のものは摩滅・擦痕、使用痕の範囲を、実線の先端部が矢印でないものは敲打痕の範囲を示している。

9. 遺物観察表は以下の基準で作成している。

「残存率」は図化した部分についての残存率であり遺物全体に対するものではない。また口径が1/8以下、あるいは算出不能のものは「細片」と記している。

「色調」は農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖1998年度版』による。また外面と内面の色調が同じものについては、外面の色調のみ記載して

いる。

「胎土」は含まれる鉱物・岩石の径と量を、以下の組み合わせで記載している。また特殊な鉱物・岩石については別途記載している。

微：径0.5mm以下 細：径0.6～1.0mm 中：径1.1～3.9mm 粗：径4.0mm以上

多：非常に多く含む 普：一定量含む 少：少量含む

なお、磁器については「緻密」と記載している。

10. 遺構断面図の水平線上の数値は、水平線の標高を示している。単位はメートルである。
11. 写真図版（貼付CD-ROM）のビューワーは、株式会社トリワークス（<http://www.kuraemon.com>）「蔵衛門2005」を使用した。

本文目次

第1章 調査に至る経緯と経過	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	3
第3節 整理作業の経過	5
第2章 調査の成果	
第1節 調査区の概要と土層序	7
第2節 弥生時代後期～古墳時代前期の遺構・遺物	24
第3節 古代の遺構・遺物	110
第4節 中世の遺構・遺物	152
第5節 近世の遺構・遺物	209
第6節 包含層出土の遺物	214
第3章 まとめ	
第1節 遺構の変遷	220
第2節 S D b 19出土遺物について	227
(1) 須恵器	227
(2) 土師器	229
(3) 器種構成	230
(4) 香川県内の出土類例	231
(5) 空港跡地遺跡 S D b 19出土遺物の所属時期について	235
第3節 条里地割との関係について	236
(1) はじめに	236
(2) 山田郡条里と空港跡地遺跡	238

插图目次

第1图	遺跡位置図	1	第44图	SHb10出土遺物(1)	49
第2图	空港跡地遺跡調査区割図	2	第45图	SHb10出土遺物(2)	50
第3图	空港跡地遺跡I区調査区割図	3	第46图	SHb11平・断面図、出土遺物	51
第4图	空港跡地遺跡報告地区割図	5	第47图	SHb12平・断面図、出土遺物	52
第5图	I-1~2区西壁土層図	8	第48图	SHb13平・断面図、出土遺物	53
第6图	I-1~2区東壁土層図	9	第49图	SHb14平・断面図	54
第7图	I-1~3区南壁土層図(1)	10	第50图	SHb15平・断面図	55
第8图	I-1~3区南壁土層図(2)	11	第51图	SHb15出土遺物(1)	56
第9图	I-2~4区北壁土層図(1)	12	第52图	SHb15出土遺物(2)	57
第10图	I-2~4区北壁土層図(2)	13	第53图	SHb15出土遺物(3)	58
第11图	I-3~4区東壁土層図	14	第54图	SHb16平・断面図	59
第12图	I-18区南東部西壁土層図	15	第55图	SHb16内土坑断面図	60
第13图	I-19区東区画東壁土層図	16	第56图	SHb16出土遺物	61
第14图	I-19区東区画南壁~東区画南端トレンチ土層図	17	第57图	SKb01平・断面図	62
第15图	I-19区西区画北壁(I-7区南壁)土層図(1)	18	第58图	SKb01遺物出土状況図	63
第16图	I-19区西区画北壁(I-7区南壁)土層図(2)	19	第59图	SKb01出土遺物(1)	64
第17图	I-19区西区画・I-20区東壁土層図	20	第60图	SKb01出土遺物(2)	65
第18图	I-19~20区西壁土層図	21	第61图	SKb01出土遺物(3)	66
第19图	I-21区西壁土層図	22	第62图	SKb01出土遺物(4)	67
第20图	I-21区北壁土層図	23	第63图	SKb01出土遺物(5)	68
第21图	SHb01平・断面図、出土遺物	24	第64图	SKb01出土遺物(6)	69
第22图	空港跡地遺跡遺構配置図(弥生時代)	25、26	第65图	SKb01出土遺物(7)	70
第23图	SHb02平・断面図、SHb02内SP01断面図、出土遺物	28	第66图	SKb01出土遺物(8)	71
第24图	SHb03・08平・断面図	29	第67图	SKb01出土遺物(9)	72
第25图	SHb03主柱穴配置図及び変遷図	30	第68图	SKb01出土遺物(10)	73
第26图	SHb03出土遺物	31	第69图	SKb01出土遺物(11)	74
第27图	SHb04平・断面図、出土遺物	32	第70图	SKb01出土遺物(12)	75
第28图	SHb05平・断面図	33	第71图	SKb01出土遺物(13)	76
第29图	SHb06平・断面図	34	第72图	SKb01出土遺物(14)	78
第30图	SHb06遺物出土位置図	34	第73图	SKb01出土遺物(15)	79
第31图	SHb06出土遺物	35	第74图	SKb01出土遺物(16)	80
第32图	SHb07平・断面図	36	第75图	SKb01出土遺物(17)	81
第33图	SHb07中央土坑部分遺物出土状況図	37	第76图	SKb01出土遺物(18)	82
第34图	SHb07出土遺物(1)	38	第77图	SKb02平・断面図	83
第35图	SHb07出土遺物(2)	39	第78图	SKb03平・断面図、出土遺物	83
第36图	SHb07出土遺物(3)	40	第79图	SKb04平・断面図、出土遺物	83
第37图	SHb07出土遺物(4)	41	第80图	SKb05出土遺物	84
第38图	SHb07出土遺物(5)	42	第81图	SKb05平・断面図	85
第39图	SHb07出土遺物(6)	43	第82图	SKb06平・断面図	85
第40图	SHb08主柱穴配置図	44	第83图	SKb07平・断面図、出土遺物	86
第41图	SHb09平・断面図	45	第84图	SKb08平・断面図	86
第42图	SHb09出土遺物	45	第85图	SKb09平・断面図	87
第43图	SHb10平・断面図	47、48	第86图	SKb10平・断面図	87
			第87图	SKb11平・断面図	87
			第88图	SKb12平・断面図	87
			第89图	SKb13平・断面図、出土遺物	88
			第90图	SKb14平・断面図	88

第91図	SKb15平・断面図	88	第140図	SKb30平・断面図	123
第92図	SKb16平・断面図	89	第141図	SKb31平・断面図、出土遺物	123
第93図	SKb16遺物出土状況図	89	第142図	SKb32平・断面図	124
第94図	SKb16出土遺物(1)	90	第143図	SKb33平・断面図	124
第95図	SKb16出土遺物(2)	91	第144図	SKb34平・断面図	124
第96図	SKb16出土遺物(3)	92	第145図	SKb35平・断面図	124
第97図	SKb16出土遺物(4)	93	第146図	SKb36平・断面図	124
第98図	SKb17平・断面図	94	第147図	SKb37平・断面図	125
第99図	SKb18平・断面図	94	第148図	SKb38平・断面図	125
第100図	SDb01・02断面図	95	第149図	SKb39平・断面図、出土遺物	125
第101図	SDb03・04断面図、出土遺物	95	第150図	SKb40平・断面図	125
第102図	SDb05・06・07・08・09・10断面図	96	第151図	SDb11・12・13断面図	126
第103図	SDb08出土遺物	97	第152図	SDb11・12・13出土遺物	127
第104図	SPb01・02平・断面図、出土遺物	99	第153図	SDb14・17・18断面図	128
第105図	SXb01平・断面図、出土遺物	99	第154図	SDb14・17・18出土遺物	128
第106図	SXb02平・断面図	100	第155図	SDb19・20位置図・平面図、SDb19 断面図	129
第107図	SXb03平・断面図	101	第156図	SDb19断面図、出土遺物(1)	130
第108図	SXb04平・断面図	101	第157図	SDb19出土遺物(2)	131
第109図	SXb05平・断面図	102	第158図	SDb19出土遺物(3)	132
第110図	SXb05出土遺物(1)	103	第159図	SDb19出土遺物(4)	133
第111図	SXb05出土遺物(2)	104	第160図	SDb19出土遺物(5)	135
第112図	SXb06平・断面図、出土遺物	105	第161図	SDb19出土遺物(6)	136
第113図	SXb07出土遺物	105	第162図	SDb19出土遺物(7)	137
第114図	SXb07平・断面図	106	第163図	SDb19出土遺物(8)	138
第115図	SRb01断面図	107	第164図	SDb19出土遺物(9)	139
第116図	SRb01出土遺物(1)	107	第165図	SDb19出土遺物(10)	140
第117図	SRb01出土遺物(2)	108	第166図	SDb19出土遺物(11)	141
第118図	SRb01出土遺物(3)	109	第167図	SDb19直上包含層出土遺物	142
第119図	SBb01平・断面図	110	第168図	SDb23・25・26・27・28・29・30・31・ 32断面図	144
第120図	SBb02平・断面図	110	第169図	SDb23・26・28・29・30・31・32出土 遺物	145
第121図	空港跡地遺跡遺構配置図(古代)	111、112	第170図	SDb33断面図	146
第122図	SBb03平・断面図	113	第171図	SDb33出土遺物	147
第123図	SBb04平・断面図、柱穴出土遺物	114	第172図	SDb34・35・36・37・38・39・40 断面図	148
第124図	SBb05、SAb01平・断面図、柱穴出土 遺物	115	第173図	SDb36出土遺物	148
第125図	SBb06平・断面図	116	第174図	SPb03~16平・断面図	149
第126図	SBb07平・断面図	117	第175図	SPb03~16出土遺物	150
第127図	SBb08平・断面図	118	第176図	SXb08平・断面図、出土遺物	151
第128図	SBb09平・断面図	118	第177図	SAb02平・断面図	152
第129図	SKb19平・断面図	119	第178図	空港跡地遺跡遺構配置図(中世)	153、154
第130図	SKb20平・断面図	119	第179図	SBb10平・断面図、柱穴出土遺物	155
第131図	SKb21平・断面図	120	第180図	SBb11平・断面図	156
第132図	SKb22平・断面図、出土遺物	120	第181図	SBb11柱穴出土遺物	157
第133図	SKb23平・断面図、出土遺物	120	第182図	SBb12平・断面図	158
第134図	SKb24平・断面図、出土遺物	121	第183図	SBb13平・断面図	158
第135図	SKb25平・断面図、出土遺物	121	第184図	SBb14平・断面図	159
第136図	SKb26平・断面図	122	第185図	SBb15平・断面図、柱穴出土遺物	160
第137図	SKb27平・断面図	122			
第138図	SKb28平・断面図	122			
第139図	SKb29平・断面図、出土遺物	123			

第186図	SBb16平・断面図、柱穴出土遺物	161	第233図	SDb43・44・46・47・48・49・50・51・52 断面図	188
第187図	SBb17平・断面図、柱穴出土遺物	162	第234図	SDb44・47・48・51・53・57・58・62 出土遺物	189
第188図	SBb18平・断面図、柱穴出土遺物	164	第235図	SDb53・54・55・56・57・58・59・60・ 61・62断面図	192
第189図	SBb19、SAb03平・断面図、柱穴出土 遺物	165	第236図	SPb17平・断面図、出土遺物	193
第190図	SBb20、SAb04・05平・断面図	166	第237図	SPb18~37平・断面図	194
第191図	SBb21平・断面図	167	第238図	SPb18~34出土遺物	195
第192図	SBb22平・断面図	168	第239図	SPb38~62平・断面図	196
第193図	SBb23平・断面図	169	第240図	SPb35~42出土遺物	197
第194図	SBb24平・断面図	170	第241図	SPb43~62出土遺物	198
第195図	SBb25平・断面図、柱穴出土遺物	171	第242図	SXb09平・断面図	200
第196図	SBb26平・断面図	171	第243図	SXb09出土遺物	200
第197図	SBb27 (SB Ⅱ 03: 報告書Ⅷ) 平・断面図、 柱穴出土遺物	172	第244図	SXb10平・断面図	201
第198図	SKb41平・断面図	173	第245図	SXb11平・断面図、出土遺物	201
第199図	SKb42平・断面図	173	第246図	SXb12平・断面図	202
第200図	SKb43平・断面図	173	第247図	SXb13平・断面図	203
第201図	SKb44平・断面図	174	第248図	SXb13出土遺物	204
第202図	SKb45平・断面図	174	第249図	SXb14平・断面図、出土遺物	204
第203図	SKb46平・断面図	174	第250図	SXb15平・断面図、出土遺物	205
第204図	SKb47平・断面図	175	第251図	SXb16平・断面図	205
第205図	SKb48平・断面図、出土遺物	175	第252図	SXb17平・断面図、出土遺物	205
第206図	SKb49平・断面図、出土遺物	176	第253図	SXb18平・断面図、出土遺物	206
第207図	SKb50平・断面図	176	第254図	空港跡地遺跡遺構配置図(近世)	207、208
第208図	SKb51平・断面図	176	第255図	SKb70平・断面図、出土遺物	209
第209図	SKb52平・断面図、出土遺物	177	第256図	SKb71平・断面図、出土遺物	209
第210図	SKb53平・断面図	177	第257図	SKb72平・断面図、出土遺物	210
第211図	SKb54平・断面図	177	第258図	SKb73平・断面図、出土遺物	210
第212図	SKb55平・断面図	178	第259図	SKb74平・断面図	210
第213図	SKb56平・断面図	178	第260図	SKb75平・断面図	211
第214図	SKb57平・断面図	178	第261図	SDb63・64・65断面図、SDb64 出土遺物	211
第215図	SKb58平・断面図、出土遺物	178	第262図	SXb19平・断面図、出土遺物(1)	212
第216図	SKb59平・断面図	179	第263図	SXb19出土遺物(2)	213
第217図	SKb60平・断面図	179	第264図	SXb20平・断面図、出土遺物	213
第218図	SKb61平・断面図、出土遺物	179	第265図	包含層(I-1区)出土遺物	214
第219図	SKb62平・断面図	180	第266図	包含層(I-2区)出土遺物	215
第220図	SKb63平・断面図、出土遺物	180	第267図	包含層(I-3区)出土遺物	215
第221図	SKb64平・断面図、出土遺物	180	第268図	包含層(I-4区)出土遺物	216
第222図	SKb65平・断面図	180	第269図	包含層(I-18区)出土遺物	217
第223図	SKb66平・断面図	181	第270図	包含層(I-19区)出土遺物	218
第224図	SKb67・76平・断面図	181	第271図	包含層(I-20・21区)出土遺物	218
第225図	SKb68平・断面図	181	第272図	遺構変遷図(1)	221
第226図	SKb69平・断面図	181	第273図	遺構変遷図(2)	223
第227図	SEb01平・立・断面図、掘方平面図	182	第274図	遺構変遷図(3)	225
第228図	SEb01出土遺物	183	第275図	遺構変遷図(4)	226
第229図	SEb02平・立・断面図	184	第276図	讃岐国府跡第1次調査AⅡ区第6層 出土遺物	230
第230図	SDb41・42位置図・平面図、SDb41 断面図	185	第277図	讃岐国府跡第1次調査BⅡ区第6層	
第231図	SDb41出土遺物	186			
第232図	SDb42断面図	187			

	出土遺物	231	第282図	正箱遺跡 SD10出土遺物	235
第278図	讃岐国府跡第1次調査AⅡ区第5層		第283図	坪井遺跡 SD86出土遺物	236
	出土遺物	232	第284図	空港跡地遺跡（Ⅰ区・Ⅱ区西部）と 条里地割	237
第279図	讃岐国府跡第1次調査BⅡ区第5層		第285図	空港跡地遺跡（Ⅰ区・Ⅱ区西部）と 条里地割（古代）	239
	出土遺物（1）	233	第286図	空港跡地遺跡（Ⅰ区・Ⅱ区西部）と 条里地割（中世）	241
第280図	讃岐国府跡第1次調査BⅡ区第5層				
	出土遺物（2）	234			
第281図	定兼2号窯跡出土遺物	234			

表 目 次

第1表	県立図書館・文書館建設及び周辺基盤 整備に伴う発掘調査工程表	4	第6表	SDb19須恵器杯蓋 径高分布	228
第2表	発掘調査体制	4	第7表	SDb19須恵器杯B 径高分布	228
第3表	整理作業体制	5	第8表	SDb19須恵器杯A 径高分布	228
第4表	空港跡地遺跡地区別報告一覧	6	第9表	SDb19須恵器皿 径高分布	229
第5表	掘立柱建物跡一覧	226	第10表	SDb19土師器皿 径高分布	229

図 版 目 次

図版1	空港跡地遺跡と高松平野 南から 空港跡地遺跡 I 区全景 南から (建設中の建物が図書館、文書館)	報文番号54 報文番号212
図版2	I-1区 南から I-2区・I-3区 南から	図版8 報文番号470 報文番号1296
図版3	I-4区 北から SKb01-1面 東から	図版9 I-1区全景 I-2区全景
図版4	I-4区全景 (弥生時代竪穴住居跡群) 東から SHb03・SHb08 西から	図版10 I-3区全景 I-4区全景
図版5	SBb16 西から SBb17 南から	図版11 I-4区全景 (弥生時代) I-18区全景
図版6	SKb01出土遺物 SDb19出土遺物	図版12 I-19区東区画全景 I-19区西区画全景
図版7	報文番号47	図版13 I-20区全景 I-21区西部全景

画 像 目 次

画像001	I-4区弥生時代後期竪穴住居跡群 東から	画像025 I-4区 北壁土層
画像002	調査前風景 東から	画像026 I-19区西区画 西壁土層
画像003	調査前風景 東から	画像027 I-19区西区画 南壁土層
画像004	I-1区 南壁土層	画像028 I-19区東区画 南壁土層
画像005	I-1区 南壁土層	画像029 I-21区西側 西壁土層
画像006	I-1区 南壁土層	画像030 I-21区南側 北壁土層
画像007	I-1区 東壁土層	画像031 I-1区東半分 完掘状況 北西から
画像008	I-1区 東壁土層	画像032 I-1区西半分 完掘状況 北から
画像009	I-1区 西壁土層	画像033 I-1区 完掘状況 西から
画像010	I-1・2区 西壁土層	画像034 I-1区南西部分 完掘状況 西から
画像011	I-1・2区 西壁土層	画像035 I-1区東半分 完掘状況 東から
画像012	I-2区 北壁土層	画像036 I-1区 完掘状況 東から
画像013	I-2区 北壁土層	画像037 I-2区 完掘状況 東から
画像014	I-2区 北壁土層	画像038 I-3区 完掘状況 北から
画像015	I-2区 東壁土層	画像039 I-3区 完掘状況 東から
画像016	I-2区 東壁土層	画像040 I-4区北東部 完掘状況 北東から
画像017	I-3区 南壁土層	画像041 I-18区西半分 完掘状況 東から
画像018	I-3区 南壁土層	画像042 I-18区東半分 完掘状況 東から
画像019	I-3区 南壁土層SDb19部分	画像043 I-18区南東部分 完掘状況 北西から
画像020	I-3区 東壁土層	画像044 I-19区西区画西半分 完掘状況 西から
画像021	I-3区 東壁土層	画像045 I-19区西区画東半分 完掘状況 東から
画像022	I-4区 東壁土層	画像046 I-19区東区画 完掘状況 西から
画像023	I-4区 東壁土層	
画像024	I-4区 北壁土層	

画像047	I-19区東区画東半分 完掘状況 東から	南から
画像048	I-20区 完掘状況 東から	画像086 I-1区 SKb01遺物出土状況第1面 東から
画像049	I-20区 完掘状況 南から	画像087 I-1区 SKb01遺物出土状況第1面 西から
画像050	I-21区東部 完掘状況 東から	画像088 I-1区 SKb01遺物出土状況第2面 東から
画像051	I-21区南西部 完掘状況 西から	画像089 I-1区 SKb01遺物出土状況第2面 南から
画像052	I-4区 弥生時代後期竪穴住居跡群 東から	画像090 I-1区 SKb01遺物出土状況第3面 東から
画像053	I-4区 SHb01完掘状況 西から	画像091 I-1区 SKb01完掘状況 東から
画像054	I-4区 SHb02完掘状況 東から	画像092 I-1区 SKb04完掘状況 西から
画像055	I-4区 SHb03、SHb08完掘状況 西から	画像093 I-1区 SKb05完掘状況 東から
画像056	I-4区 SHb04完掘状況 西から	画像094 I-18区 SKb16遺物出土状況 北東から
画像057	I-4区 SHb04管玉出土状況	画像095 I-18区 SKb16遺物出土状況 南西から
画像058	I-4区 SHb05完掘状況 西から	画像096 I-18区 SKb16南西-北東方向断面 南東から
画像059	I-4区 SHb06完掘状況 北から	画像097 I-18区 SKb16南東-北西方向断面 北東から
画像060	I-4区 SHb06遺物出土状況 南から	画像098 I-1区 SKb22、SKb48完掘状況 北から
画像061	I-4区 SHb07完掘状況 南から	画像099 I-19区 SDb07断面A-A' 東から
画像062	I-4区 SHb07土器・礫出土状況 東から	画像100 I-19区 SDb08遺物出土状況 南東から
画像063	I-4区 SHb09完掘状況 東から	画像101 I-1区 SDb11完掘状況 西から
画像064	I-4区 SHb10完掘状況 北から	画像102 I-3区 SDb19完掘状況 北から
画像065	I-1区 SHb15遺物出土状況 南から	画像103 I-3区 SDb19完掘状況屈曲部分 北から
画像066	I-1区 SHb15完掘状況 北から	画像104 I-4区 SDb19完掘状況 北から
画像067	I-19区 SHb16完掘状況 南から	画像105 I-4区 SDb19断面A-A'南から
画像068	I-19区 SHb16内SK01・02断面 C-C'	画像106 I-4区 SDb19断面B-B'南から
画像069	I-4区 SAb01、SBb05完掘状況 南から	画像107 I-4区 SDb19断面C-C'南から
画像070	I-4区 SBb06完掘状況 東から	画像108 I-3区 SDb19断面D-D'南から
画像071	I-3区 SBb08完掘状況 北東から	画像109 I-3区 SDb19断面E-E'南から
画像072	I-20区 SBb09完掘状況 南西から	画像110 I-3区 SDb19断面F-F'南から
画像073	I-1区 SBb10完掘状況 西から	画像111 I-3区 SDb19断面G-G'南から
画像074	I-1区 SBb11完掘状況 西から	画像112 I-21区 SDb19断面H-H'南から
画像075	I-1区 SAb02、SBb01、SBb12完掘状況 西から	画像113 I-4区 SDb19遺物出土状況 南から
画像076	I-2区 SBb13完掘状況 西から	画像114 I-19区 SDb33断面A-A'(1) 北から
画像077	I-3区 SBb16完掘状況 西から	画像115 I-19区 SDb33断面A-A'(2) 北から
画像078	I-3区 SBb17完掘状況 南から	画像116 I-19区 SDb33断面B-B'(1) 北から
画像079	I-3区 SBb18完掘状況 南から	画像117 I-19区 SDb33断面B-B'(2)
画像080	I-3区 SBb19完掘状況 南から	
画像081	I-4区 SAb05、SBb20完掘状況 南から	
画像082	I-4区 SBb21完掘状況 南西から	
画像083	I-3区 SBb22完掘状況 南西から	
画像084	I-1区 SKb01土層断面B-B' 東から	
画像085	I-1区 SKb01土層断面A-A'	

	北から	画像158	SHb06出土遺物	(33)
画像118	I-19区 SDb36断面A-A´	画像159	SHb06出土遺物	(34)
	西から	画像160	SHb06出土遺物	(35)
画像119	I-19区 SDb37断面A-A´	画像161	SHb06出土遺物	(36)
	東から	画像162	SHb06出土遺物	(37)
画像120	I-19区 SDb38断面A-A´	画像163	SHb06出土遺物	(38)
	西から	画像164	SHb06出土遺物	(39)
画像121	I-1区 SDb41完掘状況 北から	画像165	SHb07出土遺物	(46)
画像122	I-2区 SDb41完掘状況 北から	画像166	SHb07出土遺物	鹿の線刻有り (47)
画像123	I-2区 SDb41断面A-A´ 南から	画像167	SHb07出土遺物	鹿の線刻 拡大 (47)
画像124	I-2区 SDb41断面B-B´ 南から	画像168	SHb07出土遺物	(50)
画像125	I-1区 SDb41断面C-C´ 南から	画像169	SHb07出土遺物	(51)
画像126	I-1区 SDb41断面D-D´ 南から	画像170	SHb07出土遺物	(53)
画像127	I-1区 SDb41断面E-E´ 南から	画像171	SHb07出土遺物	(54)
画像128	I-19区 SDb42断面A-A´	画像172	SHb07出土遺物	(60)
	北から	画像173	SHb07出土遺物	(62)
画像129	I-21区 SDb47断面A-A´	画像174	SHb07出土遺物	(63)
	北から	画像175	SHb07出土遺物	(64)
画像130	I-2区 SEb02土層 北から	画像176	SHb07出土遺物	(71)
画像131	I-2区 SEb02石組 北から	画像177	SHb07出土遺物	(80)
画像132	I-2区 SEb02石組半截状況	画像178	SHb07出土遺物	(97)
	北から	画像179	SHb07出土遺物	(124)
画像133	I-1区 SPb17和鏡出土状況	画像180	SHb07出土遺物	(126)
	東から	画像181	SHb07出土遺物	(127)
画像134	I-21区 SPb55遺物出土状況	画像182	SHb07出土遺物	(129)
	西から	画像183	SHb07出土遺物	(147)
画像135	I-2区 SRb01完掘状況 南東から	画像184	SHb10出土遺物	(157)
画像136	I-1区 SXb01完掘状況 東から	画像185	SHb10出土遺物	(174)
画像137	I-19区 SXb05遺物出土状況	画像186	SHb10出土遺物	(183)
	北から	画像187	SHb11出土遺物	(202)
画像138	I-18区 SXb06掘削状況 西から	画像188	SHb12出土遺物	弥生時代後期の竪穴 住居跡に混入した古代の土師器甕 (203)
画像139	I-1区 SXb09完掘状況 南から	画像189	SHb15出土遺物	頸部に絵画状の線刻有り (212)
画像140	I-2区 SXb10礫検出状況 東から	画像190	SHb15出土遺物	(222)
画像141	I-2区 SXb11礫検出状況 東から	画像191	SHb15出土遺物	(223、224)
画像142	I-2区 SXb19礫検出状況 北から	画像192	SHb15出土遺物	(244)
画像143	I-1~3区 調査風景 東から	画像193	SHb16出土遺物	(272)
画像144	SKb01出土遺物 時代：弥生時代後期	画像194	SHb16出土遺物	(275)
画像145	SDb19出土遺物 時代：古代	画像195	SHb16出土遺物	(276)
画像146	SHb02出土遺物 (9)	画像196	SHb16出土遺物	(277)
画像147	SHb02出土遺物 (10)	画像197	SHb16出土遺物	(278)
画像148	SHb03出土遺物 (17)	画像198	SHb16出土遺物	(279)
画像149	SHb04出土遺物 (21)	画像199	SHb16出土遺物	(282)
画像150	SHb04出土遺物 (22)	画像200	SHb16出土遺物	(283)
画像151	SHb04出土遺物 (23)	画像201	SHb16出土遺物	(284)
画像152	SHb04出土遺物 (24)	画像202	SHb16出土遺物	(285)
画像153	SHb04出土遺物 (26)	画像203	SHb16出土遺物	(286)
画像154	SHb06出土遺物 (27)	画像204	SKb01出土遺物	(289)
画像155	SHb06出土遺物 (28)			
画像156	SHb06出土遺物 (31)			
画像157	SHb06出土遺物 (32)			

画像205	SKb01出土遺物	(290)	画像255	SKb01出土遺物	(464)
画像206	SKb01出土遺物	(291)	画像256	SKb01出土遺物	(469)
画像207	SKb01出土遺物	(292)	画像257	SKb01出土遺物	(470)
画像208	SKb01出土遺物	(293)	画像258	SKb01出土遺物	(481)
画像209	SKb01出土遺物	(294)	画像259	SKb01出土遺物	(482)
画像210	SKb01出土遺物	(299)	画像260	SKb01出土遺物	(483)
画像211	SKb01出土遺物	(302)	画像261	SKb01出土遺物	(486)
画像212	SKb01出土遺物	(303)	画像262	SKb01出土遺物	(487)
画像213	SKb01出土遺物	(308)	画像263	SKb01出土遺物	(490)
画像214	SKb01出土遺物	(309)	画像264	SKb01出土遺物	(491)
画像215	SKb01出土遺物	(313)	画像265	SKb01出土遺物	(492)
画像216	SKb01出土遺物	(314)	画像266	SKb01出土遺物	(493)
画像217	SKb01出土遺物	(315)	画像267	SKb01出土遺物	(494)
画像218	SKb01出土遺物	(316)	画像268	SKb01出土遺物	(497)
画像219	SKb01出土遺物	(317)	画像269	SKb01出土遺物	(498)
画像220	SKb01出土遺物	(318)	画像270	SKb01出土遺物	(499)
画像221	SKb01出土遺物	(319)	画像271	SKb01出土遺物	(500)
画像222	SKb01出土遺物	(321)	画像272	SKb01出土遺物	(501)
画像223	SKb01出土遺物	(322)	画像273	SKb01出土遺物	(502)
画像224	SKb01出土遺物	(342)	画像274	SKb01出土遺物	(503)
画像225	SKb01出土遺物	(345)	画像275	SKb01出土遺物	(507)
画像226	SKb01出土遺物	(346)	画像276	SKb01出土遺物	(508)
画像227	SKb01出土遺物	(348)	画像277	SKb01出土遺物	(512)
画像228	SKb01出土遺物	(349)	画像278	SKb01出土遺物	(513)
画像229	SKb01出土遺物	(350)	画像279	SKb01出土遺物	(514)
画像230	SKb01出土遺物	(351)	画像280	SKb01出土遺物	(515)
画像231	SKb01出土遺物	(352)	画像281	SKb01出土遺物	(522)
画像232	SKb01出土遺物	(353)	画像282	SKb01出土遺物	(525)
画像233	SKb01出土遺物	(354)	画像283	SKb01出土遺物	(526)
画像234	SKb01出土遺物	(355)	画像284	SKb01出土遺物	(527)
画像235	SKb01出土遺物	(356)	画像285	SKb01出土遺物	(528)
画像236	SKb01出土遺物	(358)	画像286	SKb01出土遺物	(531)
画像237	SKb01出土遺物	(359)	画像287	SKb01出土遺物	(531)
画像238	SKb01出土遺物	(371)	画像288	SKb05出土遺物	(555、554)
画像239	SKb01出土遺物	(372)	画像289	SKb05出土遺物	(556)
画像240	SKb01出土遺物	(390)	画像290	SKb07出土遺物	(567)
画像241	SKb01出土遺物	(391)	画像291	SKb16出土遺物	(583)
画像242	SKb01出土遺物	(392)	画像292	SKb16出土遺物	(584)
画像243	SKb01出土遺物	(393)	画像293	SKb16出土遺物	(585)
画像244	SKb01出土遺物	(394)	画像294	SKb16出土遺物	(586)
画像245	SKb01出土遺物	(408)	画像295	SKb16出土遺物	(590)
画像246	SKb01出土遺物	(409)	画像296	SKb16出土遺物	(601)
画像247	SKb01出土遺物	(419)	画像297	SKb16出土遺物	(603)
画像248	SKb01出土遺物	(420)	画像298	SKb16出土遺物	(605)
画像249	SKb01出土遺物	(457)	画像299	SKb16出土遺物	(614)
画像250	SKb01出土遺物	(459)	画像300	SKb16出土遺物	(617)
画像251	SKb01出土遺物	(460)	画像301	SKb16出土遺物	(627)
画像252	SKb01出土遺物	(461)	画像302	SKb16出土遺物	(634)
画像253	SKb01出土遺物	(462)	画像303	SKb16出土遺物	(638)
画像254	SKb01出土遺物	(463)	画像304	SKb16出土遺物	(645)

画像305	SKb16出土遺物	(649)	画像355	SDb19出土遺物	(885)
画像306	SKb16出土遺物	(653)	画像356	SDb19出土遺物	(886)
画像307	SDb08出土遺物	(661)	画像357	SDb19出土遺物	(888)
画像308	SDb08出土遺物	(671)	画像358	SDb19出土遺物	(905)
画像309	SDb08出土遺物	(674)	画像359	SDb19出土遺物	(906)
画像310	SDb08出土遺物	(675)	画像360	SDb19出土遺物	(909)
画像311	SXb05出土遺物	(683)	画像361	SDb19出土遺物	(919)
画像312	SXb05出土遺物	(685)	画像362	SDb19出土遺物	(925)
画像313	SXb05出土遺物	(690)	画像363	SDb19出土遺物	(928)
画像314	SXb05出土遺物	(691)	画像364	SDb19出土遺物	(933)
画像315	SXb05出土遺物	(700)	画像365	SDb19出土遺物	(934)
画像316	SXb05出土遺物	(703)	画像366	SDb19出土遺物	(935)
画像317	SXb05出土遺物	(709)	画像367	SDb19出土遺物	(938)
画像318	SXb06出土遺物	(710)	画像368	SDb19出土遺物	(940)
画像319	SXb06出土遺物	(713)	画像369	SDb19出土遺物	(944)
画像320	SXb06出土遺物	(714)	画像370	SDb19出土遺物	(947)
画像321	SRb01出土遺物	(722)	画像371	SDb19出土遺物	(949)
画像322	SRb01出土遺物	(723)	画像372	SDb19出土遺物	(953)
画像323	SRb01出土遺物	(733)	画像373	SDb19出土遺物	(957)
画像324	SRb01出土遺物	(739)	画像374	SDb19出土遺物	(958)
画像325	SKb25出土遺物	(764)	画像375	SDb19出土遺物	(959)
画像326	SKb25出土遺物	(765)	画像376	SDb19出土遺物	(964)
画像327	SKb25出土遺物	(766)	画像377	SDb19出土遺物	(970)
画像328	SDb17出土遺物	(805)	画像378	SDb19出土遺物	墨書 (970)
画像329	SDb19出土遺物	(808)	画像379	SDb19出土遺物	墨書 (983)
画像330	SDb19出土遺物	(809)	画像380	SDb19出土遺物	(995)
画像331	SDb19出土遺物	(813)	画像381	SDb19出土遺物	(997)
画像332	SDb19出土遺物	(814)	画像382	SDb19出土遺物	(1000)
画像333	SDb19出土遺物	(816)	画像383	SDb19出土遺物	(1003)
画像334	SDb19出土遺物	(817)	画像384	SDb19出土遺物	(1004)
画像335	SDb19出土遺物	(818)	画像385	SDb19出土遺物	(1006)
画像336	SDb19出土遺物	(820)	画像386	SDb19出土遺物	(1007)
画像337	SDb19出土遺物	(821)	画像387	SDb19出土遺物	(1009)
画像338	SDb19出土遺物	(822)	画像388	SDb19出土遺物	(1019)
画像339	SDb19出土遺物	(823)	画像389	SDb19出土遺物	(1041)
画像340	SDb19出土遺物	ヘラ記号 (823)	画像390	SDb19出土遺物	(1067)
画像341	SDb19出土遺物	ヘラ記号 (823)	画像391	SDb19出土遺物	(1069)
画像342	SDb19出土遺物	(824)	画像392	SDb19出土遺物	(1077)
画像343	SDb19出土遺物	(830)	画像393	SDb19出土遺物	(1080)
画像344	SDb19出土遺物	(842)	画像394	SDb19出土遺物	(1086)
画像345	SDb19出土遺物	(848)	画像395	SDb19出土遺物	(1098)
画像346	SDb19出土遺物	(855)	画像396	SDb19出土遺物	(1099)
画像347	SDb19出土遺物	(860)	画像397	SDb19出土遺物	(1101)
画像348	SDb19出土遺物	(870)	画像398	SDb19出土遺物	(1103)
画像349	SDb19出土遺物	(872)	画像399	SDb19出土遺物	(1105)
画像350	SDb19出土遺物	(873)	画像400	SDb19出土遺物	(1106)
画像351	SDb19出土遺物	(878)	画像401	SDb19出土遺物	(1107)
画像352	SDb19出土遺物	(879)	画像402	SDb19出土遺物	(1108)
画像353	SDb19出土遺物	(883)	画像403	SDb19出土遺物	(1109)
画像354	SDb19出土遺物	(884)	画像404	SDb19出土遺物	(1112)

画像405	SDb19出土遺物 (1115)	(1298、1320、1299)
画像406	SDb19出土遺物 (1127)	画像421 SPb39出土遺物 (1334)
画像407	SDb19出土遺物 (1130)	画像422 SPb55出土遺物 (1355、未掲載)
画像408	SDb19出土遺物 (1146)	画像423 SPb55、SPb59、SPb59出土遺物 (1356、1363、1364)
画像409	SDb19直上包含層出土遺物 (1155)	画像424 SPb55出土遺物 (1358)
画像410	SDb33出土遺物 (1179)	画像425 SXb17出土遺物 (1392、1393)
画像411	SDb33出土遺物 (1180)	画像426 SDb64出土遺物 (1405)
画像412	SDb33出土遺物 (1182)	画像427 SDb64出土遺物 (1407)
画像413	SBb10出土遺物 (1207)	画像428 SXb19出土遺物 (1410)
画像414	SBb11出土遺物 (1208)	画像429 包含層 (I-3区) 出土遺物 (1437)
画像415	SBb17出土遺物 (1226)	画像430 包含層 (I-4区) 出土遺物 (1452)
画像416	SBb19内SP01出土遺物 (1228)	画像431 包含層 (I-4区) 出土遺物 (1455)
画像417	SBb25内SP02、SPb45、SBb25内SP02 出土遺物 (1230、1342、1233)	画像432 包含層 (I-4区) 出土遺物 (1465)
画像418	SBb25内SP03、SPb51、SPb50出土遺物 (1237、1351、1347)	画像433 包含層 (I-18区) 出土遺物 (1476)
画像419	SPb17 (1296)	画像434 包含層 (I-18区) 出土遺物 (1477)
画像420	SPb18、SPb32、SPb19出土遺物	画像435 包含層 (I-19区) 出土遺物 (1487)
		画像436 包含層 (I-21区) 出土遺物 (1495)

付 図 目 次

付図1	空港跡地遺跡B区 I-1~4区・ I-21区遺構図	付図3	空港跡地遺跡B区 I-19区西区画・ I-20区遺構図
付図2	空港跡地遺跡B区 I-18区・I-19区 東区画遺構図		

第1章 調査に至る経緯と経過

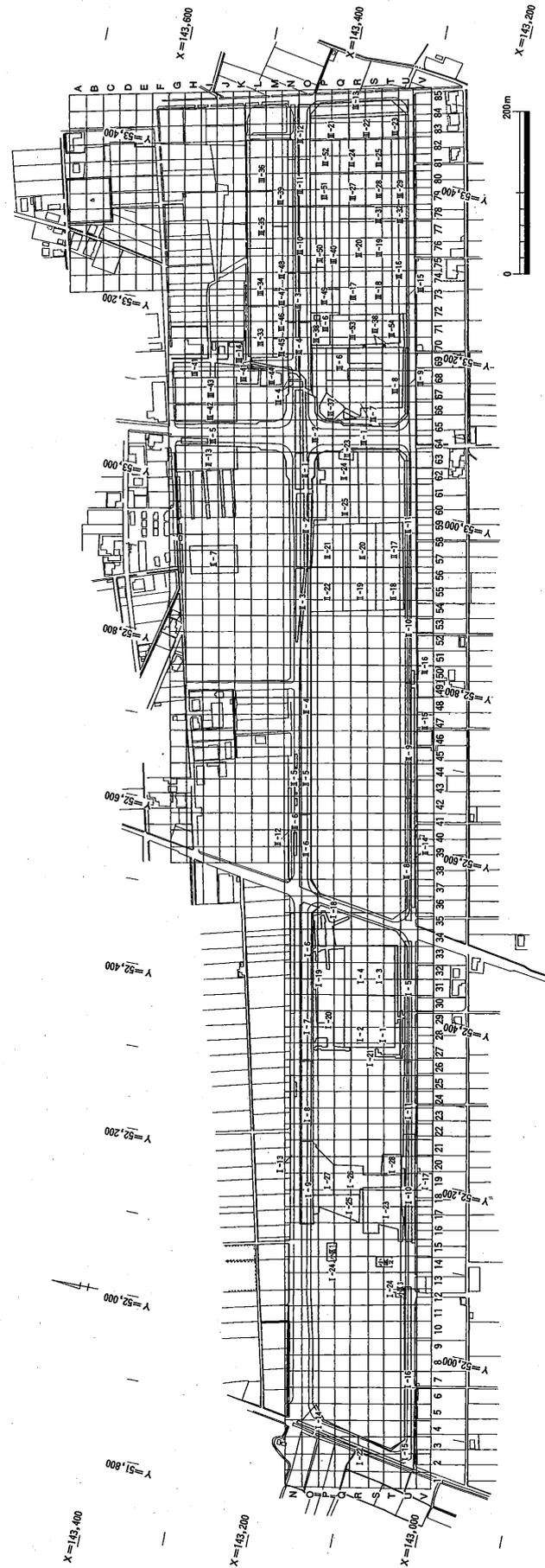
第1節 調査に至る経緯

高松市林町にあった高松空港が平成元年12月に香川郡香南町（現高松市香南町）・綾歌郡綾南町（現綾川町）に移転したことに伴い、空港跡地を香川県土地開発公社が取得し、香川県は空港跡地を再開発することを目的として、空港跡地開発整備事業計画を策定した。

空港跡地の周辺では、高松東道路建設事業、太田第2土地区画整理事業、弘福寺領讃岐国山田郡田岡関連調査に伴う発掘調査が実施されており、その成果から空港跡地にも埋蔵文化財包蔵地が存在することが十分に予想できた。このため香川県教育委員会は当該地の埋蔵文化財保護のため、香川県土地開発



第1図 遺跡位置図（1／100,000）



第2図 空港跡地遺跡調査区割図 (1/8,000)

公社との間に「発掘調査等委託契約」を結び、これを受けて財団法人香川県埋蔵文化財調査センターでは平成2年4月1日付けで香川県教育委員会と「埋蔵文化財調査契約書」を締結し、空港跡地埋蔵文化財調査業務の予備調査に着手した。

予備調査の結果、空港跡地の西端部が池台池と呼ばれた溜池によって古くに掘削されていることと、旧空港エプロン部分と旧駐車場の西部が最近の造成工事により削平されていることを除いて、当該地が濃密な埋蔵文化財包蔵地であることが判明した。この結果に基づき埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについて香川県教育委員会、財団法人香川県埋蔵文化財調査センター、香川県企画部地域整備課、香川県土地開発公社の4者が協議を行った結果、空港跡地開発整備事業に先立ち発掘調査を実施することとなり、平成2年12月から発掘調査に着手した。平成3年度からは調査体制を整備・充実させ平成6年度までの5年間で延べ150,765㎡の発掘調査を実施した。さらに平成8・9年度には香川大学工学部設置に伴い、12,200㎡の発掘調査を実施し、平成2年度～9年度までに162,965㎡の発掘調査を実施した。

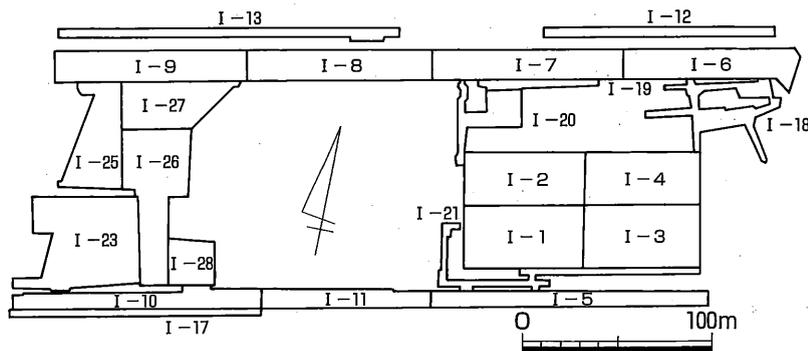
空港跡地開発整備事業は、(1) 基盤整備（道路整備）事業、(2) 県立図書館・文書館建設事業、(3) 四国工業技術研究所建設事業、(4) 産業交流センター建設事業、(5) 産業頭脳化センター建設事業、(6) 民間分譲地整備事業、(7) インテリジェントパーク整備事業（香川大学工学部建設事業）の7事業に分かれ、当初は(1)～(6)の事業であったが、後に(7)の事業が追加となった。この(1)～(7)の事業地について発掘調査を行い、それ以外の部分はリザーブゾーンとして開発が保留されているため、遺跡も現状保存されている。

第2節 調査の経過

本書に掲載するのは上記の事業のうち、県立図書館・文書館建設事業に伴う発掘調査についてである。発掘調査は平成3年度に県立図書館・文書館の本体部分7,393㎡、平成4・5年度に各種配管設備・駐輪場などの掘削深度の深い付帯設備部分2,440㎡、合計9,833㎡について発掘調査を実施した。

発掘調査は平成3年度については工事請負方式、平成4・5年度については直営方式で実施した。また遺構の図化については航空測量を実施し迅速化を図った。発掘調査時の調査区割りのI-1～4、18～21区に相当し、整理報告別の地区割りではB地区になる。

平成3年度の発掘調査は、4月に工事請負業者の入札・決定の後に準備工を行い、また正式な図書館・文書館建設位置や工事内容、発掘調査と工事工程についての協議を香川県土木部建築課と行い、発掘調査を開始したのは5月14日であった。調査区は図書館・文書館本体部分を4分割し、I-1～4区としてI-1区から発掘調査を開始した。発掘調査が進むにつれて弥生時代後期、古代～中世の遺構・遺物が



第3図 空港跡地遺跡I区調査区割図（1/4,000）

が多数検出されたことから9月28日には一般向けに遺跡の現地説明会を開催したところ、134名の参加者を得た。9月には図書館・文書館の南側の道路整備（南辺道路）の調査であるI-5区を並行して実施した。図書

第1表 県立図書館・文書館建設及び周辺基盤整備に伴う発掘調査工程表

地区	面積 (㎡)	調査区	担当	平成3年度												平成4年度					平成5年度		
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	11	12	1	2	3	4	5	
B (本書)	7,393	I-1	森・山本・間瀬																				
		I-2	森・山本・間瀬																				
		I-3	森・山本・間瀬																				
		I-4	森・山本・間瀬																				
L (報告Ⅶ)	5,720	I-5	森・山本・間瀬																				
		I-7	森・山本・間瀬																				
		I-8	森・山本・間瀬																				
B (本書)	2,030	I-18	山元・土佐・安藤																				
		I-19	山元・土佐・安藤																				
		I-20	山元・土佐・安藤																				
	410	I-21	山元・山本・森澤																				

第2表 発掘調査体制

香川県教育委員会文化行政課									
	平成3年度			平成4年度			平成5年度		
総括	課長	中村 仁	課長	中村 仁	課長	中村 仁	課長	中村 仁	
	主幹	菅原 良弘	主幹	菅原 良弘	主幹	菅原 良弘	主幹	菅原 良弘	
	課長補佐	小原 克己	課長補佐	小原 克己	主幹	小原 克己	主幹	小原 克己	
総務	係長	宮内 憲生	係長	宮内 憲生	係長	源田 和幸	主任主事	桜木 新士	
	主事	桜木 新士	主事	桜木 新士	主事	藤原 和子	主事	藤原 和子	
	主事	石川恵美子	主事	石川恵美子	主事	森下 英治			
埋蔵文化財	係長	藤好 史郎	係長	藤好 史郎	係長	藤好 史郎	主任技師	國木 健司	
	主任技師	岩橋 孝	主任技師	國木 健司	主任技師	國木 健司	主任技師	森下 英治	
	主任技師	北山健一郎	主任技師	北山健一郎	主任技師				
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター									
総括	所長	松本 豊胤	所長	松本 豊胤	所長	松本 豊胤	所長	松本 豊胤	
	次長	安藤 道雄	次長	市原 敏則	次長	真鍋 隆幸			
総務	係長 (~5/31)	加藤 正司	係長	土井 茂樹	係長	土井 茂樹			
	係長 (6/1~)	土井 茂樹	係長	今田 修	係長	上林 和明			
	係長	今田 修	主任主事	斉藤 正好	主任主事	西村 厚二			
	主査	山地 修							
	主任主事	斉藤 正好							
調査	係長	廣瀬 常雄	係長	大山 真充	係長	大山 真充			
	技師	森 格也	文化財専門員	土佐 修治	主任技師	山元 素子			
	技師	山本 主税	技師	山元 素子	技師	山本 主税			
	参事	篠丸 博	参事	糸目 末夫	参事	糸目 末夫			
	調査技術員	間瀬 香	調査技術員	安藤くに子	調査技術員	森澤 千尋			

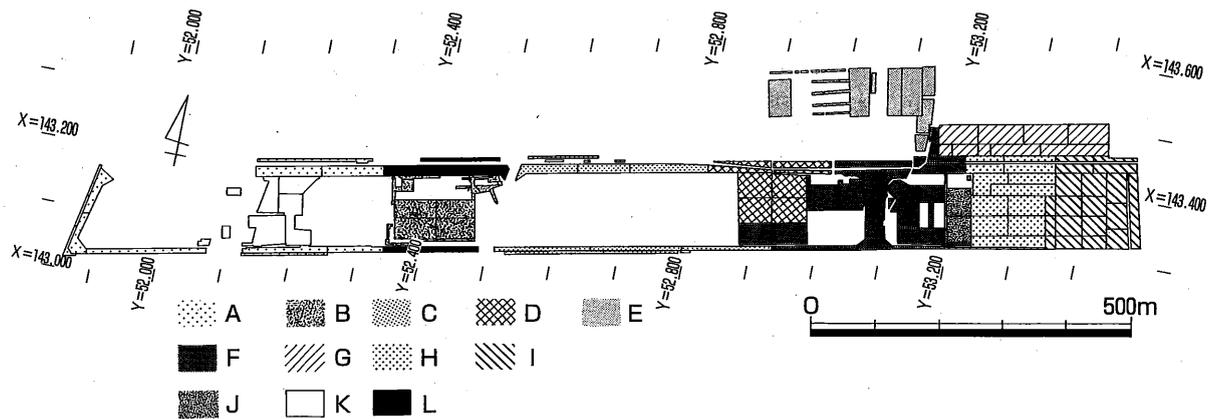
館・文書館本体部分の最終調査区であるI-4区では弥生時代後期の竪穴住居跡が多数検出されたため、最終局面では多忙を極めたが10月16日には図書館・文書館本体部分の発掘調査は終了した。その後1月31日までは図書館・文書館の北側の道路整備（北辺道路）の調査に従事した。2月と3月には図書館・文書館部分を含む平成3年度の発掘調査実績報告と発掘調査概報を作成した。

平成4年度は図書館・文書館の北側の付帯設備部分2,030㎡について発掘調査を実施した。発掘調査は調査区が狭小であることと、工事工程と競合することから、機動性に富んだ直営方式で行った。11月1日から2月28日の期間でI-18~20区の発掘調査を実施した。

平成5年度は図書館・文書館の南側の付帯設備部分410㎡について発掘調査を実施した。発掘調査は平成4年度と同様に直営方式で4月の1ヶ月間でI-21区の調査を実施し、これをもって図書館・文書館関係の調査はすべて終了した。

以上の発掘調査はすべて、香川県教育委員会を調査主体、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターを調査機関として実施した。その体制は第2表のとおりである。

なお、図書館・文書館部分を含めた空港跡地整備事業関係の発掘調査の経緯・経過はこれまで刊行さ



第4図 空港跡地遺跡報告地区割図 (1/12,000)

第3表 整理作業体制

香川県埋蔵文化財センター

	平成16年度		平成17年度	
総括	所長	中村 仁	所長	渡部 明夫
	次長	渡部 明夫	次長	榊原 正人
総務課	課長	野保 昌弘	課長(兼)	榊原 正人
	係長	松崎日出穂	副主幹兼係長	松崎日出穂
	主査	塩崎かおり	主査	塩崎かおり
	主査	田中 千晶	主査	田中 千晶
資料普及課	課長(兼)	渡部 明夫	課長	廣瀬 常雄
	文化財専門員	森 格也	文化財専門員	森 格也
	臨時職員	西山佳代子	臨時職員	陶山 仁美
	臨時職員	松崎 千春	臨時職員	中山 尚子
	臨時職員	山地真理子	臨時職員	松崎 千春
	臨時職員	山田 昌代	臨時職員	山田 昌代

れた11冊の報告書に詳細が報告されている。

第3節 整理作業の経過

空港跡地整備事業の発掘調査報告書の作成は、対象地域内を遺跡内容・遺物量・検出遺構の集中状態・地形的環境を考慮して、当初A地区～I地区の9ブロックに分割して平成6年度から開始した。その後平成7年度に四国工業技術研究所増築に伴って発掘調査を実施した部分をJ地区、平成8・9年度に香川大学工学部設置に伴い発掘調査を実施した部分をK地区として追加した。

図書館・文書館建設部分は当初、その南北の基盤整備部分としての道路部分（I-5～7・12区）の発掘調査部分と合わせてB地区として整理作業を実施する予定であった。しかし整理作業が長期化していることから基盤整備部分の整理作業を早く終了させるという意向により、当初B地区に含まれていたI-5～7・12区をL地区として独立させ、図書館・文書館部分に先行して整理作業を実施することとなった。L地区の整理作業は平成15年度に実施し、H地区の成果と共に平成16年度に『空港跡地遺跡Ⅷ』として刊行した。

従ってB地区は図書館・文書館本体部分とその付帯設備部分の整理作業のみとなった。当該部分の遺物出土量はコンテナ382箱分である。整理作業は平成16年4月1日から平成18年3月31日までの2年間で、調査員1名、臨時職員4名の体制で実施した。

平成16年度は遺物接合、遺物実測、遺物写真撮影を、平成17年度には遺物実測、遺構図面の作成、遺物・遺構のトレース作業、原稿執筆、編集、各種台帳類の作成、収納をそれぞれ実施した。報告書の刊行業務は平成18年度となり、本書の刊行をもって平成2～9年度に発掘調査を行い、平成6年度から整理作業を実施してきた空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財業務はすべて終了となる。

整理作業は香川県埋蔵文化財センター資料普及課が実施し、その体制は第3表のとおりである。

第4表 空港跡地遺跡地区別報告一覧

地区名	面積 (㎡)	主要遺構	主要遺物	報告書	整理年度
A地区	12,200	弥生時代 竪穴住居跡、溝、土坑、自然河川	銅剣・銅鐔	『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第5冊 空港跡地遺跡V』2002. 3	平成12年度
		古墳時代 竪穴住居跡、前方後円形・前方後方形周溝墓			
		古代 溝、土坑、水田			
		中世 溝、土坑			
		近世 溝、土坑			
B地区	9,833	弥生時代 竪穴住居跡、溝、土坑、自然河川	弥生絵画土器 和鏡	本書	平成16・17年度
		古代 掘立柱建物跡、溝、土坑			
		中世 掘立柱建物跡、櫓、溝、土坑、井戸			
		近世 溝、土坑			
		弥生時代 竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝、土坑			
C地区	11,890	古墳時代 竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑	二彩陶器	『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第1冊 空港跡地遺跡I』1996. 12	平成6・7年度
		古代 掘立柱建物跡、溝、土坑、井戸			
		中世 掘立柱建物跡、溝、土坑、井戸、自然河川			
		近世 掘立柱建物跡、溝、土坑			
		弥生時代 竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝			
D地区	12,567	古代 溝		『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第7冊 空港跡地遺跡VII』	平成15年度
		中～近世 掘立柱建物跡、溝、土坑			
		弥生時代 掘立柱建物跡、溝、土坑			
E地区	14,599	古墳時代 溝	人形土製品	『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第2冊 空港跡地遺跡II』1997. 9	平成8年度
		中世 掘立柱建物跡			
		近世 溝、土坑、井戸、出水状遺構			
		弥生時代 竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝			
F地区	27,836	古代 溝		『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第4冊 空港跡地遺跡IV』2000. 3	平成10・11年度
		中世 掘立柱建物跡、溝、土坑、井戸、出水状遺構			
		近世 掘立柱建物跡、溝、土坑、井戸			
		弥生時代 竪穴住居跡、溝、粘土探掘土坑群			
G地区	13,280	中世 掘立柱建物跡、溝、土坑、井戸		『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第6冊 空港跡地遺跡VI』2003. 3	平成13年度
		近世 溝、土坑			
		弥生時代 竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝、土坑、出水状遺構			
H地区	19,375	古代 溝	鉄形木製品	『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第8冊 空港跡地遺跡VIII』	平成15年度
		中世 掘立柱建物跡、溝			
		近世 溝、土坑、井戸			
		弥生時代 掘立柱建物跡、溝、自然河川			
I地区	20,205	中世 掘立柱建物跡、溝、土坑		『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第3冊 空港跡地遺跡III』1998. 10	平成9年度
		近世 掘立柱建物跡、溝、土坑			
		古代 掘立柱建物跡、溝			
J地区	2,780	中世 掘立柱建物跡、土坑		『四国工業技術研究所増築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 空港跡地遺跡』1997. 3	平成8年度
		近世 掘立柱建物跡、土坑			
		弥生時代 円形周溝墓、溝、土坑、自然河川			
K地区	12,200	古代 溝		『インテリジェントパーク整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 空港跡地遺跡』2003. 10	平成14年度
		中世 溝、土坑			
		近世 ため池、木樋			
		弥生時代 竪穴住居跡、井戸、土坑			
L地区	6,200	古墳時代 竪穴住居跡		『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第8冊 空港跡地遺跡VIII』	平成15年度
		古代 掘立柱建物跡、溝			
		中世 掘立柱建物跡、溝、土坑			
		近世 土坑			
		弥生時代 竪穴住居跡			

なお、空港跡地遺跡の地理的環境・歴史的環境については既刊の報告書（第4表）、特に『空港跡地遺跡I・IV・V』に詳細に記載されている。本書もこれらと同一の遺跡であり内容が重複することから当該部分の記載については割愛している。詳細については上記の報告書を参照していただきたい。

第2章 調査の成果

第1節 調査区の概要と土層序

今回報告する調査区は、空港跡地遺跡の西端から東に向かって500～650mの部分に位置している。空港跡地遺跡全体で見ると遺跡中央よりやや西側の部分である。調査時の調査区割りでI-1～4・18～21区に相当する。

当該地は昭和19年に軍用飛行場として開設され、戦後には旧高松空港として使用されていたため、表土には造成土が残存している。またI-1～4区は旧空港の滑走路部分であったため、調査直前まで造成土の上にアスファルトが敷かれていた。造成土の直下には旧耕作土が残っており、軍用飛行場・空港建設による遺構面の削平は認められない。

調査区は県立図書館・文書館の本体部分であるI-1～4区と、各種配管設備・駐輪場などの掘削深度の深い付帯設備部分のI-18～21区に大別される。今回の報告調査区の南北にはそれぞれ基盤整備部分で調査を行なったI-5区とI-6～7、12区が隣接しており、『空港跡地遺跡Ⅷ』でL地区として報告済みである。溝状遺構のように長く続くものや、竪穴住居跡などの遺構が『空港跡地遺跡Ⅷ』L地区の調査区に及ぶものもある。

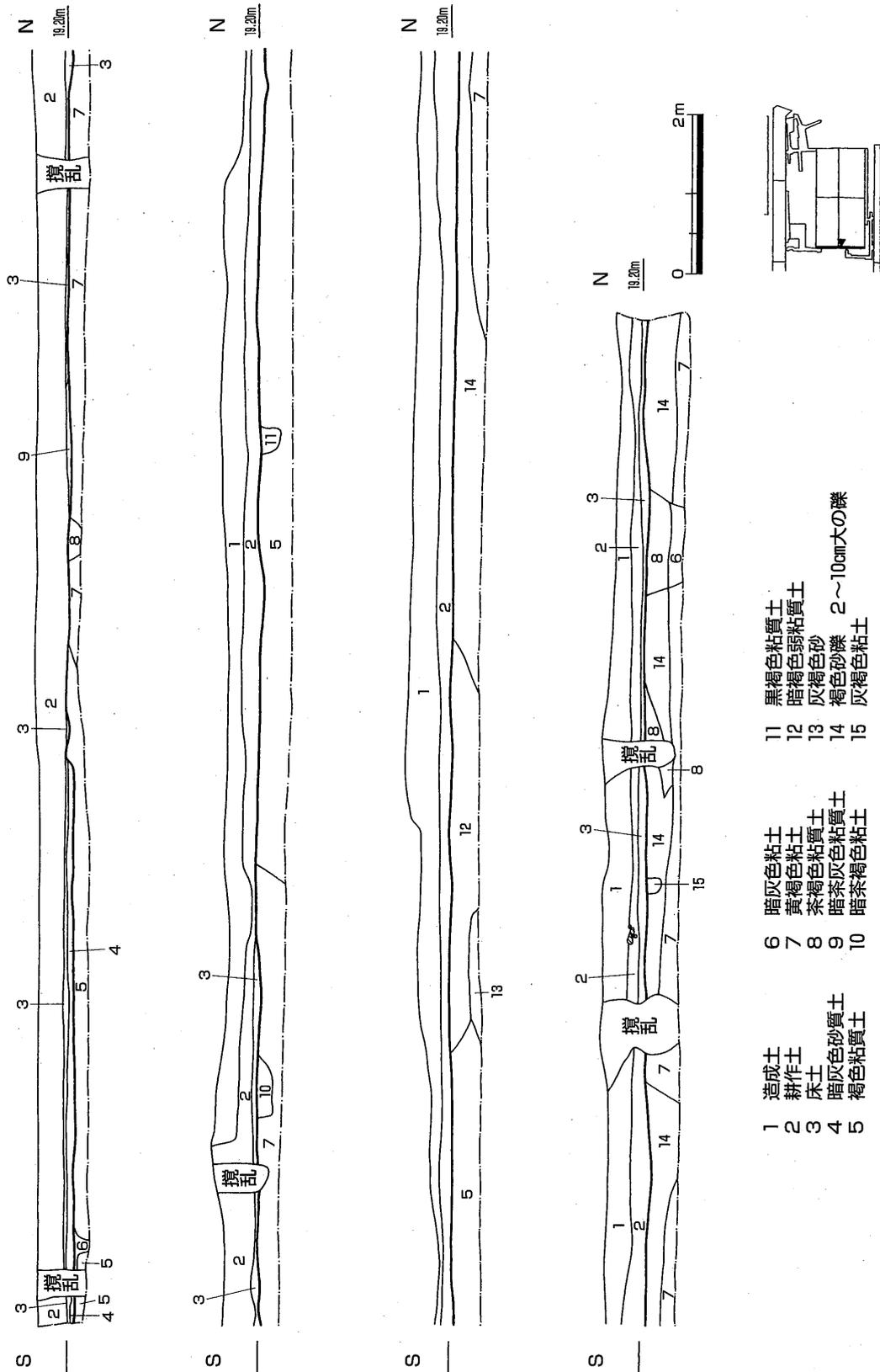
遺構面は調査区の大部分において旧耕作土・床土直下で検出されている。土層序の観察により弥生時代から中世、近世にかけて微妙に上下に分かれる部分もあるが基本的には遺構面は1面として扱っている。

I-1～3区、I-2～4区の東西方向の土層を見ると、西端部分で標高19.1m、中央部分で標高18.8m、東端部分で標高18.4～18.5mとなっており、西から東に向かって緩やかに下がっていることがわかる。この120mの区間の比高差は0.6～0.7mである。さらにI-19区の東端部分では標高18.0mで、東に向かってさらに下がっていることがわかる。特にこのI-19区の東端部分にかけての部分は40mで0.4m下っており、傾斜がやや急になっている。このことは『空港跡地遺跡Ⅷ』で指摘されているように、I-19区のすぐ向かいの調査区であるI-6区東端部分から、『空港跡地遺跡Ⅰ』で報告されているII-6区西端部分にかけての落ち込みとされている谷地形を反映しているものである。

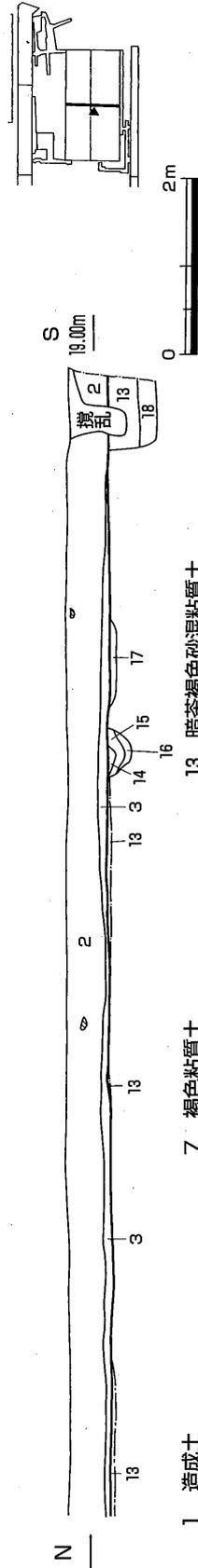
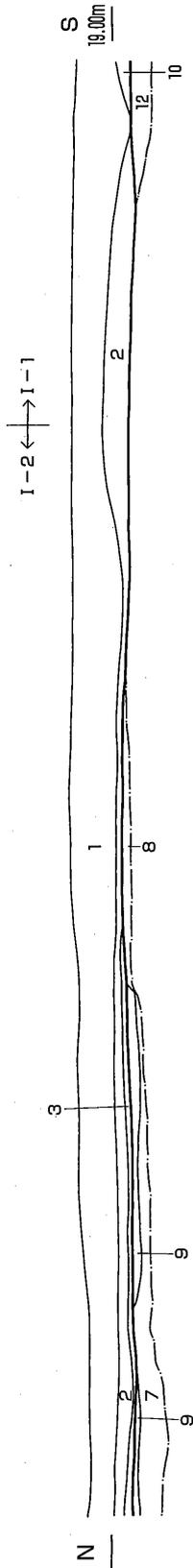
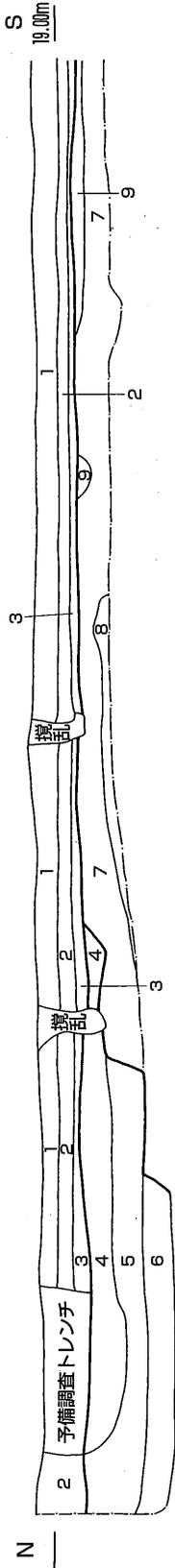
これに対して南北方向ではI-1～2～20～19区の土層図によると、いずれも標高19.0～19.1mでほぼ水平である。またI-3～4～18～19区では、南端部分で標高18.5m、I-4区北東隅で標高18.4m、その北側に延長したI-19区部分で標高18.2mとなっており、南側から北側に向かって若干下がっている。

遺構面を形成する土層は褐色～茶褐色系の粘質土が主となっているが、I-2区全体とI-3区南東部分、I-19区西端部分は砂礫層が遺構面となっている。この砂礫層は高松平野に多く見られる礫層の隆起部分に相当するものと考えられ、『空港跡地遺跡Ⅴ』で旧中州としているものである。

上記の砂礫層に隣接するI-2～4区北壁中央付近の旧流路(SRb01)部分、I-7区西部からI-19区西端部分とI-20区かけての落ち込み部分、I-19区東端部分からI-6区東端部分の落ち込み部分といった低地帯には、弥生時代後期以降の遺物包含層が形成されている。この遺物包含層は厚さ10cm前後の堆積で、遺物の出土も多くはない。

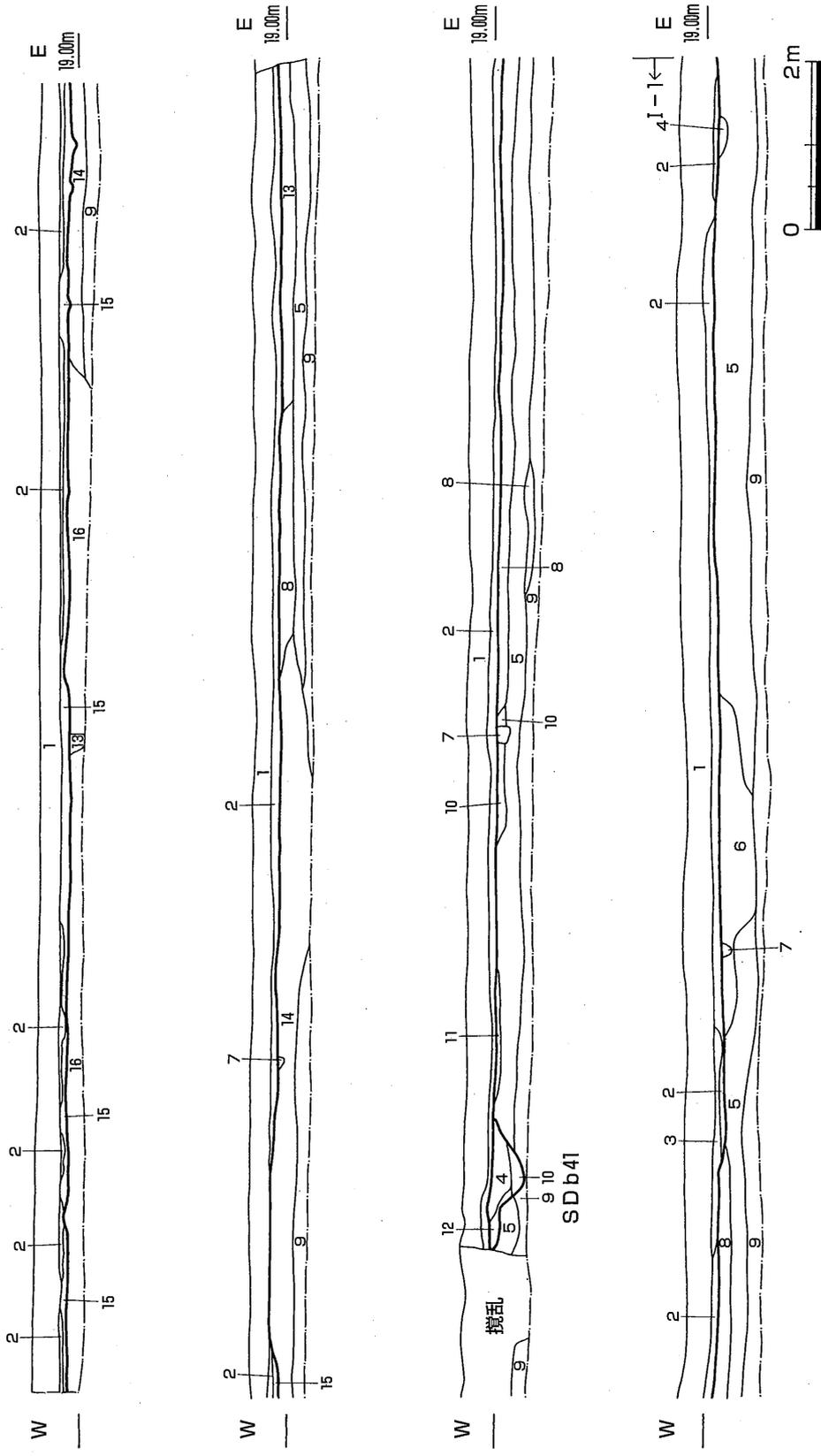


第5図 I-1~2区西壁土層図 (1/80)

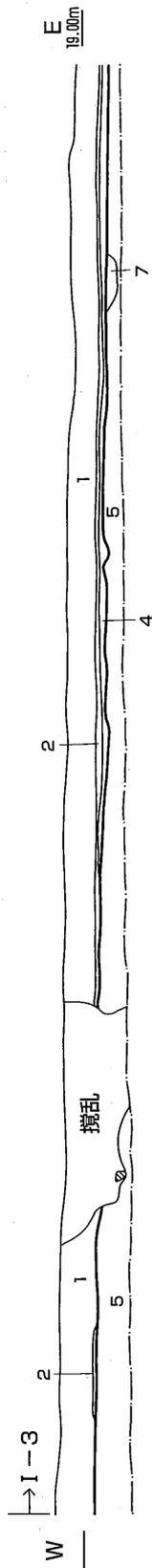


- | | | | |
|----|-------------------|----|-----------------|
| 1 | 造成土 | 13 | 暗茶褐色砂混粘質土 |
| 2 | 耕作土 | 14 | 灰色砂質土 SDb12 |
| 3 | 床土 | 15 | 暗茶褐色砂混粘質土 SDb12 |
| 4 | 明黒褐色砂混粘質土 SRb01 | 16 | 暗茶褐色粘土 SDb12 |
| 5 | 暗茶褐色砂混弱粘質土 SRb01 | 17 | 灰色砂混粘質土 |
| 6 | 褐色細砂 SRb01 | 18 | 灰茶色粘土 |
| 7 | 褐色粘質土 | | |
| 8 | 褐色砂礫土 2~5cm大の礫混 | | |
| 9 | 暗茶褐色粘土 | | |
| 10 | 淡黄褐色砂質土 | | |
| 11 | 暗茶褐色粘質土 | | |
| 12 | 暗灰色砂礫土 2~10cm大の礫混 | | |

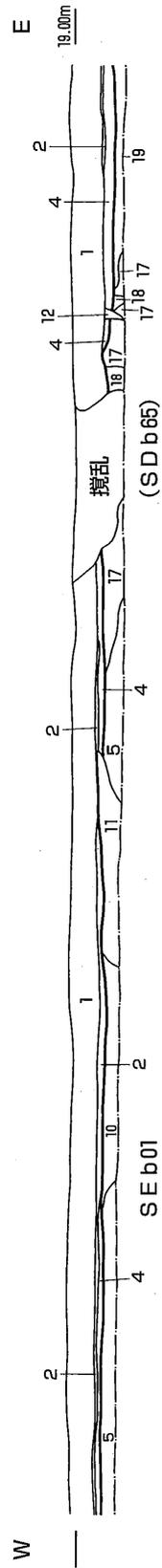
第6図 I-1~2区東壁土層図 (1/80)



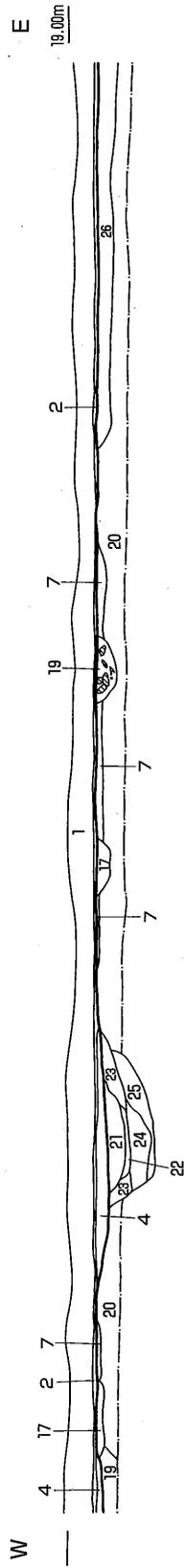
第7図 I-1~3区南壁土層図(1)(1/80)



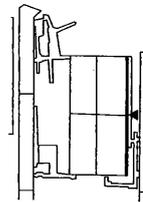
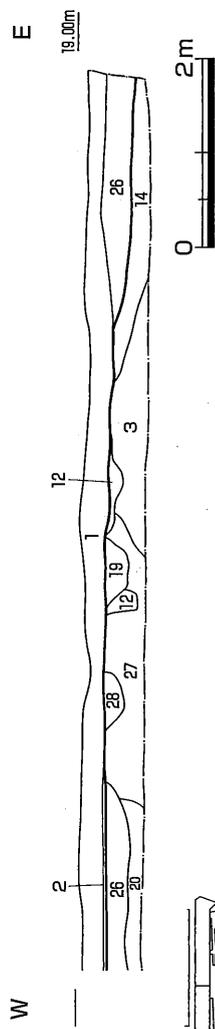
SDb12



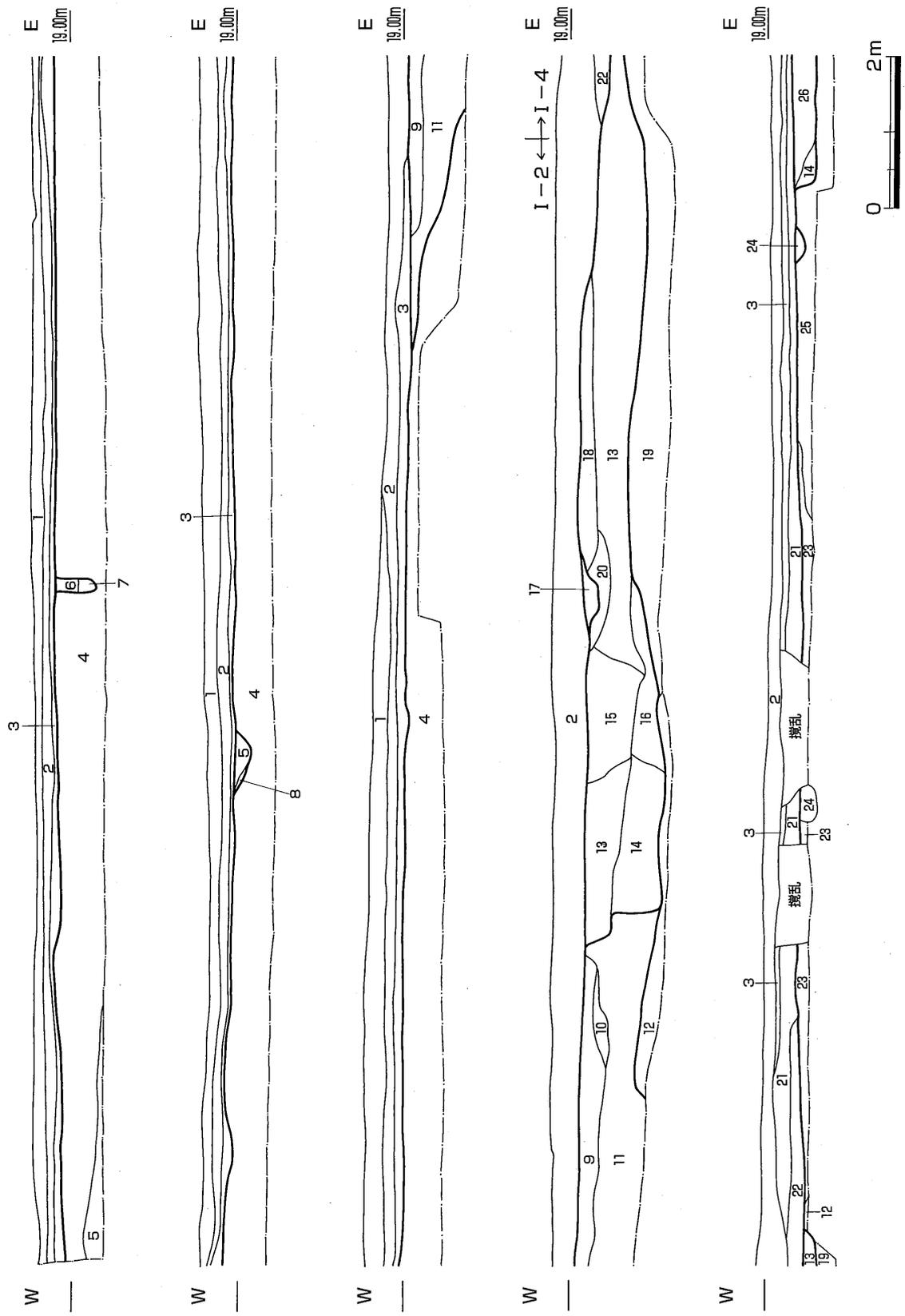
SEb01



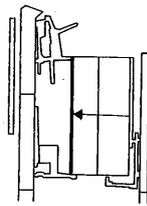
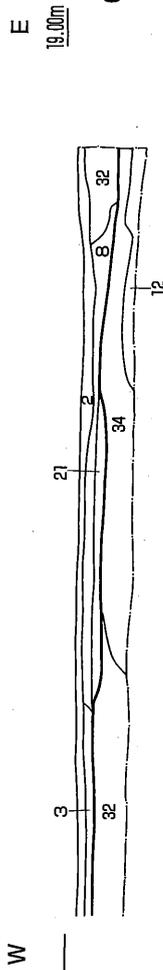
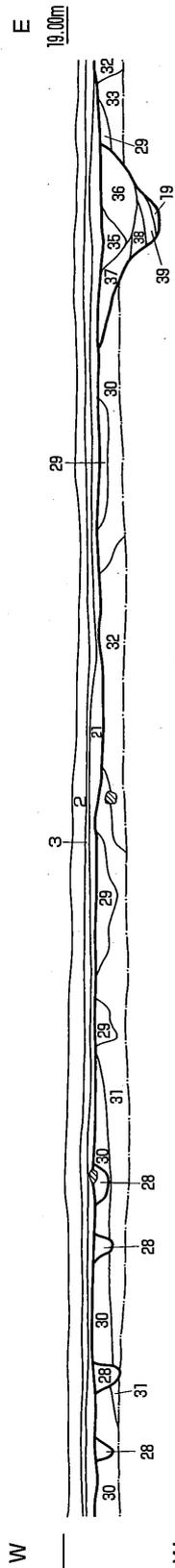
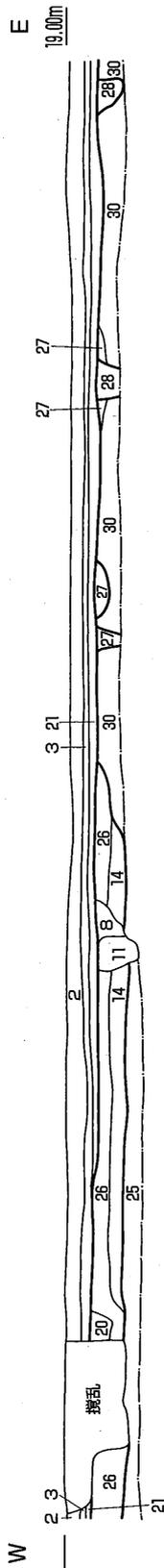
- | | | | | |
|----|--------------|----|---------|--------|
| 1 | 耕作土 | 15 | 暗灰色砂質土 | マンガン含む |
| 2 | 床土 | 16 | 褐色粘質土 | SDb21 |
| 3 | 礫層 2~10cm大の礫 | 17 | 茶褐色粘質土 | |
| 4 | 灰色砂質土 | 18 | 暗灰色粘土 | |
| 5 | 明褐色粘質土 | 19 | 黒褐色粘質土 | SDb19 |
| 6 | 暗茶褐色粘質土 | 20 | 明茶褐色粘質土 | SDb19 |
| 7 | 茶灰色粘質土 | 21 | 灰色砂混粘質土 | SDb19 |
| 8 | 暗茶褐色粘質土 | 22 | 暗灰色砂質土 | SDb19 |
| 9 | 灰茶色粘土 | 23 | 灰茶色砂質土 | SDb19 |
| 10 | 灰色粘質土 | 24 | 暗茶色粘土 | SDb19 |
| 11 | 灰褐色砂質土 | 25 | 暗茶色砂 | |
| 12 | 灰色砂混粘質土 | 26 | 暗茶褐色砂質土 | |
| 13 | 暗茶灰色粘質土 | 27 | 黄褐色粘土 | |
| 14 | 明黄褐色粘質土 | 28 | 明灰色粘質土 | |



第8図 I-1~3区南壁土層図 (2) (1/80)

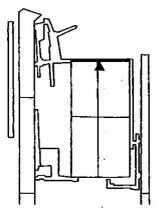
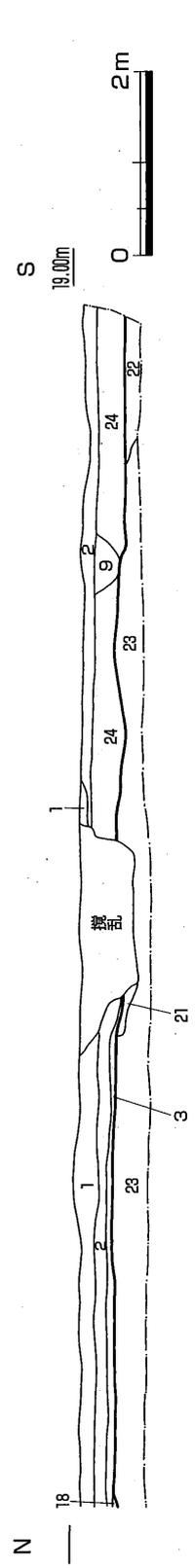
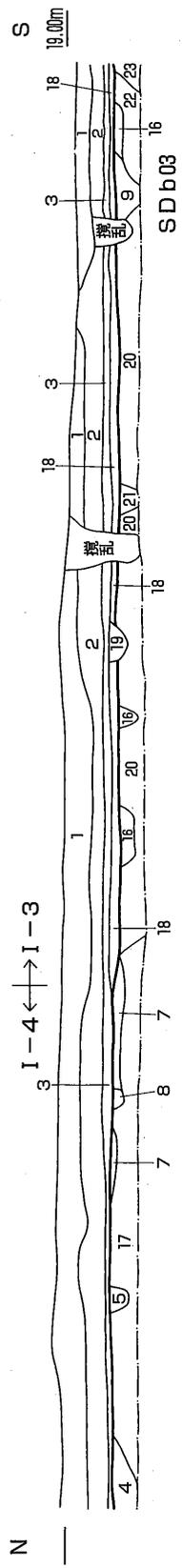
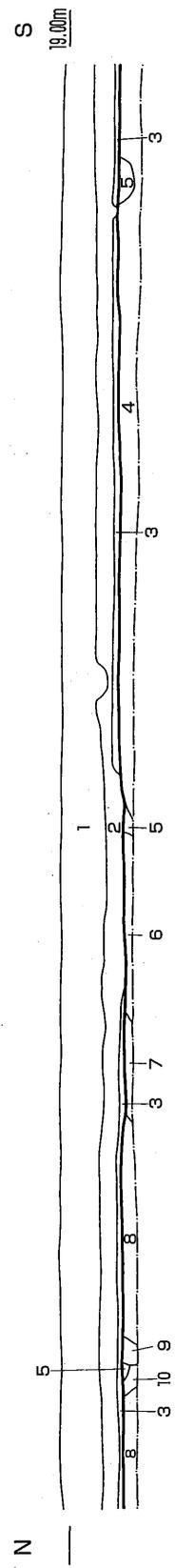
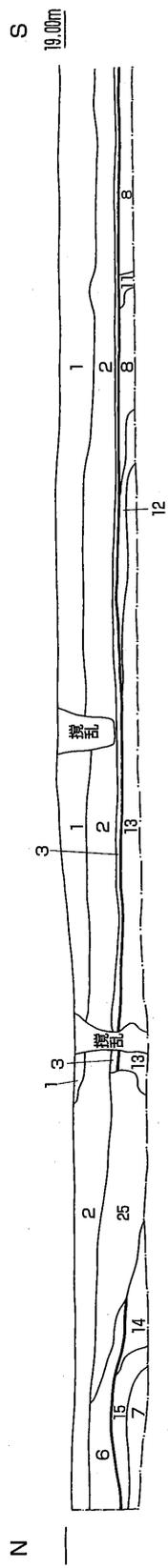


第9図 I-2~4区北壁土層図(1)(1/80)



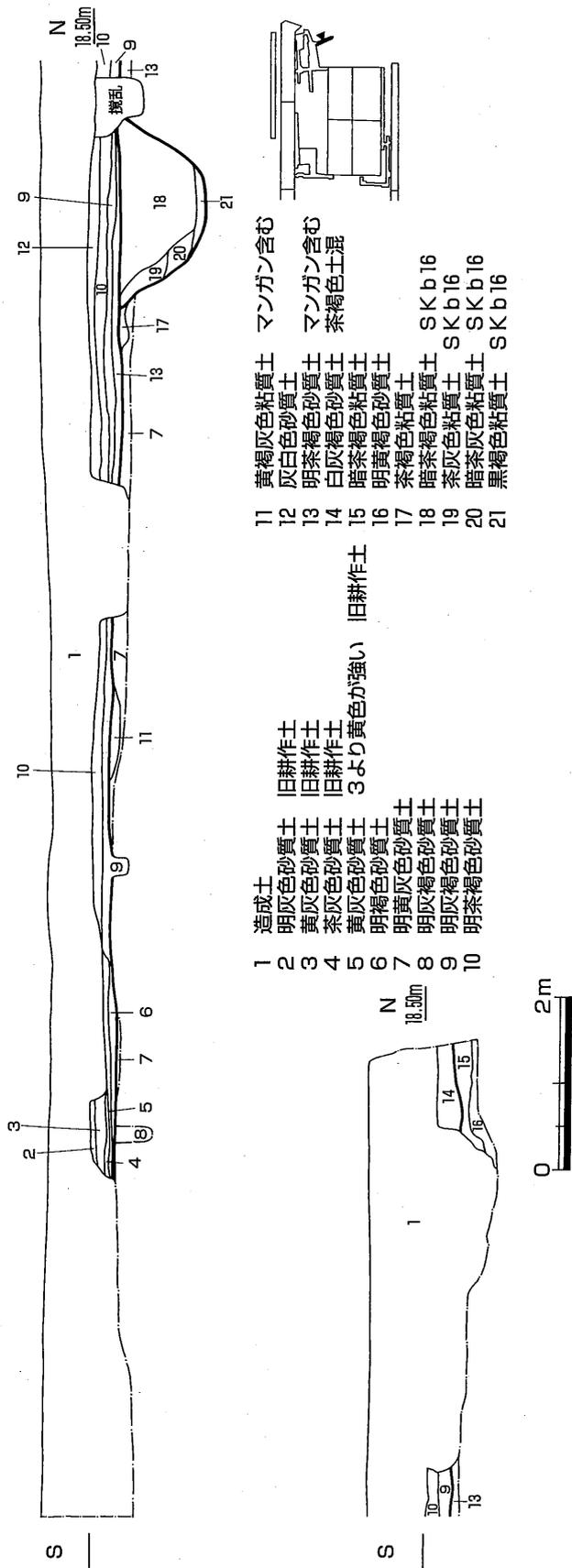
- | | | | | | | |
|----|-------------------|----|---------------------|----|----------|---------|
| 1 | 造成土 | 14 | 茶褐色砂混粘質土 SR b01 | 27 | 灰茶色粘質土 | 遺構埋土 |
| 2 | 耕作土 | 15 | 茶褐色砂質土 固くしまる SR b01 | 28 | 灰褐色粘質土 | 遺構埋土 |
| 3 | 床土 | 16 | 褐色砂混弱粘質土 SR b01 | 29 | 茶灰色粘質土 | 地山 |
| 4 | 褐色砂礫 2~15cm大の礫 | 17 | 灰色礫混粘質土 3~5cm大の礫混 | 30 | 黄褐色粘質土 | 地山 |
| 5 | 黄褐色粘土 | 18 | 淡灰褐色砂質土 固くしまる | 31 | 暗褐色砂混粘質土 | 5cm大の礫混 |
| 6 | 暗褐色粘土 | 19 | 褐色細砂 | 32 | 褐色砂質土 | |
| 7 | 暗灰褐色粘土 | 20 | 暗茶褐色粘土 SR b01 | 33 | 暗茶色粘質土 | |
| 8 | 灰褐色砂質土 | 21 | 灰褐色粘質土 マンガン少し含む | 34 | 暗茶色砂質土 | |
| 9 | 暗褐色礫混粘土 2~5cm大の礫混 | 22 | 灰褐色粘質土 包含層 | 35 | 灰茶色粘質土 | SD b19 |
| 10 | 暗茶褐色粘土 SR b01 | 23 | 明茶褐色粘質土 | 36 | 灰褐色砂質土 | SD b19 |
| 11 | 茶褐色粘質土 SR b01 | 24 | 茶褐色粘質土 | 37 | 灰褐色粘質土 | SD b19 |
| 12 | 褐色粗砂 | 25 | 茶色砂礫 2~5cm大の礫混 | 38 | 暗茶色粘質土 | SD b19 |
| 13 | 暗茶褐色砂混弱粘質土 SR b01 | 26 | 茶灰色粘質土 SR b01 | 39 | 暗灰色粘土 | SD b19 |

第10図 I-2~4区北壁土層図(2) (1/80)



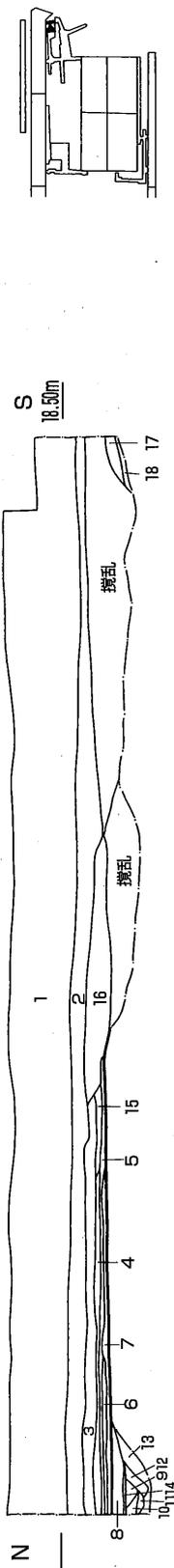
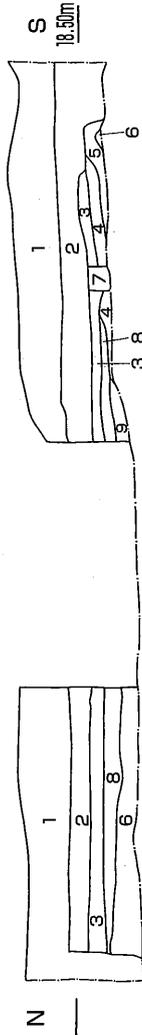
- | | | |
|--------------------|----------------------|--------------------|
| 1 造成土 | 9 黒褐色粘質土 | 17 茶褐色粘土 |
| 2 耕作土 | 10 黒灰色粘質土 | 18 灰褐色砂質土 |
| 3 床土 | 11 明灰色粘質土 | 19 明褐色粘質土 |
| 4 明褐色粘土湿砂質土 | 12 橙灰色粘質土 | 20 茶褐色砂混弱粘質土 |
| 5 明黄褐色砂質土 | 13 橙灰色砂礫 5~15cm大の礫 | 21 灰色粘土 SDb23 |
| 6 褐色砂礫土 5~10cm大の礫混 | 14 灰色礫混粘質土 5~10cm大の礫 | 22 暗黄褐色粘質土 |
| 7 褐色砂 | 15 暗茶色砂質土 マンガンで固くしまる | 23 明灰色砂礫 1~10cm大の礫 |
| 8 淡黄褐色砂混粘質土 | 16 暗茶褐色粘質土 | 24 暗茶褐色砂質土 固くしまる |
| | | 25 明灰褐色粘質土 SDb66 |

第111図 I-3~4区東壁土層図 (1/80)



第12図 I-18区南東部西壁土層図 (1/80)

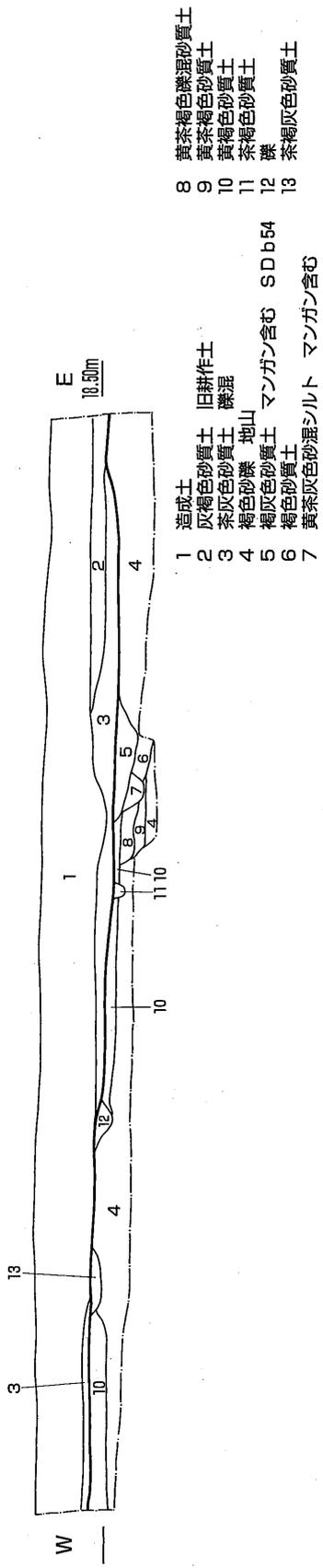
- 1 造成土
- 2 耕作土
- 3 褐灰色粘質土 鉄分多い 旧耕作土
- 4 灰褐色砂混粘質土
- 5 茶灰色砂混粘質土
- 6 褐色砂礫
- 7 茶褐灰色粘質土 瓦あり
- 8 茶灰色粘質土
- 9 茶灰色粘質土 8より暗い



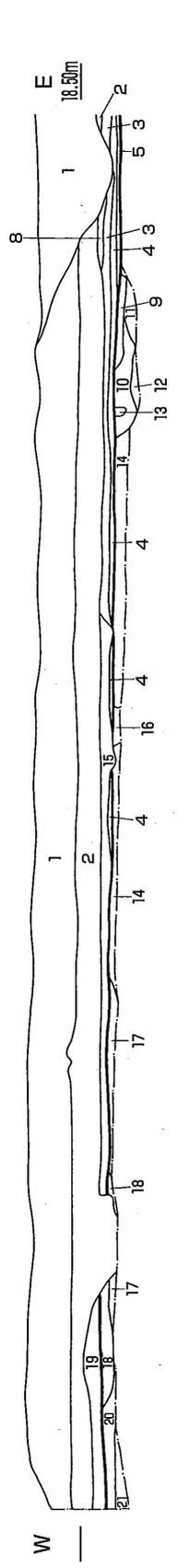
- 1 造成土
- 2 旧耕作土
- 3 黄灰褐色砂質土 旧耕作土か
- 4 明灰色砂質土 旧耕作土か
- 5 黄褐色粘土 床土
- 6 灰褐色砂質土 マンガン含む
- 7 黄灰褐色砂質土 マンガン含む
- 8 淡茶褐色砂質土 マンガン含む
- 9 明茶灰色砂質土 SD b33
- 10 黄褐色砂 明茶灰色砂ラミナ状 SD b33
- 11 明茶灰色砂質土 SD b33
- 12 明茶灰色砂混粘質土 SD b33
- 13 褐灰色粘質土 黄色土混
- 14 茶灰褐色シルト ラミナ状 SD b33
- 15 灰褐色砂混粘質土
- 16 赤茶褐色砂質土 鉄分多い
- 17 茶褐色粘質土 包合層
- 18 黄茶灰色シルト



第13図 I-19区東区画東壁土層図 (1/80)

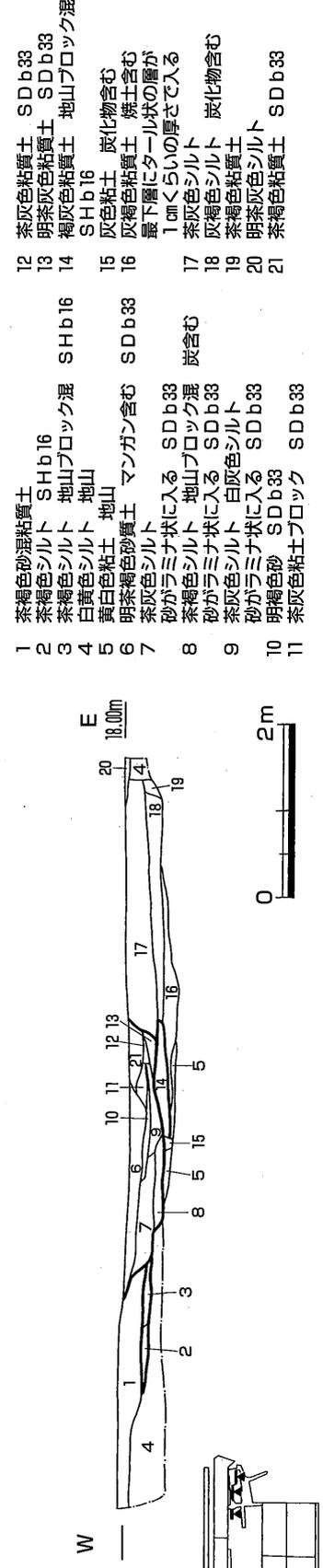


- 1 造成土
- 2 灰褐色砂質土
- 3 茶褐色砂質土
- 4 褐色砂礫
- 5 褐色砂質土
- 6 褐色砂質土
- 7 黄茶褐色砂質土
- 8 黄茶褐色礫混砂質土
- 9 黄茶褐色砂質土
- 10 黄茶褐色砂質土
- 11 茶褐色砂質土
- 12 礫
- 13 茶褐色砂質土



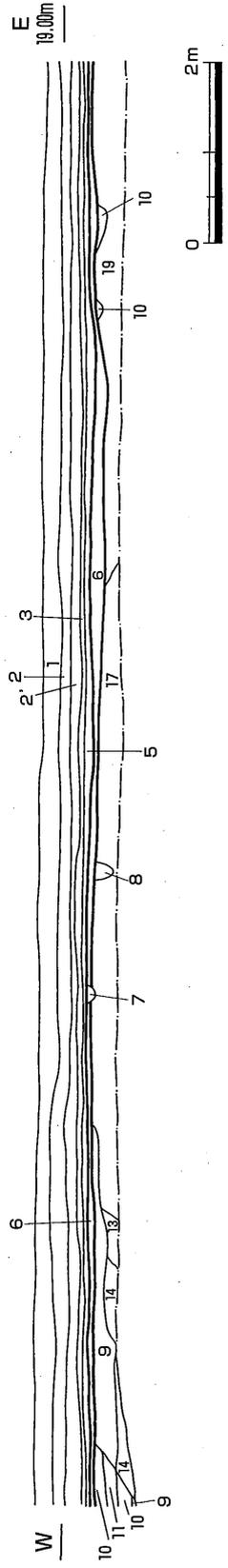
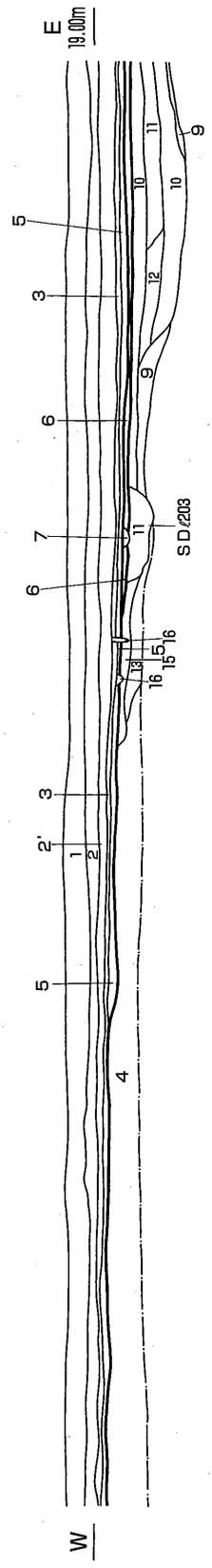
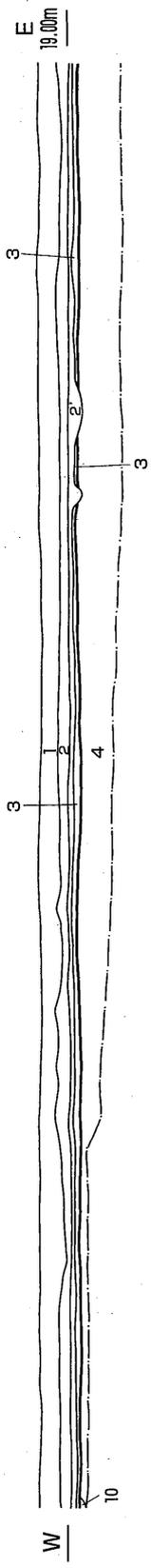
- 1 造成土
- 2 耕作土
- 3 白褐色砂質土
- 4 暗茶褐色砂質土
- 5 黄褐色砂質土
- 6 茶褐色粘質土
- 7 茶褐色粘質土
- 8 暗茶褐色砂質土
- 9 暗茶褐色砂質土
- 10 暗茶褐色砂質土
- 11 暗茶褐色粘質土
- 12 暗茶褐色粘質土
- 13 暗茶褐色粘質土
- 14 暗茶褐色粘質土
- 15 暗茶褐色粘質土
- 16 暗茶褐色粘質土
- 17 暗茶褐色粘質土
- 18 暗茶褐色粘質土
- 19 暗茶褐色粘質土
- 20 暗茶褐色粘質土
- 21 暗茶褐色粘質土

- 1 造成土
- 2 耕作土
- 3 黄褐色砂質土
- 4 黄褐色砂質土
- 5 黄褐色砂質土
- 6 茶褐色粘質土
- 7 茶褐色粘質土
- 8 暗茶褐色砂質土
- 9 暗茶褐色砂質土
- 10 暗茶褐色砂質土
- 11 暗茶褐色粘質土
- 12 暗茶褐色粘質土
- 13 暗茶褐色粘質土
- 14 暗茶褐色粘質土
- 15 暗茶褐色粘質土
- 16 暗茶褐色粘質土
- 17 暗茶褐色粘質土
- 18 暗茶褐色粘質土
- 19 暗茶褐色粘質土
- 20 暗茶褐色粘質土
- 21 暗茶褐色粘質土

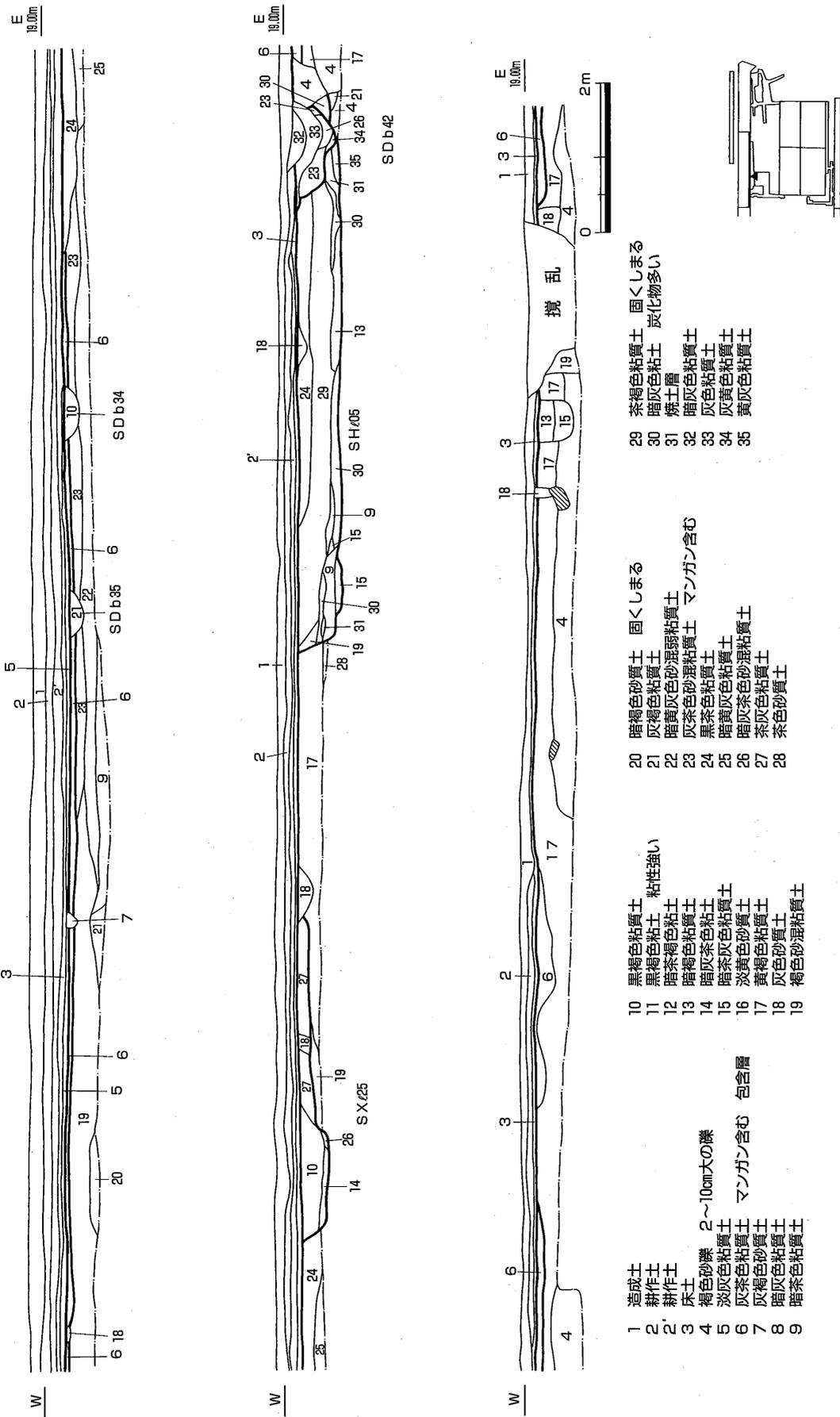


- 1 茶褐色砂質土
- 2 茶褐色砂質土
- 3 茶褐色砂質土
- 4 黄褐色粘質土
- 5 明茶褐色粘質土
- 6 茶褐色粘質土
- 7 砂がラミナ状に入る
- 8 砂がラミナ状に入る
- 9 砂がラミナ状に入る
- 10 砂がラミナ状に入る
- 11 明褐色砂
- 12 茶褐色粘質土
- 13 明茶褐色粘質土
- 14 明茶褐色粘質土
- 15 灰褐色粘質土
- 16 灰褐色粘質土
- 17 灰褐色粘質土
- 18 灰褐色粘質土
- 19 灰褐色粘質土
- 20 灰褐色粘質土
- 21 灰褐色粘質土

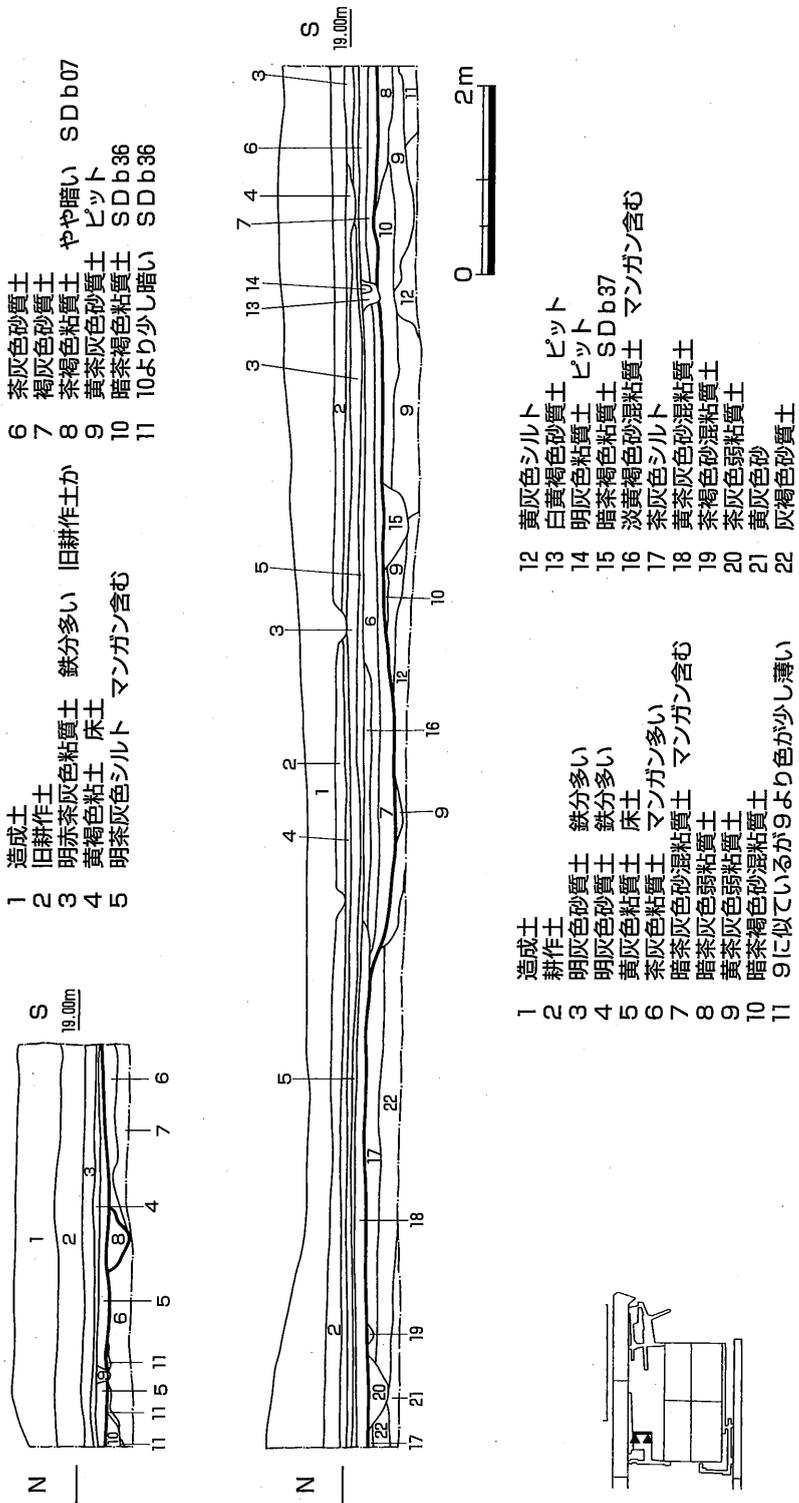
第14図 I-19区東区画南壁～東区画南端トレンチ土層図 (1/80)



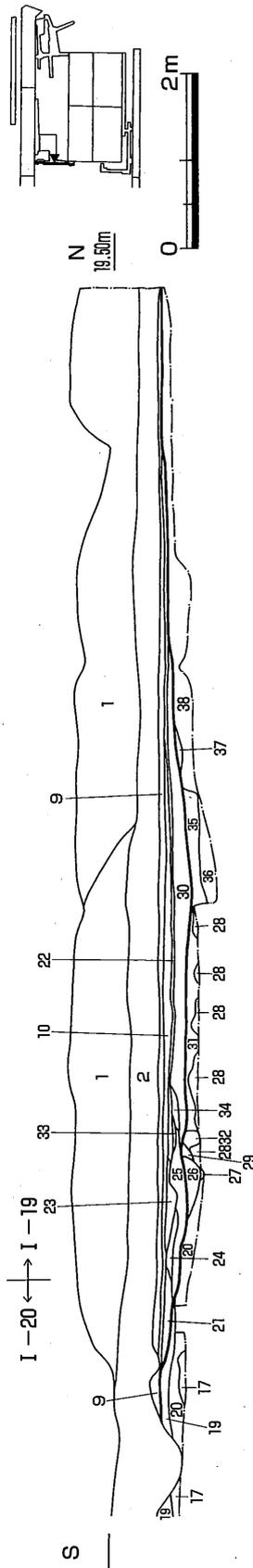
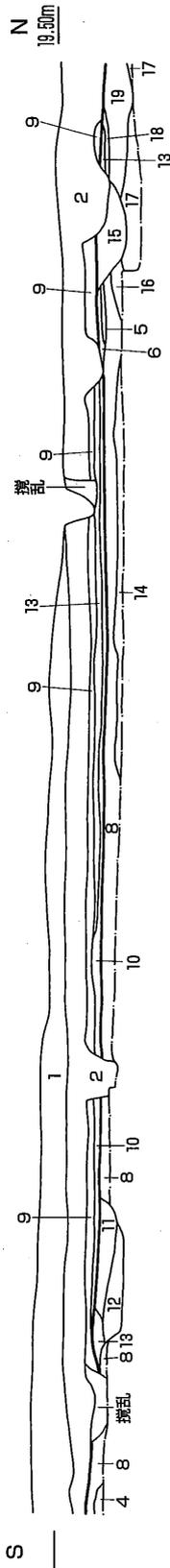
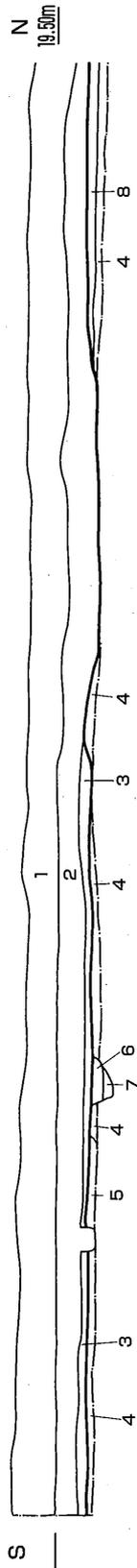
第15图 I-19区西区画北壁 (I-7区南壁) 土层图 (1) (1/80)



第16図 I-19区西区画北壁 (I-7区南壁) 土層図 (2) (1/80)

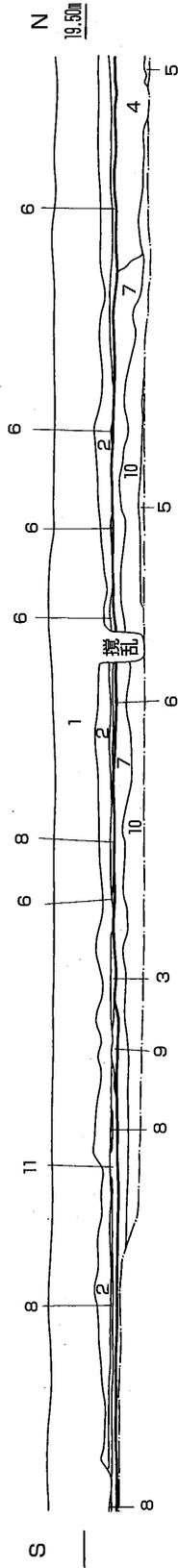
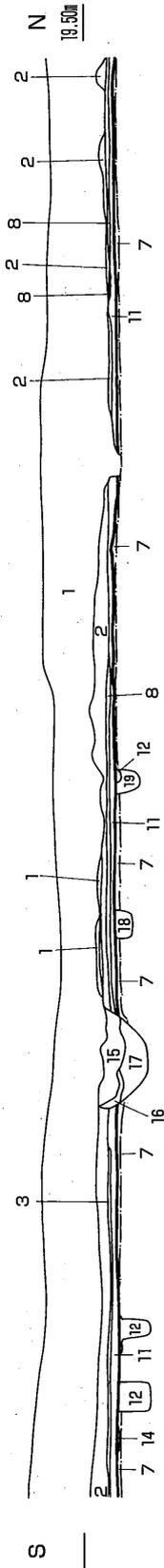


第17図 I-19区西区画・I-20区東壁土層図 (1/80)



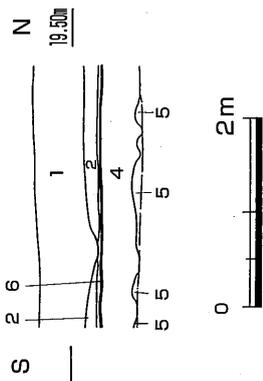
- | | | | | | | | | | |
|----|----------|----|---------|---------|----|----------|---------|----|----------|
| 1 | 造成土 | 11 | 明茶褐色砂質土 | マンガン含む | 21 | 明灰褐色粘質土 | マンガン含む | 31 | 茶褐色粘土 |
| 2 | 耕作土 | 12 | 灰褐色粘土 | | 22 | 黄茶褐色粘土 | 床土 | 32 | 黒茶褐色粘土 |
| 3 | 腐灰色砂礫 | 13 | 10 床土 | | 23 | 明黄褐色砂質土 | | 33 | 灰茶褐色粘質土 |
| 4 | 黄茶灰色粘質土 | 14 | 黄茶灰色シルト | | 24 | 茶褐色粘質土 | マンガン含む | 34 | 暗茶褐色粘質土 |
| 5 | 黄茶灰色砂粘質土 | 15 | 明褐色砂質土 | マンガン含む | 25 | 茶褐色砂混粘質土 | 23の土混 | 35 | 暗茶褐色砂混粘土 |
| 6 | 黄灰色砂粘質土 | 16 | 茶褐色砂粘質土 | SD b 56 | 26 | 暗茶灰色粘土 | SD b 39 | 36 | 黒茶褐色砂粘土 |
| 7 | 褐灰色粘質土 | 17 | 黄褐色粘土 | | 27 | 黒茶灰色粘土 | 地山 | 37 | 淡茶灰色粘質土 |
| 8 | 黄灰色粘質土 | 18 | 茶灰色粘質土 | マンガン含む | 28 | 黄灰色粘土 | 地山 | 38 | 褐色砂礫 |
| 9 | 灰色砂質土 | 19 | 暗茶褐色粘土 | マンガン含む | 29 | 淡茶灰色粘質土 | SD b 39 | | |
| 10 | 黄褐色粘質土 | 20 | 暗黄茶褐色粘土 | | 30 | 暗茶褐色粘質土 | | | |

第18図 I-19~20区西壁土層図 (1/80)

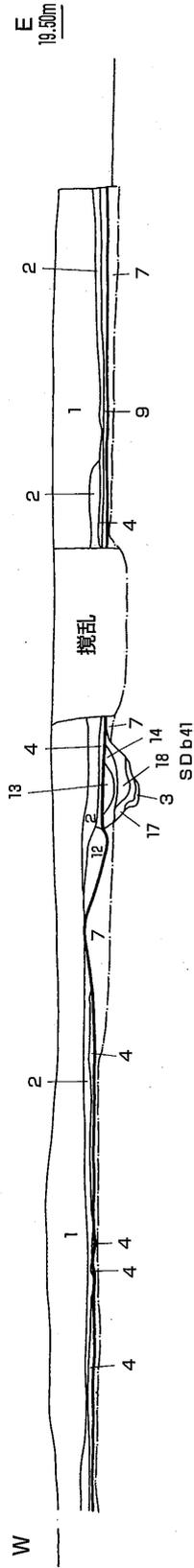
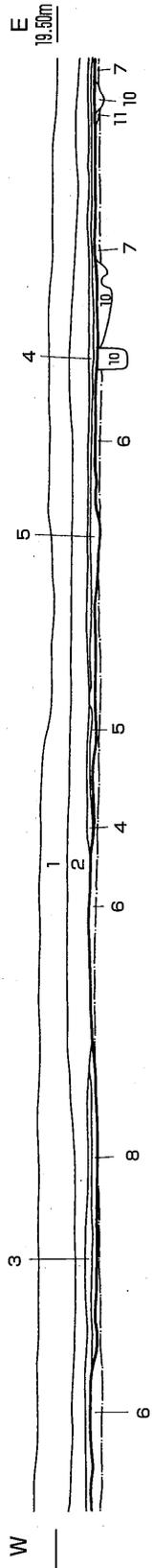
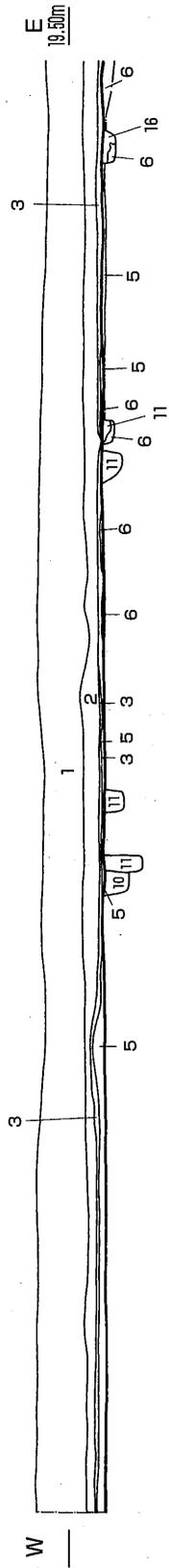


- 1 造成土
- 2 耕作土
- 3 青灰色砂質土
- 4 黄青灰色粘質土
- 5 黄赤灰色粘質土
- 6 明褐色砂質土
- 7 明褐色粘質土
- 8 明赤茶灰色砂質土
- 9 灰色砂質土
- 10 明黄赤灰色粘質土
- 11 明黄灰色粘質土
- 12 灰色砂質土
- 13 明褐色砂質土
- 14 明赤茶灰色粘質土
- 15 暗褐色砂質土
- 16 暗褐色粘質土
- 17 褐色砂質土
- 18 明黄灰色砂質土
- 19 黄灰色砂質土

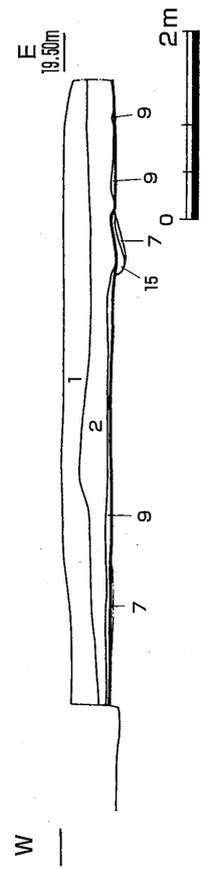
- 11 明黄灰色粘質土
- 12 灰色砂質土
- 13 明褐色砂質土
- 14 明赤茶灰色粘質土
- 15 暗褐色砂質土
- 16 暗褐色粘質土
- 17 褐色砂質土
- 18 明黄灰色砂質土
- 19 黄灰色砂質土



第19図 I-21区西壁土層図 (1/80)



- | | | | |
|---|----------|----|---------|
| 1 | 造成土 | 10 | 暗灰褐色粘質土 |
| 2 | 耕作土 | 11 | 暗茶褐色粘質土 |
| 3 | 明赤茶灰色砂質土 | 12 | 明黃灰色砂質土 |
| 4 | 明黃茶灰色砂質土 | 13 | 明黃灰色細砂 |
| 5 | 灰色砂質土 | 14 | 明黃灰色砂質土 |
| 6 | 明黃灰色粘質土 | 15 | 灰黃色粘質土 |
| 7 | 茶褐色粘質土 | 16 | 暗灰色砂質土 |
| 8 | 暗灰色粘質土 | 17 | 灰色砂質土 |
| 9 | 黃灰色粘質土 | 18 | 明茶灰色砂質土 |
- 礫混



第20图 I-21区北壁土层图 (1/80)

遺構の分布を見ると、低地帯や砂礫層部分以外の安定した部分に、弥生時代後期から中世にかけて竪穴住居や掘立柱建物などの居住遺構が形成されている。一方、低地帯や砂礫層部分と安定した部分の境界付近には溝状遺構が多く形成されている。

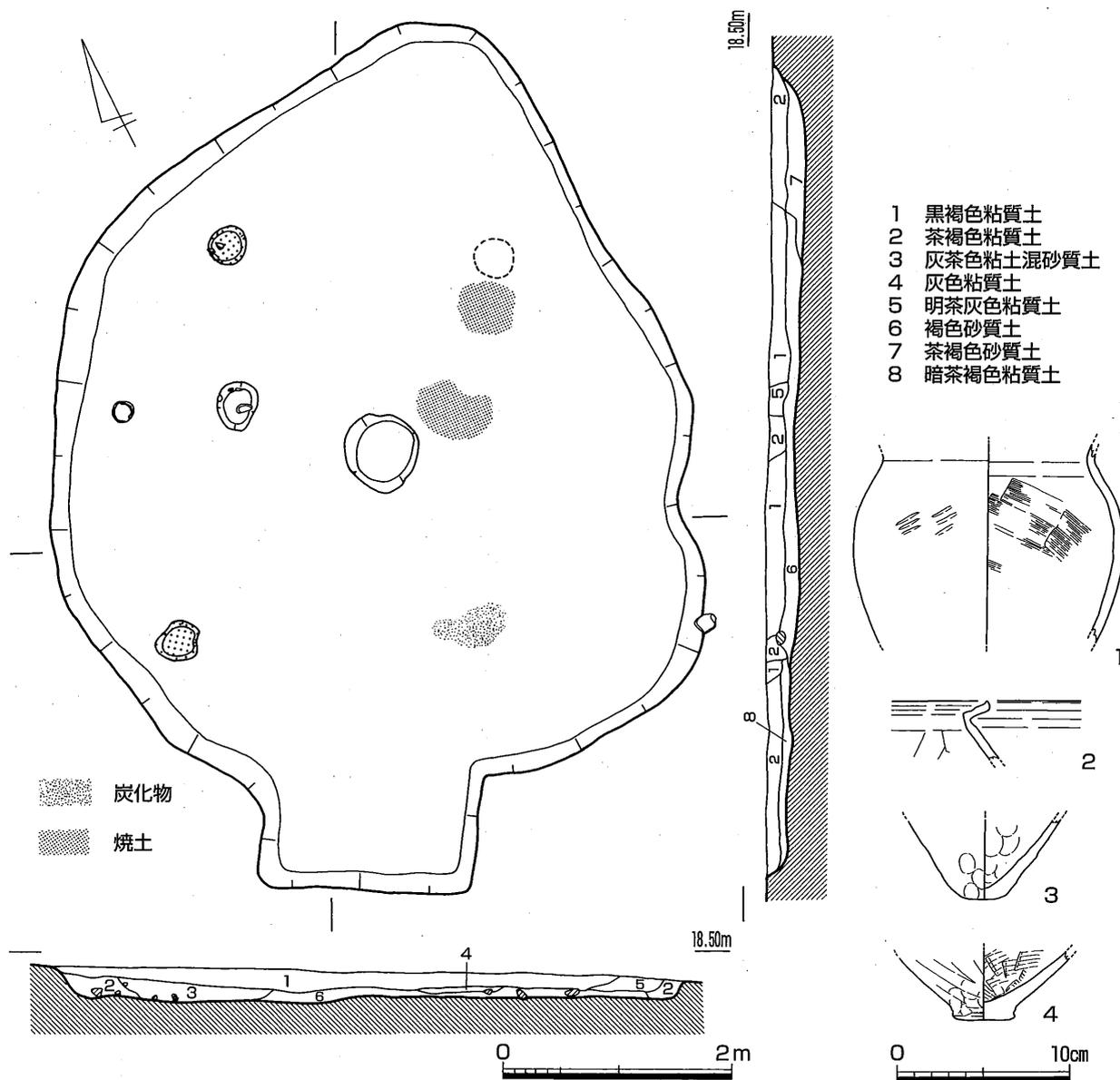
旧耕作土・床土直下の浅い位置で検出された遺構は、弥生時代から現代に至るまでの開墾の繰り返しによりその上部が削平されているものが多いと考えられる。

第2節 弥生時代後期～古墳時代前期の遺構・遺物

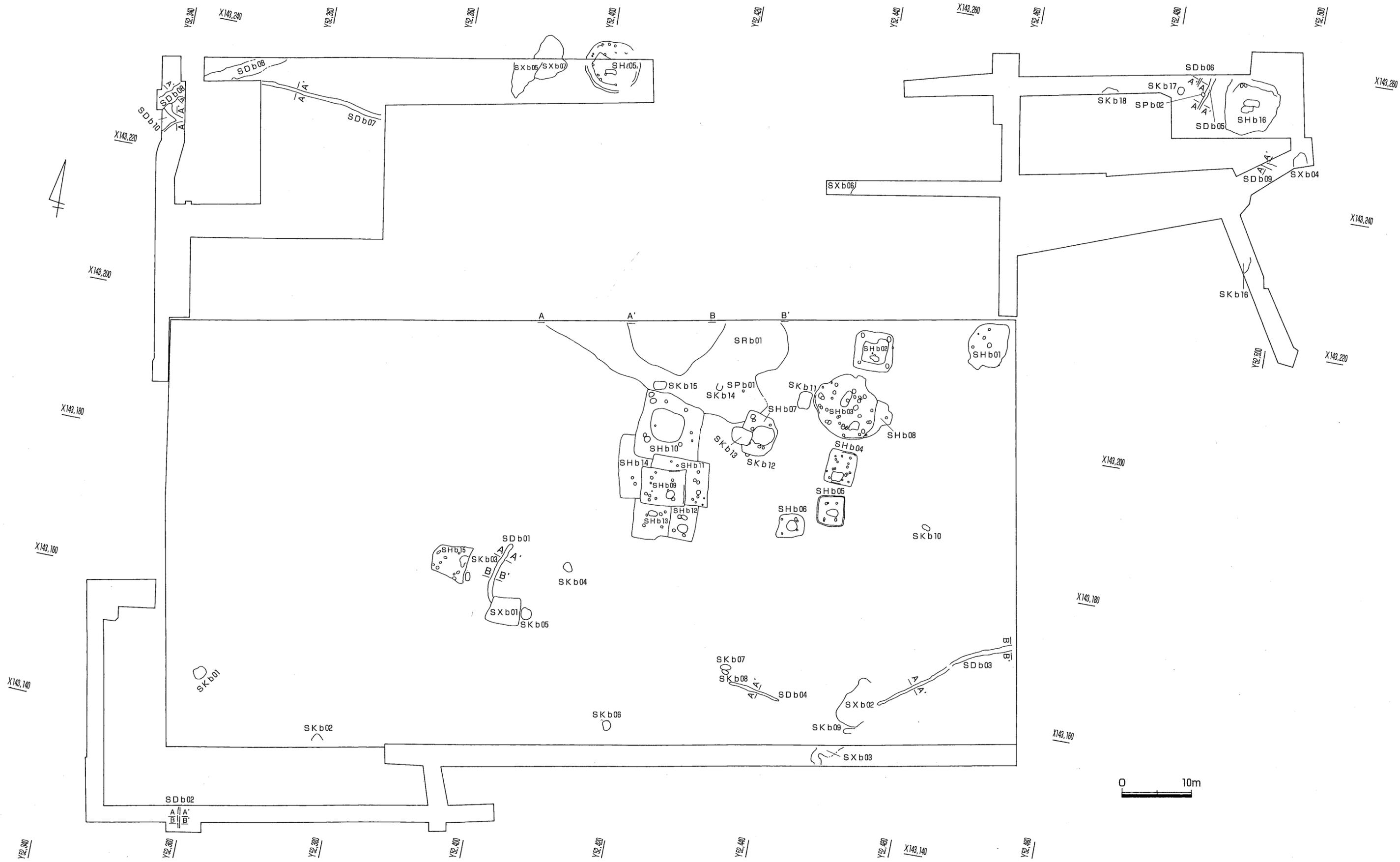
竪穴住居跡

SHb01（調査時遺構名：I-4区SH01、概報遺構名：SH16）（第21図）

I-4区の北東隅で検出した竪穴住居跡である。不明瞭ながら六角形に近い平面形で、南西部分に方



第21図 SHb01平・断面図（1/60）、出土遺物（1/4）



第22図 空港跡地遺跡遺構配置図 (彌生時代) (1/500)

形の突出部がある。突出部は幅1.9mで、0.9mほど外に突出している。突出部を含めた長さは7.6m、これに直交する東西方向の幅は5.6mである。検出面から床面までは0.2~0.3mである。埋土は上下2層に大別され、上層は黒褐色粘質土が、下層は褐色砂質土が主体となっている。

床面中央部には直径1.1~1.2m、深さ0.2mの浅い土坑がある。この土坑を中心として4基の支柱穴が考えられるが西側の2基を検出したのみで、東側の予想される2基は浅い窪み状のものが確認されたにすぎず、明瞭な柱穴としては把握出来なかった。この東側の予想される支柱穴付近には焼土と炭化物の広がりがある。検出した西側の2基の支柱穴の柱間は3.5mである。この支柱穴は直径0.3m、深さ0.1~0.15mで、埋土は暗茶褐色粘質土の単一層である。

遺物の出土量は少なく細片が多い。1~3は甕で、1は体部外面にタタキを施した後にナデている。2は胎土に角閃石を含んでいる。4は鉢の底部と考えたが、壺の可能性もある。

出土遺物からSHb01は弥生時代後期後半の所産と考えられる。

SHb02 (調査時遺構名：I-4区SH02、概報遺構名：SH15) (第23図)

I-4区の北壁際で検出した堅穴住居跡である。平面形は1辺5.5mの方形である。北西と南東の隅は丸みを帯びている。検出面から床面までの深さは0.4mである。埋土は4層に大別され、最下層には暗茶色粘質土が堆積している。

検出面から0.2~0.3mほど下の4周にはテラス状に一段高くなっている、いわゆるベッド状遺構が認められる。この部分の幅は0.5~1.5mで北側が部分的に広がっている。上部は貼床を行って整形している。さらに0.1mほど下の中央部分に床面がある。床面の南側には長径1.3m、短径0.7mの楕円形の土坑があるが、深さは0.05mと非常に浅いものである。埋土は炭化物を含んだ暗灰茶色粘土の単一層である。

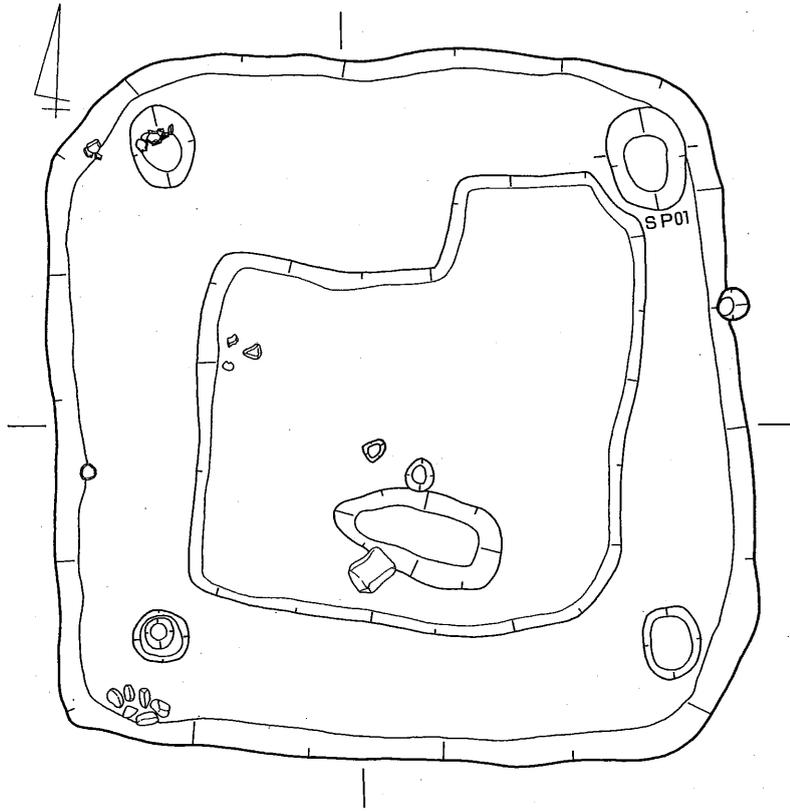
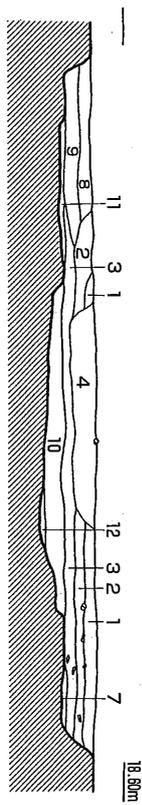
4隅に支柱穴が認められる。直径0.4~0.8mの円形で、深さは0.2~0.3mである。北東隅の支柱穴では柱痕が確認された。他の3基の支柱穴の埋土は暗灰茶色粘質土の単一層である。支柱穴の柱間は4.0mで、南側の支柱穴の周囲で焼土や炭化物の広がりが認められた。また南西隅の壁際で拳大の礫が6個まとまって出土したが、礫に人為的な痕跡はなかった。

遺物の出土量は少ない。5は突出した壺の底部で、外面にはタタキが施されている。6は甕で、口縁部は真横に開く。7~12は鉢である。7は大型の鉢で、体部外面はタタキの後にハケ目を施している。底部は安定した平底である。9の底部は丸底に近く不安定である。外面はタタキの後にヘラケズリを施し、内面にはハケ目を全体に丁寧に施す。12はサヌカイト製の石鏝で、基部は平基である。

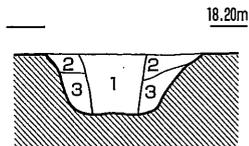
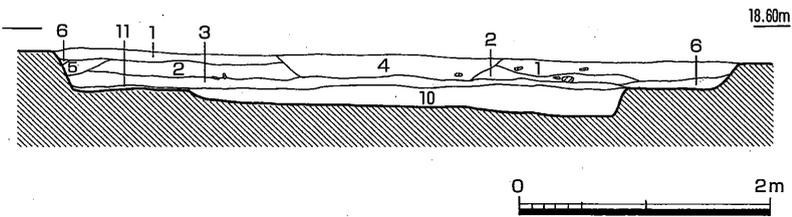
出土遺物からSHb02は弥生時代後期後半~終末にかけての所産と考えられる。

SHb03 (調査時遺構名：I-4区SH03、概報遺構名：SH13) (第24~26図)

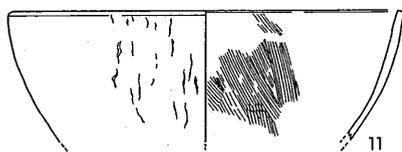
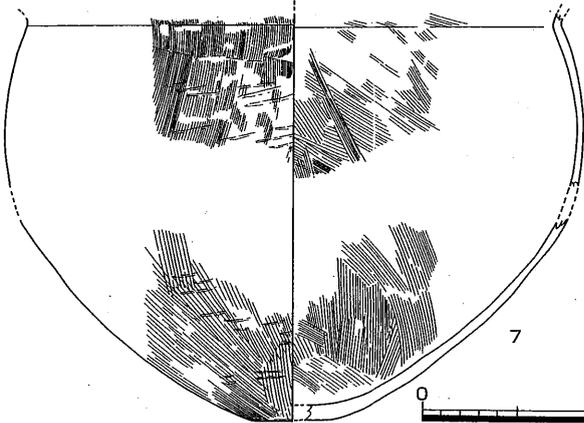
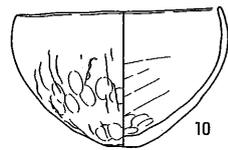
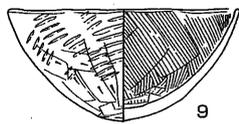
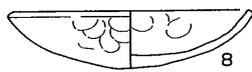
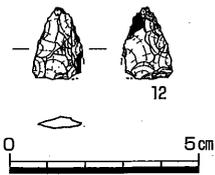
I-4区の中央付近で、SHb02の南側に隣接して検出した堅穴住居跡である。後述するSHb08と重なっており、SHb08の廃絶後に建てられている。平面形は概ね円形であるが、均整は取れておらず部分的に直線的になったり凹凸があったりしている。特に東側の部分が直線的な傾向が強くなっている。また北側には外側に突出している部分がある。住居の直径は南北方向で8.0~8.5m、東西方向で9.0mである。北側の突出部は幅1.4mで、1.2mほど外側に出ている。検出面から床面までの深さは0.2mで残存状況は良くない。埋土は基本的に上下2層に大別され、上層には茶灰色砂質土が、下層には暗茶灰



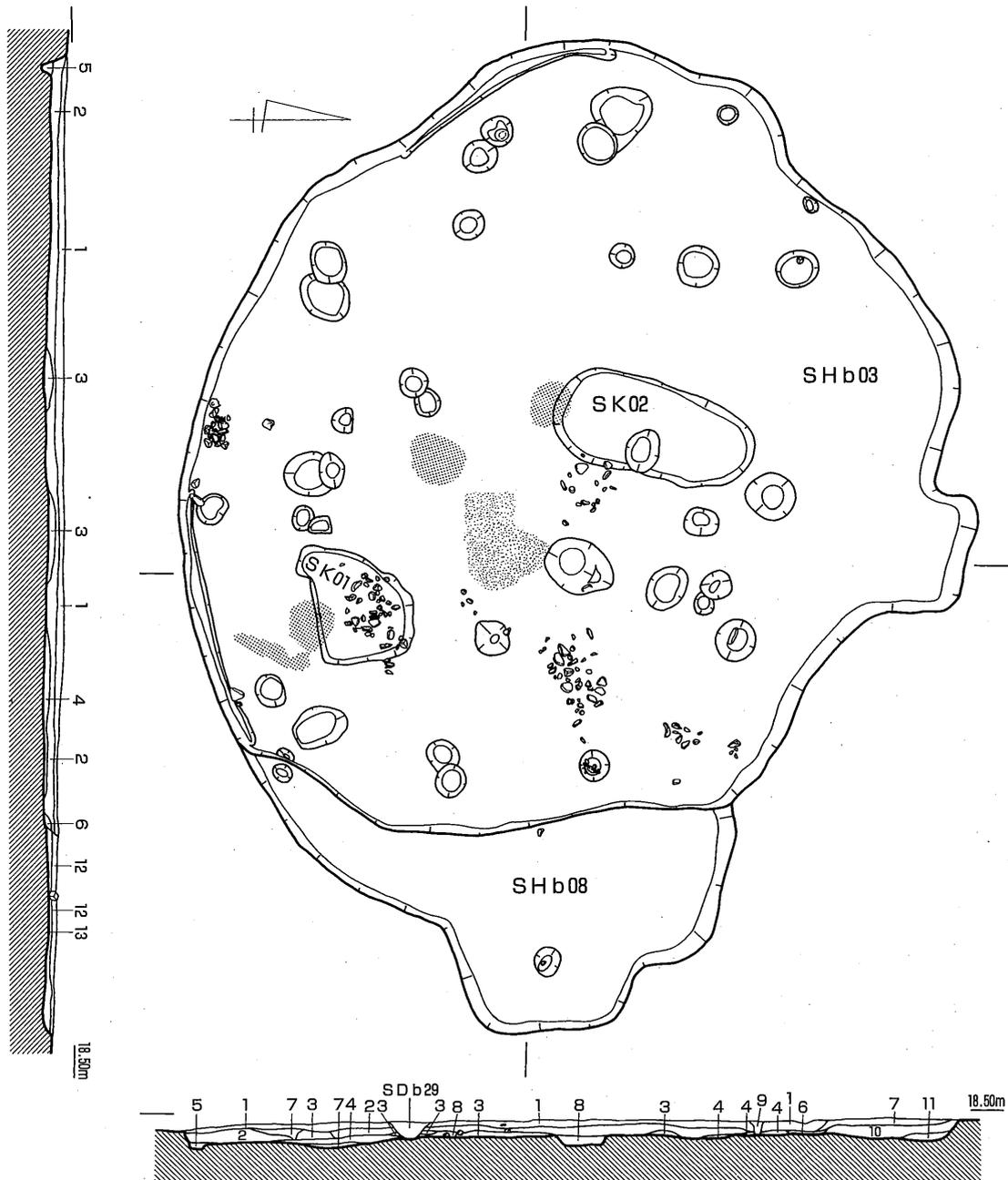
- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1 褐色砂質土
固くしまる | 7 灰褐色砂質土
やや固い |
| 2 暗褐色粘質土 | 8 暗黄褐色粘質土 |
| 3 暗茶灰色粘質土
炭化物含む | 9 暗灰褐色粘質土 |
| 4 暗茶褐色粘質土 | 10 暗茶色粘質土 |
| 5 灰色砂質土 | 11 暗黄灰色砂質土
固くしまる 貼床 |
| 6 暗褐色砂質土
固くしまる | 12 暗灰茶色粘土
炭化物含む |



- | |
|------------|
| 1 暗灰色粘質土 |
| 2 暗灰茶色粘質土 |
| 3 茶褐色砂混粘質土 |
- SHb02内 SP01断面図(1/30)



第23図 SHb02平・断面図(1/60)、SHb02内SP01断面図(1/30)、出土遺物(1/4、1/2)

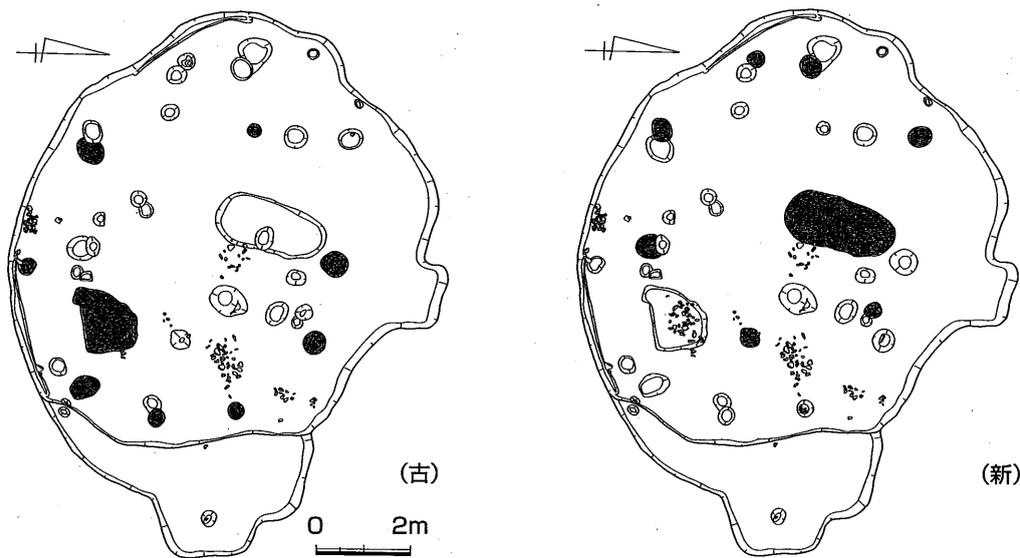


炭化物

焼土

- | | |
|-------------|------------------------|
| 1 茶灰色砂質土 | 8 暗灰茶色粘土 SHb08 |
| 2 暗茶灰色粘質土 | 9 灰色粘質土 |
| 3 暗茶褐色粘質土 | 10 暗灰色礫混粘質土 |
| 炭化物含む | 2~5cm大の礫混 |
| 4 黄灰色粘質土 貼床 | 11 暗茶色砂 |
| 5 暗褐色粘質土 | 12 灰褐色粘質土 マンガン含む SHb08 |
| 6 褐色砂質土 | 13 黄褐色粘質土 SHb08 |
| 7 灰褐色砂混粘質土 | |

第24図 SHb03・08平・断面図 (1/80)



第25図 SHb03支柱穴配置図及び変遷図 (1/160)

色粘質土が堆積している。

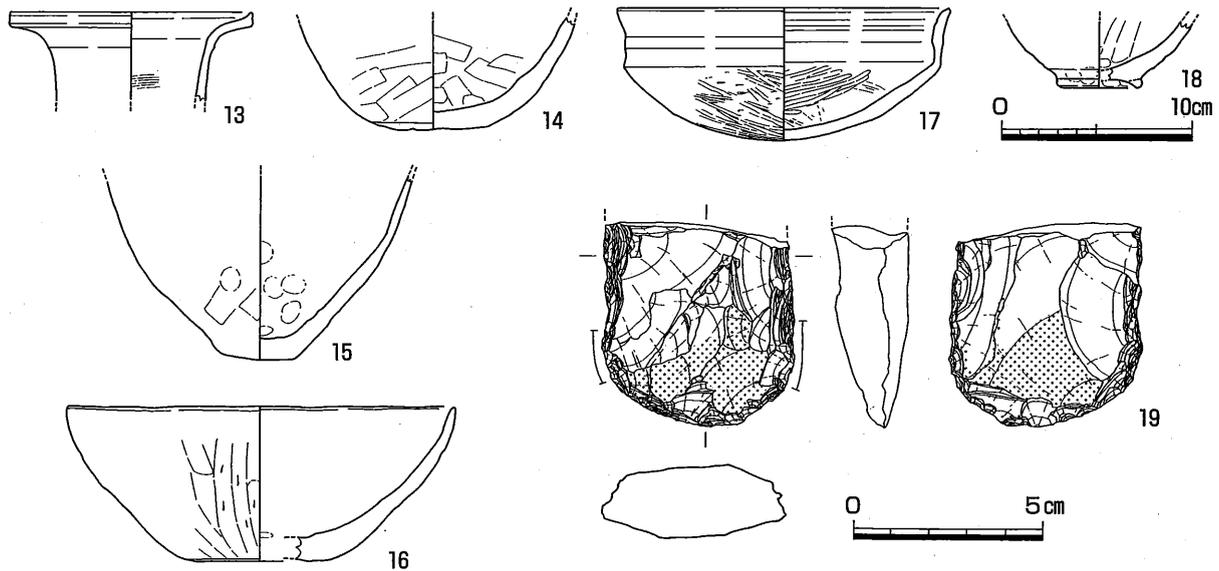
床面は地山を掘り込んだ際の凹凸部を中心に貼床を行い整形している。西側と南側の壁際の一部には壁溝が検出されたが、住居全体には巡らずに途切れている。壁溝はそれぞれ長さ3mほどで、幅0.08~0.2m、深さは0.06~0.1mで、埋土は暗褐色粘質土の単一層である。

床面には柱穴が多数あるが、これらのうち直径6.5mの円周上にある柱穴群と、直径6.0mの円周上にある柱穴群があり、これらの柱穴群が支柱穴と考えられる。これら2群は柱穴の前後関係から直径6.5mの円周上の柱穴群のほうが先であることがわかり、直径6.0mの円周上の柱穴群より東側に位置している。

先に建てられた直径6.5mの円周上にある支柱穴は9基あるが、北西部分に検出出来なかったがあと1基あった可能性がある。また南側の部分は壁溝に隣接し、壁に近くなっている。これらの支柱穴は平面形は直径0.3~0.6mの円形で、深さは0.1~0.2mと浅く、埋土はいずれも黒褐色粘質土の単一層である。この支柱穴に対応する土坑としてSK01がある。SK01の平面形は不整形で、南東部分が角張っているが他の部分は丸みを帯びている。東西1.35m、南北1.1mで、深さは0.1m前後と浅く、埋土は灰褐色砂混じり粘質土の単一層である。底部から土器の細片と拳大の礫が少量出土している。

これに対して、後に建てられた直径6.0mの円周上にある支柱穴は7基あるが、北側にあと1基想定出来る。西側の部分で壁から0.3~0.4mの距離にある。また同じ場所で柱を建替えている部分もある。これらの支柱穴の平面形は直径0.3~0.7mの円形で、深さは0.1~0.25mと浅く、埋土はいずれも黒褐色粘質土の単一層である。この支柱穴に対応する土坑としてSK02がある。SK02の平面形は隅丸の長方形で、長辺2.25m、短辺1.1mで、深さは0.1m前後と浅く、南側の部分に焼土が広がっている。埋土は黒褐色粘質土の単一層である。この段階では前段階のSK01の上に貼床を施して床面を整形している。

以上のようにSHb03は建て替えが行なわれており、支柱穴は東側から西側に向かって1.5mほど移動して建て直されている。また床面にはSHb03以前のSHb08の柱穴や土坑も認められるが、これら



第26図 SHb03出土遺物 (1/4、1/2)

については後述する。

住居の規模に比べて、出土した遺物量は極めて少ない。13・14は壺で、13の口縁部端部は上方に拡張している。16は安定した平底の鉢で、体部外面には弱くヘラケズリを施している。17は高杯の杯形の鉢である。口縁部内面は強くナデられ凹線が形成されている。体部外面はヘラケズリの後にヘラミガキを施し、内面はヘラミガキである。19はサヌカイト製の石鎌で、刃部は両面とも摩滅している。また刃部に近い側縁部には敲打痕が認められる。

出土遺物からSHb03は弥生時代後期後半の所産と考えられる。

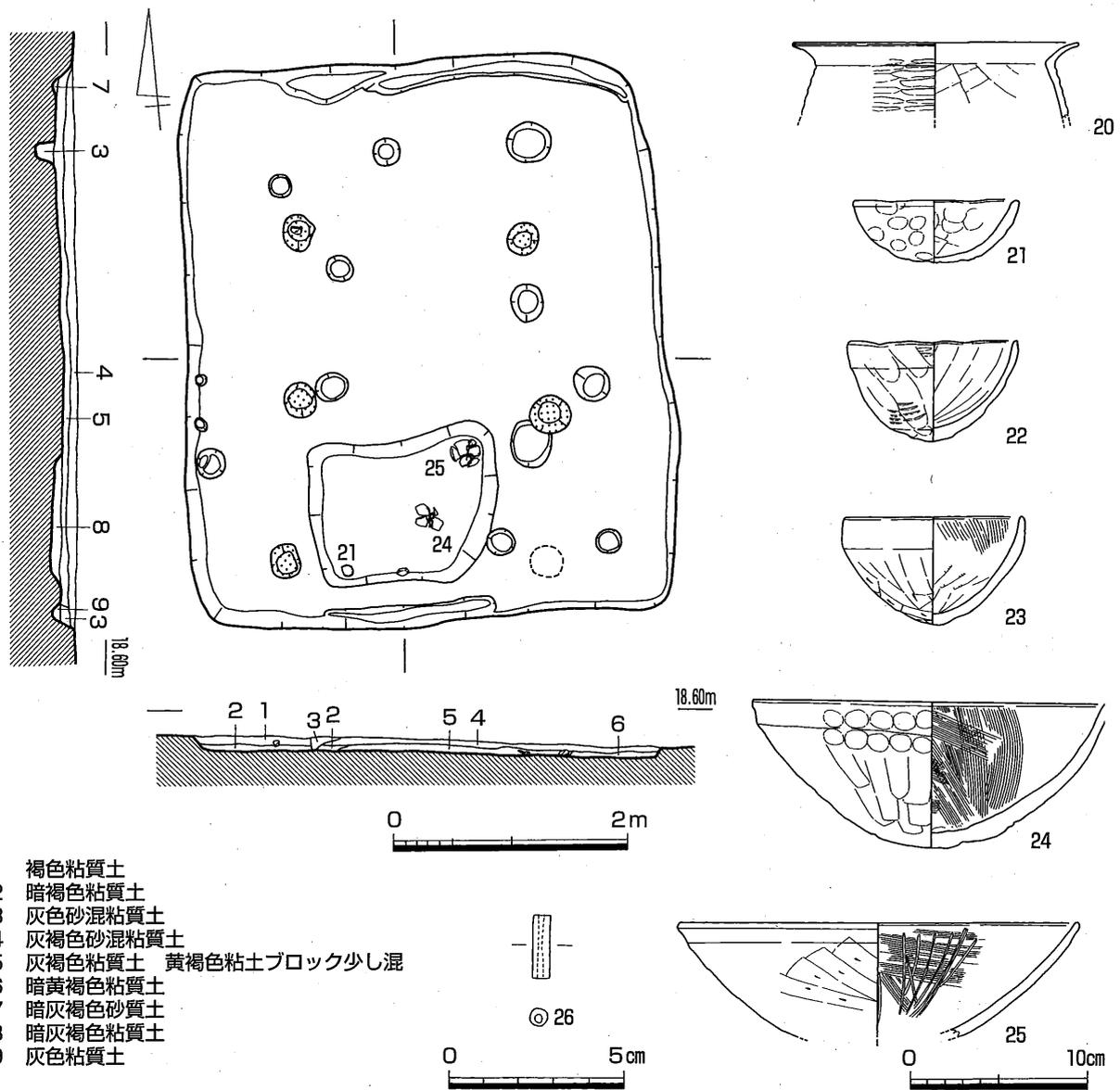
SHb04 (調査時遺構名：I-4区SH04、概報遺構名：SH12) (第27図)

I-4区の中央付近で、SHb03の南側に隣接して検出した竪穴住居跡である。平面形は方形で長辺5.3m、短辺4.0mでやや南北に長くなっている。検出面から床面までの深さは0.1~0.15mで、残存状況は良くない。埋土は上下2層に大別され、灰褐色~褐色系の粘質土が主体となっている。

住居の北側と南側には壁溝があるが、東側と西側には巡っていない。南側の壁溝も中央付近だけである。壁溝は幅0.08~0.15m、深さ0.04~0.06mで、埋土は北側が暗灰褐色砂質土、南側が灰色粘質土のそれぞれ単一層である。また北側の壁溝の西端部に接する壁際は僅かにテラス状の段がある。

支柱穴は南北方向に1間×2間の6基と考えられるが、南西隅の部分は検出出来なかった。支柱穴の柱間は梁間に相当する東西の1間分で2.1m、桁行に相当する南北の1間分で1.4mである。支柱穴の平面形は0.2~0.3mの円形で、深さは0.15~0.22m、埋土はいずれも暗茶褐色粘質土の単一層である。そして南側の支柱穴の内側に方形の土坑がある。土坑の長辺は1.6m、短辺は1.2~1.4m、深さは0.08~0.1mと浅いものである。埋土は暗灰褐色粘質土の単一層である。土坑の底部から21・24・25の土器が潰れた状態で出土した。

遺物の出土量は少ない。20は甕で、口縁部は外反し端部は先細りになる。体部外面には粗いタタキを施している。21~25は鉢である。22の外表面はタタキの後に指ナデで調整している。23は体部外面の下半にヘラケズリを施し、口縁部の内面にはハケ目を施している。24は口縁部の少し下部の外表面に指押さえ



第27図 SHb04平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4、1/2)

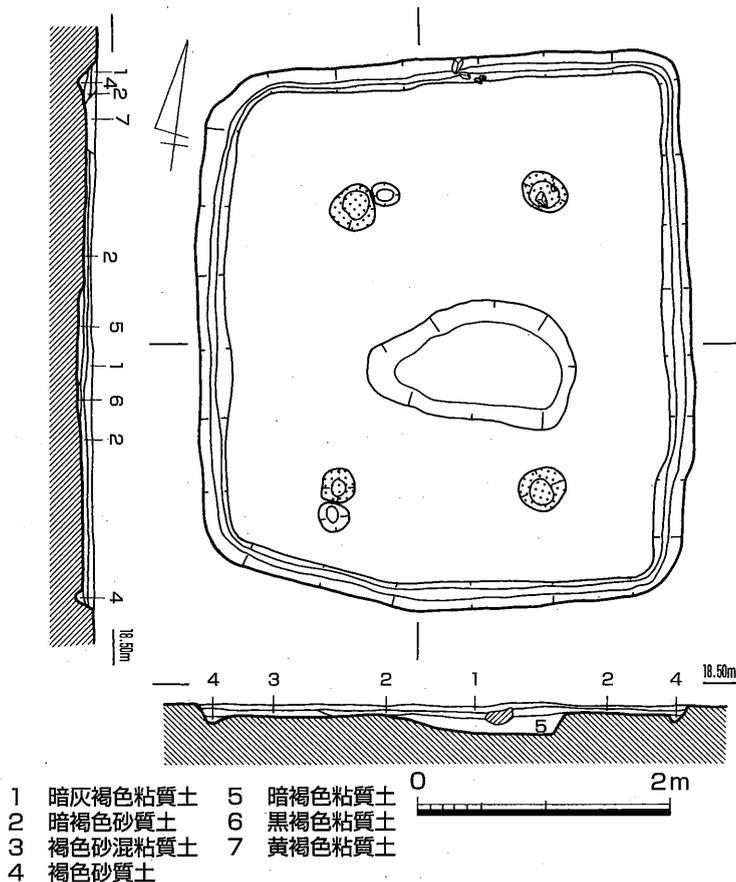
が顕著に施されているが、粘土の接合を強化するためと考えられる。内面は全体に丁寧にハケ目を施している。25は内面にハケ目の後にヘラミガキを加えている。26は碧玉製の管玉で、両面から穿孔している。

出土遺物からSHb04は弥生時代後期後半～終末の所産と考えられる。

SHb05 (調査時遺構名：I-4区SH05、概報遺構名：SH11) (第28図)

I-4区の南部で、SHb04の南側に隣接して検出した竪穴住居跡である。平面形は方形で長辺4.4m、短辺3.9mで若干南北に長くなっている。検出面から床面までの深さは0.1m前後で、残存状況は良くない。埋土は上下2層に大別され、上層に暗灰褐色粘質土が、下層には暗褐色砂質土が主に堆積している。

壁際の周囲には壁溝が全体に巡っている。壁溝の幅は0.15~0.2m、深さ0.05mで、埋土は褐色砂質土



第28図 SH b 05平・断面図 (1/60)

SH b 06 (調査時遺構名: I-4区 SH 06、概報遺構名: SH 10) (第29~31図)

I-4区の南部で、SH b 05の南西側に隣接して検出した竪穴住居跡である。平面形は隅丸の方形で、南西部分は少し突出している。南北方向3.4m、東西方向3.6mと小規模な住居で、やや東西方向に長くなっている。検出面から床面までの深さは0.15m前後で、残存状況は良くない。埋土は褐色~茶褐色系の粘質土が主体となっている。

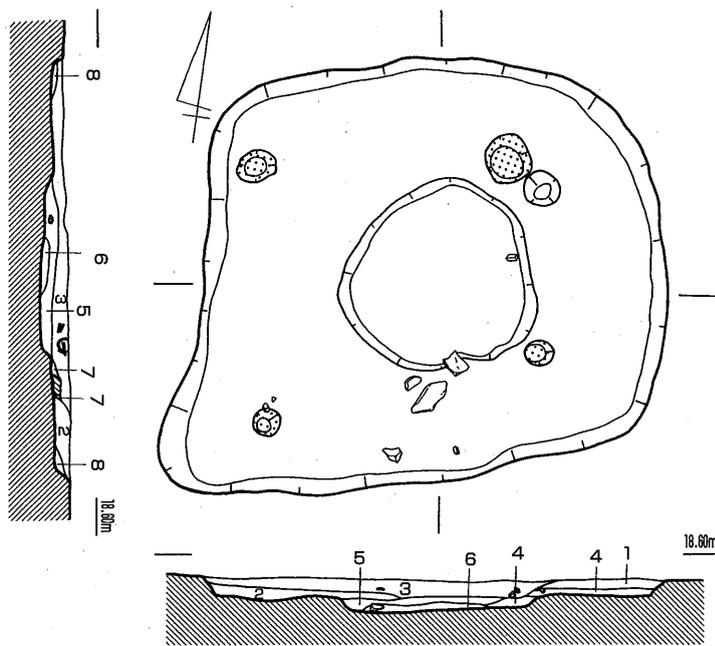
主柱穴は4基であるが、南東部分の位置が少しずれている。主柱穴の柱間は2.0mであるが、東側の2基の柱間は1.6mと狭くなっている。主柱穴の平面形は直径0.15~0.4mの円形で、深さは0.12~0.21m、埋土はいずれも暗茶褐色粘質土の単一層である。主柱穴の間の床面のほぼ中央部分に、平面形がほぼ円形の土坑がある。直径1.5m、深さ0.1mで、埋土は上層に暗茶褐色粘土が、下層には黒茶色粘土が堆積している。土坑の南側の部分には15~35cmほどの台石状の礫が出土したが、人為的な痕跡は認められなかった。この土坑から27・34の土器が出土している。

遺物は主に中央の土坑の周辺から出土している。27~33は壺である。27の口縁部は頸部から屈曲して直線的に開く。体部の最大径は上半にあり倒卵形になる。外面はハケ目を施すが摩滅気味である。内面にはヘラケズリを施している。28の口縁部は直立する頸部から大きく開き、端部には3個1単位の竹管文を2単位加えている。体部外面にはハケ目の後にヘラミガキを加え、ヘラ描きの絵画状の文様が認められる。内面には全体に指押さえが顕著である。29~32は細頸壺である。29・30は細長く開く頸部から口縁部であるが、外面にはヘラミガキを施し、30の内面には指押さえが顕著である。31・32の体部は扁

の単一層である。

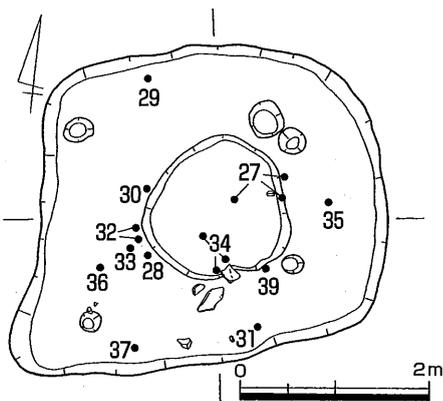
主柱穴は4基で、西側の2基については建て替えが認められる。主柱穴の柱間は南北2.3m、東西1.6mである。主柱穴の平面形は直径0.3~0.4mの円形で、深さは0.12~0.22mで、埋土はいずれも暗茶褐色粘質土の単一層である。主柱穴の間の床面のほぼ中央部分に、平面形が楕円形に近い土坑がある。長径1.65m、短径0.95m、深さ0.18mで、埋土は暗褐色粘質土と南側の部分には黒褐色粘質土が堆積している。

遺物の出土量は極めて少なく、細片が僅かに出土したのみで図化は出来なかった。微量の遺物の観察と周辺の遺構の時期との関連などから、SH b 05は弥生時代後期後半~終末の所産と考えておく。



- | | |
|-------------|----------|
| 1 褐色粘質土 | 5 暗茶褐色粘土 |
| 2 暗黄褐色粘質土 | 6 黒茶色粘土 |
| 3 茶褐色粘質土 | 7 暗茶色粘土 |
| 4 暗茶灰色砂混粘質土 | 8 褐色砂質土 |

第29図 SH b 06平・断面図 (1/60)



第30図 SH b 06遺物出土位置図 (1/80)

出土遺物から SH b 06は弥生時代後期中葉の所産と考えられる。

SH b 07 (調査時遺構名：I-4区 SH 07、概報遺構名：SH 09) (第32~39図)

I-4区の中央やや西寄りで検出した竪穴住居跡である。平面形は方形であるが、北東部分は丸みを帯びている。南北方向5.9m、東西方向5.0mで南北方向に少し長くなっている。西側の部分を同じく弥生時代の土坑である SK b 13に壊されている。検出面から床面までの深さは0.28m前後で、残存状況は良くない。埋土は上下2層に大別され、上層は褐色粘質土、下層は暗茶色粘質土がそれぞれ主体となっている。

主柱穴は現状では4基と考えられ、柱間は南北方向が3.3m、東西方向が2.5mと2.3mで若干南側の東西列の柱間が狭くなっている。南北方向の中間付近にあと1基の主柱穴の可能性はあるが、西側の柱

平で、外面には丁寧にヘラミガキを施している。32の内面にはヘラケズリを施すが、底部内面はヘラ状の工具でナデている。33はミニチュアの壺で、直立気味の頸部からそのまま口縁部端部に至る。体部下半は厚手で、外面にはヘラミガキを施している。

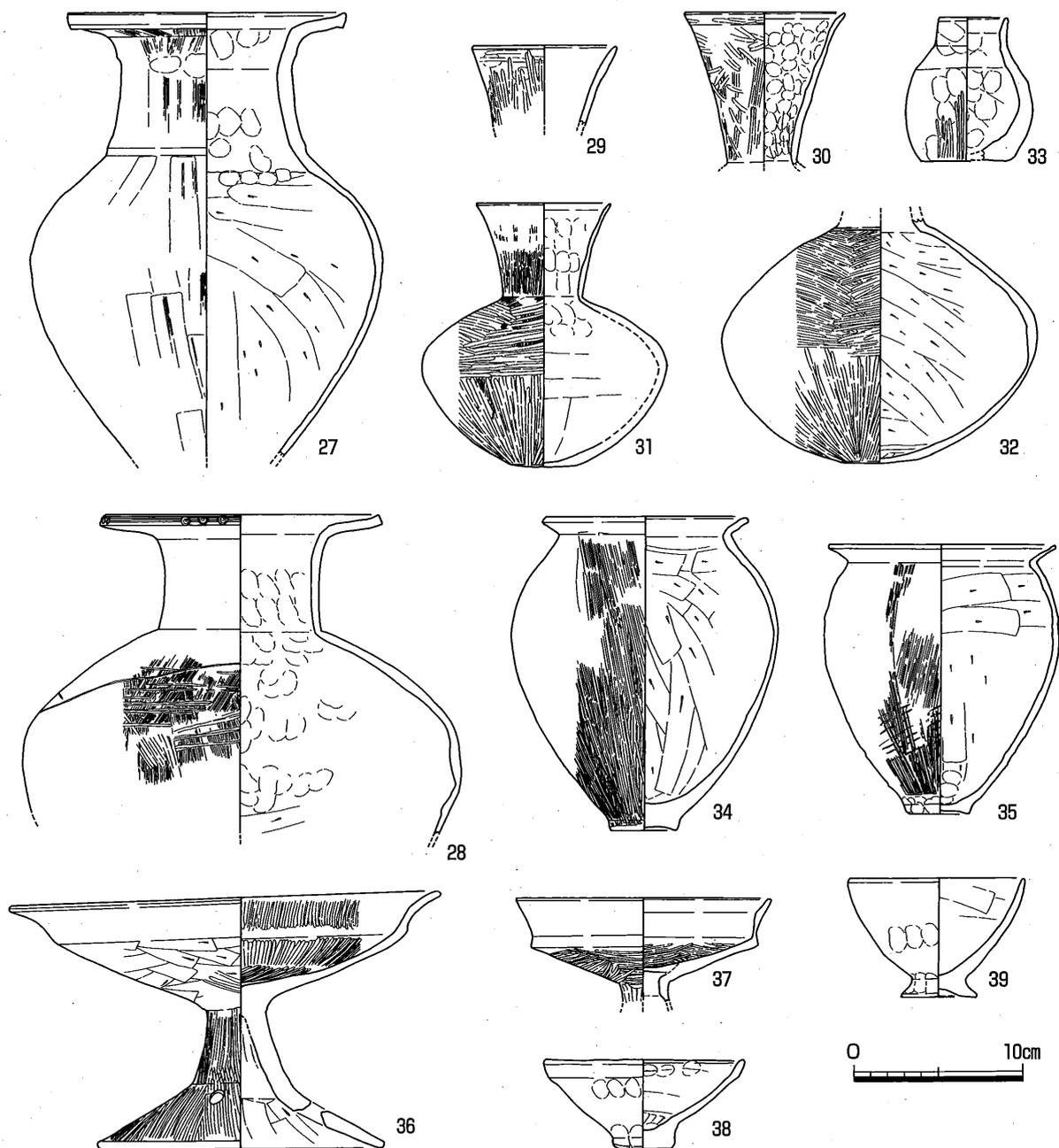
34・35は甕である。両者とも体部最大径は上半にあり、底部は若干の上げ底になっている。35の口縁部は直線的に開き、体部外面はタタキの後にハケ目を加えている。

36・37は高杯である。36の口縁部は杯部から屈曲した後に外反して立ち上がる。杯部外面はヘラケズリにより整形した後にヘラミガキ

を施すが、ヘラミガキの大部分は摩滅して残っていない。内面は全体に放射状に丁寧にヘラミガキを施している。脚部は中位で屈曲して直線的に開き、3方透かしを施している。外面は全体にハケ目を、内面下部にはヘラケズリを施す。杯部と脚部は差込みにより接合している。37の杯部は直線的で、口縁部は緩く外反するが直立気味である。杯部の内・外面には格子状に分割したヘラミガキを丁寧に施している。杯部と脚部の境は円盤充填している。

38・39は鉢である。38の底部は突出し、口縁部の内・外面

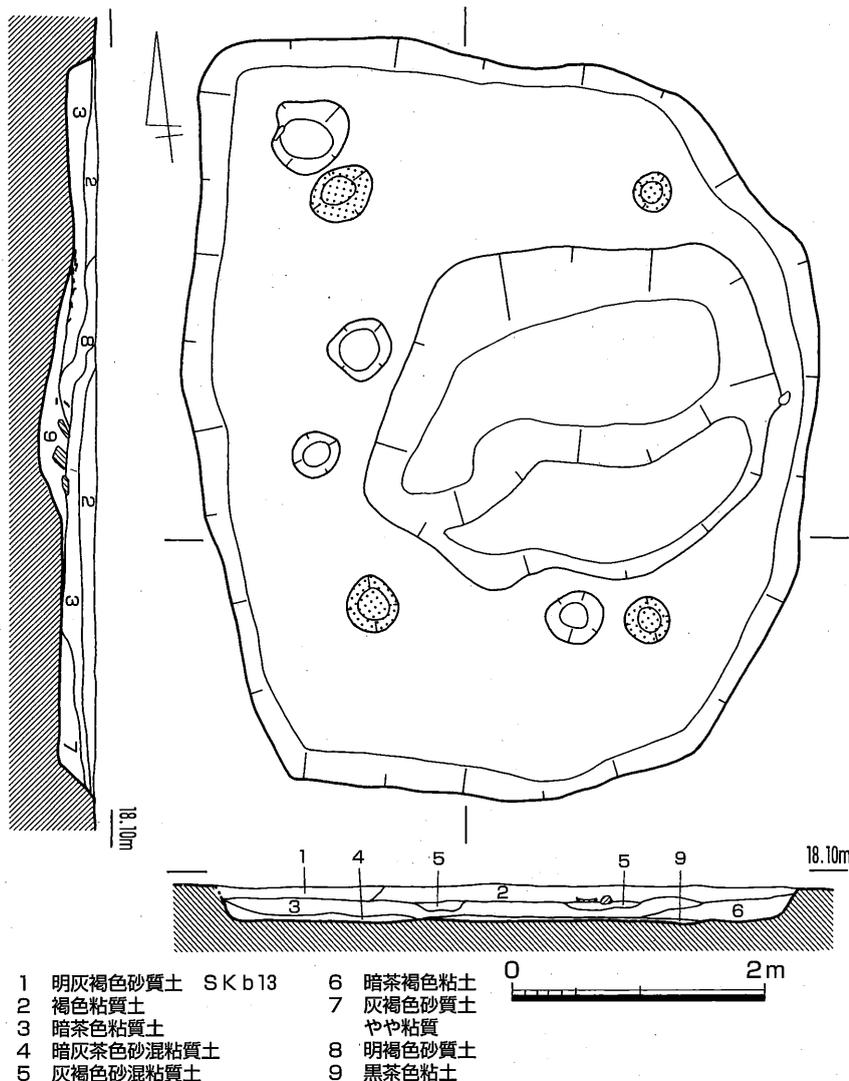
に指押さえを行なう。39には低い脚台が付いている。



第31図 SHb06出土遺物 (1 / 4)

間が不均等になるし、東側の部分が未検出である。主柱穴の平面形は直径0.3~0.45mの円形で、深さは0.10~0.14m、埋土はいずれも黒褐色粘質土の単一層である。

床面中央部から東部にかけて大形の土坑がある。平面形は方形に近いが南東部は丸みを帯び、その他の部分は鈍角になっている。東西方向で3.0m、南北方向で2.6mになり、南側は幅0.8mほどのテラス状の段を形成している。深さは0.28m、埋土は黒茶色粘土の単一層である。この土坑の上面には多量の土器と礫が出土しており、特に土坑の北側から東側にかけて集中していた。住居の廃絶時に土器と礫を廃棄したと考えられる。すると不整形な大形の土坑の、主柱穴の間に収まる西側の2.0mの部分とそこから東へ1.2m部分の長方形の一部を反映している部分が本来の土坑と考えられ、それ以外の部分は廃絶時に土器と礫を廃棄するために再掘削されたと考えられる。するとこの東側の部分に主柱穴があと1基

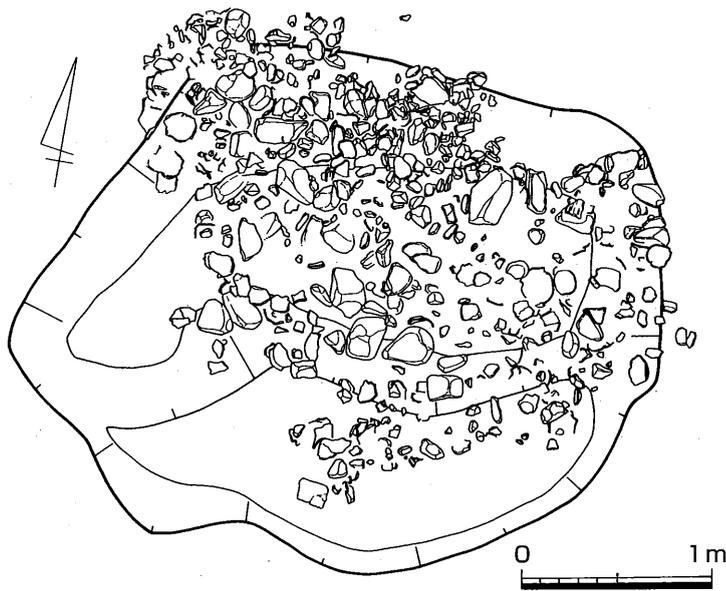


第32図 SHb07平・断面図 (1/60)

ケ目を丁寧に施しているが、外面に調査時の傷と思われる線が1条認められる。内面は中位にハケ目を部分的に施し、棒状工具あるいは丸石で最終的にナデている。47は頸部から体部にかけての外面のハケ目は粗い。また頸部外面には雄鹿を表現した線刻画が認められる。48の頸部と体部の境界部分には棒状工具で施したと考えられる沈線が1条巡っている。49は口縁部内面を強くナデている。頸部外面にヘラ描き沈線がらせん状に巡り、さらに細かいヘラ描き沈線が斜め方向に1条ある。50の頸部は微妙に膨れている。頸部から体部にかけて外面にヘラミガキを施している。体部内面はヘラケズリで、頸部外面には列点文を二重に巡らせている。51は口縁部内面を連続して強くナデている。また49と同様にヘラ描き沈線がらせん状に巡り、さらに細かいヘラ描き沈線を縦方向に1条加えている。52は頸部下半にヘラ圧痕文を綾杉状に施すが、上部のヘラ圧痕文上には後にハケ目を加えている。53は口縁部端部外面には凹線が巡り、端部付近を強くナデている。頸部は外面に丁寧にヘラミガキを施し、体部との境界部分に幅広の列点文を巡らせている。内面には指押さえ痕が顕著である。体部も外面全体に丁寧にヘラミガキを施している。54の頸部外面には鋸歯状に絵画のように描かれている部分があるが、丁度その部分で欠損しているため全体の構図は不明である。体部は最大径が中央にあり、やや縦長になっている。外面はタタキ

あった可能性もあり、土坑を再掘削したときに支柱穴も壊されたとすれば、SHb07の支柱穴は6基であった可能性も指摘しておきたい。

遺物は先述したように、土坑の上部から廃棄した状態で多量に出土している。そのため破損品が圧倒的に多くなっている。40~65は壺である。40・41は口縁部端部外面に凹線が巡っている。42~54は長頸の壺である。44の口縁部は真横に開き、端部を上方に拡張している。頸部外面はハケ目の後にヘラミガキを加えている。45の頸部外面には縦方向に竹管文を施している。46の口縁部は真横に開き、屈曲部の少し下部の内面を強くナデている。頸部外面にはハケ



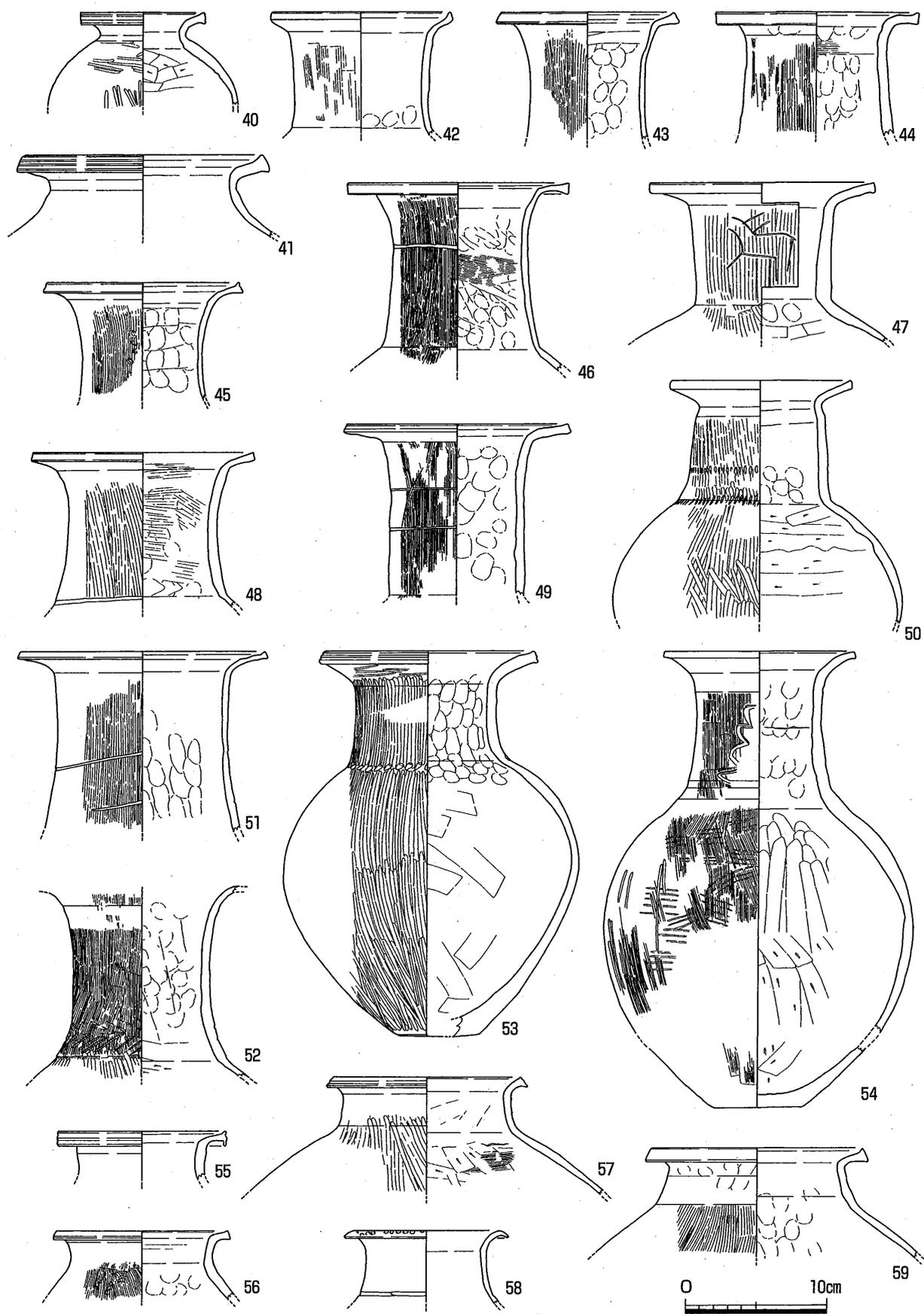
第33図 SH b 07中央土坑部分遺物出土状況図 (1/40)

の後にハケ目を施し、僅かにヘラミガキも認められる。内面下半にはヘラケズリを施し、上半は指で縦方向に抉るようにナデている。55・57は口縁部端部を上下に拡張して、外面に凹線を巡らせている。58は口縁部外面に竹管文を施し、頸部と体部の境界部分に棒状工具による沈線を巡らせている。59は口縁部屈曲部付近に指押さえを行なっている。60~62は頸部から口縁部にかけて外反している。体部の最大径は上半にあり、外面にはヘラミガキを施し底部付近に僅かにハケ目が認められる。62の

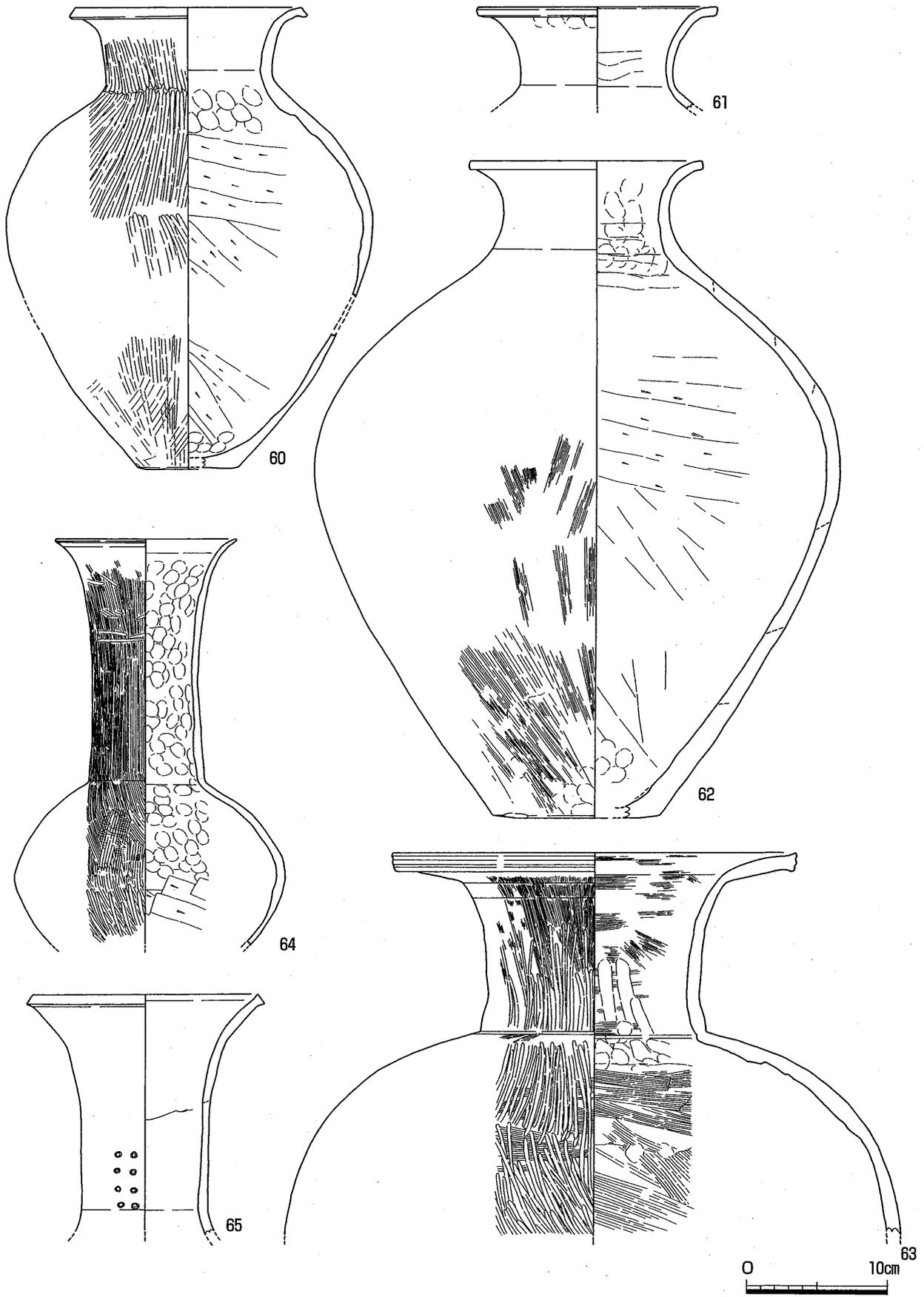
体部最大径も上半にあり、底部は安定した平底である。63の頸部から体部にかけて外面にハケ目の後にヘラミガキを加えている。内面にもハケ目を施している。体部は上半部が膨らんでいる。64は細頸壺で、頸部外面全体に細かいハケ目を施している。また一部に棒状工具で軽くナデたためヘラミガキ状になっている部分がある。体部は扁平で、外面下半部にはヘラミガキを加えている。頸部から体部上半の内面は指押さえが顕著である。65は全体に摩滅しているが、頸部下半部に竹管文が2列施されている。

66~99は甕である。66の口縁部は外反し、体部上半部は肥厚している。体部内面にはヘラケズリを施している。68の口縁部は直立し、内面に粗いハケ目を施している。70は接合しなかったが、同一個体と考えられるもので、図面で復元している。体部の最大径は上半にあり、倒卵形になる。外面にはハケ目の後にヘラミガキを加え、内面はヘラケズリを施す。内面の上部には工具の小口部分で引きずったような痕が残っている。底部は若干の上げ底で、内面には指押さえを行なっている。71の口縁部は直線的で長く、内面に僅かにハケ目が残る。体部最大径は上半にあり、底部は平底である。72~99は胎土に角閃石を含んでいる。いずれも体部最大径は上半にあり倒卵形になる。体部は基本的に外面に細かいハケ目を施した後に下半部にヘラミガキを加えている。内面は上半部は指押さえで、最大径部分付近から下半部にはヘラケズリを施している。75は体部外面に僅かにハケ目以前のタタキの痕跡が認められる。80は口縁部に近い内面にハケ目が認められる。84の体部上半部は直線的で、外面に間隔の開いたヘラミガキが施されている。91の口縁部は短く、端部外面に幅広の面をもつ。体部内面のヘラケズリは上部まで施されている。96の口縁部は真横に開き、口縁部付近の内面にはハケ目を施している。99は体部上半に部分的にヘラミガキが認められる。底部外面にもヘラミガキを施している。

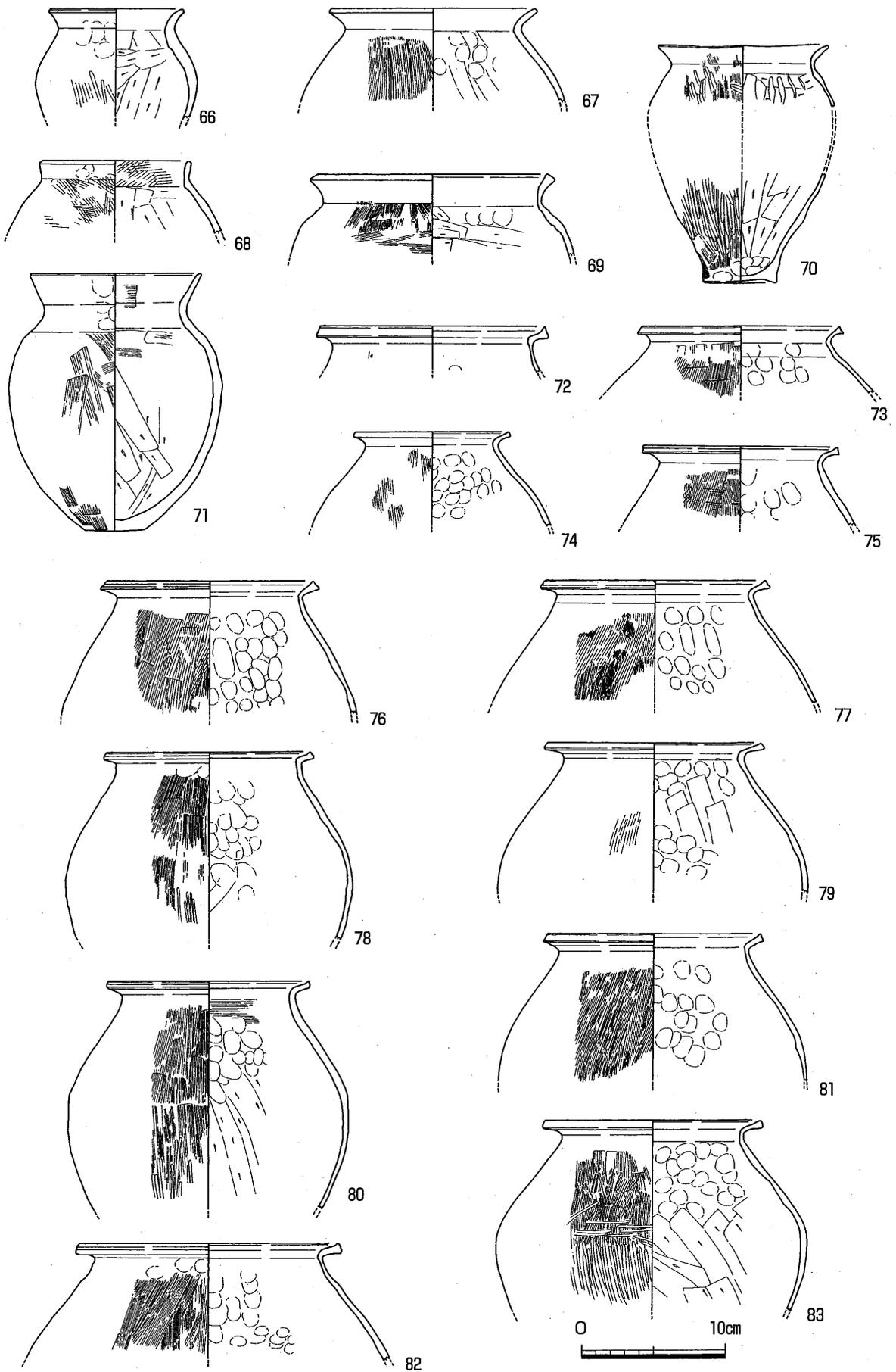
100~116は壺及び甕の体部、底部で、このうち100~113は壺、114~116は甕と考えられる。101は体部外面中央部に横方向にヘラミガキを施す細頸壺の体部である。102は体部外面にヘラミガキを格子状に施している。109は徳利のような体部である。113の底部は肥厚している。内面はハケ目の後に底部付近を強くナデている。



第34图 SHb07出土遺物 (1) (1/4)

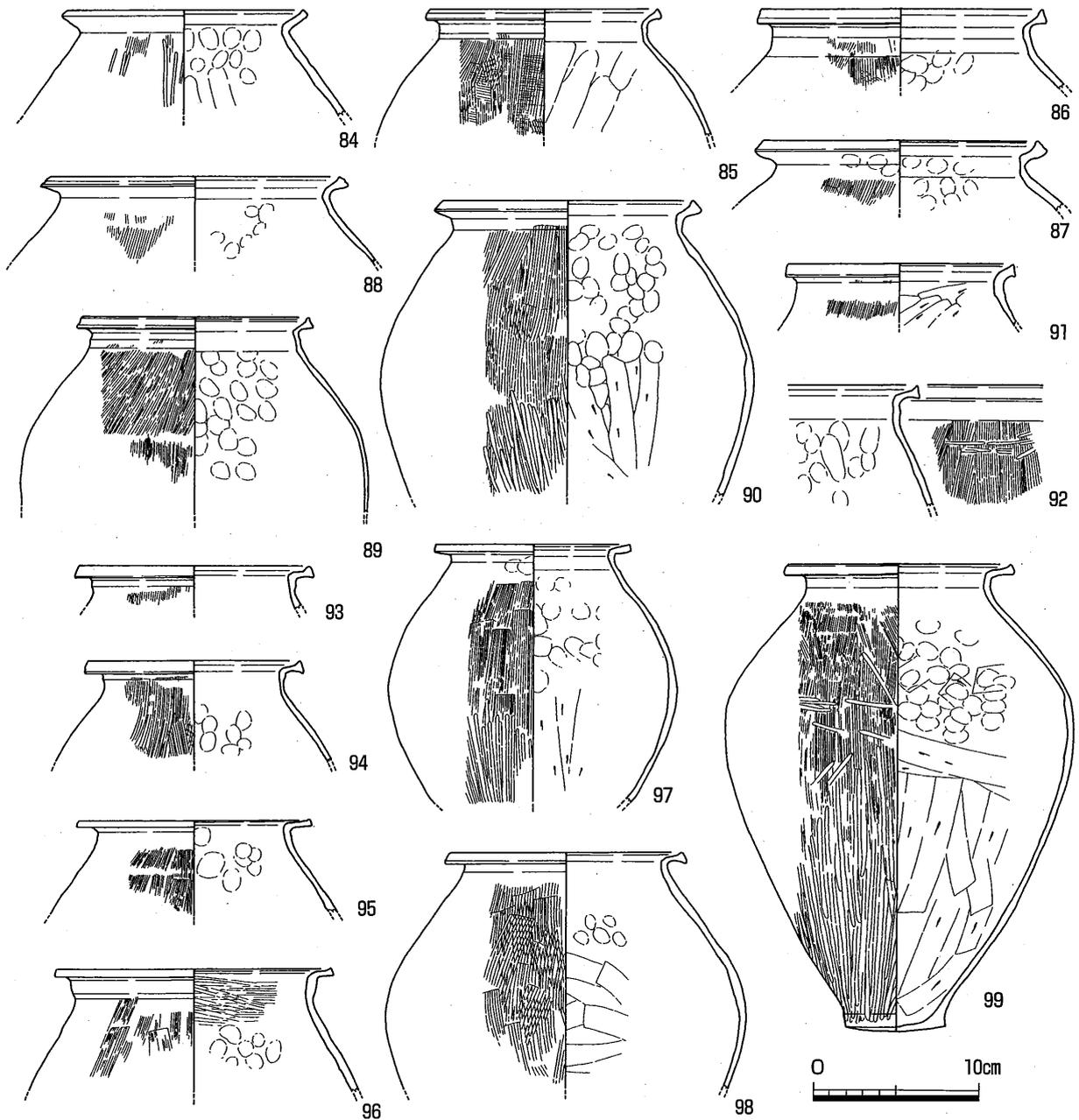


第35図 SHb07出土遺物(2)(1/4)



第36图 SHb07出土遗物(3)(1/4)

117~131は高杯である。118は杯部と口縁部の屈曲部は鋭く、口縁部は外反する。杯部外面はヘラケズリの後にヘラミガキを、内面はハケ目の後にヘラミガキをそれぞれ施している。脚部は杯部の中央よりずれた部分で接合されており、円盤充填になっている。119の杯部は丸みを帯びている。脚部には3方透かしがあり、脚柱部から屈曲して開く。脚柱部にはヘラミガキを施している。杯部と脚部は差込みにより接合している。120の脚部には上下2段の透かし穴があり、上部に2個、下部に2個が現存している。杯部と脚部充填である。123・126・127・129の口縁部は両面とも強くナデており、端部上面に幅広の面をもち凹線が巡っている。いずれも杯部の内・外面に格子状に分割ヘラミガキを施しているが、126・127の内面にはヘラミガキ以前にハケ目を施している。126・127・129とも円盤充填である。124の口縁部は外反している。脚部には上下2段に透かし穴があり、上段は3方透かし、下段は4方透かしに

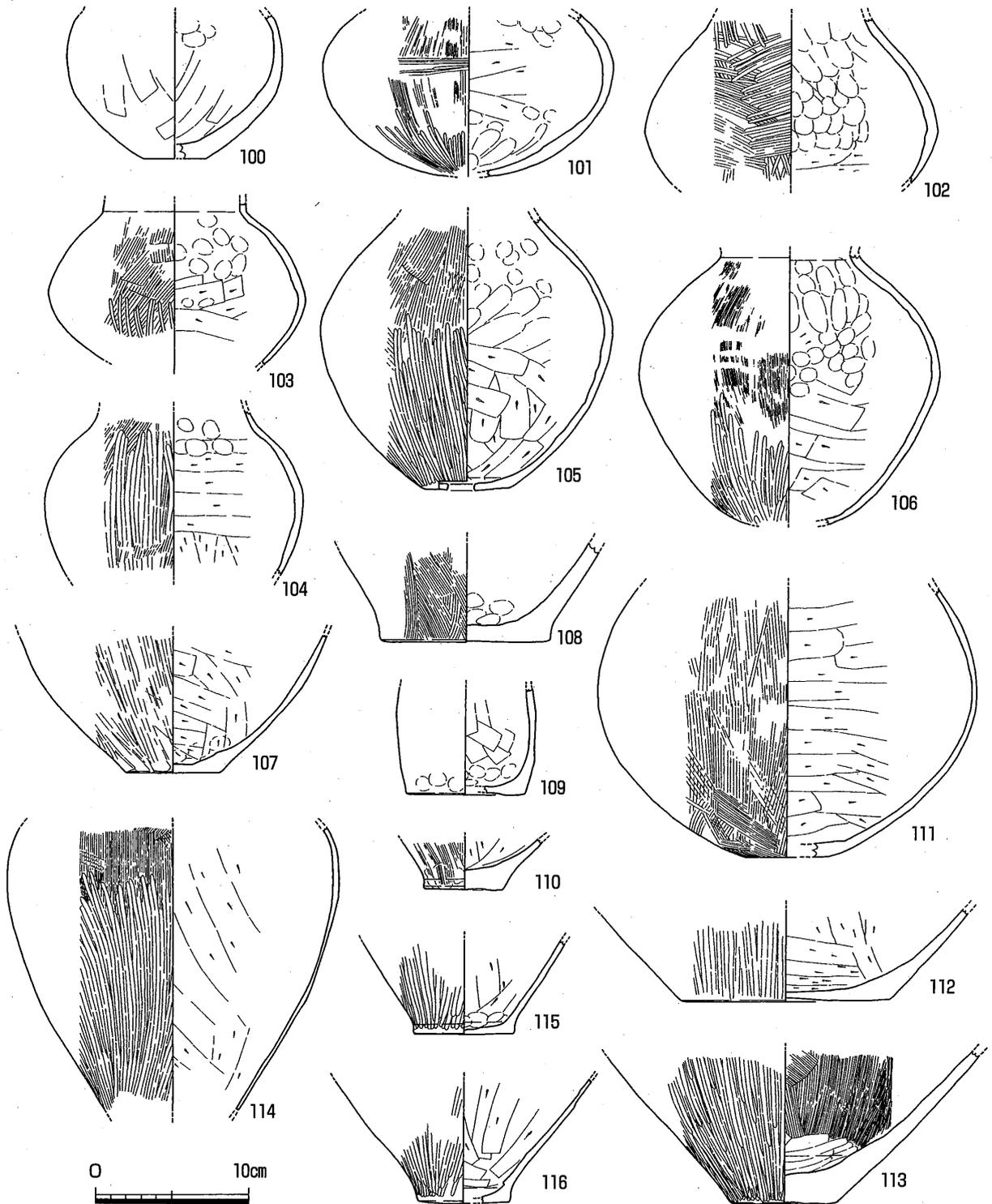


第37図 SHb07出土遺物(4)(1/4)

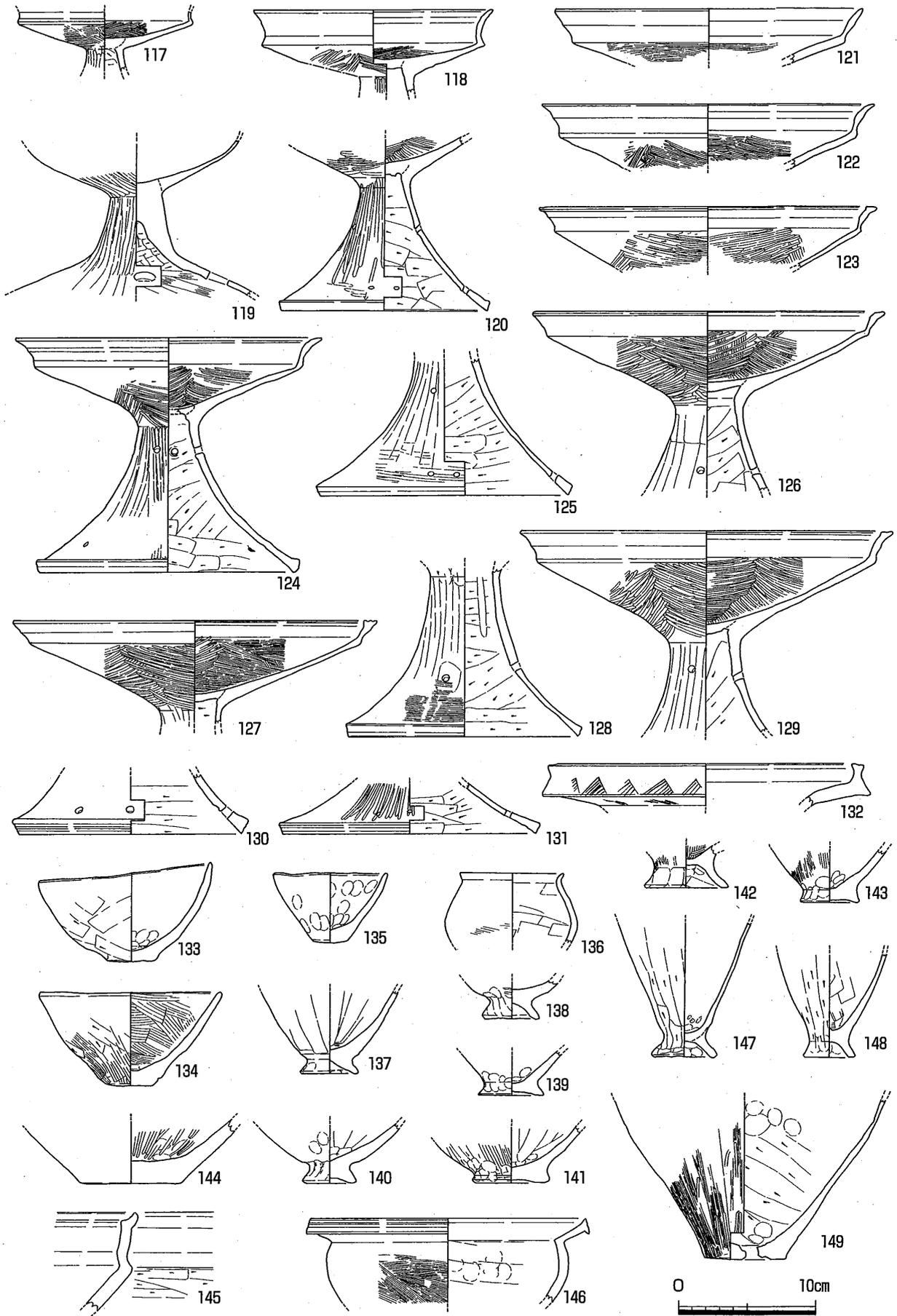
なっている。脚部端部は肥厚して外側に面をもつ。

132は壺あるいは器台の口縁部で、口縁部を上方に拡張し、外面に鋸歯文を巡らせている。

133~146は鉢である。133~135は体部からそのまま口縁部に至る。133は体部外面の下半部にはヘラケズリを施すが、砂粒の動きは弱い。134は体部外面にヘラケズリの後に粗いハケ目を施している。内面は全体にハケ目である。136の口縁部は短く屈曲し、端部は先細りになる。137~143は底部に脚台が



第38図 SH b07出土遺物 (5) (1 / 4)



第39图 SHb07出土遗物(6)(1/4)

付き、いずれも指押さえて整形している。144・145は大型の鉢で、145は口縁部端部を斜め上方につまみ上げている。146は口縁部端部を拡張して、外側の面に凹線を巡らせている。体部は扁平で外面にハケ目を施している。

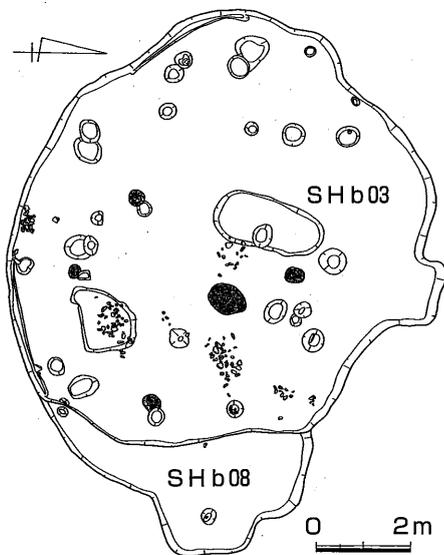
147・148は製塩土器である。底部には脚台をもち、体部外面全体にヘラケズリを施している。149は甑で、底部には両面から穿孔している。

出土遺物からSHb07は弥生時代後期中葉の所産と考えられる。

SHb08（調査時遺構名：I-4区SH08、概報遺構名：SH14）（第24・40図）

I-4区の中央付近で、SHb03と重なって検出した竪穴住居跡で、大部分はSHb03によって壊されており、一部だけの検出にとどまる。SHb03の東側で部分的に検出したにすぎないが、東側にはSHb03と同様に外側に突出している部分がある。突出部分は幅1.0mであるが、その南北の屈曲部の位置は対称になっていない。深さは0.1mほどで浅い。

SHb03の床面にSHb08の主柱穴と土坑が残存している。主柱穴はSHb03のSK01とSK02の中間部分を中心とした直径4.6mの円周上に4基確認できるが、



円周上の空間部分にあと3基復元出来そうである。主柱穴は直径0.25~0.4mの円形で、深さはいずれも0.1~0.2mとなっている。埋土は黒褐色粘質土の単一層である。主柱穴群の内側に平面形が楕円形の土坑がある。長径0.8m、短径0.62mで、北側の部分が段になっている。深さは0.41mで、埋土は黒褐色粘質土の単一層である。

主柱穴の配置から考えると、SHb08は東側に突出部分をもつ円形の住居と考えられ、円形部分の直径は7m前後に復元出来そうである。

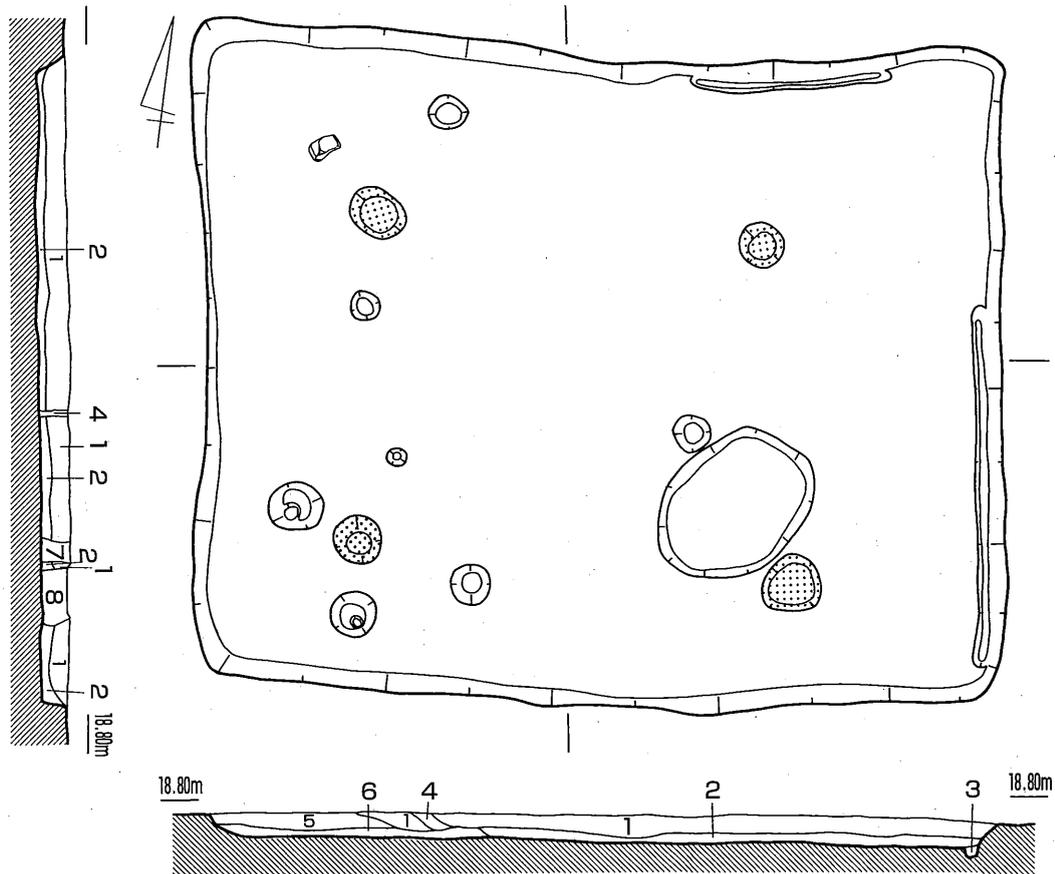
遺物は出土していないが、SHb03が弥生時代後期後半以前の所産であることを考えると、周辺の竪穴住居跡の年代を考慮しても、後期中葉から後期後半の間の所産と考えられる。

第40図 SHb08主柱穴配置図（1/160）

SHb09（調査時遺構名：I-4区SH09、概報遺構名：SH03）（第41・42図）

I-4区の南西部で検出した竪穴住居跡で、後述するSHb10~14の廃絶後に建てられている。平面形は方形で、南北方向5.2m、東西方向6.4mで東西方向に長くなっている。検出面から床面までの深さは0.24mで、残存状況は良くない。埋土は上下2層に大別され、上層は暗茶褐色粘土、下層は黒褐色砂混じり粘質土がそれぞれ主体となっている。

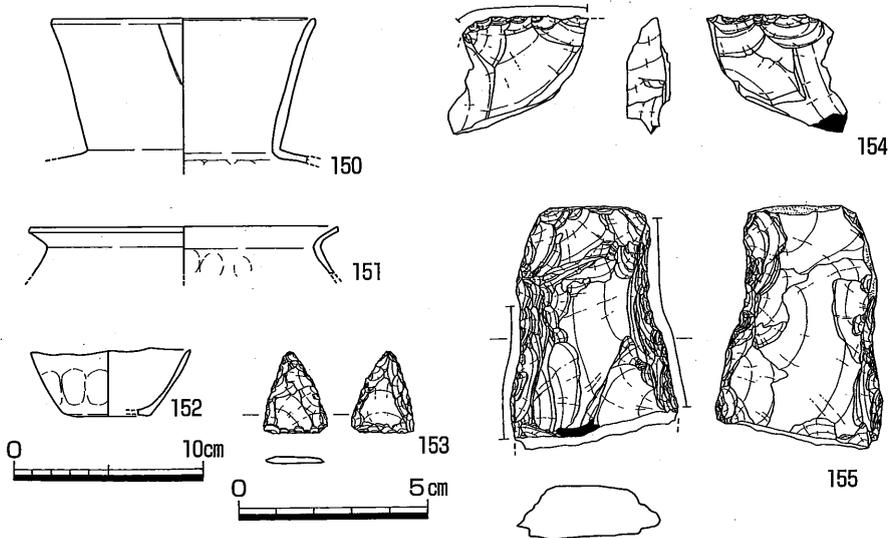
北側の壁際東半分と東側の壁際南半分には壁溝がある。いずれも部分的に巡るだけである。幅は0.1m、深さは0.08m、埋土は黒茶色粘土の単一層である。主柱穴は4基で、主柱穴の柱間は南北方向が2.7m、東西方向は北側が3.2m、南側が3.5mである。主柱穴の平面形は直径0.35~0.45mの円形で、深さ0.12~0.17m、埋土は暗茶褐色粘質土の単一層である。南東部の主柱穴に隣接して土坑がある。平面形楕円形で、長径1.3m、短径1.0m、深さ0.16mである。南西部分がテラス状になり、北東に向かって緩やかに下がってゆく。埋土は暗茶褐色粘質土の単一層である。



- | | |
|---------------------|----------------|
| 1 暗茶褐色粘土 土器1cm大の細礫混 | 5 茶褐色砂質土 固くしまる |
| 2 黒褐色砂混粘質土 | 6 暗灰褐色砂混粘質土 |
| 3 黒茶色粘土 | 7 暗灰色粘質土 |
| 4 淡灰色砂質土 | 8 茶褐色粘質土 |



第41図 SHb09平・断面図 (1/60)



第42図 SHb09出土遺物 (1/4、1/2)

遺物の出土量は少ない。150は壺で、口縁部は直線的に外傾している。外面に記号状のヘラ描きが認められる。152は鉢で体部は指押さえて整形されている。153は平基の石鏃、154は楔形石器で上部に敲打痕があり、両極打撃の痕跡が認められる。155はサヌカイト製の石鏃で刃部は

欠損している。中央やや上部に若干の抉れがあり、柄の装着部分と考えられる。基部には自然面が残
り、側縁部には敲打を施している。

出土遺物からSHb09は古墳時代前期初頭の所産と考えられる。

SHb10（調査時遺構名：I-4区SH10、概報遺構名：SH04）（第43～45図）

I-4区の西部で検出した竪穴住居跡で、南東部分をSHb11により壊されている。平面形は方形
で、南北方向9.6m、東西方向9.0mと大型で、南北方向に少し長くなっている。北側の東半分がやや内
側に入り込んでいる。検出面から床面までの深さは中央部分で0.25mである。埋土は上下2層に大別さ
れ、上層は茶褐色粘質土及び黒茶色粘質土、中央部分の下層は暗茶褐色砂混じり粘質土がそれぞれ主体
となっている。

検出面から0.1mほど下の4周にはテラス状に一段高くなっている、いわゆるベッド状遺構が認めら
れる。この部分の幅は1.6～2.5mで西側が狭くなっている。さらに0.15mほど下の中央部分に床面があ
るが、床面に至る傾斜は西側部分ほど緩くなり全体に床面との境界が不明瞭な部分が多い。床面には若
干の傾斜があるため、おそらく貼床を施して整形していたと思われるが、貼床部分を検出することは出
来なかった。

主柱穴は一段高いテラス状の部分に4基ある。西側の南北方向が5.5mである以外は5.0mになってい
る。平面形は直径0.4～0.8mの円形で、深さは0.12～0.22m、埋土は暗茶褐色粘質土の単一層である。

遺物は床面の北西部分からまとまって出土している。156～165は壺である。156の口縁部端部外面に
は凹線が巡り、全体に器壁は厚い。157の口縁部は外反している。内面に粗いハケ目を施し、ナデた時
の凹線が1条巡っている。158は口縁部内・外面にハケ目を施した後に上部をナデている。161は直立す
る短い頸部をもつ。164は口縁部端部を下方に大きく拡張し、外面に鋸歯文と列点文を巡らせている。
165は二重口縁で、屈曲部は外側に突出している。

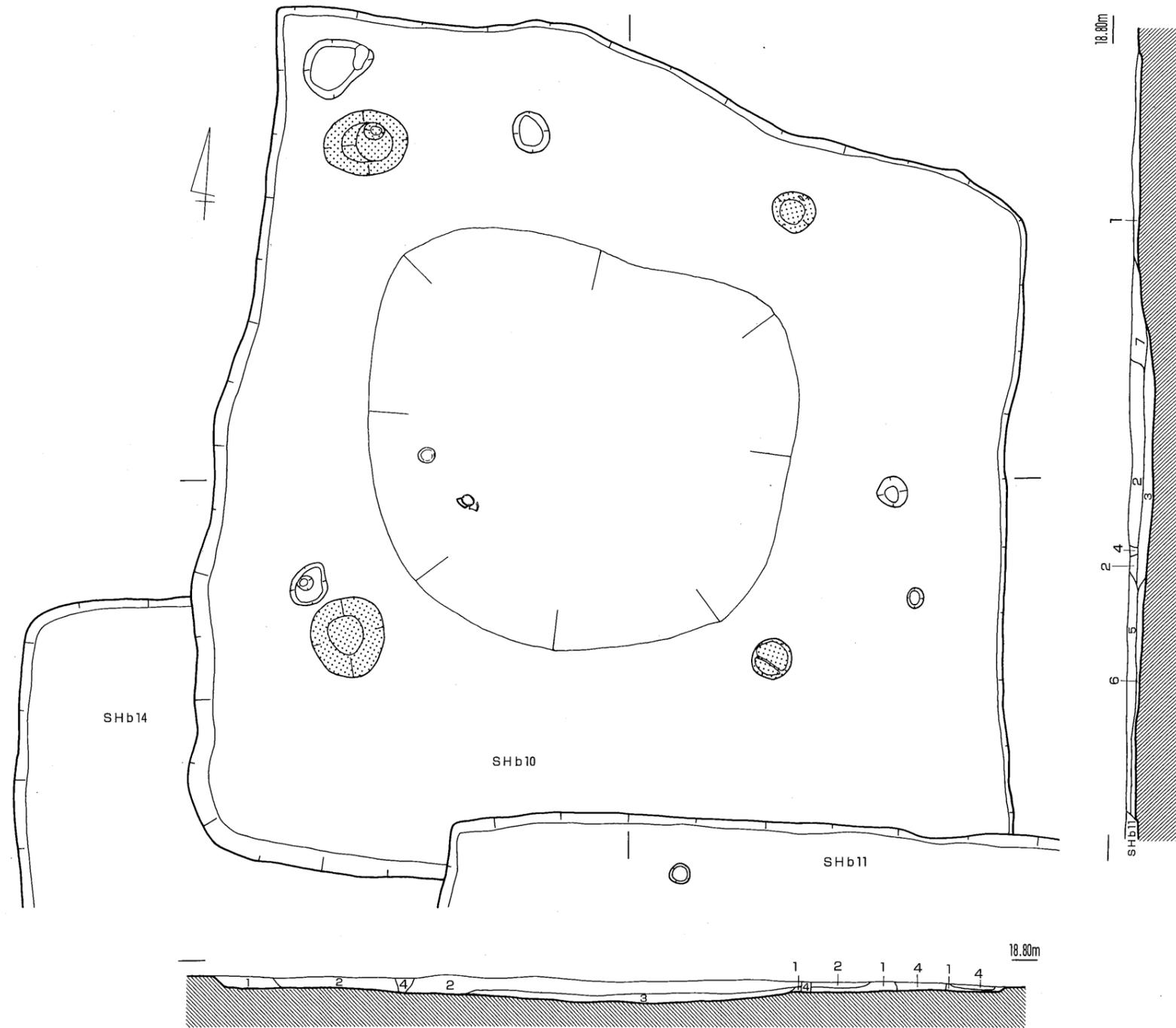
166～177は甕である。167は体部外面にタタキの後にハケ目を施している。168の口縁部は直線的であ
る。169の口縁部も直線的で、端部は平坦な面を作る。体部外面はハケ目の後にナデている。内面はヘ
ラケズリの後に他の部分より粗いハケ目を加えている。174の口縁部は微妙に内湾している。体部内面
はハケ目の後にナデている。176の体部は扁平で鉢に似ている。179は甕にしては体部の立ち上がりが急
である。外面はタタキの後にナデている。蓋の可能性もあり、その場合は図は天地逆になる。

180～182は高杯である。180の口縁部は長く、内・外面を強くナデている。杯部は摩滅しているが、外
面にはヘラミガキが少し残っている。181は透かし穴が現存で2個あるが、このうちの1個は貫通して
いない。182は円盤充填になっている。

183～193は鉢で、183～189は体部からそのまま口縁部に至る。183は底部内面に指押さえが顕著であ
る。187・188は体部外面の下半から底部にかけてヘラケズリを施している。189は内面全体にハケ目を施
している。190・191の口縁部は体部から屈曲して立ち上がる。191は口縁部の屈曲部外面を指押さえで整
形している。内面は全体に粗いハケ目を施している。192の口縁部は長く直立している。特に端部付近
を強くナデている。

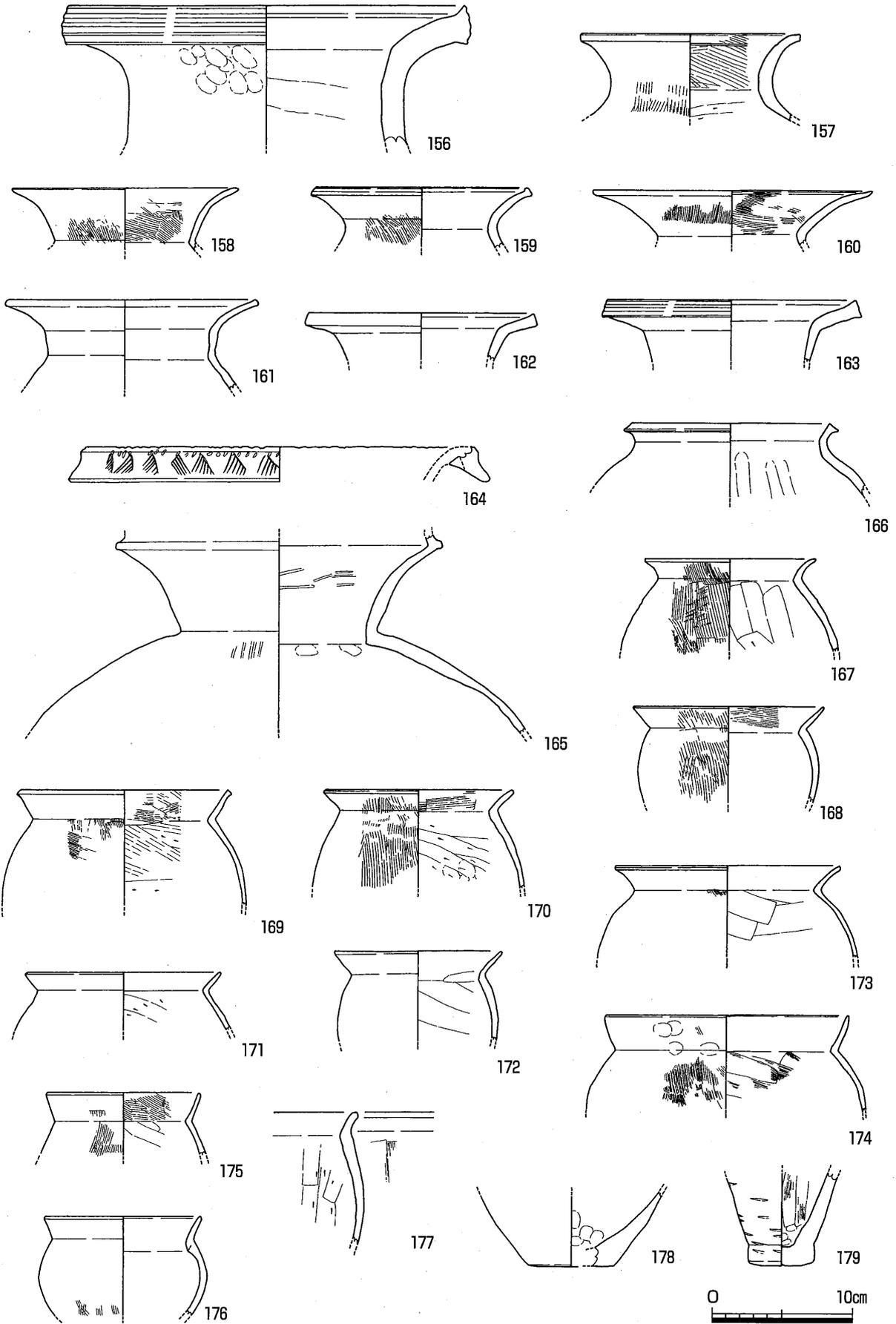
197は砂岩製の砥石で、両面を使用している。

出土遺物からSHb10は弥生時代後期後半～終末の所産と考えられる。

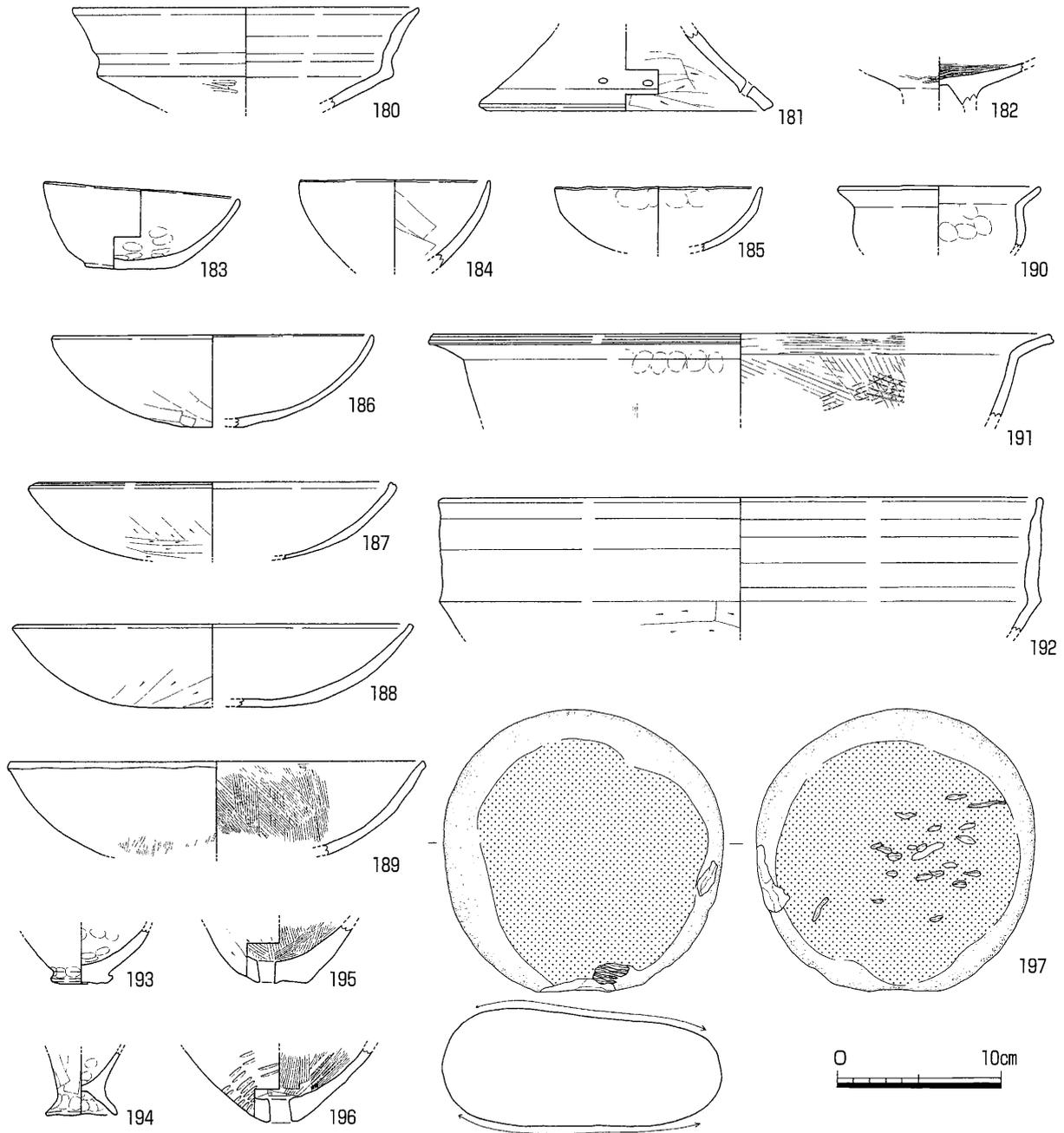


- | | |
|---------------|-------------|
| 1 茶褐色粘質土 | 5 黒灰色粘質土 |
| 2 黒茶色粘質土 土器含む | 6 暗茶色粘質土 |
| 3 暗茶褐色砂混粘質土 | 7 暗灰茶色砂混粘質土 |
| 4 灰色砂混粘質土 | |

第43図 SHb10平・断面図 (1/60)



第44图 SHb10出土遺物 (1) (1/4)



第45図 SHb10出土遺物(2)(1/4)

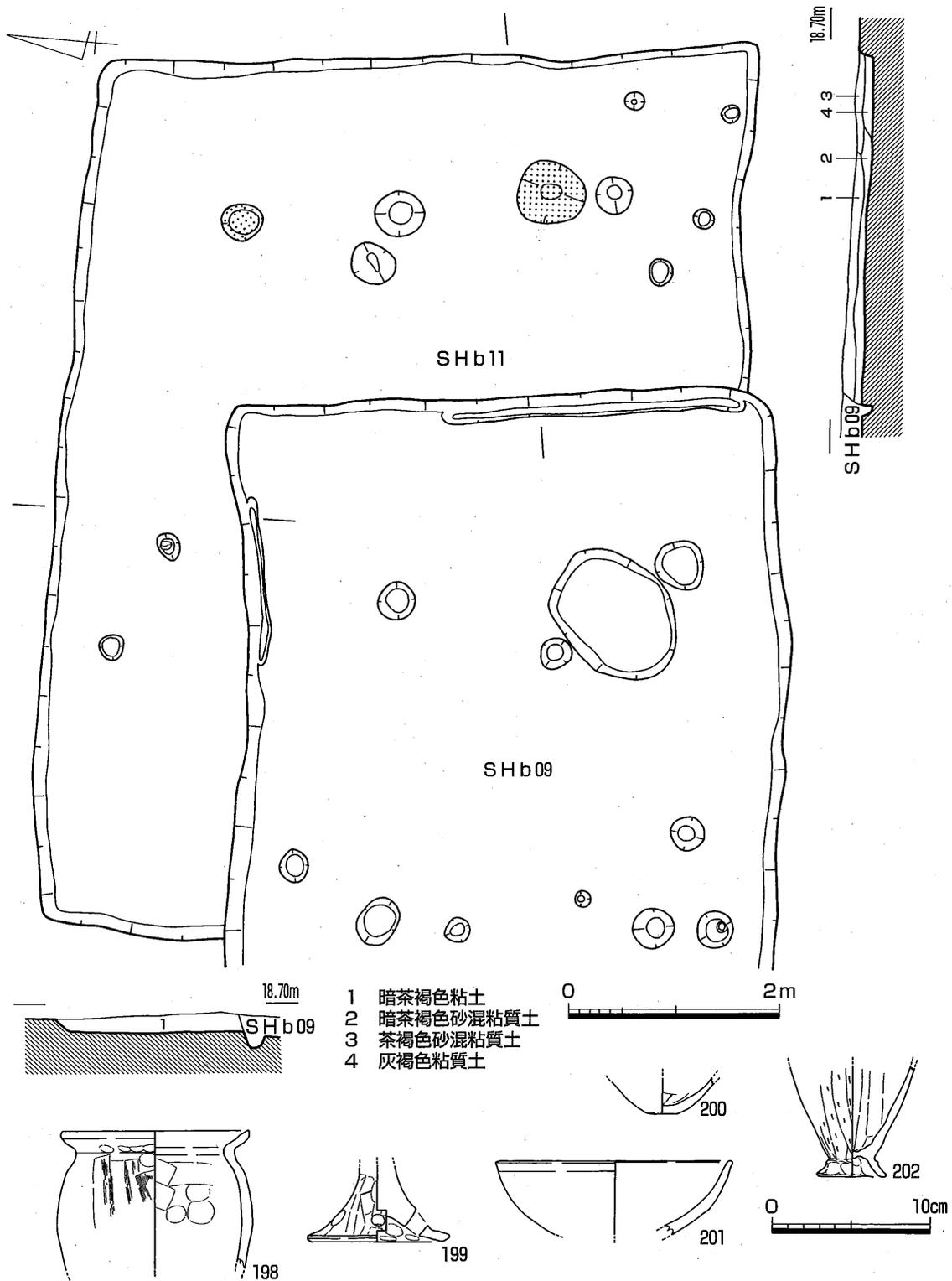
SHb11 (調査時遺構名：I-4区SH11、概報遺構名：SH05) (第46図)

I-4区の南西部で検出した竪穴住居跡で、南西部を中心にSHb09により壊されている。平面形は方形で、検出した部分で南北方向6.3m、東西方向8.3mで東西方向に長くなっている。検出面から床面までの深さは0.18mである。埋土は暗茶褐色粘土～粘質土が主体となっている。

住居全体が検出されていないため支柱穴の数や配置は不明だが、東側の柱穴群のうちの2基が支柱穴の一部と考えられ、検出した部分の規模を考慮すると西側に向かってあと2基ずつの合計6基の支柱穴が想定出来る。検出した支柱穴の柱間は2.9mで、平面形は直径0.4～0.6mの円形である。深さは0.4～0.48mで、埋土は暗茶褐色粘質土の単一層である。

遺物の出土量は少ない。198は甕で体部外面にはハケ目を施すが摩滅気味である。器壁は全体に厚めである。199は高杯の脚部で、端部付近で大きく開く。透かし穴2個が現存している。200・201は鉢、202は製塩土器で体部外面全体にヘラケズリを施している。

出土遺物やSHb09・10との前後関係から、SHb11は弥生時代終末期の所産と考えられる。



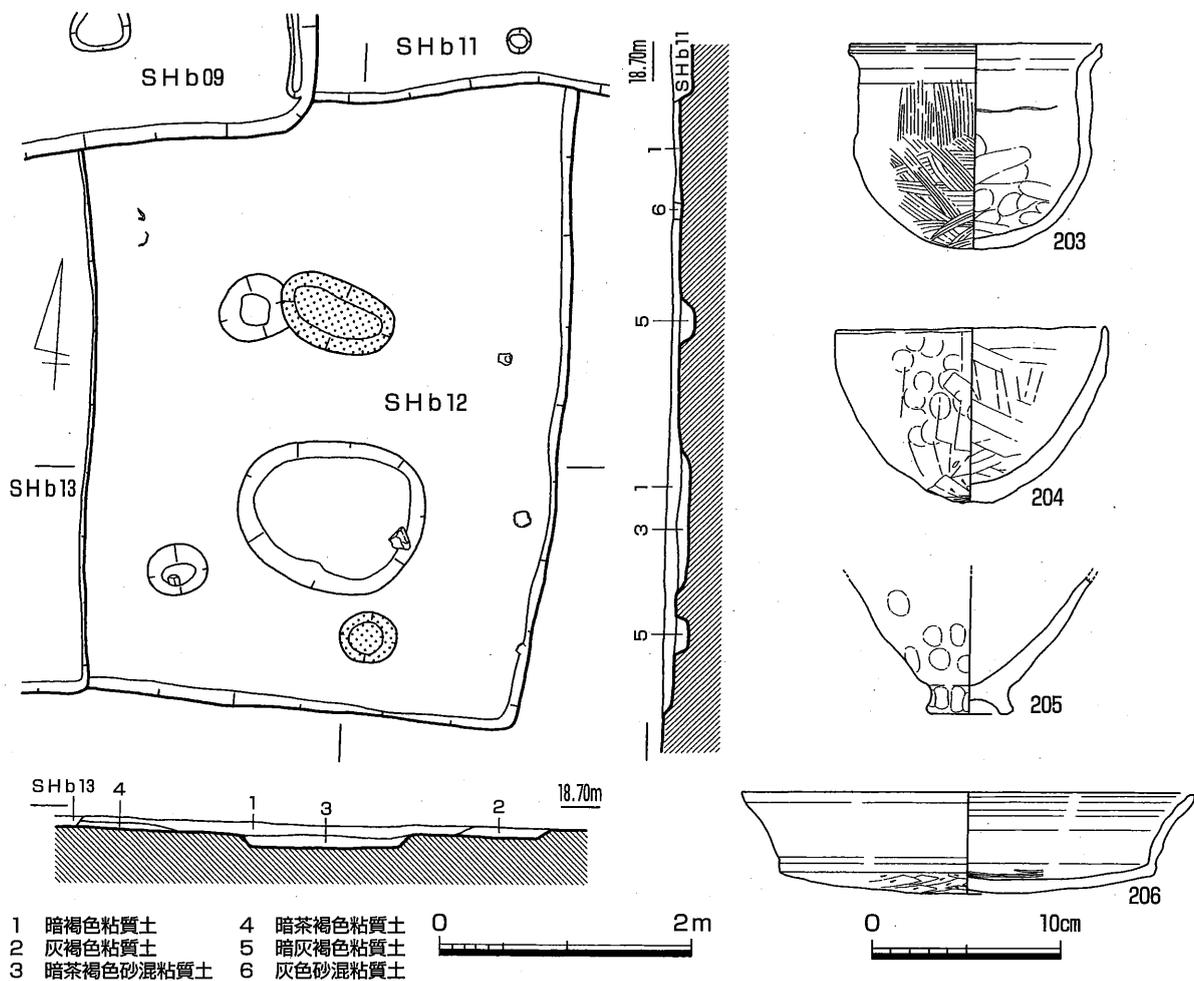
第46図 SHb11平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

SHb12 (調査時遺構名：I-4区SH12、概報遺構名：SH06) (第47図)

I-4区の南西部で検出した竪穴住居跡で、SHb09・11・13により壊されており部分的な検出にとどまった。平面形は方形と考えられ、検出部分で南北方向5.1m、東西方向3.9mである。検出面から床面までの深さは0.08mで、残存状況は良くない。埋土は暗褐色粘質土が主体となっている。

検出部分が少ないため、支柱穴の特定や配置は不明であるが、可能性のある南北方向のものを網掛けで示した。北側にあと1基続く可能性がある。支柱穴の可能性のある柱穴は直径0.4mの円形のもの、柱を抜いたときに楕円形に広がったと考えられる本来は直径0.55m程度の柱穴である。両者の柱間は2.6mである。深さは0.1~0.13mで、埋土は暗灰褐色粘質土の単一層である。この柱穴の間に長径1.5m、短径1.2mの楕円形の土坑がある。深さ0.1mで、埋土は暗茶褐色砂混じり粘質土の単一層になっている。土坑の東側の部分で20cm大の角礫が出土したが、人為的な痕跡は認められなかった。

遺物の出土量は少ない。203は埋土の最上部で出土した古代の土師器の甕である。SHb12の周辺には、竪穴住居跡の埋土面から掘り込んだ古代の掘立柱建物跡などの遺構があり、本来は古代の遺構に伴う遺物が混入したものと考えられる。体部上半は直線的になり、外面には全体に粗いハケ目を施している。底部は丸底である。204~206は鉢である。204の体部下半にはヘラケズリを施すが、砂粒の動きは弱い。下半部の器表には凹凸が目立つ。205の底部には脚台が付き、指押さえにより整形しているが、



第47図 SHb12平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

やや歪んでいる。206は高杯の杯形の鉢である。口縁部は外反し、内面を強くナデている。底部はやや不安定で、外面にはヘラケズリを施している。

出土遺物やSHb09・11との前後関係から、SHb12は弥生時代後期後半の所産と考えられる。

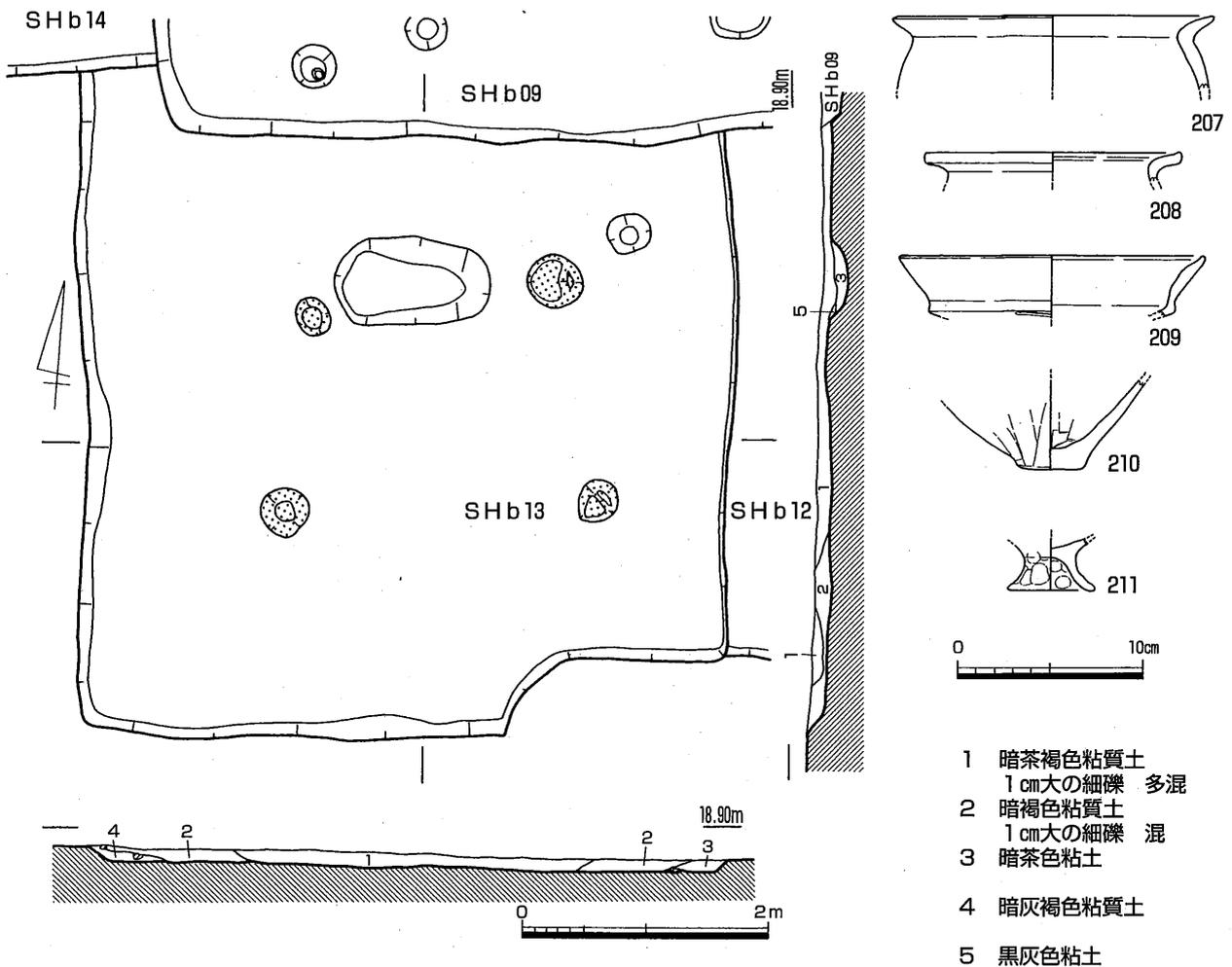
SHb13 (調査時遺構名：I-4区SH13、概報遺構名：SH07) (第48図)

I-4区の南西部で検出した竪穴住居跡で、北側をSHb09・14により壊されている。平面形は方形と、南壁の東側部分は内側に入り込んでいる。検出した部分で南北方向5.4m、東西方向5.3mである。

検出面から床面までの深さは0.12mで、残存状況は良くない。埋土は暗茶褐色粘質土が主体となっている。

支柱穴は検出部分で4基あり、北側の未検出部分にあと2基想定され、全体で6基と考えられる。柱間は南北方向で1.8m、東西方向は北側が2.0m、南側が2.5mで均等になっていない。平面形は直径0.3~0.45m、深さは0.2~0.3m、埋土は暗茶褐色粘質土の単一層である。北側の支柱穴の間に土坑がある。平面形は楕円形で、長径1.25m、短径0.7mである。深さは0.15mで、埋土は暗茶色粘土の単一層である。

遺物の出土量は少なく、いずれも細片である。207・208は甕である。209は高杯で、外反する口縁部の

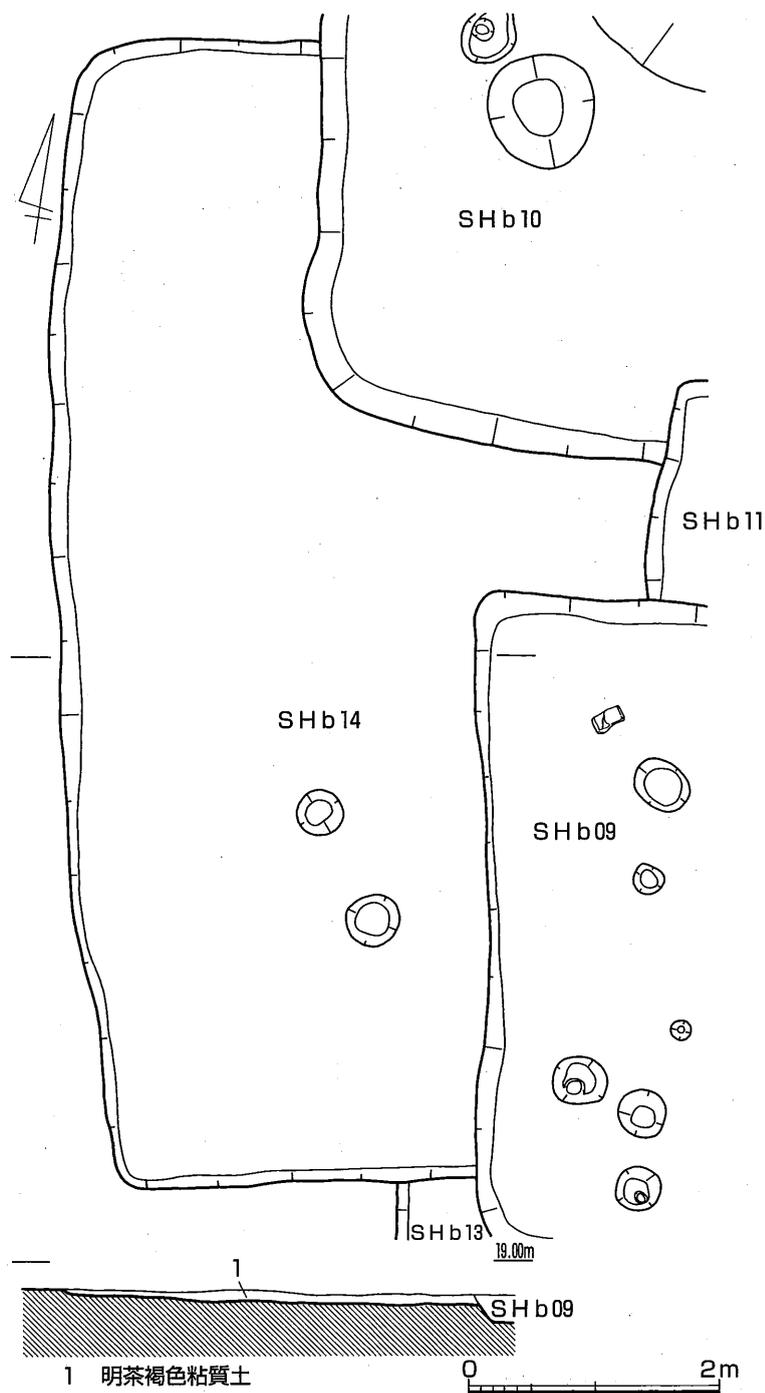


第48図 SHb13平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

内面を強くナデている。杯部は僅かしか残っていないが、外面にはヘラミガキを施している。211は鉢の脚台部で、指押さえで整形している。

出土遺物やSHb09・12との前後関係から、SHb13は弥生時代後期後半の所産と考えられ、SHb12より後出する。

SHb14 (調査時遺構名：I-4区SH14、概報遺構名：SH08) (第49図)



I-4区の南西部で検出した竪穴住居跡で、東側をSHb09・10・11により壊されている。平面形は方形と考えられ、検出部分で南北方向9.1m、東西方向4.8mと大型で、SHb10の規模に近い。検出面から床面までの深さは0.1mで、残存状況は良くない。埋土は明茶褐色粘質土である。

床面からは柱穴が2基検出されただけである。南側の柱穴が主柱穴の1基になる可能性がある。規模的に近いSHb10の主柱穴の柱間の5.0mを採用して北側に復元すると、SHb10の南西隅に相当する。

この柱穴の平面形は直径0.4mの円形で、深さ0.15m、埋土は暗茶褐色粘質土の単一層である。

遺物は細片が微量出土したにとどまり、図化は出来なかった。SHb14はSHb13より後出し、SHb09・10・11より先行することから弥生時代後期後半の所産と考えられる。

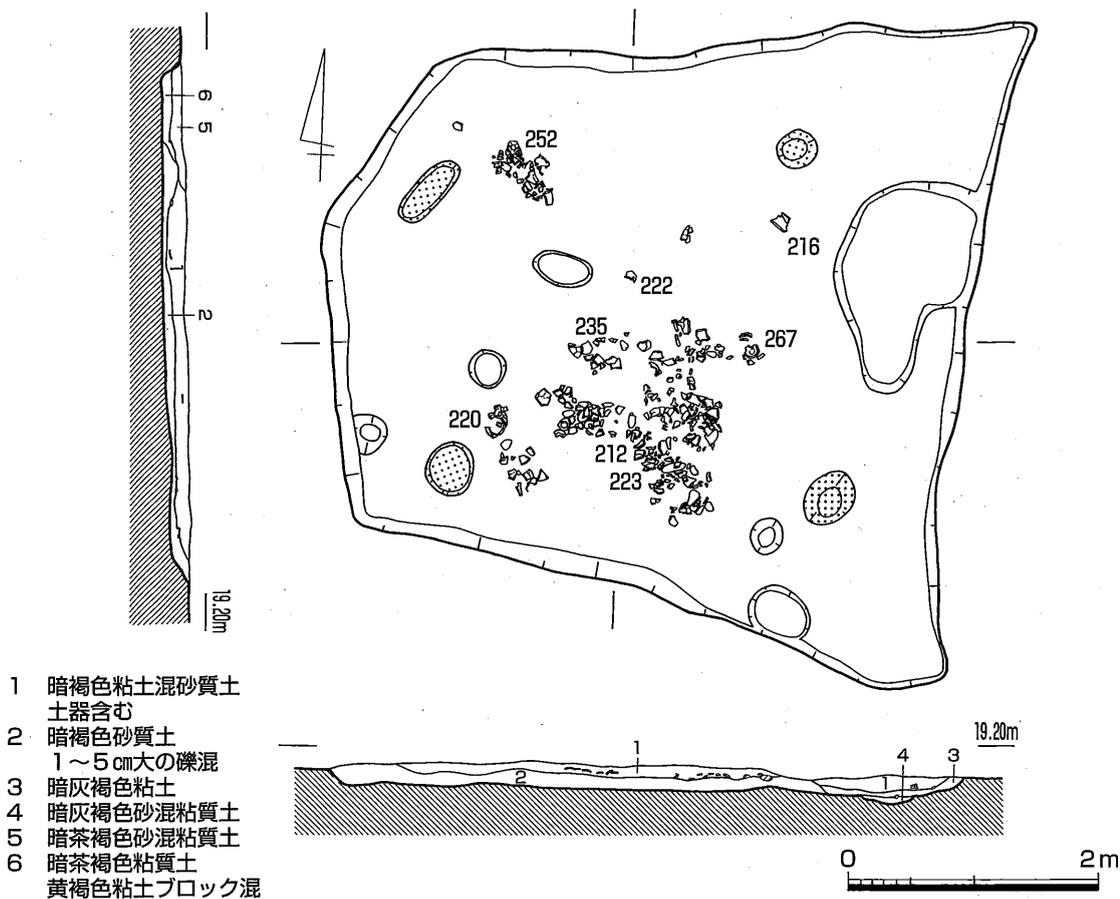
第49図 SHb14平・断面図 (1/60)

SHb15 (調査時遺構名：I-1区SH01、概報遺構名：SH02) (第50~53図)

I-1区の北部で検出した竪穴住居跡である。平面形は方形であるが均整はとれておらず、東側に比べて西側は短くなっており屈曲している。従って北側と南側が斜めになっている。また北東と南東の隅は鋭角に、反対に北西と南西の隅は鈍角になっている。南北方向は東側5.2m、西側3.9mで、東西方向は北側4.7m、南側4.8m、最大で5.2mになる。検出面から床面までの深さは0.2mで、残存状況は良くない。床面は若干の傾斜や凹凸があるため、本来は貼床を行ない整形していたと考えられるが、貼床部分は検出されなかった。埋土は上下2層に大別され、上層は暗褐色粘土混じり砂質土、下層は暗褐色砂質土がそれぞれ主体となっている。土層断面の観察によると、北側の壁際が住居の埋没後に再掘削されており、その下部には地山ブロックを含む埋め戻し土と考えられる暗茶褐色粘質土が堆積している。

主柱穴は4基で、柱間は南北方向の東側2.8m、西側2.4m、東西方向の北側2.8m、南側3.0mで若干のばらつきがある。平面形は北西部のものが柱を抜いたときに楕円形に変形した以外は円形で、直径0.3~0.4m、深さ0.2~0.3m、埋土は暗茶褐色粘質土の単一層である。また東壁際中央付近に土坑がある。平面形は不整形で、南北方向の長さは1.7m、東西方向の幅は最大1.1mである。深さは0.15mで、埋土は暗灰褐色砂混じり粘質土の単一層である。

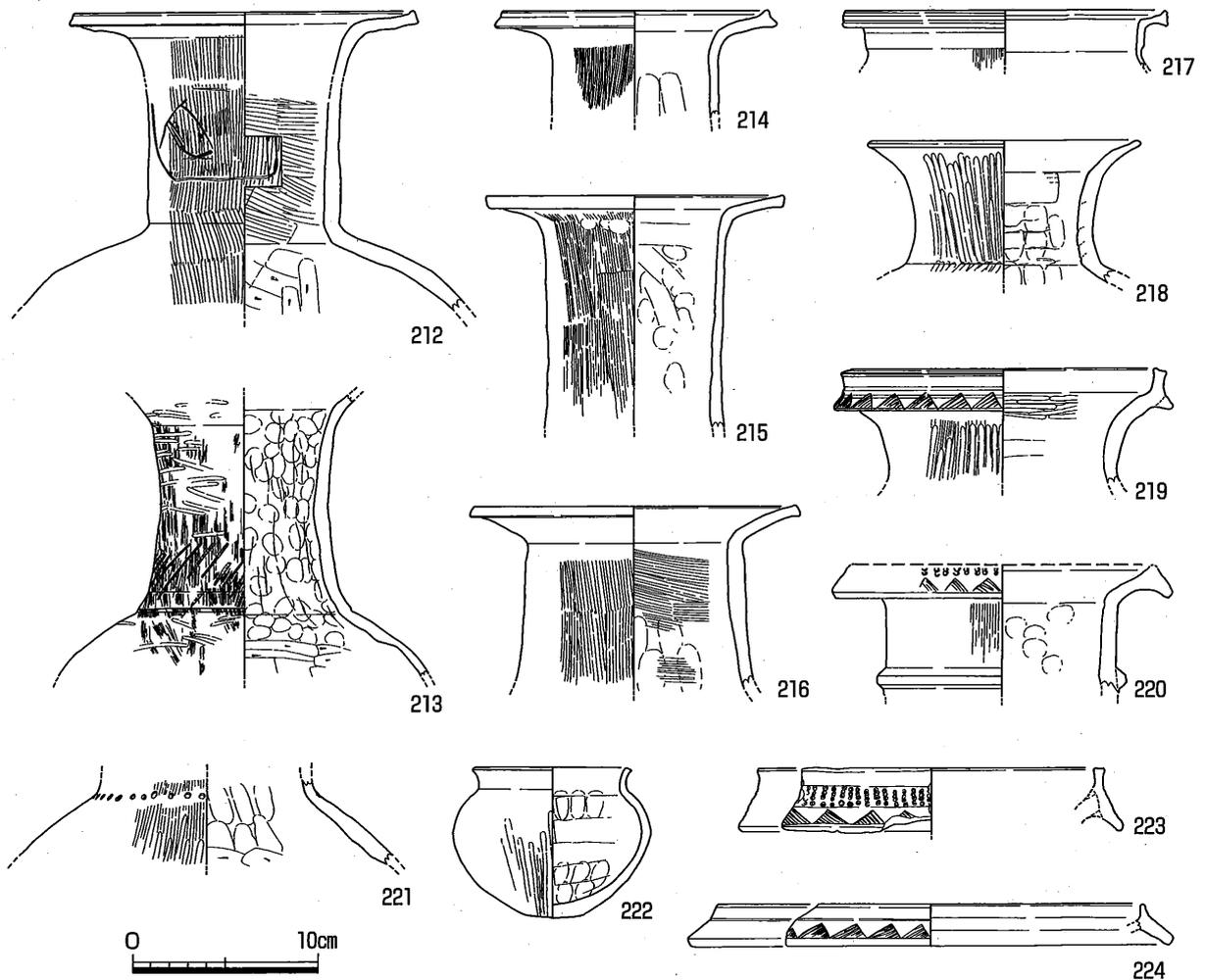
遺物は南半分の中央付近で集中して出土した。212~224は壺である。212は口縁部と頸部が接合しなかったため、図面上で復元している。頸部は内・外面ともにハケ目を施している。また外面にはヘラ描



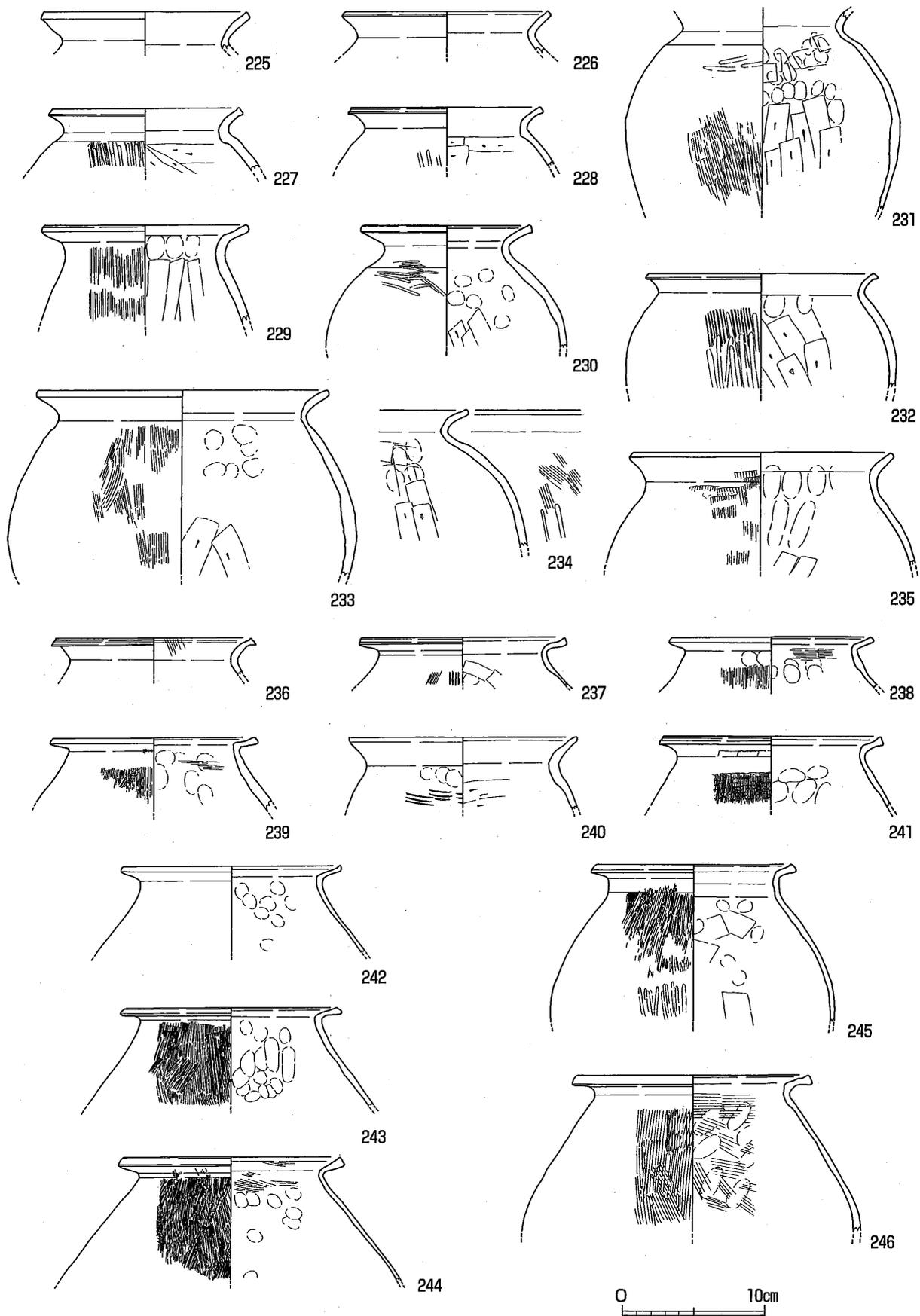
第50図 SHb15平・断面図 (1/60)

きによる絵画と考えられるものが認められるが、その内容は不明である。213の頸部は緩やかに外反し、外面にはハケ目の後に部分的にヘラミガキを加えている。また下半部にはヘラ圧痕文がある。内面は全体に指押さえが顕著である。214・215の頸部は直線的である。218の口縁部は外反し、外面にはヘラミガキを施す。内面は粘土の接合部分を中心に指押さえを行なっている。219は口縁部端部を上下に拡張し、端部上面には凹線が、また外面には鋸歯文が巡っている。頸部外面はハケ目の後にヘラミガキを施し、内面上部にもヘラミガキを施している。220は口縁部端部を下方に拡張し、外面に竹管文と鋸歯文を巡らせている。また頸部下には突帯を貼り巡らせている。221の頸部と体部の境に円形の刺突文が巡る。222の口縁部は短く外反し、体部は最大径が上半にあり、外面にヘラミガキを施す。底部は不安定な平底である。223・224ともに口縁部端部を上下に拡張し、外面に223は竹管文と鋸歯文、224は鋸歯文を巡らせている。両者とも壺と考えたが器台の可能性もある。

225～246は甕である。227・228の体部内面には抉るようにヘラケズリを施している。229は口縁部内面を強くナデており、体部上半の膨らみは弱い。232の口縁部端部は肥厚している。体部外面は粗いハケ目の後にヘラミガキを施している。内面はヘラケズリである。235は体部外面にハケ目を施した後にナデている。236～239・241～246は胎土に角閃石を含んでいる。237の体部の器壁は薄く、外面には2種類



第51図 SHb15出土遺物(1)(1/4)

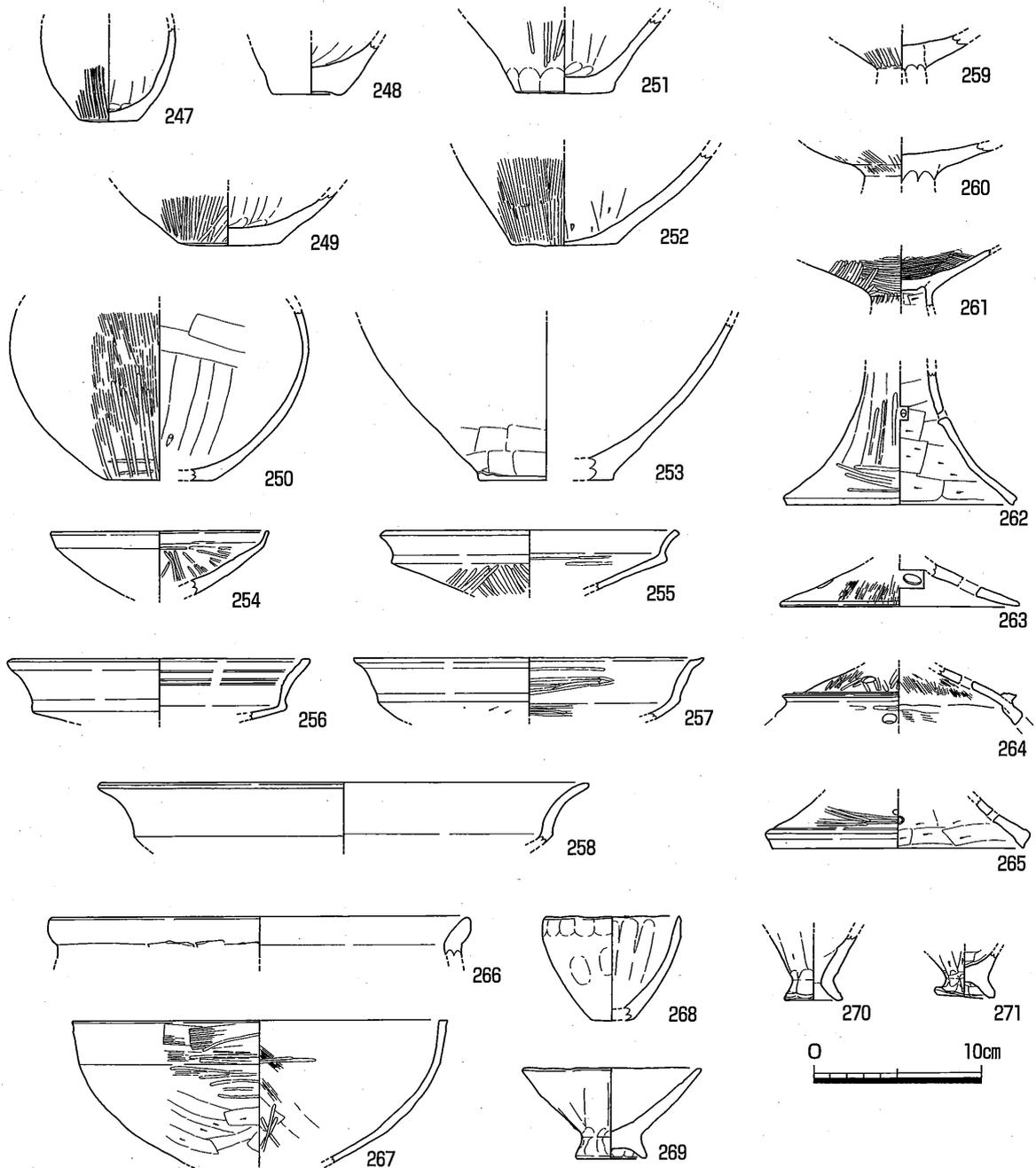


第52图 SHb15出土遺物 (2) (1/4)

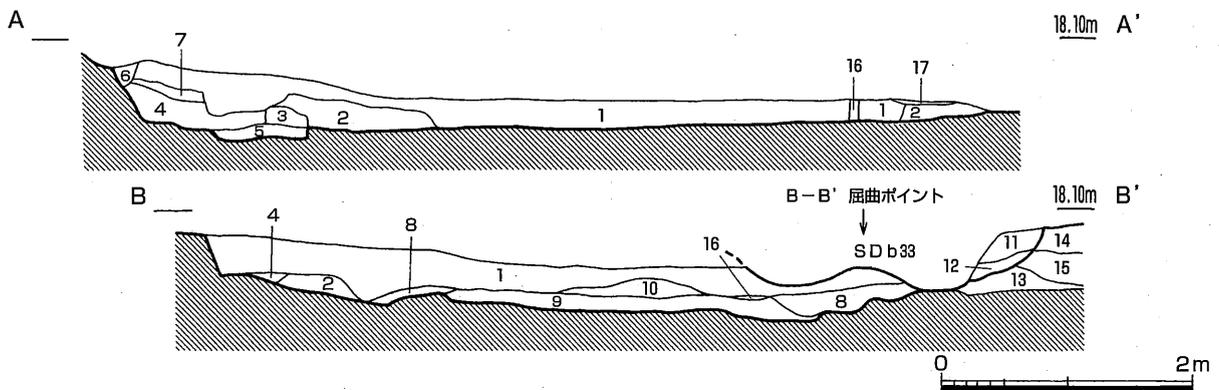
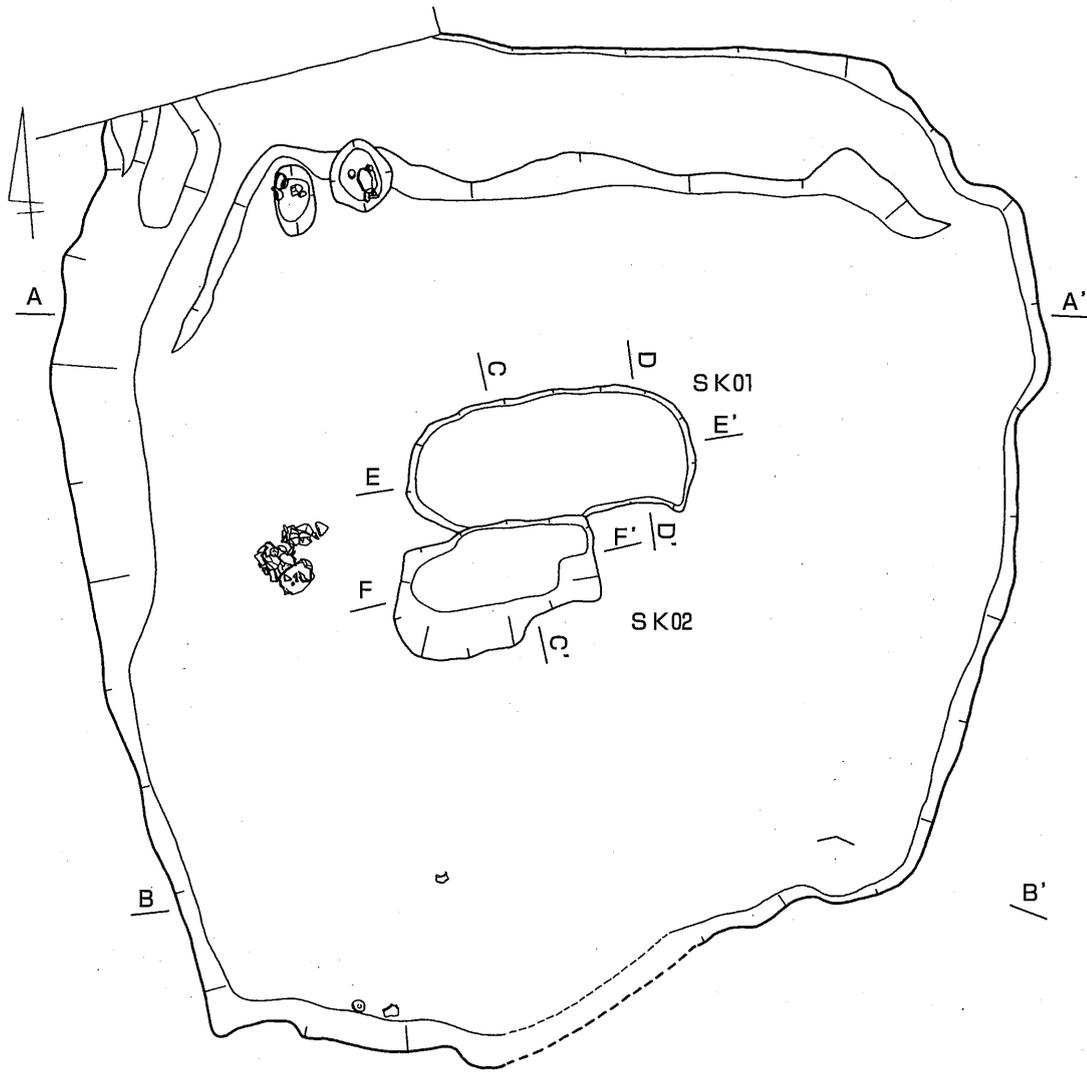
の原体によりハケ目を施している。240の体部外面にはタタキを施し、内面には抉るようにヘラケズリを施す。241の体部外面にはタタキの後にハケ目を施す。243～246の体部外面のハケ目は細かく、内面は指押さえを行なう。246は内面にもハケ目を加えている。

247～253は壺及び甕の体部～底部である。248の底部は肥厚しているが、252は逆に非常に薄くなっている。250の底部付近の外面にはタタキが僅かに残っている。

254～265は高杯である。254の口縁部は短く、杯部に比べて器壁は薄い。255の杯部の内・外面にはヘラミガキを施すが、内面は摩滅している。256は口縁部内面を強くナデている。257は口縁部端部を外側につまみ出している。口縁部外面は板工具でナデている。内面にはヘラミガキを施している。259は杯



第53図 SHb15出土遺物 (3) (1/4)



- | | | | |
|------------------------------|-----------------------------|-----------------------|-------------------|
| 1 茶褐色粘質土
やや砂質 地山ブロックシルト混 | 5 灰色粘土+白黄色シルト
4より灰色粘土が多い | 9 褐色シルト 地山ブロック混
貼床 | 14 明茶褐色砂質土 マンガン含む |
| 2 茶褐色粘質土
やや砂質 地山ブロックやや多く混 | 6 茶褐色粘質土
SD b39残り | 10 灰色シルト 地山ブロック混 | 15 茶灰色砂質土 |
| 3 灰色シルト
黄茶褐色土混 | 7 黄茶褐色粘質土 | 11 黄白色砂質土 | 16 褐色粘質土 |
| 4 灰色粘土+白黄色シルト
灰褐色砂質土混 | 8 褐色シルト 貼床
下部に地山がまだらに混 | 12 茶灰色粘質土 | 17 灰褐色粘質土 |
| | | 13 茶灰色粘土
地山ブロック炭混 | |

第54図 SH b16平・断面図 (1/60)

部と脚部は差込みにより接合している。261は杯部の内・外面にヘラミガキを格子状に丁寧に施している。杯部と脚部の接合は円盤充填になっている。264は脚部の中位に、上面に凹線を巡らせた突帯を1条貼り付けている。この突帯の上下に透かし穴が現存で1個ずつある。外面にはヘラミガキを、内面にはハケ目を施している。

266～269は鉢である。267の口縁部端部は平坦になっている。体部の上半はハケ目の後にヘラミガキを施し、下半はヘラケズリのままである。内面は摩滅しているが、僅かにハケ目とヘラミガキが残る。

268は口縁部外面を指押さえて整形している。269の体部は直線的である。

270・271は製塩土器で、体部外面はヘラケズリである。270の底部付近は剥離している。

出土遺物からSHb15は弥生時代後期中葉の所産と考えられる。

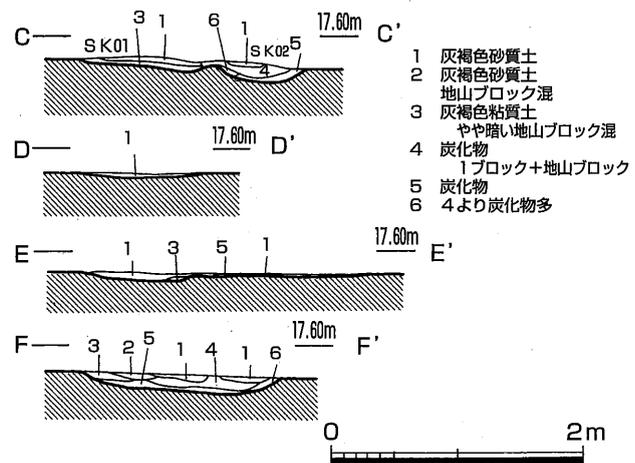
SHb16 (調査時遺構名：I-19区SX04、概報遺構名：SH77) (第54～56図)

I-19区の東端部で検出した竪穴住居跡である。東側の部分を古代の溝状遺構であるSDb33により壊されている。また北西部も僅かに古代以降の溝状遺構に壊されている。調査当初は落ち込み状遺構としていたが、精査を重ねると下部遺構が検出され竪穴住居と認識したものである。そのため土層観察用ベルトの設定が不規則になり、特にB-B'ベルトは途中で屈曲しているものを図面上で接合しているので、本来の直線上の土層になっていない。

平面形は概ね方形であるが、不整形な部分が多い。北西部分は調査区外となる。東側部分は僅かに突出する部分がある。南側は特に不整形で検出できなかった部分もある。南北方向は8.2m、東西方向は最大で7.8mである。検出面から床面までの深さは0.3mである。床面は若干の傾斜や凹凸があるため、特に南側の部分では貼床を行ない整形している。北側の部分では貼床部分は検出されなかった。埋土は茶褐灰色粘質土が主体となっている。

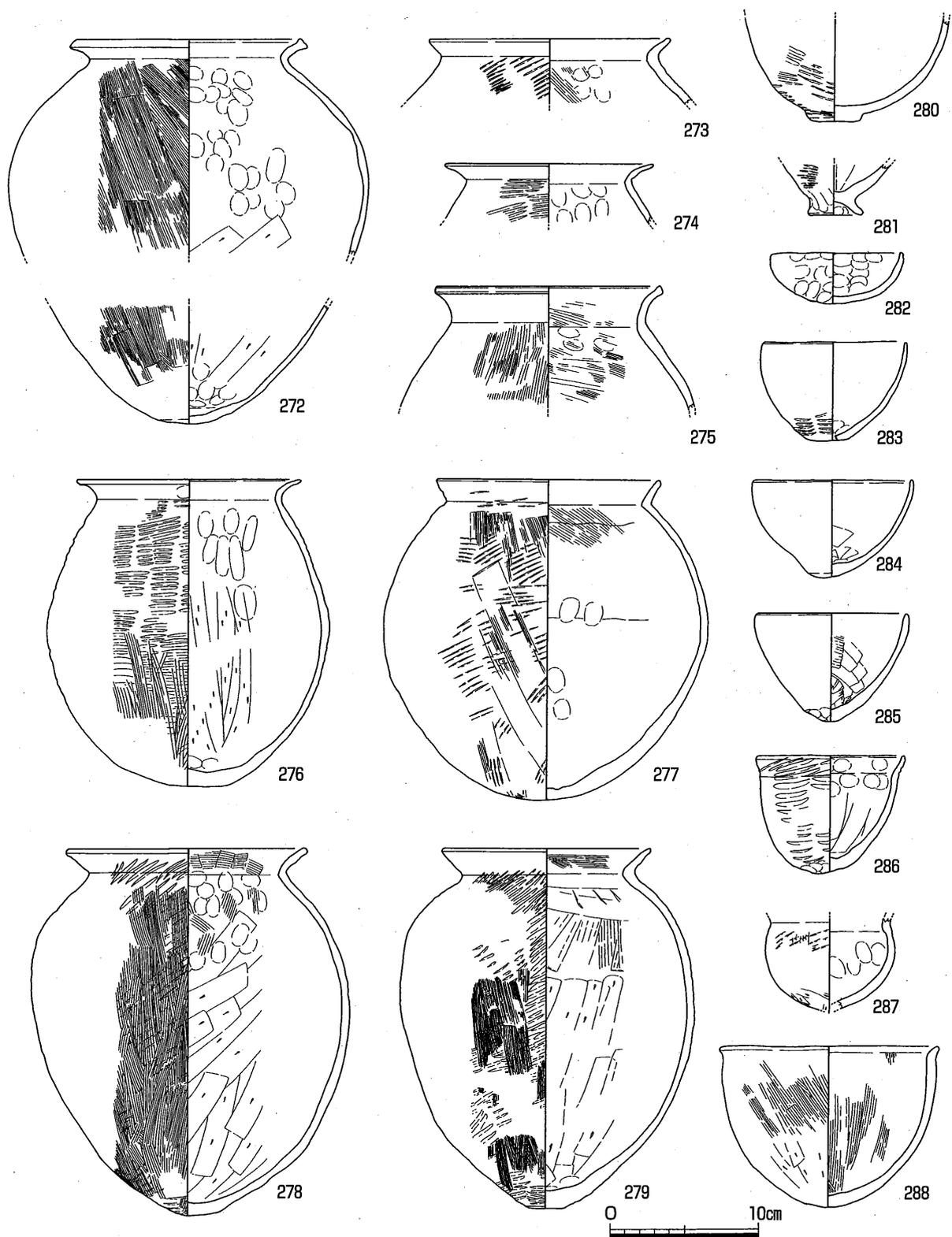
北側から一部西側にかけてテラス状に一段高くなっている、いわゆるベッド状遺構が認められる。この北側部分の幅は0.9～1.1mで、床面との比高差は0.13mである。床面の北西隅の2基以上に柱穴は検出されていない。この2基のどちらかが主柱穴の一部と考えられ、後述する土坑も前後関係をもって2基あることから、建替えにより2基になった可能性が高い。未検出の主柱穴は各隅にあったと想定でき、すると主柱穴は4基と考えられよう。柱穴の平面形は0.3～0.5mの円形及び楕円形で、深さは0.2m程度である。

中央部分には土坑が2基ある。SK01の平面形は隅丸の長方形で、東西方向の長さは2.25m、南北方向の幅は1.0m、深さは0.08mである。西側部分が深くなっており、上下2層に分かれる。東側の部分には炭化物が堆積していた。SK02はSK01より後出する土坑で、平面形は概ね方形であるが南東部が狭くなっている。東西方向の長さは1.6m、南北方向の幅は最大1.0m、深さ0.15mである。埋土の大部分は炭化物で、一部に灰褐色砂質土や地山ブロックが混じっている。



第55図 SHb16内土坑断面図 (1/60)

遺物は土坑の西側で多く出土しているが、西側の柱穴から278・287の遺物が出土している。272～279は甕である。272は上半部と下半部は接合しなかったが同一個体と考えられるものである。体部最大径は上半にあり、外面全体にハケ目を施す。底部はほぼ丸底である。胎土に角閃石を含んでいる。273・274



第56図 SHb16出土遺物 (1 / 4)

は体部外面にタタキを施している。276~279は体部最大径が中央にあり、外面にはタタキの後にハケ目を施しているが、278以外はタタキがそのまま多く残っている。内面は277以外はヘラケズリを施している。277の体部は球形で、底部は丸底になっている。276・278・279の底部は若干の平底を残している。

281~288は鉢である。282は全体に指押さえを行い整形している。285の内面は板状工具を回転させるように断続的にナデている。286は口縁部から体部にかけて外面全体にタタキを施している。底部外面は指押さえで整形しているが、雑な感じで安定が悪い。287・288は体部外面の下半部はヘラケズリのままである。

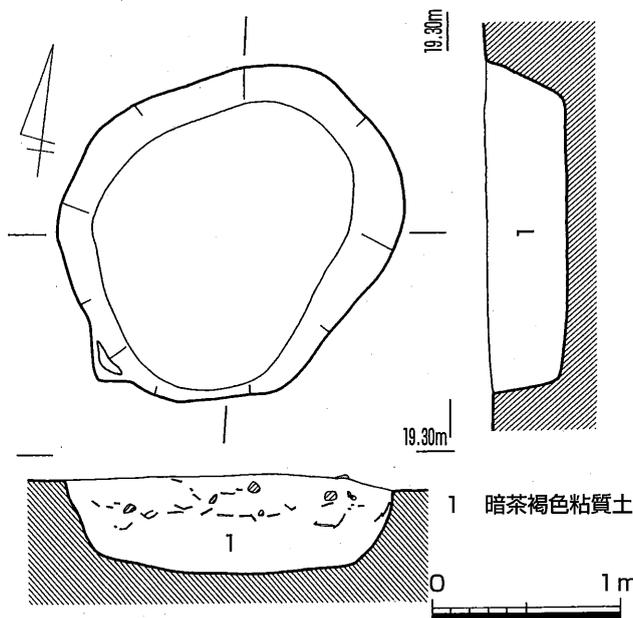
出土遺物から S H b 16は古墳時代前期初頭の所産と考えられる。

土坑

SK b 01 (調査時遺構名：I-1区SK10、概報遺構名：SK01) (第57~76図)

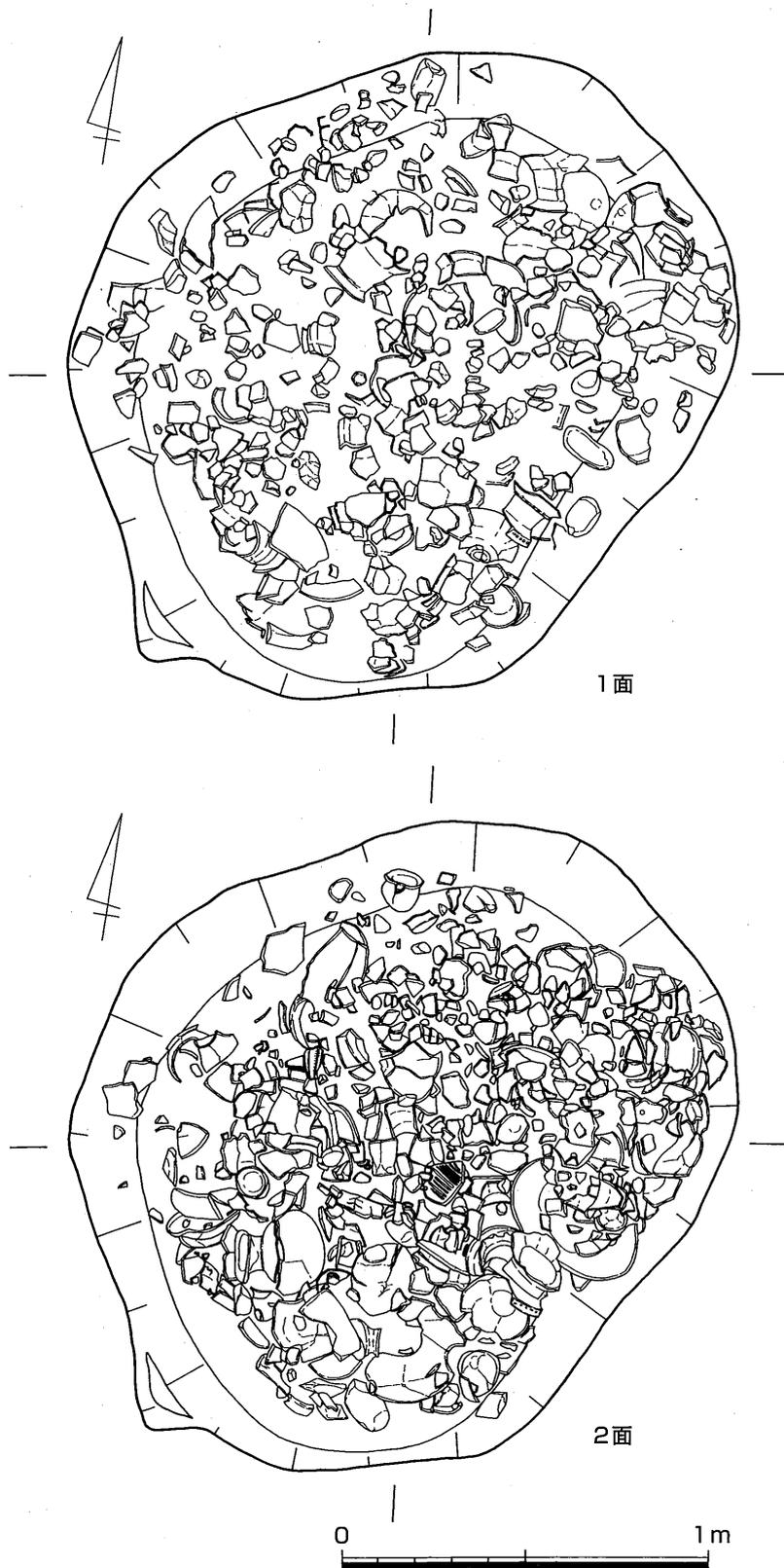
I-1区の西部で検出した土坑である。平面形は概ね円形であるが、南東部分がやや直線的になっている。直径は1.8~1.9m、深さは0.52mである。土坑の掘り込みは南側が急になっている。底部は平坦に近いが、中央部分に向かって緩やかに下っている。底部付近から検出面近くまで全体に多量の土器を中心とする遺物が重なって出土した。出土した土器は完形近くまで復元できるものもあり、壺・甕・高杯・鉢・甑など全器種が出土している。これに対して石器の出土は少ない。埋土は暗茶褐色粘質土の単一層で、これら多量の遺物が一括して投棄された状況である。土坑内に炭化物や焼土などは検出されていない。

289~324は壺で、このうち289~304は長頸壺である。289は体部下半部と上半部は接しなかったが同一個体であり図面上で復元している。頸部外面にハケ目を施した後にヘラ描き沈線を巡らせている。体部は最大径が上半にあり、外面にはハケ目の後にヘラミガキを、内面にはヘラケズリを施している。290の頸部は直線的で外面にハケ目を施す。体部は最大径が中央にあり球形である。291の口縁部は真横



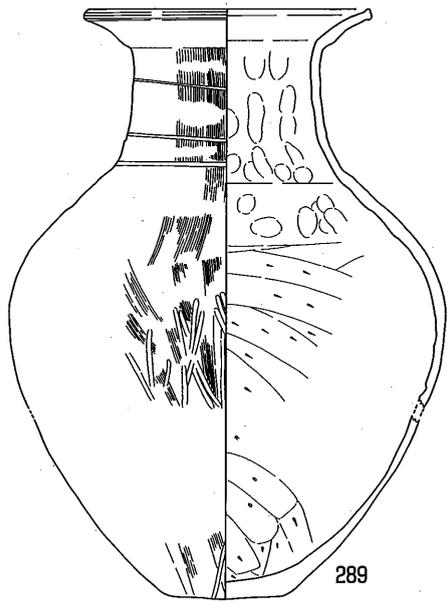
第57図 SK b 01平・断面図 (1/40)

に開く。頸部外面には丁寧にハケ目を施し、ヘラ描き沈線が巡る。内面は全体に指押さえが顕著である。体部はハケ目の後に下半部にヘラミガキを加えている。内面にはヘラケズリを施している。292も口縁部が欠損している他は291と同様である。293は体部の最大径は上半にあるが膨らみが弱く、頸部は内湾気味である。294の頸部外面には記号のようなV字状のヘラ描き沈線がある。295の口縁部は真横に開き、頸部外面にはヘラ描き沈線をらせん状に一筆書きで施している。299の頸部外面には絵画状のヘラ描き沈線があるが、その描かれた内容は不明である。302の頸部外面にもらせん状に一筆書きされたヘラ描き沈線が巡る。内面上部にはナデた時の凹線

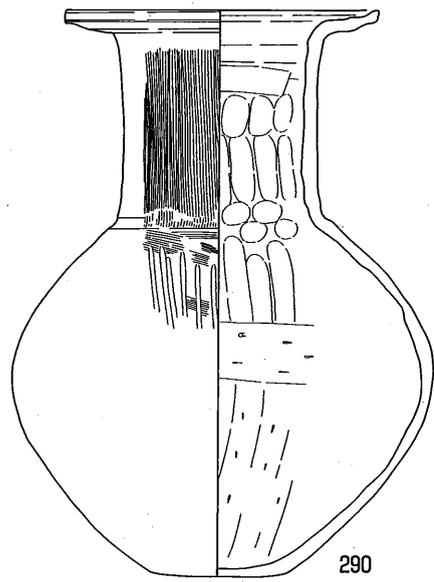


第58図 SK b01遺物出土状況図 (1/20)

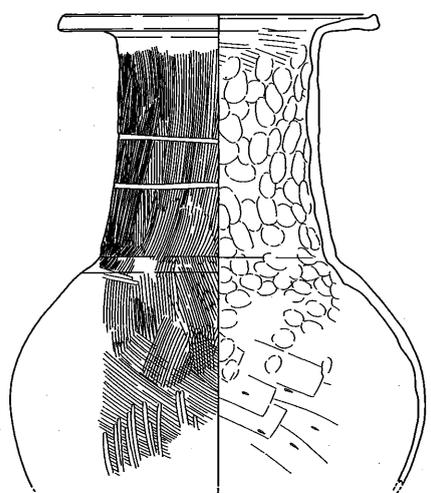
が1条ある。303の頸部にも太いヘラ描き沈線がらせん状に一筆書きされているが、さらに記号のように細い2本線を加えている。内面は指で断続的にナデている。304の頸部外面には太いヘラ描き沈線を2条巡らす。内面にはナデた時の凹線が1条ある。体部は最大径が中央にあり球形になっている。内面は指で断続的にナデている。308の頸部はやや外傾している。外面にハケ目を施した後に体部との境をナデている。体部は外面全体にハケ目を施した後に中央部分にやや斜め方向にヘラミガキを加えている。309の体部の膨らみは強く、底部は若干の上げ底になっている。312の体部外面にはハケ目の後に間隔の開いたヘラミガキを施している。313・314はともに体部の膨らみが強い。315の頸部外面にはヘラミガキを施すが、下半部に最後に横方向に板ナデを行なう。その下部には刺突文が巡っている。体部は最大径が中央にあり球形である。316の口縁部は下方に拡張し、外面に刺突文を2段施している。また口縁部内面には1回ずつ静止させながら施した櫛描波状文が巡っている。頸部は直立し、外面にはヘラ描きで三角形を連続して描いている。内面には丁寧にヘラミガキを施している。



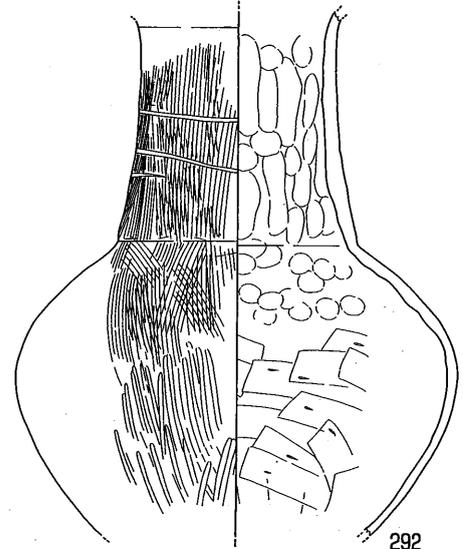
289



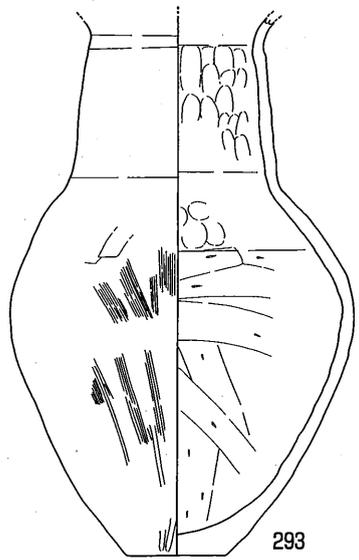
290



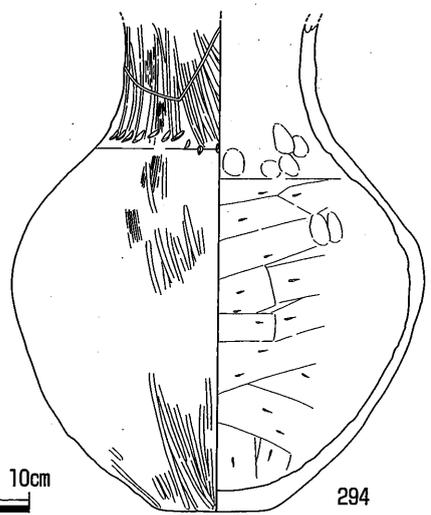
291



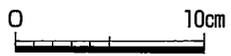
292



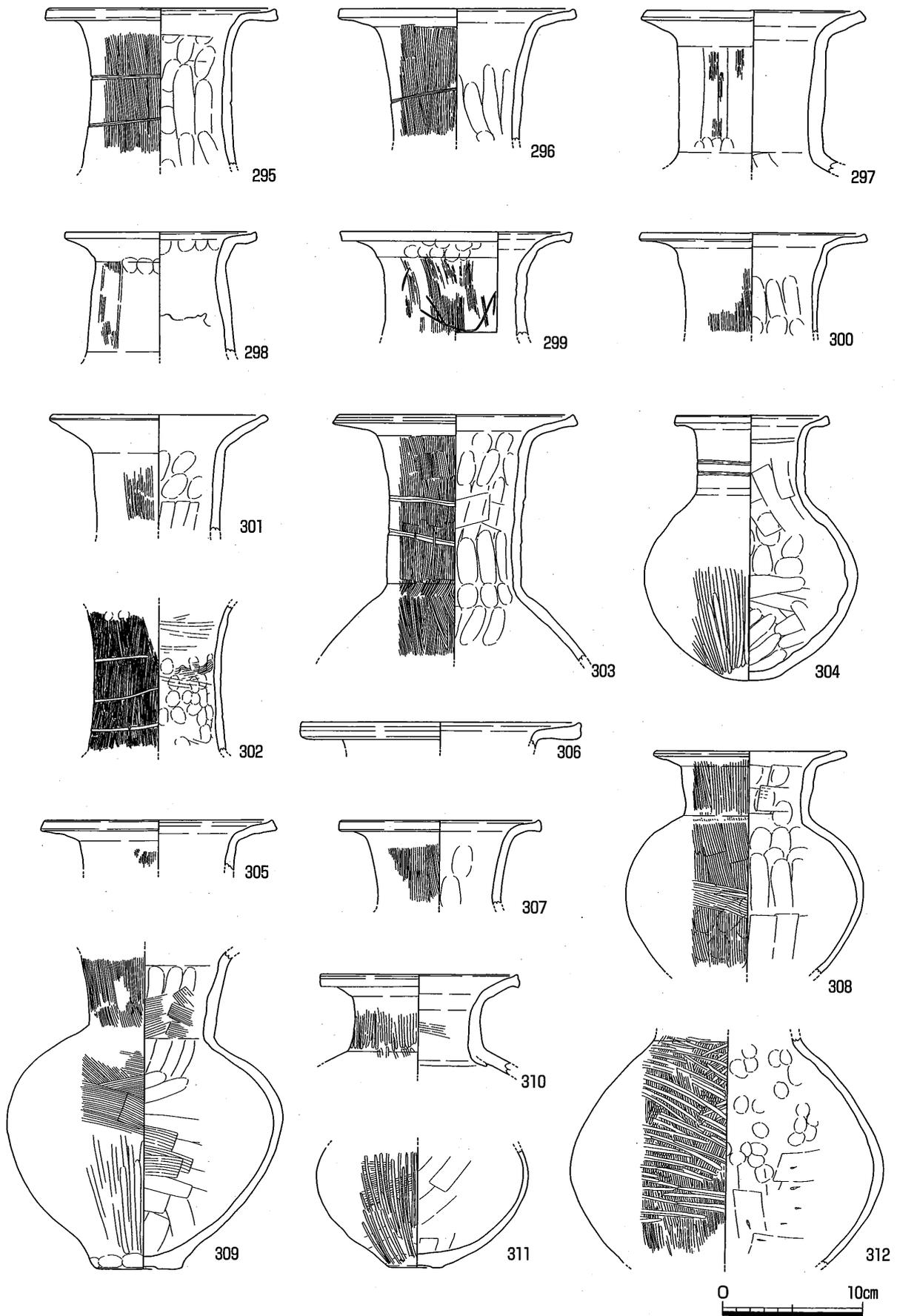
293



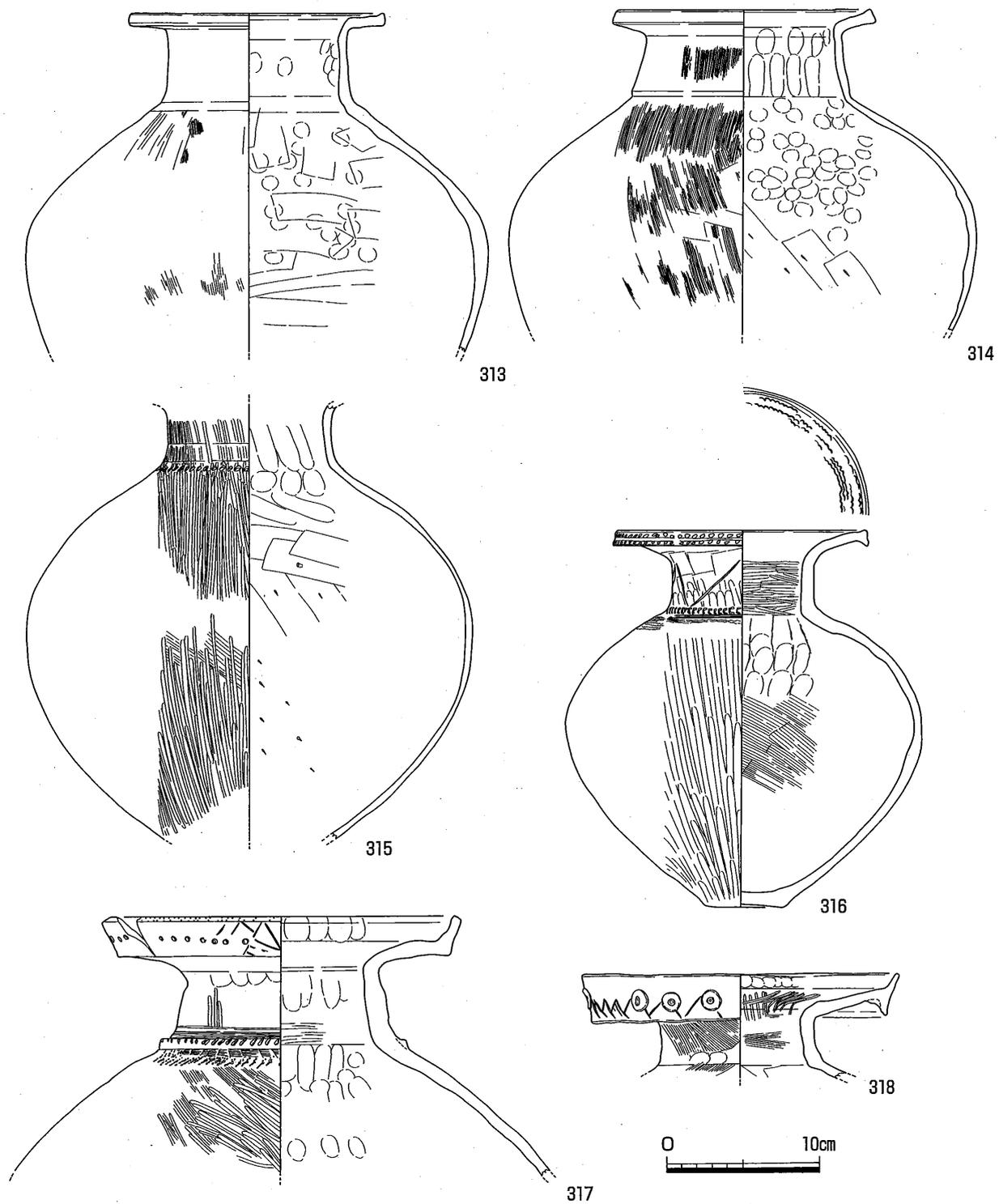
294



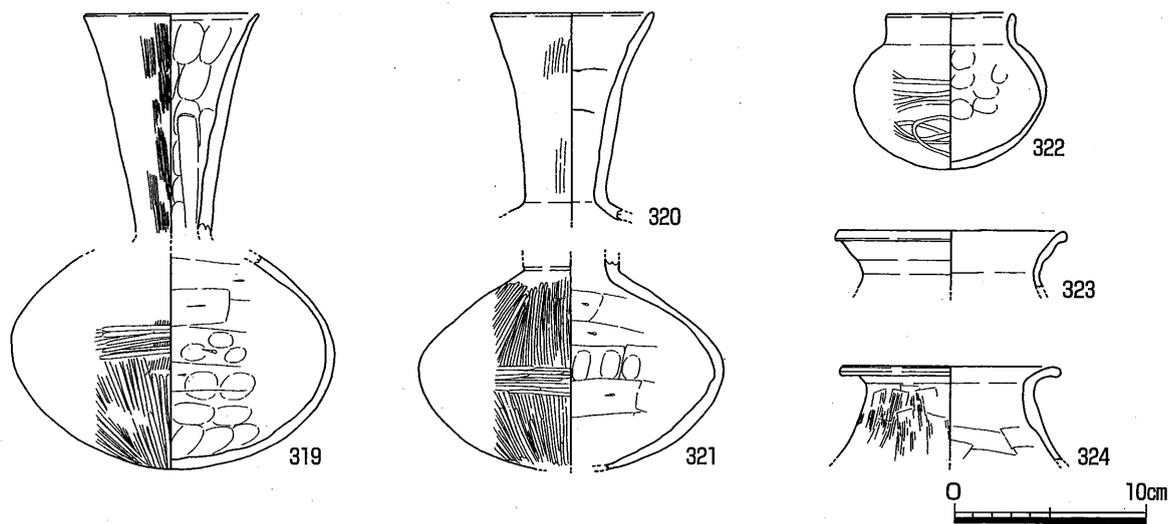
第59図 SK b01出土遺物 (1) (1 / 4)



第60图 SK b01出土遺物 (2) (1 / 4)



第61図 SK b01出土遺物 (3) (1 / 4)

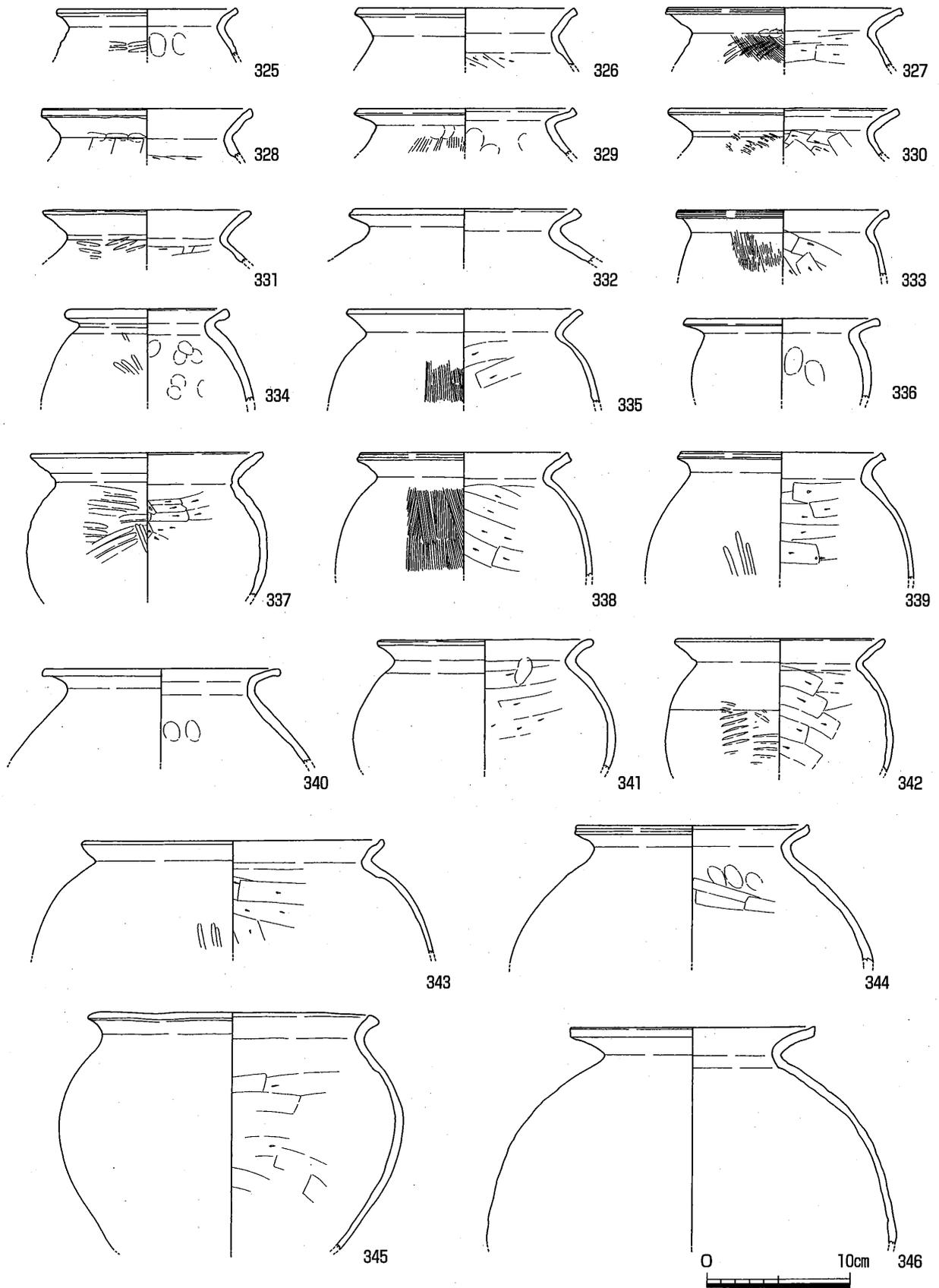


第62図 SK b01出土遺物 (4) (1 / 4)

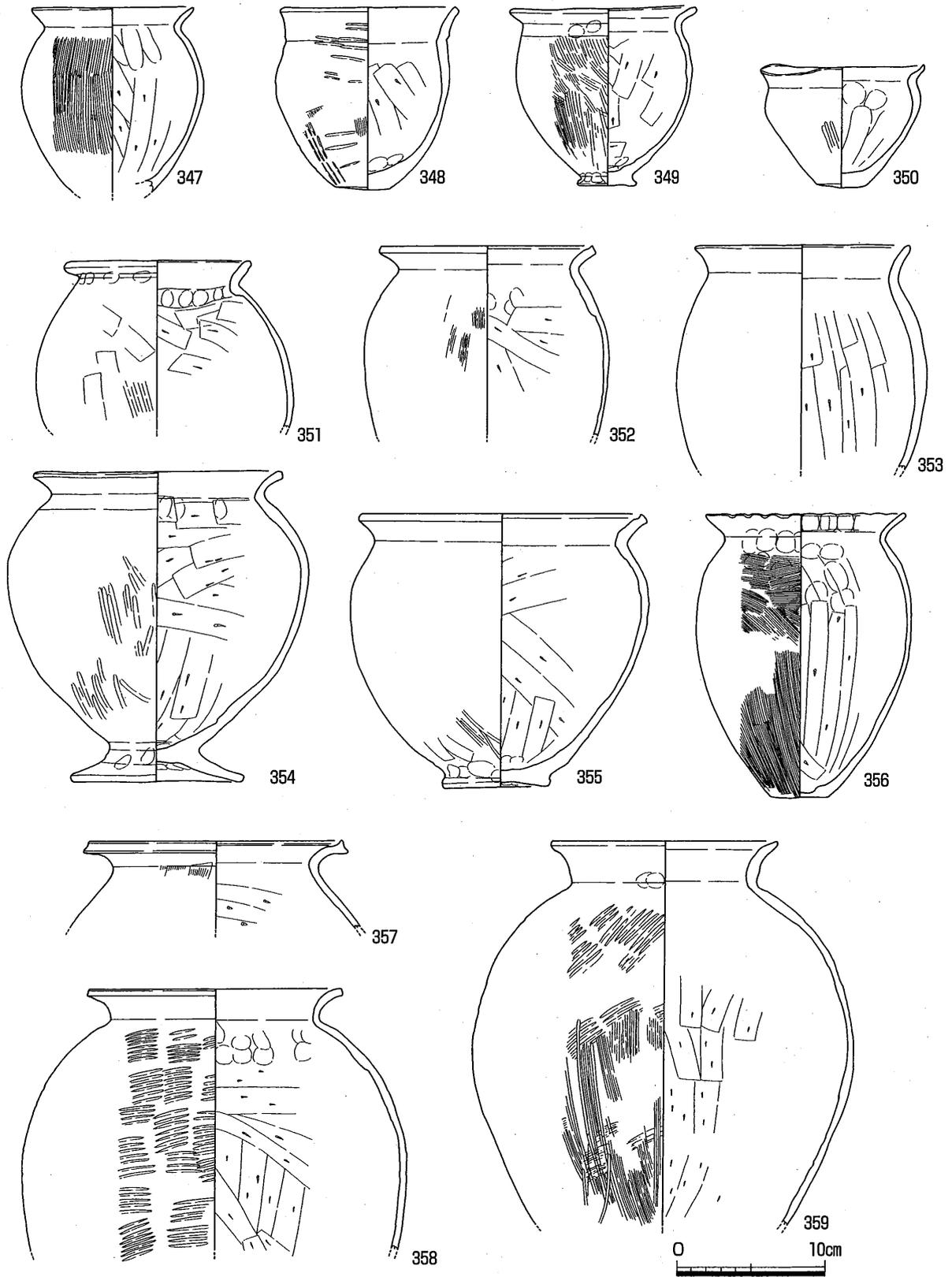
体部との境部分に半截竹管文、櫛描直線文、櫛描波状文を巡らせている。体部最大径は中央にあり、外面には太いヘラミガキを施している。317は装飾性豊かな二重口縁の壺である。口縁部端部上面には小さな列点文を2段巡らせている。外面には竹管文を配し、竹管文の途切れた部分に、摩滅しているが鋸歯文を加えている。頸部と体部の境には刻目突帯を貼り巡らせ、その上部には3条1単位のハケ目原体により横方向にナデている。また刻目突帯の下には板工具を短く断続的に動かして簾状の施文を行い、さらに櫛描列点文を加えている。318は口縁部端部を上下に拡張した二重口縁の壺である。口縁部外面には現存で12個の円形浮文があるが、3個1単位の部分と4個1単位の部分がある。そして円形浮文の間に鋸歯文を加えている。口縁部の内面にはヘラミガキを施している。319~321は細頸壺である。319・321の体部は扁平で、外面にヘラミガキを施すが中央部分のヘラミガキは横方向である。322の口縁部は短く直立する。体部外面のヘラミガキは雑である。323. 324は甕に近い。

325~409は甕である。このうち325~356は口縁部が直線的なものである。325・327・330・331・342は体部外面にタタキを施し、327はさらにハケ目を加えている。334の口縁部端部は肥厚している。337の体部外面のタタキは粗く、僅かだがヘラミガキを加えている。341は口縁部屈曲部外面を強くナデている。343は口縁部内面を強くナデている。345の体部最大径は上半にある。348の口縁部は肥厚している。体部外面にはタタキを施すが、底部付近には縦方向にタタキを施している。349の底部は突出している。350は口縁部を強くナデており、部分的に歪んでいる。器高は低く鉢に似ている。351は口縁部屈曲部外面に指押さえを強く施している。体部は歪んでおり、上部の器壁は薄くなっている。354の底部には大きく開く脚台が付いている。体部外面にはヘラミガキを施すが、僅かにヘラミガキの前段階のハケ目が残っている。355の体部最大径は上半にあり、口径と器高が接近している。356の口縁部は指押さえにより部分的に波形になっている。体部内面にはヘラケズリを施すが、砂粒の動きは弱い。また底部内面は工具により抉り取られており、器壁が薄くなっている。

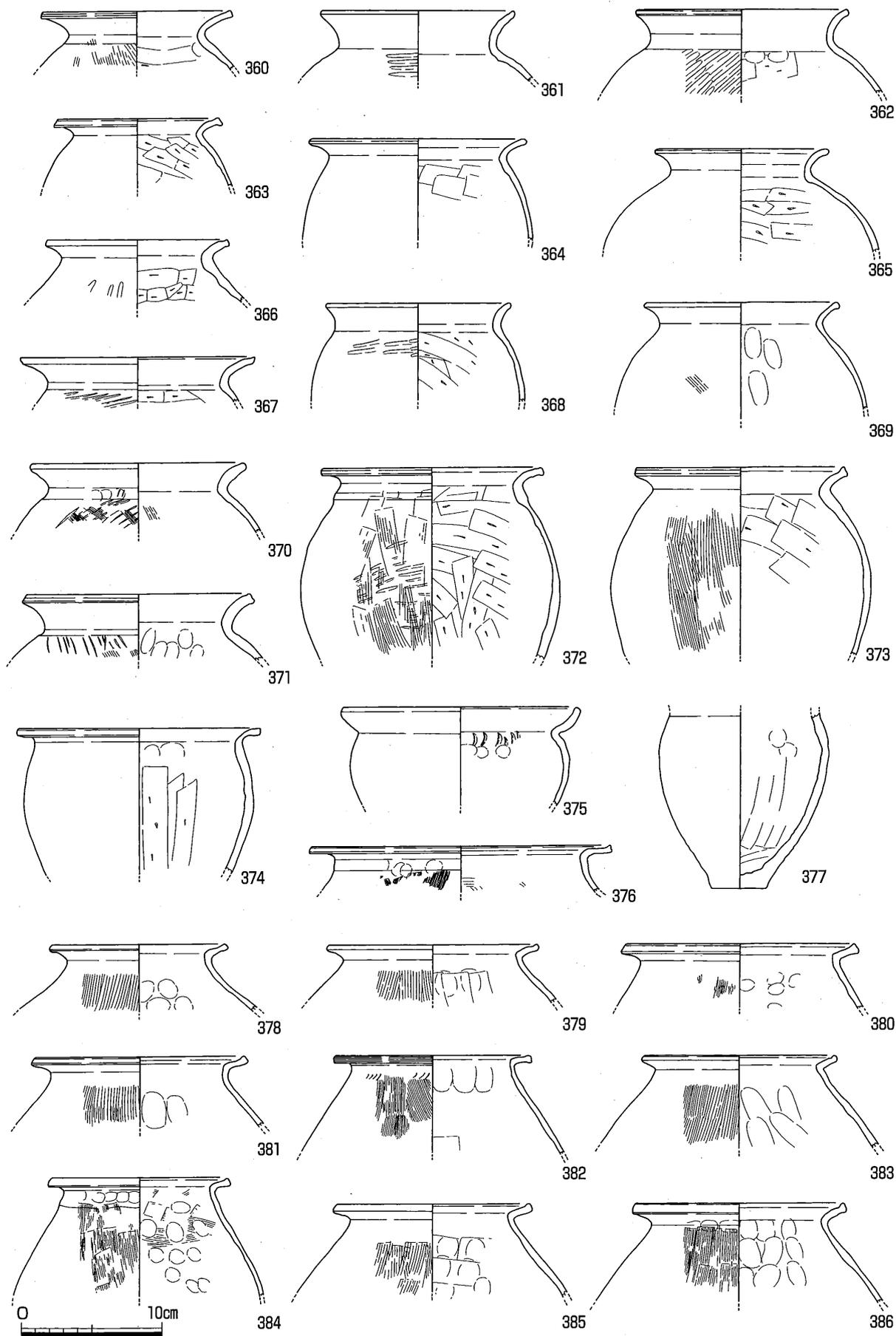
359~373は口縁部が外反している。358の体部は下半部が欠損しているものの球形に近く、外面全体にタタキを施している。359は体部最大径が上半にあり、倒卵形になっている。外面はタタキの後にハケ目とヘラミガキを加えている。361・362・367・368は体部外面にタタキを施す。370は体部外面はタタキ



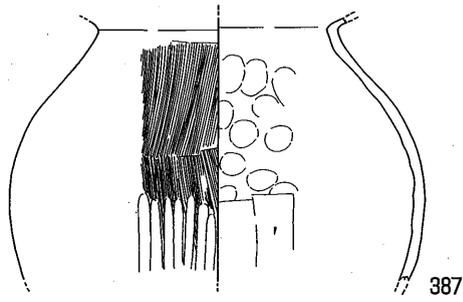
第63圖 SK b01出土遺物 (5) (1 / 4)



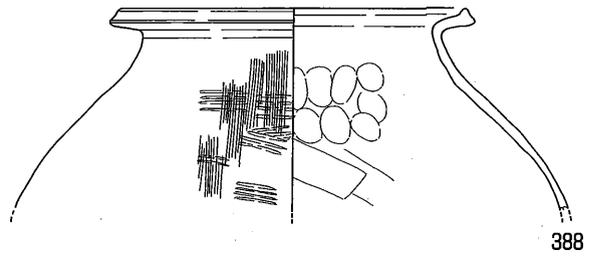
第64図 SK b01出土遺物 (6) (1 / 4)



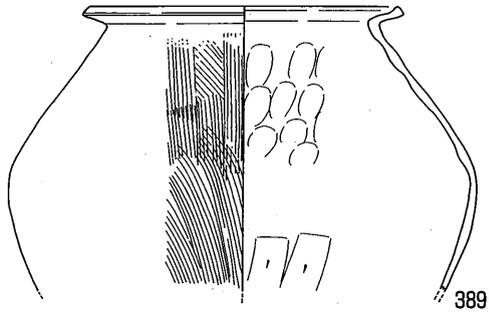
第65図 SK b01出土遺物 (7) (1 / 4)



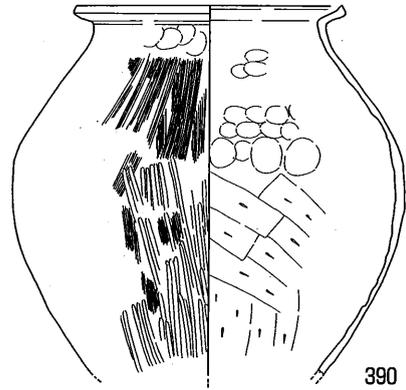
387



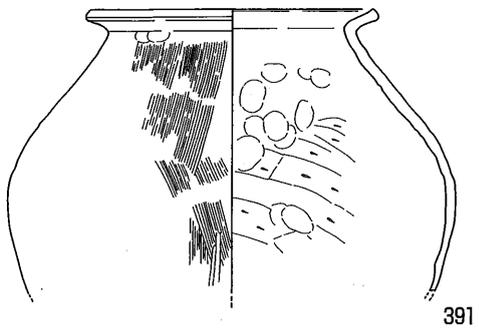
388



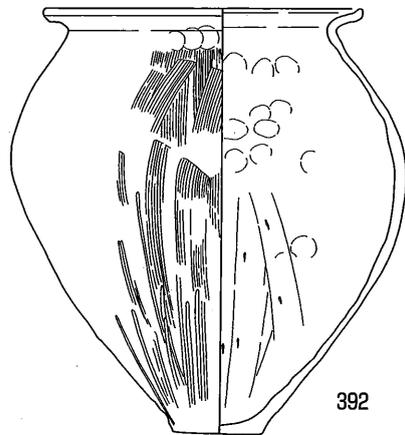
389



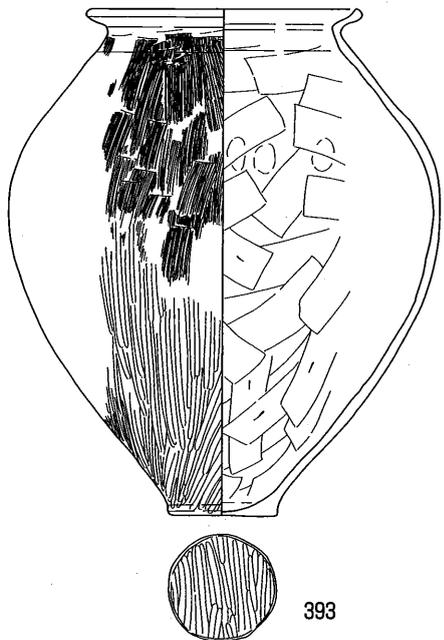
390



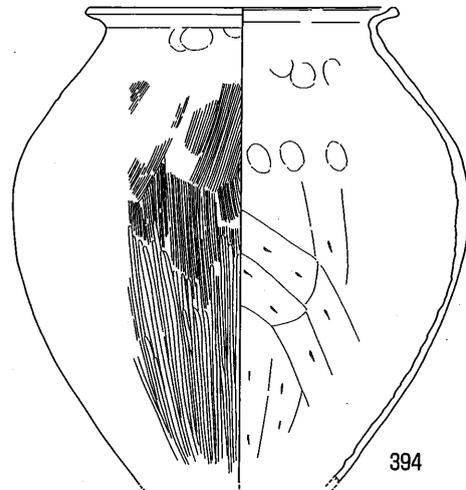
391



392



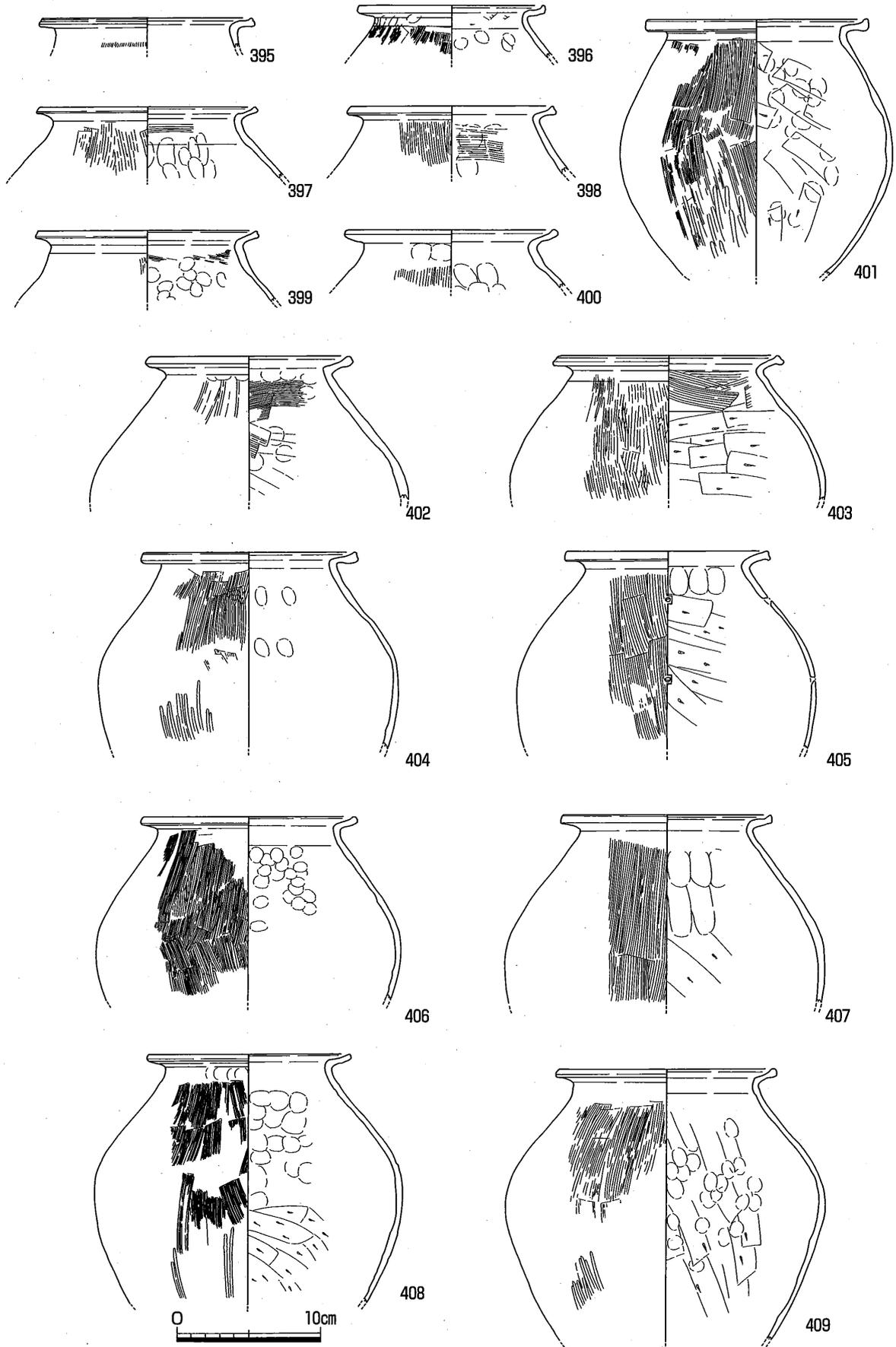
393



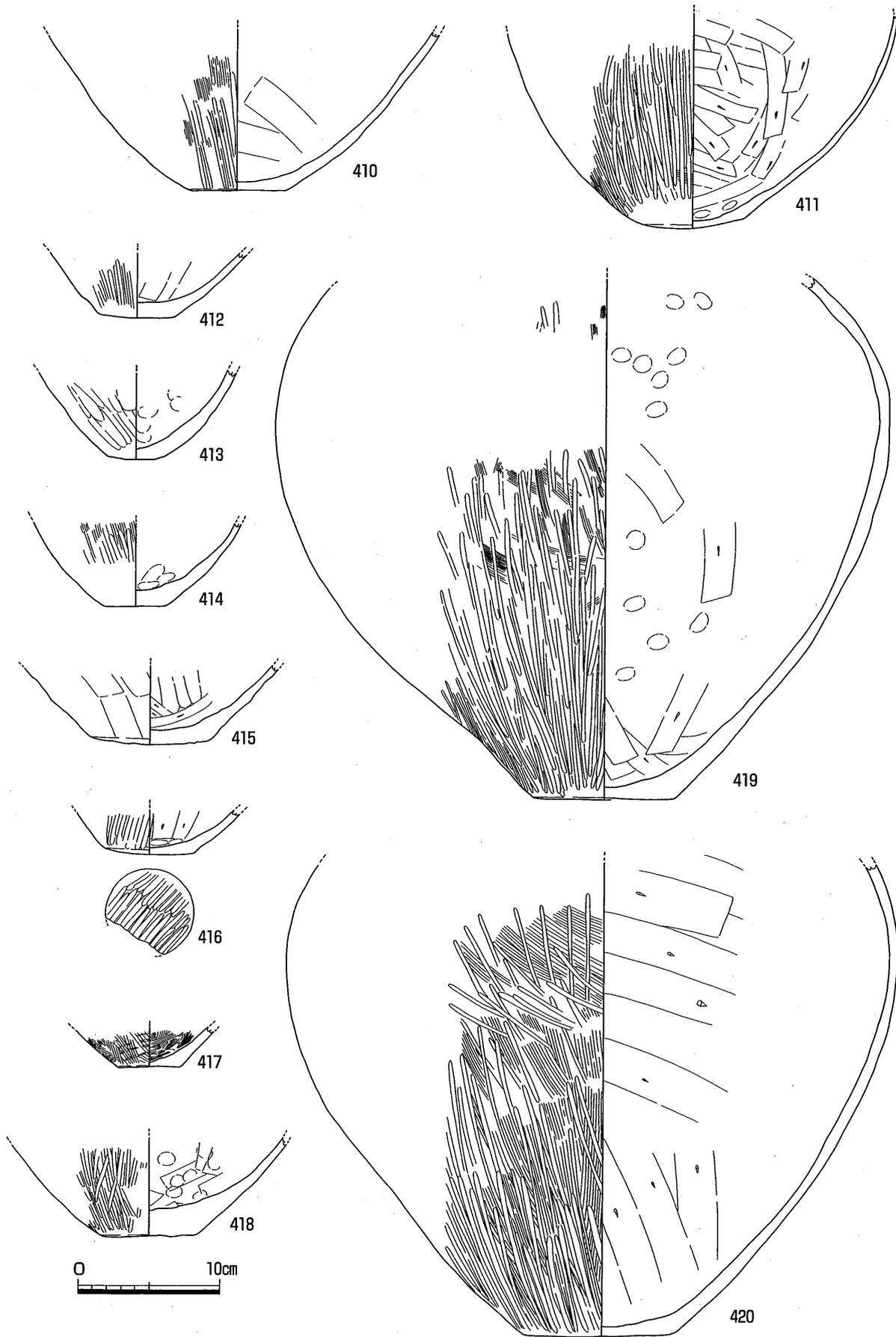
394



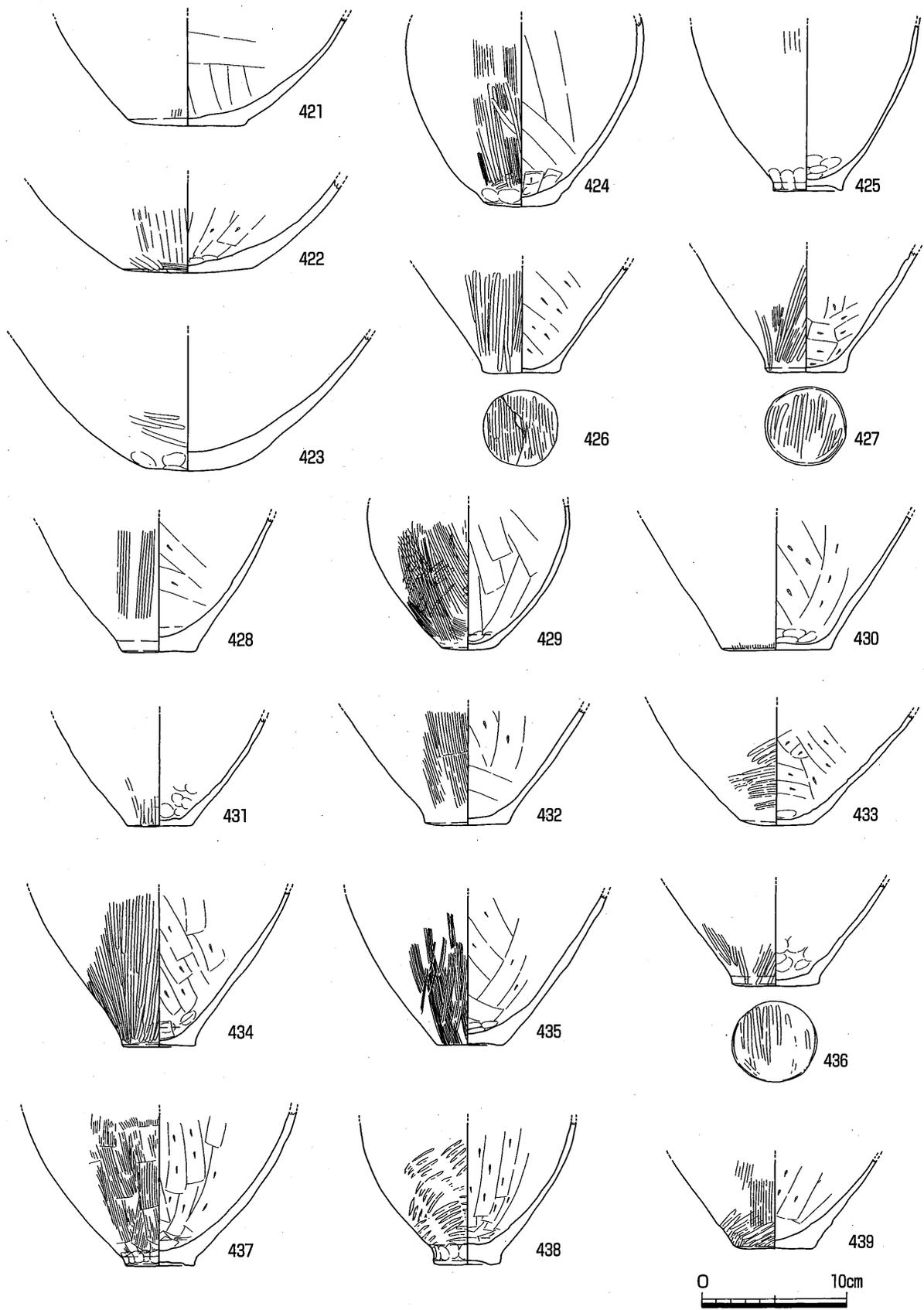
第66図 SK b01出土遺物 (8) (1 / 4)



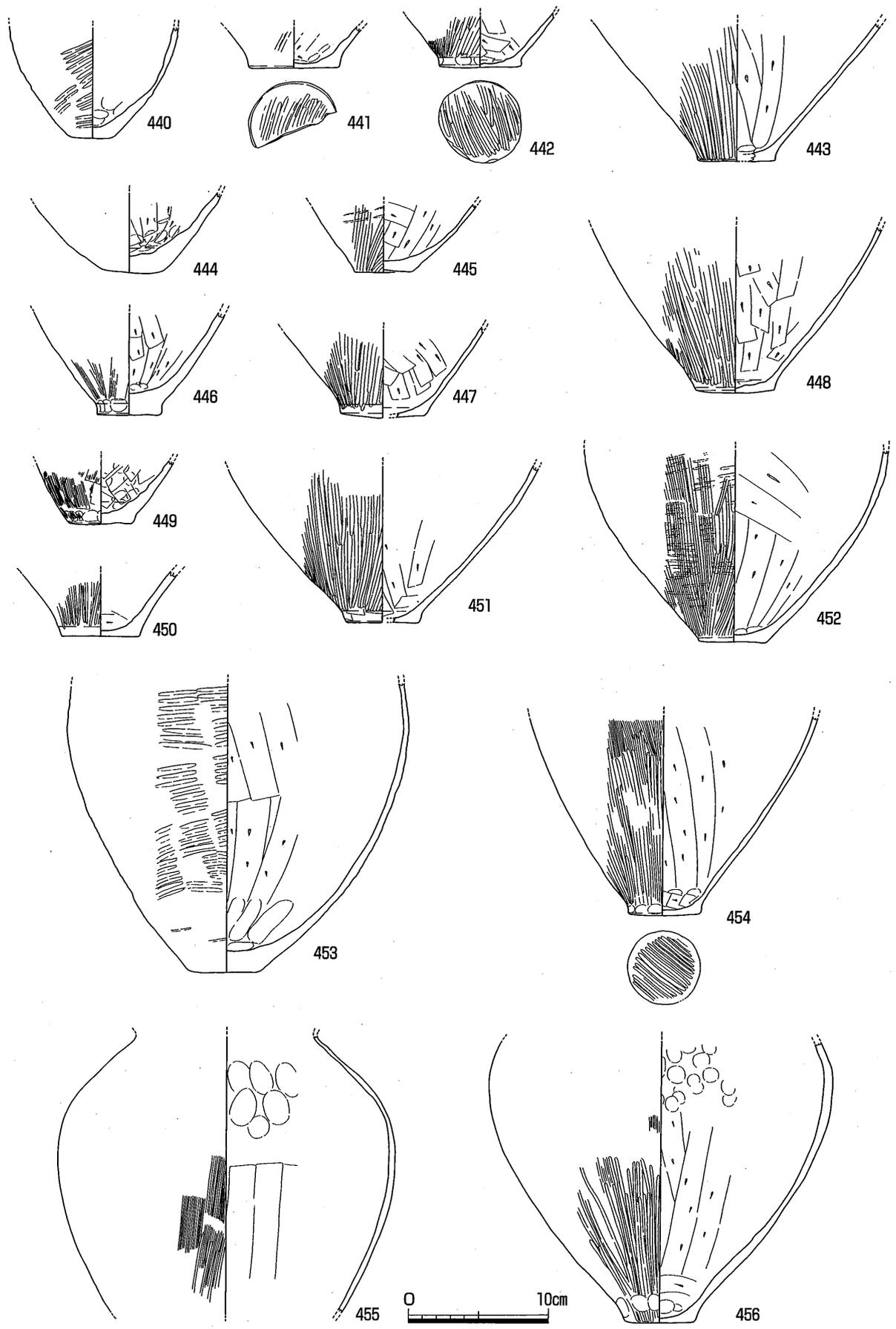
第67图 SK b01出土遺物 (9) (1 / 4)



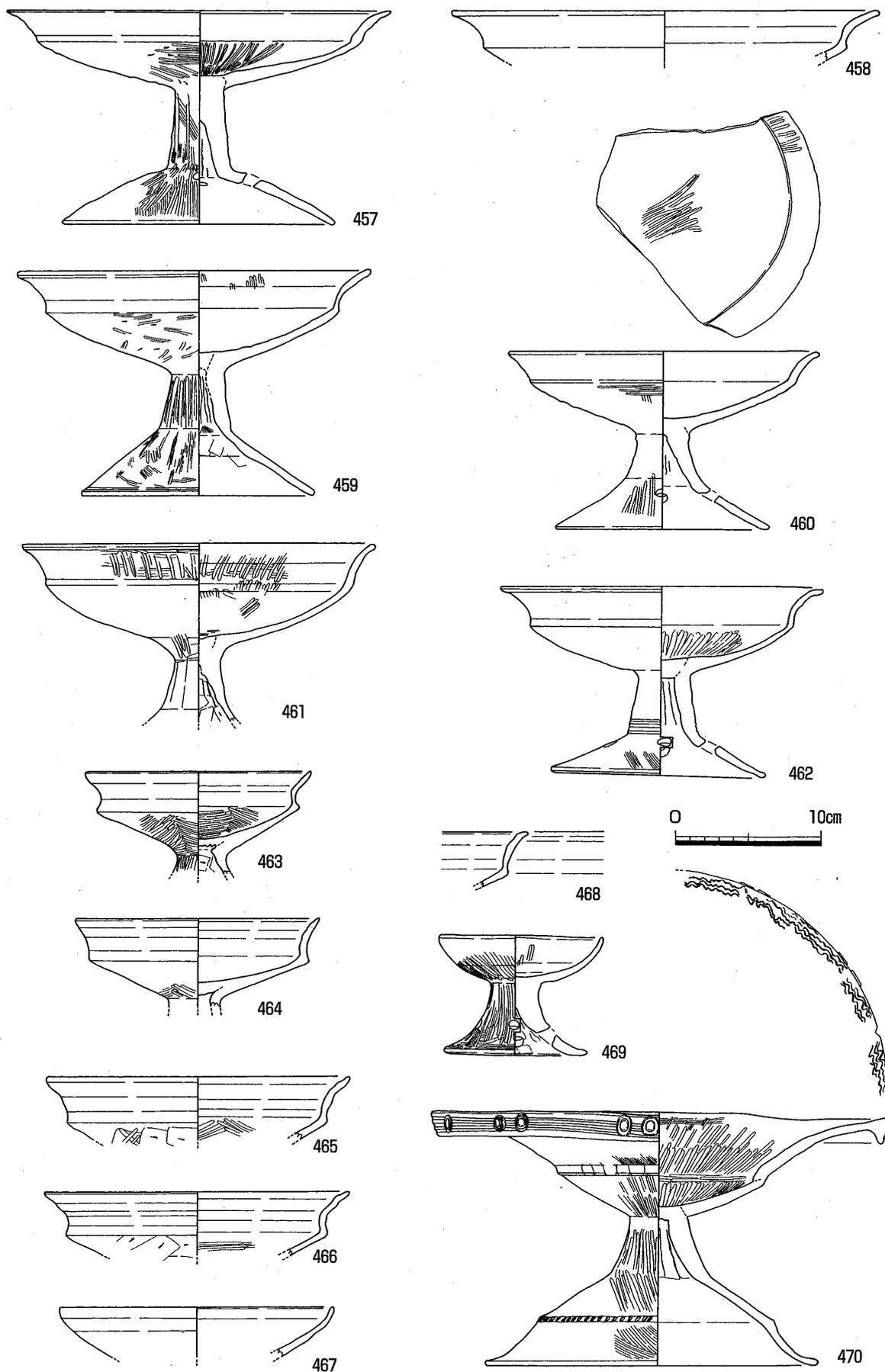
第68圖 SK b01出土遺物 (10) (1 / 4)



第69圖 SK b01出土遺物 (11) (1 / 4)



第70图 SK b01出土遺物 (12) (1 / 4)



第71図 SK b01出土遺物 (13) (1 / 4)

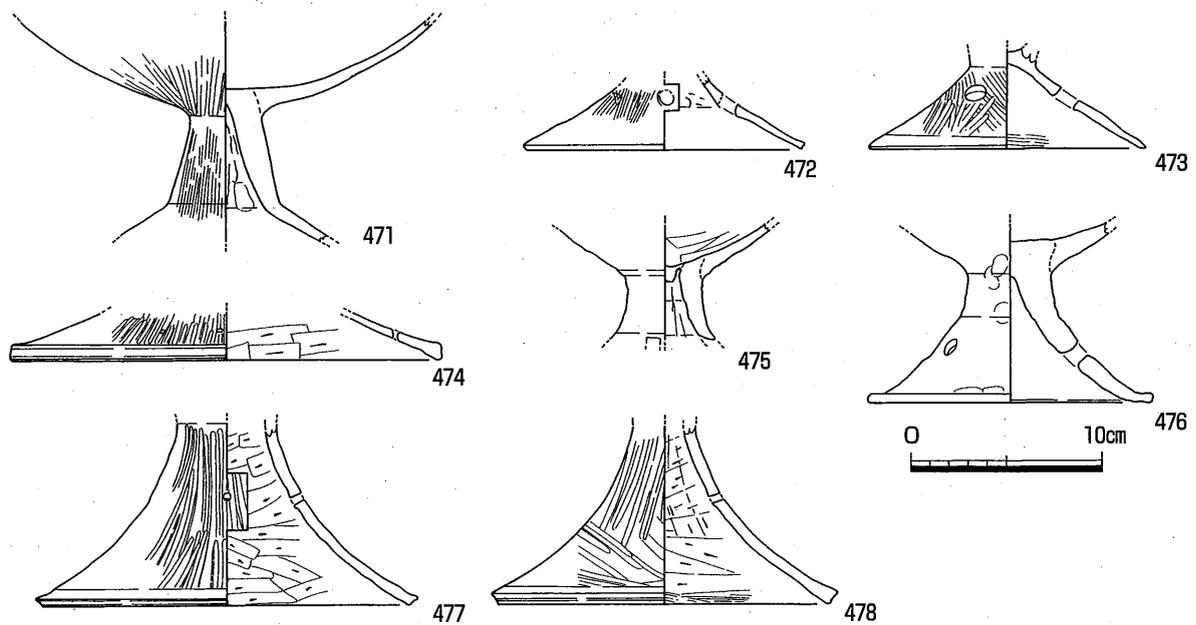
の後にハケ目を施し、タタキは潰れている。371は体部外面の上部に、ヘラ状工具で線刻している。372は口縁部屈曲部付近が肥厚しているのに対して、その直下の器壁が非常に薄くなっているが、内面のヘラケズリがこの部分だけ強くなったためと思われる。体部外面はタタキの後にハケ目を加えているが、最終的にナデている。

374と376の口縁部は真横に開く。また375の口縁部は内湾しており、体部最大径はかなり上部にある。

378～409は胎土に角閃石を含む一群である。体部外面は基本的にハケ目の後に下半部にヘラミガキを施している。内面は上半には指押さえ及びナデを行い、中央付近から底部にかけてヘラケズリを施している。382は口縁部直下に爪形文がある。384は口縁部直下外面に指押さえを強く施す。387の体部外面のヘラミガキは太い。388の体部外面はハケ目以前にタタキが施されている。391の体部内面のヘラケズリは上部まで及んでいる。393の体部内面のヘラケズリは砂粒の動きが弱い。また上半部には板ナデを行なっている。底部外面にも丁寧なヘラミガキを施している。401の体部内面の上半部は板ナデを加えている。下半部のヘラケズリの砂粒の動きは弱い。403の体部内面のヘラケズリは上部まで及び、口縁部付近にはハケ目を施している。405の体部内面もヘラケズリが上部まで及ぶ。体部には穿孔が2個ある。409の体部内面の上半部は指押さえとともに、指でナデている。

410～423は壺、424～456は甕の体部から底部と考えられるものである。411は体部外面にヘラミガキを施すが、前段階のハケ目が僅かに残る。416は底部外面にもヘラミガキを施している。419は体部外面にハケ目の後にヘラミガキを施している。接合はしなかったが、胎土の特徴や大きさから317の二重口縁の壺と同一個体かも知れない。420の体部外面もハケ目の後にヘラミガキを施している。内面のヘラケズリは砂粒の動きが弱い。体部外面にはベンガラと考えられる赤色顔料が部分的に付着している。425は底部に粘土を貼り付けて高台を作っている。426・427・432・434・436・441・442・443・447・448・451・456は胎土に角閃石を含んでいる。このうち426、427・436・441・442は底部外面にヘラミガキを施している。437・438の底部は上げ底になっており、側面を指押さえで整形している。453は体部外面全体にタタキを施している。454は胎土に角閃石を含んでいないが、底部外面にヘラミガキを施し、体部の形態や調整は角閃石を含む一群と同じである。456は底部付近の内面を、横に回転させながらヘラケズリを行なっている。

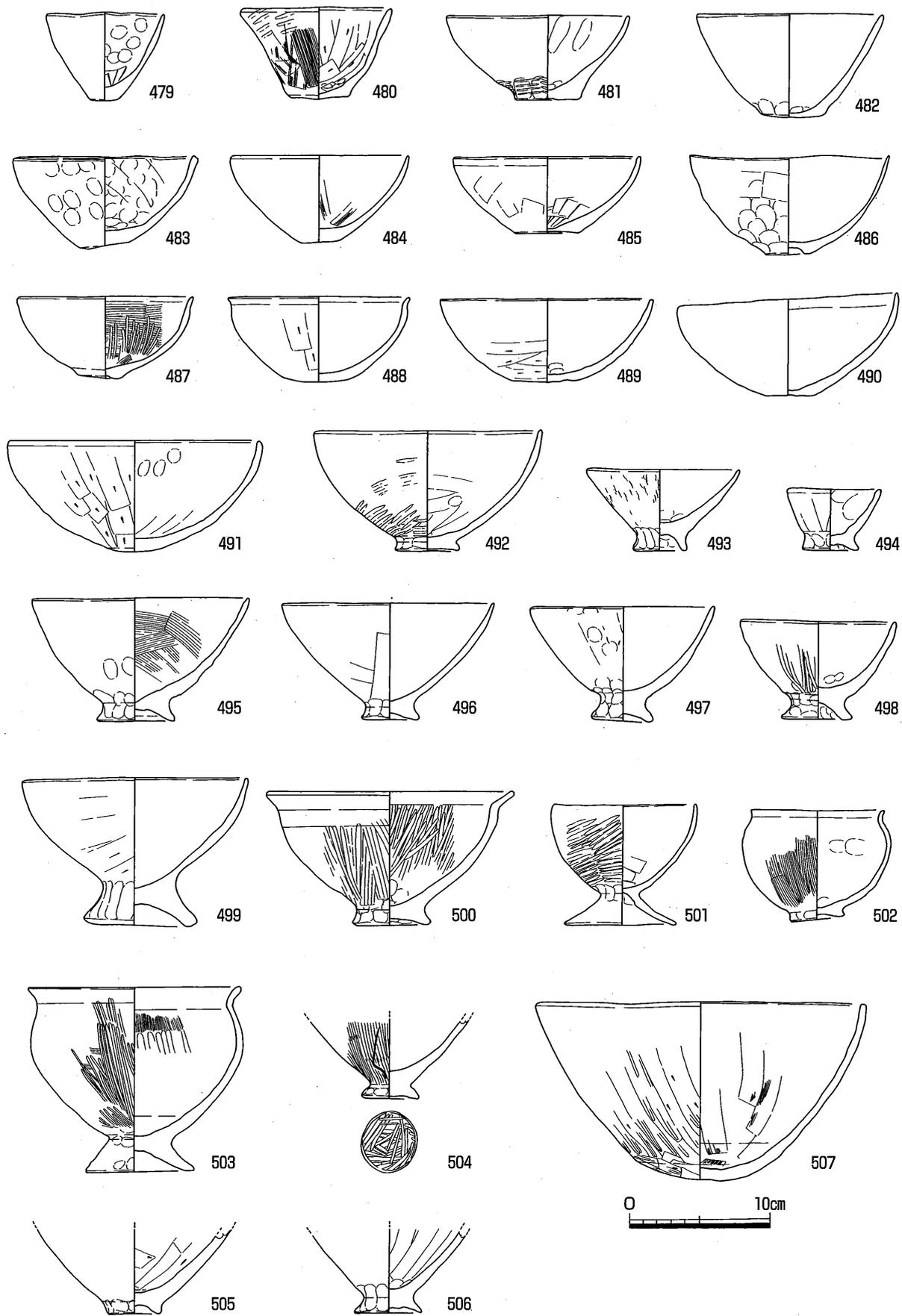
457～478は高杯である。457の口縁部は外反し、杯部からの屈曲部は肥厚している。杯部の外面はヘラケズリの後にヘラミガキ、内面はハケ目の後にヘラミガキを施すがハケ目は大部分が消されている。杯部は脚柱部から屈曲してやや内湾気味に開く。4方透かしがあり、外面はハケ目の後にヘラミガキを施す。杯部と脚部の接合は差込みによる。459の杯部外面はヘラケズリの後にヘラミガキ、内面は摩滅しているがヘラミガキが少し残っている。脚部は屈曲した後に直線的に開く。外面はハケ目の後にヘラミガキを施している。脚部は全体の1/8ほどしか残っていないので、透かし穴の有無は不明である。杯部と脚部の接合は円盤充填による。胎土に角閃石を含んでいる。460の杯部内面は摩滅しているが、中央部分と口縁部にヘラミガキが残っている。脚部の透かし穴は現存で3個あるが、復元すると4方透かしになる。杯部と脚部の接合は差込みによる。461～466は胎土に角閃石を含んでいる。461の口縁部の内・外面には横方向の後に縦方向にヘラミガキを施している。杯部と脚部の接合は円盤充填による。462の杯部外面は摩滅しているが、内面にはヘラミガキを施している。脚部は屈曲して直線的に開くが、屈曲部の上部には沈線が3条巡っている。4方透かしがあり、杯部と脚部の接合は円盤充填による。



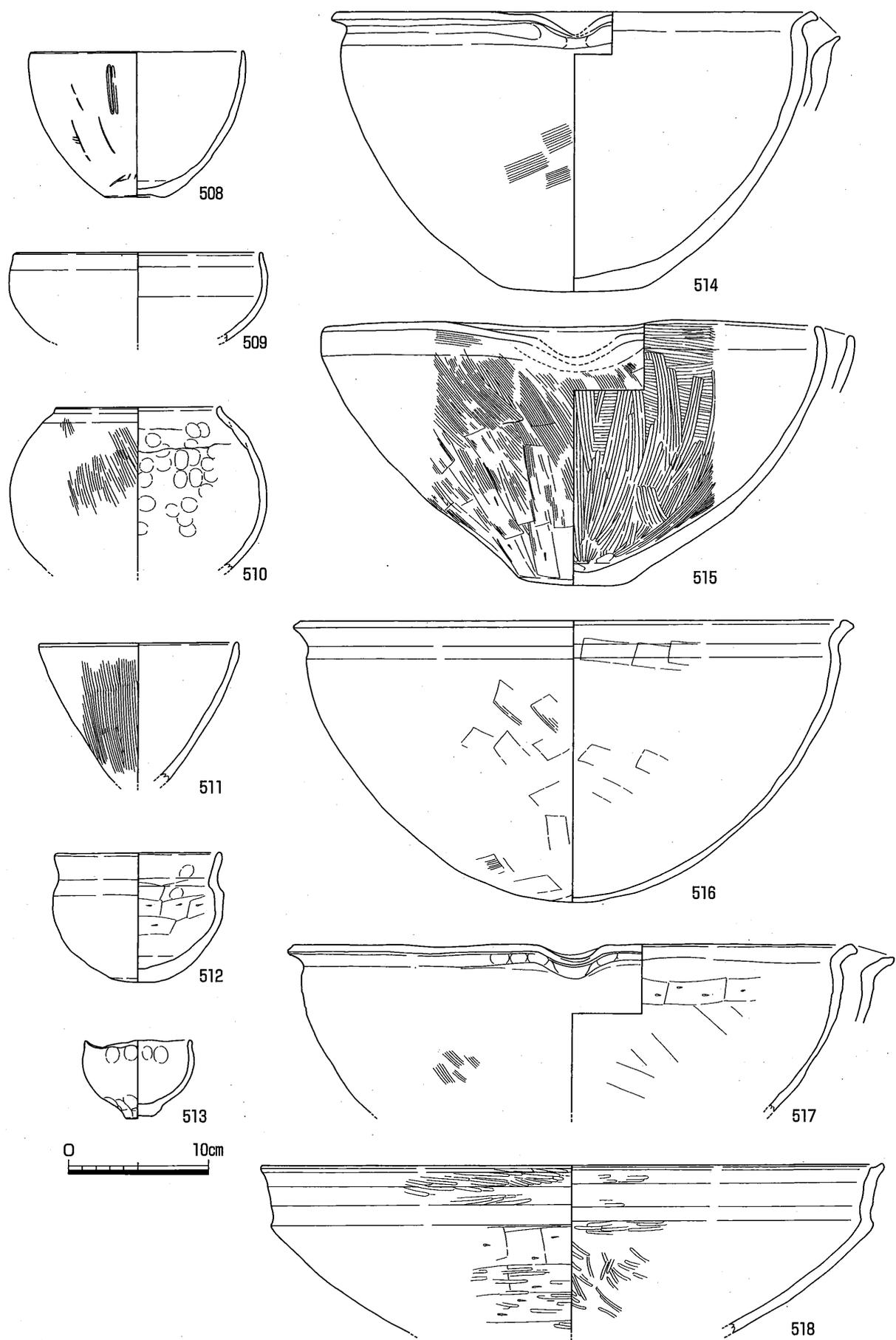
第72図 SK b01出土遺物 (14) (1 / 4)

463の口縁部は杯部から2段に屈曲して開く。杯部の内・外面には格子状に分割ヘラミガキを施している。杯部と脚部の接合は円盤充填による。465・466は口縁部内面を強くナデている。469は椀形の杯部である。脚部は全体に外反して開き、4方透かしがある。470は装飾性豊かな高杯である。口縁部端部を下方に拡張し、外面には3条の沈線の上に2個1単位の円形浮文を貼り巡らせている。また口縁部内面には櫛描波状文が施されている。杯部は屈曲して大きく開き、内面にはヘラミガキを施すが、屈曲部のヘラミガキは横方向になっている。屈曲部の外面には指押さえを行なっている。脚部は杯部を反転させたような形で2段に屈曲している。下段の屈曲部には刻み目を巡らせている。脚部外面はヘラミガキであるが、下部はヘラミガキが摩滅してハケ目が見えている。杯部と脚部の接合は差込みによる。471の杯部は丸みを帯びている。475は方形の透かし穴の一部が残存している。476の脚部端部は真横に開いて接地している。478の脚部内面はヘラケズリであるが、端部にはハケ目を施している。

479～523は鉢である。479～491の底部は平底であるが、481・485・486・487は上げ底になっている。また488・491は丸底に近くなっている。480の外面はタタキの後にハケ目を施し、内面はヘラケズリになっている。483は内・外面ともに指押さえが顕著である。485の内面は板状工具を小刻みにらせん状に押し当てている。487の内面にはハケ目の後にヘラミガキを加えている。488の口縁部は短く外反している。488・489・491の外面はヘラケズリである。492～506の底部には脚台が付いている。492の外面にはタタキを施している。500の口縁部は屈曲して直線的に立ち上がっている。体部外面にはハケ目の後にヘラミガキを、内面にはヘラミガキを施している。501の体部外面にはタタキを施し、底部には足高の脚台が付いている。502の口縁部は短く外反し、端部は先細りになっている。503の体部は内・外面ともにハケ目の後にヘラミガキを加えている。504の体部外面には一部しか残っていないが、絵画あるいは記号の線刻がある。底部の脚台の外面にはヘラミガキを施している。507の体部外面にはヘラケズリの後にヘラミガキを加えている。内面は板ナデであるが、部分的に工具の木目が残っている。底部は丸底に近く不安定である。508は全体に摩滅しているが、外面には絵画の一部と考えられる太いもの、細いものの2種類の線刻が認められる。509の体部は扁平である。510の口縁部は体部からそのまま内傾し、強くナ

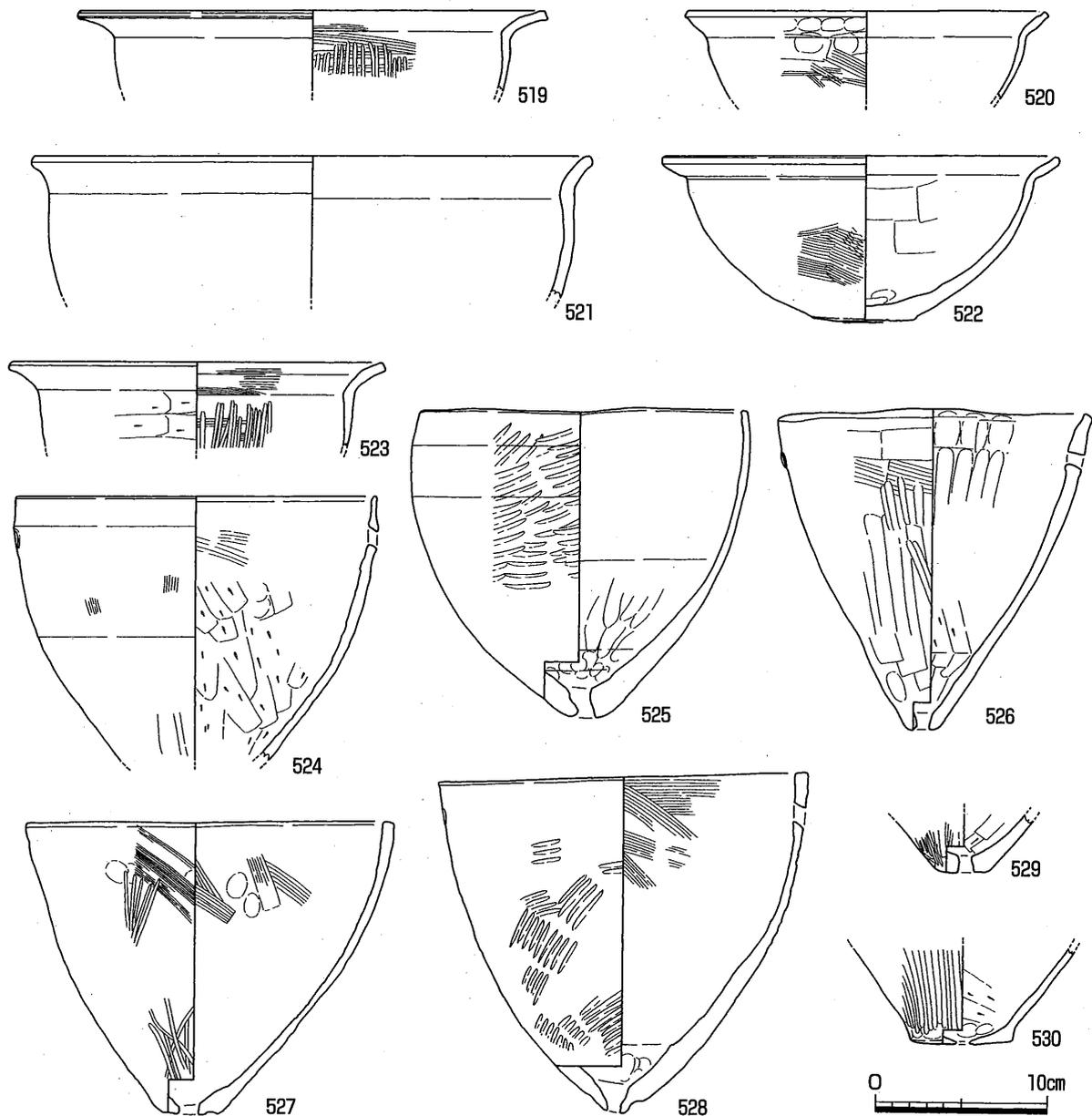


第73図 SK b01出土遺物 (15) (1 / 4)



第74図 SK b01出土遺物 (16) (1 / 4)

デて仕上げている。体部外面はハケ目の後ナデ、内面は指押さえが顕著である。511は底部に向かって先細りになる。甑に似ているが底部が欠損しており不明であるため、鉢と考えておく。513の口縁部は指押さえのため歪んでいる。514~518は大型の鉢である。514の口縁部は短く外反し、注ぎ口が1ヶ所ある。515の口縁部は内湾し、注ぎ口が1ヶ所ある。体部外面はヘラケズリの後にハケ目を施し、内面は全体にハケ目を施した後にヘラミガキを加えている。全体に丁寧な作りで、胎土に角閃石を含んでいる。516の底部は丸底に近い。518の口縁部は端部内面を強くナデており、口縁部の外面にはヘラミガキを施している。体部外面にはヘラケズリの後にヘラミガキを加え、内面はヘラミガキを施している。胎土に角閃石を含んでいる。519の口縁部は外反し、体部内面にはハケ目の後にヘラミガキを施している。520の口縁部外面には指押さえが顕著である。523の体部外面はヘラケズリになっており、胎土には結晶

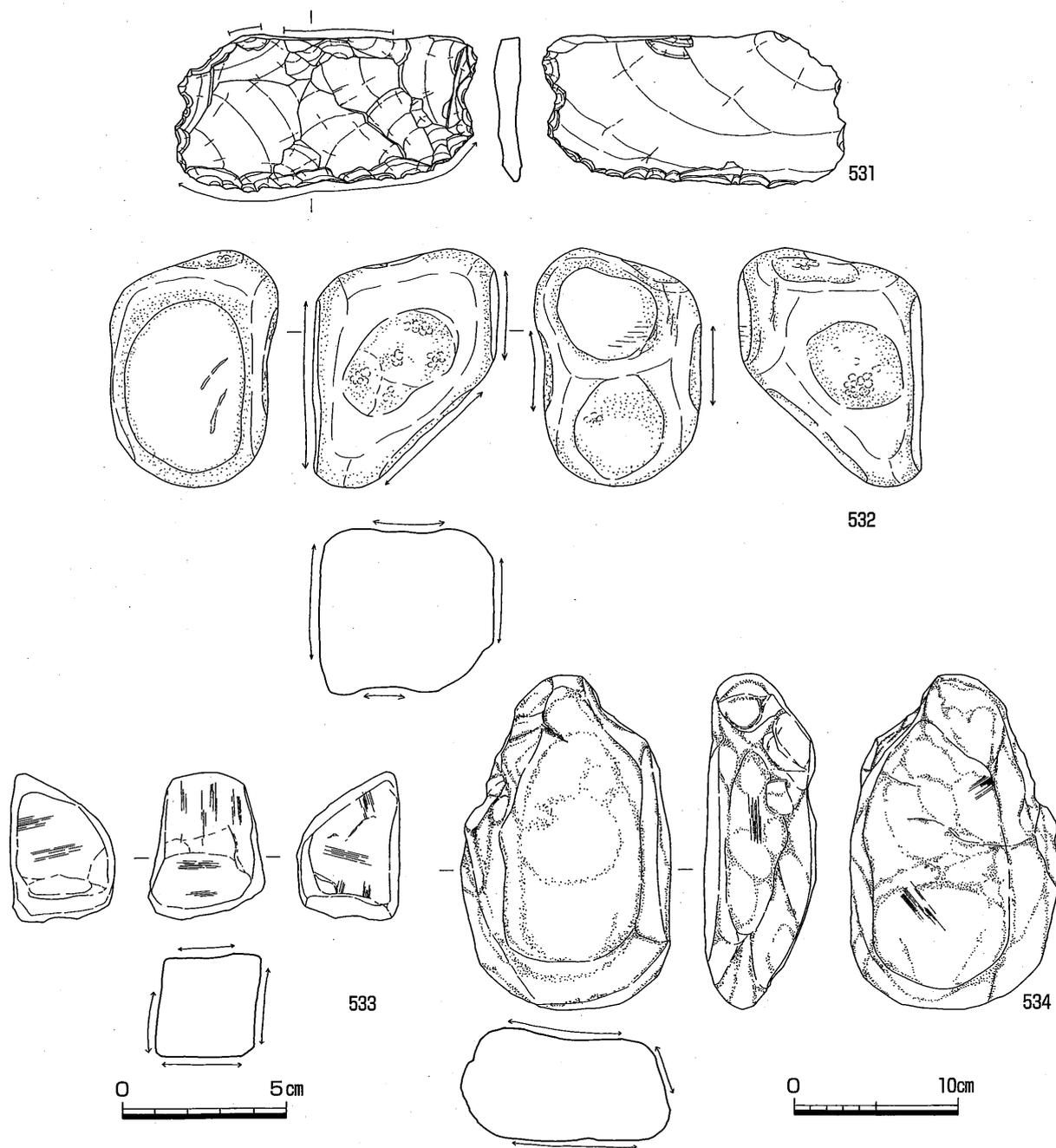


第75図 SK b01出土遺物 (17) (1 / 4)

片岩を含んでいる。

524～530は甑である。524は526・528と同様に体部上半部に向かい合う位置に穿孔が1ヶ所ずつあり、形態も似ていることから底部が欠損しているものの甑と考えた。525の体部外面にはタタキを施している。526の体部下半部は直線的になっている。外面には幅の広い板ナデのようなヘラミガキを施している。528は体部外面にタタキを施し、口縁部の内面にはハケ目を施している。530は甕を転用したもので、体部と底部の外面にヘラミガキを施している。

531はサヌカイト製の打製石庖丁である。裏面には主要剥離面を大きく残し、両側縁部に抉りを入れている。背部には敲打痕が認められ、刃部は摩滅している。532は砂岩製の砥石である。3面を使用し



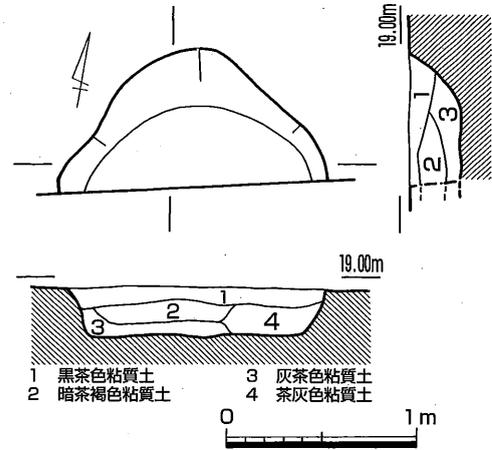
第76図 SK b01出土遺物 (18) (1/4、1/2)

ているが、握ったときに手の当たる部分が摩滅している。このことは手に持って使用した可能性があり、磨石とも考えられよう。533は花崗岩製の砥石で、4面とも使用している。534は砂岩製の砥石で、3面を使用している。

出土遺物からSK b01は弥生時代後期中葉の所産と考えられる。

SK b02 (調査時遺構名: I-1区SK13) (第77図)

I-1区の南壁際のやや西寄りで見出した土坑である。土坑の南側は調査区外のため全体の平面形は不明であるが、円形に近いものと思われる。見出した東西部分で1.4m、深さは0.26mである。埋土の最上層には黒茶色粘質土が堆積している。遺物は出土していないが、周辺の弥生時代の遺構の埋土と類似していることから、弥生時代後期の所産と考えておく。



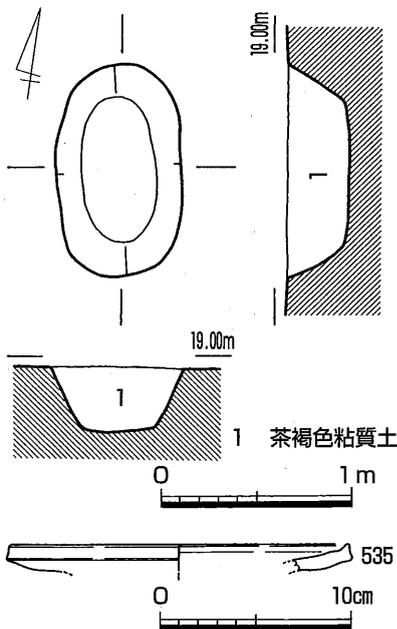
第77図 SK b02平・断面図 (1/40)

SK b03 (調査時遺構名: I-1区SK20) (第78図)

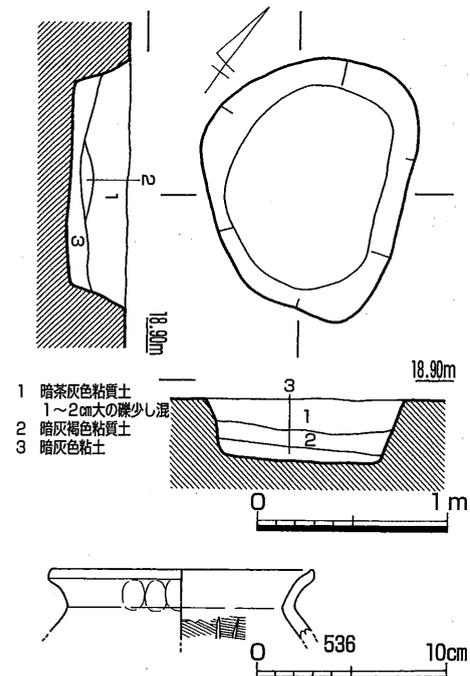
I-1区の北側でSH b15の東側に隣接して見出した土坑である。平面形は楕円形で、長径1.1m、短径0.65m、深さ0.32mである。埋土は茶褐色粘質土の単一層である。遺物の出土量は少ない。535は壺の口縁部で、端部を若干上方に拡張している。

SK b04 (調査時遺構名: I-1区SK09) (第79図)

I-1区の北東部で見出した土坑である。平面形は不整形で、東側が直線的になっている。南北方向



第78図 SK b03平・断面図 (1/40)、
出土遺物 (1/4)

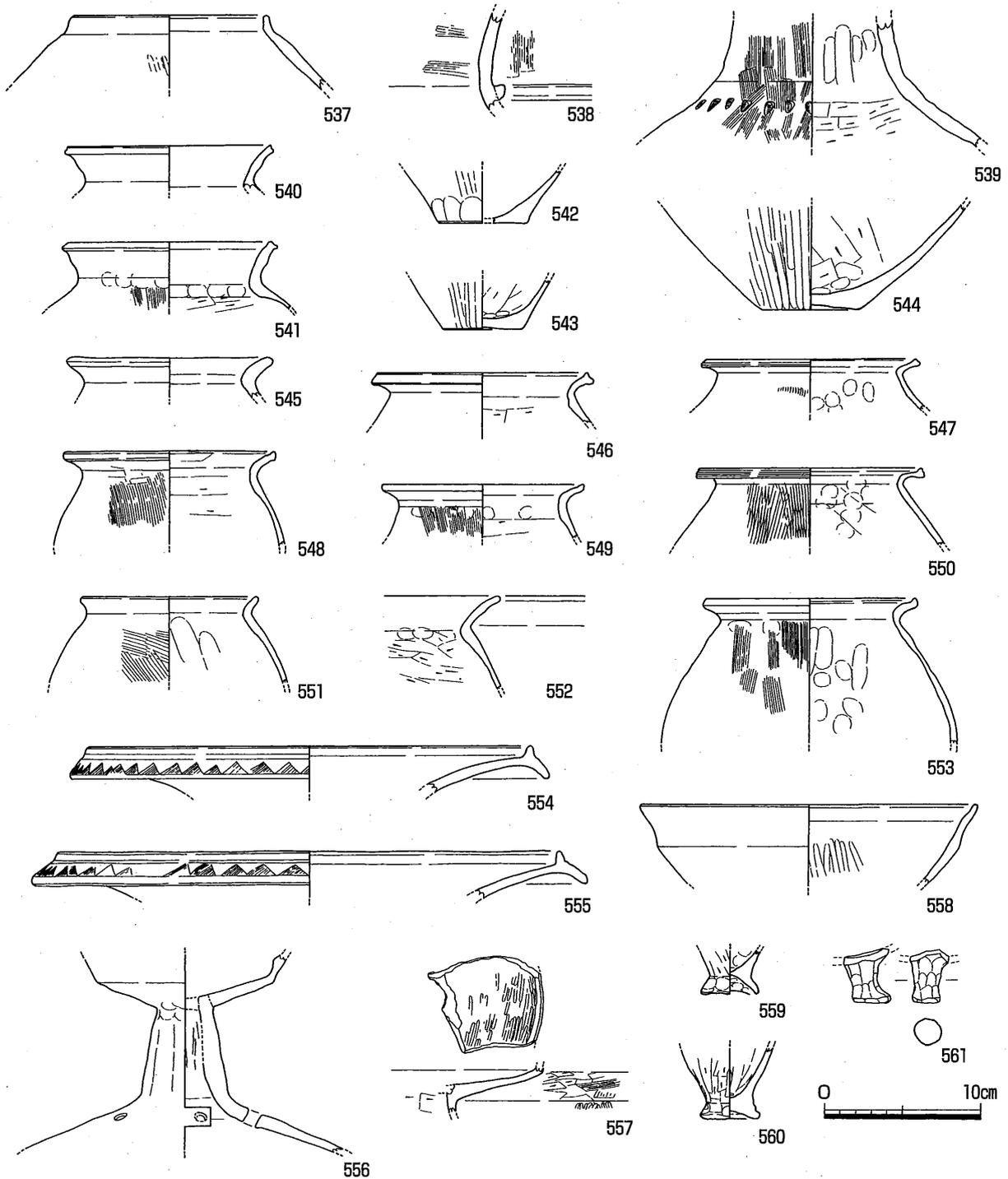


第79図 SK b04平・断面図 (1/40)、
出土遺物 (1/4)

1.35m、東西方向1.1m、深さ0.32mである。埋土は暗灰色系の粘土～粘質土である。遺物の出土量は少ない。536は甕で、口縁部外面に指押さえを行なっている。体部内面にはハケ目を施しており、ヘラ状工具の痕跡がある。

S K b 05 (調査時遺構名：I - 1区 S K 08) (第80・81図)

I - 1区の中央やや北東寄り、後述する S X b 01の東側に隣接して検出した土坑である。平面形



第80図 S K b 05出土遺物 (1 / 4)

は隅丸方形で、南北方向1.15m、東西方向1.42m、深さ0.62mと深くなっている。埋土は4層に分かれ、下から2層目から土器が多く出土している。北側の掘り込みが急であるのに対して、東側と南側は緩やかになっている。

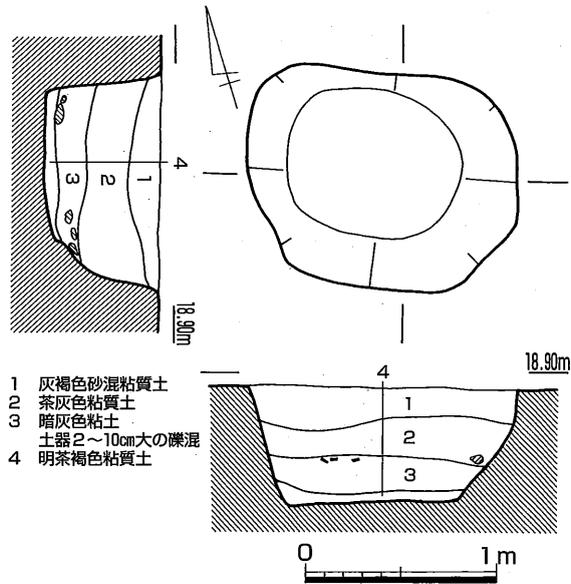
537～539は壺である。537の口縁部は短く直立する。538は貼付突帯を、539は幅広のヘラ圧痕文を巡らせている。

540・541・545～553は甕である。540・541の口縁部は長くなっており、541の体部内面には抉るようにヘラケズリを施し、器壁は薄くなっている。546は口縁部端部を若干上下に拡張している。547・548～550・553は胎土に角閃石を含んでいる。体部上半部はいずれもハケ目を施している。550・553は口縁部内面を強くナデることによって端部が上方に拡張されている。

554～557は高杯である。554・555は口縁部端部を上下に大きく拡張し、外面に鋸歯文を巡らせている。器台とも考えられるが、556に対応するような杯部が屈曲して大きく開く装飾高杯の口縁部と考えたい。556は脚部に現存で4個の透かし穴がある。杯部と脚部の接合は円盤充填によるが、円盤部分が剥離している。557も円盤充填であるが、剥離している。

559・560は製塩土器である。体部外面にはヘラケズリを施している。561は指押さえて整形した土製品で、内面側はナデており、剥離部分から考えて体部に付属していたものと考えられる。獣足に似ている。

出土遺物からSKb05は弥生時代後期後半の所産と考えられる。



第81図 SKb05平・断面図(1/40)

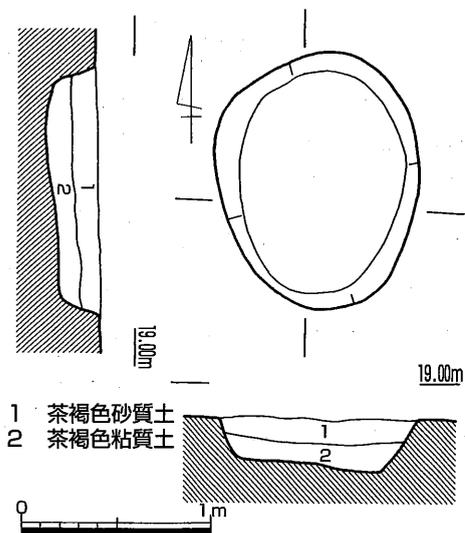
SKb06 (調査時遺構名: I-1区SK06) (第82図)

I-1区の南東隅で検出した土坑である。平面形は楕円形で長径1.35m、短径1.05m、深さ0.28mである。底部は北側と東側に向かって下がっている。埋土は上下2層に大別され、上層は茶褐色の砂質土、下層は粘質土になっている。微細な遺物が少量出土している。

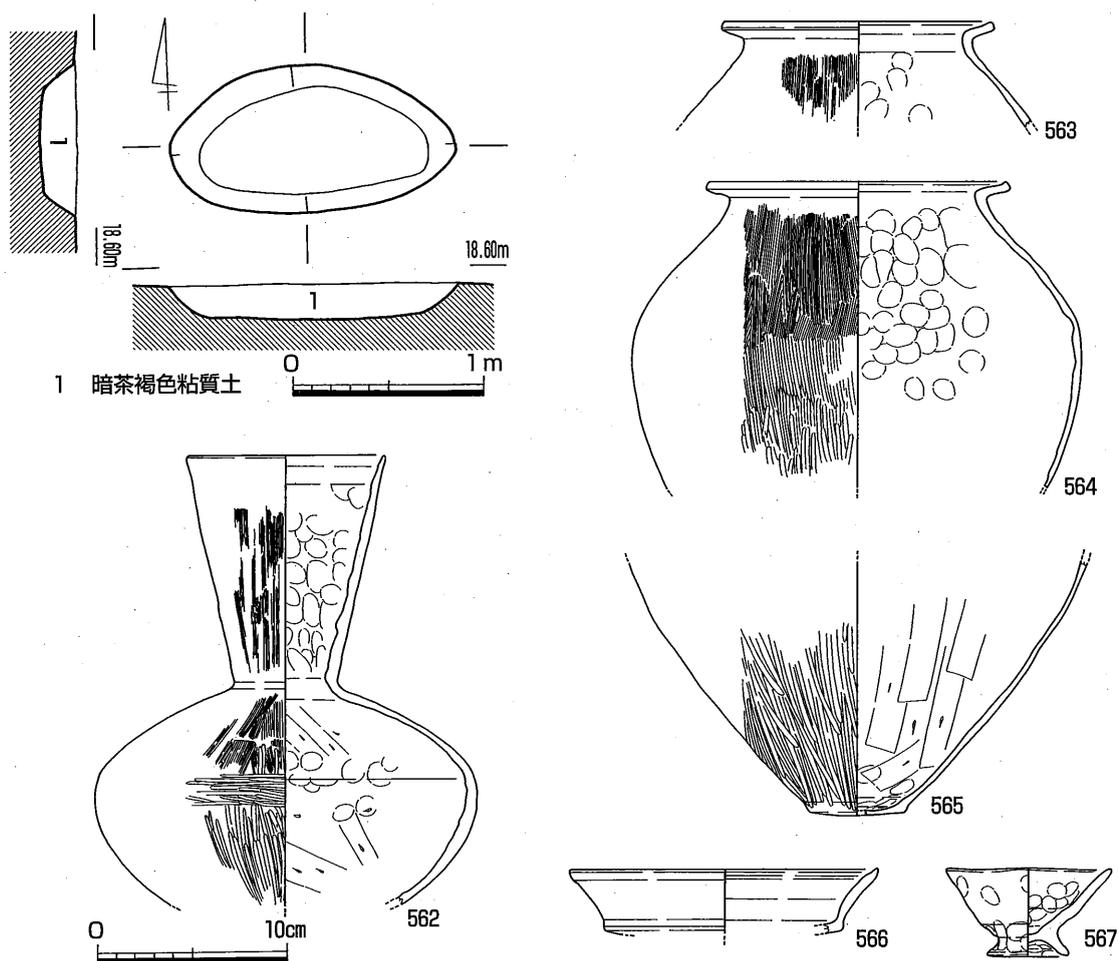
SKb07 (調査時遺構名: I-3区SK04) (第83図)

I-3区の中央やや西寄りで見出した土坑である。平面形は楕円形で長径1.5m、短径0.8m、深さ0.18mである。埋土は暗茶褐色粘質土の単一層である。

出土遺物のうち567以外には胎土に角閃石を含んで



第82図 SKb06平・断面図(1/40)

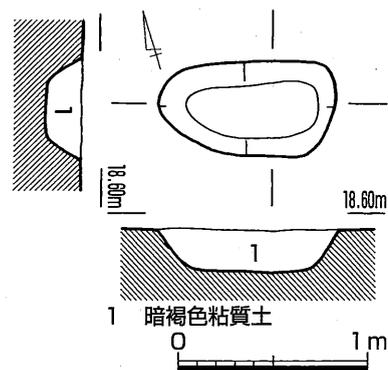


第83図 SK b07平・断面図(1/40)、出土遺物(1/4)

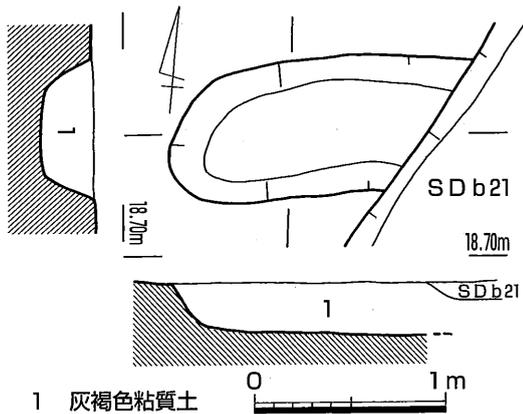
いる。562は細頸壺である。口縁部を強くナデており、端部は先細りになっている。頸部外面はハケ目、内面には指押さえが顕著である。体部は扁平で、外面上半部にはハケ目を、下半部にはヘラミガキを施すが、中央部分には横方向にヘラミガキを施している。内面はヘラケズリを施している。563～565は甕である。体部外面の上半部にはハケ目を施し、下半部にはヘラミガキを加えている。内面の上半部は指押さえ、下半部はヘラケズリを施している。565は底部外面にもヘラミガキを施している。566は高杯、567は鉢で全体に指押さえで整形している。

SK b08 (調査時遺構名：I-3区SK05) (第84図)

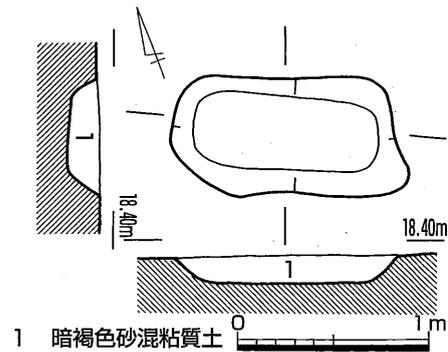
I-3区の中央やや西寄り、SK b07の南側に隣接して検出した土坑である。平面形は楕円形であるが東側がやや角張っている。長径0.94m、短径0.5m、深さ0.22mで、埋土は暗褐色粘質土の単一層である。微細な遺物が少量出土している。



第84図 SK b08平・断面図(1/40)



1 灰褐色粘質土
第85図 SK b 09平・断面図 (1/40)



1 暗褐色砂混粘質土
第86図 SK b 10平・断面図 (1/40)

SK b 09 (調査時遺構名: I-3区SK02) (第85図)

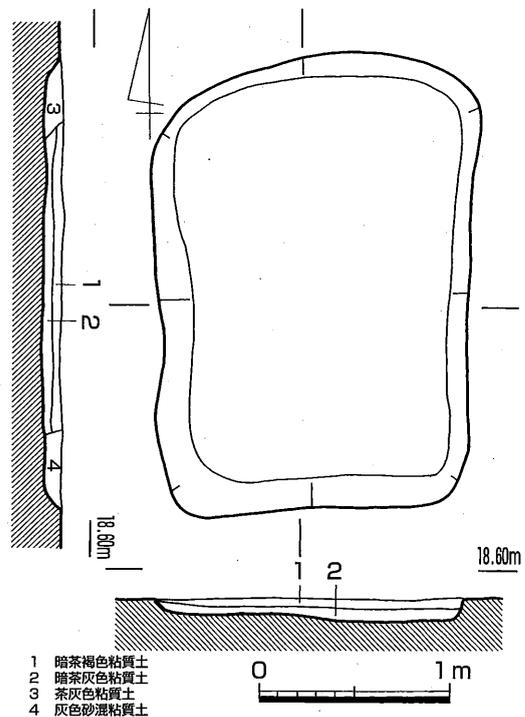
I-3区の南東部で検出した土坑で、東側をSD b 21により壊されている。平面形は楕円形と考えられ、長径の検出長は1.3m、短径0.7m、深さ0.28mである。埋土は灰褐色粘質土の単一層である。微細な遺物が少量出土している。

SK b 10 (調査時遺構名: I-4区SK02) (第86図)

I-4区の南東部で検出した土坑である。平面形は隅丸の長方形であるが、南東部分が少し突出している。長辺1.2m、短辺0.65m、深さ0.15mで、埋土は暗褐色砂混じり粘質土の単一層である。微細な遺物が少量出土している。

SK b 11 (調査時遺構名: I-4区SK09) (第87図)

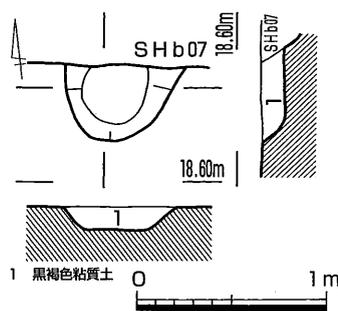
I-4区の中央部で、SH b 03の西側に隣接して検出した土坑である。平面形は長方形であるが北側がやや丸みを帯びている。長辺2.4m、短辺1.7mであるが、深さは0.12mとなっており残存状況は良くない。南北方向の土層断面によると、全体に北側近くから再掘削した状況で、その後に南側を部分的に再掘削しているようである。微細な遺物が少量出土している。



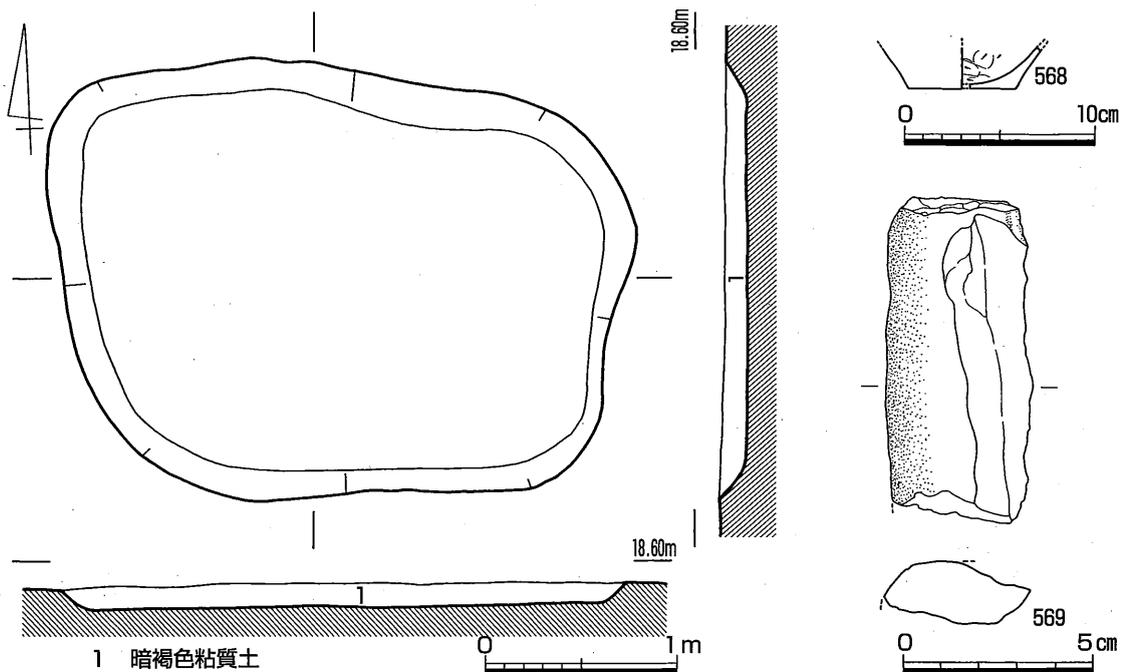
1 暗茶褐色粘質土
2 暗茶灰色粘質土
3 茶灰色粘質土
4 灰色砂混粘質土
第87図 SK b 11平・断面図 (1/40)

SK b 12 (調査時遺構名: I-4区SK20) (第88図)

I-4区の中央やや西寄りで検出した土坑で、北側部分をSH b 07に壊されている。検出部分は半円形である



1 黒褐色粘質土
第88図 SK b 12平・断面図 (1/40)



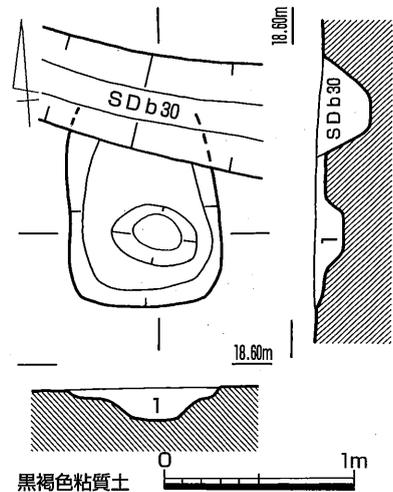
第89図 SK b 13平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4、1/2)

が、全体は円形になるか楕円形になるかは不明である。検出部分で南北方向0.4m、東西方向0.6m、深さは0.12mである。埋土は黒褐色粘質土の単一層である。微細な遺物が少量出土している。

SK b 13 (調査時遺構名：I-4区SK07) (第89図)

I-4区の中央やや西寄りで検出した土坑である。SK b 12の北西側に隣接し、SH b 07の廃絶後に掘削されている。平面形は隅丸の方形であるが、東側がやや湾曲している。南北方向2.3m、東西方向2.75~3.05mで東西方向に長くなっている。深さは0.12mで、埋土は暗褐色粘質土の単一層である。

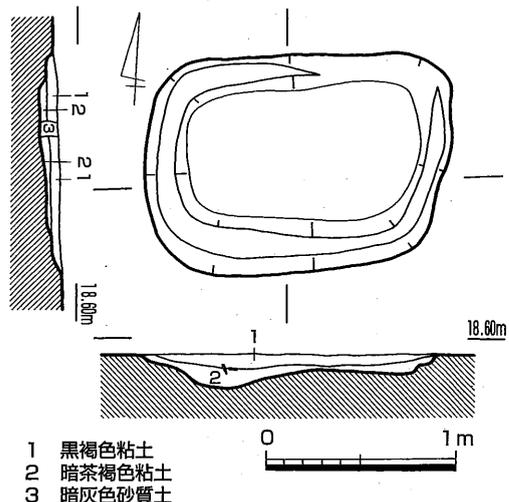
568は甕の底部と考えられ、内面にヘラケズリを施している。569は柱状片刃石斧の基部の破片で、結晶片岩製である。



第90図 SK b 14平・断面図 (1/40)

SK b 14 (調査時遺構名：I-4区SK18) (第90図)

I-4区の北西部で検出した土坑で、北側をSD b 30に壊されている。平面形は長方形と考えられ、長辺は検出部分で0.9m、短辺は0.8m、深さは0.16mである。底部は円形に一段低くなる部分がある。埋土は黒褐色粘質土の単一層である。微



第91図 SK b 15平・断面図 (1/40)

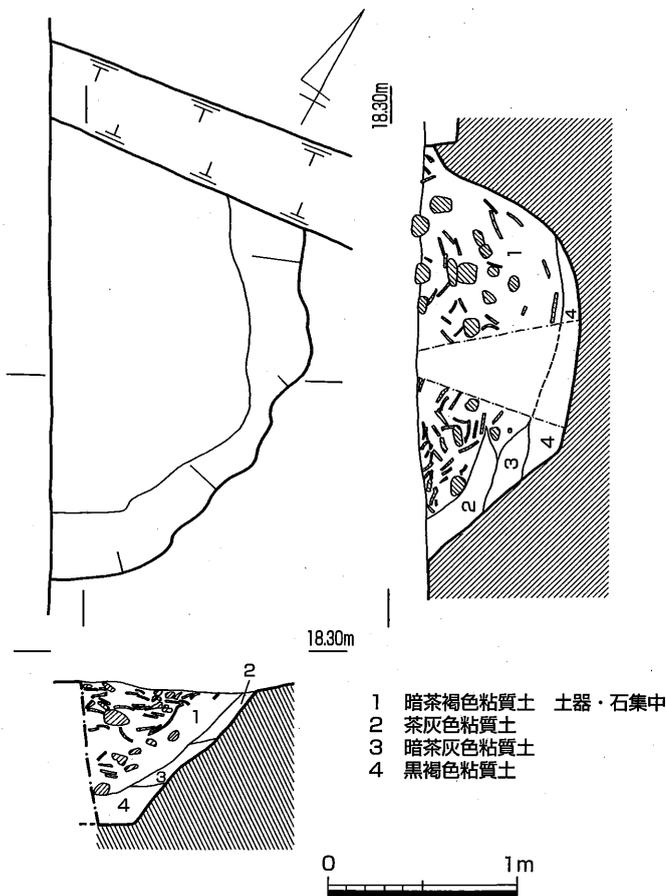
細な遺物が少量出土している。

SK b15 (調査時遺構名：I-4区SK04) (第91図)

I-4区の北西部で検出した土坑である。平面形は長方形で、長辺1.65m、短辺1.15m、深さ0.2mである。北東部以外の部分は段状に掘り込んでいる。底部の東側は平坦であるが、西側は窪んで低くなっている。埋土は上下2層に大別され、上層は黒褐色粘土が、下層は暗茶褐色粘土が堆積している。微細な遺物が少量出土している。

SK b16 (調査時遺構名：I-18区SK02、概報遺構名：SK11) (第92~97図)

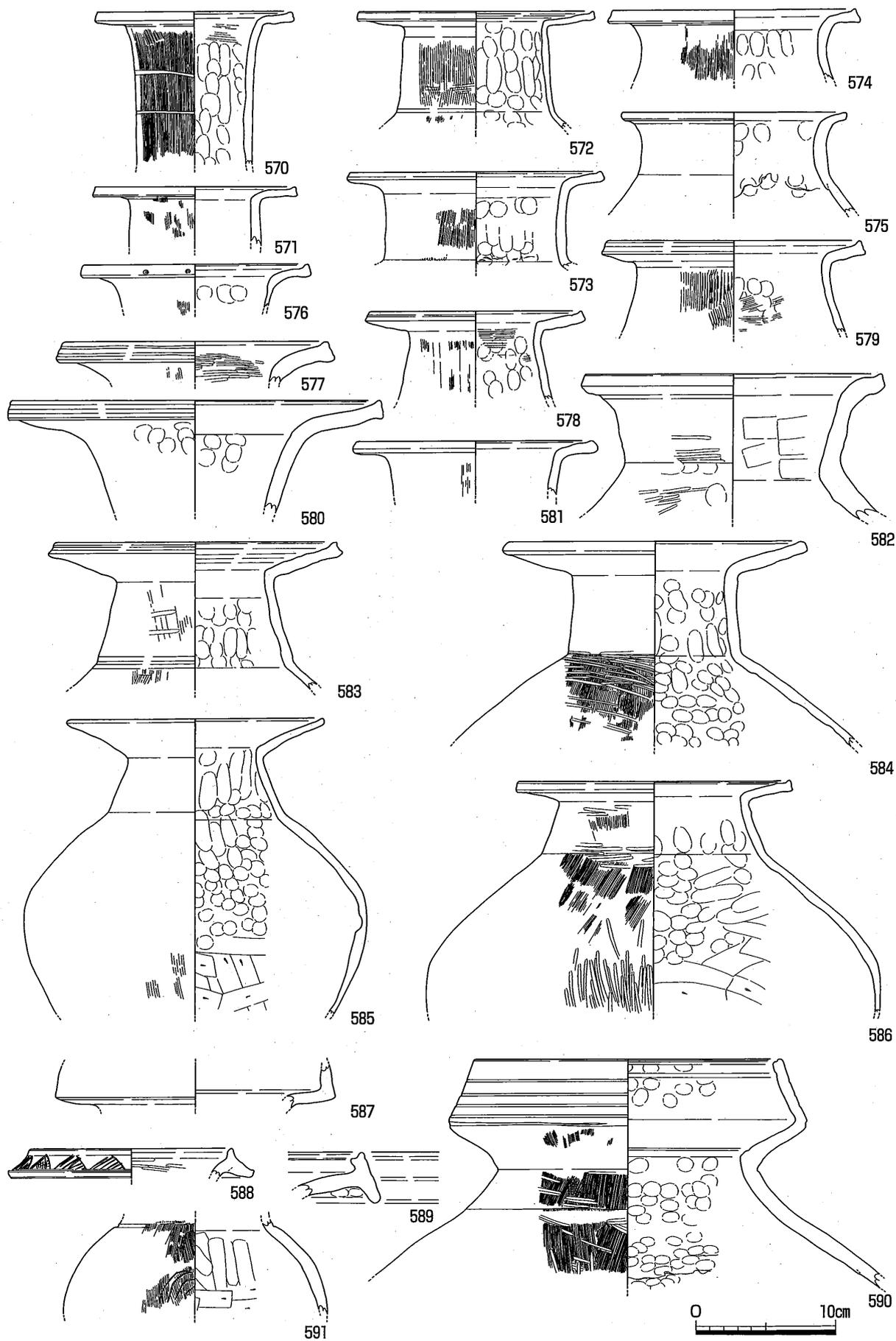
I-18区の東部で検出した土坑である。土坑の西側は調査区外になり、また北側は攪乱を受けているため、全体の形状や規模は不明である。北側は攪乱部を越えて検出されていないので、この攪乱の範囲内で収束するものである。検出部分で南北方向の長さ2.45m、東西方向の幅1.4m、深さ0.85mである。埋土は最下層に厚さ0.1~0.15mほど黒褐色粘質土が堆積しており、そこから検出面まで多量の土器を含んだ暗茶褐色粘質土が堆積している。土層断面の観察から、一度埋没した土坑が再掘削



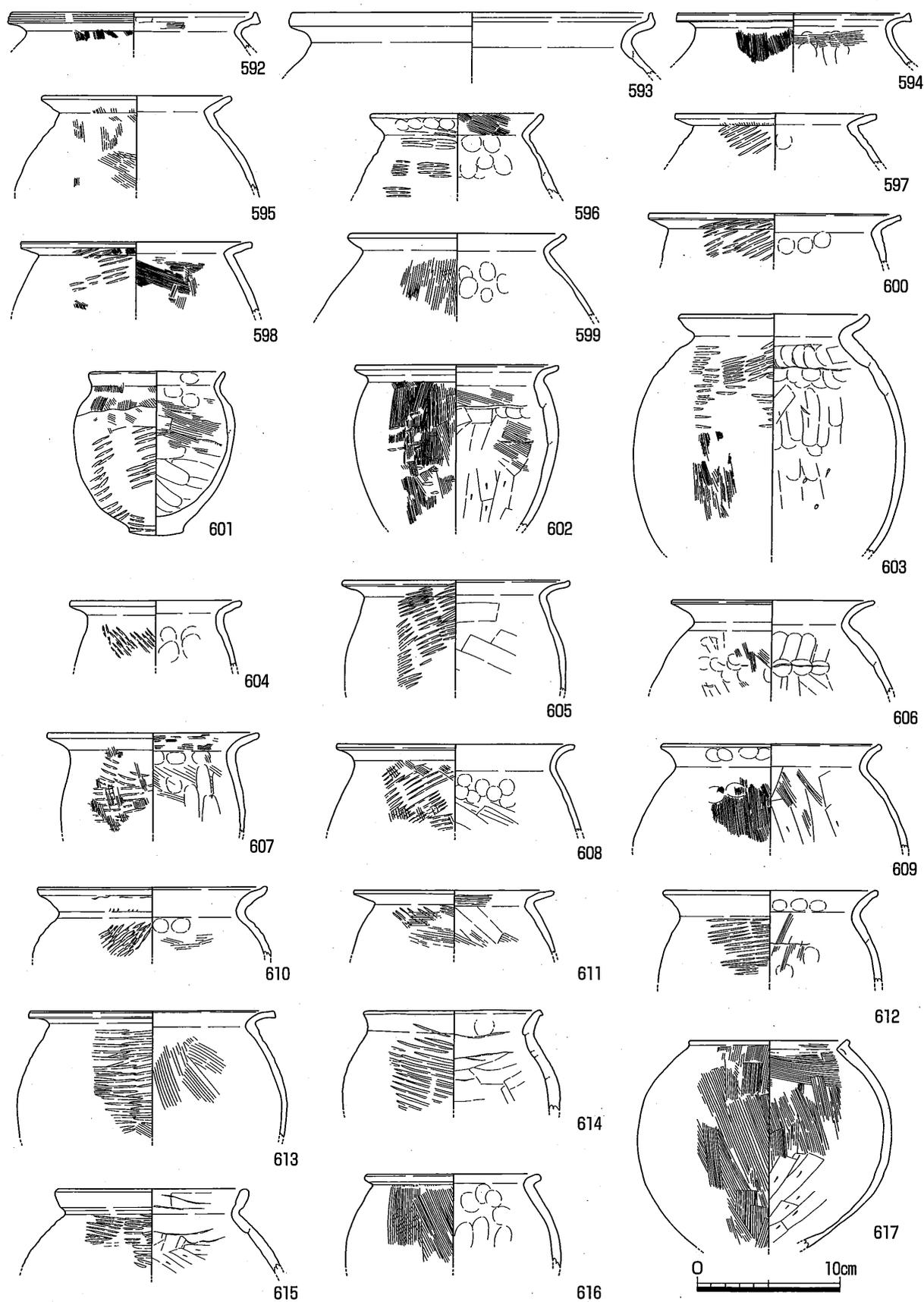
第92図 SK b16平・断面図 (1/40)



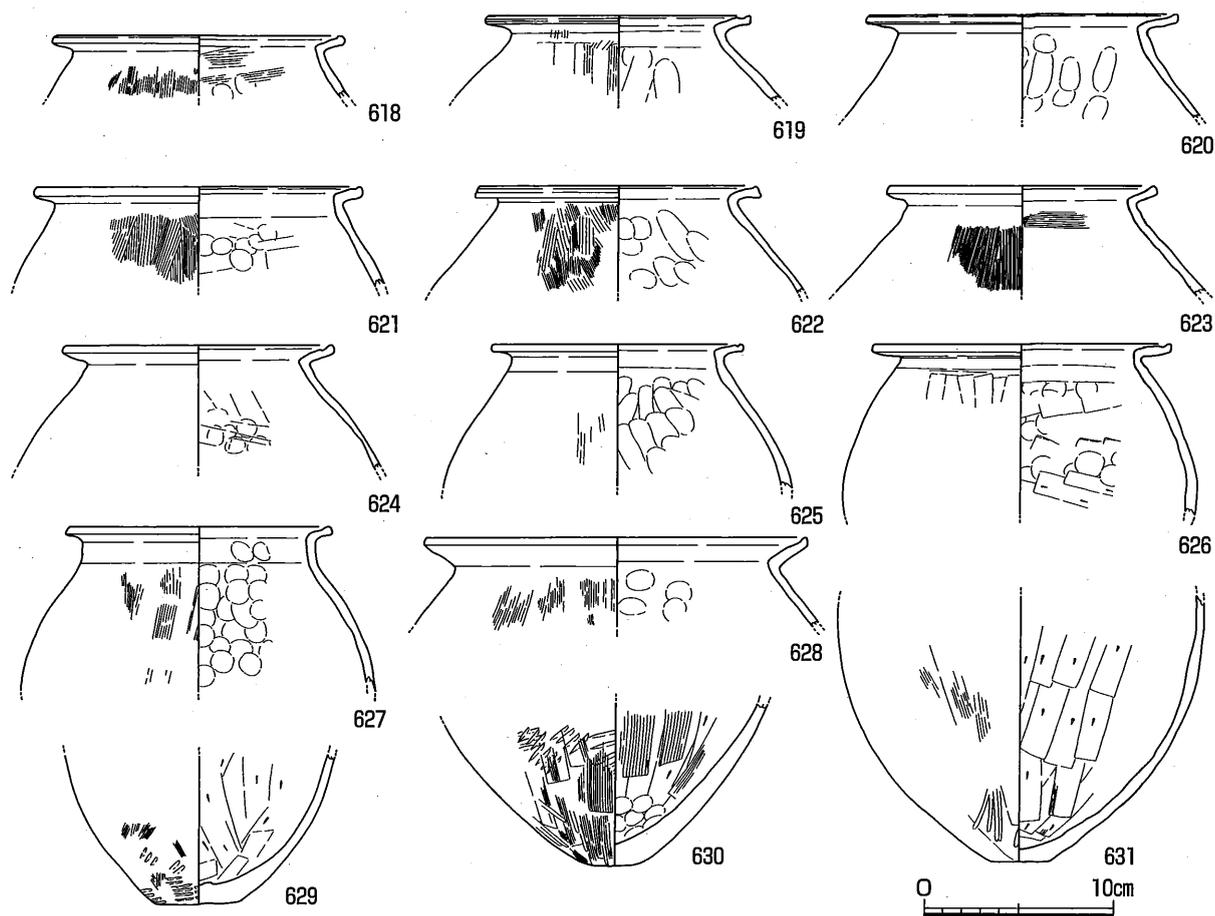
第93図 SK b16遺物出土状況図 (1/20)



第94図 SK b 16出土遺物 (1) (1 / 4)



第95図 SK b 16出土遺物 (2) (1/4)

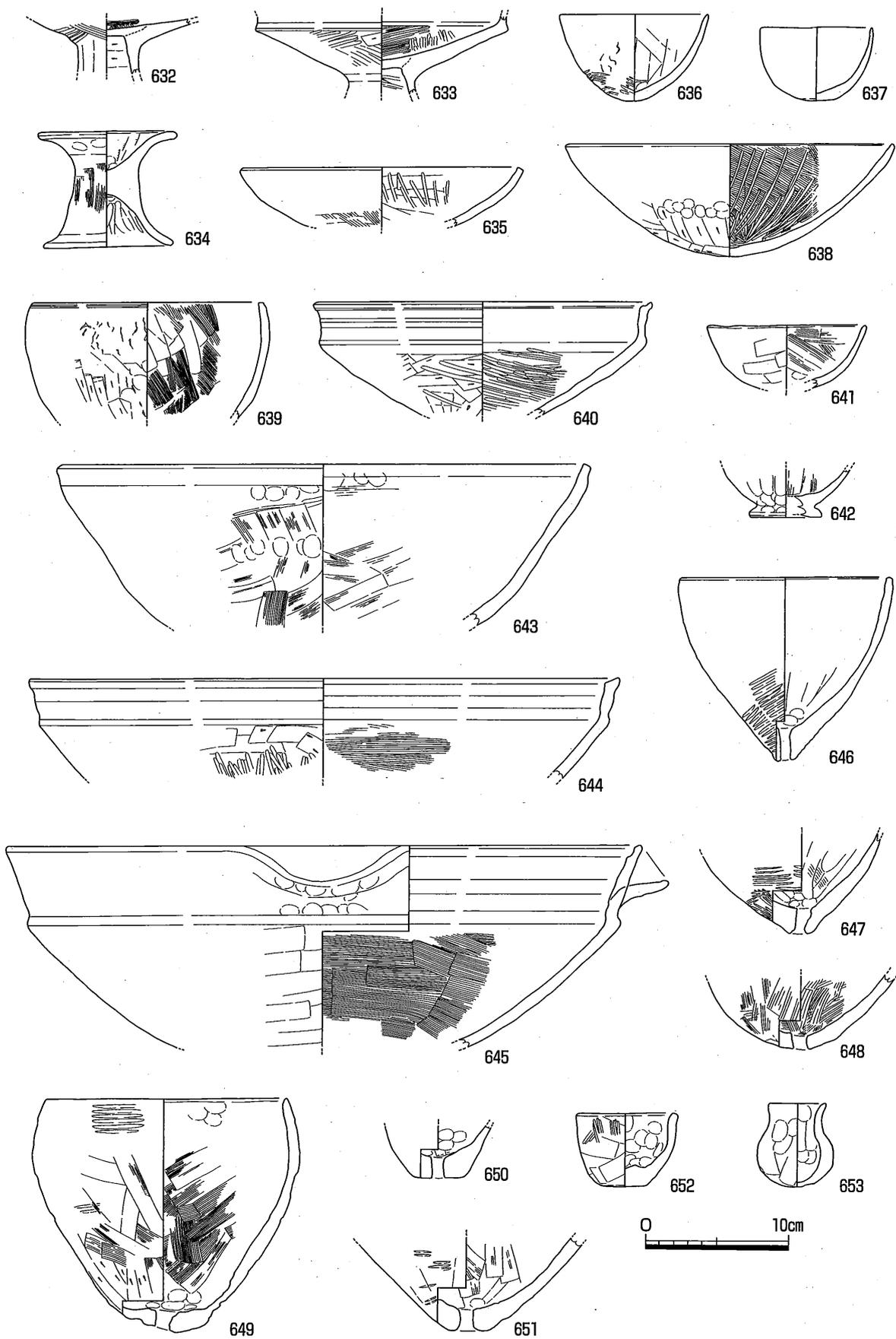


第96図 SK b 16出土遺物 (3) (1 / 4)

され、土器と礫が一度に投棄されたと考えられる。遺物は土坑の上部には細片が多く、中位から下部には大きな破片が目立った。

570～591は壺である。572の口縁部は長く、内面を強くナデている。頸部外面にはハケ目を施し、内面は指押さえが顕著である。574・575の頸部は外反している。576の口縁部端部外面には竹管文を施している。577の口縁部は肥厚しており、内面にヘラミガキを施している。578・579の頸部は内傾しており、580～582の頸部は外傾している。583の口縁部は長く、内面を強くナデている。584の頸部は直立している。体部外面にはハケ目の後にヘラミガキを施し、内面は指押さえが顕著である。585・586ともに体部内面の上半部は指押さえであるが、下半部にはヘラケズリを施している。587の二重口縁の壺の口縁部屈曲部である。588・589は口縁部端部を上下に大きく拡張しており、588は外面に鋸歯文を巡らせている。590は内傾する二重口縁をもち、外面には沈線が巡っている。体部外面にはハケ目の後に部分的にヘラミガキを施している。591の体部外面には絵画と考えられる線刻があるが、その内容は不明である。

592～628は甕である。592・593は口縁部端部を上方に拡張している。596・598・600・605の体部外面のタタキは口縁部まで及ぶ。597は胎土に結晶片岩を含んでいる。598の体部内面にはハケ目を施しているが、工具の角が当たって引きずったと考えられる痕跡がある。601の体部外面の上半部はハケ目であるが、板状工具でナデた痕跡がある。下半部にはタタキを施している。内面上半部はハケ目で、下半部



第97図 SKb16出土遺物(4)(1/4)

は指でナデている。602の体部上半部は肥厚している。外面はタタキの後にハケ目を施している。内面には粘土の接合痕が残っている。603の体部最大径は中央にあり、内面の粘土の接合部分には指押さえが顕著である。604の体部外面のハケ目は粗い。605・607・608・610～615は体部外面にタタキを施しているが、607・608・611はその後にハケ目を加えている。615は口縁部を継ぎ足している。617は体部からこのまま口縁部に至り、端部は内傾する面をもつ。体部外面と内面の上半部にはハケ目を施し、内面の下半部にはヘラケズリを施している。618～628は胎土に角閃石を含んでいる。いずれも口縁部内面の端部付近を強くナデている。629～631は甕の体部と考えられるが、630は壺になるかも知れない。

632・633は高杯で、杯部の内・外面にはヘラミガキを施している。両者とも杯部と脚部との接合は円盤充填である。634は器台と考えられる。受け部・脚部とも外反しているが、受け部のほうが浅く外反の度合いが強い。脚部の内面は棒状工具の先端部でナデている。

635～645は鉢である。636の体部外面下半部にはタタキが施されている。638の底部は丸底に近く不安定である。体部外面の下半部にはヘラケズリを施している。内面は丁寧にハケ目を施した後にヘラミガキを加えている。639の口縁部は僅かに内湾している。体部内面はハケ目の後に部分的にナデている。640は器面の残存状態が良好にもかかわらず体部外面がヘラケズリで、ヘラミガキが部分的であることと、高杯の杯部にしては深めになっているので、鉢と考えたものである。643の体部外面はハケ目の後にナデているが、微妙な凹凸があることからタタキがあったかも知れない。645には注ぎ口がある。

646～651は甌である。649の口縁部外面にはタタキを施している。底部付近の器壁は外面のヘラケズリと内面の指押さえによって薄くなっている。

652・653はミニチュア土器で指押さえとナデで整形しているが、652の外面にはヘラミガキを施している。

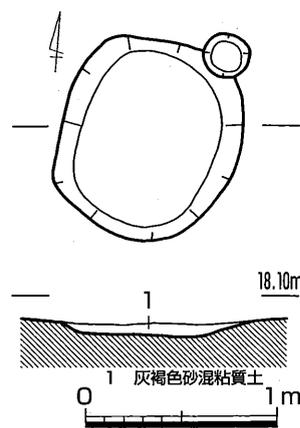
570などの弥生時代後期中葉の土器を少量含むものの、大部分の出土遺物からSKb16は弥生時代後期後半の所産と考えられる。

SKb17 (調査時遺構名：I-19区SK08) (第98図)

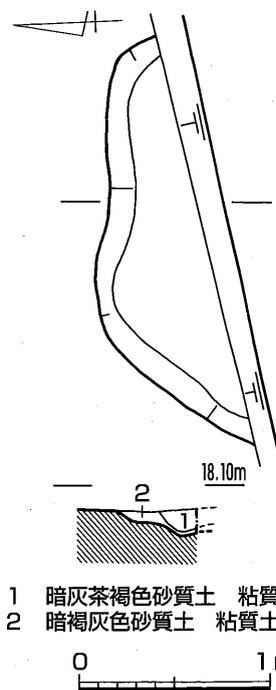
I-19区の東部で検出した土坑である。平面形は概ね円形であるが、北西と南西がやや角張っている。直径1.05mであるが、深さは0.08mと浅くなっている。埋土は灰褐色砂混じり粘質土の単一層である。微細な遺物が少量出土している。

SKb18 (調査時遺構名：I-19区SK10) (第99図)

I-19区の東部で検出した土坑である。南側は調査区外になるため全体の形状と規模は不明である。検出部分で東西方向2.25m、南北方向0.65m、深さ0.15mである。埋土は暗褐色灰色系の砂質土が主体となっている。微細な遺物が少量出土している。



第98図 SKb17平・断面図 (1/40)



第99図 SKb18平・断面図 (1/40)

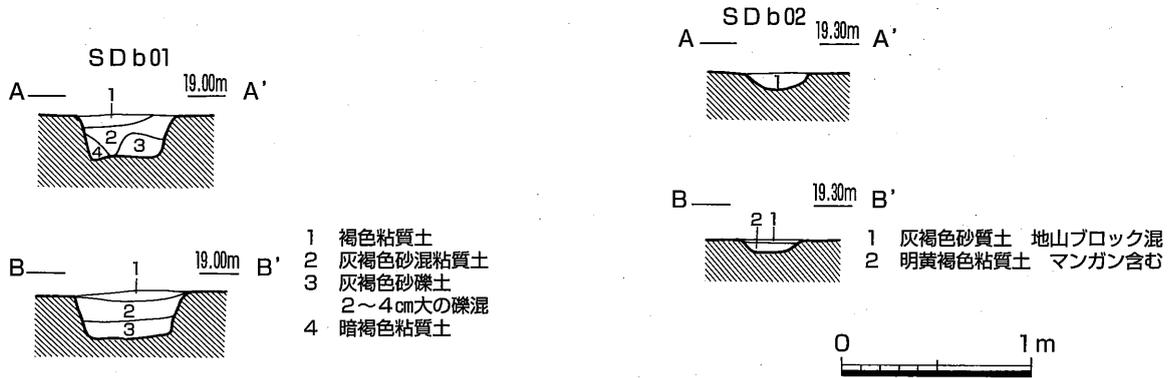
溝

SD b01 (調査時遺構名：I-1区SD10) (第100図)

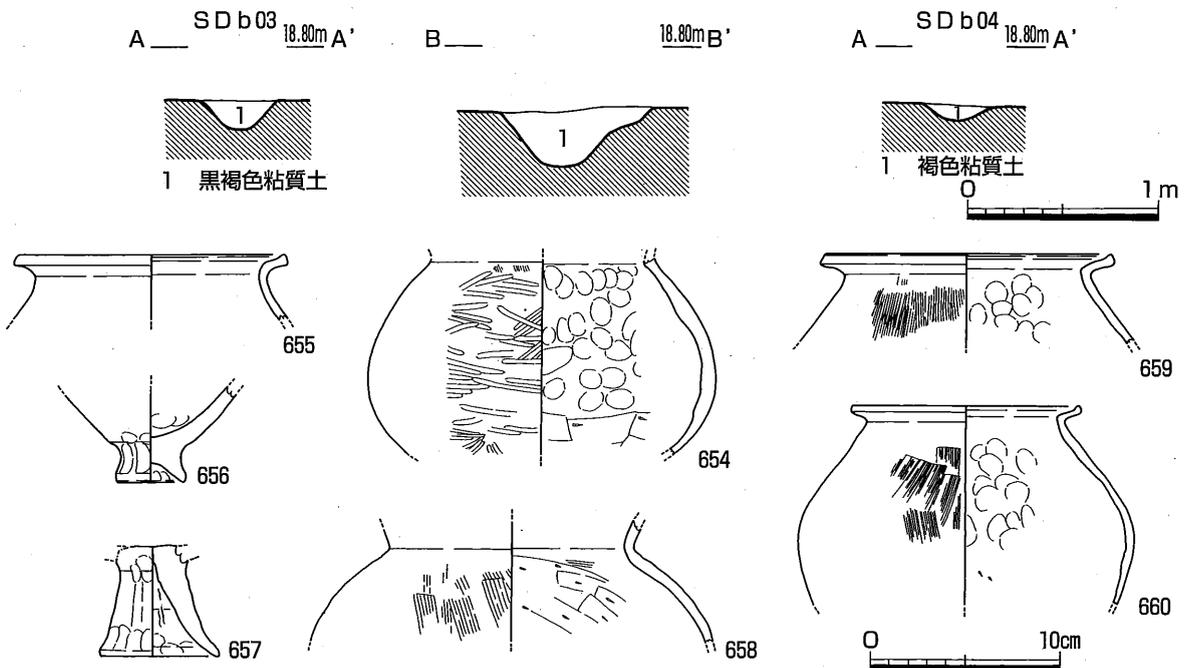
I-1区の北東部で検出した南北方向の溝である。南端部を後述する弥生時代後期のSX b01に壊されている。南側が南東に向かって曲がっている。検出部分で長さ9.0m、幅0.5~0.6m、深さは0.26mである。掘り込みは急な部分が多く、底部は西側が少し低くなっている。埋土は褐色~灰褐色の粘質土が中心であるが、最下層には細礫を含んだ灰褐色砂礫土が堆積している。遺物は出土していない。

SD b02 (調査時遺構名：I-21区SD01) (第100図)

I-21区の西部で検出した南北方向の溝であるが、全体にやや西に傾いている。北側は調査区外に続いて行くが、南側は柱穴に壊されて調査区内で収束する。検出部分で長さ3.2m、幅0.3m、深さは0.06~0.1mである。全体に浅く、掘り込みも緩やかである。灰褐色砂質土が堆積している部分が多い。微



第100図 SD b01・02断面図 (1/40)



第101図 SD b03・04断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

細な遺物が少量出土している。

SD b03 (調査時遺構名：I-3区SD02) (第101図)

I-3区の南東部で検出した北東-南西方向の溝である。北東側は緩く曲がり調査区外に続いて行く。検出部分で長さ21.0m、幅0.4~0.8m、深さ0.16~0.28mである。北東の調査区壁際付近は他の部分より幅が広く、掘り込みも緩やかで深くなっている。埋土は黒褐色粘質土の単一層である。

654~657がSD b03から出土している。654は壺の体部で、外面にはヘラミガキを施している。内面上半部には指押さえが顕著で、下半部にはヘラケズリを施している。655は胎土に角閃石を含んでいる。656は鉢で、底部に脚台が付いている。657は高杯の脚部で、杯部とは差込みによって接合している。

SD b04 (調査時遺構名：I-3区SD11) (第101図)

I-3区の南部で検出した東西方向の溝である。長さ7.6m、幅0.3~0.6m、深さ0.08mである。掘り込みは緩やかで、全体に浅い。埋土は褐色粘質土の単一層である。

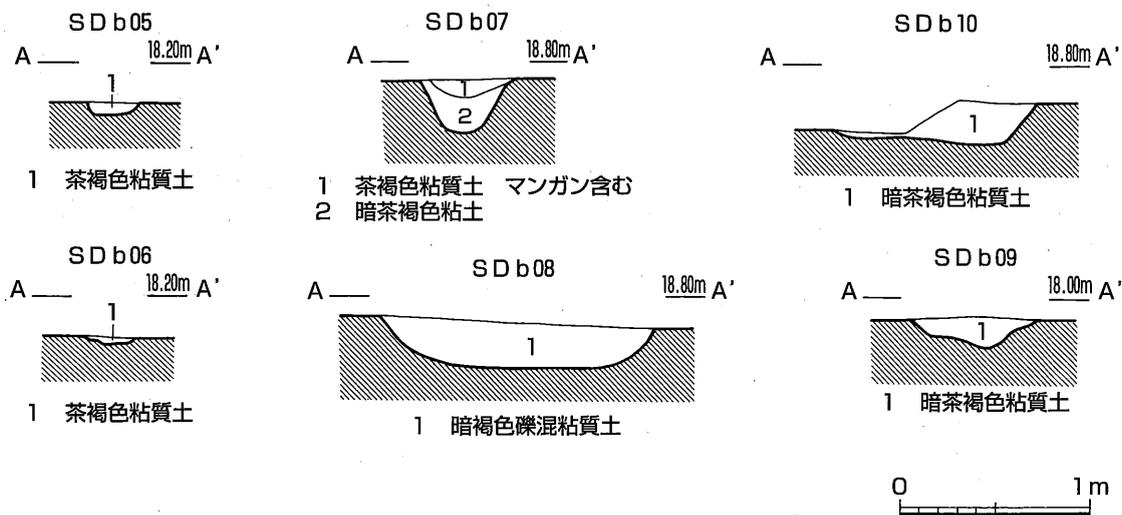
658~660がSD b04から出土している。いずれも甕で659と660は胎土に角閃石を含んでいる。SD b04は周囲の古代以降の溝群と同じ方向であるが、遺物は細片を含めてすべて弥生時代であったので、弥生時代の遺構として報告しておく。

SD b05 (調査時遺構名：I-19区SD13) (第102図)

I-19区の東部で検出した南北方向の溝である。北側は調査区外に続いて行き、南側は途中で削平されている。検出部分で長さ5.0m、幅0.25~0.6m、深さ0.08mである。中央部分が広がっており、埋土は茶褐色粘質土の単一層である。微細な遺物が少量出土している。

SD b06 (調査時遺構名：I-19区SD14) (第102図)

I-19区の東部でSD b05の西側に隣接して検出した南北方向の溝で、SD b05と並行している。SD b05と同様に北側は調査区外に続いて行き、南側は途中で削平されている。検出部分で長さ1.4m、

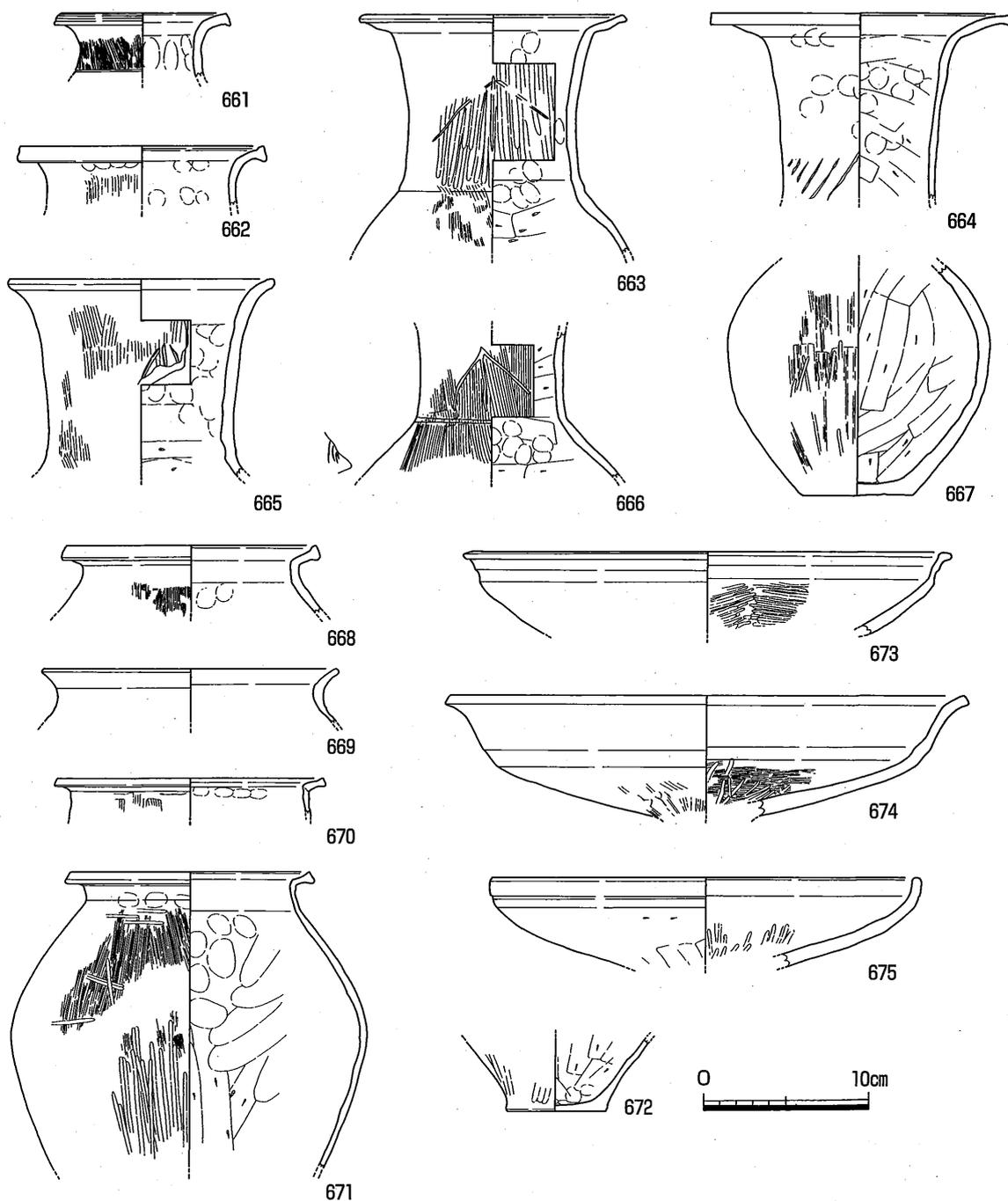


第102図 SD b05・06・07・08・09・10断面図 (1/40)

幅0.25m、深さ0.06mである。部分的に段状に掘り込まれており、埋土は茶褐色粘質土の単一層である。微細な遺物が少量出土している。

S D b 07 (調査時遺構名：I - 19区 S D 22) (第102図)

I - 19区の西部で検出した東西方向の溝である。東側は調査区外に続いてゆき、西側も一部調査区外になるが、後述する弥生時代後期の S D b 08 と重なったところで収束する。検出部分の長さは、S D b 08 との交点部分から測って 22.0m、幅 0.45~0.8m、深さ 0.28m である。溝の断面は U 字形で、埋土は上



第103図 S D b 08出土遺物 (1 / 4)

下2層に大別される。下層の暗茶褐色粘土のほうが厚く堆積している。微細な遺物が少量出土している。

S D b 08 (調査時遺構名：I - 19区 S D 23) (第102・103図)

I - 19区の西部で検出した北東 - 南西方向の溝である。溝の途中で調査区外の部分があり、南西側は調査区外に続いて行き、北東側はI - 7区に続いて行く。検出部分の長さは両端部で測って17.0m、幅1.4~2.1m、深さ0.25mである。掘り込みは緩やかで、底部も平坦な部分が多い。埋土は暗褐色礫混じり粘質土の単一層で、底部付近に拳大から人頭大の礫が多く堆積していた。北東側はI - 7区で自然流路として認識していたものに続くようである。

溝の下層付近で礫とともに土器が出土している。661~667は壺である。663・665・666の頸部外面には記号の線刻があり、同じような図柄である。さらに666は体部の図化した部分の裏側にも細かい絵画状の線刻が認められる。664の頸部外面にはヘラ圧痕文が巡っている。668~672は甕で、669以外は胎土に角閃石を含んでいる。671の体部外面はハケ目の後に下半部を中心にヘラミガキを施している。内面は上半部に指押さえと指ナデ、下半部にはヘラケズリを施している。673~675は高杯である。673は口縁部の内・外面を強くナデている。杯部外面は摩滅しているが、内面にはヘラミガキが認められる。674の口縁部は外反し、675の口縁部は杯部から内湾して真上を向く。

673のようにやや古い要素を示すものもあるが、S D b 08は弥生時代後期中葉に埋没したと考えられる。

S D b 09 (調査時遺構名：I - 18区 S D 11) (第102図)

I - 18区の東部で検出した東西方向の溝である。西側は調査区外に続いて行き、東側は削平されている。検出部分で長さ1.8m、幅0.65m、深さ0.16mである。底部の中央部分が一段低くなっている。埋土は暗茶褐色粘質土の単一層である。微細な遺物が少量出土している。

S D b 10 (調査時遺構名：I - 19区 S D 24・25) (第102図)

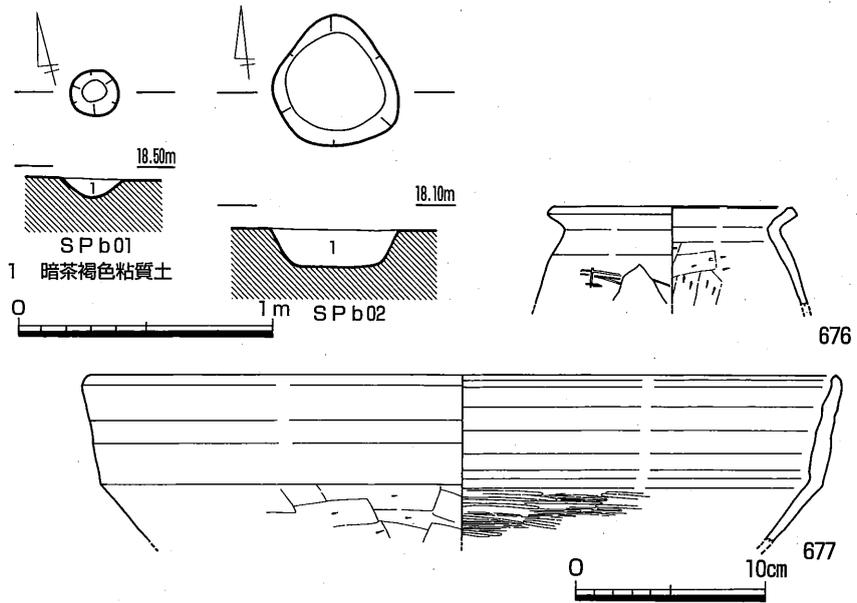
I - 19区の西端で検出した溝である。東側は調査区外に続いて行き、西側は二又に分岐してそれぞれ北西方向と南西方向に向かう。分岐点に土層観察ベルトを設定して土層の観察を行なった結果、両者に前後関係は認められず、同一時期のものと考えられたため一つの溝として取り扱った。溝の上面は削平を受けている部分がある。検出部分でそれぞれ3.5m、幅0.2~1.2m、深さ0.22mである。分岐して北西方向に向かう溝の方が幅が広がっている。埋土は暗茶褐色粘質土の単一層である。微細な遺物が少量出土している。

柱穴・小穴

S P b 01 (調査時遺構名：I - 4区 S P 31) (第104図)

I - 4区の中央やや北西寄りにあり、後述する古代の溝であるS D b 30の埋土の除去後に検出したものである。上部はS D b 30により削平されている。平面形は直径0.22mの円形で、深さは0.07mと残状況は良くない。埋土は暗茶褐色粘質土の単一層である。

676の甕が出土している。体部外面には絵画状の線刻の一部が認められるが、その内容は不明である。内面にはヘラケズリを施している。



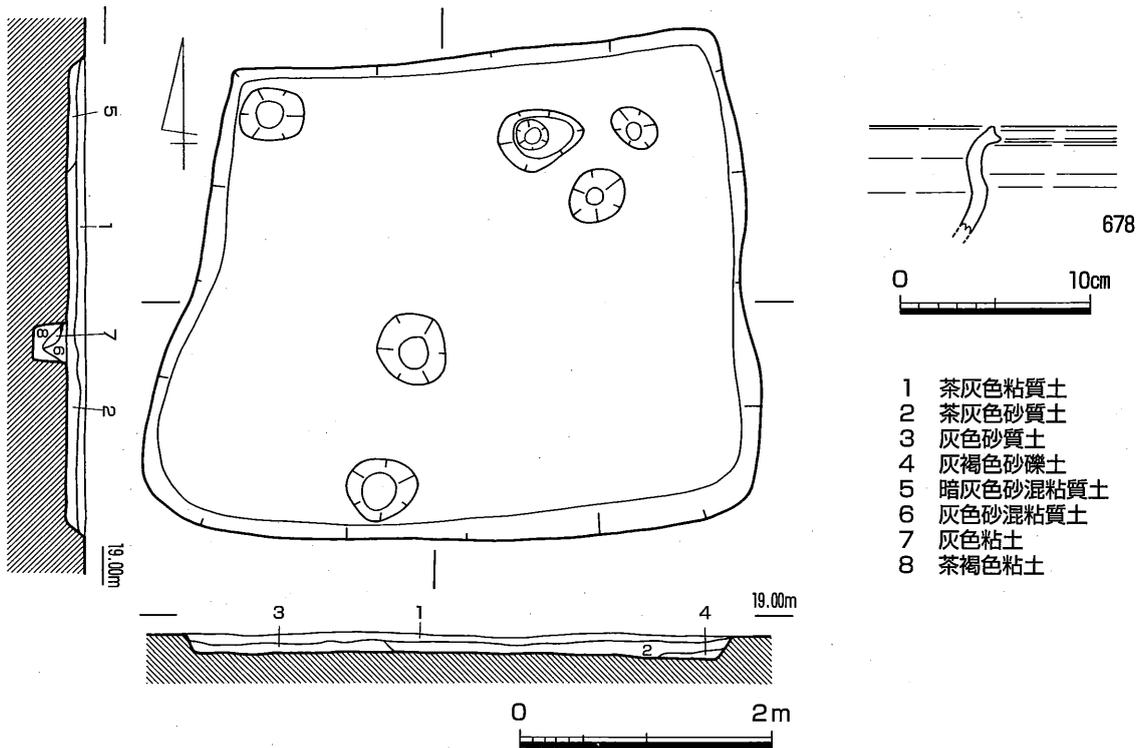
SPb02 (調査時遺構名: I-19区SP57) (第104図)

I-19区の東部で検出し、弥生時代後期のSDb05の埋没後に掘削されている。平面形は隅丸の方形であるが、北側が突

出している。一辺0.5m前後で、深さは0.15m、埋土は暗茶褐色粘質土の単一層である。

677の鉢が出土している。口縁部は長く、内面を強くナデている。体部外面にはヘラケズリを、内面にはハケ目の後にヘラミガキを施している。胎土に角閃石を含んでいる。

第104図 SPb01・02平・断面図 (1/30)、出土遺物 (1/4)



第105図 SXb01平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

不明遺構

S X b 01 (調査時遺構名: I - 1区 S X 01) (第105図)

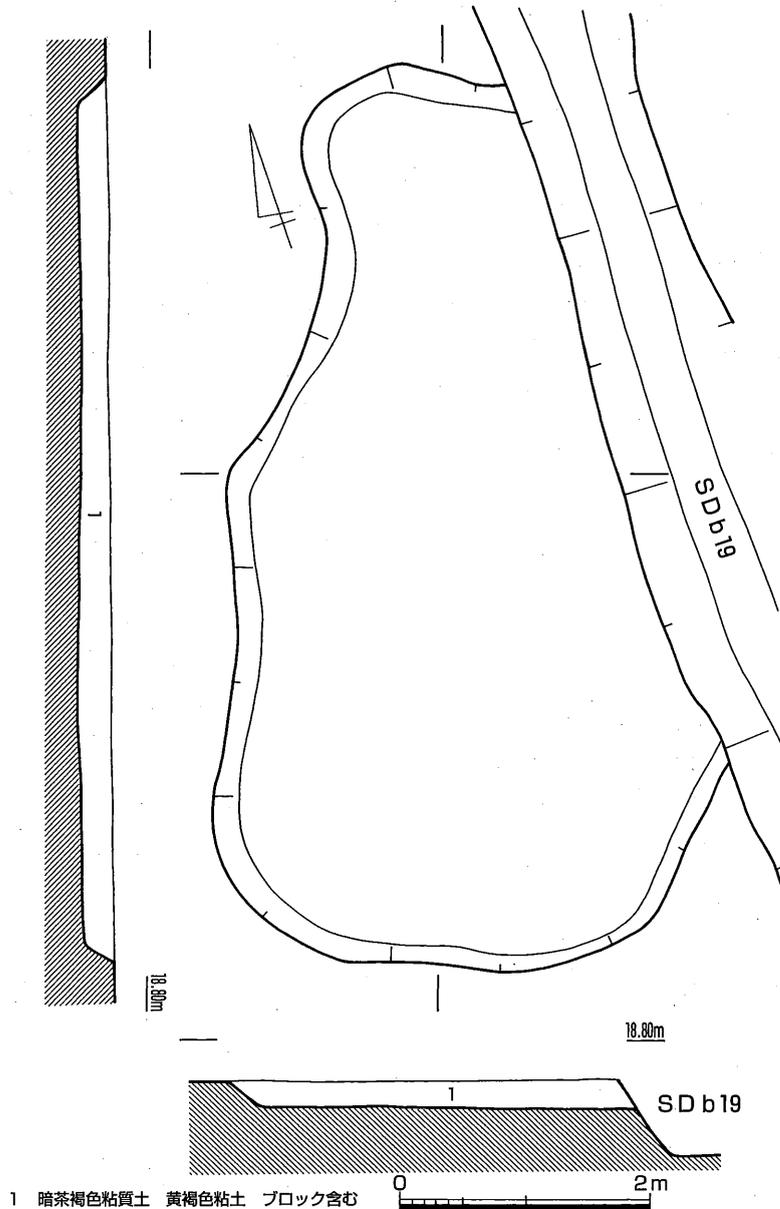
I - 1区の中央やや北東寄りで検出した遺構である。平面形は方形であるが、南西部分が丸みを帯びている。南北方向3.9m、東西方向は北側で3.8m、南側で4.8mである。深さは0.16mで、埋土は茶灰色の粘質土と砂質土が主体となっている。

竪穴住居跡に似ているが、床面で支柱穴が復元できないことや土坑などの施設が検出されなかったことから不明遺構としたが、あるいは簡易な小屋のような施設であったのかもしれない。

遺物の出土は少ない。678は鉢で、口縁部は外反しており、端部を強くナデている。

S X b 02 (調査時遺構名: I - 3区 S X 02) (第106図)

I - 3区の南東部で検出した遺構で、北東部分を古代の溝 S D b 19 に壊されている。全体の平面形は不明であるが、S D b 19 を越えて東側で検出されていないことから、S D b 19 の範囲内で復元しても全体に不整形になる。北東 - 南西方向の長さ7.1m、北西 - 南東方向の幅は検出部分で4.0mである。深さは0.25mで、底部は全体に平坦である。埋土は暗茶褐色粘質土の単一層であり、地山である黄褐色粘土のブロックを含んでいる。微細な遺物が少量出土している。



第106図 S X b 02平・断面図 (1 / 60)

S X b 03 (調査時遺構名: I - 21区 S X 10) (第107図)

I - 21区の東部で検出した遺構である。東側部分を古代の溝 S D b 21 と未報告であるが I - 21区 S D 32 によって壊されている。平面形は不整形で、北側は幅広であるが、南側は狭く溝状になっている。

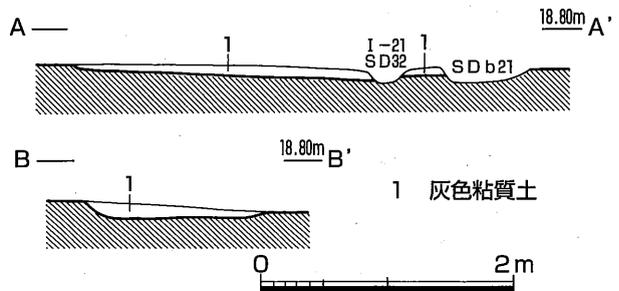
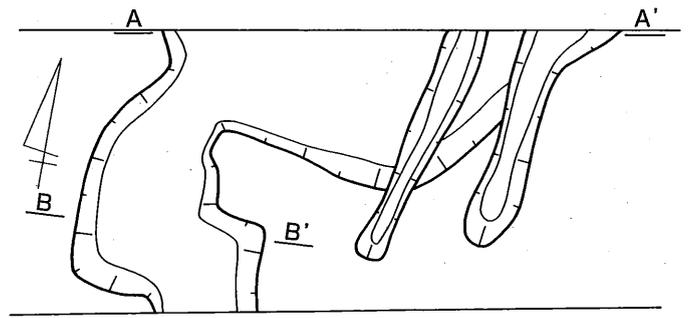
東西方向は、北側の検出部分で3.0m、南側の部分で0.8~1.5mである。深さ0.12mで、埋土は灰色粘質土の単一層である。微細な遺物が少量出土している。

S X b 04 (調査時遺構名：I - 18区 S X 02) (第108図)

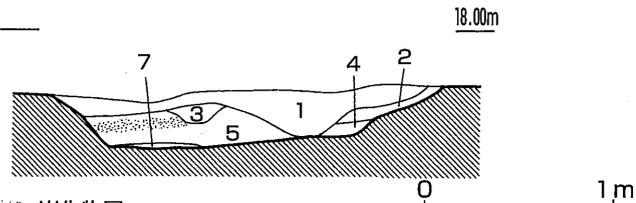
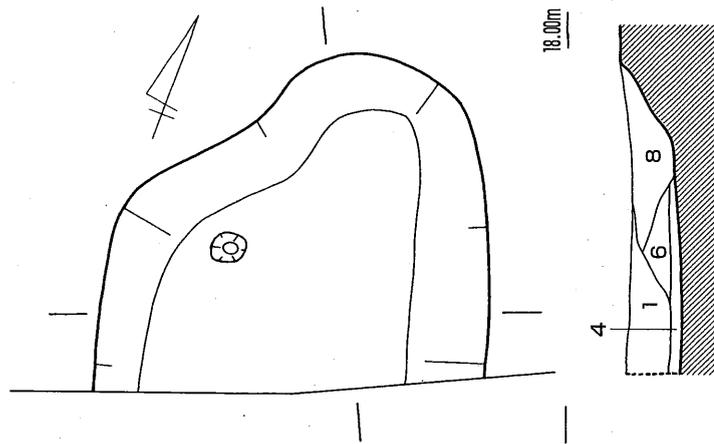
I - 18区の北東隅で検出した遺構で、南側は調査区外に続いて行く。検出部分は北西部分が内側に湾曲している。検出部分の南北方向は1.75m、東西方向は2.1mである。深さは0.3mで、底部は東から西に向かって緩やかに下っている。掘り込みは全体的に緩やかで、東側は僅かに段状になる。また底部で小穴を1基検出した。埋土には炭化物や地山ブロックなどを含むことから、埋め戻しが行なわれている。最終的には中央部分が再掘削されている。微細な遺物が少量出土している。

S X b 05 (調査時遺構名：I - 19区 S X 03) (第109~111図)

I - 19区の西部で検出した遺構である。北側は調査区外に続くが、北側のI - 7区では検出されていないことから、調査区境界部分で収束するものと考えられる。検出部分の平面形は南側が先細りになる三角形である。南北方向の長さは5.2m、東西方向の幅は4.1mである。東側の部分は後述するS X b 07と重なり類似した埋土のため平面的に検出することは出来なかったが、断面の観察により



第107図 S X b 03平・断面図 (1/60)



炭化物層

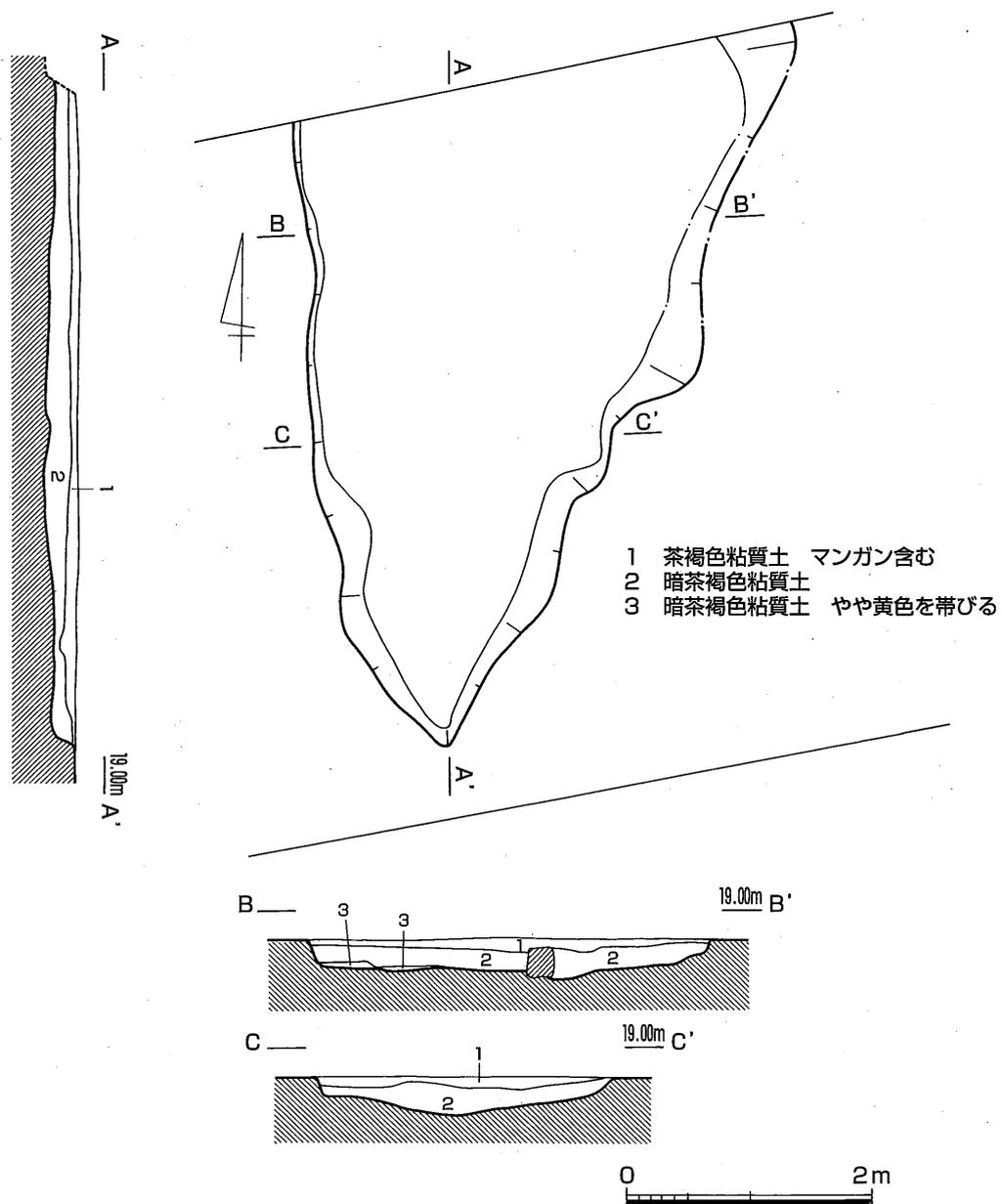
- | | | | |
|-----------|-----------|---------|-------|
| 1 灰茶色砂質土 | 5 褐灰色砂質土 | 黄色土ブロック | 炭化物含む |
| 2 暗灰褐色粘質土 | 6 褐灰色砂質土 | | |
| 3 茶褐灰色砂質土 | 7 白褐色シルト | | |
| 4 茶灰色砂質土 | 8 白茶褐色シルト | 6の土混 | |

第108図 S X b 04平・断面図 (1/40)

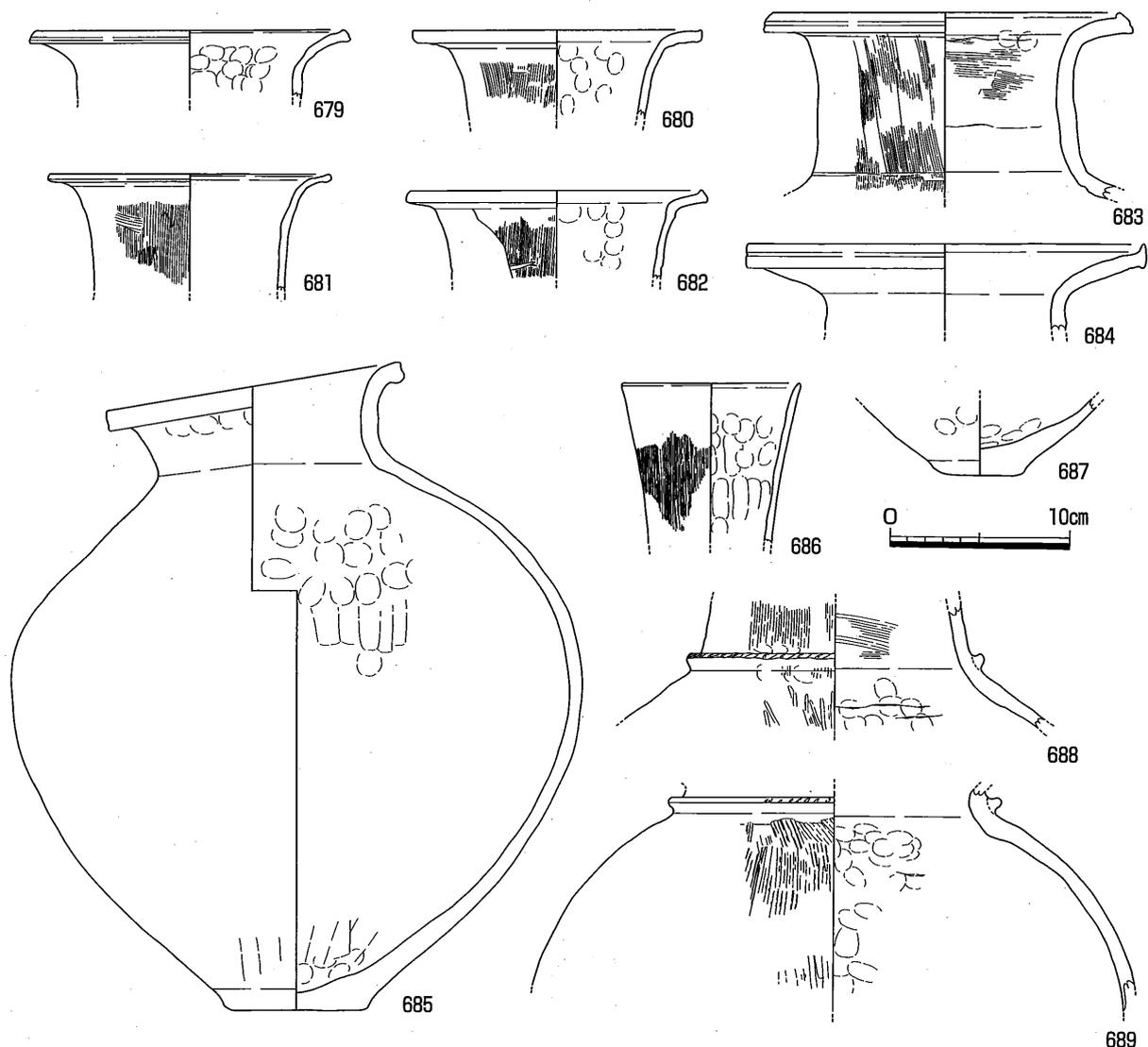
S X b 05はS X b 07より後出することが確認された。深さは0.3mで、底部は若干の凹凸が見られ、B-B'部分には大きめの角礫が出土したが、人為的な痕跡は認められなかった。埋土は上下2層に大別され、上層には茶褐色粘質土が、下層には暗茶褐色粘質土がそれぞれ堆積していた。

遺物は上層、下層を含めて多く出土している。679～689は壺である。679・680・681は頸部内面に指押さえが顕著である。また682の頸部外面には記号と考えられる線刻の一部が認められる。683は口縁部端部を上方に拡張し、頸部の内・外面にハケ目を施している。685は口縁部から頸部にかけて歪んでいる。体部最大径は中央にあり、全体に摩滅している。686は細頸壺である。688・689の頸部と体部の境には刻目突帯が巡っている。

690～698は甕である。690の体部外面にはタタキの後にハケ目を施している。内面は下半部にヘラケ



第109図 S X b 05平・断面図 (1/60)



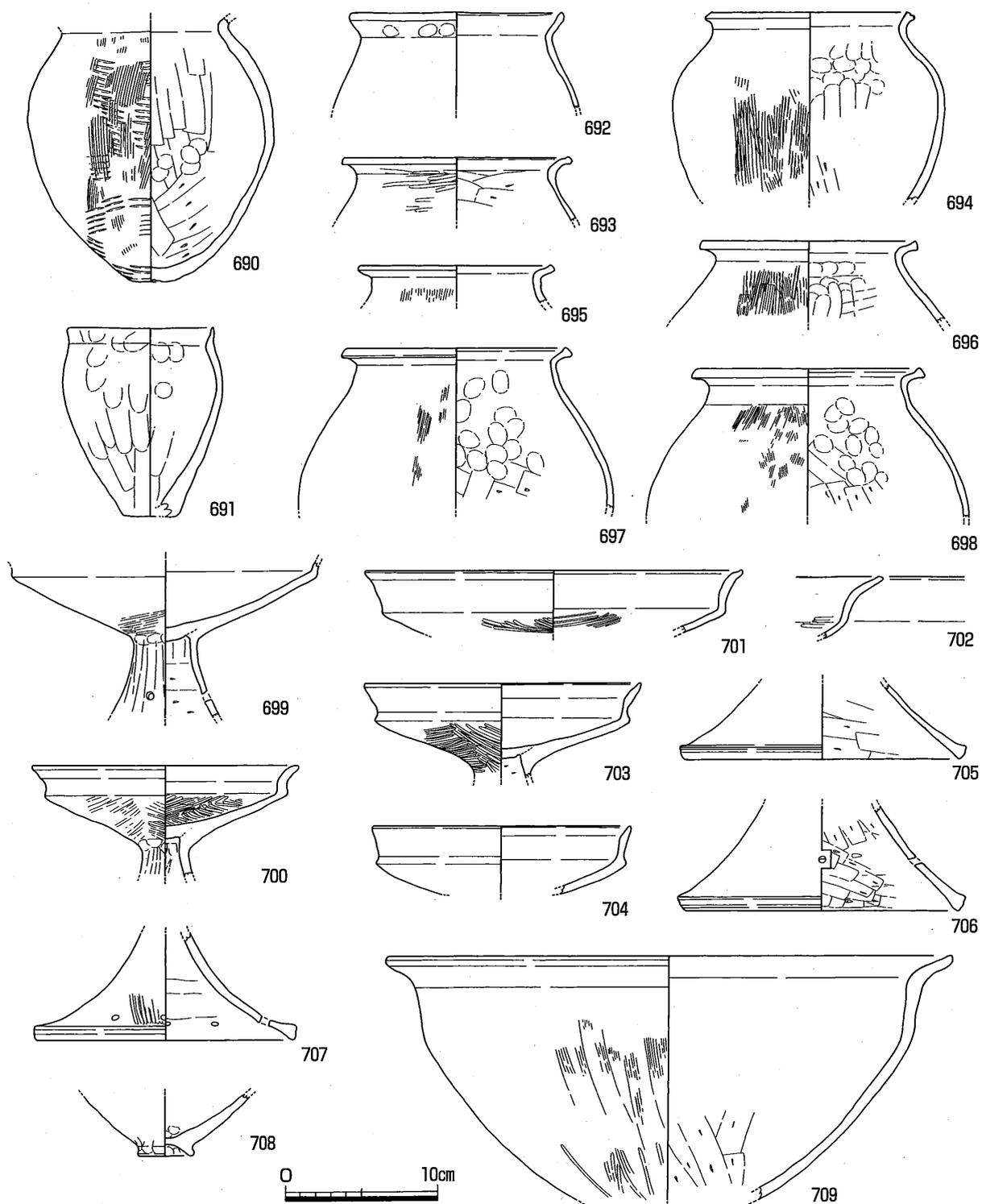
第110図 S X b 05出土遺物 (1) (1 / 4)

ズリを施している。胎土には結晶片岩を含んでいる。691の口縁部は直線的で、端部は先細りになる。底部付近の器壁は肥厚している。693の口縁部は外反し、端部付近を強くナデている。体部外面にはヘラミガキを横方向に施している。695～698は胎土に角閃石を含んでいる。

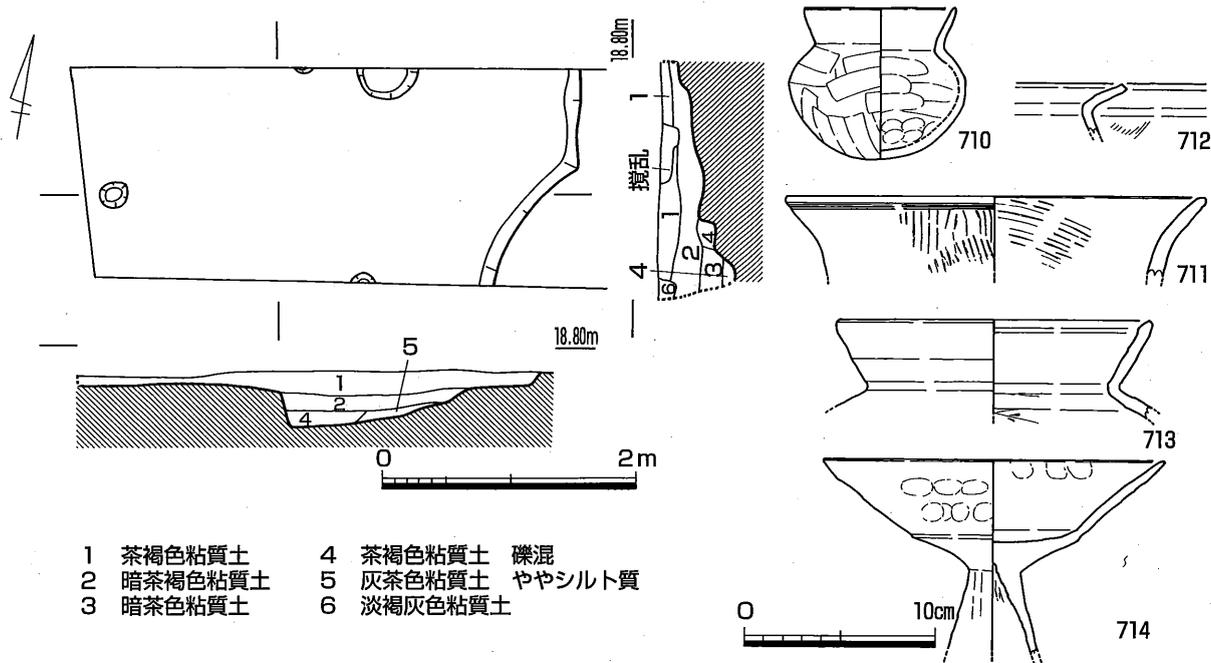
699～707は高杯である。699の杯部は摩滅しているが、外面にヘラミガキが僅かに残っている。脚部には3方透かしがあり、杯部との接合は円盤充填による。700の口縁部は外反し、杯部は内・外面に格子状にヘラミガキを施している。脚部との接合は円盤充填である。703の口縁部は直線的に屈曲しており、端部は先細りになっている。杯部の内面は摩滅しているが、外面には格子状にヘラミガキを施している。脚部との接合は円盤充填である。704はあるいは鉢になるかも知れない。705～707の脚部端部は幅広の面をもつ。706・707は現存で2個の透かし穴がある。

708・709は鉢である。708は底部に低い脚台が付く。709の口縁部は直線的に開く。体部は外面にハケ目、内面の下半部にヘラケズリを施す。

出土遺物からS X b 05は弥生時代後期中葉の所産と考えられる。



第111図 SX b05出土遺物 (2) (1 / 4)



第112図 SX b06平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

SX b06 (調査時遺構名: I-18区SX01) (第112図)

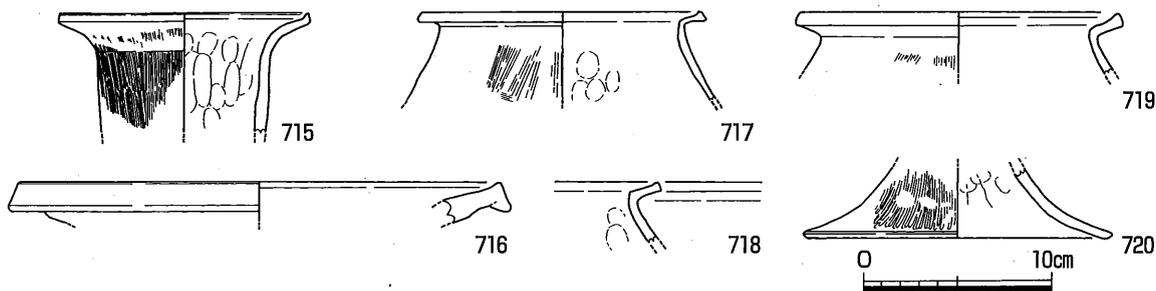
I-18区の西端部で検出した遺構である。細いトレンチ状の調査区で東西方向3.9mが検出されたのみで、全体の形状や規模は不明である。平面図では図示されていないが、南側部分が深く掘り込まれている。底部には小穴が4基認められる。埋土は茶褐色系の粘質土が主体となっている。

710は小型丸底壺である。口縁部は直線的で、体部はやや扁平で最大径は上半部にある。711も壺で、口縁部の内・外面のハケ目は粗い。713は甕で、口縁部内面を内側に肥厚させている。714は高杯で杯部の屈曲部は下半部にある。

出土遺物からSX b06は古墳時代前期の所産と考えられる。

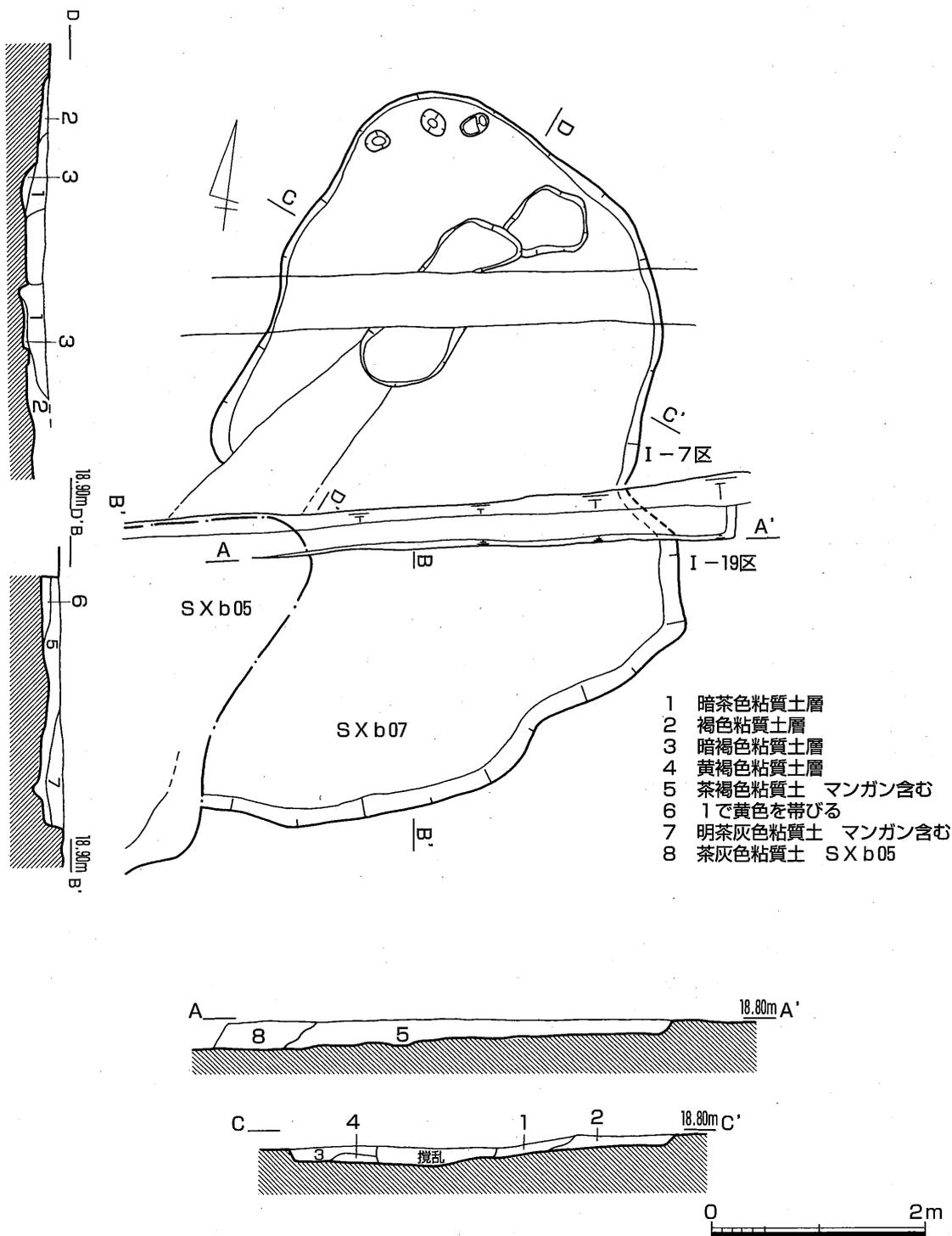
SX b07 (調査時遺構名: I-19区SH02) (第113・114図)

I-19区の西部で検出した遺構で、西側をSX b05に壊されている。北側はI-7区に続いて行き、I-7区で検出した部分は『空港跡地遺跡Ⅷ』でSX l25として報告されている。平面形は全体に不整形であるが瓢形に近い。東側部分が調査区の北と南で整合しないが、これは遺構の検出面の高低によるものである。I-19区部分で深さ0.22mで、埋土は茶褐色粘質土が主体となっている。

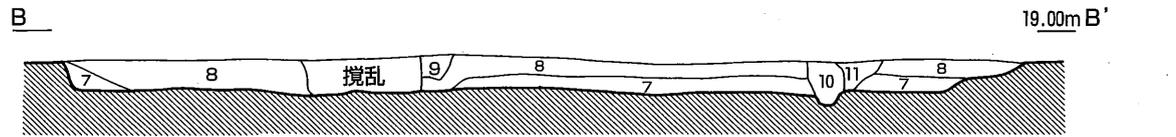
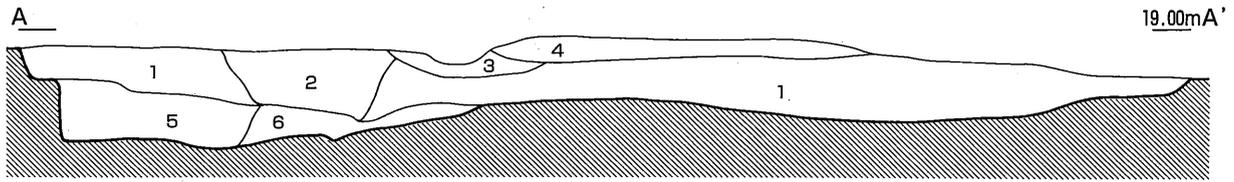


第113図 SX b07出土遺物 (1/4)

遺物の出土量はあまり多くない。715・716は壺で、715の頸部外面には細かいハケ目を施している。
717~719は甕で、いずれも胎土に角閃石を含んでいる。720は高杯の脚部である。

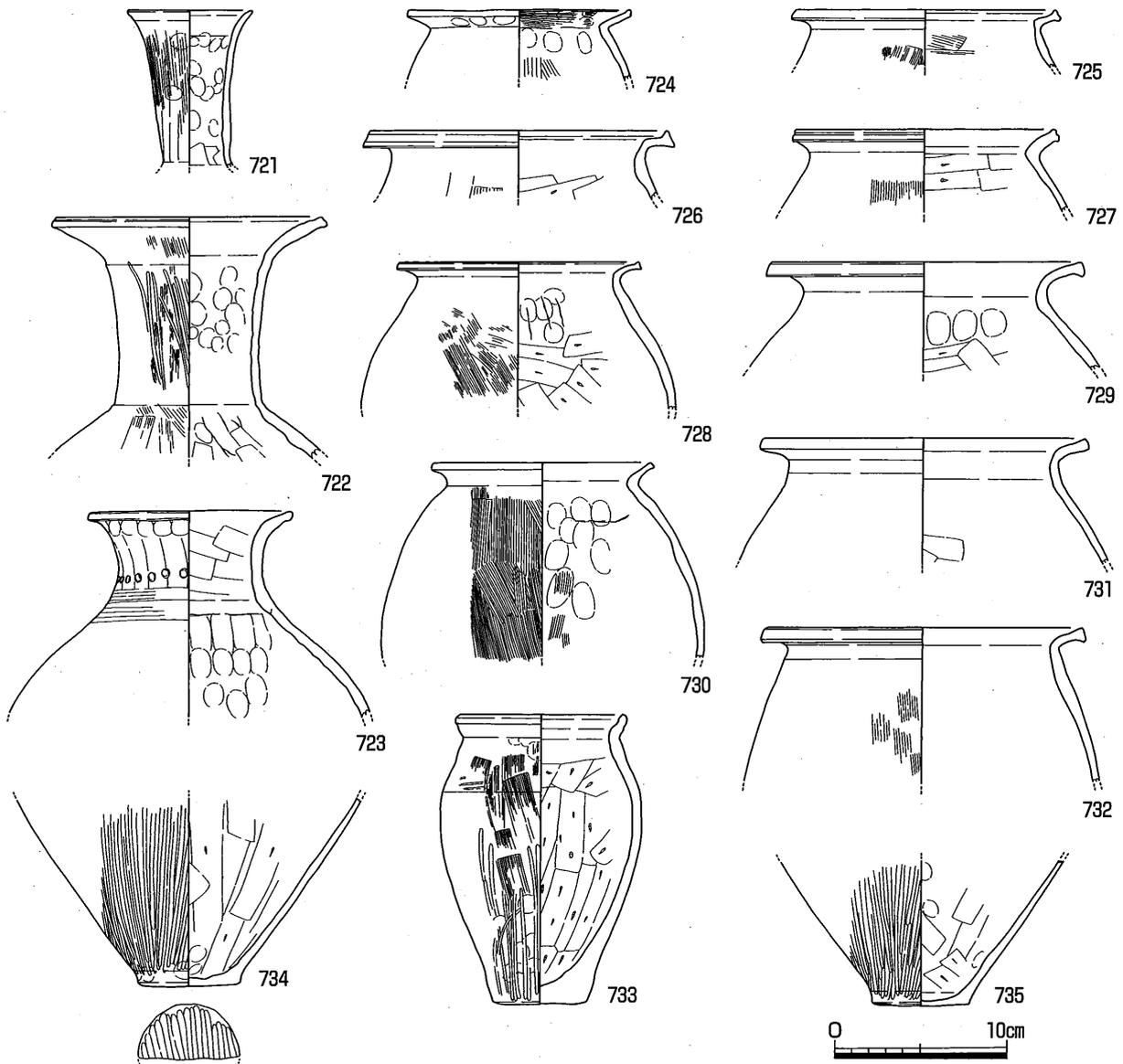


第114図 SX b07平・断面図 (1/60)



- | | | |
|----------------|------------|-----------|
| 1 暗茶褐色砂混弱粘質土 | 6 褐色砂混弱粘質土 | 11 灰茶色粘質土 |
| 2 茶褐色砂質土 固くしまる | 7 茶褐色粘質土 | |
| 3 暗茶褐色粘土 | 8 茶灰色粘質土 | |
| 4 淡灰褐色砂質土 | 9 灰褐色粘質土 | |
| 5 茶褐色砂混粘質土 | 10 暗茶色粘質土 | |
- 0 2m

第115図 SR b01断面図 (1/80)



第116図 SR b01出土遺物 (1) (1/4)

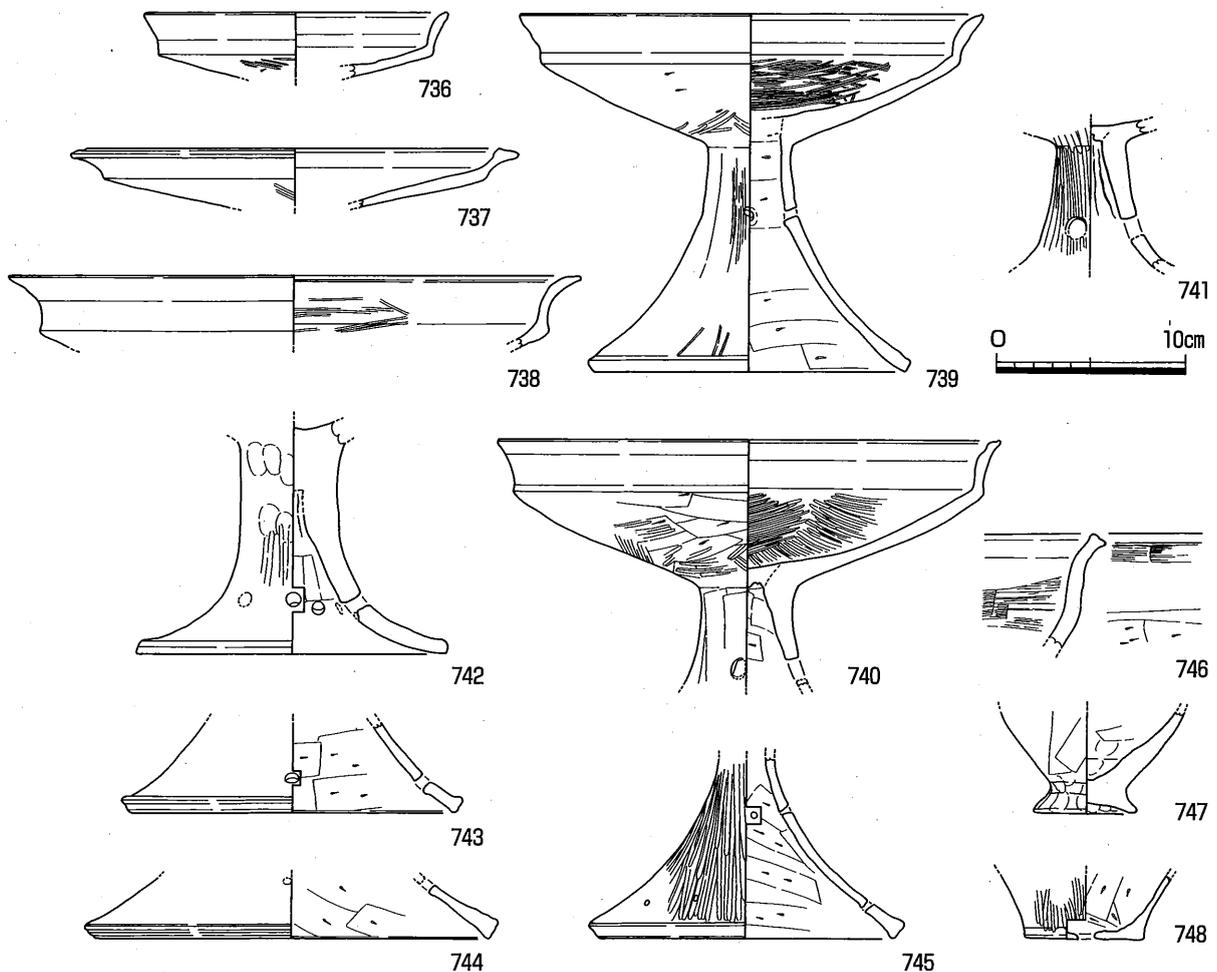
自然流路

SRb01 (調査時遺構名：I-2・4区SR01) (第115~118図)

I-2区の北東隅からI-4区の北西部で検出した自然河川である。調査区内で180°反転して、両端はいずれも調査区北側へ続いて行く。I-2区とI-4区の境界付近を部分的に調査したに止まる。調査区北壁のI-2区部分で幅12.2m、深さ1.0m、I-4区部分で幅10.0m、深さ0.35mである。またI-4区部分で北側に向きを変える部分の幅が最も広がっている。断面A-A'部分の西側は崩落したように急になっており、この部分が最も深い。埋土は暗茶褐色~茶灰色系の粘質土が中心になっている。底部は褐色砂が厚く堆積している。一時的に流水して、そのまま埋没してしまったような状況である。SHb07とSHb10の築造時にはすでに埋没している。

遺物は1層から比較的多く出土している。721~723は壺である。721は細頸壺である。722は頸部に比べて口縁部の器壁が厚くなっている。頸部外面にはハケ目の後にヘラミガキを施している。723は口縁部外面に強く指押さえを行なっている。頸部外面には板ナデの後に竹管文を巡らせている。頸部下半部には横方向の板ナデになっているが、木目が部分的に残り櫛描文のようにになっている。

724~735は甕である。724の口縁部は鋭く屈曲し、直線的である。内面にはハケ目を施している。725・727は胎土に角閃石を含んでいる。726は口縁部端部を上方に拡張している。730は体部外面に丁寧



第117図 SRb01出土遺物 (2) (1/4)

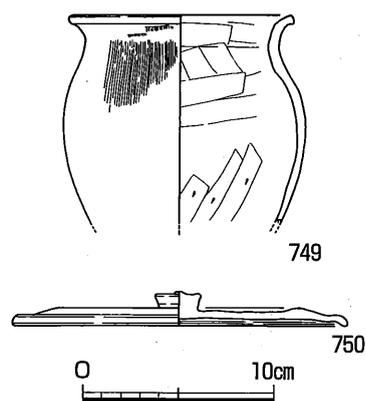
にハケ目を施すが、内面は指押さえによる凹凸が目立つ。733の口縁部は短く、内面を強くナデている。体部は最大径が上半部にあるが、膨らみは弱い。底部は安定した平底である。734・735は胎土に角閃石を含み、734は底部外面にもヘラミガキを施している。

736~745は高杯である。739の口縁部端部は内面の強いナデのために先細りになっている。杯部外面は摩滅してヘラミガキ以前のヘラケズリが認められる。内面はヘラミガキである。脚部は長めで、上半部に透かし穴が現存で2個ある。杯部と脚部の接合は円盤充填になっている。740は口縁部内面と端部を強くナデている。杯部の内・外面に格子状にヘラミガキを施している。杯部と脚部の接合は円盤充填になっている。742は下半部で強く外反して開いている。杯部との接合は差込みになっている。745は上下2段に透かし穴があり、外面には丁寧にヘラミガキを施し、内面はヘラケズリになっている。

746・747は鉢で、747の底部には指押さえで整形した脚台が付いている。748は甕を転用した甑で、胎土に角閃石を含んでいる。

749・750は最上部で出土したもので、混入したものと考えられる。750は須恵器の杯蓋である。

出土遺物からSR b 01は弥生時代後期中葉には埋没したと考えられる。



第118図 SR b 01出土遺物(3)(1/4)

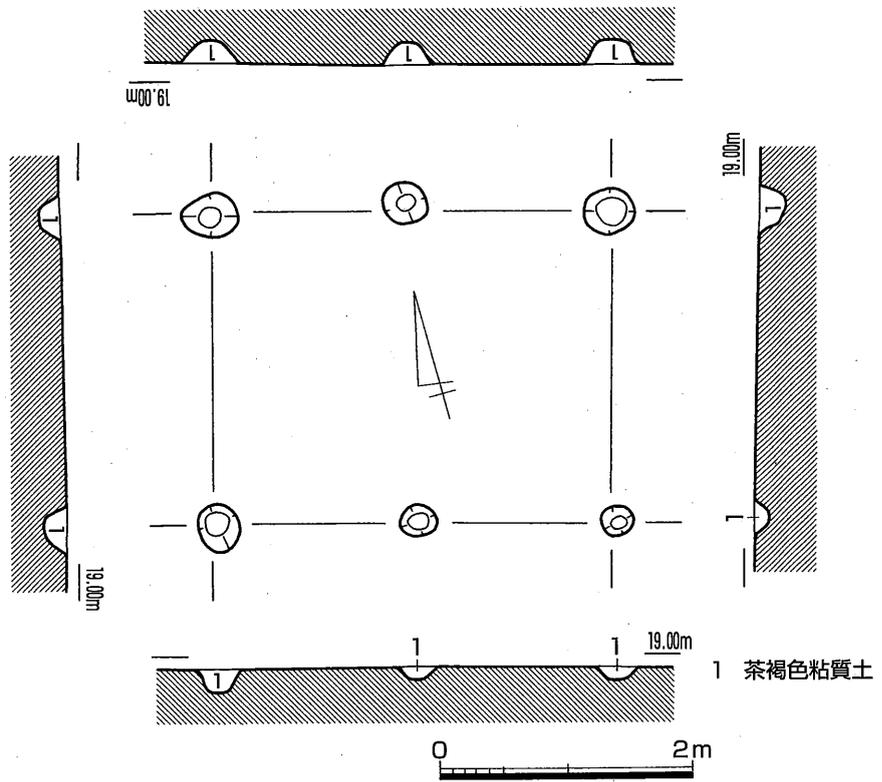
第3節 古代の遺構・遺物

掘立柱建物跡

SB b01 (調査時遺構名：
I-1区SB05、概報遺構
名：SB05) (第119図)

I-1区の南部で検出し
た掘立柱建物跡である。梁
間1間×桁行2間で、建物
の主軸方位はN-75°-W
である。梁間は1間で2.5
m、桁行は2間で3.2m、建
物面積は8.0㎡≒24坪であ
る。柱穴の平面形は直径0.3
~0.4mの円形で、埋土は
茶褐色粘質土の単一層であ
る。

柱穴から遺物は出土して
いないが、柱穴の埋土の色
調や、中世とは異なる建物
方位などから判断して古代
の掘立柱建物跡と考えたものである。

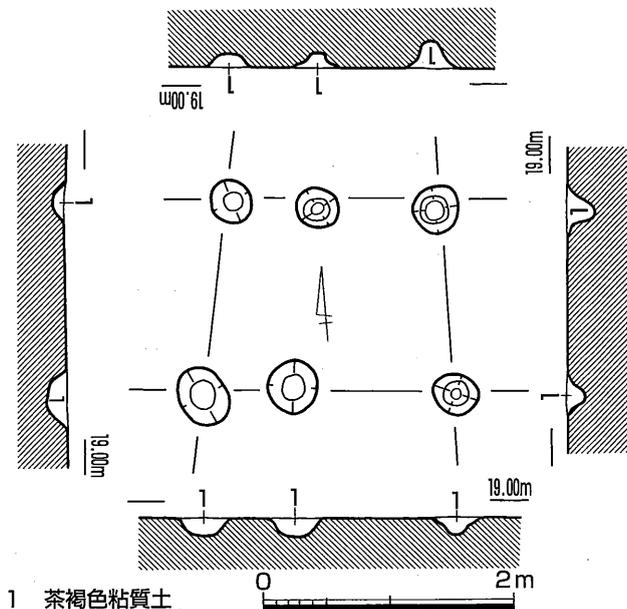


第119図 SB b01平・断面図 (1/60)

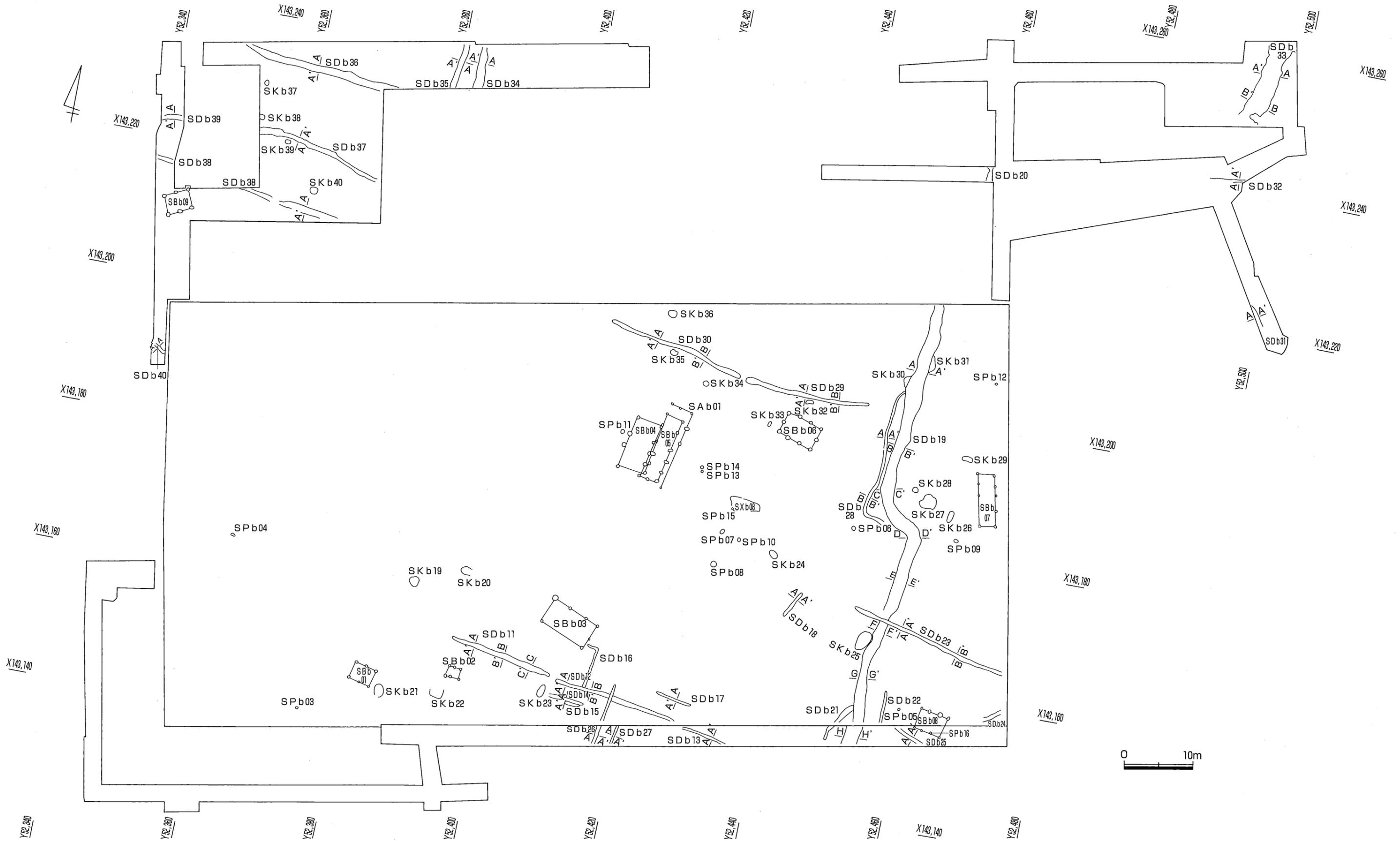
SB b02 (第120図)

I-1区の南東部で検出した掘立柱建物
跡である。調査時には把握しておらず、整
理時に復元した建物である。梁間1間×桁
行2間で、建物の主軸方位はN-84°-Wで
ある。梁間は1間で1.5m、桁行は2間で北
側が1.7m、南側が2.0mと不揃いで南側の方
が長くなっている。また桁行の柱間は西側
の1間が短くなっている。建物面積は桁行の
平均で1.85mとすると2.8㎡≒0.8坪である。
柱穴の平面形は直径0.3~0.4mの円形で、埋
土は茶褐色粘質土の単一層である。

柱穴から須恵器を含む微細な遺物が少量
出土している。



第120図 SB b02平・断面図 (1/60)

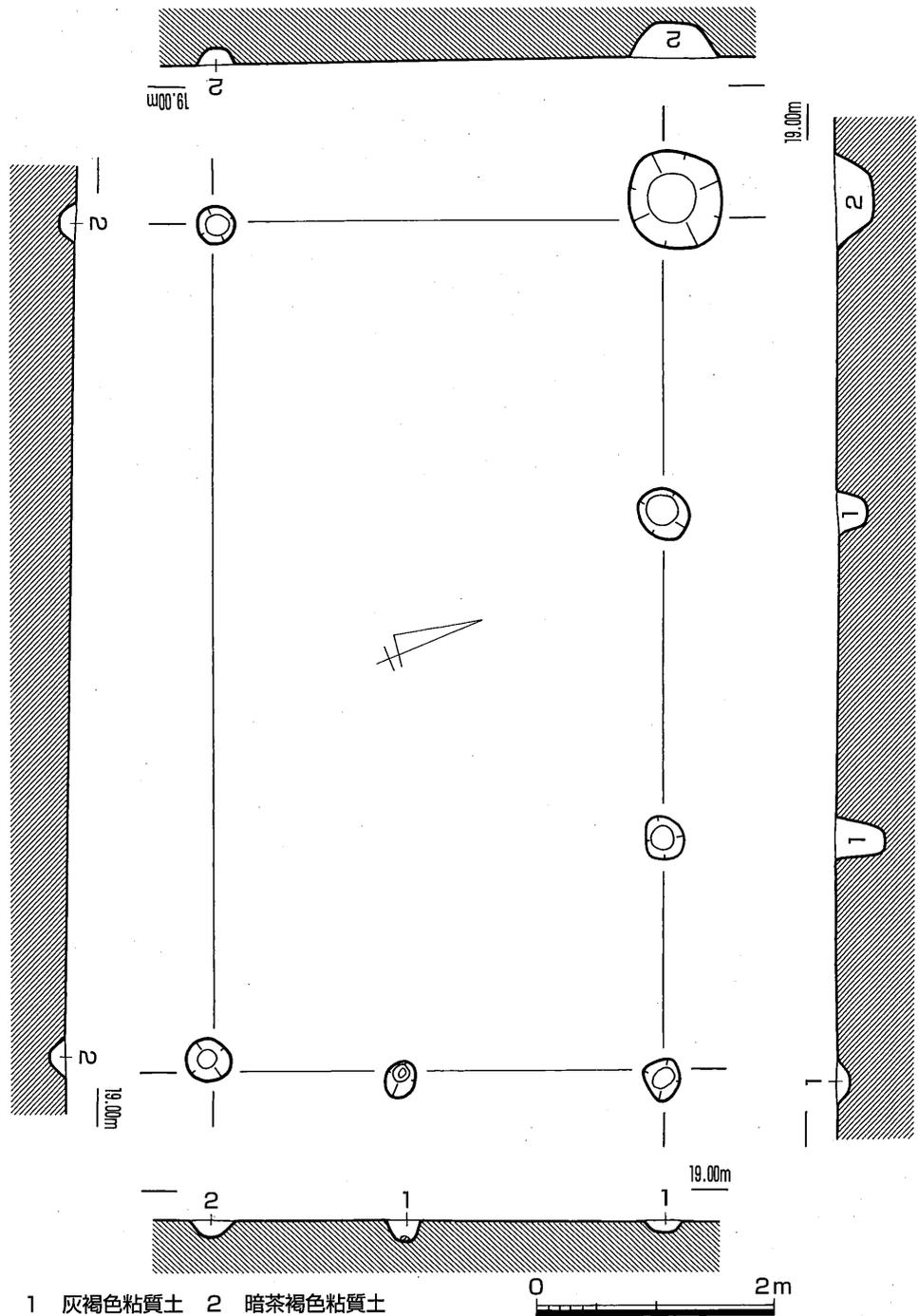


第121図 空港跡地遺跡遺構配置図 (古代) (1/500)

S B b 03 (調査時遺構名：I - 1 区 S B 06、概報遺構名：S B 06) (第122図)

I - 1 区の東部で検出した掘立柱建物跡である。梁間2間×桁行3間で、建物の主軸方位はN - 67° - Wである。北側に対応する南側の桁行の柱穴は検出されていない。また東側に対応する西側の梁間の柱穴も検出されていない。梁間は2間で3.75m、桁行は3間で7.1m、建物面積は26.6㎡≒8.1坪である。柱穴の平面形は南側が直径0.3~0.4mの円形であるが、北側は一辺0.3~0.8mの隅丸方形である。東側梁間列の中央の柱穴の底部には根石が認められた。柱穴の埋土は灰褐色粘質土のものと暗茶褐色粘質土のものがある。

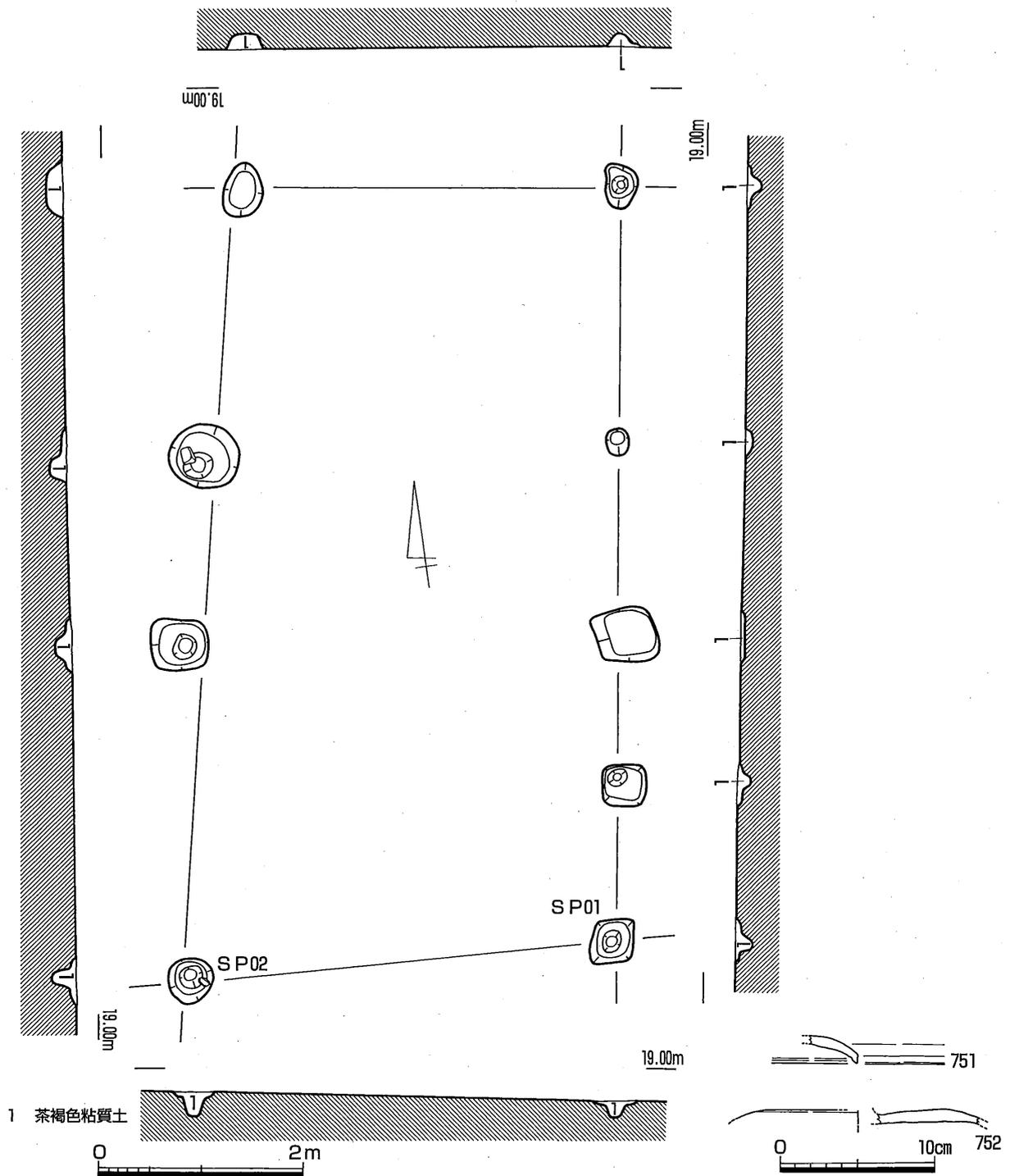
柱穴から古代の微細な遺物が少量出土している。また重なって検出された後述する中世の掘立柱建物跡群とは建物の主軸方位が異なっている。



第122図 S B b 03平・断面図 (1 / 60)

SBb04 (調査時遺構名：I-4区SB01、概報遺構名：SB07) (第123図)

I-4区の西部で検出した掘立柱建物跡である。梁間1間×桁行4間で、建物の主軸方位はN-8°-Eである。西側の桁行列で東側に対応する柱穴が検出されていない部分がある。また南側の梁間列はやや斜めになっている。また桁行列の最も北側の柱間が他の部分より長くなっている。梁間は北側の1間で3.8m、南側の1間で4.1mと南側の方が少し長くなっている。桁行は4間で東側が7.3m、西側が7.6mで西側の方が少し長くなっている。建物面積は梁間と桁行の平均を採ると29.4㎡≒8.9坪になる。



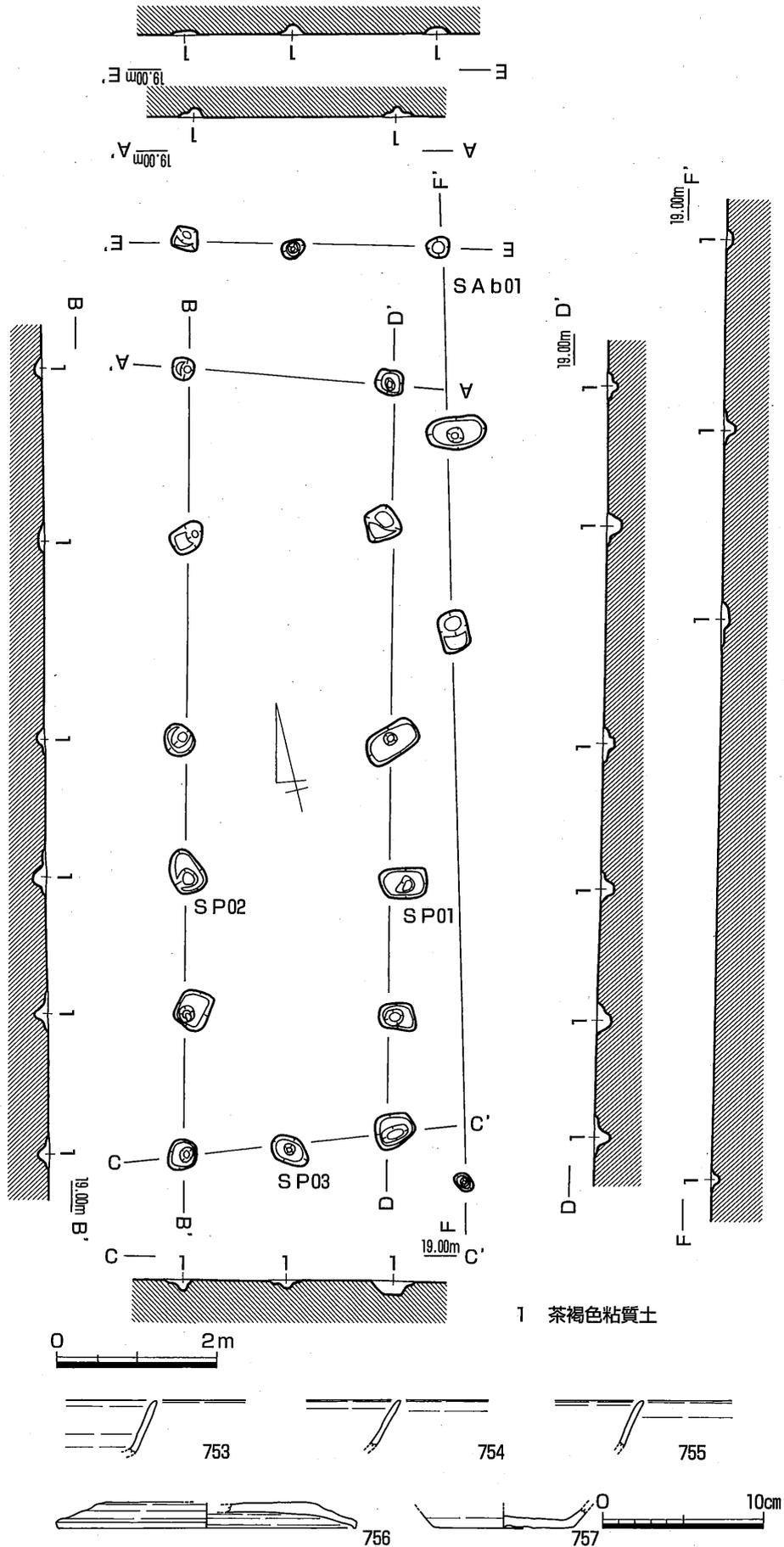
第123図 SBb04平・断面図 (1/60)、柱穴出土遺物 (1/4)

柱穴の平面形は方形のものが多く、一辺0.2~0.7mと幅がある。柱痕が確認されたものもある。柱穴の埋土は茶褐色粘質土であるが、柱痕部分は若干濃い色調となっている。なお断面図は柱穴の掘方全体を図示していない部分がある。

751がS P 01から、752がS P 02から出土している。両者とも須恵器の杯蓋で、外面には回転ヘラケズリを施している。その他の柱穴からは古代の須恵器、土師器の細片が出土している。

S B b 05、S A b 01
(調査時遺構名：I-4区S B 02、S A 01、概報遺構名：S B 08)
(第124図)

I-4区の西部で検出した掘立柱建物跡と柵列跡である。S B b 05は梁間2間×桁行5間で、建物の主軸方位はN-14°-Eである。北側の梁間列では南側に対応する柱穴が検出されていない。梁間は2間で2.6mであるが、南北ともやや斜めになっている。桁行は5



第124図 S B b 05、S A b 01平・断面図 (1/80)、柱穴出土遺物 (1/4)

間で東側が9.4m、西側が9.8mと西側が長くなっている。南北方向に細長い建物で、建物面積は桁行の平均を採ると25.0㎡≒7.6坪になる。

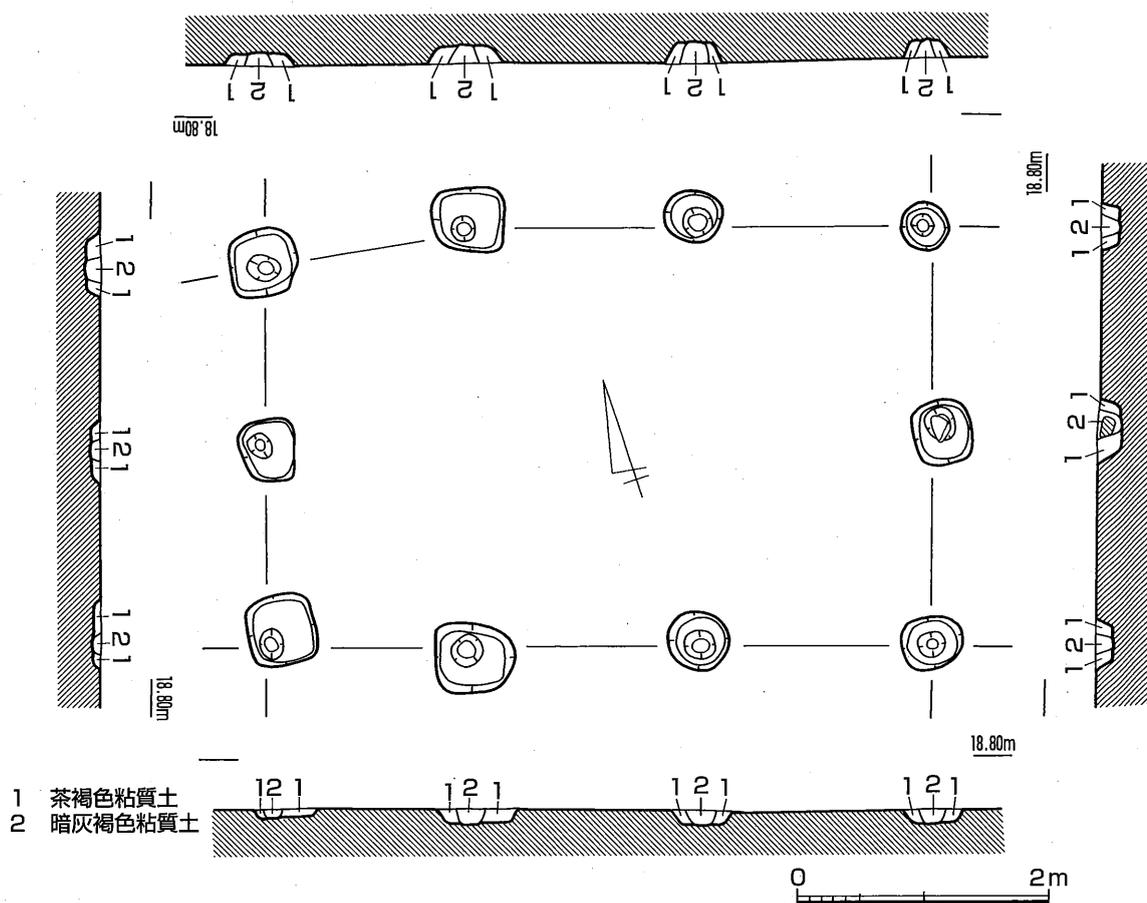
柱穴の平面形は一辺0.3～0.6mの方形で柱痕が確認されたものもある。柱穴の埋土は茶褐色粘質土であるが、柱痕部分は若干濃い色調となっている。なお断面図は柱穴の掘方全体を図示していない部分がある。

SA b 01はSB b 05の東側と北側を囲っている。東側は主軸がN-12°-Eになっており、南側に2基の柱穴を復元すると5間になり、11.6mになる。これに対して北側は2間で3.2mである。柱穴は平面形、埋土ともにSB b 05と同様になっている。

遺物は753～755がSP 01、756がSP 02、757がSP 03からそれぞれ出土しており、すべて須恵器である。753～755は杯で、755の口縁部端部は僅かに外反している。756は杯蓋で、つまみ部が欠損している。平坦な天井部から屈曲して口縁部に至る。天井部には回転ヘラケズリを施している。757は杯で底部にはヘラ切りの後に僅かにナデている。他の柱穴からは古代の須恵器と土師器の細片が出土している。

SB b 06 (調査時遺構名：I-4区SB 05) (第125図)

I-4区の中央部で検出した掘立柱建物跡である。梁間2間×桁行3間で、建物の主軸方位はN-



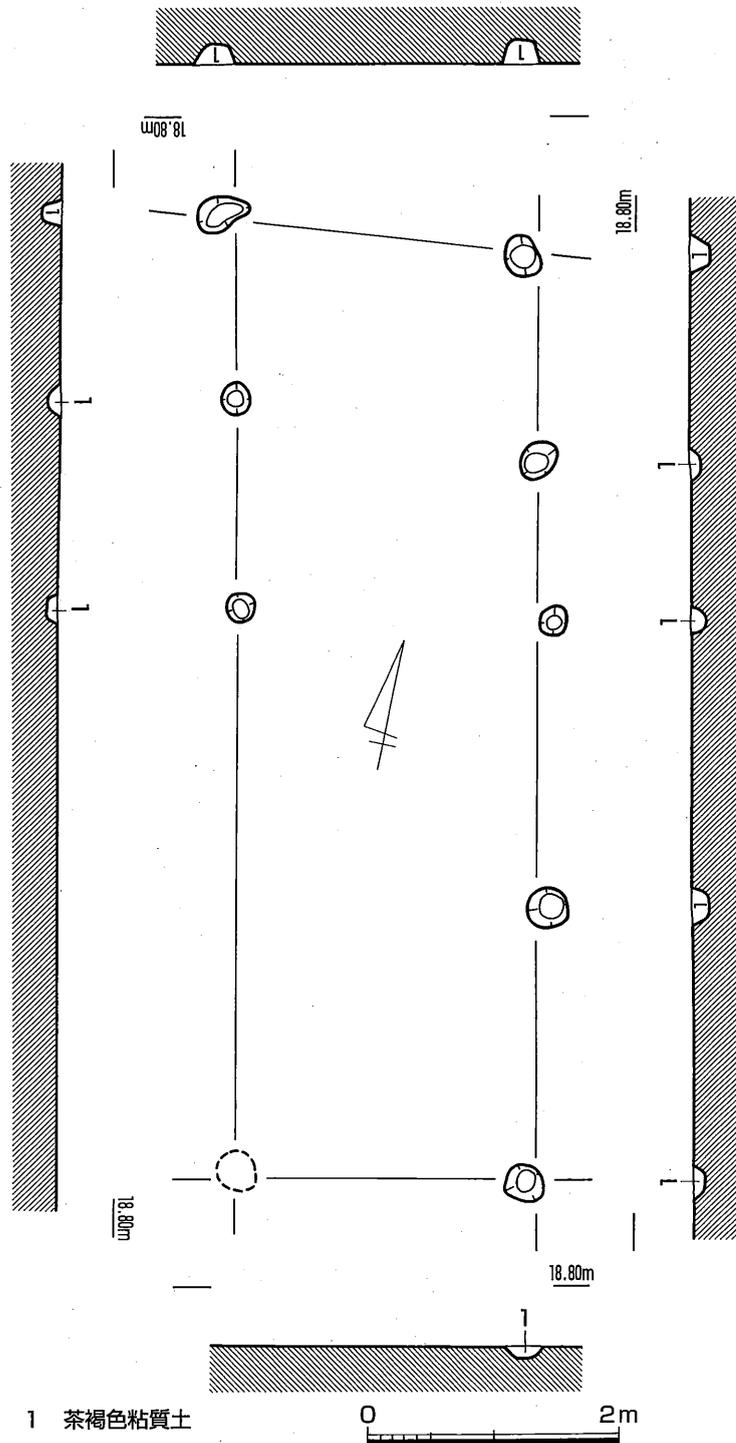
第125図 SB b 06平・断面図 (1/60)

71°-Wである。北西隅の柱穴が北側の桁行列で内側に偏っており、不揃いになっている。梁間は2間で東側が3.4m、西側が3.1mで東側が長くなっている。桁行は3間で5.25mである。建物面積は梁間の平均を採ると $17.1\text{m}^2 \approx 5.2\text{坪}$ である。柱穴の平面形は一辺0.4~0.6mの方形であるが、円形に近くになっているものもある。すべての柱穴で柱痕を検出しており、柱痕部分は暗灰褐色粘質土になっている。

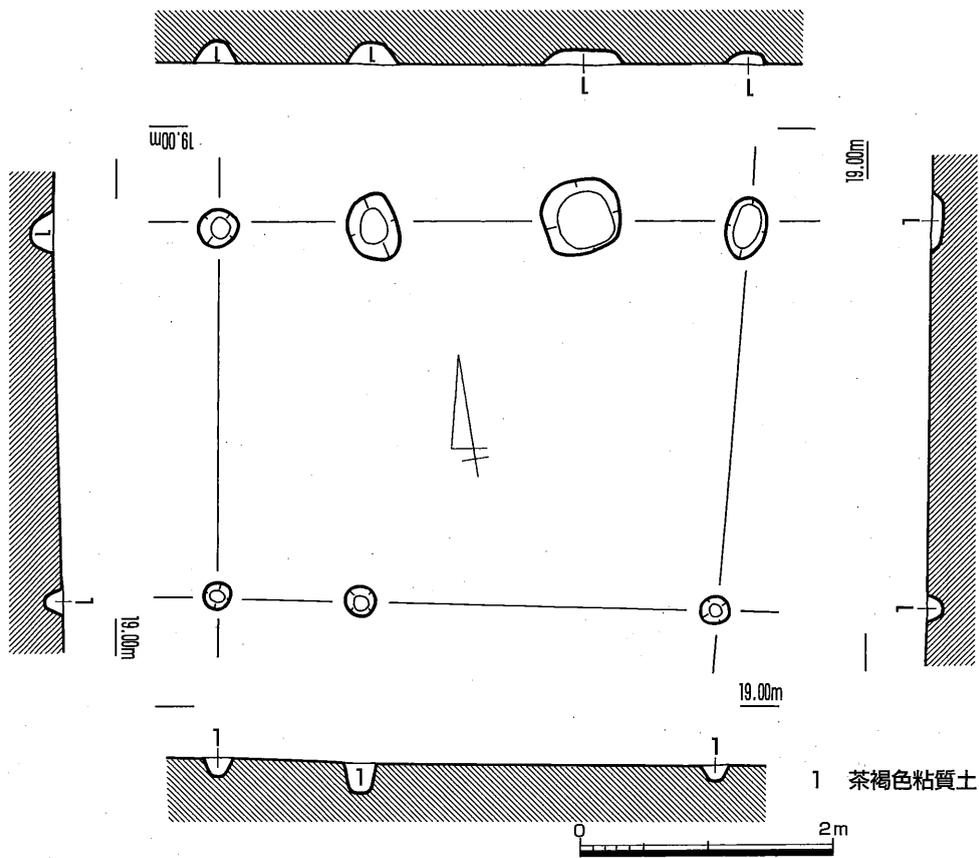
柱穴から遺物は出土していないが、埋土の色調や土質、建物の主軸方位が中世の掘立柱建物跡に近いが異なっていることなどから古代の掘立柱建物跡と考えた。しかしS B b 06の周囲は弥生時代後期の竪穴住居跡が密集しているが、これら竪穴住居を避けるように建てられており重なっていない。このことからS B b 06は弥生時代後期の可能性もあることを指摘しておく。

S B b 07 (調査時遺構名: I-4区S B 06、概報遺構名: S B 10) (第126図)

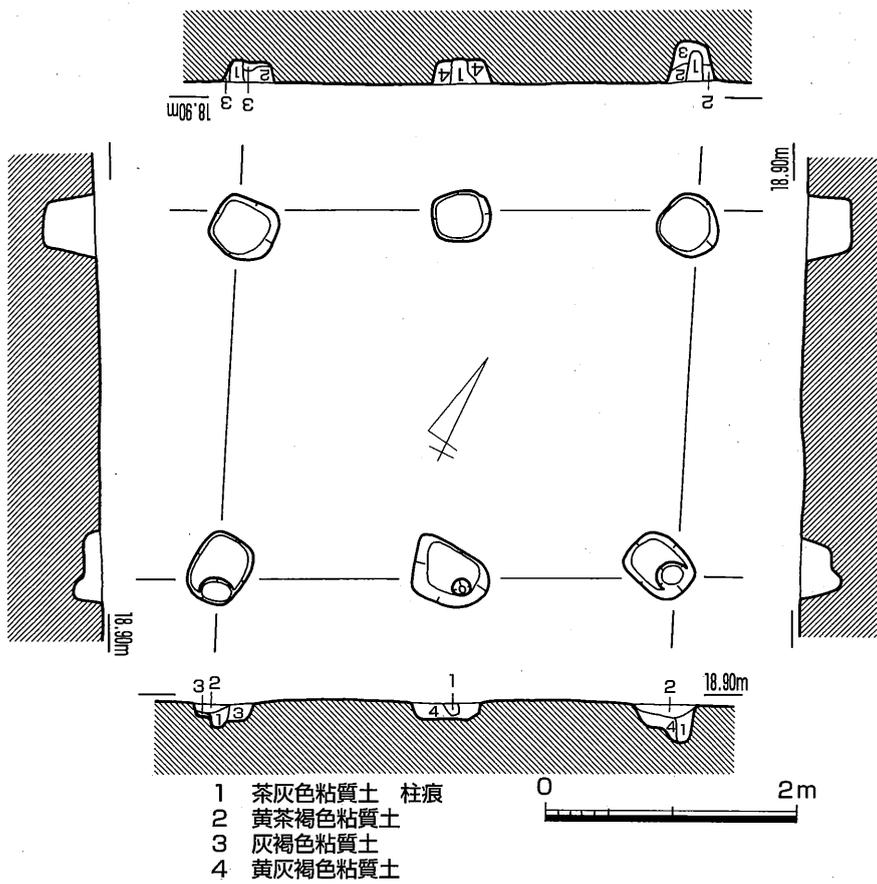
I-4区の南東隅で検出した掘立柱建物跡である。梁間1間×桁行4間で、建物の主軸方位はN-12°-Wである。西側の桁行列の南側の2基の柱穴は検出されていない。桁行列の南側の柱間は北側に比べて間隔が広がっている。また北側の梁間はやや斜めになっている。梁間は1間で2.4m、桁行は4間で東側が7.4m、西側が復元で7.7mで南北方向に細長い建物である。建物面積は桁行の平均を採ると $18.1\text{m}^2 \approx 5.5\text{坪}$ である。柱穴の平面形は丸みを帯びた一辺0.2~0.3mの方形である。埋土は茶褐色粘質土の単一層である。柱穴からは弥生土器~古代の微細な遺物が少量出土している。



第126図 S B b 07平・断面図 (1/60)



第127図 S B b08平・断面図 (1/60)



第128図 S B b09平・断面図 (1/60)

- 1 茶灰色粘質土 柱痕
- 2 黄茶褐色粘質土
- 3 灰褐色粘質土
- 4 黄灰褐色粘質土

S B b 08 (第127図)

I - 3区からI - 21区にかけての南東隅で検出した掘立柱建物跡である。調査年度の異なる調査区に位置するため、整理時に復元した建物である。梁間1間×桁行3間で、建物の主軸方位はN - 79° - Wである。南側の桁行列で北側に対応する柱穴が検出されていない。また東側の梁間列はやや斜めになっている。梁間は1間で3.0m、桁行は3間で北側が4.2m、南側が4.0mである。建物面積は桁行の平均を採ると12.3㎡≒3.7坪である。柱穴は円形と方形のものが混じっている。円形のもの直径0.2~0.3m、方形のものは一辺0.3~0.6mである。埋土は茶褐色粘質土の単一層である。

柱穴から遺物は出土していないが、埋土の色調、土質、古代の溝と直交する建物の主軸方位などから古代の掘立柱建物跡と考えた。

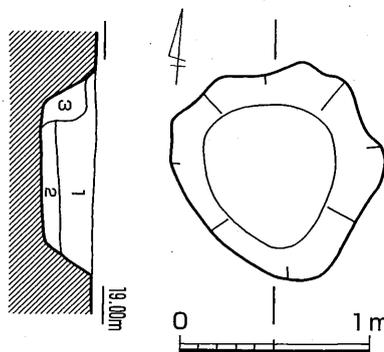
S B b 09 (調査時遺構名：I - 20区S B 01、概報遺構名：S B 10) (第128図)

I - 20区の西部で検出した掘立柱建物跡である。梁間1間×桁行2間で、建物の主軸方位はN - 64° - Eである。梁間は1間で2.9m、桁行は2間で3.7m、建物面積は10.7㎡≒3.2坪である。柱穴の平面形は一辺0.4~0.6mの方形で、すべての柱穴で柱痕を検出しており、柱痕部分は茶灰色粘質土になっている。柱穴から古代と考えられる微細な遺物が少量出土している。

土坑

S K b 19 (調査時遺構名：I - 1区S K 18) (第129図)

I - 1区の中央やや北寄りで見出した土坑である。平面形は方形に近いが、北東と北西部分が不整形である。一辺1.0~1.1m、深さ0.3mである。埋土は上下2層に大別され、上層には褐色砂質土、下層には茶褐色粘質土が堆積している。微細な遺物が少量出土している。

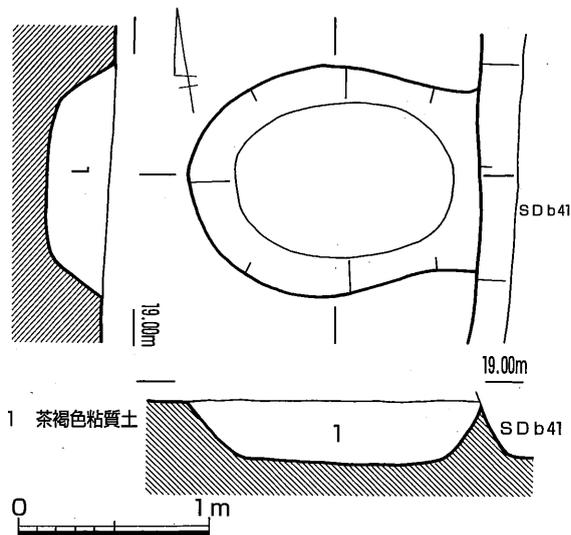


- 1 褐色砂質土
- 2 茶褐色粘質土
- 3 暗褐色砂

第129図 S K b 19平・断面図 (1 / 40)

S K b 20 (調査時遺構名：I - 1区S K 19) (第130図)

I - 1区の北東部で見出した土坑である。東側を中世の溝であるS D b 41に壊されている。平面形は検出部分で楕円形に近く、南北方向1.2m、東西方向1.55m、深さ0.32mである。埋土は茶褐色粘質土の単一層である。遺物は出土していない。



S K b 21 (調査時遺構名：I - 1区S K 15) (第131図)

I - 1区の南部で見出した土坑で、南側を中世

第130図 S K b 20平・断面図 (1 / 40)

の掘立柱建物跡 S B b 12の柱穴に壊されている。

平面形は長方形であるが、東側がやや丸みを帯びている。長辺1.9m、短辺1.3m、深さ0.24mである。掘り込みは全体的に急である。埋土は上下2層に大別され、上層に茶褐色粘質土、下層に暗茶灰色砂混じり粘質土が堆積している。遺物は出土していない。

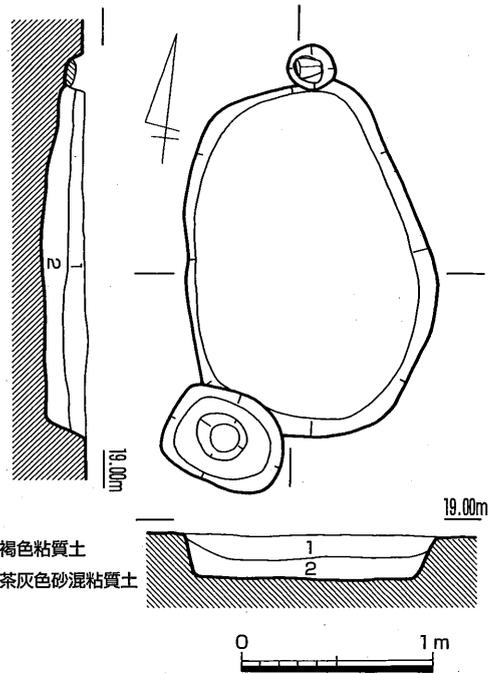
S K b 22 (調査時遺構名：I - 1区 S K 04) (第132図)

I - 1区の南部で検出した土坑で、北側を中世の溝 S D b 43に壊されている。検出部分の平面形は方形で、南北方向は1.25m、東西方向は1.95m、深さは0.24mである。掘り込みは全体的に緩やかである。埋土は上下2層に大別され、上層に灰色砂質土、下層に灰色砂混じり粘質土が堆積している。

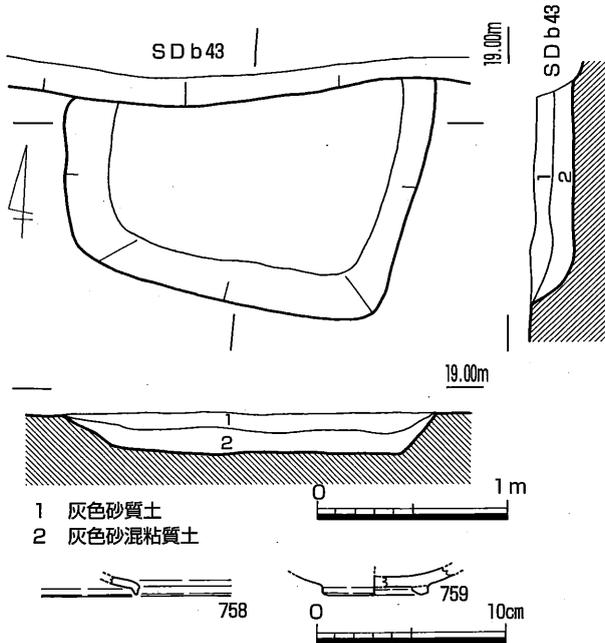
758は須恵器の杯蓋の口縁部の部分である。759は十瓶山産の須恵器椀で、底部に方形の高台を貼り付けている。遺物は微細な遺物を含めて古代のものが多く、S K b 22が中世の溝に壊されていることを含めて759は混入したものと考えたい。

S K b 23 (調査時遺構名：I - 1区 S K 02) (第133図)

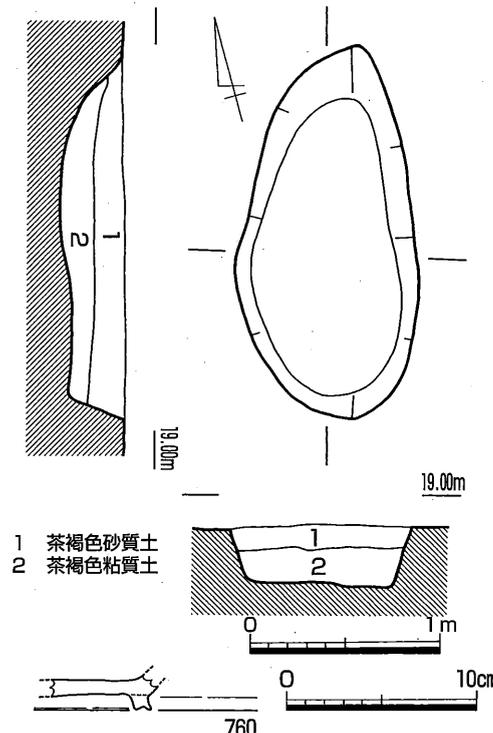
I - 1区の南東部で検出した土坑である。平面形は楕円形であるが、北側が鋭くなっている。長径1.95m、短径0.95m、深さ0.33mである。東西の掘り込みは急であるが、反対に北側は緩やかになっている。底部は南



第131図 S K b 21平・断面図 (1/40)



第132図 S K b 22平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



第133図 S K b 23平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

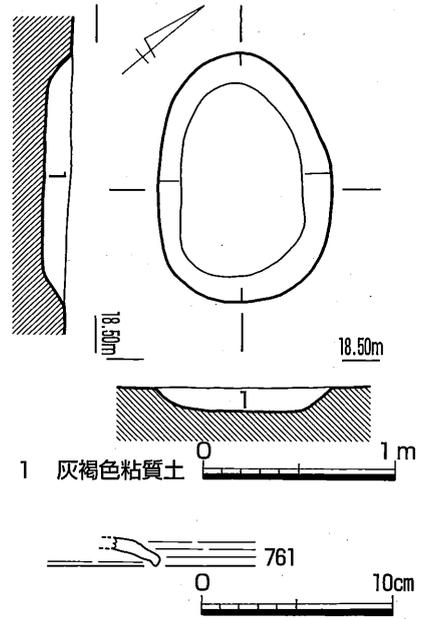
から北に向かって緩やかに下っている。埋土は上下2層に大別され、上層に茶褐色砂質土、下層に茶褐色粘質土が堆積している。

760は須恵器の壺で、底部に高台を貼り付けている。高台の接地部分はナデにより窪んでいる。また内面には自然釉が付着している。

S K b 24 (調査時遺構名：I - 3区 S K 03) (第134図)

I - 3区の北部で検出した土坑である。平面形は楕円形で、長径1.3m、短径0.9m、深さ0.12mである。埋土は灰褐色粘質土の単一層である。

761は須恵器の杯蓋の口縁部で、天井部から屈曲している。

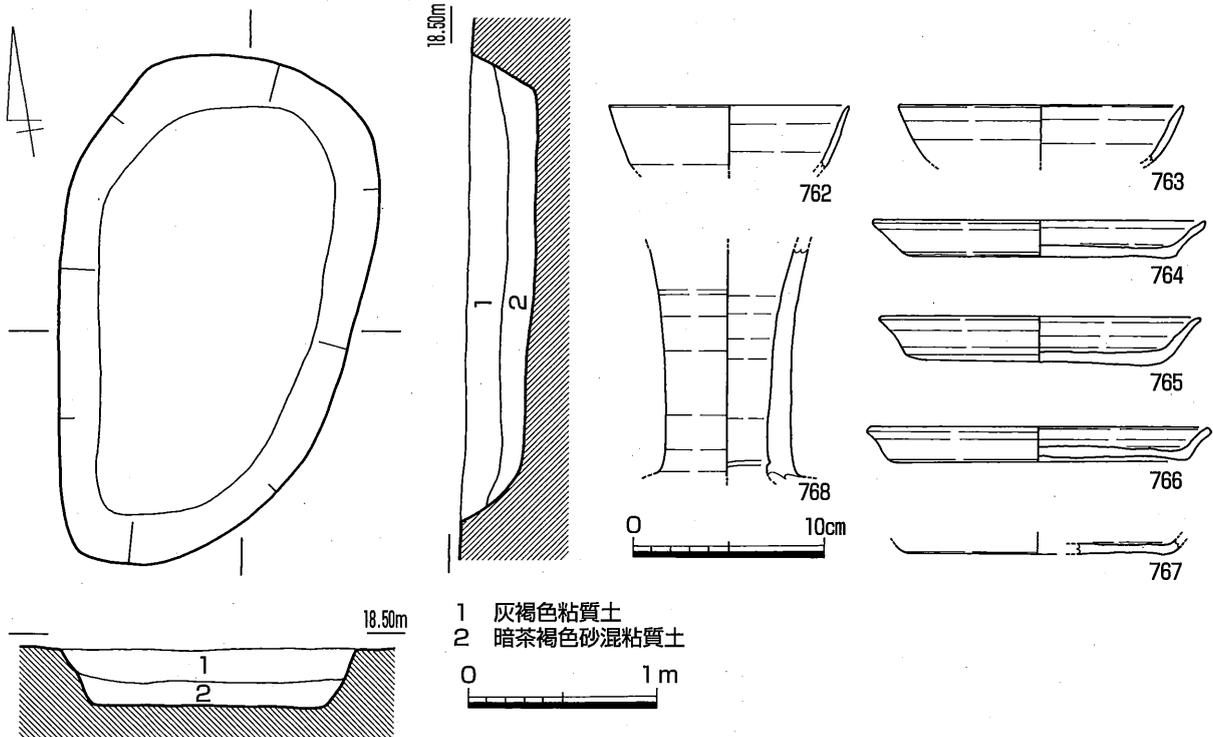


第134図 S K b 24平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

S K b 25 (調査時遺構名：I - 3区 S K 01) (第135図)

I - 3区の東部で検出した土坑である。平面形は隅丸の方形であるが、南東部が丸みを帯びている。長辺2.25m、短辺1.6m、深さ0.35mである。底部は南から北に向かって緩やかに下っている。埋土は上下2層に大別され、上層に灰褐色粘質土、下層に暗茶褐色砂混じり粘質土が堆積している。

762~768は須恵器で、このうち764~767は古代の溝 S D b 19から出土した破片と接合している。762・763は杯である。764~767は皿である。764は口縁部内面を強くナデている。体部外面には回転ヘラケズリの後にナデている。765も口縁部内面を強くナデている。底部外面はヘラ切りの後にナデている。766

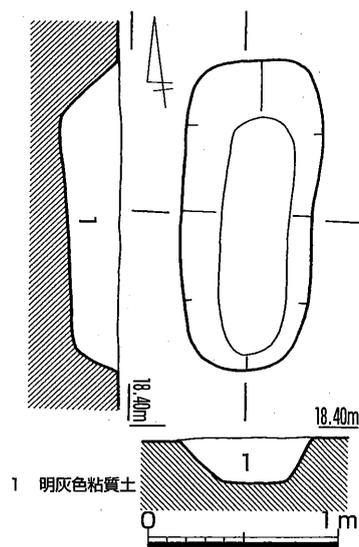


第135図 S K b 25平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

の底部外面は回転ヘラケズリの後にナデと板ナデを加えている。768は壺の頸部で、外面に自然釉が付着している。

SK b26 (調査時遺構名：I-4区SK03) (第136図)

I-4区の南東部で検出した土坑である。平面形は長方形であるが、南側が丸みを帯びている。長辺1.6m、短辺0.7m、深さ0.32mである。底部は南から北に向かって緩やかに下っている。また北側と西側の掘り込みは緩やかになっている。埋土は明灰色粘質土の単一層である。古代の須恵器を含む微細な遺物が少量出土している。

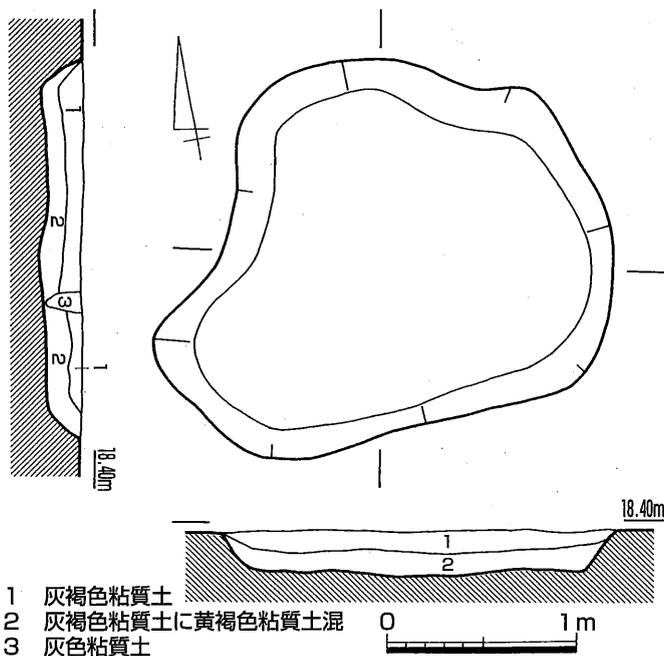


SK b27 (調査時遺構名：I-4区SK01) (第137図)

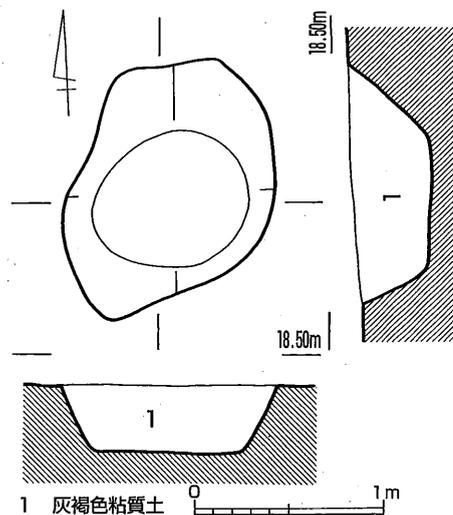
I-4区の南東部で検出した土坑である。平面形は不整形。第136図 SK b26平・断面図 (1/40) で、特に北西部分が内側に入り込んでいる。南北方向2.0m、東西方向2.45m、深さ0.25mである。底部は中央部分が若干深くなっている。埋土は上下2層に大別されるが、下層は上層と同じ灰褐色粘質土に黄褐色粘質土が混じっている。古代の須恵器を含む微細な遺物が少量出土している。

SK b28 (調査時遺構名：I-4区SK12) (第138図)

I-4区の南東部で、SK b27の西側に隣接して検出した土坑である。平面形は不整形であるが、北西部分が内側に入り込んでいる以外は方形に近くなっている。南北方向1.2m、東西方向1.2m、深さ0.4mである。北側と南西側の掘り込みは緩やかである。埋土は灰褐色粘質土の単一層である。古代の須恵器を含む微細な遺物が少量出土している。



第137図 SK b27平・断面図 (1/40)

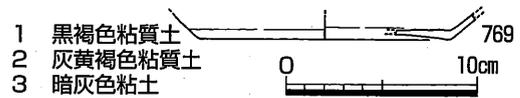
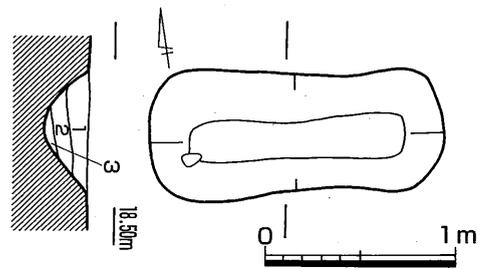


第138図 SK b28平・断面図 (1/40)

SKb29 (調査時遺構名：I-4区SK14) (第139図)

I-4区の南東部で検出した土坑である。平面形は長方形で、長辺1.5m、短辺0.7m、深さ0.24mである。掘り込みは全体に緩やかで、断面はU字形になっている。埋土は3層に分層され、最上層には黒褐色粘質土が、最下層には暗灰色粘土が堆積している。

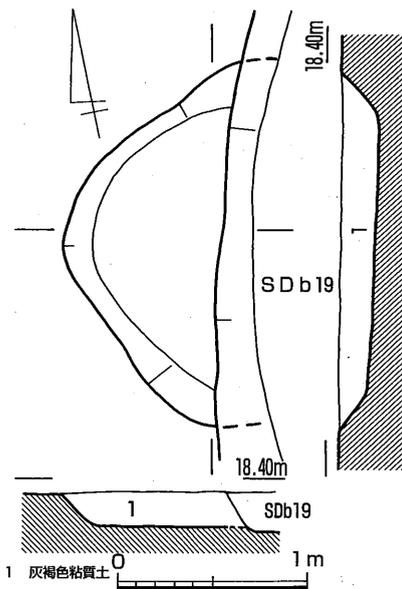
769は須恵器の皿である。底部はやや上げ底でナデている。他に図化出来なかったが古代の土師器と須恵器の皿が出土している。



第139図 SKb29平・断面図(1/40)、出土遺物(1/4)

SKb30 (調査時遺構名：I-4区SK21) (第140図)

I-4区の北東部で検出した土坑で、東側を古代の溝SDb19に壊されている。検出部分の平面形は半円形で、南北方向の直径に相当する部分で1.9mになる。また東西方向は検出部分で0.8m、深さは0.18mである。埋土は灰褐色粘質土の単一層である。古代の須恵器を含む微細な遺物が少量出土している。

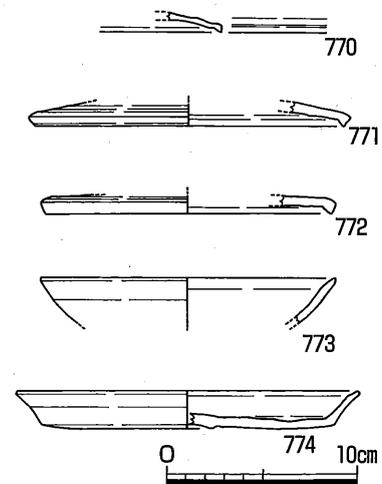
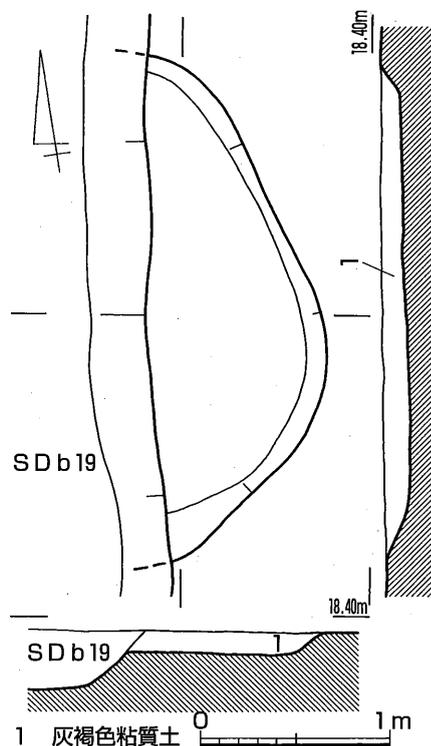


第140図 SKb30平・断面図(1/40)

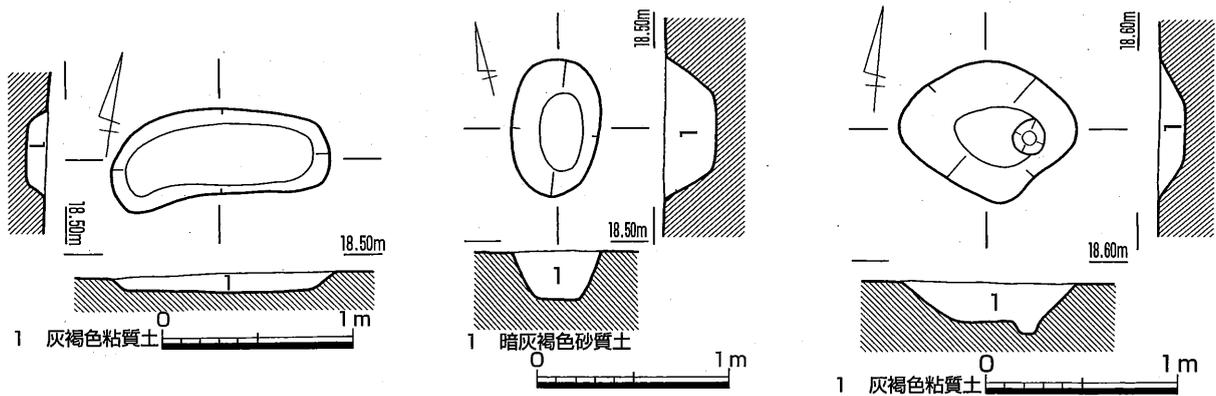
SKb31 (調査時遺構名：I-4区SK22) (第141図)

I-4区の北東部で検出した土坑で、西側を古代の溝SDb19に壊されている。検出部分の平面形は半円形で、南北方向の直径に相当する部分で2.7mになる。また東西方向は検出部分で0.95m、深さは0.13mである。埋土は灰褐色粘質土の単一層である。

770~772は須恵器の杯蓋である。771・772の口縁部端部は斜めの平坦な面になっている。773は須恵器の杯である。体部に回転ナデを施した後に最後に口縁部をナデている。774は須恵器の皿である。口縁部は僅かに外反しており、底部はヘラ切りの後にナデている。



第141図 SKb31平・断面図(1/40)、出土遺物(1/4)



第142図 SK b 32平・断面図 (1/40) 第143図 SK b 33平・断面図 (1/40) 第144図 SK b 34平・断面図 (1/40)

SK b 32 (調査時遺構名: I-4区SK10) (第142図)

I-4区の中央部で検出した土坑である。平面形は長方形であるが、西側が丸みを帯びている。長辺1.15m、短辺0.45m、深さ0.1mである。埋土は灰褐色粘質土の単一層である。古代の土師器を含む微細な遺物が少量出土している。

SK b 33 (調査時遺構名: I-4区SK15) (第143図)

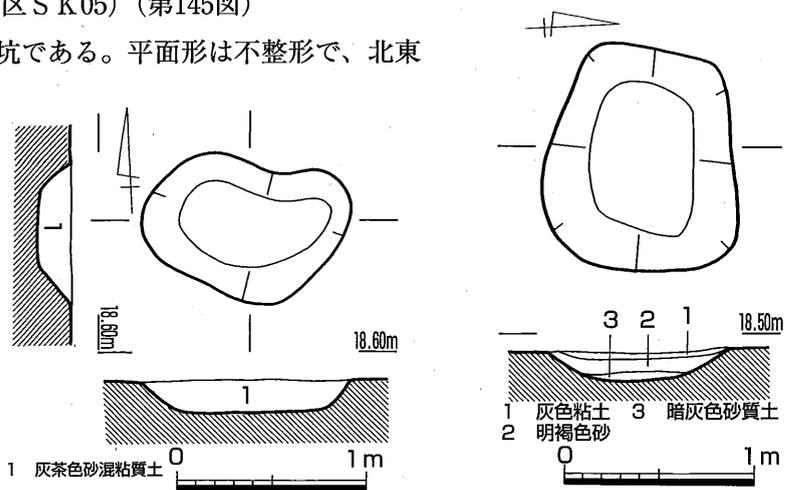
I-4区の中央部で検出した土坑である。平面形は楕円形で、長径0.72m、短径0.45m、深さ0.25mである。掘り込みは全体に緩やかで、埋土中から長さ0.3mほどの板石が出土したが、人為的な痕跡は認められなかった。埋土は暗灰褐色砂質土の単一層である。微細な遺物が少量出土している。

SK b 34 (調査時遺構名: I-4区SK23) (第144図)

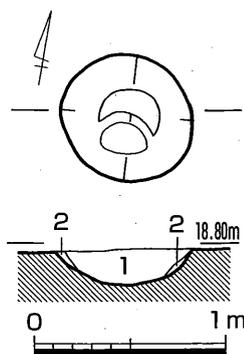
I-4区の中央やや北西寄りで検出した土坑である。平面形は一辺0.7mの方形であるが、北側は丸みを帯びている。深さは0.26mで底部の東側が一段深くなっている。掘り込みは全体に緩やかで、埋土は灰褐色粘質土の単一層である。古代の土師器を含む微細な遺物が少量出土している。

SK b 35 (調査時遺構名: I-4区SK05) (第145図)

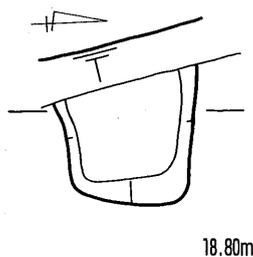
I-4区の北西部で検出した土坑である。平面形は不整形で、北東部が突出している以外は方形に近くなっている。北西-南東方向で0.95m、北東-南西方向で最大0.8m、深さ0.18mである。掘り込みは西側から南側にかけて緩やかになっている。埋土は灰茶色砂混じり粘質土の単一層である。古代の甕などの土師器を含む微細な遺物が少量出土している。



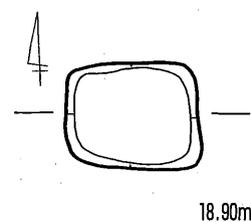
第145図 SK b 35平・断面図 (1/40) 第146図 SK b 36平・断面図 (1/40)



1 明茶褐色粘質土
2 茶褐色粘質土 マンガン含む



1 淡茶褐色粘質土



1 明灰褐色砂質土
775
10cm

第147図 SK b 37平・断面図 (1/40) 第148図 SK b 38平・断面図 (1/40)

第149図 SK b 39平・断面図 (1/40)、
出土遺物 (1/4)

SK b 36 (調査時遺構名: I-4区SK06) (第146図)

I-4区の北西部の調査区北壁際で検出した土坑である。平面形は方形であるが、東側が少し広くなっている。南北方向1.0m、東西方向1.2m、深さ0.15mである。掘り込みは全体に緩やかである。埋土は3層に分層されるが、中層には明褐色砂が堆積している。古代の須恵器と土師器を含む微細な遺物が少量出土している。

SK b 37 (調査時遺構名: I-19区SK13) (第147図)

I-19区の西部で検出した土坑である。平面形は直径0.7mの円形である。深さは0.25mで、南側が一段深くなる。掘り込みは全体に緩やかで、断面はU字形になっている。埋土は明茶褐色粘質土が主体となっている。遺物は出土していないが、埋土の色調や土質などから古代と考えたものである。

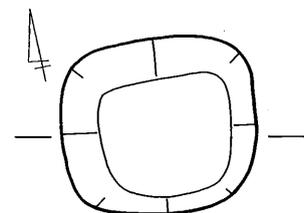
SK b 38 (調査時遺構名: I-19区SK15) (第148図)

I-19区の西部で検出した土坑で、西側は調査区外に続いている。検出部分の平面形は方形で、南北方向0.75m、東西方向は検出部分で0.7m、深さ0.2mである。南北の掘り込みは急である。埋土は淡茶褐色粘質土の単一層である。微細な遺物が少量出土している。

SK b 39 (調査時遺構名: I-20区SK26) (第149図)

I-20区の北部で検出した土坑である。平面形は方形で、南北方向0.55m、東西方向0.7m、深さ0.22mである。掘り込みは全体に急で、垂直に近づいている部分もある。埋土は明灰褐色砂質土の単一層である。

775は須恵器の皿の口縁部の細片である。端部は僅かに外反している。この他に古代の須恵器を含む微細な遺物が出土している。

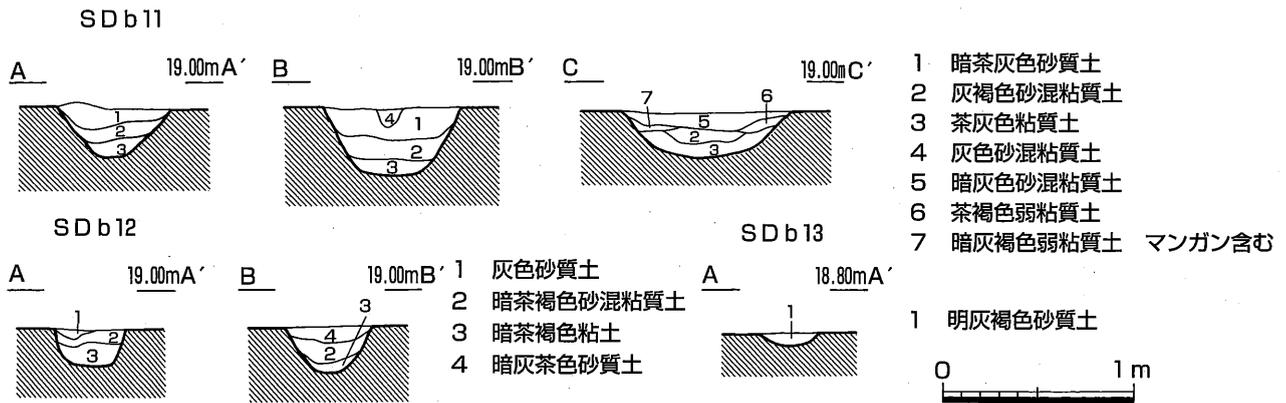


1 茶褐色粘質土

SK b 40 (調査時遺構名: I-20区SK18) (第150図)

I-20区の中央やや南寄り

第150図 SK b 40平・断面図 (1/40)



第151図 SD b 11・12・13断面図 (1/40)

で、南北方向0.93m、東西方向1.0m、深さ0.32mである。南側の掘り込みが急になっている。埋土は茶褐色粘質土の単一層である。古代の須恵器と土師器を含む微細な遺物が少量出土している。

溝

SD b 11 (調査時遺構名：I-1区SD06、概報遺構名：SD01) (第151・152図)

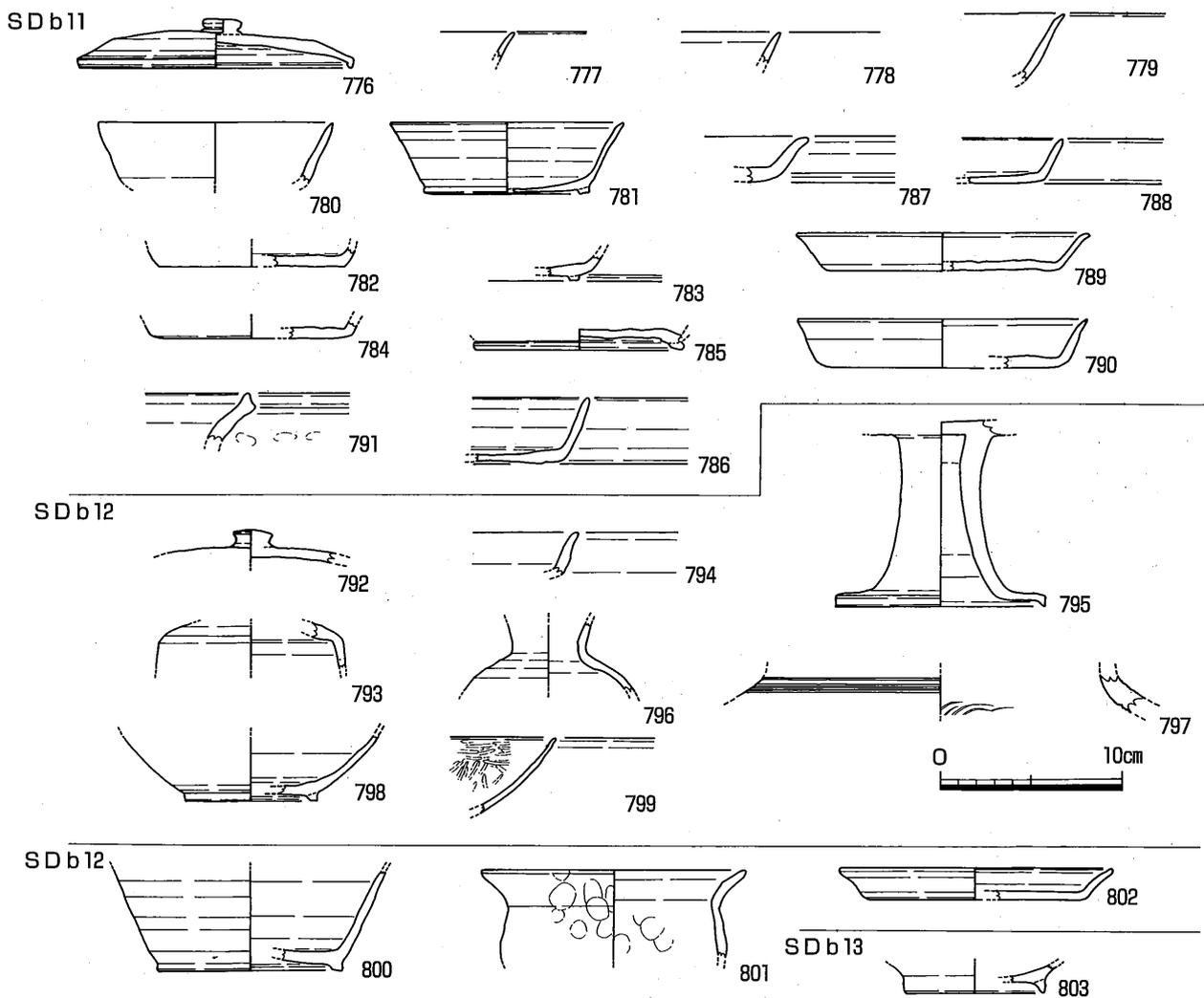
I-1区の南東部で検出した溝である。溝の方向はN-80°-Wで、条里地割の方向に直交している。断続的ながら後述するSD b 12・13と本来は同一の溝であった可能性が高い。全体に直線的で、中央やや東寄り部分を中世の土坑SK b 49に壊されている。全長15.0m、幅0.4~0.9m、深さ0.23~0.35mである。掘り込みは緩やかで、断面はU字形になっている。埋土は基本的に3層に分層され、最下層には茶灰色粘質土が堆積している。

776~791が出土遺物で、791が土師器である以外は須恵器である。776は杯蓋で、つまみ部は扁平である。天井部から屈曲して口縁部に至る。天井部外面は回転ナデになっているが凹凸があり雑な感じで、あるいは回転ナデ以前の回転ヘラケズリによるものかも知れない。777~786は杯である。781の底部外面はヘラ切りの後にナデとヘラケズリを加えている。また体部の立ち上がり部に断面方形の高台をやや外向きに貼り付けている。782~786の底部外面もヘラ切りの後にナデている。783・785は高台を貼り付けている。787~790は皿である。787の口縁部は外反し、底部外面には回転ヘラケズリを施している。789の口縁部は外反し、底部外面はヘラ切りの後にナデている。790の底部外面はヘラ切りのままである。791は鍋の口縁部で、端部を上方に拡張している。甕の可能性もある。

SD b 12 (調査時遺構名：I-1・3区SD07、概報遺構名：SD02) (第151・152図)

I-1区の南東部からI-3区の南西部にかけて検出した溝である。SD b 11と1.2m離れた場所から、SD b 11の延長で、また同方向であるN-80°-Wで東側に向かっている。SD b 11と後述するSD b 13と同一の溝であった可能性が高い。SD b 11と同様に直線的で、全長18.0m、幅0.35~0.8m、深さ0.18~0.25mである。掘り込みは西端部付近でやや急な部分がある以外は概ね緩やかで、断面はU字形になっている。埋土は基本的に3層に分層され、最下層には暗茶褐色粘土が堆積している。

792~802が出土遺物であるが、このうち792~799はI-1区から、800~802はI-3区から出土して



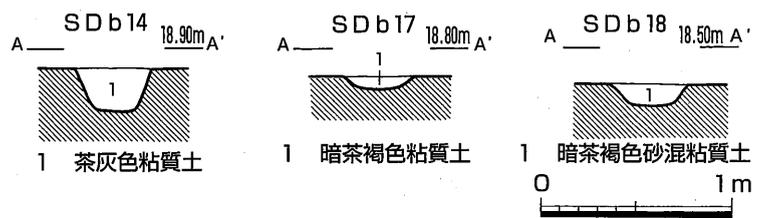
第152図 SD b11・12・13出土遺物 (1 / 4)

いる。799・801以外は須恵器である。792は杯蓋で、天井部外面には回転ヘラケズリを施している。793は器高が高く、壺の蓋と考えられる。天井部外面には回転ヘラケズリを施している。794は皿、795は高杯である。795の脚部は下部で真横に開いており、端部を下方に拡張している。796は壺、797は甕である。798は椀と考えられる。799は黒色土器A類の椀である。内面にはヘラミガキを施している。800は杯で、口縁部端部を僅かに欠いている。体部外面の高台付近には回転ヘラケズリを施している。底部外面はナデの痕跡しかないが、おそらくヘラ切りと思われる。801は土師器の甕で、内・外面に指押さえが顕著である。

SD b13 (調査時遺構名：I-21区SD14) (第151・152図)

I-21区の東部で検出した溝である。I-3区との調査区境で若干のずれが生じるがSD b12の続きと考えられる。方向はN-77°-WでSD b12より若干北側に振っている。西側はI-21区の北壁付近で不明瞭になるが、東側は調査区外に続いて行く。全体に直線的で、検出部分の長さは6.6m、幅0.3~0.45m、深さ0.06mである。掘り込みは緩やかで、断面はU字形になっている。埋土は明灰褐色砂質土の単一層である。

803は黒色土器A類の椀で、断面三角形の高台を貼り付けている。全体に摩滅気味である。この他に古代の須恵器と黒色土器を含む微細な遺物が少量出土している。



第153図 SDb14・17・18断面図 (1/40)

SDb14 (調査時遺構名: I-1区SD02) (第153・154図)

I-1区の南東部で検出した溝で、西端部をSKb23以前の古代の土坑に壊されている。溝は全体に直線的で、方向はN-85°-Wである。SDb12の南側1.6mの所に位置し、SDb12と並走している。検出部分の長さは5.1m、幅0.4~0.6m、深さ0.22mである。埋土は茶灰色粘質土の単一層である。

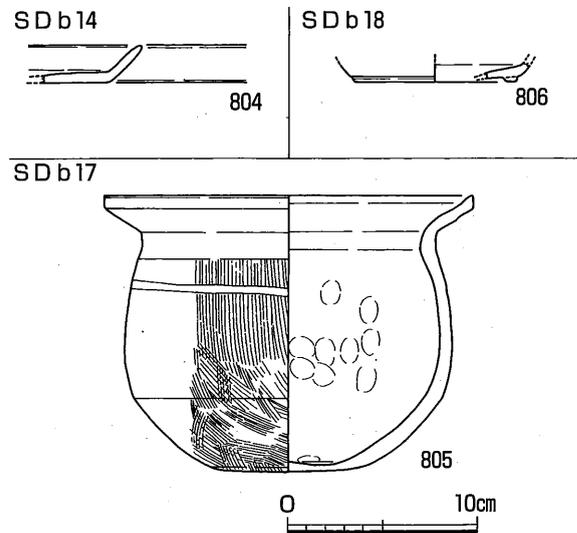
804は須恵器の皿で、底部は肥厚しており外面はナデている。

SDb15 (調査時遺構名: I-1区SD03)

I-1区の南東部で検出した溝である。SDb14の南側の東半部に接するようであり、方向もSDb14と同じN-85°-Wである。全長2.2m、幅0.4~0.5m、深さ0.2m前後と小規模なものである。埋土は茶灰色粘質土の単一層である。微細な遺物が少量出土している。

SDb16 (調査時遺構名: I-1区SD08)

I-1区の南東部で検出した溝である。N-9°-Eの方向に6.0m北進した後に西向きに直角に屈曲した後に1.6m進んだ所で収束する。条里地割の方向に一致している。南端部はSDb12と直角に交わった部分で収束するが、SDb12のほうが後に掘削されている。全長7.6m、幅0.2~0.4m、深さ0.2m前後である。埋土は茶灰色粘質土の単一層である。微細な遺物が少量出土している。



第154図 SDb14・17・18出土遺物 (1/4)

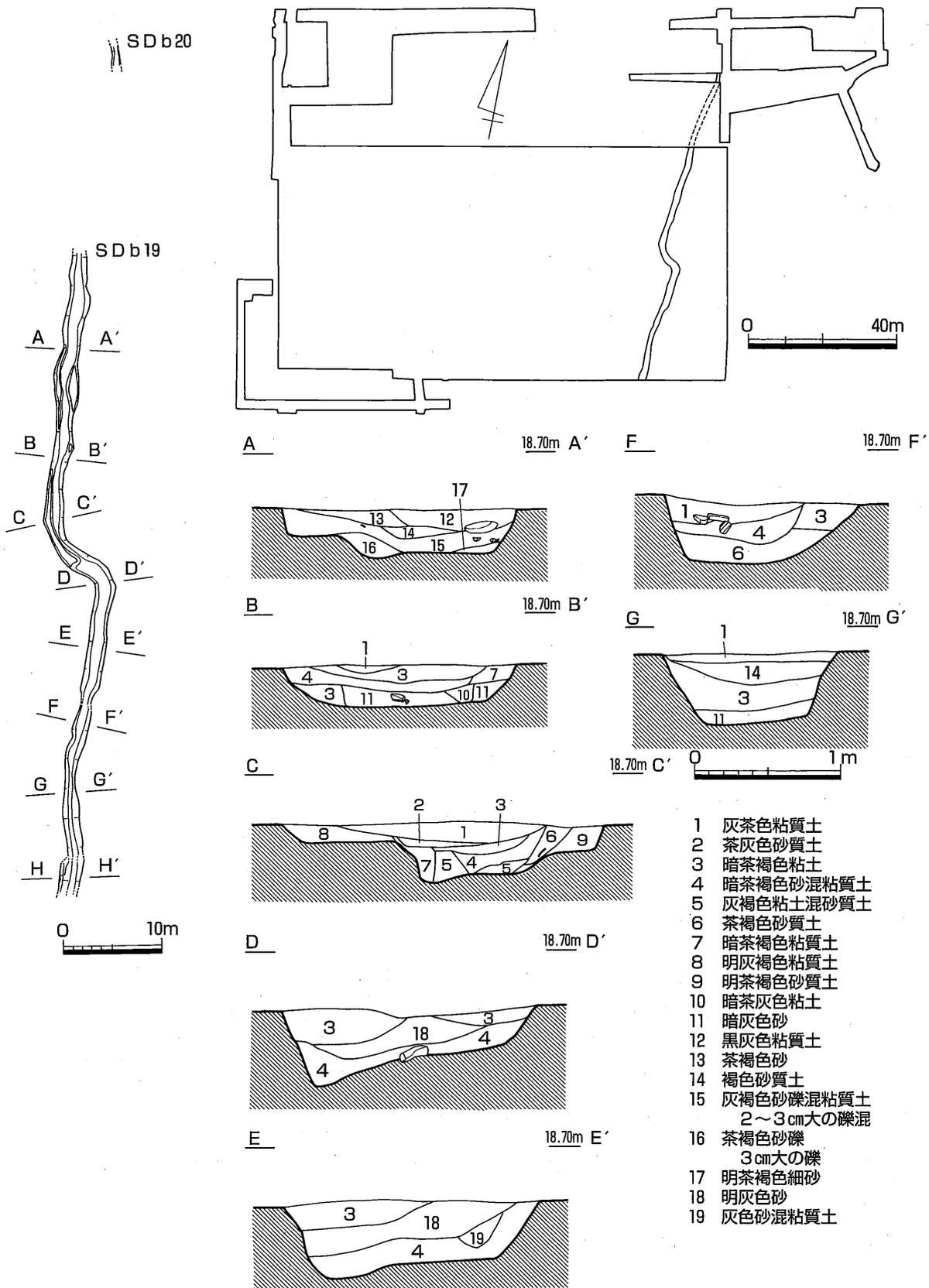
SDb17 (調査時遺構名: I-3区SD18) (第153・154図)

I-3区の南西部で検出した溝である。溝の方向はN-80°-Wで、SDb11・12と平行になっている。全体に直線的で、全長5.2m、幅0.35m、深さ0.06mであり、浅くなっている。埋土は暗茶褐色粘質土の単一層である。

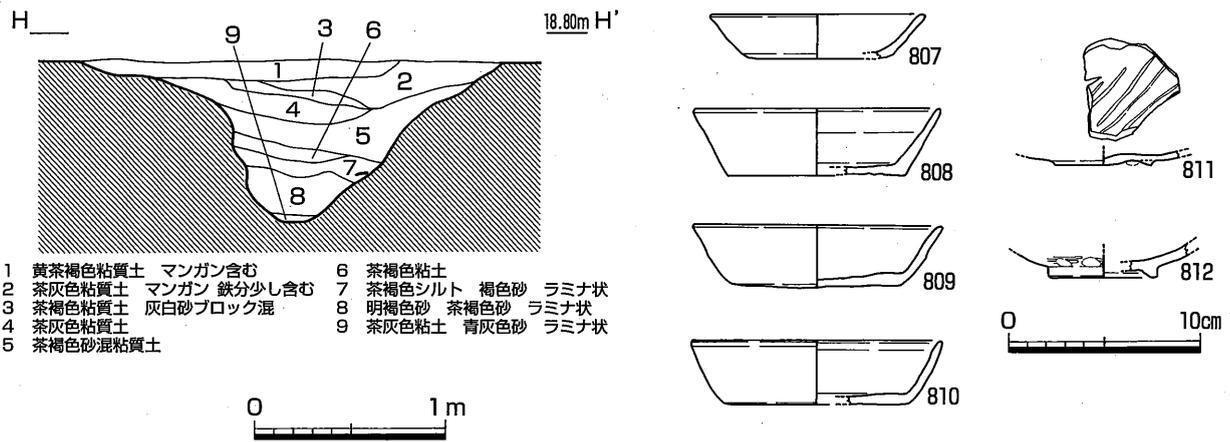
805は土師器の甕である。口縁部端部を上方に拡張している。体部は扁平で、粗く掘りの深いハケ目を全体に施した後に、上部に棒状工具の先端部によると考えられる凹線を1条巡らせている。内面は全体に指押さえとナデで整形している。

SDb18 (調査時遺構名: I-3区SD13) (第153・154図)

I-3区の中央やや北寄りで検出した溝である。溝の方向はN-29°-Eである。全体に直線的で、



第155図 SDb19・20位置図 (1/1600)・平面図 (1/600)、SDb19断面図 (1/40)



第156図 SDb19断面図（1/40）、出土遺物（1）（1/4）

全長4.3m、幅0.4m、深さ0.12mである。埋土は暗茶褐色砂混じり粘質土の単一層である。

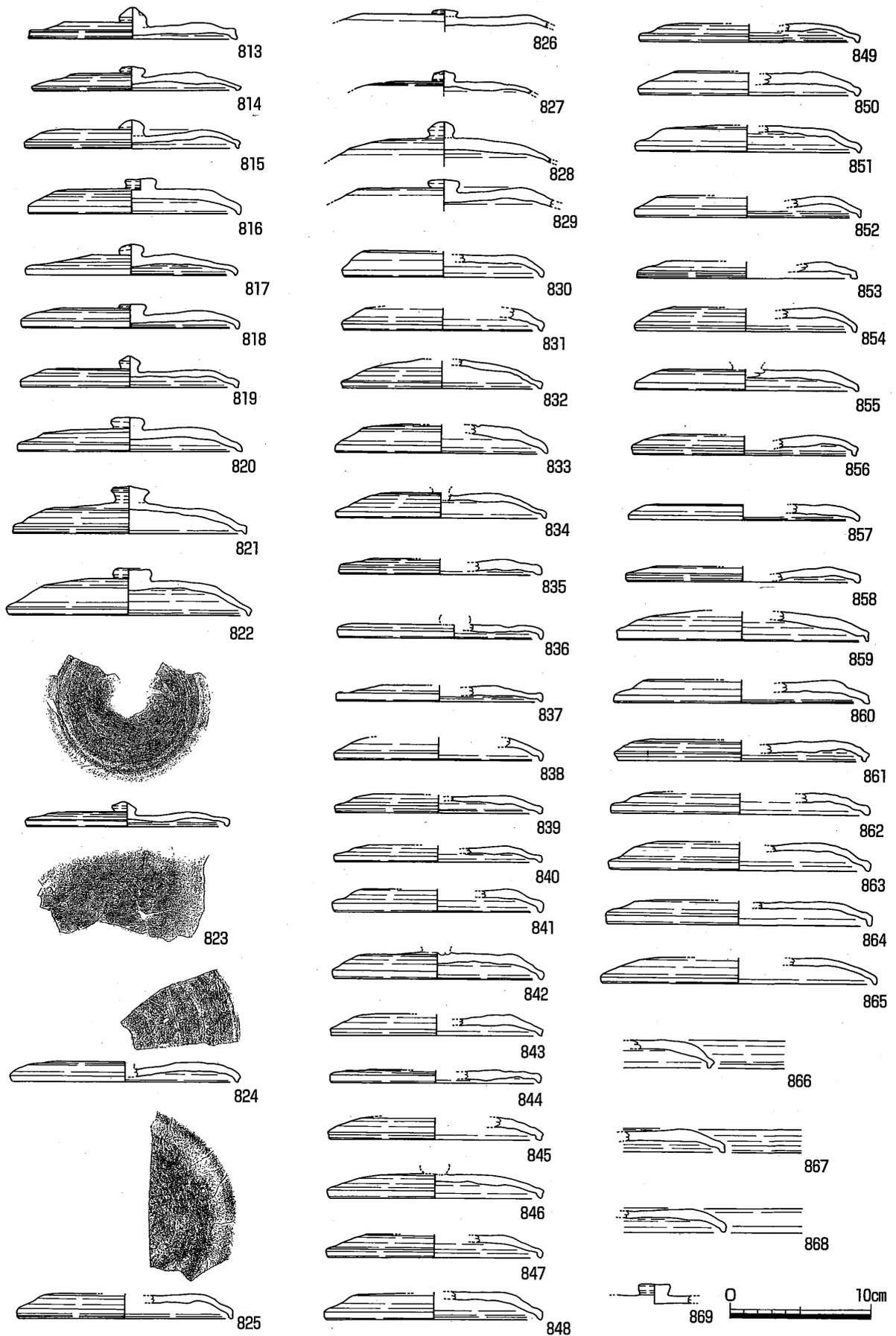
806は須恵器の杯で、断面方形の高台を貼り付けている。

SDb19（調査時遺構名：I-3・4区SD01、I-21区SD17、概報遺構名：SD03）（第155～167図）

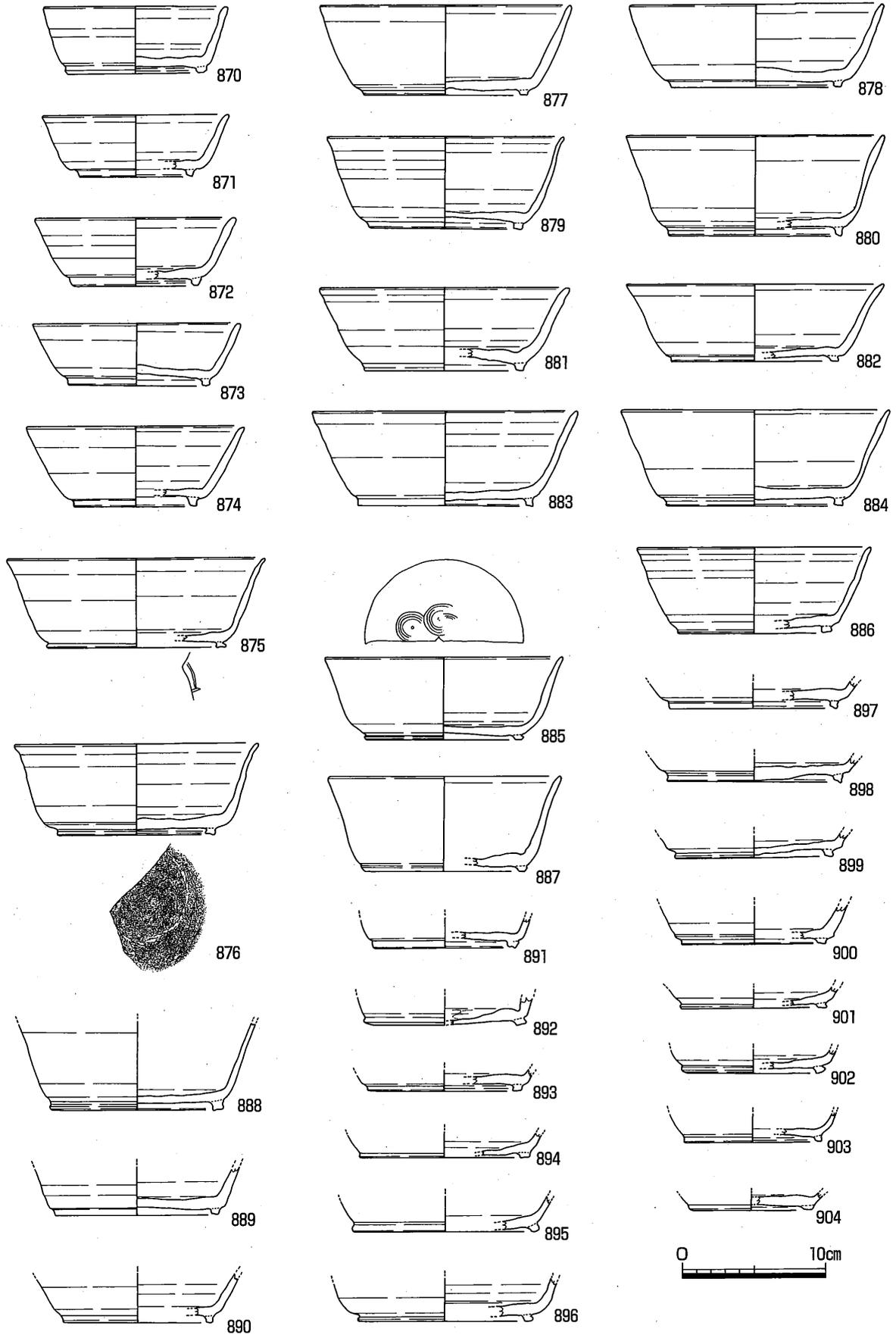
I-3・4・21区の東部で検出した溝である。I-3区とI-4区の境界部分で屈曲するが、全体として南北方向に延びている。溝の方向は屈曲部より南側でN-9°-E、北側でN-8°-Eで条里地割の方向に一致している。屈曲部はI-3区部分から60°ほど西に屈曲してI-4区部分に至り、全体として5.0m西に平行移動している。また南側のI-21区付近で少し東側に湾曲している。屈曲部分を含めて全長は67.0mになる。北側は調査区外に続いてゆくが、おそらく後述するI-18区のSDb20と『空港跡地遺跡Ⅷ』で報告されたI-6区のSDl001及びI-12区SDl312に続いてゆくものと考えられる。しかしSDb20とSDl001の間の部分はI-19区では検出されていない。一方南側は、これも『空港跡地遺跡Ⅷ』で報告されたI-5区のSDl402に続いてゆくものと考えられる。つまりSDb19は空港跡地遺跡を南北方向に縦断する溝と言える。幅は1.0m～2.4mで、屈曲部から北側のI-4区の方が広い部分が多くなっている。深さはI-3・4区に相当する断面A-A'～G-G'で、0.3～0.55mである。これに対してI-21区に相当する断面H-H'部分では深さ0.85mと深くなっている。これはI-3・4区の大部分が旧高松空港の滑走路部分に相当するため、遺構面が削平に伴って溝の上部も削平されたためと考えられる。従って本来は断面H-H'部分のような形状であったと考えられる。溝の掘り込みは、概ね西側の方が急になっている。また屈曲部より北側ではテラス状の段が形成されている部分がある。埋土は茶褐色～茶灰色系の粘質土が主体となっているが、底部付近は砂層となっている部分が多く、水が流れていたことが分かる。また埋土の断面から再掘削されている部分もある。

埋土の下部を中心にして、須恵器を主体とした多量の遺物が出土している。このうち807～812はI-21区部分で出土した遺物である。807～810は須恵器の杯である。808～810は底部まで残存しており、底部外面はヘラ切りの後にナデている。808は底部から体部への立ち上がり部は鋭くなっている。また809は体部両面に、810は内面に火樺が認められる。811と812は溝の最上部から出土しているもので、混入と考えられる。811は瓦器椀、812は十瓶山産の須恵器椀である。

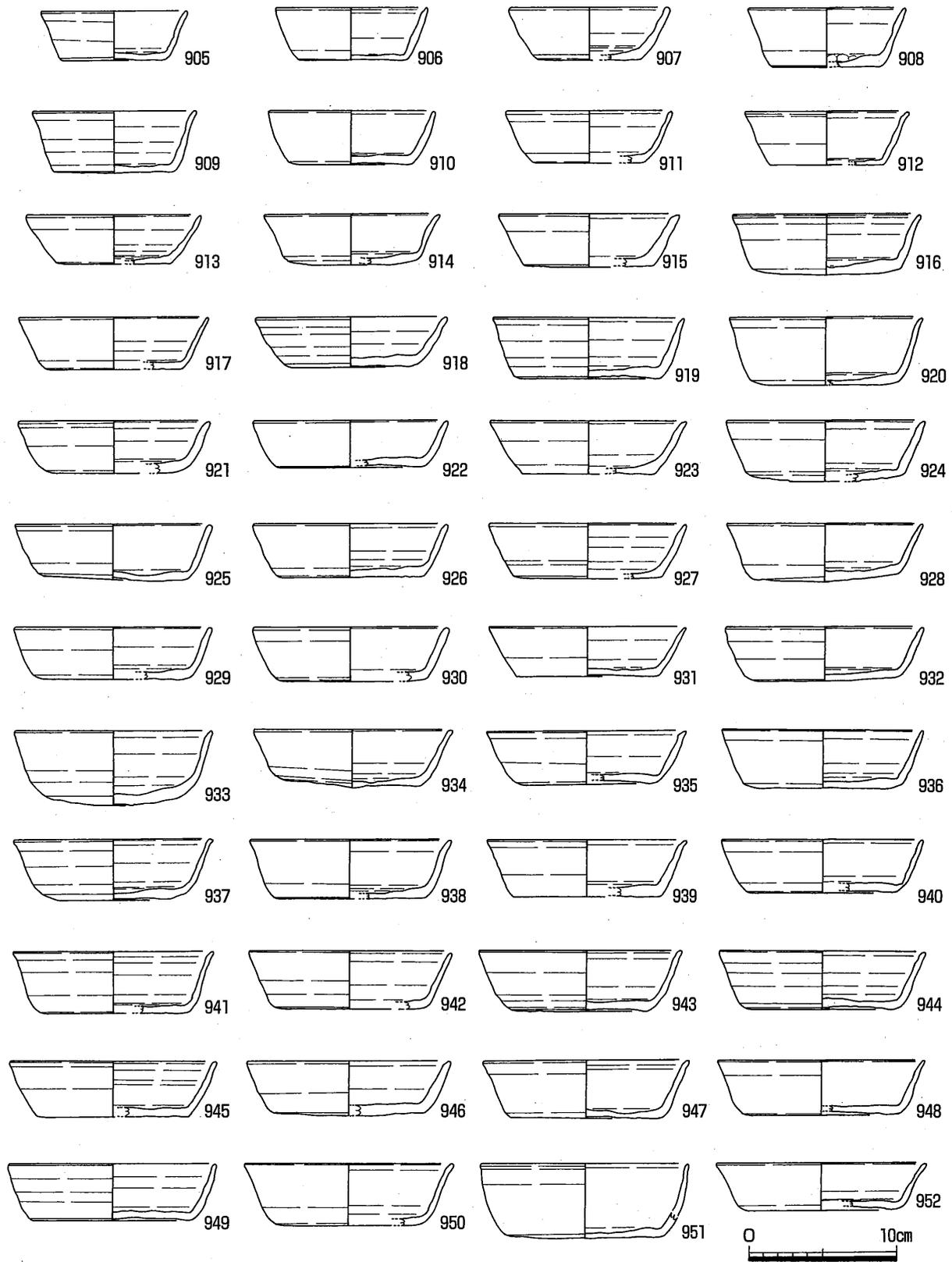
813～869は須恵器の杯蓋である。813・814の天井部は中央部が窪んでおり、肥厚している。外面には回転ヘラケズリを施している。また814の口縁部付近は非常に薄くなっている。815のつまみ部の先端は



第157图 SD b 19出土遺物 (2) (1 / 4)



第158图 S D b 19出土遺物 (3) (1 / 4)

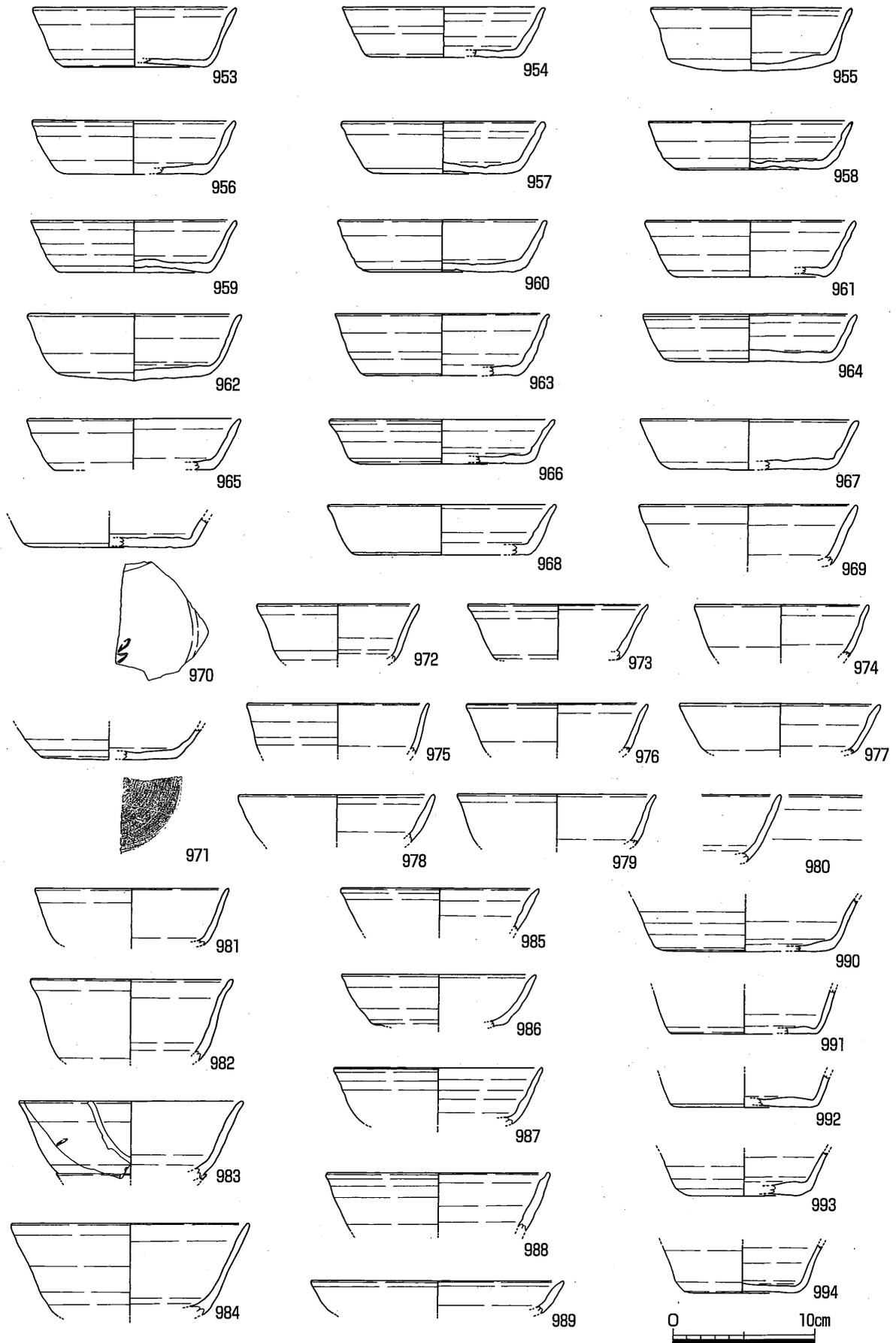


第159図 S D b 19出土遺物 (4) (1 / 4)

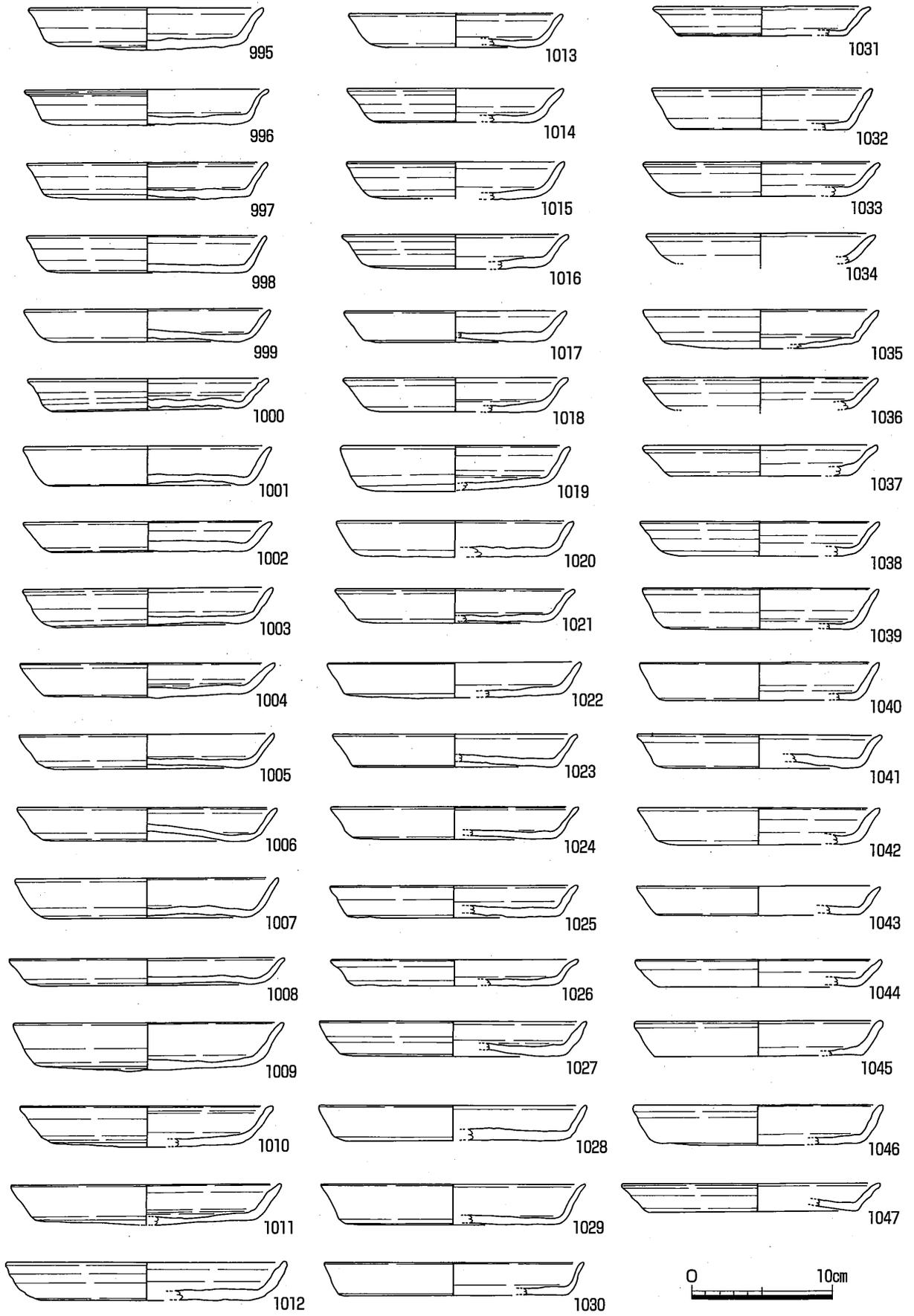
丸くなっている。816・819・820は平坦な天井部から屈曲して口縁部に至る。816の天井部にはヘラ切りの後に雑ではあるが回転ヘラケズリを施しており、最後にナデている。820は屈曲部から口縁部にかけて強くナデている。823は内・外面にヘラ記号と考えられる線刻があるが、単純ではなく絵画状になっている。824・825は外面にヘラ記号が認められる。828・832・834・846・859・865の天井部は全体に丸みを帯びている。836・844は平坦な天井部からそのまま口縁部に至る。842・855・857・868の天井部はヘラ切り痕が残っている。851は天井部から口縁部至るまで2段に屈曲している。859は口縁部端部内面を強くナデている。

870～904は須恵器の杯で、底部に高台を貼り付けているものである。870・872～874の体部は直線的である。871の高台は屈曲部より内側にある。872は体部最下部外面に回転ヘラケズリを施している。底部外面はヘラ切りの後にナデている。873の底部は上げ底で、外面はヘラ切り痕が残る。また底部外面には墨書状のものがあるが、赤外線を照射しても写らなかったことから、火襷と考えられる。875の体部は全体に薄く、口縁部は外反している。底部外面にはヘラ記号と考えられる線刻の一部が残っている。876の口縁部は薄く、外反している。底部外面にヘラ工具痕が弧状に巡っている。875～878の底部外面には回転ヘラケズリを施している。879の口縁部は僅かに外反し、体部と底部中央は薄くなっている。底部外面はヘラ切りの後にナデている。880は体部立ち上がり部内面の強いナデによって、この部分が薄くなっている。また底部外面はナデと板ナデを加えている。882・883の底部外面はヘラ切りの後にナデているが、883はさらに回転ヘラケズリを加えている。884は体部最下部外面に回転ヘラケズリを施している。885の口縁部端部内面には沈線が巡っている。底部内面には部分的にカキ目状になる板ナデの後の同心円状の当て具痕が認められる。886は体部最下部外面に回転ヘラケズリを施し、底部外面にはナデとともにハケ目状の痕跡がある。887の高台の外側は潰れている。887・889は底部外面にヘラ切りの痕跡が残り、891・894の底部外面はヘラ切りの後に大部分をナデている。892・902の高台は外側に踏ん張っている。

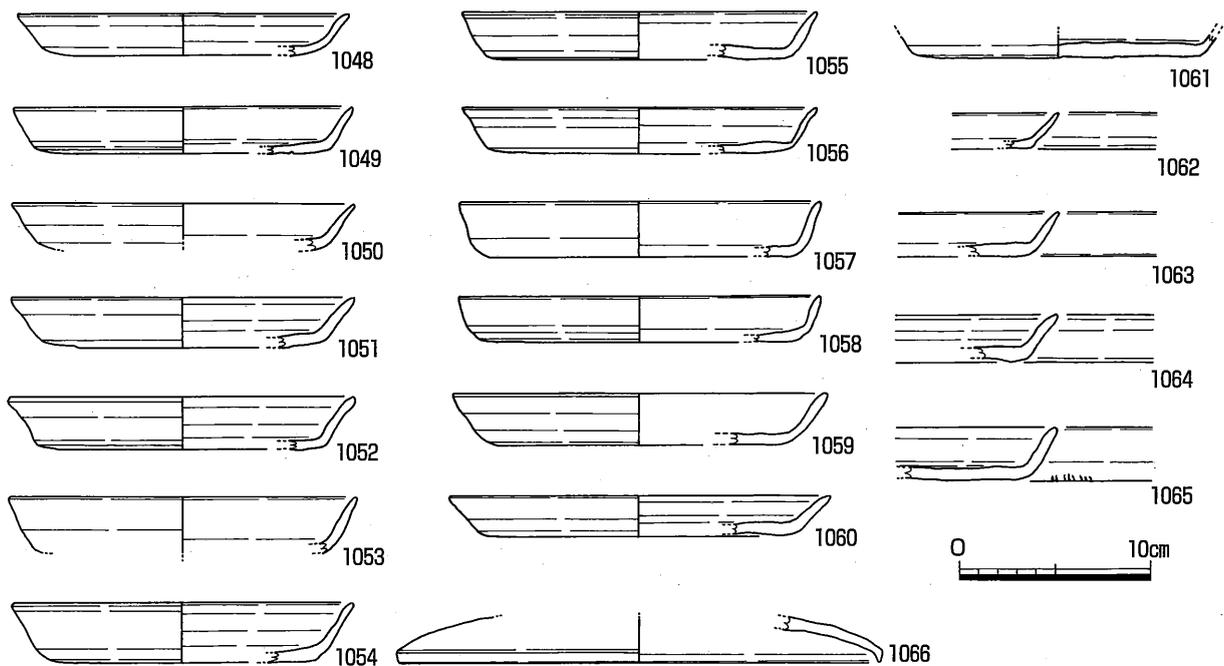
905～994は須恵器の杯で、底部に高台が付かないものである。底部外面がヘラ切りのままで未調整のものは919・928・933・934である。ヘラ切りの後にナデているものは907・910・913・914・916～918・920・923～926・929・931・932・935～937・939・940・943・945・948・949・951・952・955～958・960・963・964・967・970・992・993である。回転ヘラケズリを施すものは905・906・908・909・912・941・942・944・946・947・950・953・954・959・961・962・965・966・971・994である。その他で底部が欠損しているもの以外は、ヘラ切りや回転ヘラケズリの痕跡は認められずナデている。905の口径は9.8cmと小さく、口縁部は歪んでいる。906～908も口径が10cm代と小型品である。906の底部外面には回転ヘラケズリを施すが、ヘラ切りの痕跡が僅かに残っている。907は体部最下部外面に回転ヘラケズリを施している。909の体部の立ち上がりは急で、口縁部は僅かに外反している。底部外面の回転ヘラケズリは丁寧である。911は体部最下部外面に回転ヘラケズリを施し、器壁は部分的に厚くなっている。底部外面はナデている。914は体部全体に僅かに外反している。底部外面はヘラ切りの後に僅かにナデているが、未調整に近い。916の底部外側は肥厚しており、外面はヘラ切りの後にナデているが、ヘラ切り痕は残っている。923の体部立ち上がり部の内面には、回転ナデの際の爪の跡が線状に3条認められる。931の底部外面はヘラ切りの後に板ナデを施すが、板ナデはハケ目に近くなっている。935は口縁部端部の内面を強くナデている。938の口縁部は僅かに外反している。底部外面は全体にナデており、ヘラ切りの痕跡は認められない。焼成不良品である。941・947の底部外面の回転ヘラケズリは雑で、きれいに回転していない。951の体部は内湾し、口縁



第160图 S D b 19出土遺物 (5) (1 / 4)



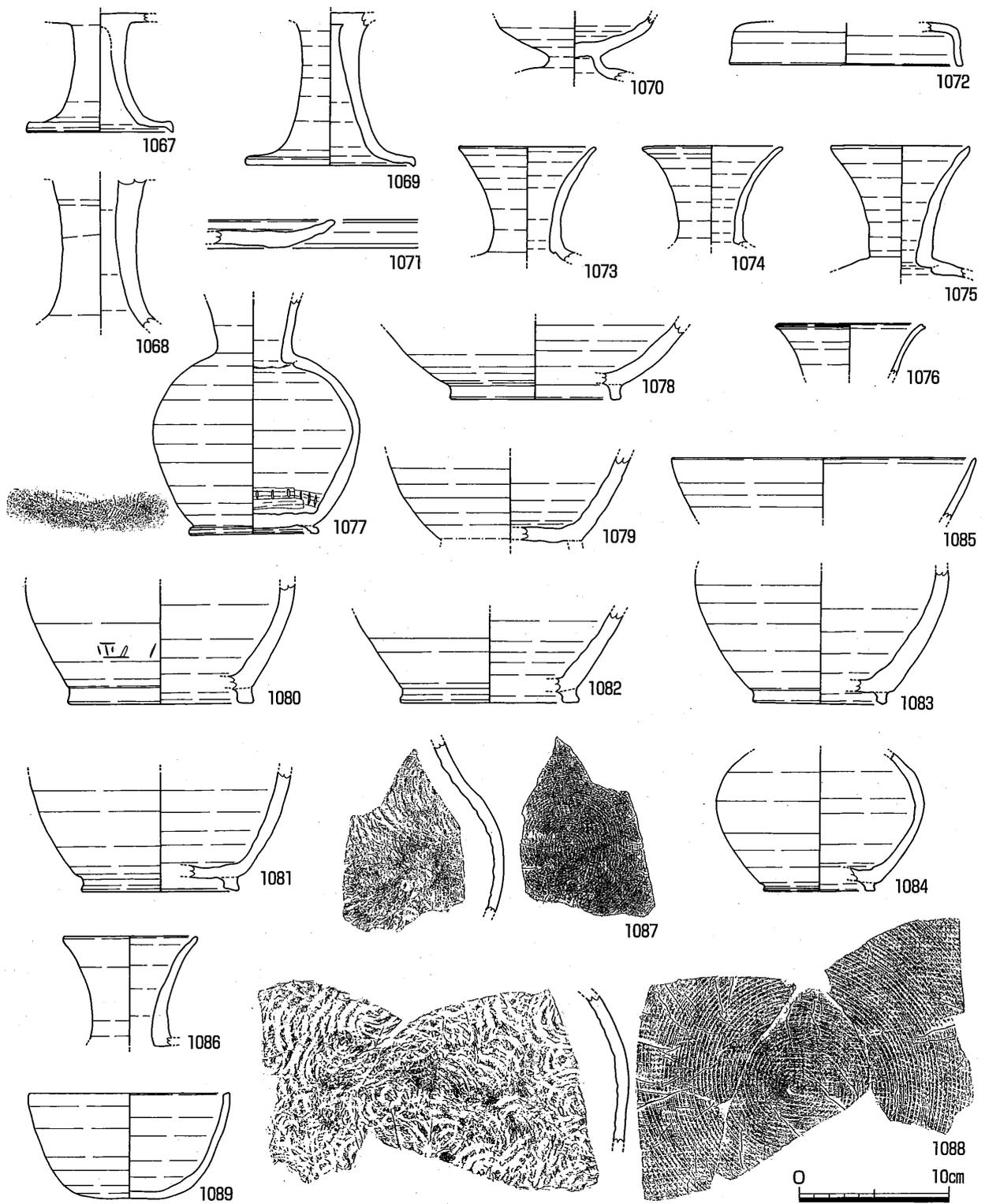
第161図 S D b 19出土遺物 (6) (1 / 4)



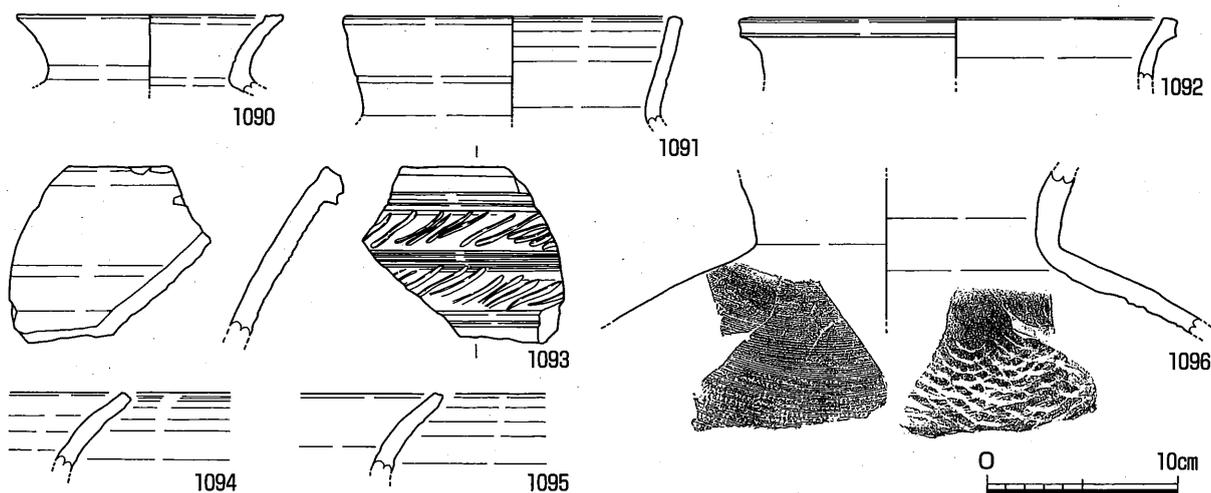
第162図 S D b 19出土遺物 (7) (1 / 4)

部端部は外反している。底部外面はヘラ切りの後にナデているが、ナデは弱く未調整に近い。953は体部最下部外面に回転ヘラケズリを施している。底部外面は回転ヘラケズリの痕跡が認められるが、その後にはナデている。中央部分にはヘラケズリを施しておらずヘラ切りの切り離し痕が残っている。955の底部外面にはヘラ記号のような線刻が一部認められる。958の底部外面はヘラ切りの後にナデているが、ナデは弱く未調整に近い。959の底部は上げ底である。970の底部外面には墨書があるが、中央で欠損しており文字は不明である。971の底部外面は回転ヘラケズリで、工具の木目が顕著である。982の口縁部は外反している。983の体部外面には自然釉が付着しており、墨書の一部が認められる。また底部は欠損しているが、焼成時に重ね焼きした際の、他の須恵器の杯の口縁部が付着している。988は口縁部内面を強くナデている。989は皿と考えた方が良くかも知れない。993は底部が肥厚している。994の底部外面の回転ヘラケズリは部分的にしか施されていない。

995～1066は須恵器の皿である。底部外面がヘラ切りのままで未調整のものは1000・1010・1012である。ヘラ切りの後にナデているものは995～997・1001～1004・1007～1009・1013・1015～1017・1019・1021・1023～1025・1027～1029・1041・1043・1045・1046・1049・1055・1060・1061である。回転ヘラケズリを施すものは1006・1020・1026・1035・1052・1056・1059・1062である。その他で底部が欠損しているもの以外は、ヘラ切りや回転ヘラケズリの痕跡は認められずナデている。996の口縁部は外反している。999の底部外面はナデとともに板ナデも加えているが、板状工具が当たった跡が目立つ。1000は底部外面がヘラ切り未調整のため凹凸が著しい。また体部の回転ナデは強い。1006の底部は上げ底になっている。底部外面は回転ヘラケズリが僅かに認められるが、その後には底部の外側を中心に粗いハケ目を加えている。1007・1025の底部外面はヘラ切りの後にナデているが、ナデは弱く未調整に近くなっている。1011は口縁部端部を強くナデている。1012は全体に肥厚しており重量感がある。1016・1031の口縁部は僅かに外反している。1020の底部外面の回転ヘラケズリは弱く、焼成は不良である。1021の底部外面には線刻があるが、ヘラ記号なのか偶然に工具の先端部が当たったのか不明である。1026の口縁部は外反している。1028の底



第163図 S D b 19出土遺物 (8) (1 / 4)



第164図 S D b 19出土遺物 (9) (1 / 4)

部は肥厚している。1035の底部は歪んで湾曲しており、不安定である。1037は口縁部端部内面を強くナデている。1045の体部立ち上がり部は鋭くなっている。1047・1052は体部に強く回転ナデを施している。1056の体部は回転ナデによって薄くなり、逆に口縁部端部が肥厚している。1059の底部外面の回転ヘラケズリは部分的に施されている。1065の体部立ち上がり部の外面には板状圧痕に似た工具痕が認められる。1066は皿の蓋である。中央部分が欠損しているものの、天井部は全体に丸みを帯びるものと考えられる。天井部の外面には回転ヘラケズリを施している。

1067～1071は須恵器の高杯である。1067は脚部の下部で真横に開く。1068は脚部の上面に杯部との接合痕が認められる。1070の脚部は低く上部で屈曲している。1071は杯部で体部から口縁部にかけて短くなっている。体部の立ち上がり部から底部の外縁部にかけて回転ヘラケズリを施している。

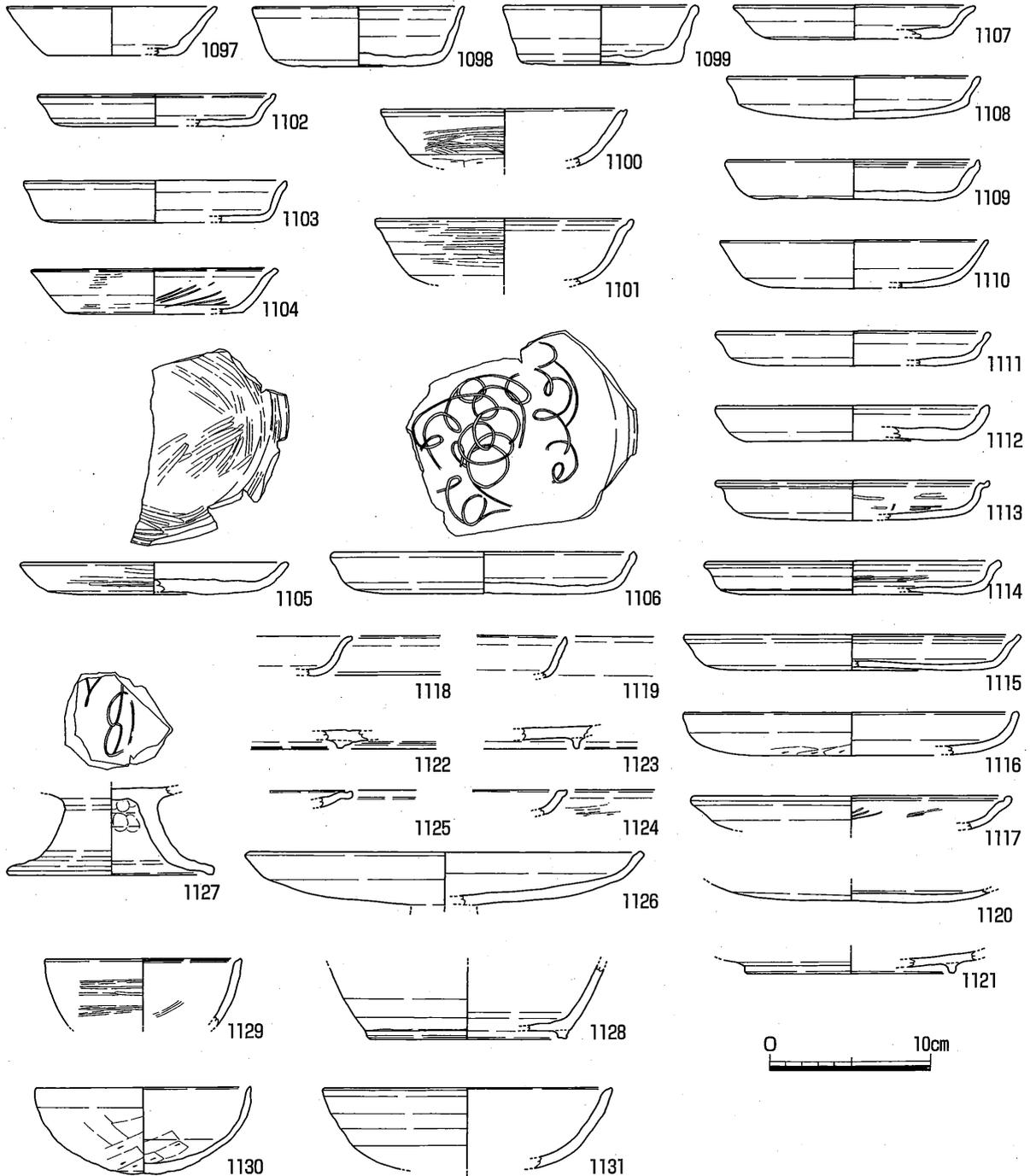
1072は須恵器の壺の蓋である。天井部には回転ヘラケズリを施している。

1073～1084は須恵器の壺である。1073～1076は壺の頸部から口縁部であり、外反して開いている。1073は内・外面全体に灰色の釉が付着している。1077の体部は最大径が中央にあり、底部は肥厚しており、外側に高台を貼り付けている。体部の下部には回転ヘラケズリを施しており、高台に近い部分には縄目痕が認められる。また体部内面の下部には板状工具により断続的にナデており、板状工具の小口痕が数箇所残っている。また底部内面はヘラで粘土を掻き取っている。1079の体部の下部には回転ヘラケズリを施している。底部には高台が剥離した跡がある。底部内面はヘラで粘土を掻き取っている。1080の体部下部の外面にはヘラ記号が認められる。1081の底部は円形に欠損しているが、意図的に円形に打ち欠いたようである。1083の残存する体部の下部の外面には回転ヘラケズリを施している。また高台の外面には窯壁が付着し、底部の高台付近には藁と考えられる木質が付着している。1084の体部の上部は器面が荒れており、土器片が付着している。

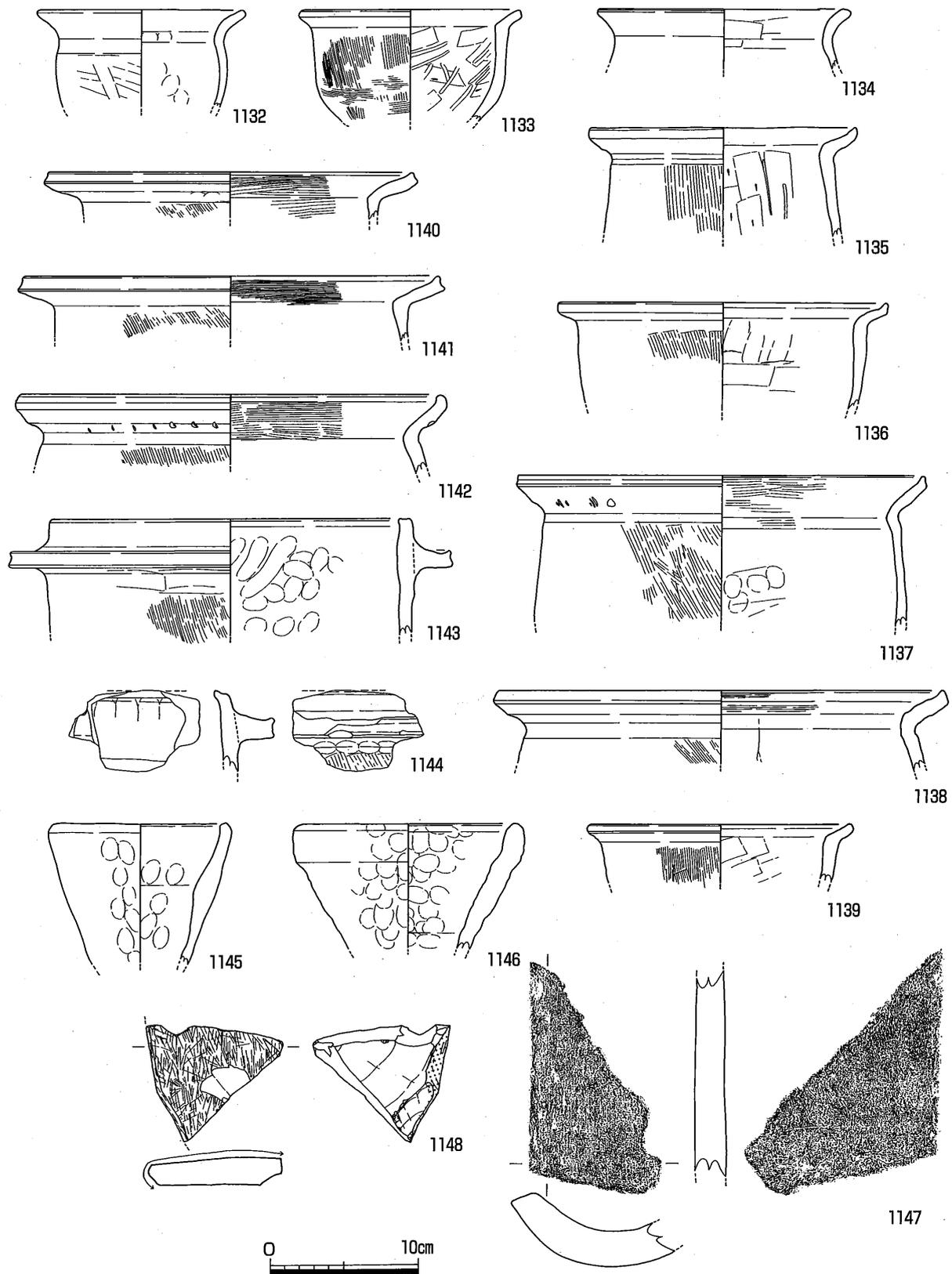
1085は部分的ではあるが盤と考える。体部は直線的で、口縁部端部は先細りになる。1086は壺の口縁部に似るが、体部との境界部分で内面が真横に屈曲していることから平瓶と考えたものである。1087・1088は横瓶の体部中央部の破片である。両者とも同心円状にカキ目を施しているが、1088はカキ目以前にタタキを施している。1089は鉢と考えられる。口縁部端部は内傾する面をもつ。体部外面の下部には回転ヘラケズリを施している。

1090~1096は須恵器の甕である。1091は口縁部中央に凹線が1条巡っている。1092・1093の口縁部端部は外側に肥厚し、断面が方形になっている。また1093の外面にはヘラ圧痕文を施している。1096の体部はタタキの後にカキ目を施している。

1097~1101・1103・1104は土師器の杯である。1097は全体に摩滅している。器形は須恵器に似ており、回転台（ロクロ）で成形した可能性がある。1098・1099ともに回転台（ロクロ）で成形しており、体部の立ち上がりは急である。底部外面は1098が回転ヘラケズリ、1099がヘラ切りの後に板状圧痕とナデを



第165図 S D b 19出土遺物 (10) (1 / 4)



第166图 SD b19出土遺物 (11) (1/4)

施している。1100・1101は口縁部内面を強くナデて、凹線状の段になっている。体部外面にはヘラミガキを施し、1100の下部はヘラケズリになっている。1102は当初、杯と考えたが皿としたほうが良いかも知れない。1103は回転台（ロクロ）で成形しており、底部外面には回転ヘラケズリを施している。1104は体部外面にはヘラミガキを施し、内面には斜放射状の暗文を加えている。

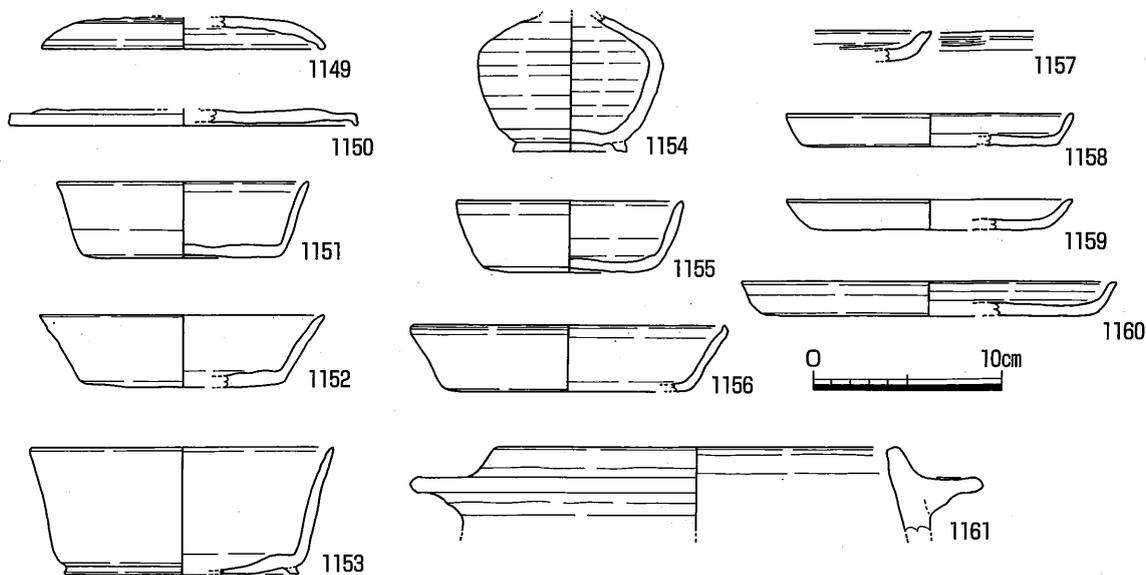
1105～1124は土師器の皿である。1105は内・外面に幅広のヘラミガキを施している。底部外面はヘラケズリである。1106の底部内面には螺旋状に暗文を施している。底部外面はヘラケズリであるが、部分的にヘラミガキが認められる。1107は内・外面に赤彩を施している。1108～1112・1115は体部と口縁部をナデており、底部外面にはヘラケズリを施している。1108の底部は丸みを帯びており、体部立ち上がり部は鋭くなっている。1112は全体に肥厚しており重量感がある。1113の口縁部は2段に屈曲している。体部外面はナデているが、内面はヘラミガキの後に暗文を加えている。底部外面はヘラケズリである。1114の口縁部は外反している。体部外面はナデているが、内面はヘラミガキである。底部外面はヘラケズリである。また内・外面に赤彩を施している。1115は口縁部内面を強くナデており、外面に赤彩を施している。1116のヘラケズリは底部外面から体部下半まで及んでいる。1117の口縁部は肥厚しており、体部内面には斜放射状の暗文を加えている。1118は内・外面に赤彩を施している。1120は底部であるが、外面にヘラケズリを、内面には粗いヘラミガキを部分的に施している。1121～1123は底部に高台を貼り付けている。1124は口縁部をナデ、体部外面にはヘラミガキ、底部外面にはヘラケズリを施している。

1125～1127は土師器の高杯である。1125の口縁部は2段に屈曲し、杯部は浅くなるものと考えられる。1126の杯部中央には脚部の剥離痕がある。杯部は外面にヘラケズリが認められる以外は摩滅している。1127の杯部内面には螺旋状に暗文を施している。

1128は説明が前後したが、須恵器の壺である。

1129～1131は土師器の椀である。1129は口縁部内面を強くナデており、体部外面にはヘラミガキを施している。1130は丸底で、底部の内・外面にヘラケズリを施している。1131の体部には回転ナデを、底部外面にはヘラケズリを施している。

1132～1142は土師器の甕である。1133の口縁部は直線的である。体部も上部は直線的で、外面には全



第167図 S D b 19直上包含層出土遺物 (1 / 4)

体にハケ目を施している。内面にはヘラミガキを加えているが、棒状工具でのナデに近くなっている。1136は口縁部端部を上方に拡張している。1137の口縁部内面にはハケ目を施し、外面にはハケ目工具の小口部分が接触したと考えられる跡がある。1140～1142は口縁部内面にハケ目を施している。1142は口縁部外面にヘラ状工具による刺突文が認められる。

1143・1144は土師質の羽釜で、口縁部のやや下部に罫を貼り巡らせている。内面は指押さえとナデで仕上げている。体部外面にはハケ目を施している。混入品と考えられる。1145・1146は製塩土器あるいは焼き塩壺である。底部は欠損しているが尖底になるものと考えられる。器壁は厚く、内・外面とも全体に指押さえが顕著である。1147は平瓦と考えられるが、平瓦の割には反りが大きい。凸面と凹面の端部付近にはヘラケズリを施し、凸面は最後にナデている。1148はサヌカイト製の砥石で、片側の面と側面が摩滅しており、擦痕が顕著である。

1149～1161はS D b 19の埋土から出土したものではなく、S D b 19の直上の包含層から出土したものであるが、本来はS D b 19に伴う可能性が高いものとしてここに掲載しておく。1149・1150は須恵器の杯蓋で、1149の天井部は丸みを帯びており、外面には回転ヘラケズリを施している。1150は平坦な天井部から僅かに屈曲して口縁部に至る。やや歪んでおり、天井部を含めて回転ナデとなっている。1151～1153は須恵器の杯で、底部外面はいずれもヘラ切りの後にナデている。1153は器高が高く、底部には高台を貼り付けている。1154は須恵器の壺で、体部の最大径は上半にあり、最下部の外面には回転ヘラケズリを施している。高台の内側を強くナデている。1155・1156は土師器の杯である。1155は回転台（ロクロ）で成形しており、底部外面は回転ヘラケズリを施しているが、ヘラ切りの切り離し痕が僅かに残っている。やや時代が下るものである。1157～1160は土師器の皿である。1157の体部外面と底部内面にはヘラミガキを施している。1159は内・外面に、1160は外面は摩滅しているが内面にそれぞれ赤彩を施している。1161は土師質の羽釜である。混入品と考えられる。

以上、S D b 19からは多量の遺物が出土しているが、土師器の杯・皿にはまだ暗文を施すものが認められたり、須恵器の杯蓋が全体に丸みを帯びているものを含むなど、掘削時期は8世紀後半と考えられる。しかし大部分の遺物は8世紀終末の長岡京期のもので、9世紀初頭には埋没している。

S D b 20（調査時遺構名：I - 18区 S D 03）（第155図）

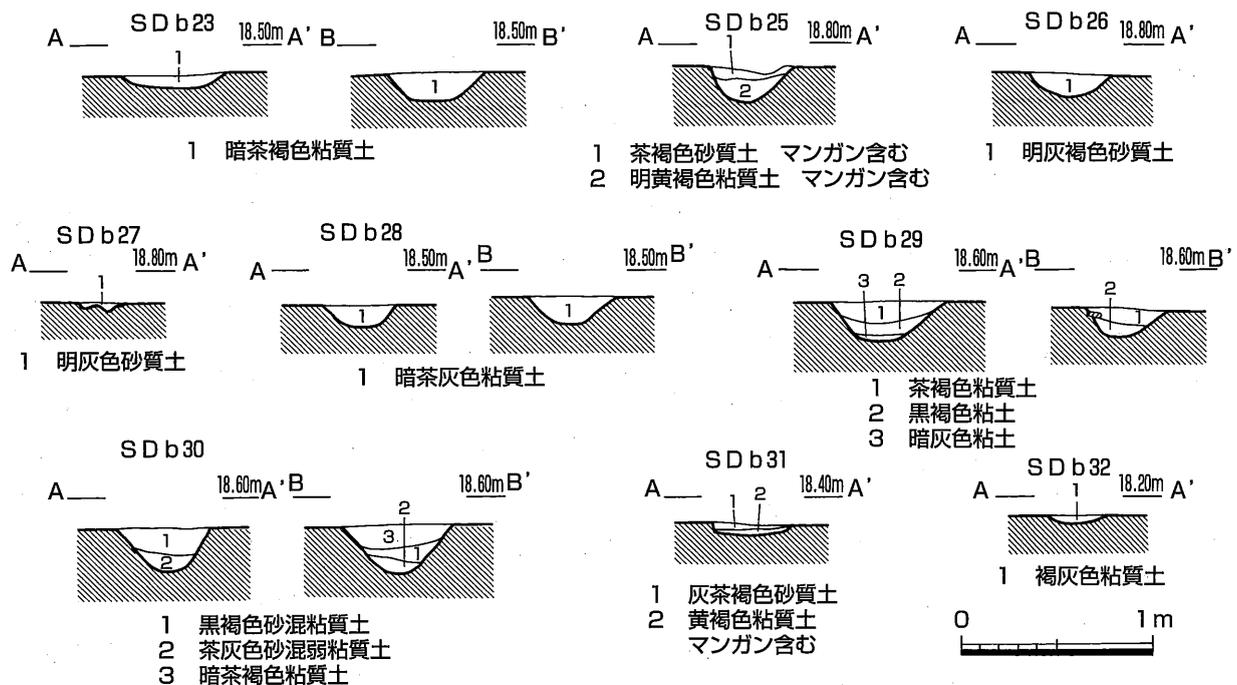
I - 18区の中央やや西寄りで見出した溝である。溝の方向はN - 8° - Eで、おそらくS D b 19の続きになると考えられるが北側に続く部分は検出されていない。全体に直線的で、検出部分で長さ2.0m、幅0.7～0.9m、深さ0.18mである。埋土は上下2層に大別され、上層には灰褐色砂質土、下層には茶褐色砂質土が堆積している。微細な遺物が少量出土している。

S D b 21（調査時遺構名：I - 3区 S D 08、I - 21区 S D 31）

I - 3区の南部からI - 21区にかけて検出した溝である。溝の方向はN - 21° - Eで、北端部はS D b 19に壊されている。溝はI - 21区で南側に向かって屈曲している。全長6.6m、幅0.3～0.8m、深さ0.1m前後で、埋土は茶褐色粘質土の単一層である。微細な遺物が少量出土している。

S D b 22（調査時遺構名：I - 3区 S D 06）

I - 3区の南東部で見出した溝である。溝の方向はN - 6° - Wで、南端部は調査区南壁部分で収束



第168図 SD b 23・25・26・27・28・29・30・31・32断面図 (1/40)

している。全長4.6m、幅0.4m、深さ0.15m前後で、埋土は茶褐色粘質土の単一層である。古代の須恵器の杯を含む微細な遺物が少量出土している。

SD b 23 (調査時遺構名: I-3区SD03) (第168・169図)

I-3区の南東部で検出した溝である。溝の方向はN-77°-Wで、条里型地割にほぼ直交していると言える。全体に直線的で、東側は調査区外に続いて行く。西側の状況からSD b 19の埋没後に掘削されていることが分かる。調査区内で全長23.5m、幅0.4~0.8m、深さ0.07~0.16m、埋土は暗茶褐色粘質土の単一層である。

1162は須恵器の壺の蓋である。天井部を含めて回転ナデを施している。天井部には薄く自然釉が付着している。1163は須恵器の杯で、口縁部端部を強くナデている。1164は土師器の皿と考えたが、あるいは高杯の杯部になるかも知れない。口縁部端部は平坦な面を持ち、器壁は全体に肥厚している。全体に摩滅しているが、外面にはヘラミガキが認められる。

SD b 24 (調査時遺構名: I-3区SD04)

I-3区の南東隅で検出した溝である。溝の方向はN-55°-Eで、東側は調査区東壁に断面が現れていないことから壁際で収束すると考えられ、西側はI-3区の南壁際で不明瞭になる。検出部分で長さ2.6m、幅0.5m、深さ0.1m前後である。埋土は暗茶褐色粘質土の単一層である。古代の須恵器の杯を含む微細な土器が少量出土している。

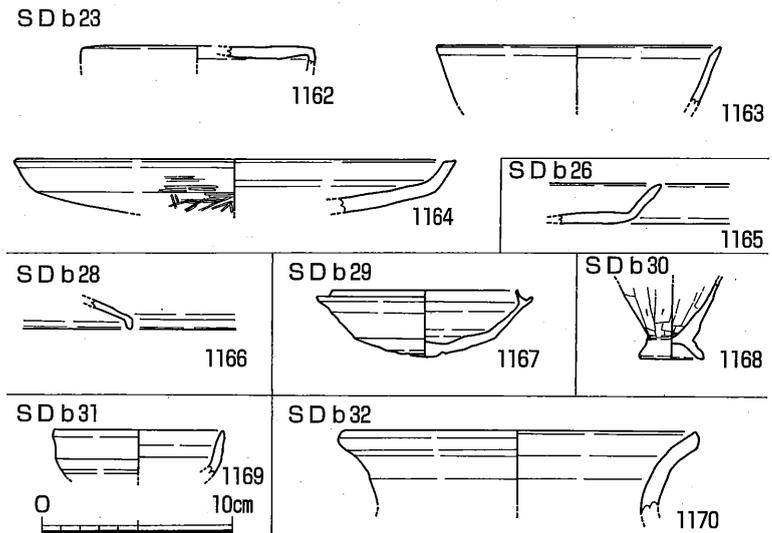
SD b 25 (調査時遺構名: I-21区SD18) (第168図)

I-21区の東部で検出した溝である。溝の方向はN-65°-Wで、南東側は調査区外に続いて行き、北西側はI-21区の北壁部分で収束する。全体に直線的で、検出部分で長さ4.6m、幅0.45m、深さ0.18

mである。埋土は上下2層に大別され、上層は茶褐色砂質土が、下層は明黄褐色粘質土が堆積している。古代の須恵器を含む微細な遺物が少量出土している。

SD b 26 (調査時遺構名：I - 21区SD11) (第168・169図)

I - 21区の中央部からI - 1・3区の南側境界部分にかけて検出した溝である。溝の方向はN - 9° - Eで、北西側に隣接するSD b 16と同じ向きである。全体に直線的で、南側は調査区外に続いて行く。検出部分で長さ9.0m、幅0.4~0.6m、深さ0.13m、埋土は明灰褐色砂質土の単一層である。



第169図 SD b 23・26・28・29・30・31・32出土遺物(1 / 4)

1165は須恵器の皿で、底部外面はヘラ切りの後にナデている。この他に古代の須恵器と土師器を含む微細な遺物が出土している。

SD b 27 (調査時遺構名：I - 21区SD12) (第168図)

I - 21区の中央部で、SD b 26の東側に隣接して検出した溝である。溝の方向はN - 12° - Eで、SD b 26とほぼ平行になる。全体に直線的で、北側は調査区北壁部分で収束するが、南側は調査区外に続いて行く。検出部分で長さ2.8m、幅0.2~0.4m、深さ0.05~0.1mで浅くなっている。底部は凹凸が目立ち、埋土は明灰色砂質土の単一層になっている。古代の土師器を含む微細な遺物が少量出土している。

SD b 28 (調査時遺構名：I - 4区SD05) (第168・169図)

I - 4区の南東部で検出した溝である。溝は僅かに蛇行しながら南北に向かい、北側は北東に向かって緩やかに屈曲し、端部はSD b 19に壊されている。南側は東側に向かって直角に屈曲し、端部は近世以降の溝SD b 65に壊されている。溝の方向は概ねN - 7° - Eである。検出部分で長さ21.8m、幅0.3~0.6m、深さ0.1~0.15mである。埋土は暗茶灰色粘質土の単一層である。

1166は須恵器の杯蓋で、口縁部は回転ナデである。その他に古代の須恵器を含む微細な遺物が少量出土している。

SD b 29 (調査時遺構名：I - 4区SD04) (第168・169図)

I - 4区の中央部で検出した溝である。僅かに湾曲するが、概ねN - 87° - Wの東西方向の溝である。全長18.2m、幅0.4~0.9m、深さ0.15~0.2mである。埋土は2~3層に分層され、上層には茶褐色粘質土が、下層には黒褐色粘土と部分的に暗灰色粘土が堆積している。

1167は須恵器で古墳時代タイプの杯身である。底部はヘラ切り未調整である。外面には自然釉が付着

している。

出土遺物からSD b 29は7世紀前半代の所産で、今回報告する古代の遺構のうちでも最古の部類に入るものである。

SD b 30 (調査時遺構名：I-4区SD03) (第168・169図)

I-4区の北西部で検出した溝で、SD b 29の延長上で1.0m離れた位置から始まっている。中ほどやや湾曲するものの、全体的には概ね直線になる。溝の方向はN-76°-Wで、SD b 29よりやや北に傾いている。全長20.3m、幅0.4~0.8m、深さ0.18~0.26mである。埋土は黒褐色砂混じり粘質土と茶灰色砂混じり弱粘質土が中心であるが、部分的に上層に暗茶褐色粘質土が堆積している。

1168は弥生時代の製塩土器であるが、SD b 30の掘削された場所は弥生時代後期中葉には埋没したSR b 01の埋土上にあることから、混入と考えられる。その他には時期不明の微細な遺物が少量出土しているが、埋土の土質やSD b 29との関連性などから古代の溝と考えておく。

SD b 31 (調査時遺構名：I-18区SD05) (第168・169図)

I-18区の南東部で検出した溝である。調査区の壁際で北東側の掘り込み部分を検出したのみで、南西側は調査区外になっている。検出部分での溝の方向はN-32°-Wで、北西側は僅かに湾曲して調査区外に続いて行く。南東側は不明瞭になって途切れている。検出部分で長さ3.3m、幅0.4m、深さ0.12mである。埋土は上下2層に大別され、上層には灰茶褐色砂質土が堆積している。

1169は須恵器の杯で、回転ナデを強く施している。この他に古代の須恵器を含む微細な遺物が少量出土している。

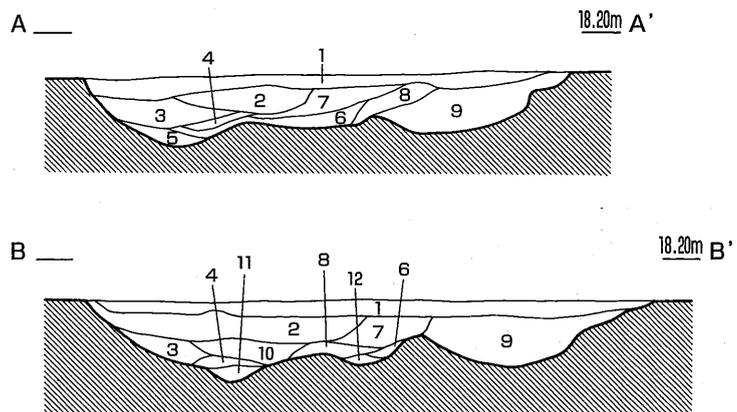
SD b 32 (調査時遺構名：I-18区SD10) (第168・169図)

I-18区の東部で検出した溝である。溝の方向はN-83°-Eで、西側は中世の溝SD b 50に壊されており、東側は調査区外に続いて行く。検出部分は直線的で、長さ4.8m、幅0.3~0.4m、深さ0.04mと非常に浅い。埋土は褐灰色粘質土の単一層である。

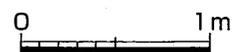
1170は須恵器の甕である。この他に古代の須恵器を含む微細な遺物が少量出土している。

SD b 33 (調査時遺構名：I-19区SD12) (第170・171図)

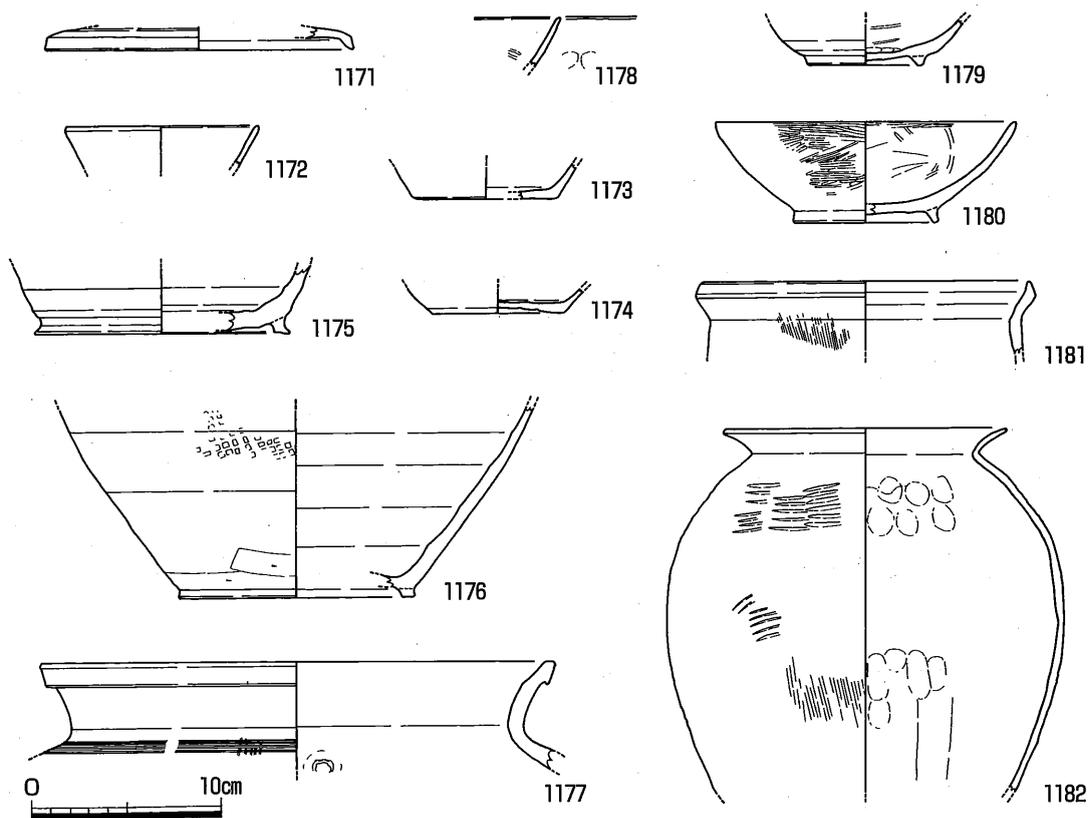
I-19区の東端部で検出した



- | | |
|-------------------|------------------|
| 1 灰茶褐色粘質土 | 7 茶褐色砂混粘質土 明褐色土混 |
| 2 明褐色砂質土 マンガン含む | 8 茶色砂混粘質土 |
| 3 灰茶褐色シルト | 9 茶褐色粘質土 |
| 4 明褐色砂 ラミナ状 | 10 明褐色砂 細礫混 |
| 5 暗茶褐色シルト 地山ブロック混 | 11 灰茶褐色砂 ラミナ状 |
| 6 茶褐色シルト | 12 茶褐色砂 ラミナ状 |



第170図 SD b 33断面図 (1/40)



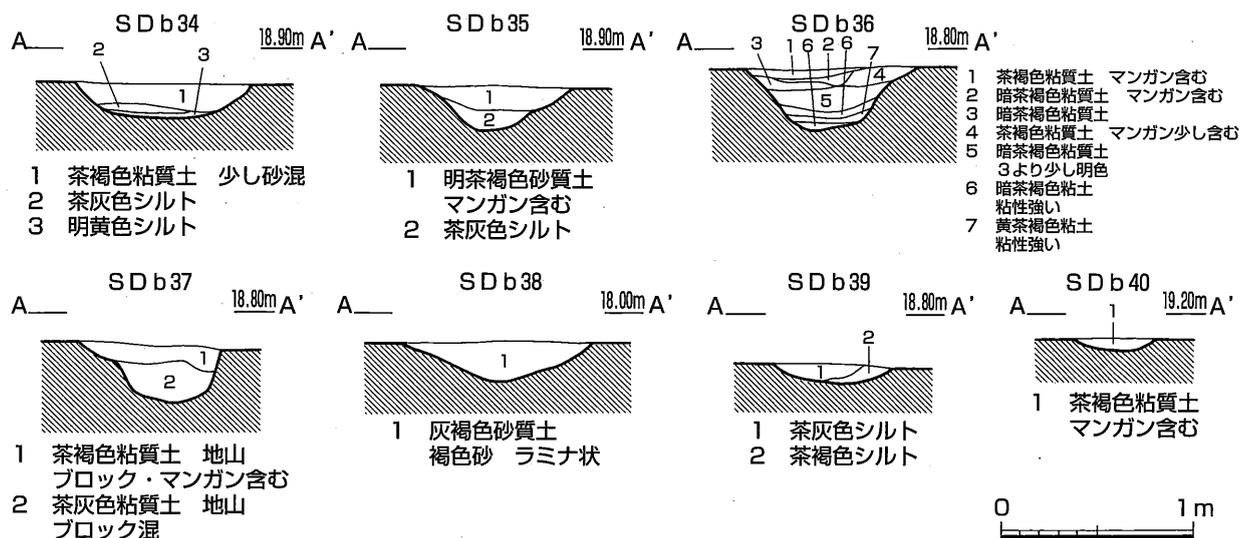
第171図 SDb33出土遺物(1/4)

溝である。溝の方向は概ねN-14°-Eである。全体的にはほぼ直線であるが、東岸は不規則に蛇行している。北側はやや不整合ながら、すでに『空港跡地遺跡Ⅷ』で報告されているI-6区のSDℓ037に続いて行くものと考えられる。南側は調査区壁際で不明瞭になるものの調査区外に続いて行くが、延長線上のI-18区では検出されていない。検出部分で長さ13.4m、幅2.5~3.5m、深さ0.42mである。掘り込みは緩やかな部分が多いが、底部は凹凸が目立つ。土層断面の観察から、当初西側にあった埋土9の茶褐色粘質土部分が埋没した後に、東側に再掘削していることが分かる。従って溝が機能していた時の幅は1.8m前後になる。再掘削された部分の埋土は明褐色~茶褐色系の砂混じり粘質土が主体となっている。

1171は須恵器の杯蓋である。1172~1174は須恵器の杯である。1175・1176は須恵器の壺で、体部外面の最下部には回転ヘラケズリを施している。また1175の外面には粘土塊が付着しており、1176は体部外面に格子目タタキを施している。1177は須恵器の甕で、体部外面にはタタキの後にカキ目を施している。1178~1179は黒色土器A類の椀である。1178は口縁部端部外面も黒変している。1180は体部内・外面にヘラミガキを施している。また口縁部端部外面も黒変している。1181は土師器の甕で、口縁部端部を上方につまみ上げている。1182は弥生土器の甕で混入したものである。

SDb34 (調査時遺構名：I-19区SD19) (第172図)

I-19区の西部で検出した溝である。溝の方向は真北を向いており直線的である。北側は『空港跡地遺跡Ⅷ』で報告されているI-7区のSDℓ202に、南側は調査区外に続いて行く。検出部分で長さ5.8m、幅0.6~1.5m、深さ0.18mである。埋土は茶褐色粘質土が中心であるが、底部付近に茶灰色と明黄

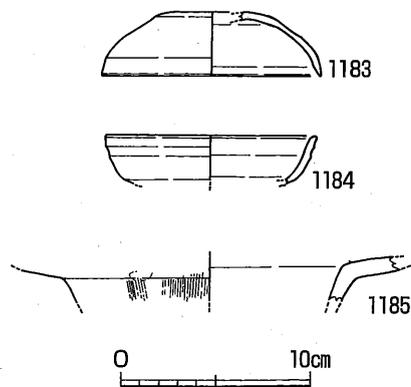


第172図 SD b 34・35・36・37・38・39・40断面図 (1/40)

色の砂混じり粘質土が薄く堆積している。微細な遺物が少量出土している。

SD b 35 (調査時遺構名：I-19区SD20) (第172図)

I-19区の西部で、SD b 34の西側に隣接して検出した溝である。溝の方向はN-8°-Eである。北側は『空港跡地遺跡Ⅷ』で報告されているI-7区のSD l 201に、南側は調査区外に続いて行く。検出部分で長さ5.7m、幅0.7~0.9m、深さ0.23mである。埋土は上下2層に大別され、上層には明茶褐色砂質土が、下層には茶灰色砂混じり粘質土が堆積している。古代の須恵器・土師器、弥生土器を含む微細な遺物が少量出土している。



第173図 SD b 36出土遺物 (1/4)

SD b 36 (調査時遺構名：I-19区SD21) (第172・173図)

I-19区の西部で検出した溝である。溝の方向はN-85°-Wで、西側は『空港跡地遺跡Ⅷ』で報告されているI-7区のSD l 203に、東側は調査区外に続いて行く。検出部分で長さ22.1m、幅0.9~1.4m、深さ0.32mである。埋土は暗茶褐色系の粘質土が主体となるが、底部付近には粘性の強い粘土が堆積している。

1183は須恵器の杯蓋で、回転ナデを施しているものの全体に器表は荒れている。1184は須恵器の杯で、回転ナデを施すが口縁部のやや下側のナデが強くなっている。1185は混入と考えられる弥生土器の壺である。

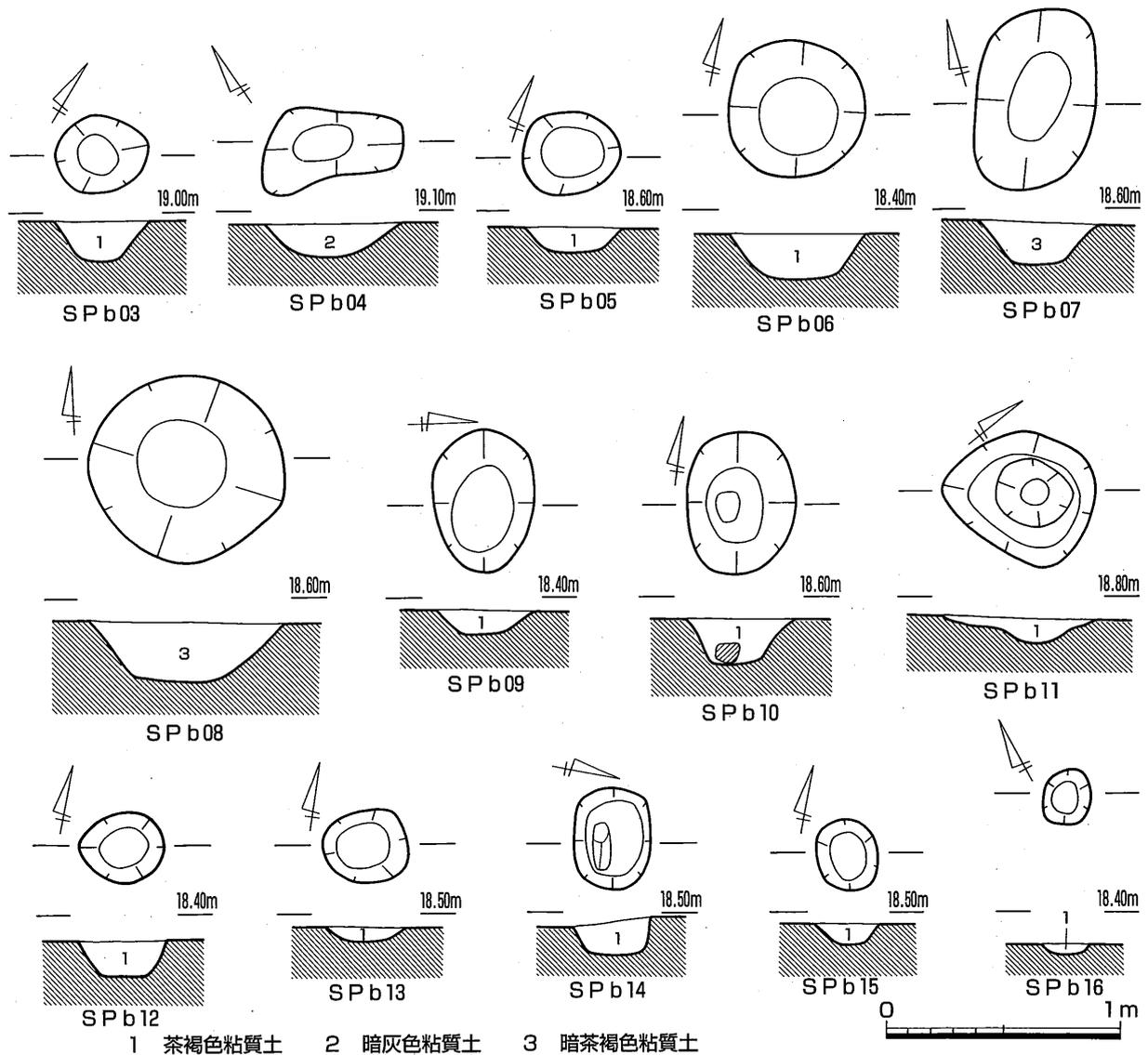
SD b 36は比較的遺物量の多い弥生時代後期のSD b 08を壊しているため、弥生土器の細片が目立つが、古代の須恵器も含んでいる。出土遺物からSD b 29と同様に7世紀代に遡るものと考えられる。

SD b 37 (調査時遺構名：I-20区SD29) (第172図)

I-20区の東部から北部にかけて検出した溝である。調査区の東部では直線的であるが、北部で緩く湾曲して西側に向かっている。溝の方向は調査区東部の直線的な部分でN-71°-Wで、両端はそれぞれ調査区外に続いて行く。検出部分で長さ18.5m、幅0.4~1.1m、深さ0.2~0.3mである。溝の北側の掘り込みは比較的急で、南側は段になっている部分がある。埋土は上下2層に大別され、上層には茶褐色粘質土が、下層には茶灰色粘質土が堆積しているが、両者とも地山ブロックを含んでおり溝を廃絶するために意図的に埋めた可能性がある。古代の土師器を含む微細な遺物が少量出土している。

SD b 38 (調査時遺構名：I-20区SD27) (第172図)

I-20区の南東部から西部にかけて検出した溝である。全体に直線的で、途中で10.5mの未調査地を挟んで再び調査区西側で検出している。南東側と西側でそれぞれ検出した溝は同一線上にあることと、同じ土質の埋土を持つことから同じ溝と判断した。溝の方向はN-81°-Wで、両端はそれぞれ調査区



第174図 SP b 03~16平・断面図 (1/30)

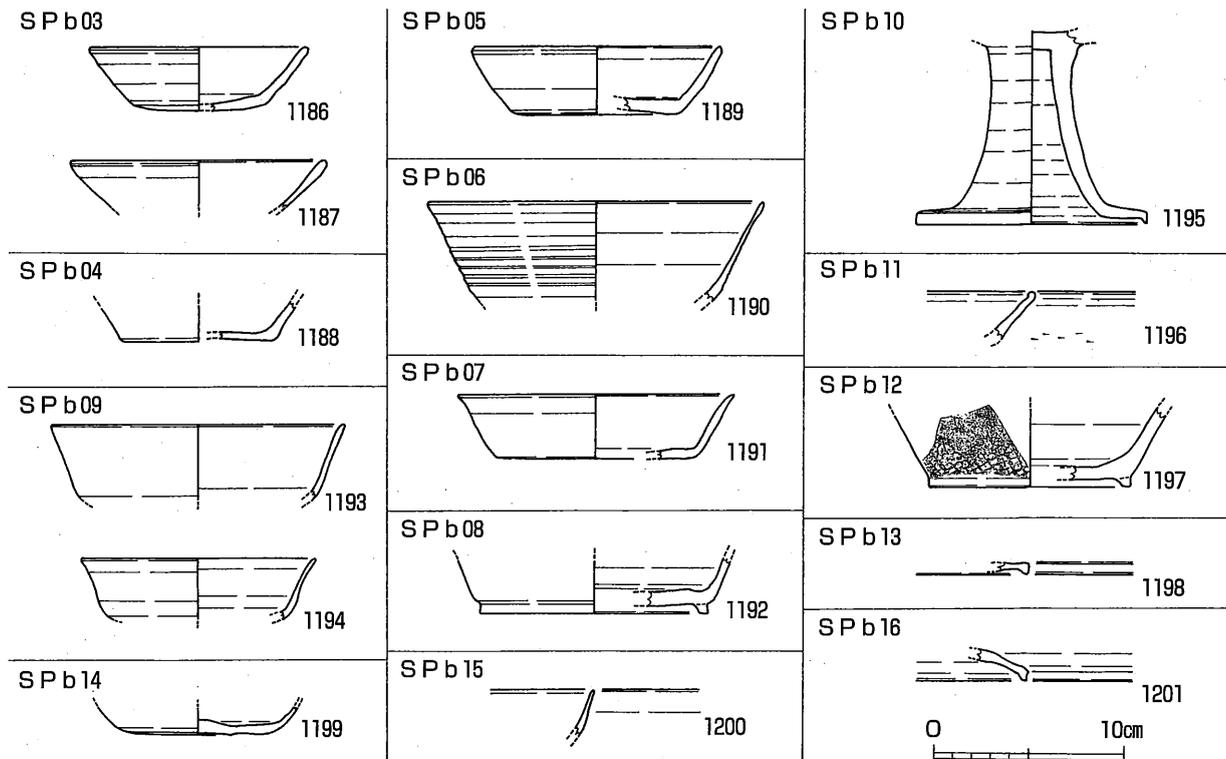
外に続いて行く。また間に約40mの未調査地を挟んだ、東側の延長線上にはI-4区で検出したSDb 29・30があり、あるいは同一の溝になるのかも知れない。検出部分で長さは2箇所合計で14.8m、幅0.5~1.0m、深さ0.21mである。掘り込みは緩やかな部分が多く、埋土は灰褐色砂質土の単一層である。古代の須恵器と土師器を含む微細な遺物が少量出土している。

SDb 39 (調査時遺構名: I-19区SD26) (第172図)

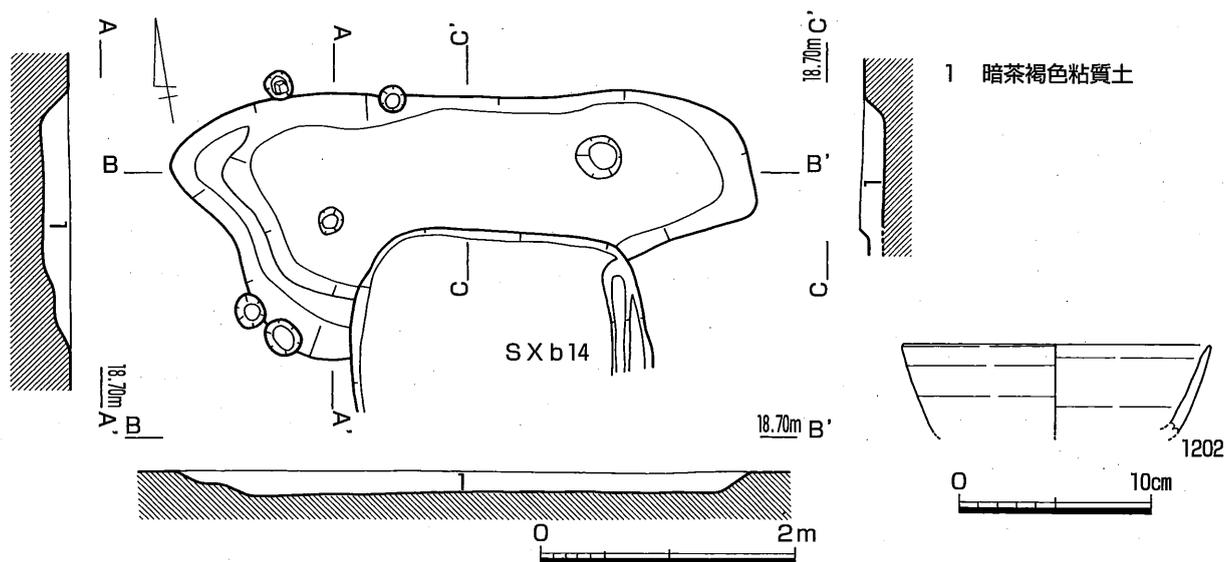
I-19区の西端部で検出した溝である。全体に僅かに湾曲しており、溝の方向は概ねN-79°-Eである。両端とも調査区外に続いて行く。東側の続きには11mほどの未調査区を挟んで先述したSDb 37があるが、両者とも端部付近で湾曲しており確実に同一線上とは言えないことから、別の溝として報告することとした。検出部分で長さ2.9m、幅0.5~0.7m、深さ0.1mである。掘り込みは全体に緩やかで、埋土は茶灰色と茶褐色の砂混じり粘質土である。微細な遺物が少量出土している。

SDb 40 (調査時遺構名: I-20区SD33) (第172図)

I-20区の南西隅で検出した溝である。溝の方向はN-55°-Wで、北西部は調査区内で収束している。南東部は続きがI-2区で検出されていないことから、調査区境で僅かに湾曲して収束するものと考えられる。検出部分で長さ2.2m、幅0.3~0.4m、深さ0.06mである。掘り込みは緩やかで、埋土は茶褐色粘質土の単一層である。遺物は出土していないが、埋土の土質などから古代と考えたものである。



第175図 SPb 03~16出土遺物 (1/4)



第176図 SX b08平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

柱穴・小穴

SP b03～SP b16 (第174・175図)

平面形は丸みを帯びた方形のものが多く、埋土は茶褐色粘質土ものが多い。

調査時の遺構名は以下のとおりである。SP b03: I-1区SP71、SP b04: I-1区SP111、SP b05: I-3区SP05、SP b06: I-3区SP09、SP b07: I-3区SP36、SP b08: I-3区SP50、SP b09: I-3区SP53、SP b10: I-3区SP56、SP b11: I-4区SP09、SP b12: I-4区SP59、SP b13: I-4区SP62、SP b14: I-4区SP63、SP b15: I-4区SP82、SP b16: I-21区SP156。

これらの遺構から第175図の遺物が出土している。1190は須恵器の杯で、回転ナデの凹線が目立っている。1196は土師器の杯であるが、外面にはヘラケズリを施している。1197は須恵器の壺であるが、体部外面には格子目のタタキの後に回転ヘラケズリを施すが、最下部にはタタキが残っている。

不明遺構

SX b08 (調査時遺構名: I-4区SX03) (第176図)

I-4区の南部で検出した遺構である。全体に不整形で、南側を中世のSX b14に壊されている。東西南方向4.55m、南北方向2.1m、深さ0.2mである。西側から南西側の掘り込みは段になっている。埋土は暗茶褐色粘質土の単一層である。

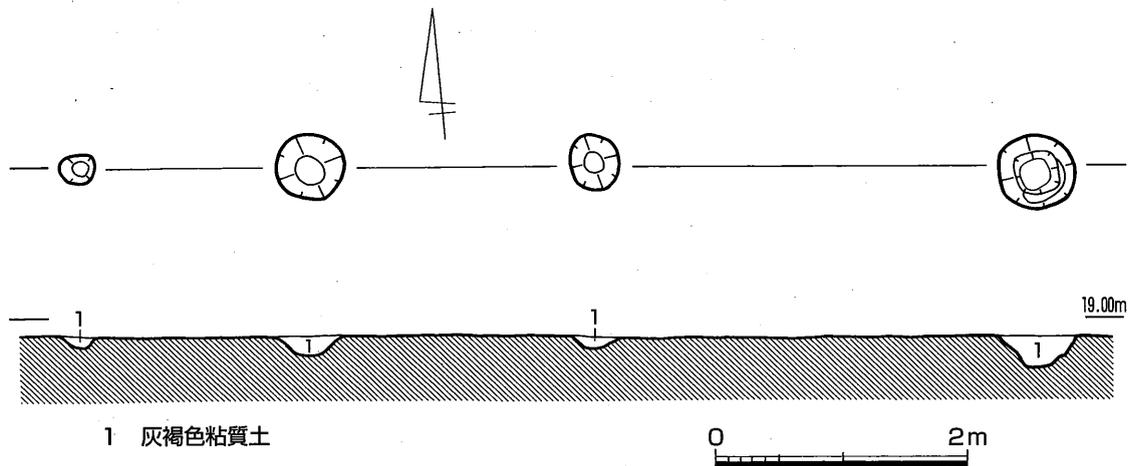
1202は須恵器の杯で、回転ナデを施している。この他に微細な遺物が少量出土している。

第4節 中世の遺構・遺物

掘立柱建物跡・柵列

S A b 02 (調査時遺構名：I - 1 区 S A 01) (第177図)

I - 1 区の中央やや南東寄りで検出した柵列で、主軸方位はN - 82° - Wである。柵列は3間で7.6mであるが、東側の1間分が他の2間より柱間が長くなっている。柱穴の平面形は直径0.3~0.6mの円形で、埋土は灰褐色粘質土の単一層である。後述するS B b 12とはやや離れているが、主軸方位もほぼ同じで、関連がありそうである。柱穴から遺物は出土していないが、埋土の土質やS B b 12との関連性などから中世の所産と考えておく。

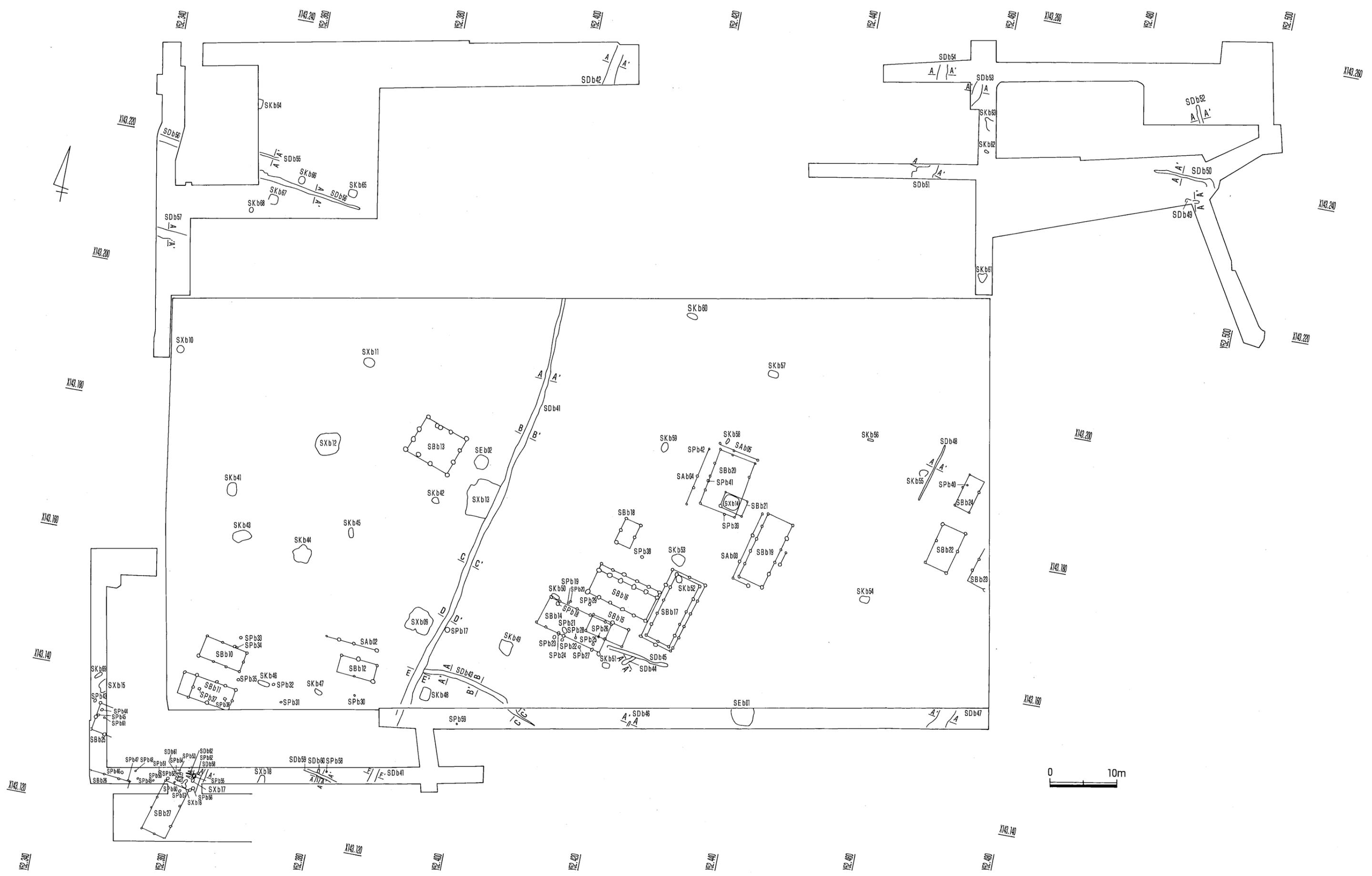


第177図 S A b 02平・断面図 (1 / 60)

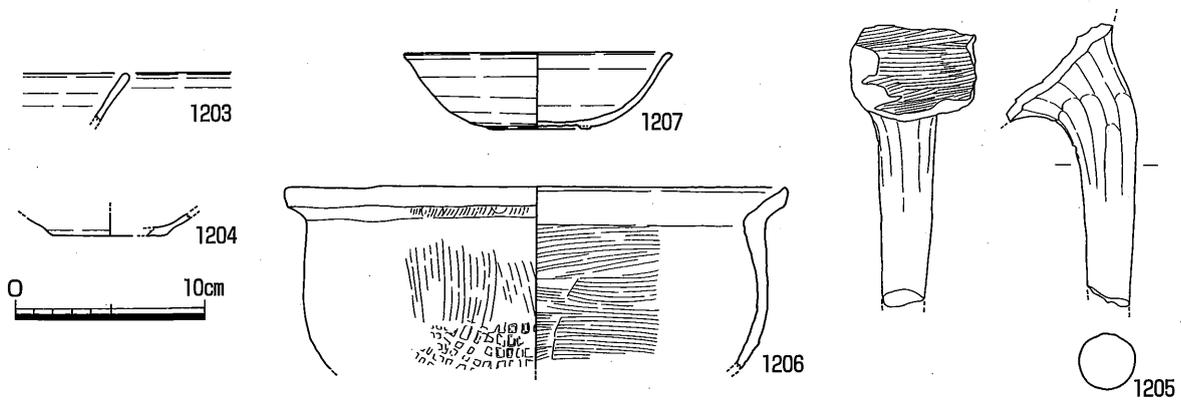
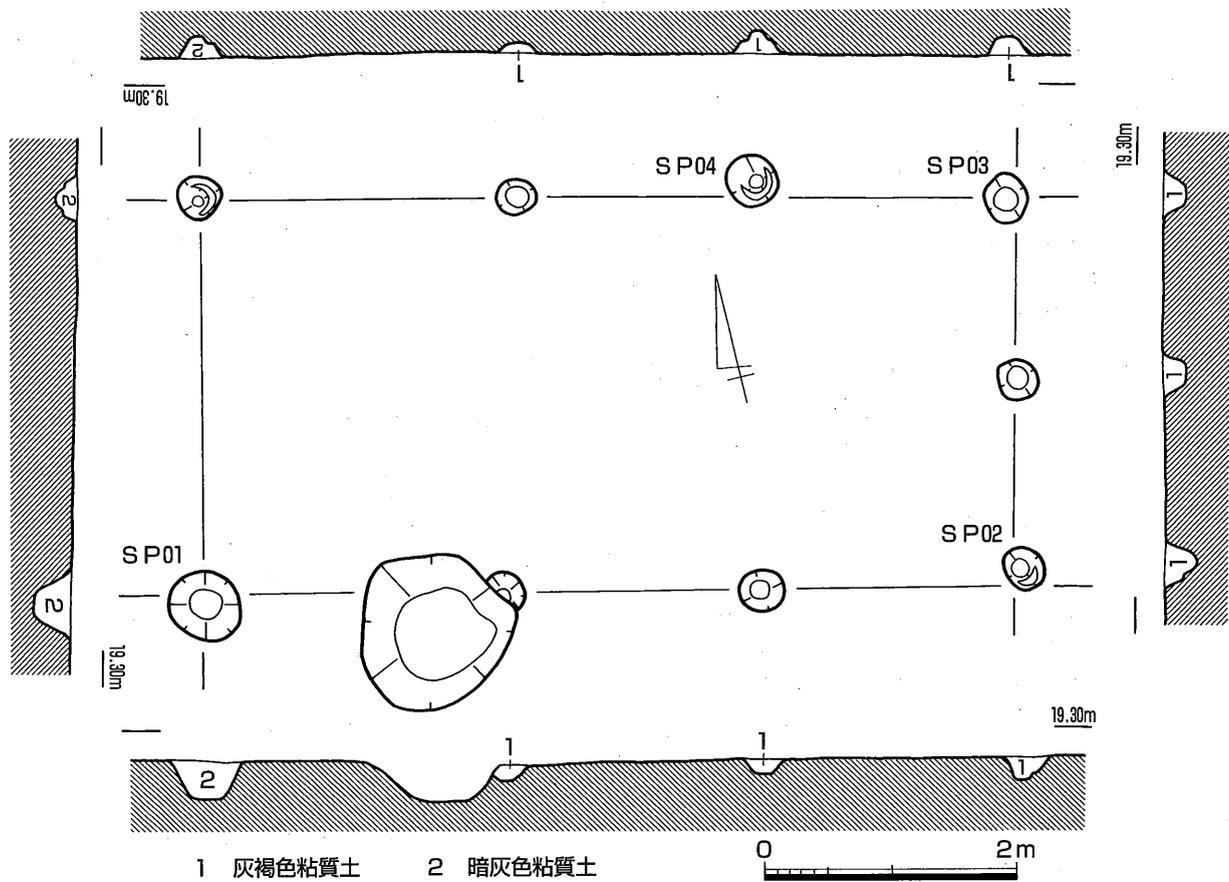
S B b 10 (調査時遺構名：I - 1 区 S B 01、概報遺構名：S B 13) (第179図)

I - 1 区の南西部で検出した掘立柱建物跡である。梁間2間×桁行3間で、建物の主軸方位はN - 76° - Wである。東側に対応する西側の梁間の柱穴は検出されていない。梁間は2間で3.1m、桁行は3間で6.4m、建物面積は19.8㎡≒6.0坪である。桁行の西側1間は他の2間より柱間が長くなっている。また南側の桁行の柱穴の一つは、土坑によって半分壊されている。柱穴の平面形は直径0.3~0.55mの円形で、埋土は灰褐色粘質土のものと暗灰色粘質土のものがある。

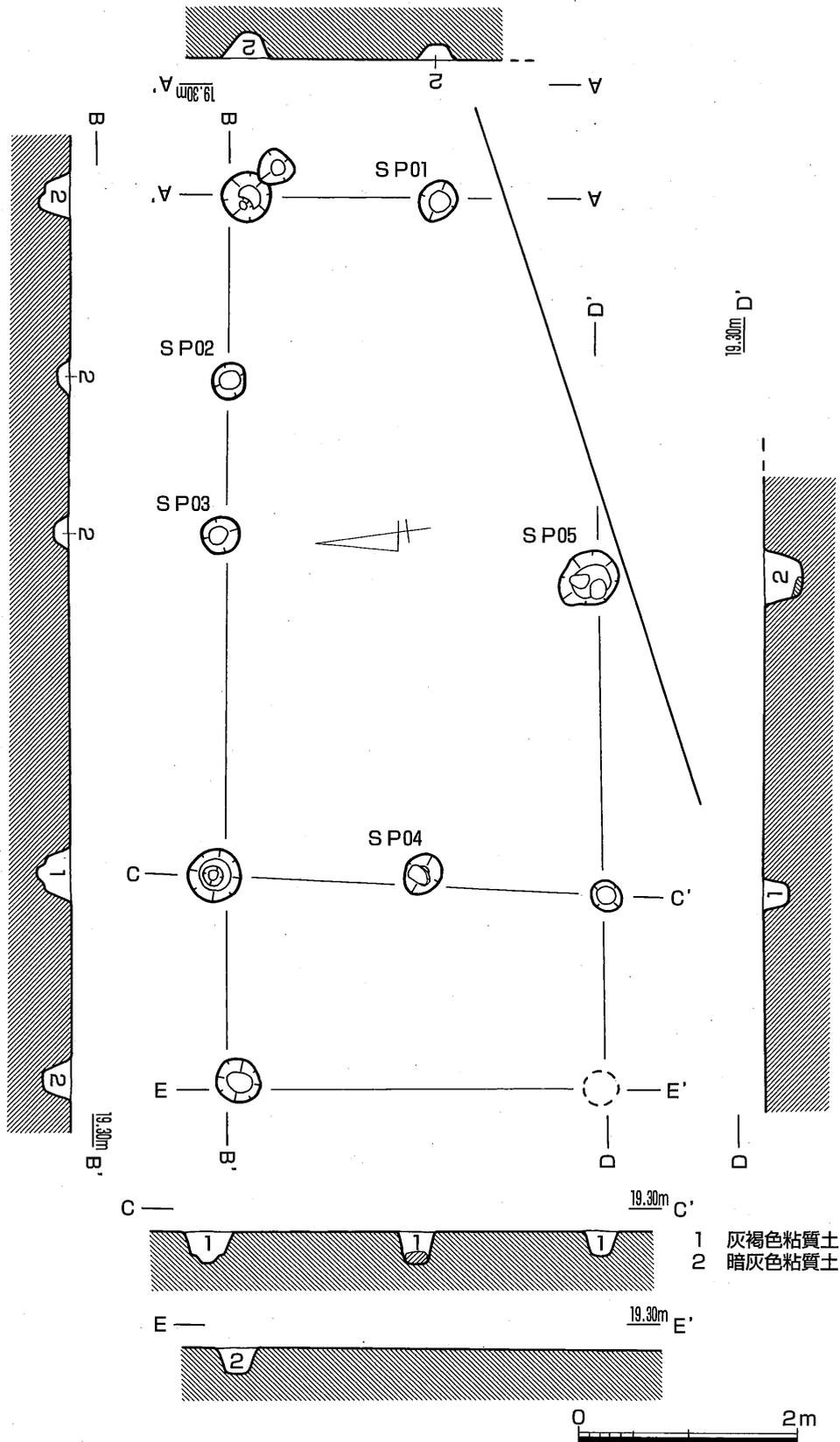
1203・1204がS P 01、1205がS P 02、1206がS P 03、1207がS P 03とS P 04から出土している。1204は土師器の杯で、底部外面にヘラ切りの痕跡がある。あるいは小皿になるかも知れない。1206は土師質の鍋で、体部内・外面にハケ目を施し、外面下部には格子目のタタキが認められる。1207は十瓶山産須恵器の椀で、底部には潰れたような高台が付いている。



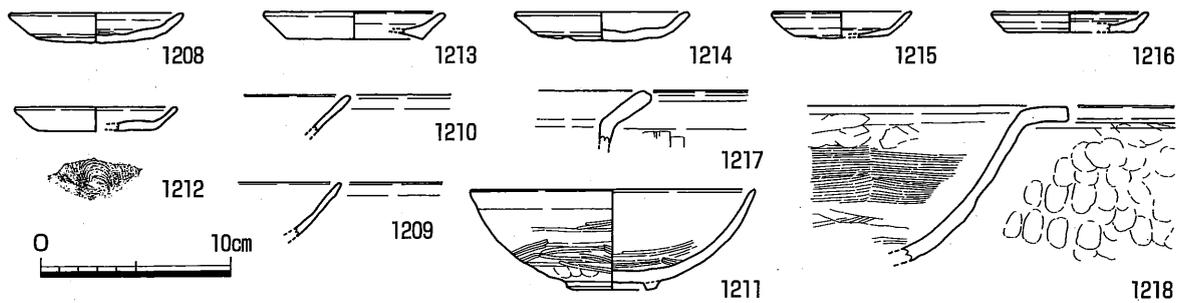
第178图 空港跡地遺跡遺構配置図 (中世) (1/500)



第179図 SB b 10平・断面図 (1/60)、柱穴出土遺物 (1/4)



第180圖 SB b11平・断面圖 (1/60)



第181図 SB b 11柱穴出土遺物 (1 / 4)

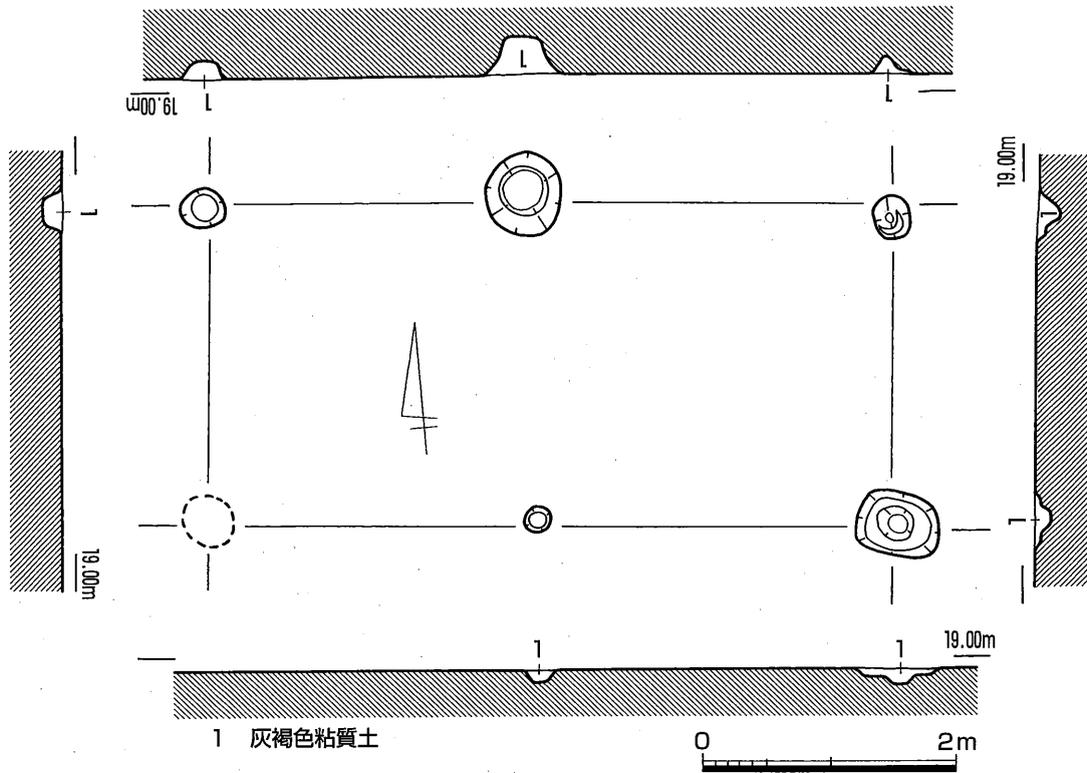
SB b 11 (調査時遺構名：I - 1区SB02、概報遺構名：SB12) (第180・181図)

I - 1区の南西部で、SB b 10の南側に隣接して検出した掘立柱建物跡である。梁間2間×桁行3間あるいは4間で、建物の主軸方位はN - 82° - Wである。建物の南東部分は調査区外になり検出されていない。梁間は2間で3.4m、桁行は3間で6.3m、建物面積は21.4㎡≒6.5坪である。桁行は西側にあと1間分伸びて4間になる可能性があるが、南側の桁行列の西側延長部の柱穴が検出されていないことと、梁間列の中央の柱穴が検出されていないなどの難点があり、ここでは可能性だけを指摘しておく。また桁行列3間の西側1間は他の2間より長くなっているが、この長い西側1間の中間付近には桁行列からやや外れるが柱穴があり(遺構全体図参照)、この中間地点にも柱を考えると東側の2間の柱間距離と同じになり桁行4間となる。柱穴の平面形は直径0.3~0.5mの円形で、埋土は灰褐色粘質土のものと暗灰色粘質土のものがある。柱穴の底部に柱の痕跡を持つものや、SP04・05のように根石を持つものもある。このSB b 11の建物の規模や主軸方位はSB b 10とほぼ同じである。

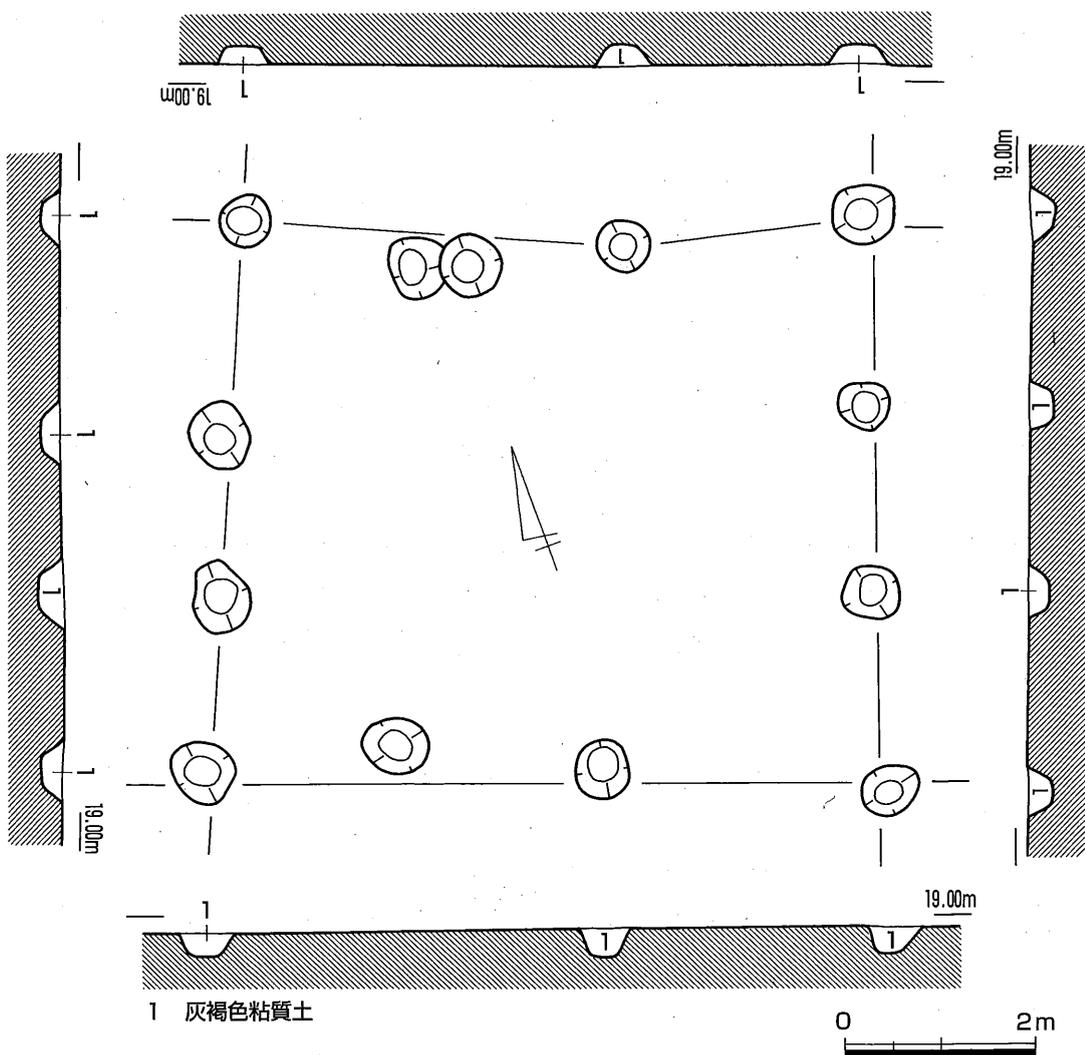
1208・1209がSP01、1210・1211がSP02、1212がSP03、1213・1214がSP04、1215~1218がSP05から出土している。1208は土師器の小皿で、底部にはヘラ切りの後に板状圧痕を加えている。口縁部をナデた後に内面をナデている。1211は十瓶山産須恵器の椀で、体部内・外面にヘラミガキを施している。底部には断面方形の高台を貼り付けているが、高台の外側は潰れている。1212は土師器の小皿で、底部外面には回転糸切りの痕跡がある。1213の体部立ち上がり部は鋭く、底部は上げ底である。1214の底部外面はヘラ切りの後に板状圧痕を加えている。内面の見込み部にもヘラ切り痕が認められ、この部分を最後にナデている。ロクロ上でヘラ切りにより小皿を切り離した粘土塊を、そのまま使用して成形していることが分かる。1215は口縁部の回転ナデの後に体部の回転ナデを行なっている。内面にはタールが付着している。1216の体部から口縁部は短く直線的である。底部は大部分が欠損しているが、回転糸切りの痕跡が僅かに残っている。1218は土師質の鍋で、外面には指押さえが顕著である。内面はハケ目の後に板ナデを施している。

SB b 12 (調査時遺構名：I - 1区SB03、概報遺構名：SB14) (第182図)

I - 1区の南部で検出した掘立柱建物跡である。梁間1間×桁行2間で、建物の主軸方位はN - 85° - Wである。南西隅の柱穴は検出されていない。梁間は1間で2.6m、桁行は2間で5.4m、建物面積は14.0㎡≒4.2坪である。柱穴の平面形は南東隅が隅丸方形である以外は、直径0.2~0.6mの円形である。埋土はすべて灰褐色粘質土で、柱痕が確認されたものもある。なお断面図は柱穴の掘り方全体を图示していない部分がある。柱穴のうちの1基から微細な遺物が少量出土した以外は、遺物は出土していない。



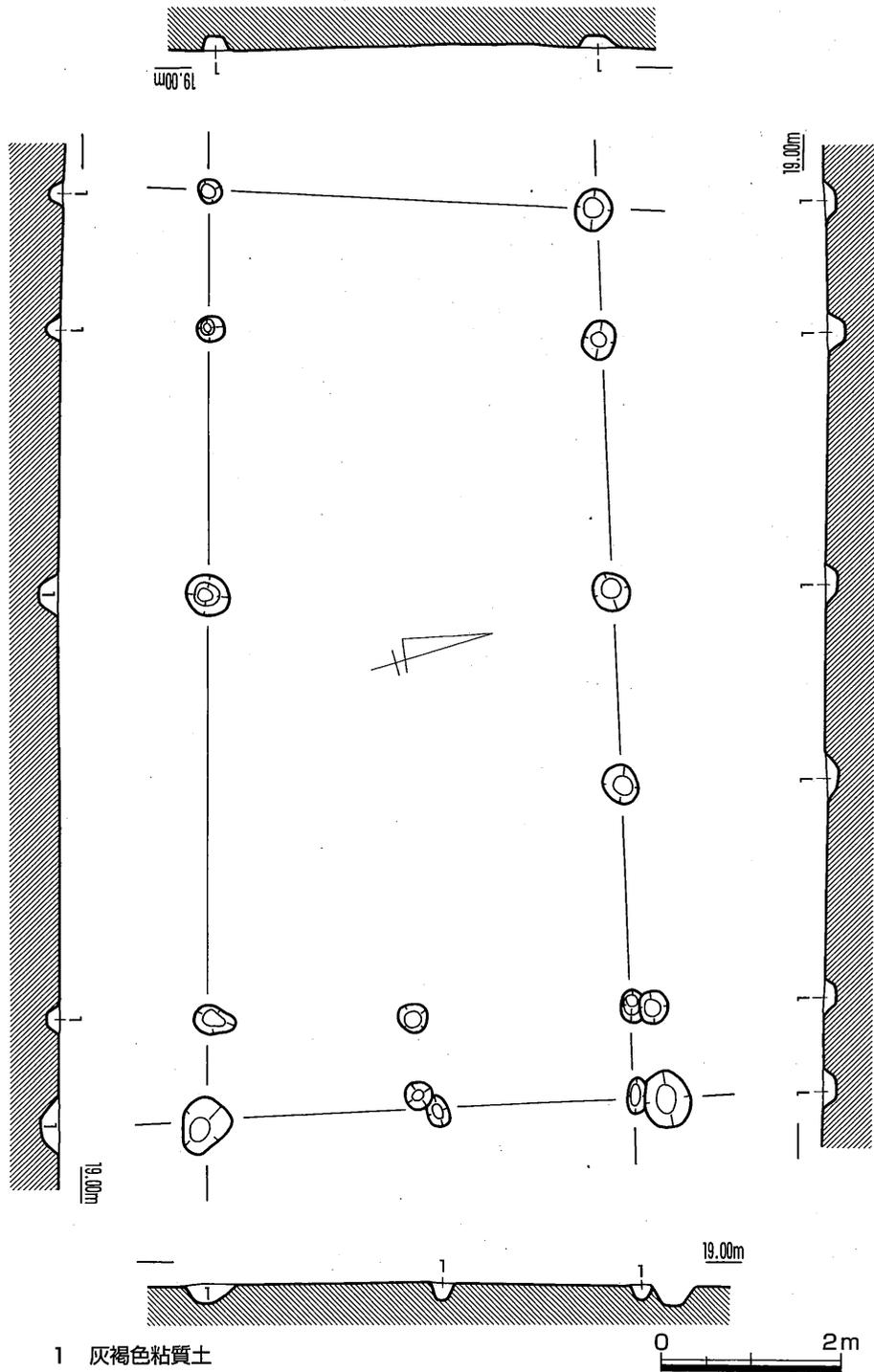
第182図 SB b 12平・断面図 (1/60)



第183図 SB b 13平・断面図 (1/80)

SB b13 (調査時遺構名：I - 2区SB01) (第183図)

I - 2区の中央やや南寄りで見出した掘立柱建物跡である。梁間3間×桁行3間で、建物の主軸方位はN-70°-Wである。南北とも桁行列は少し歪んでおり、内側に東柱は検出されていない。梁間は3間で4.45m、桁行は3間で北側が5.0m、南側が5.3m、建物面積は桁行を平均の5.15mとすると22.9㎡≒6.9坪である。柱穴の平面形は直径0.4~0.5mの円形及び隅丸方形で、埋土はすべて灰褐色粘質土の単一層である。柱穴から遺物は出土していないが、柱穴の埋土の土質などから中世の所産と考えたものである。柱穴から遺物は出土していないが、柱穴の埋土の土質などから中世の所産と考えたものである。



第184図 SB b14平・断面図 (1/80)

る。

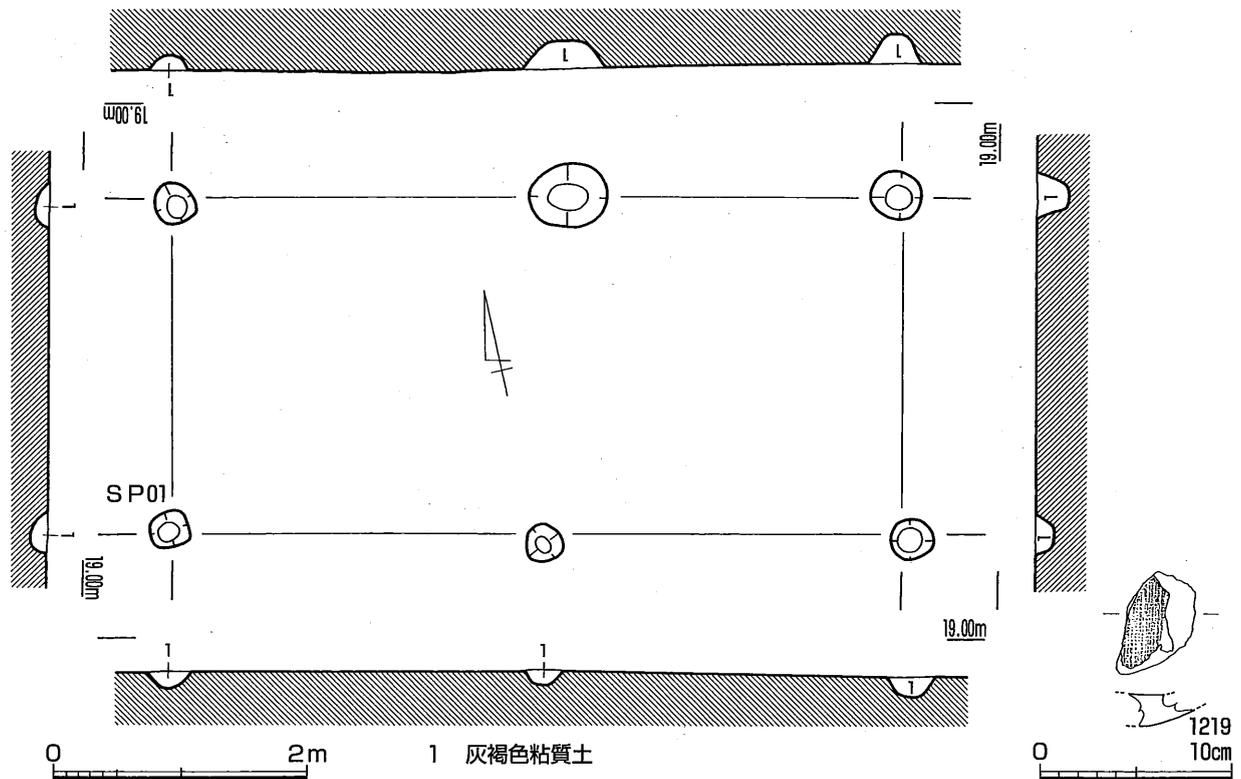
SB b 14 (調査時遺構名：I-1区SB04、概報遺構名：SB15) (第184図)

I-1区の南東部で検出した掘立柱建物跡である。梁間2間×桁行5間で、建物の主軸方位はN-74°-Wである。西側の梁間列の中央の柱穴は検出されていない。東から2列目の梁間列の中央にも柱穴があるため、東側の短い桁行部分が底のようになっている。これに対応するように西端の桁行の柱間も短くなっている。さらに南側の桁行列には検出されていない柱穴が1基ある。梁間は2間で東側が4.7m、西側が4.3m、桁行は5間で北側が9.9m、南側が10.4m、建物面積は梁間と桁行をそれぞれ平均値で測ると45.7㎡≒13.8坪である。柱穴の平面形は概ね直径0.22~0.5mの円形であるが、南東隅の柱穴はやや不整な方形で、規模も他のものより大きくなっている。埋土はすべて灰褐色粘質土の単一層である。図示はしていないが、北西隅の柱穴は後述する中世の土坑SK b 50に僅かながら壊されている。4基の柱穴から微細な遺物が少量出土している。

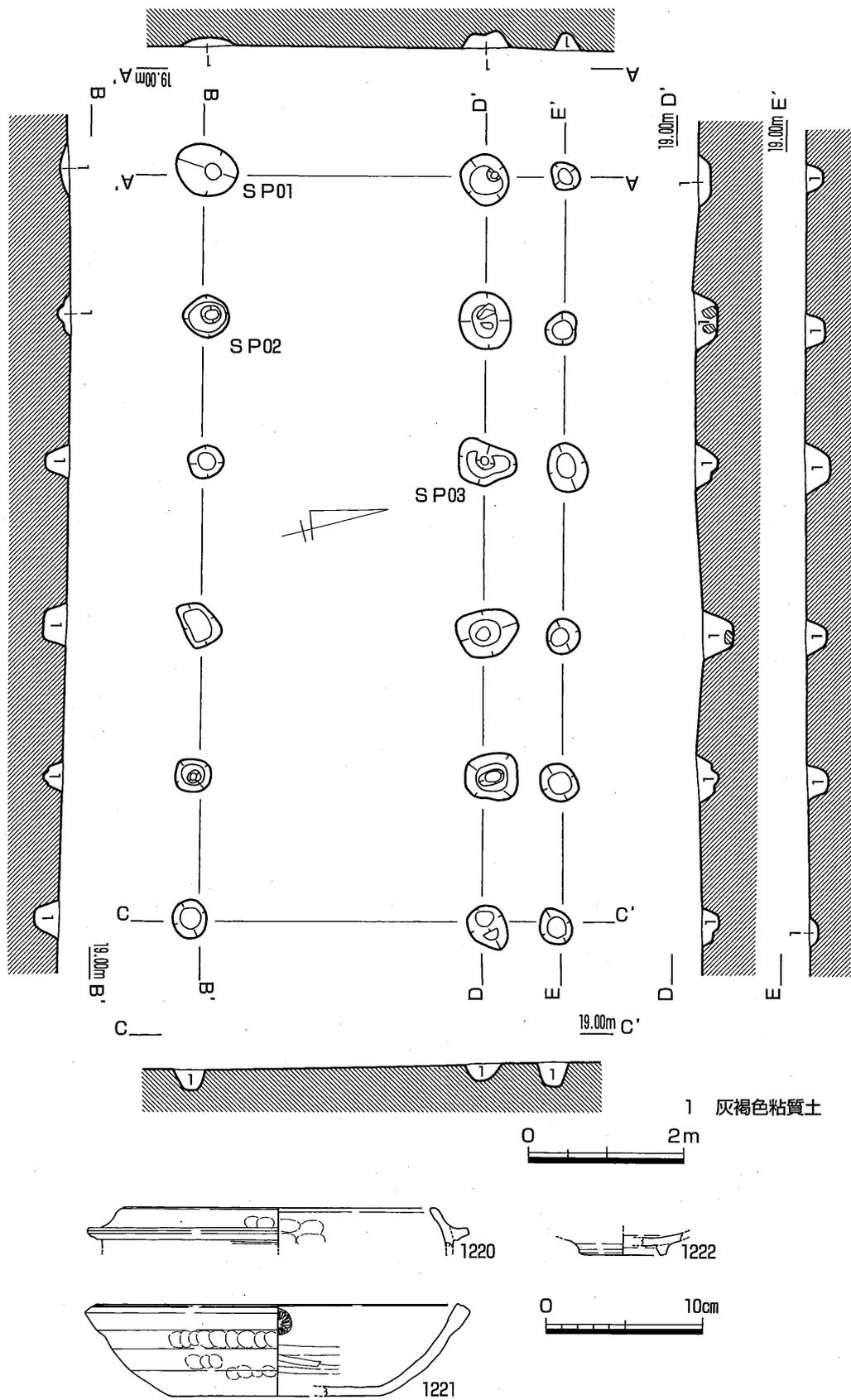
SB b 15 (調査時遺構名：I-3区SB04、概報遺構名：SB18) (第185図)

I-3区の南西部で検出した掘立柱建物跡で、一部SB b 14と重なっている。梁間1間×桁行2間で、建物の主軸方位はN-77°-Wである。梁間は1間で2.7m、桁行は2間で5.8m、建物面積は15.7㎡≒4.8坪である。柱穴の平面形は南西隅が隅丸方形である以外は、直径0.3~0.6mの円形である。埋土はすべて灰褐色粘質土の単一層である。

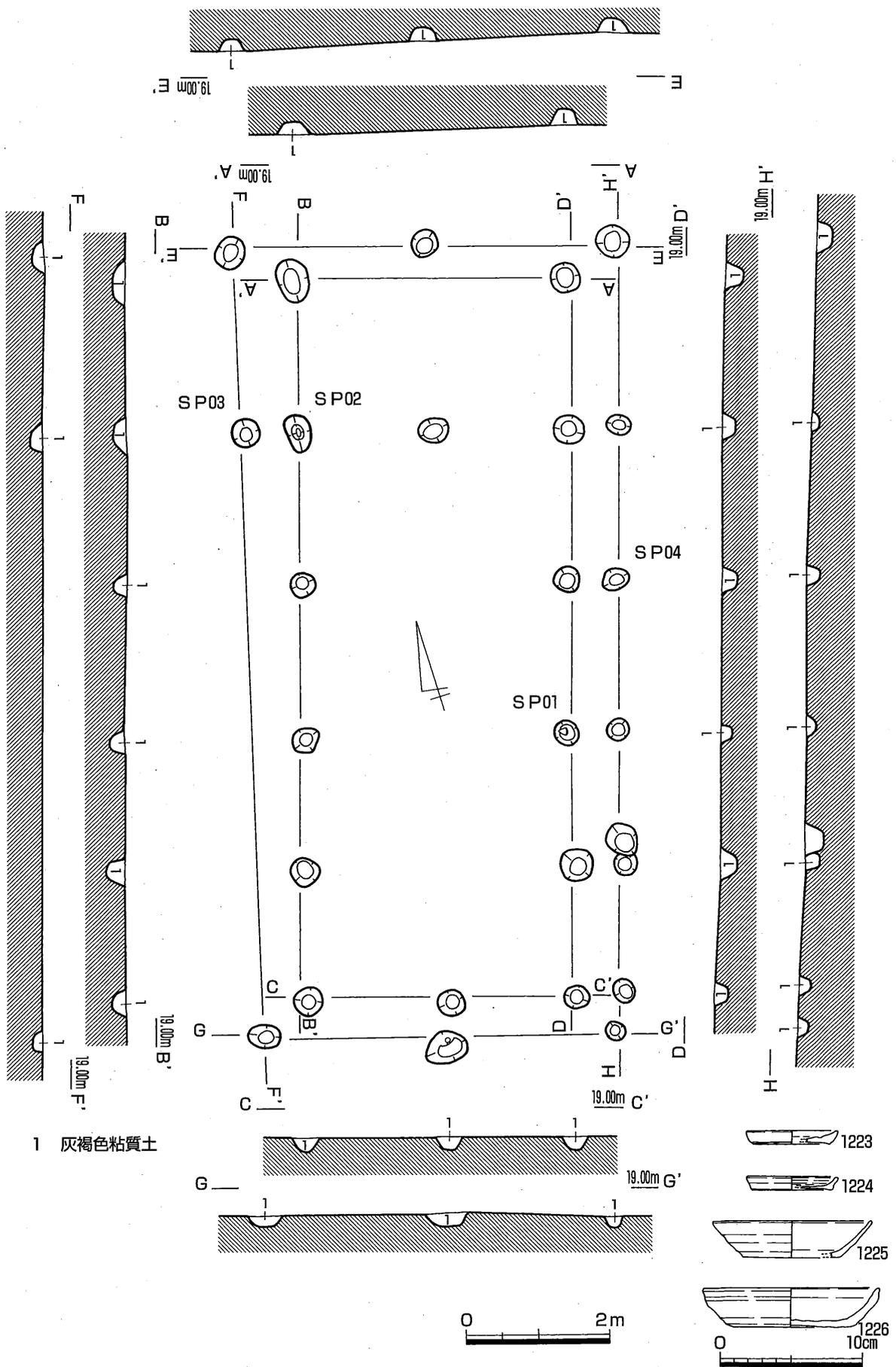
1219はSP01から出土した平瓦である。凸面はナデており、凹面には布目痕が認められる。この他に1基の柱穴から微細な遺物が少量出土している。



第185図 SB b 15平・断面図 (1/60)、柱穴出土遺物 (1/4)



第186図 SB b 16平・断面図 (1/80)、柱穴出土遺物 (1/4)



第187図 SB b17平・断面図 (1/80)、柱穴出土遺物 (1/4)

SB b 16 (調査時遺構名：I-3区SB03、概報遺構名：SB16) (第186図)

I-3区の西部で検出した掘立柱建物跡である。北側に庇を持ち、身舎は梁間1間×桁行5間で、建物の主軸方位はN-76°-Wである。庇は身舎から1.0m張り出している。身舎の部分は梁間1間で3.6m、桁行5間で9.5m、建物面積は34.2㎡≒10.4坪である。庇部分を含めた建物面積は43.7㎡≒13.2坪になる。柱穴の平面形は直径0.4~0.7mの円形のもと、一辺0.4~0.7mの隅丸方形のものがある。柱穴の底部で柱痕の確認できたものがあり、また根石の認められたものもある。埋土はすべて灰褐色粘質土の単一層である。

1220がSP02、1221がSP03、1222がSP01から出土している。1220は下部が欠損しているものの足釜になると考えられる。1221は陶器の鉢であるが、焼成は瓦質に近い。口縁部端部は平坦な面をもつ。体部外面には指押さえを帯状に施しているが、あるいはこの部分は突帯か鏝が剥離した跡かも知れない。荒いハケ目の後にナデているが、ヘラミガキに似ている。内面は板ナデの後にナデており、半分が欠損しているものの花文状のスタンプが認められる。底部は平底である。1222は十瓶山産須恵器の椀である。この他に3基の柱穴から微細な遺物が少量出土している。

SB b 17 (調査時遺構名：I-3区SB02、概報遺構名：SB19) (第187図)

I-3区の西部で検出した掘立柱建物跡で、SB b 16の東側に隣接している。4面に庇を持ち、身舎は梁間2間×桁行5間で、建物の主軸方位はN-17°-Eである。身舎の北側の梁間列の中央の柱穴は検出されていないが、北から2列目の梁間列の中央には柱穴がある。庇は身舎から0.5~0.8m張り出しているが、西側の庇列は柱穴が検出されない部分があり、身舎に対して若干斜めになっている。身舎の部分は梁間2間で3.8m、桁行5間で10.1m、建物面積は38.4㎡≒11.6坪である。庇部分を含めた建物面積は57.7㎡≒17.5坪になる。柱穴の平面形は概ね直径0.3~0.5mの円形であるが、中には隅丸方形に近いものもある。埋土はすべて灰褐色粘質土の単一層である。図示はしていないが、北西隅の柱穴は後述する中世の土坑SK b 52に僅かながら壊されている。

1223がSP01、1224がSP04、1225がSP03、1226がSP02から出土している。1223・1224は土師器の小皿で、体部の器高は低い。底部外面はヘラ切りであるが、1224は板状圧痕を加えている。1225・1226は土師器の杯である。1226は口縁部の回転ナデの後に体部に回転ナデを施している。底部外面はヘラ切りの後に板状圧痕を施している。この他に7基の柱穴から微細な遺物が少量出土している。

SB b 16に隣接しており共に庇を伴っているが、柱穴からの出土遺物よりSB b 17のほうが先行して建てられている。両者が同時に建っていれば屋根が重なってしまうので、SB b 17の廃絶後にSB b 16が建てられたと考えられる。

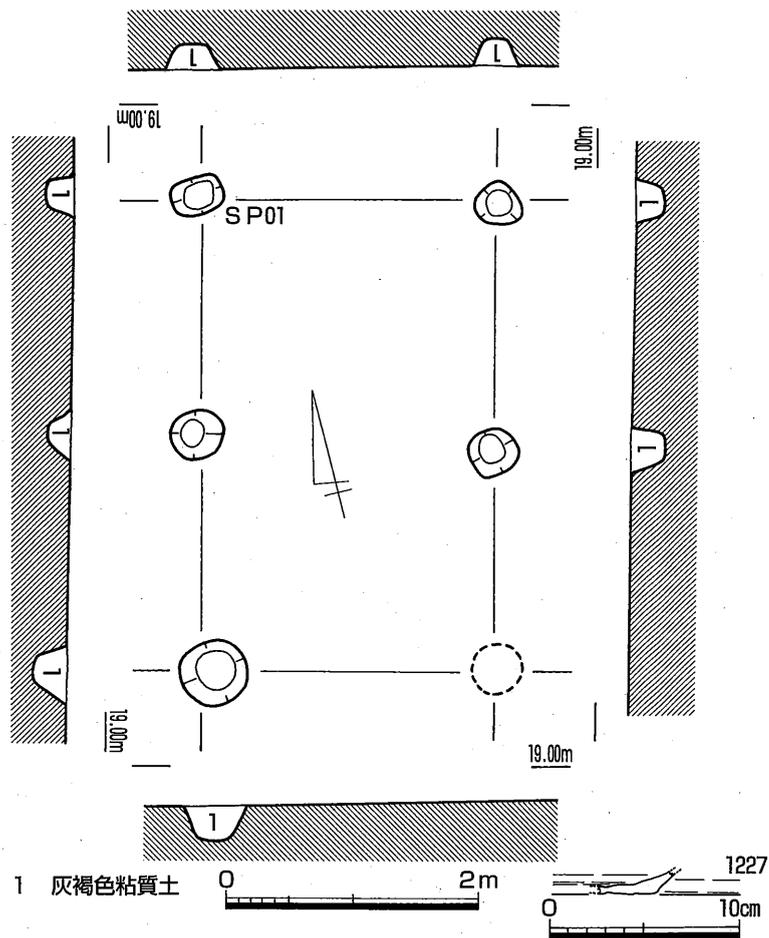
SB b 18 (調査時遺構名：I-3区SB05、概報遺構名：SB17) (第188図)

I-3区の北西部で検出した掘立柱建物跡である。梁間1間×桁行2間で、建物の主軸方位はN-14°-Eである。南東隅の柱穴は検出されていない。梁間は1間で2.3m、桁行は2間で3.75m、建物面積は8.6㎡≒2.6坪である。柱穴の平面形は直径0.4~0.5mの円形と、一辺0.4m前後の隅丸方形のものがある。埋土はすべて灰褐色粘質土の単一層である。

1227はSP01から出土した土師器の杯で、底部外面はヘラ切りである。この他に1基の柱穴から微細な遺物が少量出土している。

SB b 19、SA b 03（調査時遺構名：I-3区SB01・SA01、概報遺構名：SB21）（第189図）

I-3区の北部で検出した掘立柱建物跡と柵列である。掘立柱建物跡は梁間1間×桁行5間で、建物の主軸方位はN-15°-Eである。梁間は1間で4.0m、桁行は5間で10.2m、建物面積は40.8㎡≒12.4坪である。梁間は1間の割には柱間が長い。中間部分に柱穴は検出されていない。柱穴の平面形は直径0.3~0.5mの円形で、柱痕が確認されたものもあるが、全体に浅くなっている。埋土はすべて灰褐色粘質土の単一層である。



SB b 19の西側全体と南側の半分を覆うように、SB b 19とは0.8m離れて柵列が巡っている。SB b 19の桁行2間分に対して1間の割合で柱穴が巡り、長さは4間で13.4

第188図 SB b 18平・断面図(1/60)、柱穴出土遺物(1/4)

mになる。柱穴は直径0.3~0.6mの円形で、埋土はSB b 19と同様にすべて灰褐色粘質土の単一層である。

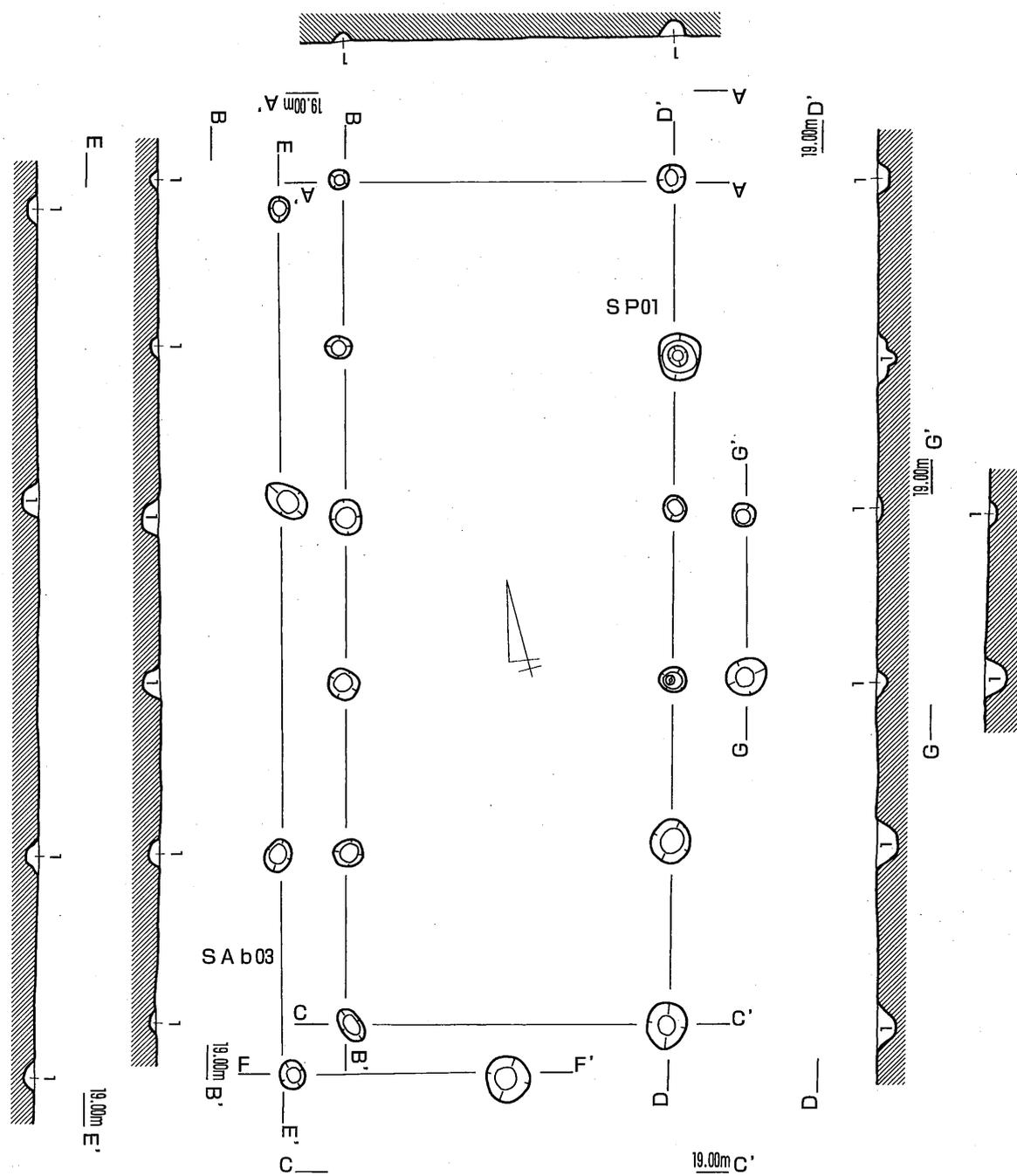
また東側の桁行列の中央の2基の柱穴に対応して、0.9m離れて2基の柱穴がある。南北の延長には全く柱穴は検出されなかったため、この部分で完結する可能性が高い。建物の張り出し部分と考えれば、玄関のような施設があったのかも知れない。

1228はSP01から出土した羽口の一部で、外面には厚く鉄滓が付着している。またSP01の北側の柱穴から鉄滓が出土している。この他に2基の柱穴から微細な遺物が少量出土している。

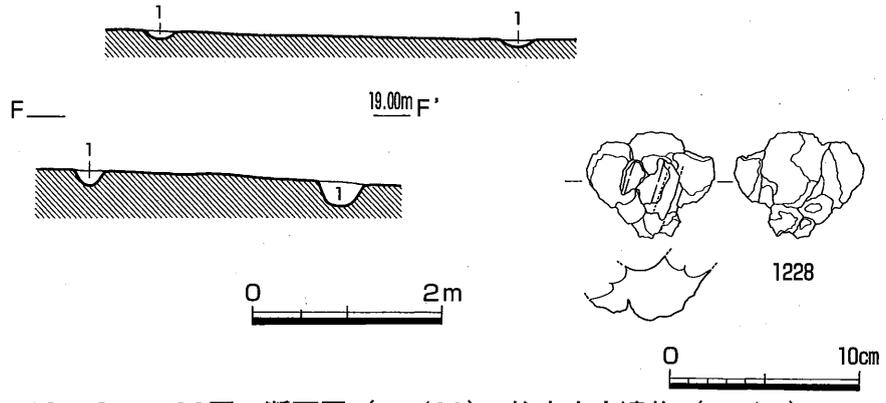
SB b 20、SA b 04・05（調査時遺構名：I-4区SB03・SA02・03、概報遺構名：SB20）（第190図）

I-4区の南部で検出した掘立柱建物跡と柵列である。掘立柱建物跡は梁間3間×桁行4間で、建物の主軸方位はN-11°-Eである。梁間は南北とも中間に柱穴が1基のみで2間分しか検出されていないが、それぞれ梁間の3分の1の位置にあることから3間と考えた。中央の梁間列は中間に2基の柱穴があり3間になっているが、南北からそれぞれ2列目の梁間列の中間の柱穴は1基である。東側の桁行列の柱穴は西側に対応する2基が検出されていない。梁間は3間で5.6m、桁行は4間で8.6m、建物面積は48.2㎡≒14.6坪である。柱穴の平面形は直径0.2~0.3mの円形で、全体に浅く残存状況は良くない。埋土はすべて灰褐色粘質土の単一層である。

SB b 20の西側にはSA b 04、北側にはSA b 05が伴っている。SA b 04はSB b 20から1.7m離れ

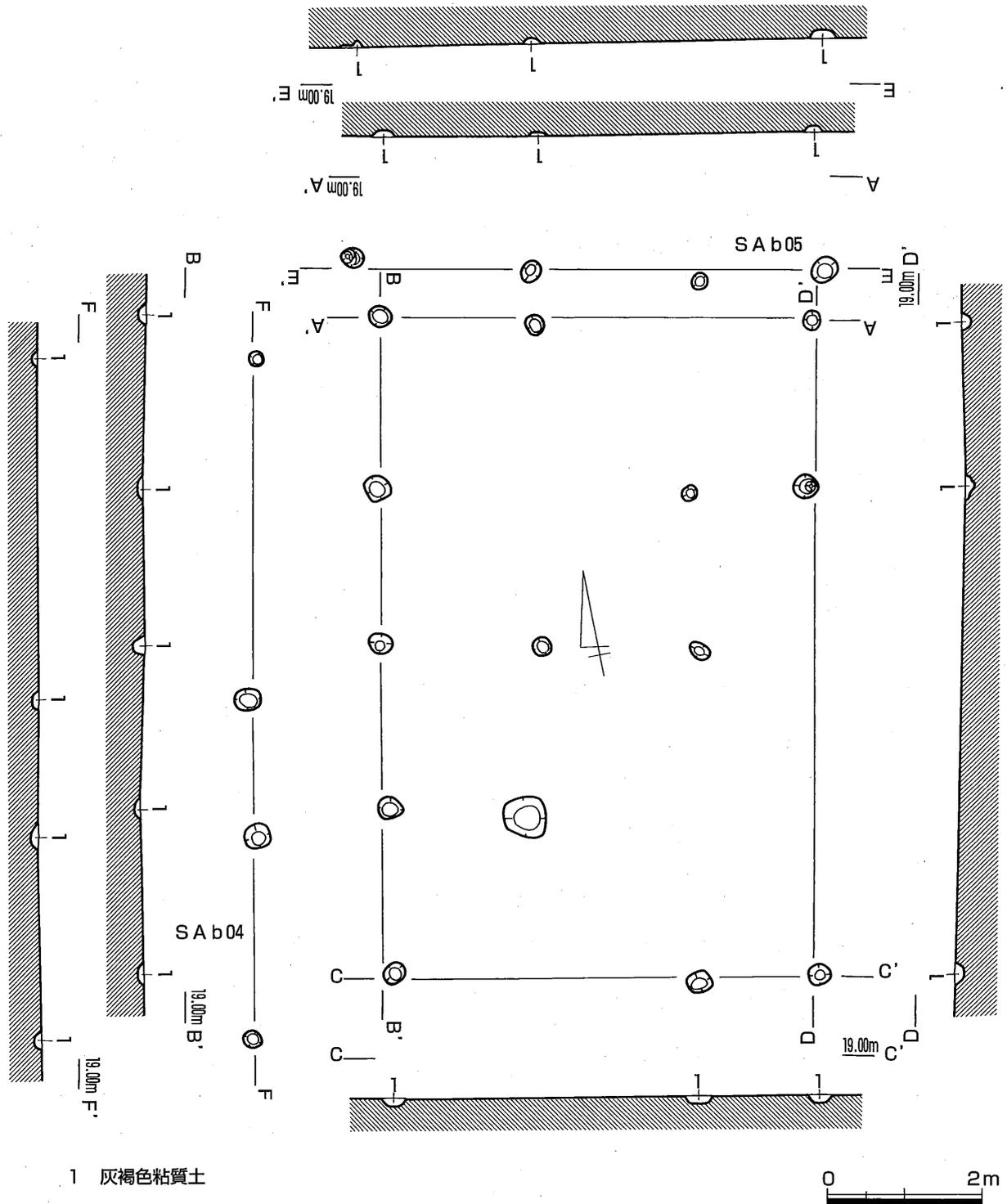


1 灰褐色粘質土



第189圖 SB b 19、SA b 03平・断面図 (1/80)、柱穴出土遺物 (1/4)

ており、全長8.8mである。柱穴は4基検出されているが、北側の間隔の長い部分の中央に1基想定すれば4間になる。S A b 05はS B b 20から0.6m離れており、東側2基目の柱穴が少しずれているが3間になり、全長6.0mになる。柱穴の2基の柱穴はS B b 20の桁行列に揃っている。S A b 04、S A b 05とも柱穴は直径0.2~0.3mの円形で、全体に浅く残存状況は良くない。埋土はすべて灰褐色粘質土の単一層である。

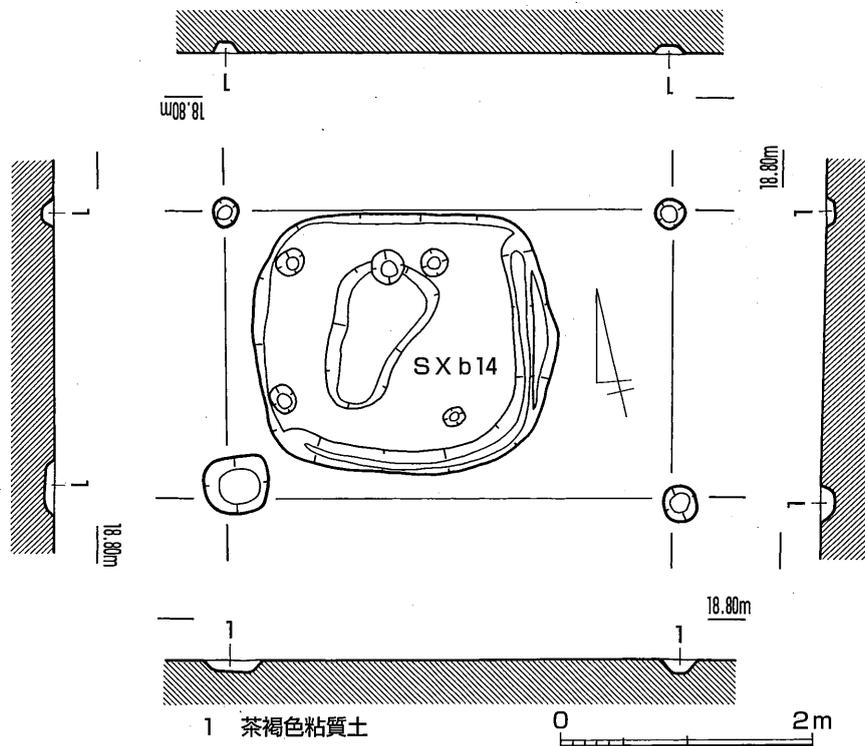


第190図 S B b 20、S A b 04・05平・断面図 (1 / 80)

S B b 20の柱穴のうちの7基と、S A b 04・S A b 05のそれぞれ2基の柱穴から中世の土師器や羽釜を含む微細な遺物が少量出土している。

S B b 21（調査時遺構名：I - 4区S B 04、概報遺構名：S B 09）（第191図）

I - 4区の南部で検出した掘立柱建物跡である。梁間1間×桁行1間で、建物の主軸方位はN - 77° - Wである。梁間は1間で2.3m、桁行は1間で3.6m、建物面積は8.3㎡≒2.5坪である。柱穴の平面形は直径0.2～0.3mの円形と、一辺0.5mの隅丸方形である。埋土はすべて茶褐色粘質土の単一層である。S B b 21は後述する中世のS X b 14の覆屋と考えられる。S B b 21の柱穴から遺物は出土していないが、S X b 14の出土遺物



第191図 S B b 21平・断面図（1/60）

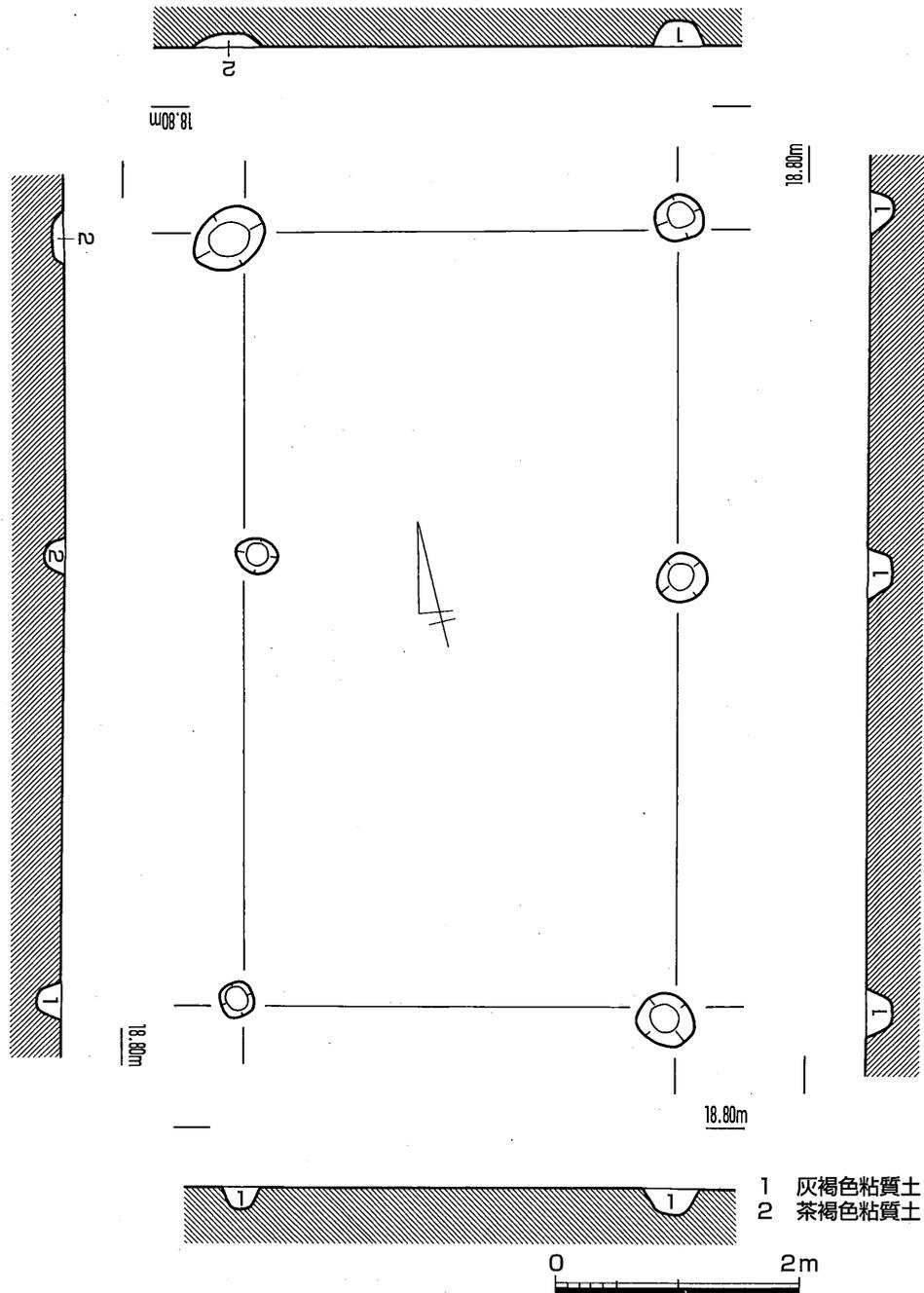
とS X b 14がS B b 20の柱穴を壊していることから、直接的ではないが中世の所産と考えられる。概報では古代後半と考えていたが、下って中世の遺構に訂正する。

S B b 22（調査時遺構名：I - 3区S B 06、概報遺構名：S B 22）（第192図）

I - 3区の北東隅で検出した掘立柱建物跡である。梁間1間×桁行2間で、建物の主軸方位はN - 13° - Eである。梁間は1間で3.5m、桁行は2間で6.3m、建物面積は22.1㎡≒6.7坪である。柱穴の平面形は直径0.3～0.5mの円形であるが、隅丸方形に近いものもある。埋土は灰褐色粘質土のものと、茶褐色粘質土のものがある。3基の柱穴から微細な遺物が少量出土している

S B b 23（調査時遺構名：I - 3区S B 07、概報遺構名：S B 24）（第193図）

I - 3区の北東隅で検出した掘立柱建物跡である。東側は調査区外になるため、全体の規模などは不明である。南西隅の柱穴が検出されていないものの、調査区内で梁間1間×桁行3間で、建物の主軸方位はN - 19° - Eである。検出部分で梁間は1間で3.1m、桁行は3間で5.2mである。柱穴の平面形は直径0.35～0.45mの円形であるが、やや角張っている部分もある。埋土はすべて灰褐色粘質土の単一層である。S B b 22の東側3.5mのところ隣接しており、建物の主軸方位もほぼ等しく並立している。



第192図 SB b 22平・断面図 (1/60)

南側の梁間列を揃えており、関連性が強いと考えられることから、南西隅の柱穴が欠如しているものの掘立柱建物跡と復元している。柱穴から遺物は出土していないが、SB b 22との関連性や柱穴の埋土の土質などから中世の所産と考えておく

SB b 24 (調査時遺構名: I-4区SB07、概報遺構名: SB23) (第194図)

I-4区の南東隅で検出した掘立柱建物跡である。北東隅の柱穴は調査区外になり検出されなかった。梁間1間×桁行2間で、建物の主軸方位はN-15°-Eである。桁行の柱穴が東西で0.4mほど不整合になっているが、掘立柱建物跡として復元した。梁間は1間で2.4m、桁行は2間で5.1m、建物面積は12.2㎡≒3.7坪である。桁行の柱間は南側のほうが長くなっている。柱穴の平面形は直径0.2~0.3mの

円形で、埋土はすべて灰褐色粘質土の単一層である。S B b 22と建物の主軸方位は同じと言ってよく、西側の桁行列を揃えている。柱穴から遺物は出土していないが、S B b 22との関連性や柱穴の埋土の土質などから中世の所産と考えておく。

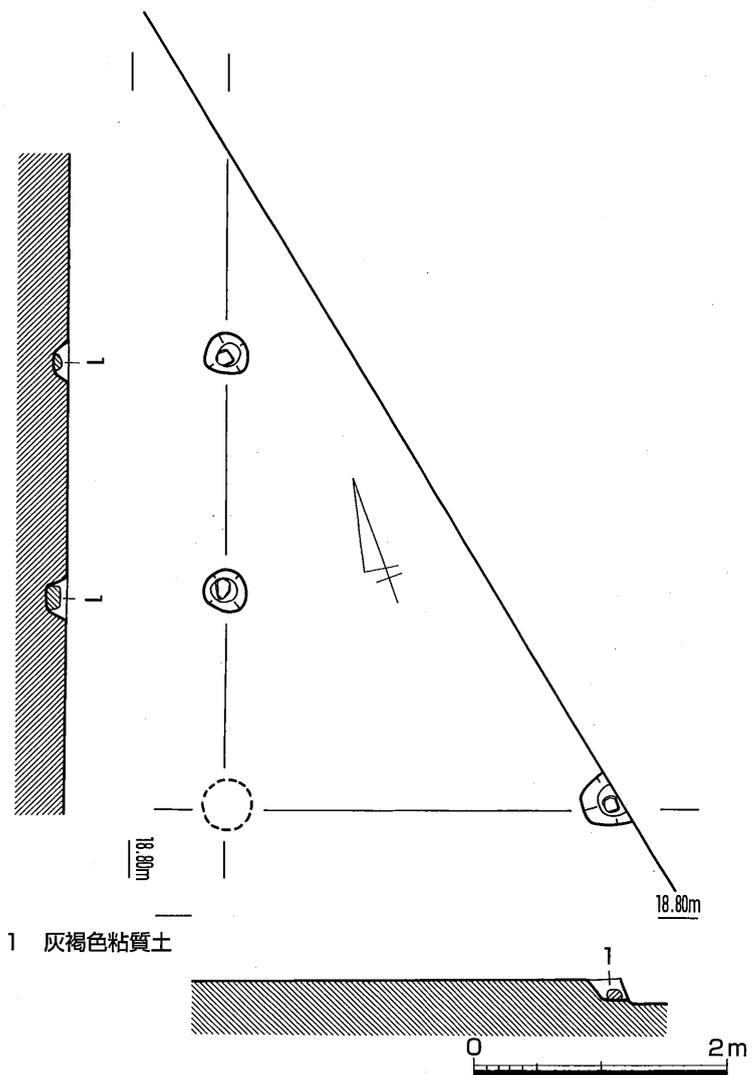
S B b 25 (第195図)

I - 21区の西部で検出した掘立柱建物跡で、整理時に復元したものである。調査区が狭いためにその一部を検出したのみで、大部分は調査区外に続いて行く。調査区内で南北方向に検出した3基の柱穴は、同じ中世の掘立柱建物跡で、近接するI - 1区のS B b 10・11、後述するI - 21区のS B b 27の梁間がすべて2間で、長さもS B b 25とほぼ同じであることから、建物の西端の梁間列と考えたもので、桁行は東側に続いて行く東西方向の建物と考えられる。桁行は調査区内で1間分が検出されている。従ってS B b 25は梁間2間×桁行1間以上で、建物の主軸方位はN - 81° - Wである。梁間は2間で3.9m、桁行は検出部分で2.2mになる。柱穴の平面形は概ね直径0.3~0.5mの円形であるが、楕円形、隅丸方形に近いものもある。埋土はすべて灰褐色粘質土の単一層で、根石の認められたものもある。

遺物は比較的多く出土しており、1229がS P 01、1230~1236がS P 02、1237~1241がS P 03から出土している。1229~1234・1237は土師器の小皿である。底部が欠損している1234以外の底部外面はヘラ切りで、1230は板状圧痕を加えている。1232は最後に内面の立ち上がり部をナデている。1233は内面の見込み部分にヘラ切り痕が認められ、ロクロの上に置いた粘土塊から連続して小皿を製作していることが分かる。1237の底部外面のヘラ切り痕は明瞭で、その後に調整を加えていない。1235・1236・1238~1240は土師器の杯である。1235は椀の可能性もある。1238の体部は大きく開く。1241は土師器の甕で、口縁部外面にハケ目を施している。

S B b 26 (第196図)

I - 21区の西端部で検出した掘立柱建物跡で、整理時に復元したものである。調査区が狭いためにその一部を検出したのみで、大部分は調査



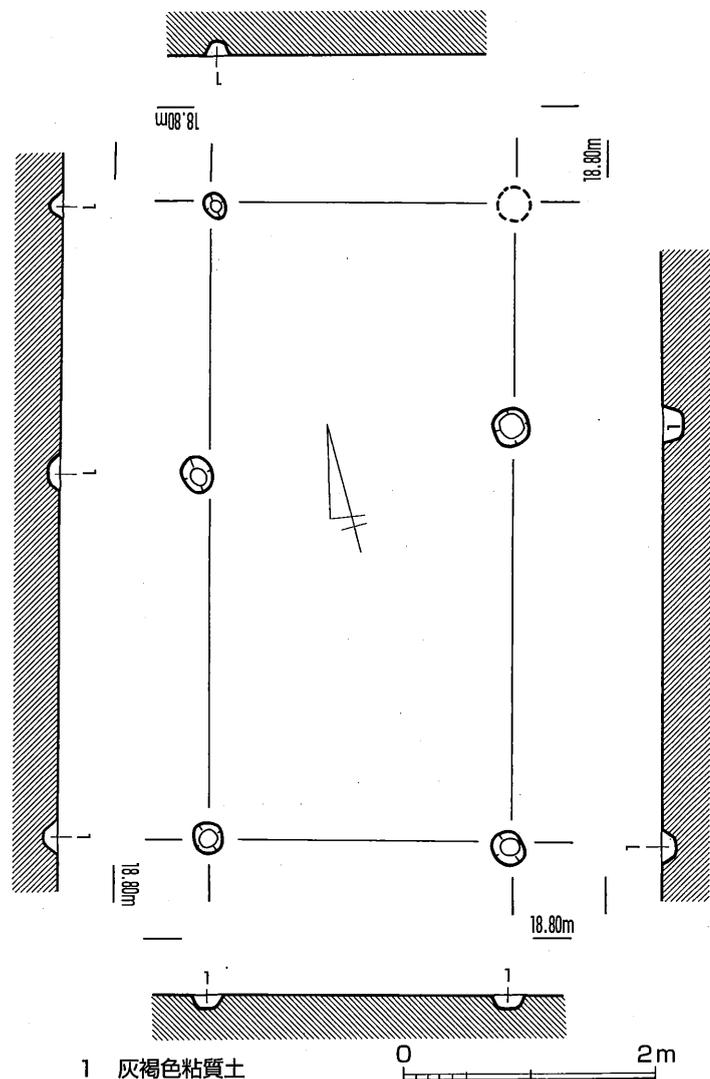
第193図 S B b 23平・断面図 (1/60)

区外に続いて行く。調査区内で柱穴4基を検出しており、北側には対応する柱穴は全く検出されていないので、建物は南側に続いて行くと考えられる。従って検出部分は建物の北側の桁行と考えられ、建物の主軸方位はN-85°-Wとなる。検出した桁行は3間で、さらに東西に延びる可能性があるが、近接する中世の掘立柱建物跡の規模を考えると桁行は3間程度と思われる。検出した桁行は3間で6.1m、柱穴の平面形は直径0.2~0.25mの円形で、埋土は灰色粘質土のものと灰色砂質土のものがある。すべての柱穴から微細な遺物が少量出土している。

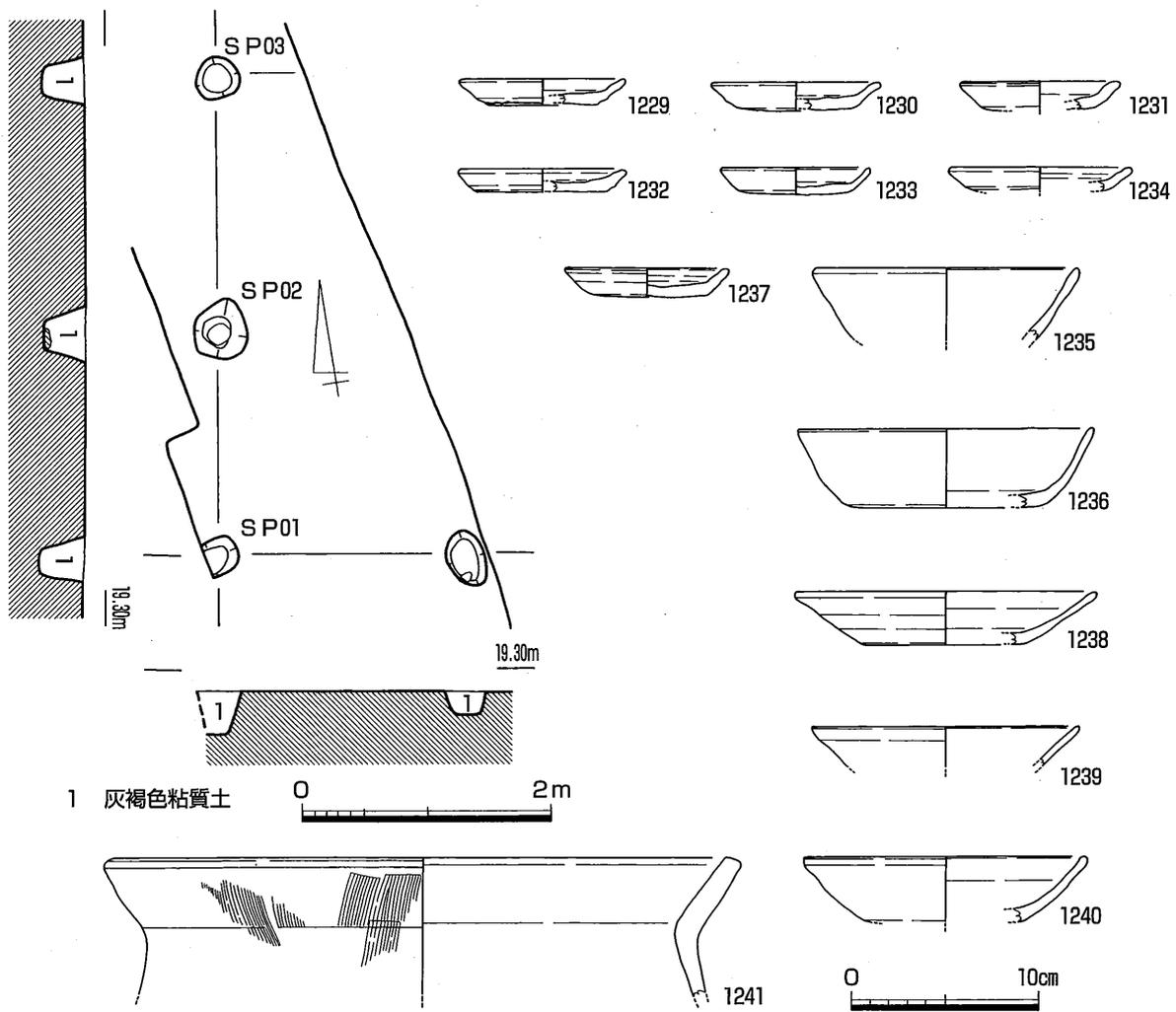
S B b 27 (第197図)

I-21区の西部で検出した掘立柱建物跡で、『空港跡地遺跡Ⅷ』で報告されたI-5区のS B l 03の北側の続き部分を整理時に復元したものである。I-21区内で検出した柱穴は2基で、全体で梁間2間×桁行3間で、建物の主軸方位はN-17°-Eである。北側の梁間列の中央の柱穴は検出されておらず、また東側の桁行列はやや不揃いである。I-5区部分の中央は攪乱を受けており、この部分に柱穴を想定することが出来るため、桁行は4間になる可能性がある。梁間は2間で北側が3.9m、南側が3.7m、桁行は3間として8.0m、建物面積は30.4㎡≒9.2坪である。柱穴の平面形は直径0.2~0.4mの円形で、埋土はすべて灰褐色粘質土の単一層である。

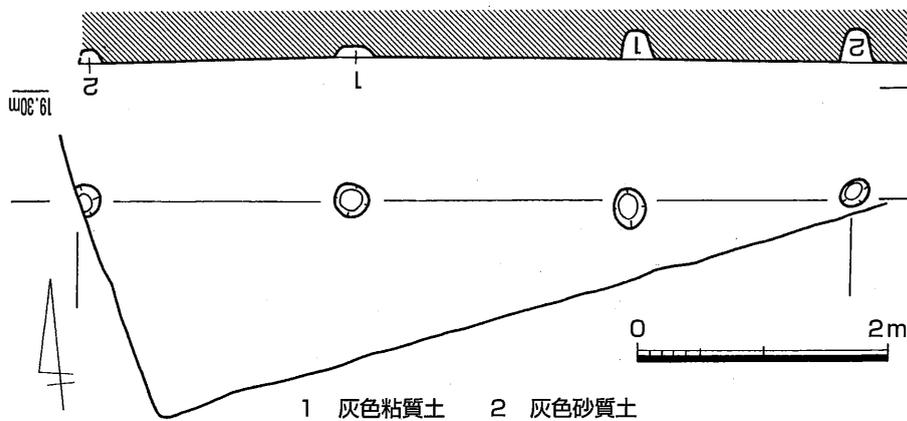
1242・1243がS P 01、1244がS P 02から出土している。1242は土師器の杯で、体部下半の回転ナデは強い。底部外面はヘラ切りの後に板状圧痕を加えている。1243は瓦器の椀で、断面三角形の高台を貼り付けている。内面にはヘラミガキを施すが、ヘラミガキ以前にヘラ描きの暗文状あるいは陰刻花文のような文様が施されている。1244は土師器の小皿で、体部屈曲部が鋭くなっている。底部外面はヘラ切りである。



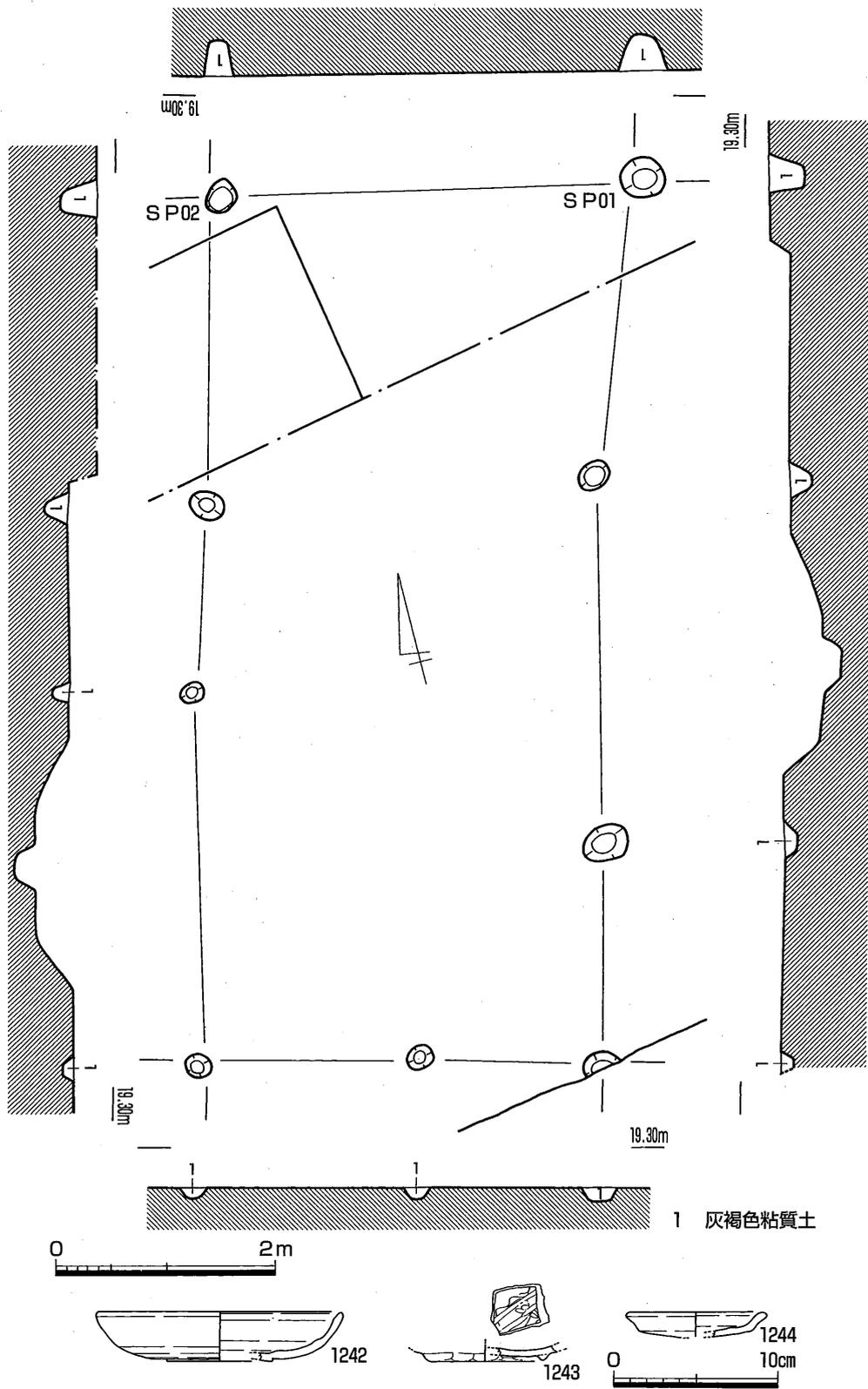
第194図 S B b 24平・断面図 (1/60)



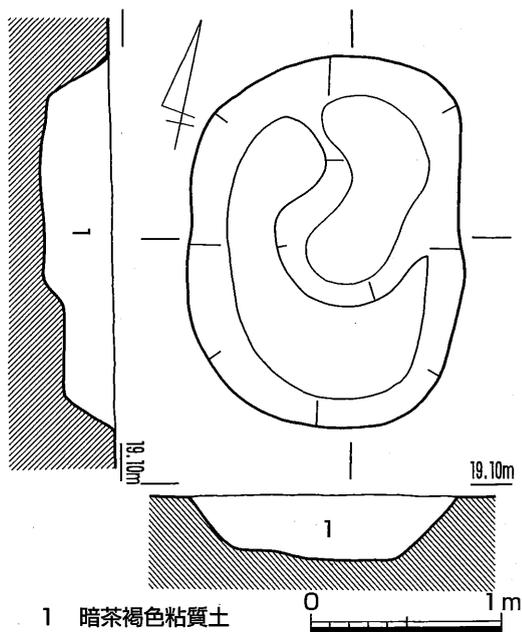
第195図 S B b 25平・断面図 (1/60)、柱穴出土遺物 (1/4)



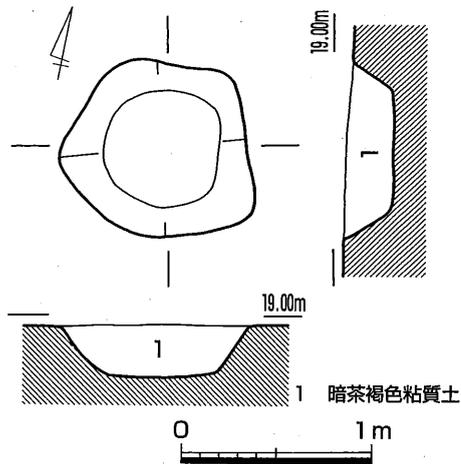
第196図 S B b 26平・断面図 (1/60)



第197図 SB b27 (SB l 03: 報告書Ⅷ) 平・断面図 (1/60)、柱穴出土遺物 (1/4)



第198図 SK b 41平・断面図 (1/40)

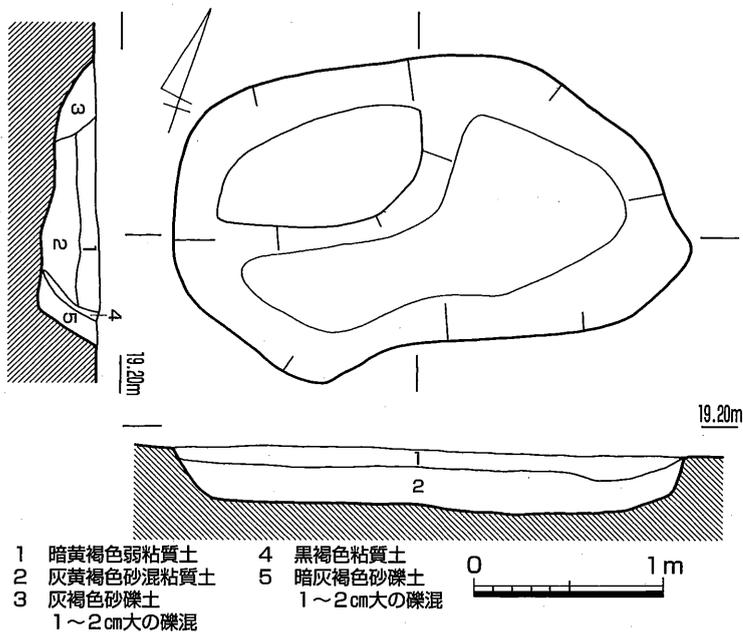


第199図 SK b 42平・断面図 (1/40)

土坑

SK b 41 (調査時遺構名: I - 2区SK02) (第198図)

I - 2区の南西部で検出した土坑である。平面形は楕円形であるが、東側は直線的になっている。長径1.95m、短径1.4m、深さ0.38mである。底部の北東部分が一段低くなっている。埋土は暗茶褐色粘質土の単一層である。微細な遺物が少量出土している。



第200図 SK b 43平・断面図 (1/40)

SK b 42 (調査時遺構名: I - 2区SK03) (第199図)

I - 2区の南部で検出した土坑である。平面形は角が丸みを帯びた五角形で、南北方向0.9m、東西方向1.0m、深さ0.28mである。埋土は暗茶褐色粘質土の単一層で、遺物は出土していない。埋土の土質などは古代の遺構に近いが、周辺の遺構との関係から中世の遺構と考えておく。

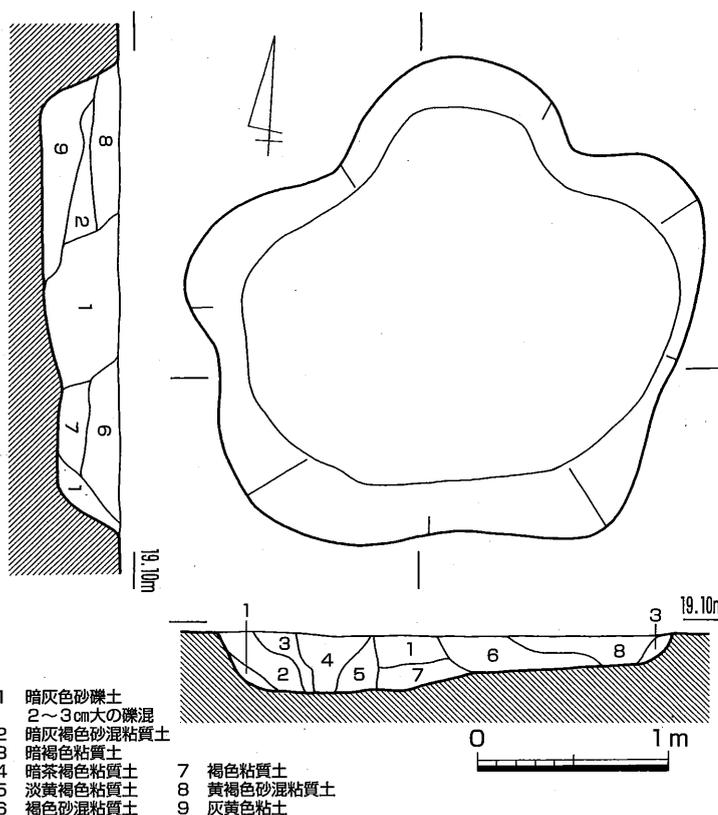
SK b 43 (調査時遺構名: I - 1区SK11) (第200図)

I - 1区の北西部で検出した土坑である。平面形は楕円形に近いが、南側が内側に入り込んでいる。また北西部分は段状に掘り込まれ、途中にテラス状の平坦な面を形成している。南北方向1.6m、東西

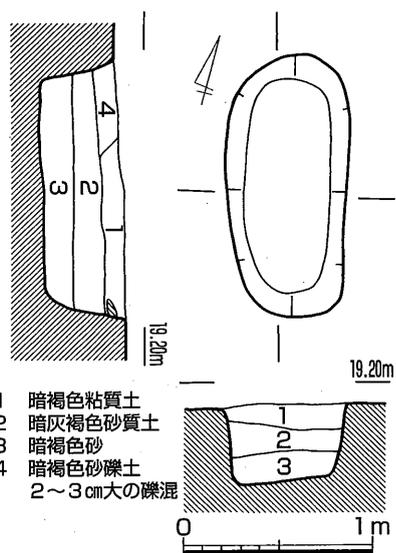
方向2.7m、深さ0.32mである。埋土は基本的に上下2層に大別され、上層に暗黄褐色弱粘質土、下層に灰黄褐色砂混じり粘質土が堆積している。また北西部のテラス状の部分には灰褐色砂礫土が堆積している。遺物は出土していないが、埋土の土質から中世の遺構と考えられる。

SK b 44 (調査時遺構名: I-1区SK17) (第201図)

I-1区の北西部で検出した土坑である。平面形は不整形で花卉形のように湾曲を繰り返している。南北方向2.5m、東西方向2.7m、深さ0.42mである。西側一帯の掘り込みは緩やかで、底部は北西に向かって下っている。土層断



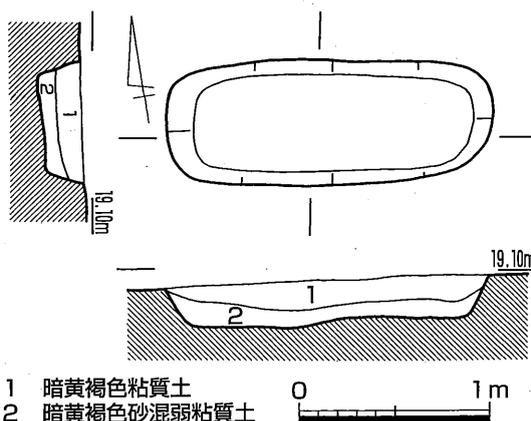
第201図 SK b 44平・断面図 (1/40)



第202図 SK b 45平・断面図 (1/40) 暗灰~褐色系の粘質土が中心になっている。遺物は出土していないが、埋土の土質から中世の遺構と考えられる。

SK b 45 (調査時遺構名: I-1区SK16) (第202図)

I-1区の北部で検出した土坑である。平面形は長方形であるが、北側が丸みを帯びている。長辺1.4m、短辺0.65m、深さ0.42mである。掘り込みは全体に急で、埋土は基本的に3層に分かれる。最下



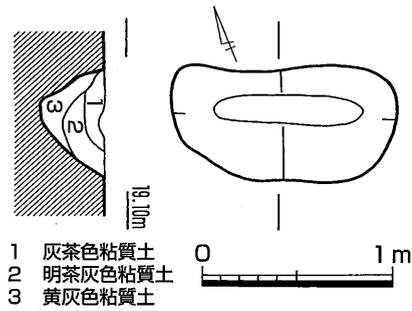
第203図 SK b 46平・断面図 (1/40)

面の観察から、頻繁に再掘削されていることが分かる。そのため平面形が不整形になったものと考えられる。埋土は

層には暗褐色砂が堆積している。遺物は出土していないが、埋土の土質から中世の遺構と考えられる。

SKb46 (調査時遺構名: I-1区SK12) (第203図)

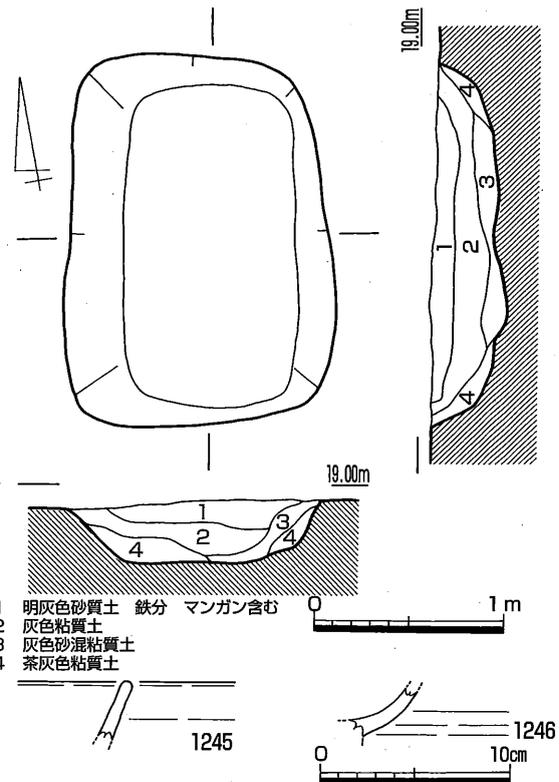
I-1区の南西部で検出した土坑である。平面形は長方形であるが、東側が丸みを帯びている。長辺1.7m、短辺0.67m、深さ0.25mである。北側と南側の掘り込みは急になっており、底部は西に向かって下っている。埋土は上下2層に大別され、上層に暗黄褐色粘質土、下層に暗黄褐色砂混じり弱粘質土が堆積している。埋土の土質は地山に似ており、ブロック状に混入はしていないが、遺構面の状況から掘削した土をそのまま埋め戻しているようである。SKb43の上層の土質と似ていることから、中世の遺構と考えておく。



第204図 SKb47平・断面図 (1/40)

SKb47 (調査時遺構名: I-1区SK14) (第204図)

I-1区の南部のやや西寄りで検出した土坑である。平面形は長方形に近いが、南西部が内側に入り込んでいる。長辺1.2m、短辺0.6m、深さ0.34mである。南側の掘り込みは緩やかで、底部は狭くなっている。埋土は3層に分かれ、灰色系の粘質土が堆積している。遺物は出土していないが、埋土の土質から中世の遺構と考えられる。



第205図 SKb48平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

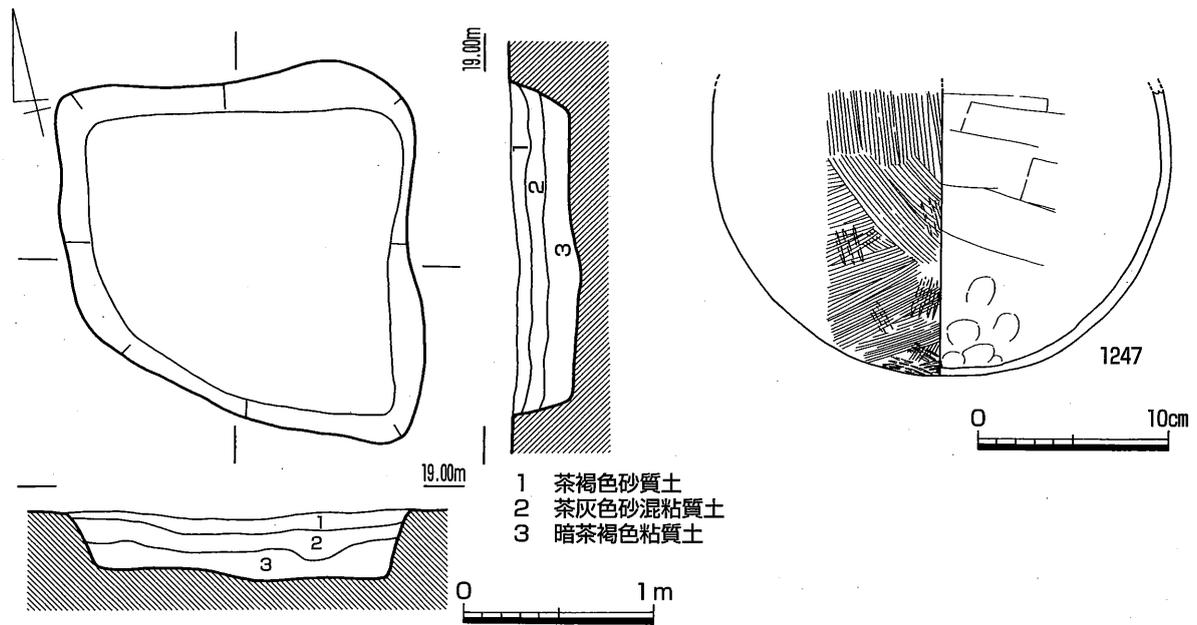
SKb48 (調査時遺構名: I-1区SK05) (第205図)

I-1区の南部で検出した土坑である。平面形は長方形で、長辺1.95m、短辺1.45m、深さ0.4mである。西側の掘り込みは緩やかで、底部はやや凹凸がある。埋土は灰色系の粘質土と砂質土である。

1245は須恵器の鉢、1246は青磁の碗である。この他に中世の土器を含む微細な遺物が少量出土している。

SKb49 (調査時遺構名: I-1区SK01) (第206図)

I-1区の南東部で検出した土坑である。平面形は台形である。南北方向2.0m、東西方向1.85m、深さ0.35mである。東側から南側にかけての掘り込みは急になっており、底部は南東部が低くなっている。埋土は3層に分かれ、茶褐色系の砂質土と茶灰色砂混じり粘質土が堆積している。

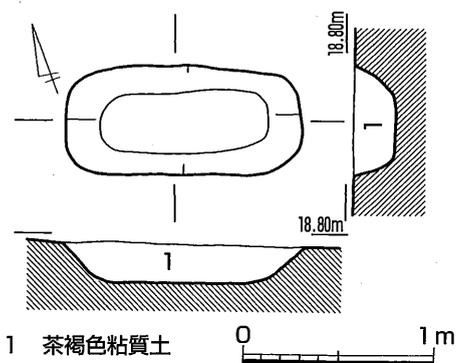


第206図 SK b 49平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

1247は土師器の甕で、体部は丸く外面には粗いハケ目のようなタタキの後に全体にハケ目を施している。内面は板ナデで底部付近に指押さえを行なう。この他に中世の土器を含む微細な遺物が少量出土している。

SK b 50 (調査時遺構名: I-1区SK07) (第207図)

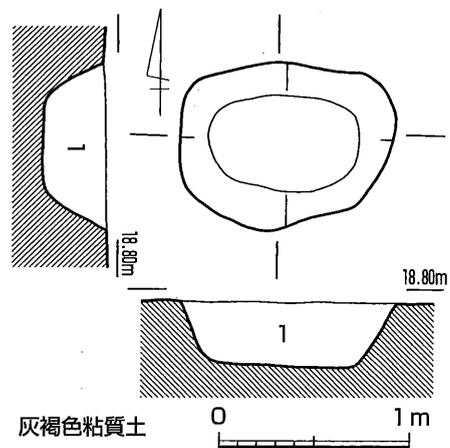
I-1区の東部で検出した土坑で、中世の掘立柱建物跡SB b 14の柱穴を僅かではあるが壊している。平面形は長方形で、長辺1.25m、短辺0.55m、深さ0.22mである。埋土は茶褐色粘質土の単一層である。微細な遺物が少量出土している。



第207図 SK b 50平・断面図 (1/40)

SK b 51 (調査時遺構名: I-3区SK06) (第208図)

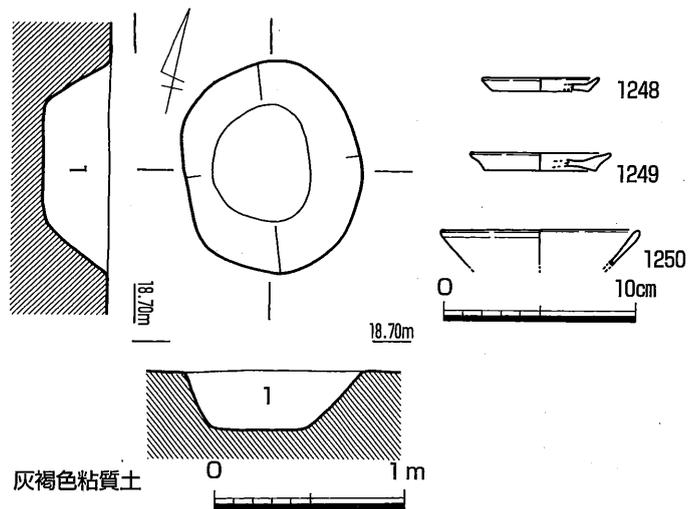
I-3区の南西隅で検出した土坑である。平面形は概ね隅丸方形であるが、北側と南側の一部が内側に入り込んでいる。南北方向0.9m、東西方向1.1m、深さ0.35mである。底部は東に向かって僅かに下っている。埋土は灰褐色粘質土の単一層である。微細な遺物が少量出土している。



第208図 SK b 51平・断面図 (1/40)

S K b 52 (調査時遺構名：I - 3区 S K 07) (第209図)

I - 3区の北西部で検出した土坑で、中世の掘立柱建物跡S B b 17の柱穴を僅かではあるが壊している。平面形は円形であるが、西側がやや直線的である。直径は0.9~1.1m、深さ0.35mである。東側から南側にかけての掘り込みは緩やかになっている。埋土は灰褐色粘質土の単一層である。

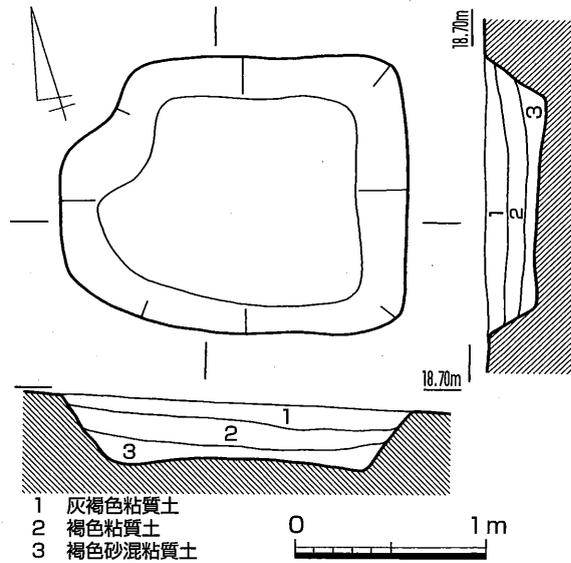


第209図 S K b 52平・断面図(1/40)、出土遺物(1/4)

1248・1249は土師器の小皿で、底部外面はヘラ切りである。1250は土師器の杯である。この他に中世の土師器を含む微細な遺物が出土している。

S K b 53 (調査時遺構名：I - 3区 S K 08) (第210図)

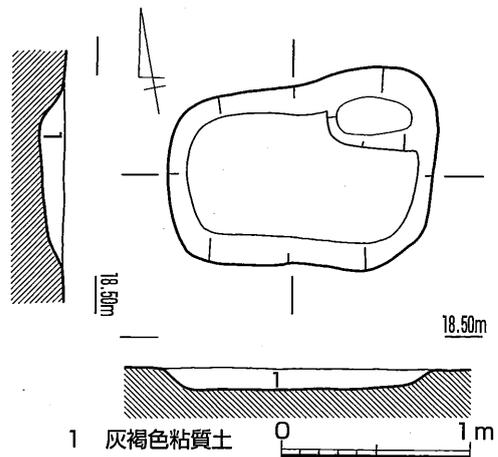
I - 3区の北西部で検出した土坑である。平面形は方形であるが、北西部が内側に入り込んでいる。南北方向1.45m、東西方向1.85m、深さ0.35mである。底部は中央がやや盛り上がっている。埋土は3層に分かれ、上層に灰褐色粘質土が、中層と下層には褐色の粘質土と砂混じり粘質土が堆積している。黒色土器碗を含む微細な遺物が少量出土している。



第210図 S K b 53平・断面図(1/40)

S K b 54 (調査時遺構名：I - 3区 S K 09) (第211図)

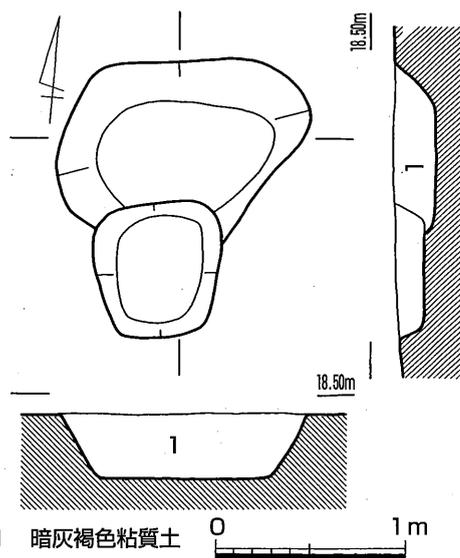
I - 3区の東部で検出した土坑である。平面形は長方形であるが北東部がやや突出している。長辺1.4m、短辺0.95~1.1m、深さ0.12mである。底部の北東隅は小穴状に一段低くなっている。埋土は灰褐色粘質土の単一層である。微細な遺物が少量出土している。



第211図 S K b 54平・断面図(1/40)

S K b 55 (調査時遺構名：I - 4区 S K 13) (第212図)

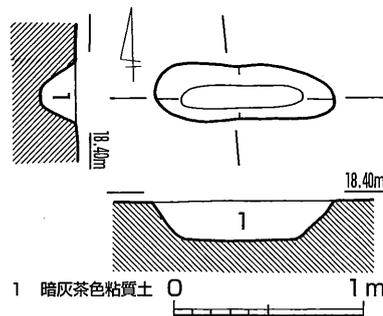
I - 4区の南東部で検出した土坑で、南側を小穴により壊されている。平面形はやや歪んでいるが方形になると考えられる。南北方向は検出部分で0.9m、東西方向1.3m、深さ0.35mである。長さ0.3mほどの板石が1点出土したが、人為的な痕跡は認められなかった。埋土は暗灰褐色粘質土の単一層である。中世の土師器小皿を含む微細な遺物が少量出土している。



第212図 S K b 55平・断面図 (1/40)

S K b 56 (調査時遺構名：I - 4区 S K 11) (第213図)

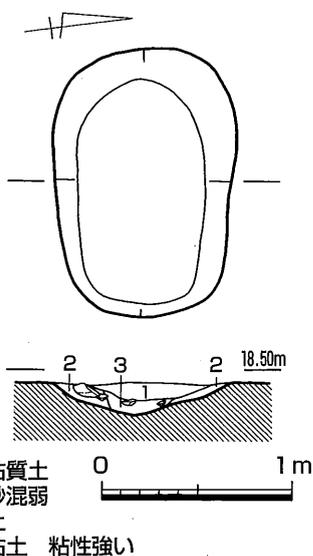
I - 4区の南東部で検出した土坑である。平面形は細長い楕円形で、長径0.95m、短径0.3m、深さ0.2mである。掘り込みは全体に緩やかで、埋土は暗灰茶色粘質土の単一層である。中世の土師器皿を含む微細な遺物が少量出土している。



第213図 S K b 56平・断面図 (1/40)

S K b 57 (調査時遺構名：I - 4区 S K 16) (第214図)

I - 4区の中央やや北寄り検出した土坑である。平面形は隅丸の長方形であるが、北西側の丸みが強くなっている。長辺1.4m、短辺0.95m、深さ0.16mである。北西側の掘り込みが緩やかになっており、埋土は灰色系の粘質土が中心となっているが、底部中央付近には粘性の強い灰色粘土が堆積している。遺物は出土していないが、埋土の土質から中世の遺構と考えられる。

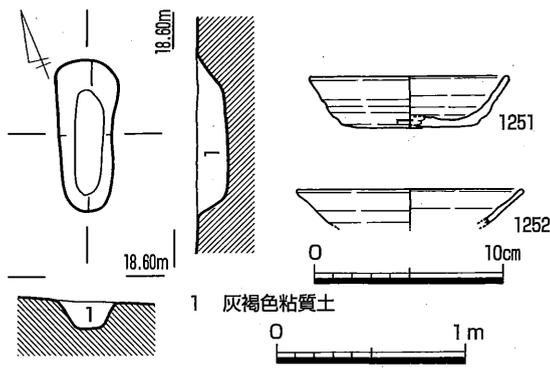


- 1 灰色粘質土
- 2 灰色砂混弱粘質土
- 3 灰色粘土 粘性強い

第214図 S K b 57平・断面図 (1/40)

S K b 58 (調査時遺構名：I - 4区 S K 08) (第215図)

I - 4区の中央やや南寄り検出した土坑である。平面形は細長い楕円形であるが、北西側がやや角張っている。長径0.8m、短径0.3m、深さ0.15mである。北側の掘り込みは緩やかで、埋土



は灰褐色粘質土の単一層である。

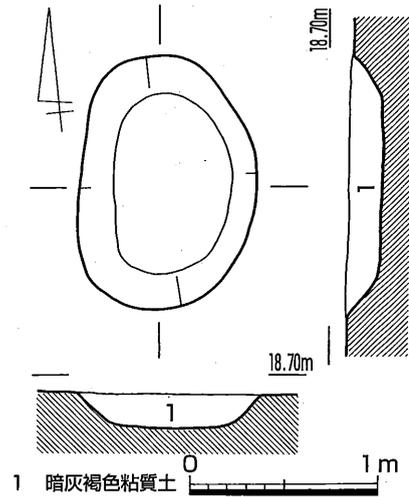
1251・1252は土師器の杯である。1251は体部全体に回転ナデを施し、底部外面はヘラ切りの

第215図 S K b 58平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

後にハケ目に似た板状圧痕を加えおり、最終的にナデている。また内面見込み部分にもヘラ切り痕が認められ、ロクロの上に置いた粘土塊から連続して杯を製作していることが分かる。1252の体部は大きく開く。この他に微細な遺物が少量出土している。

S K b 59 (調査時遺構名: I-4区 S K 19) (第216図)

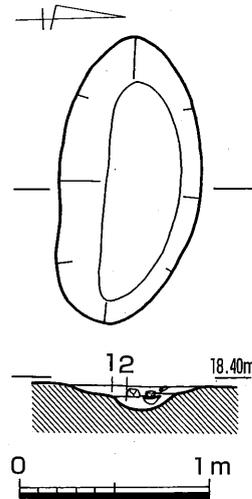
I-4区の南西部で検出した土坑である。平面形は楕円形で、長径1.35m、短径0.95m、深さ0.18mである。埋土は暗灰褐色粘質土の単一層である。遺物は出土していないが、古代の柵列 S A b 01の廃絶後にこのライン上に掘削されており、埋土の土質から中世の遺構と考えられる。



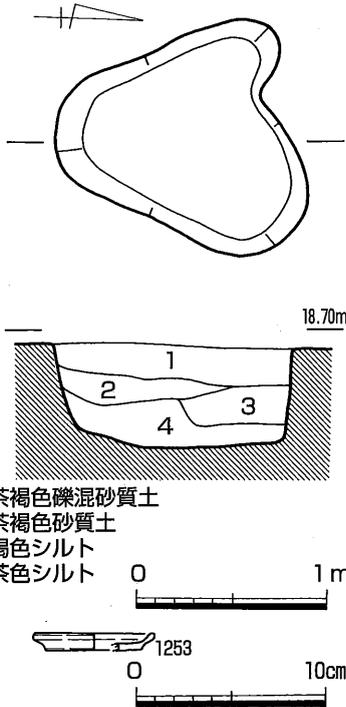
第216図 S K b 59平・断面図 (1/40)

S K b 60 (調査時遺構名: I-4区 S K 17) (第217図)

I-4区の北部やや西寄りで見出した土坑である。平面形は楕円形で、長径1.5m、短径0.75m、深さ0.13mである。南側の掘り込みは緩やかで、埋土は上下2層に大別され、上層に灰色粘質土、下層に暗灰色粘土が堆積している。また埋土中から0.1~0.15mほどの角礫が数点出土しているが、人為的な痕跡は認められなかった。遺物は出土していないが、埋土の土質から中世の遺構と考えられる。



第217図 S K b 60平・断面図 (1/40)



- 1 灰茶褐色礫混砂質土
- 2 灰茶褐色砂質土
- 3 茶褐色シルト
- 4 黄茶色シルト

第218図 S K b 61平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

S K b 61 (調査時遺構名: I-18区 S K 01) (第218図)

I-18区の南部で検出した土坑である。平面形は不整形で、北側が内側に入り込んでいる。南北方向1.3m、東西方向0.6~1.25m、深さ0.55mである。掘り込みは全体に急で、特に北側は垂直に近づいている。埋土は灰茶褐色~茶色系の砂質土、砂混じり粘質土となっている。

1253は土師器小皿で、体部内・外面を強くナデている。底部外面はヘラ切りである。この他に微細な遺物が少量出土している。

S K b 62 (調査時遺構名: I-18区 S K 05) (第219図)

I-18区の北部の細長い調査区で見出した土坑である。平面形は不整形で、北東側が突出している。南北方向0.45m、東西方向0.65m、深さ0.1mである。埋土は茶褐色粘質土の単一層である。中世の鍋を含む微細な遺物が少量出土している。

S K b 63 (調査時遺構名：I - 18区 S K 06) (第220図)

I - 18区の北部の細長い調査区で検出した土坑である。平面形は不整形で北西側は突出しているが、東側は削平されており検出されていない。検出部分で南北方向1.65m、東西方向1.35m、深さ0.25mである。埋土は暗茶灰色砂混じり粘質土の単一層である。

1254は青磁の碗である。残存部分で文様は認められない。1255は土師質の土釜であるが、形状から足釜になるものと考えられる。この他に微細な遺物が少量出土している。

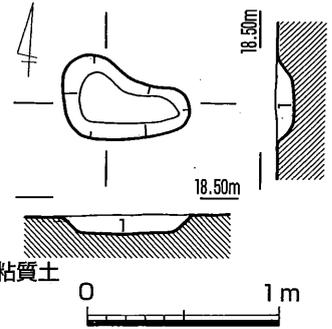
S K b 64 (調査時遺構名：I - 19区 S K 14) (第221図)

I - 19区の西部の調査区壁際で検出した土坑である。土坑の西側は調査区外に続いて行き、全体の形状と規模は不明である。検出部分で平面形は方形で、南北方向1.35m、東西方向0.7m、深さ0.3mである。底部は若干の凹凸が見られる。埋土は上下2層に大別され、上層に明黄褐色砂質土、下層に淡茶褐色粘質土が堆積している。

1256は土師器の小皿で、口縁部立ち上がり部の内面を強くナデている。底部外面はヘラ切りの後にナデている。この他に微細な遺物が少量出土している。

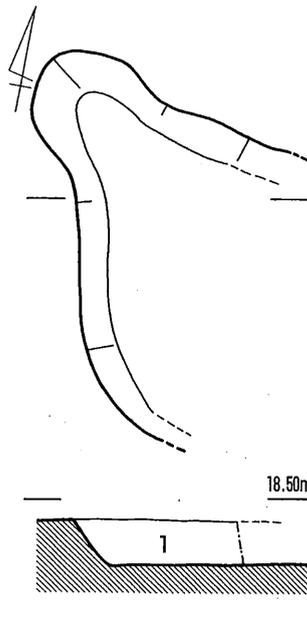
S K b 65 (調査時遺構名：I - 20区 S K 24) (第222図)

I - 20区の南東部で検出した土坑である。平面形は隅丸方形で、南北方向1.15m、東西方向1.25m、深さ0.3mである。底部は若干



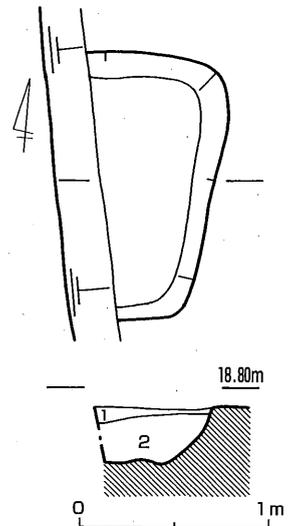
1 茶褐色粘質土

第219図 S K b 62平・断面図 (1/40)



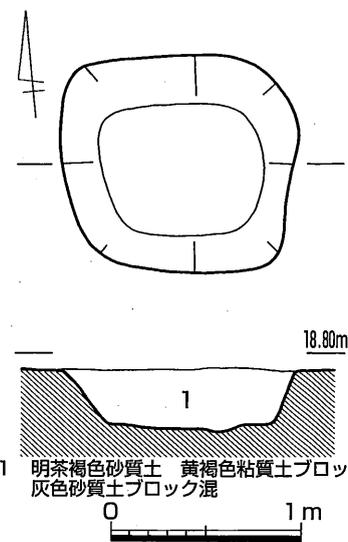
1 暗茶灰色砂混粘質土

第220図 S K b 63平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



1 明黄褐色砂質土
2 淡茶褐色粘質土

第221図 S K b 64平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



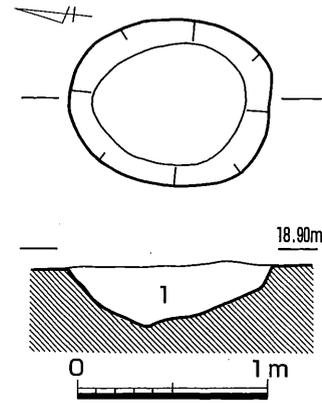
1 明茶褐色砂質土 黄褐色粘質土ブロック
灰色砂質土ブロック混

第222図 S K b 65平・断面図 (1/40)

の凹凸が見られ、埋土は明茶褐色砂質土の単一層であるが、埋土には黄褐色粘質土と灰色砂質土のブロックを含み、埋め戻されたような状況である。中世と考えられる須恵器鉢や陶器のすり鉢を含む微細な遺物が少量出土している。

SK b 66 (調査時遺構名：I-20区SK23) (第223図)

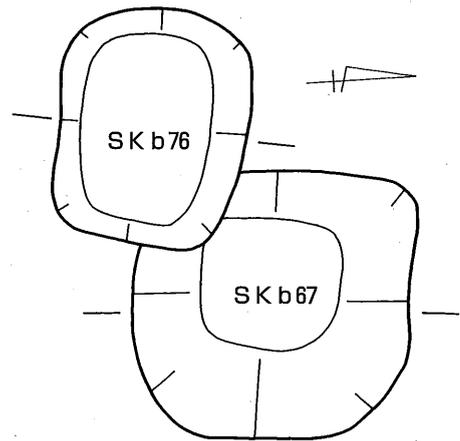
I-20区の中央やや南寄りで見出した土坑である。平面形は円形で、直径0.9~1.05m、深さ0.3mである。底部は南から北に向かって下っている。埋土は灰色砂質土のブロックを含む明茶褐色粘質土の単一層である。遺物は出土していないが、埋土の土質から中世の遺構と考えられる。



1 明茶褐色粘質土 灰色砂質土ブロック混
第223図 SK b 66平・断面図 (1/40)

SK b 67 (調査時遺構名：I-20区SK20) (第224図)

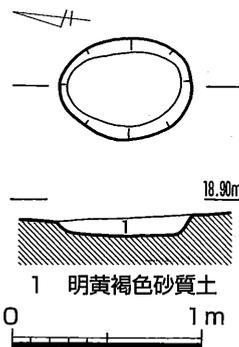
I-20区の南部で見出した土坑で、南西隅を近世の土坑SK b 76に壊されている。平面形は一辺1.4mの隅丸方形で、深さは0.33mである。東側から北側にかけての掘り込みは緩やかで、埋土は灰色砂質土の単一層であるが、地山ブロックを多く含み埋め戻されたような状況である。中世の須恵器・土師器・白磁を含んだ微細な遺物が少量出土している。



SK b 67 17.90m
SK b 76 17.90m
1 灰色砂質土 地山ブロック多く混
第224図 SK b 67・76平・断面図 (1/40)

SK b 68 (調査時遺構名：I-20区SK25) (第225図)

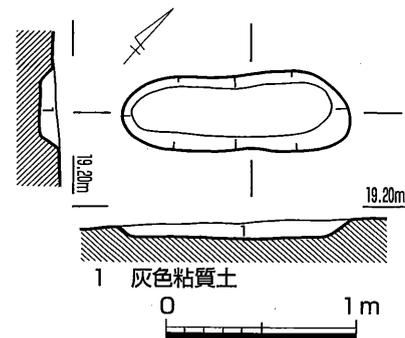
I-20区の南部の調査区壁際で見出した土坑である。平面形は楕円形で、長径0.7m、短径0.54m、深さ0.1mで浅くなっている。埋土は明黄褐色砂質土の単一層である。遺物は出土しておらず、埋土の土質も中世のものやや異なるが、周辺遺構の状況から中世の遺構と推測しておく。



第225図 SK b 68平・断面図 (1/40)

SK b 69 (調査時遺構名：I-21区SK01) (第226図)

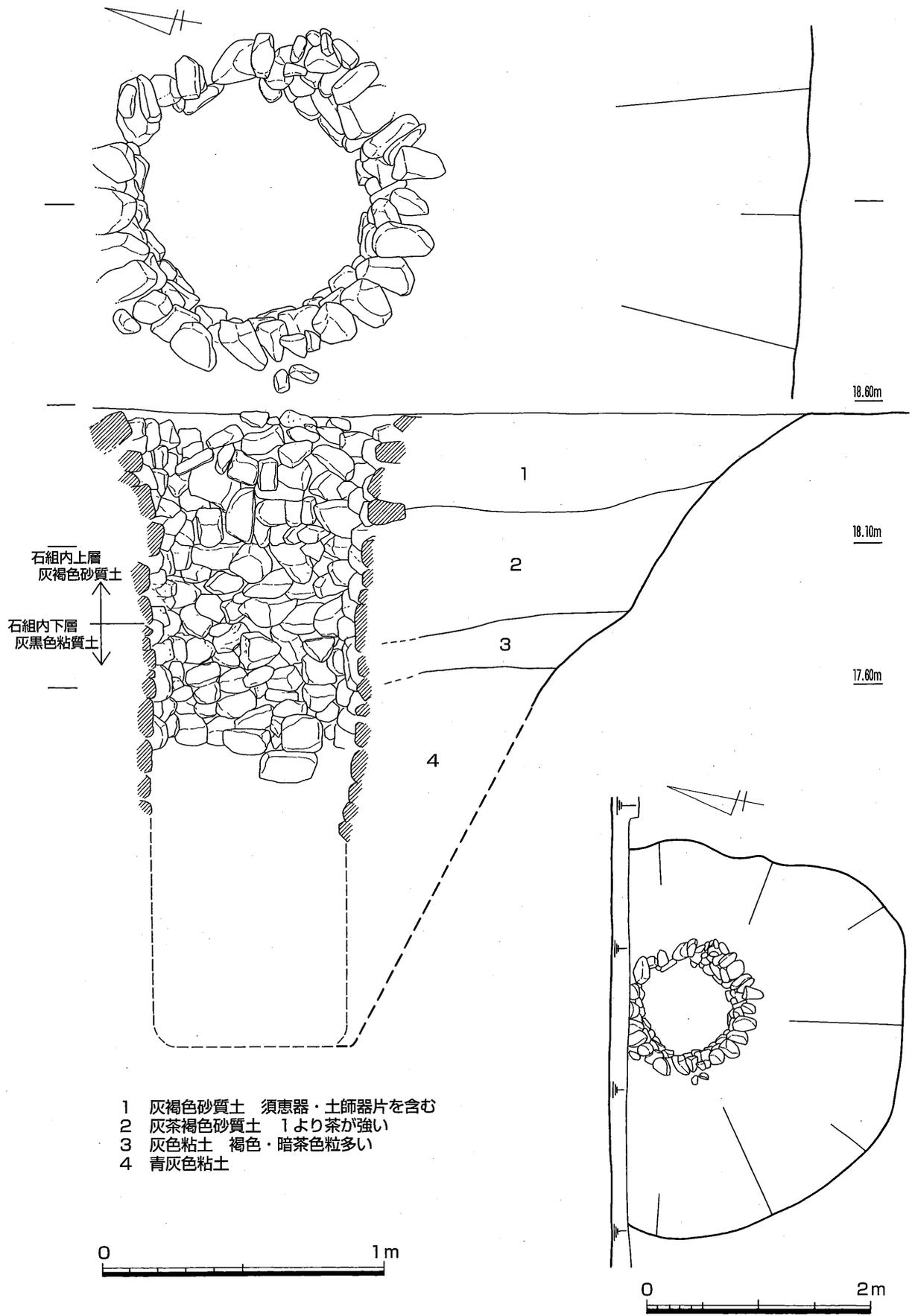
I-21区の西部で見出した土坑である。平面形は細長い楕円形で、長径1.2m、短径0.4m、深さ0.1mで浅くなっている。埋土は灰色粘質土の単一層である。遺物は出土していないが、埋土の土質から中世の遺構と考えられる。



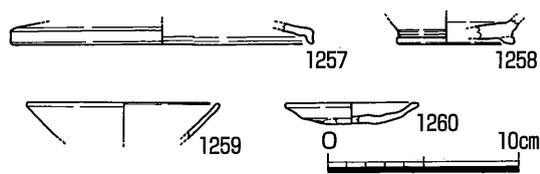
第226図 SK b 69平・断面図 (1/40)

井戸

SE b 01 (調査時遺構名：I-21区SE01、概報遺構名：SE05) (第



第227図 SE b01平・立・断面図 (1/20)、掘方平面図 (1/50)



第228図 SE b01出土遺物 (1 / 4)

227・228図)

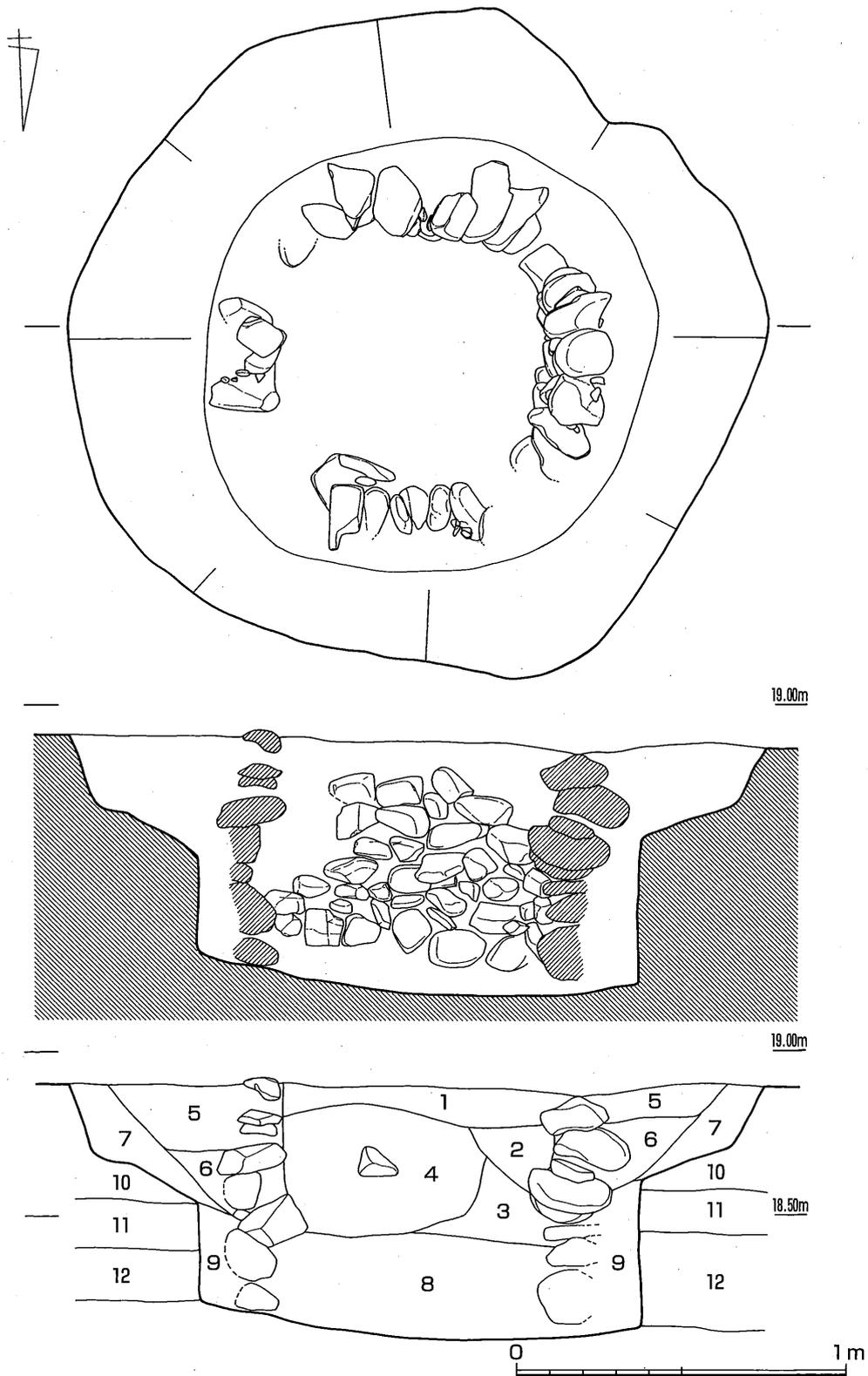
I - 21区の東部で検出した石組みの井戸である。掘り方は直径3.0~3.5mの円形であるが、北側は調査区境の部分で収束しており、検出されていない。上面から挿鉢状に掘削した後に石を円形に積み上げて井戸枠としている。検出面での石組みの内径は

1.0mであるが、少しずつ狭くなり0.4mほど下がると内径0.7mになり、そのまま底部に至る。石組みの崩壊の危険があったため底部の精査は行なっておらず、深さは推定で2.3mである。石組みは砂岩を中心とした川原石を使用しており、上部1.0mほどは0.1~0.15mほどの石材を特に大きさを揃えることなく小口積みしている。これより下部については幅0.2m、高さ0.1mほどの均質な石材を丁寧に積み上げている。石組み内の埋土は上下2層に大別され、検出面から0.75mの厚さの上層は灰褐色砂質土が堆積しており、古代の須恵器と土師器が出土している。この上層は自然堆積の状況が認められないことから、人為的に埋め戻されたと考えられる。一方下層には灰黒色粘質土が自然堆積しており植物片が多く認められたが、遺物は須恵器と土師器の微細なものが少量出土しただけである。掘り方に現れた地山の断面は、検出面から0.5m下がると灰紫色粗砂層になり、さらに0.3m下がった検出面から0.8m以下には小礫層が続いて行き、その小礫層が湧水層になると考えられる。石組みの裏込めには灰色系の砂質土と粘土を使用しており、その上部から鎌倉時代の瓦器が出土していることから、築造はこの時期以降と考えられる。

1257・1258は石組み内から出土した須恵器である。1257は杯蓋、1258は壺である。1259・1260は石組みの裏込め土から出土している。1259は土師器の杯である。1260は瓦器の小皿で、口縁部を強くナデており、体部下半から底部にかけての外面に指押さえが顕著で、その後にはナデている。

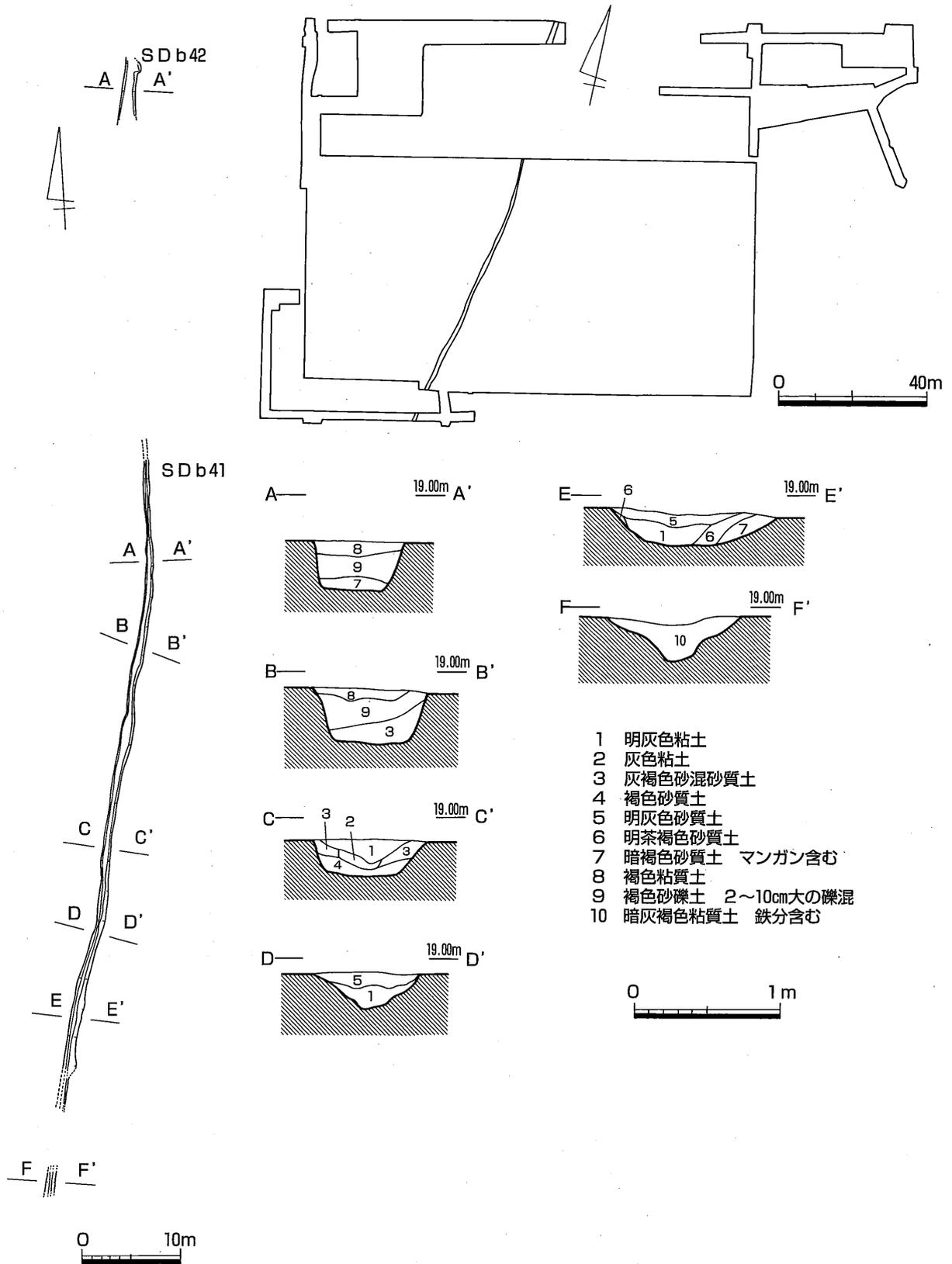
SE b02 (調査時遺構名：I - 2区SE01) (第229図)

I - 2区の南東部で検出した石組みの井戸である。掘り方は円形と隅丸方形の中間形態で、直径になると1.9~2.0mになる。南西側がやや湾曲している。検出面から0.3m前後段状に掘り込んだ後に垂直になって底部に至り、そこから石を円形に積み上げて井戸枠としている。石組みの内径は0.8mで、北東側と北西側を中心に石材が抜き取られている部分がある。深さは0.7mと浅く、石組みにして7段ほどである。石組みは砂岩を中心としたやや丸みを帯びた川原石を使用している。幅0.1~0.15mほどの石材を使用するが、積み方は雑な感じである。石組み内の埋土は、検出面から0.45mは褐色、黒褐色、暗灰色の粘土が入り混じり、埋め戻されたものと考えられる。この下の底部から0.25~0.3mは暗灰色粘土が自然堆積している。石組みの裏込めには茶褐色~暗褐色の粘質土と砂質土を使用している。検出面は砂礫層で、掘り方に現れた地山の断面によると、この砂礫層は厚さ0.3mほど堆積しており、そこから下部は粘土層になる。この砂礫層と粘土層との境が掘り方の屈曲部分に対応している。この砂礫層はI - 2区一帯に広がり、周辺の調査区の状況から埋没河川の中洲状の部分と考えられる。従ってこの砂礫層を掘削することによって水を集積することが可能になったため、浅い井戸でもその機能を果たしたものと考えられる。石組み内と石組みの裏込め土から、中世後半と考えられる土師質土器と陶器の微細な遺物が少量出土しているにすぎない。



- | | | | |
|-------------------------|-------------------------|---------------------|----------------------|
| 1 暗褐色礫混粘質土
2~5cm大の礫混 | 4 暗灰色礫混粘土
2~10cm大の礫混 | 7 暗褐色砂質土 | 10 灰褐色砂礫
2~3cm大の礫 |
| 2 褐色粘土 | 5 茶褐色粘質土 | 8 暗灰色粘土 | 11 黄褐色粘土 |
| 3 黒褐色粘土
粘性強い | 6 暗茶褐色粘質土 | 9 暗褐色砂質土
7よりやや粘質 | 12 灰茶色粘土 |

第229図 SE b02平・立・断面図 (1/20)



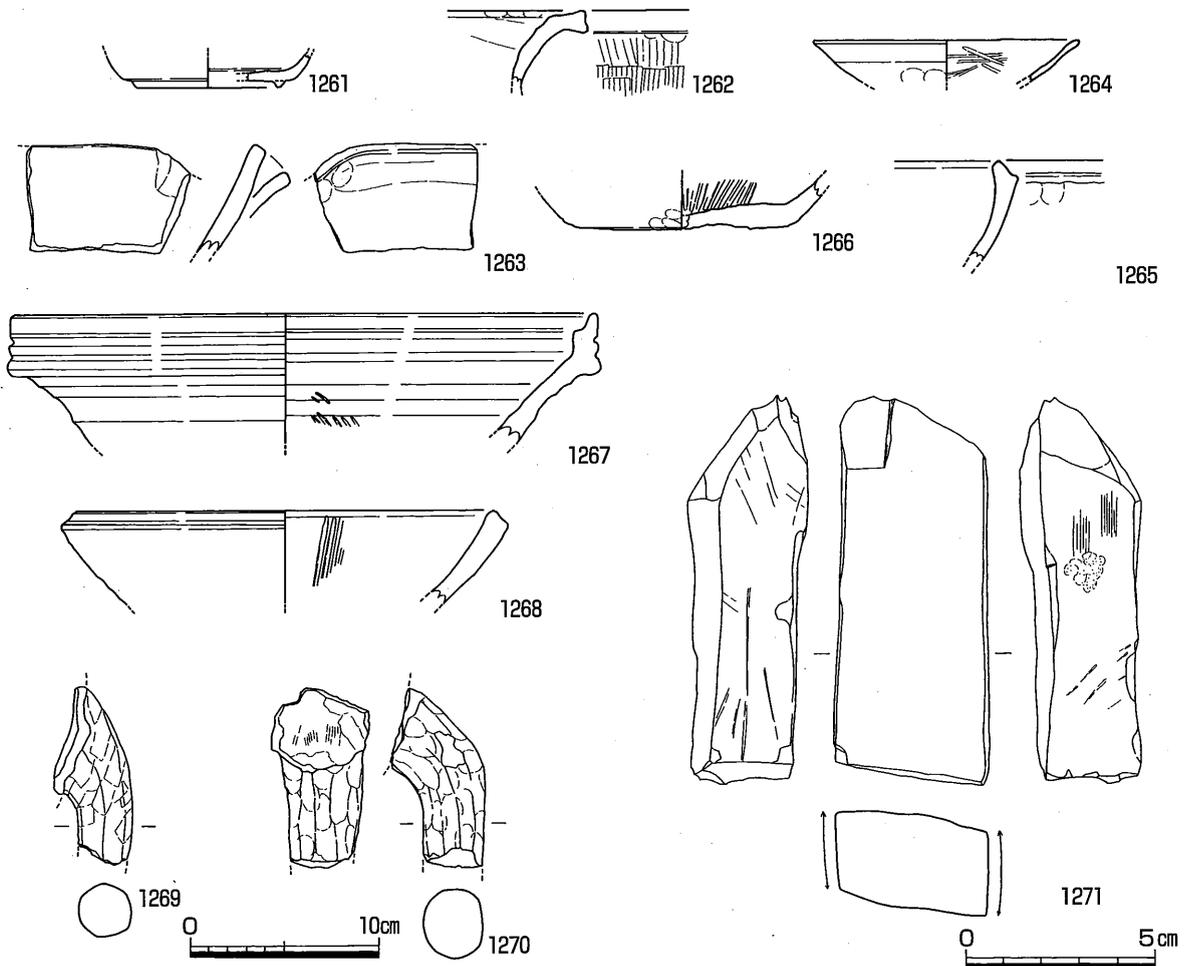
第230図 SDb41・42位置図 (1/1600)・平面図 (1/600)、SDb41断面図 (1/40)

溝

S D b 41 (調査時遺構名：I - 1・2区 S D 01、I - 21区 S D 05、概報遺構名：S D 09) (第230・231図)

I - 21区西部、I - 1区の南部からI - 2区北東隅にかけて検出した溝である。溝は全体に直線的で、方向はI - 21区からI - 2区の中ほどまではN - 13° ~ 14° - Eで、I - 2区の北東部になると北向きになりN - 2° - Eとなる。条里地割の方向に一致しており、全長77.0mになる。北側は32mほど離れるが後述するI - 19区のS D b 42に、さらに『空港跡地遺跡Ⅷ』で報告されたI - 7区のS D l 309に続いて行くものと考えられる。南側も同様に『空港跡地遺跡Ⅷ』で報告されたI - 5区のS D l 401に続いて行くものと考えられる。このことからS D b 41は空港跡地遺跡を南北に縦断する溝と言える。幅は0.4~1.4m、深さ0.25~0.38mである。掘り込みは溝の北側ほど急な部分が多くなっている。また底部は南側ほど狭い部分が多く、断面がV字形に近い箇所もある。埋土は灰色~褐色系の粘質土と砂質土が主体となっている。B、C、Eラインの断面図のように再掘削された状況も認められる。

1261は須恵器の杯である。1262は須恵器の壺で、口縁部外面には粗いハケ目を施している。焼成は悪く瓦質に近く、十瓶山産と思われる。1263は須恵器の鉢で、注ぎ口部分の破片である。1264は瓦器の椀で、内面にヘラミガキを施している。1265は土師質の土釜で、足釜になると思われる。1266・1268は土師質の播鉢で内面に卸し目がある。1267は備前焼の播鉢で、口縁部を上方に拡張している。内面は回転

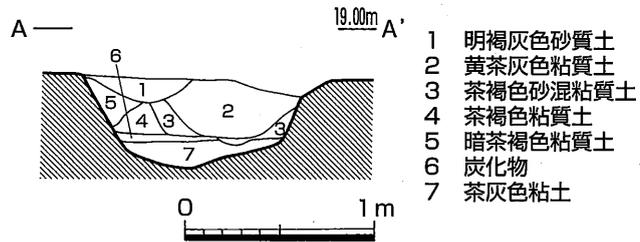


第231図 S D b 41出土遺物 (1 / 4、1 / 2)

ナデの後に卸し目を加えている。外面の口縁部下部には重ね焼きの痕跡が認められる。1270は土師質の足釜である。1271は安山岩製の砥石で、2面使用している。

SD b 42 (調査時遺構名：I-19区SD18) (第230・232図)

I-19区の西側の区画の東壁付近で検出した溝である。SD b 41の続きと考えられるが、途中で32mほどの未調査区を挟むため、別の遺構番号を付与した。溝の方向はN-12°-Eで、北側は『空港跡地遺跡Ⅷ』で報告されたI-7区のSD l 309に続いて行く。幅1.2~1.7m、深



第232図 SD b 42断面図 (1/40)

さ0.5mである。底部にはやや凹凸が認められ、埋土は茶褐色~茶灰色系の粘質土が中心で、部分的に炭化物が堆積していた。土層断面から再掘削された状況が認められ、再掘削された部分から近世の磁器が少量出土している。他の部分からは中世と考えられる微細な遺物が少量出土している。

SD b 43 (調査時遺構名：I-1区SD05、I-21区SD09) (第233図)

I-1区の南東部からI-21にかけて検出した溝で、西端部をSD b 41に壊されている。溝は西側で緩やかに湾曲しているが、方向は概ねN-72°-W前後でSD b 41にほぼ直交している。I-1区とI-21区の調査区境部分で若干の不整合となるが、これは遺構の検出面の微妙な高低差によるものである。東側は調査区外に続いて行く。検出部分で全長19.2m、幅0.3~0.9m、深さ0.05~0.16mである。東側ほど幅が狭くなり、浅くなっている。掘り込みは全体に緩やかで、埋土は灰色~茶褐色系の粘質土、砂質土が中心である。溝の西側ほど礫を含む部分が多くなっている。I-1区部分で微細な遺物が少量出土している。

SD b 44 (調査時遺構名：I-3区SD15) (第233・234図)

I-3区の南西部で検出した溝である。北東端をSD b 45に壊されている。西側が湾曲しているが、溝の方向は概ねN-54°-Eである。検出部分で全長2.2m、幅0.4~0.6m、深さ0.08mである。埋土は灰褐色粘質土の単一層である。

1272は土師器の小皿で、底部外面はヘラ切りである。この他に中世の須恵器を含む微細な遺物が少量出土している。

SD b 45 (調査時遺構名：I-3区SD16)

I-3区の南西部で検出した溝である。東側に湾曲している部分があるが、それ以外は直線的になっている。溝の方向は概ねN-82°-Wである。全長9.4m、幅0.3~0.6m、深さ0.1m前後である。埋土は灰褐色粘質土の単一層である。中世の須恵器を含む微細な遺物が少量出土している。

SD b 46 (調査時遺構名：I-21区SD13) (第233図)

I-21区の中央で検出した溝である。溝の方向はN-16°-Eで、南側は調査区外に続いて行く。検

出部分で全長0.9m、幅0.15~0.2m、深さ0.03mで非常に浅いものである。埋土は明灰色砂質土の単一層である。中世の土師器を含む微細な遺物が少量出土している。

SDb47 (調査時遺構名：I-21区SD19) (第233・234図)

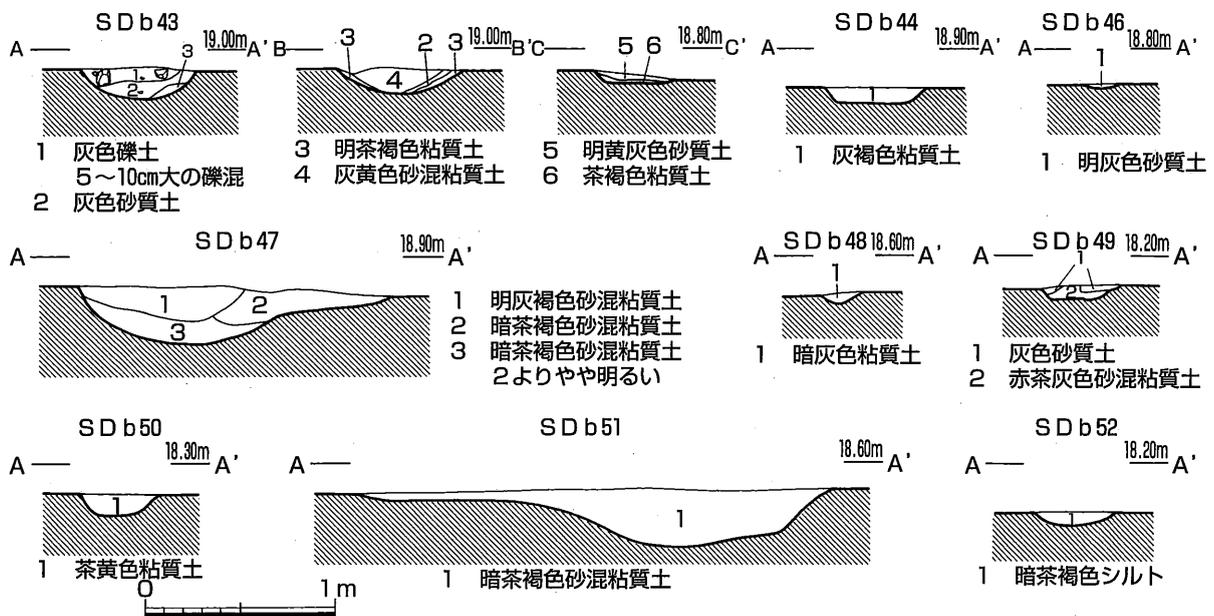
I-21区の東端部で検出した溝である。北端部はI-1区に僅かに見られ、南側は二又に分岐して調査区外に続いて行く。分岐部分の断面図によると、元々東側に流れていた溝を再掘削して西側に流れを変えていることが分かる。溝の方向は東側の流れでN-20°-E前後、西側の流れでN-40°-E前後である。検出部分で全長5.3m、幅0.5~1.8m、深さ0.3mであるが、西側の流れの深さは0.18mである。掘り込みは全体に緩やかで、埋土は西側の流れは明灰褐色砂混じり粘質土、東側の流れ及び溝の北側は暗茶褐色砂混じり粘質土である。

遺物の出土量は比較的多い。1273~1276は西側の流れに続く上層部分で出土している。1273・1274は土師器の小皿で、底部外面はヘラ切りである。1274の底部は上げ底で、体部立ち上がり部外面は段になっている。1275・1276は土師器の杯である。1275の底部外面はヘラ切りであるが、ヘラ状工具の木目が鮮明に残っている。またこの同じヘラ状工具によって体部下半部の外面をナデている。1277・1278は東側の流れに続く下層部分で出土している。両者とも十瓶山産の須恵器の椀で、1277の体部外面には間隔の開いた回転ヘラミガキを施している。

SDb48 (調査時遺構名：I-4区SD02) (第233・234図)

I-4区の南東部で検出した溝である。溝は直線的で、方向はN-14°-Eである。全長8.9m、幅0.2~0.4m、深さ0.05mである。埋土は暗灰色粘質土の単一層である。

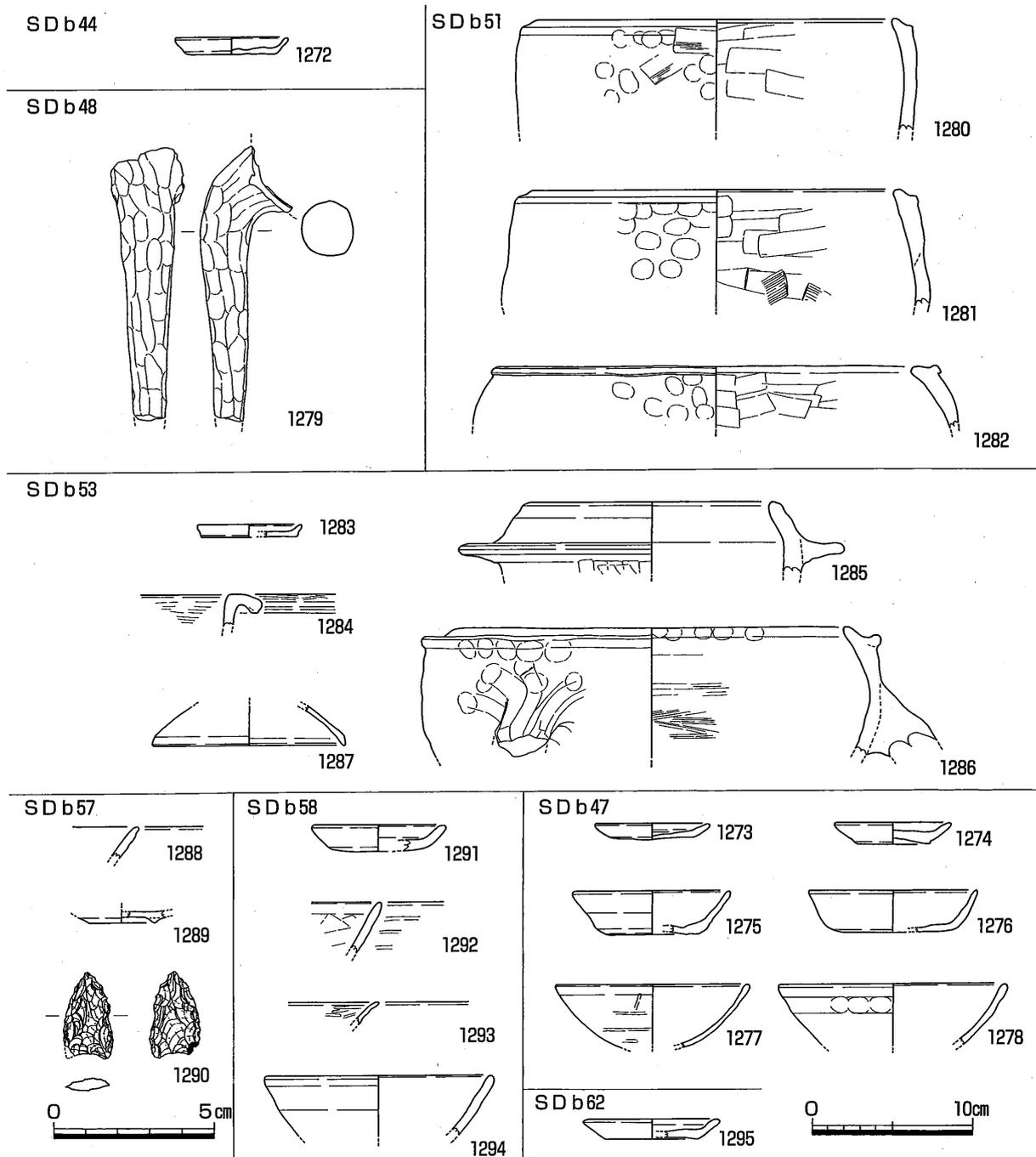
1279は土師質の足釜で、脚部には丁寧に面取りを行なっている。この他に微細な遺物が少量出土している。



第233図 SDb43・44・46・47・48・49・50・51・52断面図 (1/40)

SD b 49 (調査時遺構名：I-18区SD08) (第233図)

I-18区の東部の調査区屈曲部の壁際で検出した溝である。溝の一部は調査区外になり全体を検出出来ていない。溝の方向は概ねN-85°-Eである。全長2.0m、幅0.4m、深さ0.08mである。全体を検出出来ていないため、幅はもう少し広がる可能性もある。底部はやや凹凸が見られる。埋土は赤みを帯びた茶灰色砂混じり粘質土が主体となるが、部分的に灰色砂質土が堆積している。微細な遺物が少量出土している。



第234図 SD b 44・47・48・51・53・57・58・62出土遺物 (1/4、1/2)

S D b 50 (調査時遺構名：I - 18区 S D 09) (第233図)

I - 18区の東部で検出した溝である。西から東に向かって直線的に伸びており、調査区東壁付近で南東方向に屈曲してそのまま調査区外に続いて行く。また東端部で一部を近世の溝 S D b 65に壊されている。直線的な部分の溝の方向はN - 90° - Eと座標上での東西になる。屈曲した部分の方向はN - 35° - Wになっている。検出部分で全長9.7m、幅0.3~1.0m、深さ0.1mである。屈曲してから調査区壁際までの部分が幅広になっている。埋土は茶黄色粘質土の単一層である。古代から中世までの須恵器と土師器を含む微細な遺物が少量出土している。

S D b 51 (調査時遺構名：I - 18区 S D 02) (第233・234図)

I - 18区の西部で検出した溝である。全体的に不整形で特に西側が強く湾曲している。また調査区北壁付近で急激に幅が狭くなる。南北方向にそれぞれ調査区外に続いて行く。溝の方向は概ねN - 19° - Eである。検出部分で全長1.9m、幅1.2~3.0m、深さ0.3mである。西側がテラス状で浅く、東側に向かって下っており、溝の流れの中心は東半分にある。埋土は暗茶褐色砂混じり粘質土の単一層である。

1280~1282は土師質の土釜で、いずれも口縁部端部のやや下に僅かに隆起した突帯が巡っている。体部外面には指押さえが顕著で、内面には板ナデを施している。形態的に足釜になるものと考えられる。

S D b 52 (調査時遺構名：I - 19区 S D 17) (第233図)

I - 19区の東部で検出した溝である。溝の方向はN - 25° - Wで、南側は調査区外に続いて行く。検出部分で全長2.8m、幅0.4~0.6m、深さ0.07mである。埋土は暗茶褐色砂混じり粘質土の単一層である。中世の須恵器を含む微細な遺物が少量出土している。

S D b 53 (調査時遺構名：I - 19区 S D 15) (第234・235図)

I - 19区の東部で検出した溝である。溝の方向はN - 19° - Eで、北側は不明瞭になって途切れており、南側は調査区外に続いて行く。南側の延長には同じN - 19° - Eの方向になる S D b 51があり、位置的に見ても続きの溝になる可能性が高い。検出部分で全長3.6m、幅1.0~1.3m、深さ0.13mである。掘り込みは緩やかで、埋土は褐灰色礫混じり砂質土の単一層である。

1283は土師器の小皿で、底部からそのまま体部をつまみ出している。底部外面はヘラ切りである。1284は土師質の鍋で、内・外面にハケ目を施した後にナデている。1285は土師質の羽釜、1286は土師質の足釜である。1287は須恵器の杯蓋で混入品である。この他に中世の十瓶山産須恵器の椀を含む微細な遺物が出土している。

S D b 54 (調査時遺構名：I - 19区 S D 16) (第235図)

I - 19区の東部で検出した溝である。溝の方向はN - 2° - Eで、南北とも調査区外に続いて行く。検出部分で全長2.3m、幅1.0~1.4m、深さ0.35mである。掘り込みは全体的に急で、東側は段状になっている。埋土は褐色系の砂質土が主体となっている。中世の十瓶山産須恵器椀、土師質鍋を含んだ微細な遺物が少量出土している。

S D b 55 (調査時遺構名：I-20区S D 30) (第235図)

I-20区の西部で検出した溝で、東側は近世の溝S D b 63に壊されている。溝の方向はN-84°-Wで、西側は調査区外に続いて行く。検出部分で全長3.1m、幅0.25~0.4m、深さ0.08mである。埋土は灰褐色粘質土の単一層である。遺物は出土していないが、埋土の土質から中世の遺構と考えられる。

S D b 56 (調査時遺構名：I-20区S D 28) (第235図)

I-20区の北西部から南東部にかけて検出した溝である。溝の方向はN-81°-Wで、間に13mほどの未調査部分を挟んで東西で検出されたが、この東西の部分で方向と埋土の土質が同じであったため同一の溝と判断したものである。未調査部分の東側で全長15.8m、西側で2.9m、未調査部分を含んだ全体で31.5mになる。幅は0.3~1.3m、深さ0.05~0.24mである。I-20区中央の調査区壁際で不整形に広がっている部分がある。掘り込みは全体的に緩やかで、埋土は灰褐色砂質土の単一層である。中世の須恵器、足釜、青磁及び近世に下る可能性のある磁器を含む微細な遺物が出土している。S D b 56は調査区内で途切れるが、東側に延長するとI-4区で同規模の近世の溝が認められ、あるいは同一の溝の可能性もある。このことからS D b 56は中世後半から近世にかけて継続した可能性がある。

S D b 57 (調査時遺構名：I-20区S D 31) (第234・235図)

I-20区の南西部で検出した溝である。溝の方向はN-84°-Wで、東西は調査区外に続いて行く。南側の掘り込み部分の東半分は削平されている。検出部分で全長4.5m、幅1.2~1.4m、深さ0.16mである。底部には凹凸が認められる。埋土は上下2層に大別され、上層には明茶灰色粘土が、下層には褐色粘土が堆積している。

1288は須恵器の杯、1289は黒色土器B類の椀と考えられるが、あるいは瓦器が摩滅したものかも知れない。1290はサヌカイト製の凹基の石鏃で、混入品である。この他に中世の瓦器椀を含む微細な遺物が少量出土している。

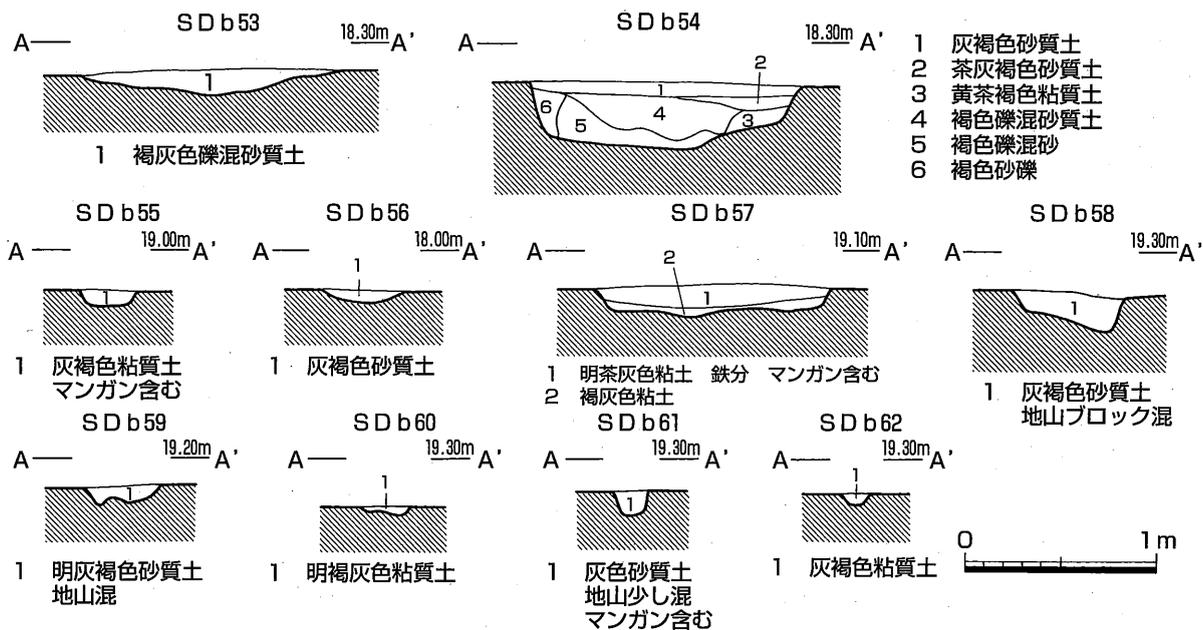
S D b 58 (調査時遺構名：I-21区S D 02) (第234・235図)

I-21区の西部で検出した溝である。溝の方向はN-13°-Eで、北側は調査区外に続いて行くが、南側は不明瞭になっている。また南東側は一部調査区外になっている。検出部分で全長4.2m、幅0.4~0.6m、深さ0.18mである。掘り込みは急で、底部は東に向かって下っており東下端が最も深くなっている。埋土は灰褐色砂質土の単一層である。

1291は土師器の小皿で、底部外面はヘラ切りである。1292は十瓶山産の須恵器の椀である。体部外面に間隔の開いたヘラミガキを施している。1293は瓦器の椀で、内面にヘラミガキを施している。細片であるが和泉型の可能性が高い。1294は土師器の杯であるが、あるいは椀になるかも知れない。

S D b 59 (調査時遺構名：I-21区S D 03) (第235図)

I-21区の西部で検出した溝である。溝の方向はN-78°-Wで、東西とも調査区外に続いて行く。検出部分で全長5.0m、幅0.3~0.5m、深さ0.1mである。底部には凹凸が認められ、埋土は明灰褐色砂質土の単一層である。古代の須恵器と土師器を含む微細な遺物が出土しているが、後述する中世の溝S D b 60を壊していることから、S D b 59は中世の遺構と考えられる。



第235図 SD b 53・54・55・56・57・58・59・60・61・62断面図 (1/40)

SD b 60 (調査時遺構名: I-21区SD04) (第235図)

I-21区の西部で検出した溝で、中央部分をSD b 59に壊されている。溝の方向はN-2°-Eで、南北とも調査区外に続いて行く。検出部分で全長2.0m、幅0.3~0.4m、深さ0.05mである。底部は東に向かって下っており、埋土は明褐灰色粘質土の単一層である。中世の黒色土器、瓦器を含む微細な遺物が少量出土している。

SD b 61 (調査時遺構名: I-21区SD22) (第235図)

I-21区の西部で検出した溝である。溝の方向はN-85°-Wである。全長0.8m、幅0.17m、深さ0.13mと小規模な溝である。掘り込みは急で、埋土は灰色砂質土の単一層である。中世の瓦器碗を含む微細な遺物が少量出土している。

SD b 62 (調査時遺構名: I-21区SD24) (第234・235図)

I-21区の西部で検出した溝である。溝の方向はN-83°-Wで、東端部が急激に幅広になり膨らんでいる。全長1.6m、幅0.15~0.6m、深さ0.06mである。埋土は灰褐色粘質土の単一層である。

1295は土師器の小皿である。体部は直線的で、底部外面はヘラ切りである。この他に中世の十瓶山産黒色土器、土師器を含んだ微細な遺物が少量出土している。

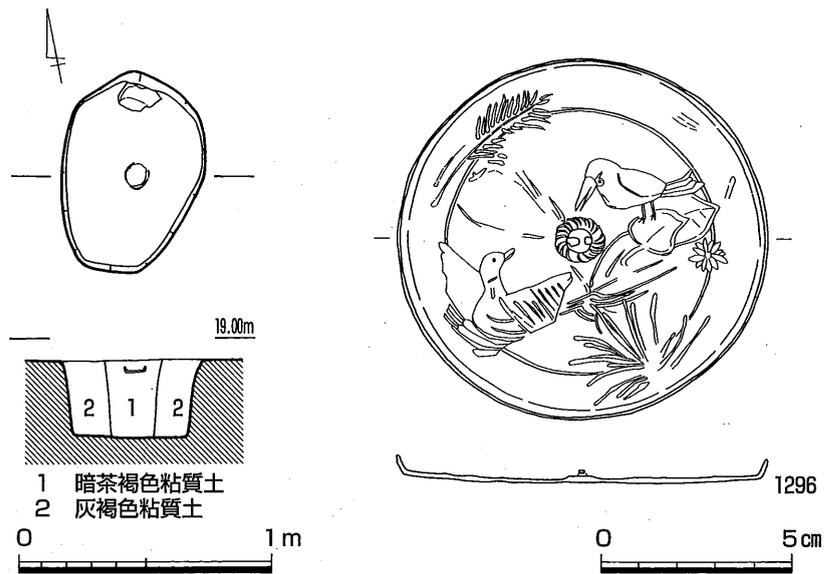
柱穴・小穴

SP b 17 (調査時遺構名: I-1区SP39) (第236図)

I-1区の中央やや南寄りで検出した柱穴である。平面形は楕円形で、長径0.8m、短径0.55m、深さ0.3mである。埋土は灰褐色粘質土の単一層で、中央には暗茶褐色粘質土の柱痕が認められた。埋土の最上部の北端には0.15mほどの塊石が置かれていた。また柱痕部分の最上部から鏡背を上にして銅鏡が

1面出土した。

1296は銅製の和鏡である。直径9.6cm、厚さ0.2cmである。縁は0.4cmほど上方に立ち上がっている。鏡背の縁から1.0～1.2cm内側には円形の圏線が巡っている。中央には円形の紐があり、振菊座を形成している。その周りには草花とともに水鳥と思われる2羽の鳥が描かれており、1羽は飛翔しており、残りの1羽



第236図 SP b 17平・断面図 (1/30)、出土遺物 (1/2)

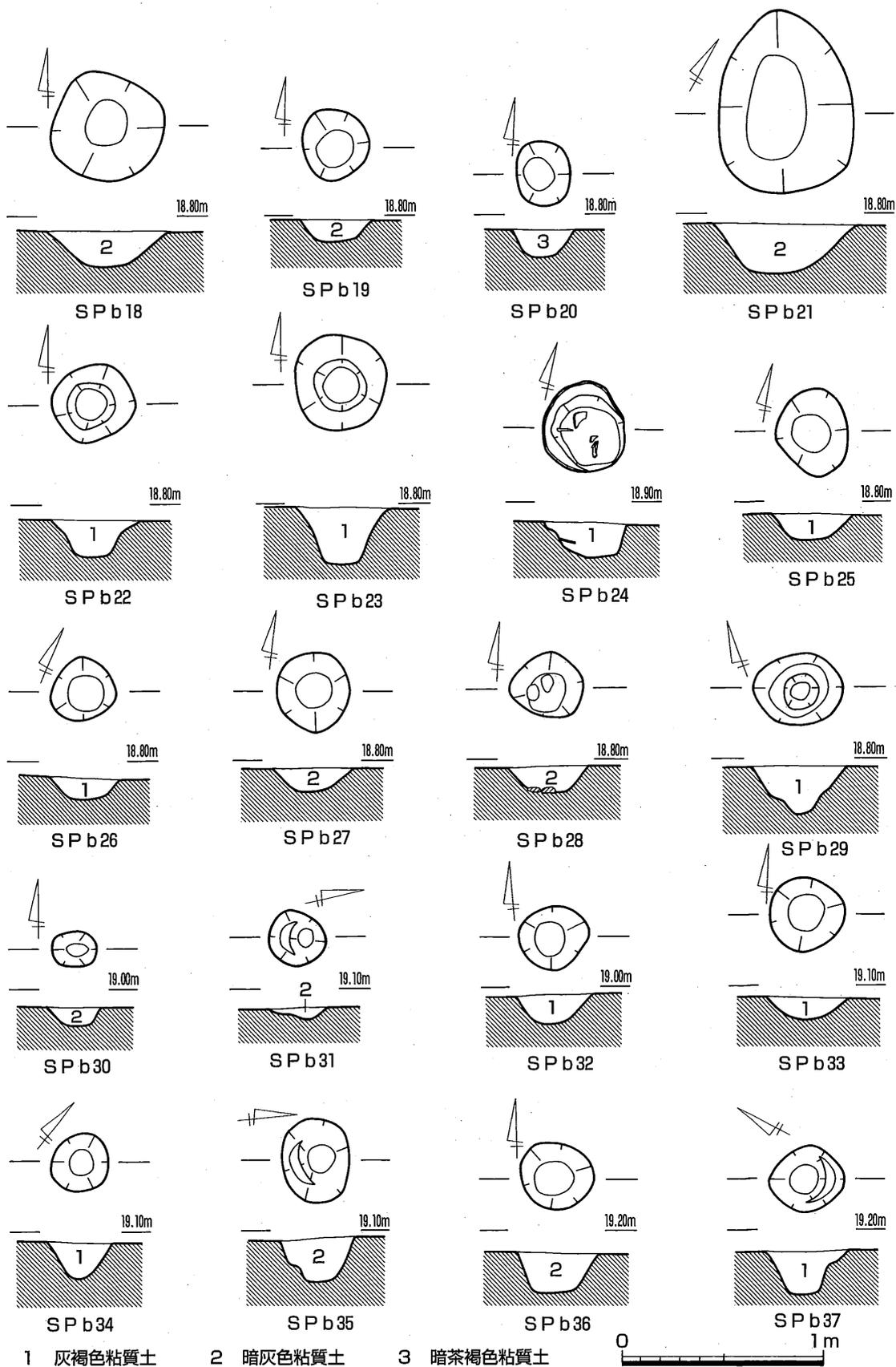
は葉の上に乗っている。鳥が水鳥とすれば水辺双鳥鏡と考えられる。平安時代後半から鎌倉時代初頭頃の所産と考えられる。

SP b 18～SP b 37 (第237・238・240図)

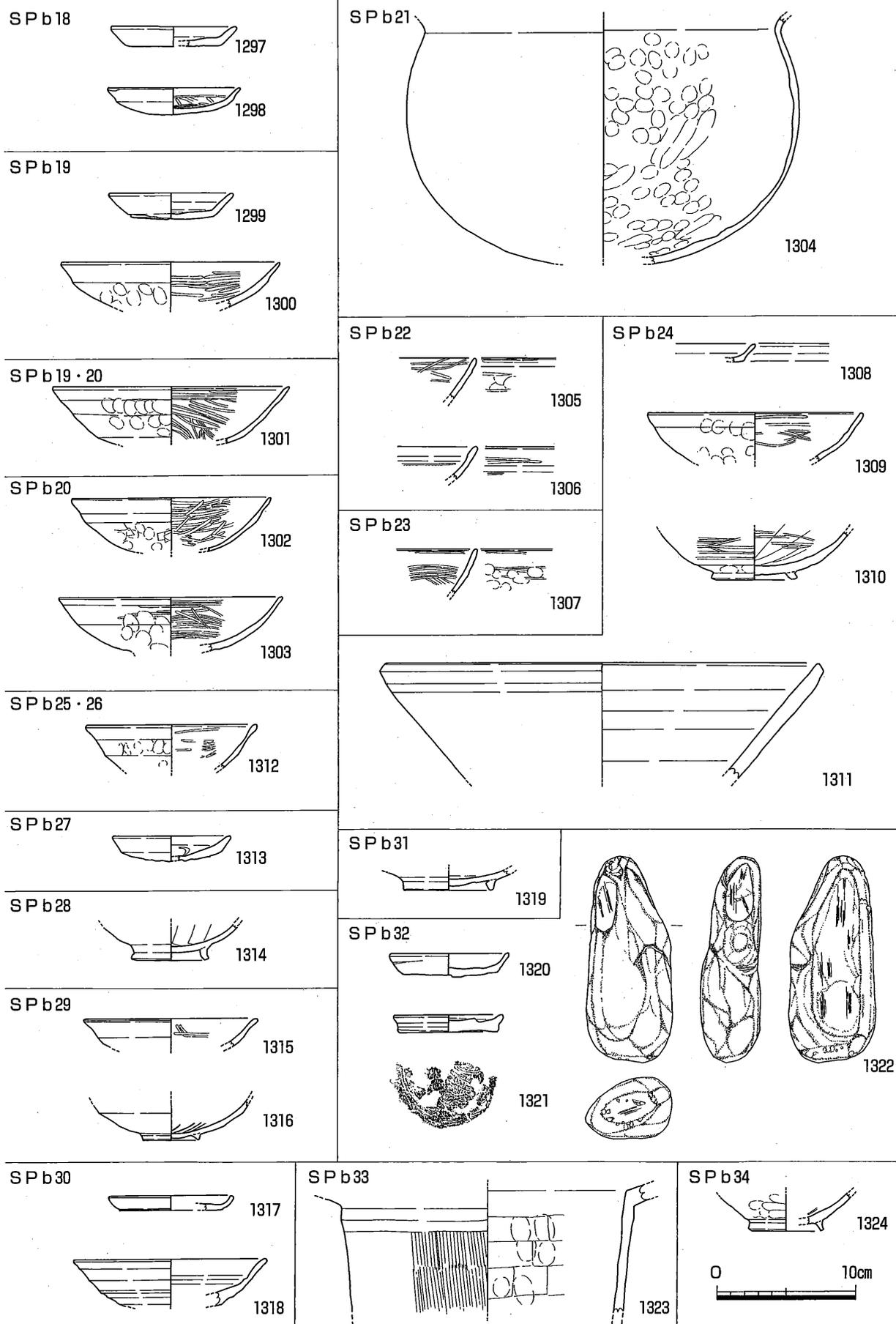
調査時の遺構名は以下のとおりである。SP b 18: I-1区SP10、SP b 19: I-1区SP11、SP b 20: I-1区SP12、SP b 21: I-1区SP14、SP b 22: I-1区SP16、SP b 23: I-1区SP20、SP b 24: I-1区SP21、SP b 25: I-1区SP44、SP b 26: I-1区SP45、SP b 27: I-1区SP47、SP b 28: I-1区SP51、SP b 29: I-1区SP57、SP b 30: I-1区SP66、SP b 31: I-1区SP73、SP b 32: I-1区SP76、SP b 33: I-1区SP85、SP b 34: I-1区SP86、SP b 35: I-1区SP90、SP b 36: I-1区SP92、SP b 37: I-1区SP95。

平面形は円形のものが多いが、隅丸方形に近いものもある。埋土は灰褐色粘質土と暗灰色粘質土などの灰色系の粘質土が中心になるが、SP b 20のように暗茶褐色粘質土のものもある。

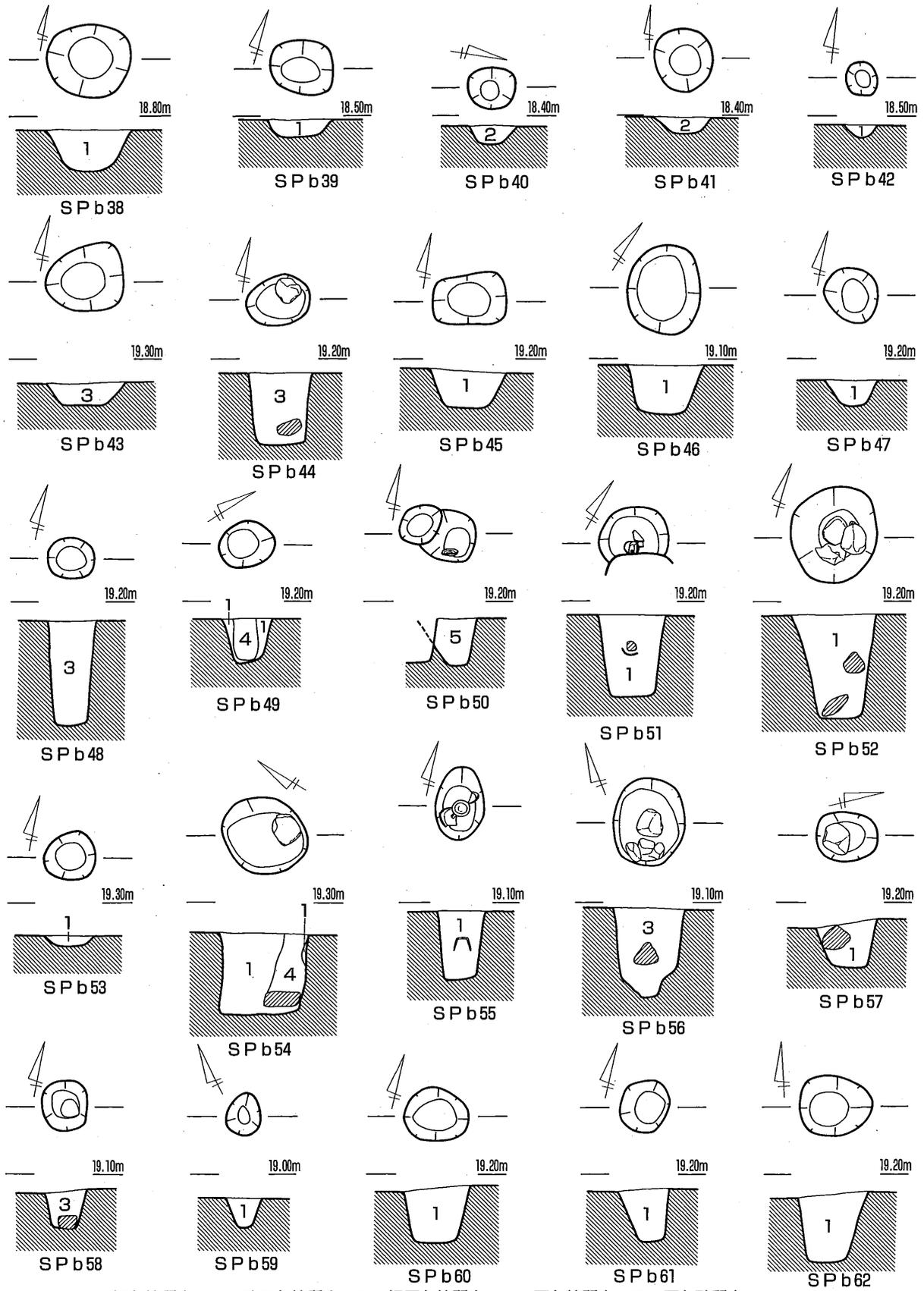
これらの遺構から第238・240図の遺物が出土している。1297は土師器の小皿で、底部外面はヘラ切りである。1298は瓦器の小皿である。口縁部をナデており、内面は見込み部に間隔のあいた直線のヘラミガキを、体部内面にも横及び斜めにヘラミガキを施している。1299は土師器の小皿で、底部外面にはヘラ切りの後に板状圧痕を施している。1300～1302は瓦器の椀であるが、炭素の吸着は弱く須恵器に近い色調である。口縁部を強くナデており、体部外面には指押さえが顕著である。内面にはヘラミガキを施している。いずれも和泉型と考えられる。1301はSP b 19とSP b 20から出土した破片が接合している。1303は十瓶山産須恵器の椀である。体部外面に回転ナデを施した後にヘラミガキを加えて、体部下半には指押さえでも整形している。内面は全体にヘラミガキを施している。1304は土師器の甕である。体部は扁平で、外面は摩滅しているが内面には指押さえが顕著である。古代後半の所産と考えられるが、出土したSP b 21はこの他に中世の微細な遺物が少量出土している。1305は十瓶山産須恵器の椀、1306は黒色土器B類の椀である。1307・1309は瓦器の椀で和泉型である。1310は十瓶山産須恵器の椀で、体部内・外面にヘラミガキを施す。底部には外側に踏ん張る高台が巡っている。1311は須恵器の鉢で、



第237圖 SP b 18~37平・断面図 (1/30)



第238図 SP b 18~34出土遺物 (1/4)



1 灰褐色粘質土 2 暗灰色粘質土 3 褐灰色粘質土 4 灰色粘質土 5 灰色砂質土

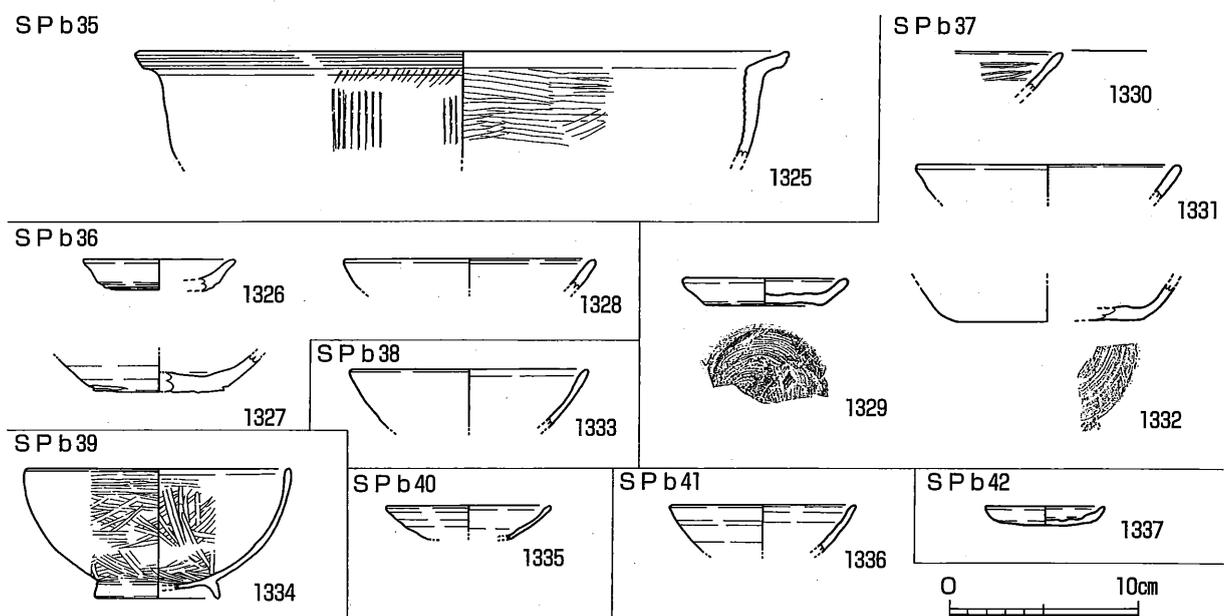


第239圖 SP b 38~62平·断面圖 (1/30)

口縁部付近の回転ナデは強い。1312は土師器の椀で、口縁部は回転ナデで、体部外面には指押さえを行っている。内面にはヘラミガキが僅かに認められる。吉備系の可能性がある。SP b 25とSP b 26から出土した破片が接合している。1313は土師器の小皿で底部外面はヘラ切りである。また内面見込み部にもヘラ切り痕があり、この部分を最後にナデている。ロクロ上でヘラ切りにより小皿を切り離した粘土塊を、そのまま使用して成形していることが分かる。1314は十瓶山産須恵器の椀で、底部には外反する厚手の高台を貼り付けている。1315・1316は瓦器の椀で、1315は口縁部を強くナデている。1316は内面見込み部に暗文というべき細いヘラミガキが直線的に間隔を開けて施されている。1317は土師器の小皿である。1318は土師器の杯で、回転ナデを施している。1319は十瓶山産須恵器の椀で、底部外面はヘラ切りである。また内面見込み部にはヘラ切りをナデ消したような痕跡がある。1320は土師器の小皿で、底部外面はヘラ切りの後に板状圧痕を加えている。またロクロ上で体部を作り出した時に体部が欠損したため補修した痕跡が認められる。1321は土師器の小皿で、底部外面は糸切りである。内面見込み部は盛り上がりっており板ナデを施している。ロクロ上の粘土塊から連続して小皿を作成していると考えられ、この板ナデは粘土塊に残った前段階の糸切り痕を消すためのものと考えられる。1322は砂岩製の砥石である。1323は土師器の甕、1324は黒色土器A類の椀で内面にヘラミガキが僅かに残っている。古代に遡る可能性が高い。1325は土師質の鍋で、内・外面に粗いハケ目を施している。1326は土師器の小皿、1327・1328は土師器の杯である。1329は土師器の小皿で、底部外面は糸切りの後に板状圧痕を加えている。内面見込み部には糸切りではなくヘラ切り痕が認められ、粘土塊からの切り離しに2種類の工具を使用している。1330は和泉型と考えられる瓦器の椀である。1331は土師器の椀、1332は土師器の杯で底部外面は糸切りである。

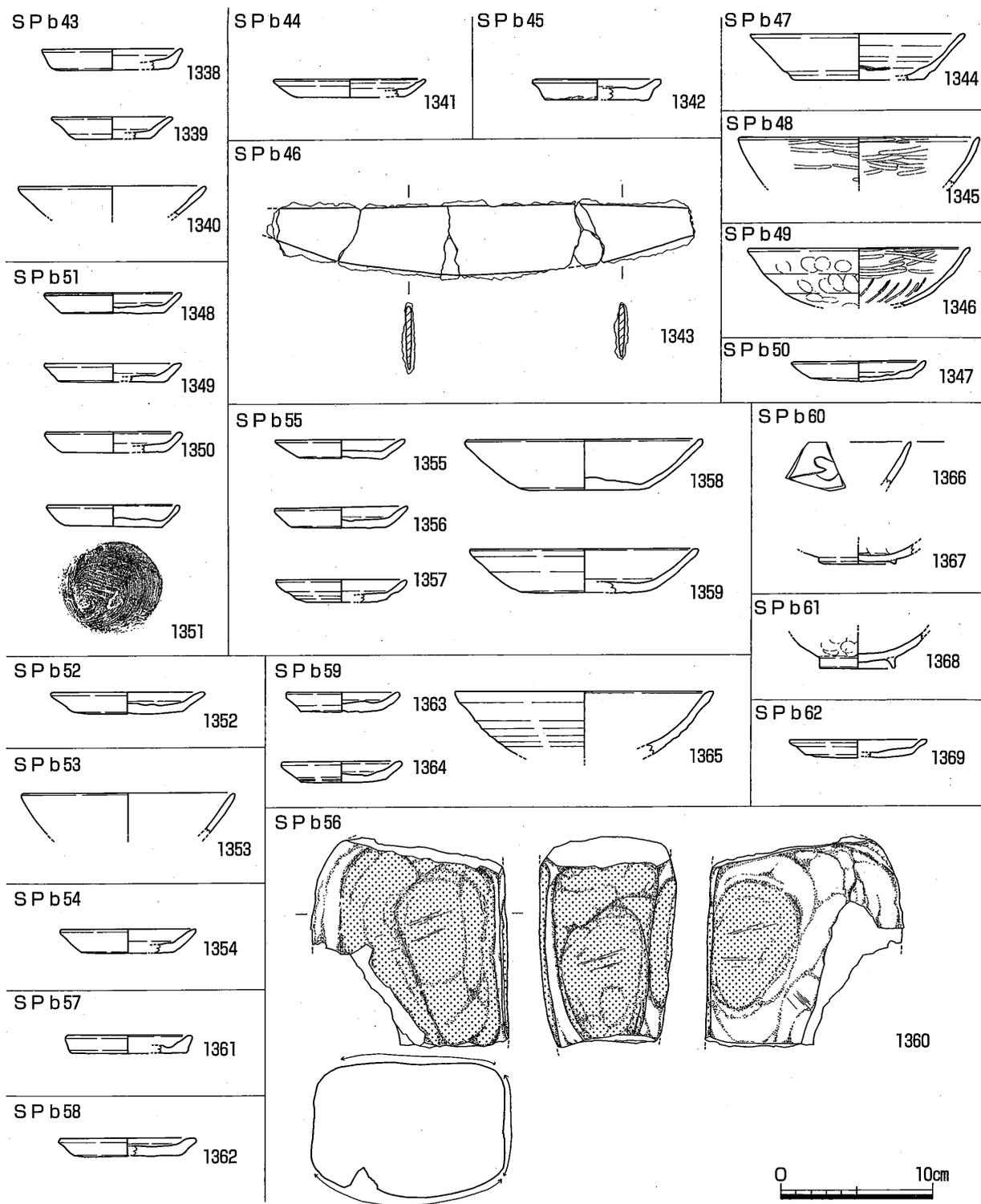
SP b 38～SP b 62 (第239～241図)

調査時の遺構名は以下のとおりである。SP b 38: I-3区SP29、SP b 39: I-4区SP42、SP b 40: I-4区SP53、SP b 41: I-4区SP81、SP b 42: I-4区SP96、SP b 43: I-21区



第240図 SP b 35～42出土遺物 (1 / 4)

SP03、SPb44：I-21区SP06、SPb45：I-21区SP08、SPb46：I-21区SP31、SPb47：I-21区SP33、SPb48：I-21区SP37、SPb49：I-21区SP39、SPb50：I-21区SP47、SPb51：I-21区SP53、SPb52：I-21区SP57、SPb53：I-21区SP61、SPb54：I-21区SP65、SPb55：I-21区SP70、SPb56：I-21区SP68、SPb57：I-21区SP66、



第241図 SPb43~62出土遺物 (1/4)

S P b 58: I - 21区 S P 82、S P b 59: I - 21区 S P 95、S P b 60: I - 21区 S P 116、S P b 61: I - 21区 S P 123、S P b 62: I - 21区 S P 136。

平面形は円形のものが多いが、隅丸方形のものもある。埋土は灰色系の粘質土が中心となる。S P b 44・51・52・54・56・57・58では根石が認められる。またS P b 51・55・59からは 完形もしくはそれに近い土師器の小皿がまとまって出土しているのが注目される。

これらの遺構から第240・241図の遺物が出土している。1333は須恵器の椀で回転ナデを施している。1334は黒色土器B類の椀である。体部は全体に内湾しており、内・外面にヘラミガキを施している。11世紀中頃～後半の中世初頭の時期と考えられる。1335は土師器の小皿であるが、体部中央付近には回転ナデの施されていないナデ残しの部分がある。1336は土師器の椀である。口縁部の内・外面に部分的に炭化物が付着している。1337～1339は土師器の小皿である。いずれも底部外面はヘラ切りである。1340は土師器の杯である。1341・1342は土師器の小皿で、底部外面は糸切りである。1343は鉄刀であるが、刀身と茎部の境界が不明瞭である。1344は土師器の杯で、内面の体部立ち上がり部付近にハケ目が施されている。1345は十瓶山産の黒色土器A類の椀で、口縁部外面にも炭素が吸着している。体部内・外面にはヘラミガキを施している。1346は和泉型の瓦器椀である。口縁部を強くナデており、体部内面にはヘラミガキを施すが、下半は平行線の細いヘラミガキで暗文状になる。1347～1352・1354～1357は土師器の小皿である。1350・1351の底部外面は糸切りで、1351はその後に板状圧痕を加えている。1355の底部外面はヘラ切りの後に板状圧痕を加えるが、1本の沈線状になっている。1357の体部下半の回転ナデは強くなっている。1358・1359は土師器の杯である。1358は底部中央が肥厚している。1360は砂岩製の砥石で3面使用している。1361～1364は土師器の小皿である。1361の底部外面は糸切りである。1362の口縁部は膨らみ歪んでいる部分がある。1363は体部内面の立ち上がり部を強くナデている。口縁部の回転ナデが体部下半の回転ナデに先行している。1365は黒色土器A類の椀で、体部外面には回転ナデの凹凸が明瞭に残っている。内面は摩滅している。1366は青磁の椀である。1367は十瓶山産須恵器の椀である。断面三角形の小さな高台を貼り付けている。1368は土師器の椀であるが、内面は焼成不良により黒色になっている。高台の形状などから吉備系と考えられる。1369は土師器の小皿である。体部の強い回転ナデのため、口縁部は外反している。底部外面はヘラ切りの後にナデている。

不明遺構

S X b 09 (調査時遺構名: I - 1 区 S X 02) (第242・243図)

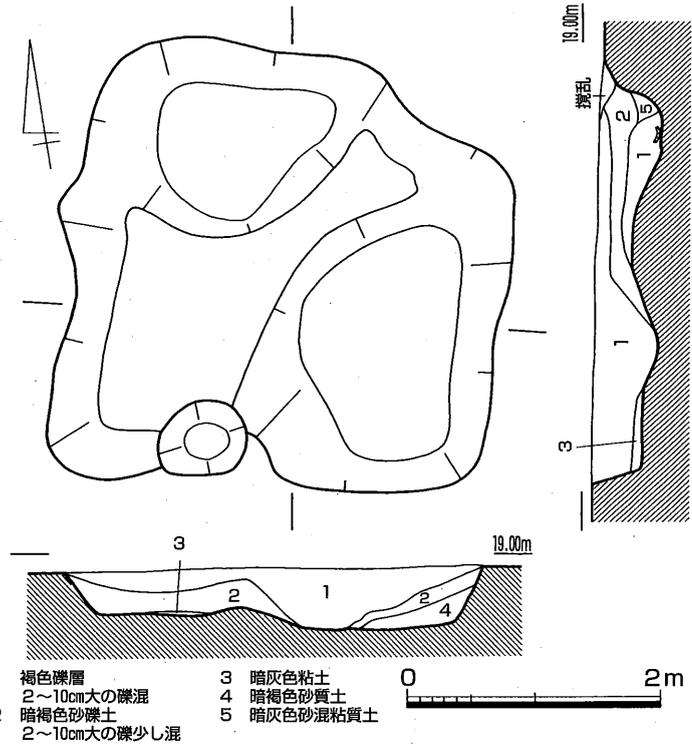
I - 1 区の中央部で検出した遺構である。平面形は一辺3.4mの方形であるが、北東側が内側に入り込んである。南側も小穴に壊されている部分が内側に入り込んでいる。深さは0.5mで、底部は凹凸が著しく、北西側と南東側が深くなり中央が島状に盛り上がっている。埋土は褐色～暗褐色の砂礫が中心で、特に上層に2～10cm大の礫が多く含まれている。

1370は土師質の土釜で、その形態から足釜になるものと考えられる。1371は最上部で出土した磁器である。足高の高台を持つ肥前系の広東碗である。1372・1373は玉縁式の丸瓦である。1372の凹面には布目が認められ、部分的にヘラケズリを施した後にナデている。1373は玉縁付近に円形の穿孔が認められる。凸面は板ナデ、凹面はヘラケズリとナデを施している。1374は角礫凝灰岩製の石臼である。上臼で下面の作業面は摩滅しており、臼の目の溝は認められない。側面の穿孔は本来は貫通していないが、後

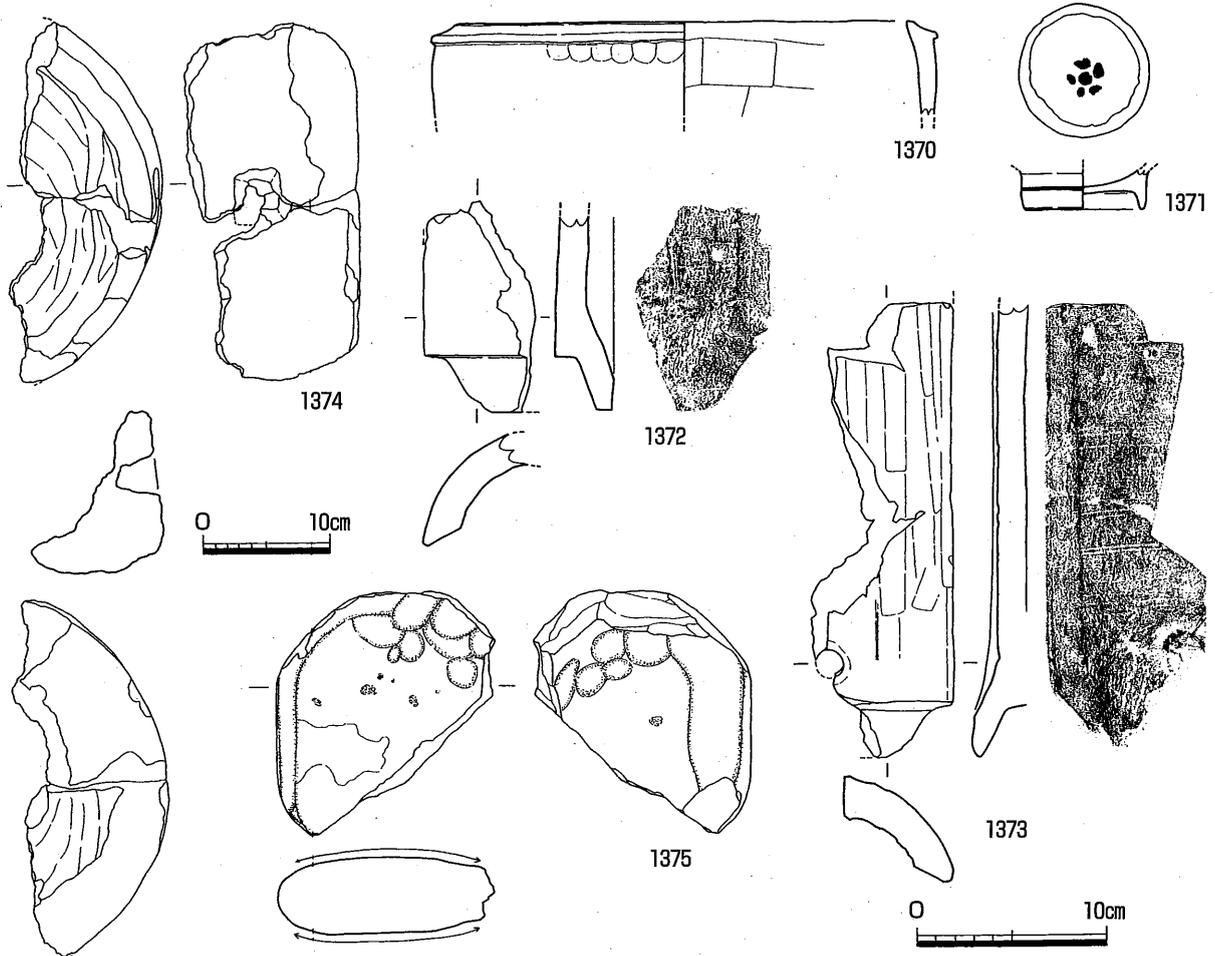
の破損により貫通している部分がある。1375は砂岩製の砥石で、2面使用している。被熱して黒変している。近世に下る遺物も少量ながら認められるが中世後半の遺物も多いため、この中世の遺構の箇所を報告しておく。

S X b 10 (調査時遺構名: I - 2区 S X 02) (第244図)

I - 2区の北西部の調査区西壁際で検出した遺構である。平面形は直径0.8m前後の円形で、深さ0.12mである。周囲に沿って幅0.2~0.3mの砂岩を中心とした川原石と一部凝灰岩を敷き並べており、中央にはやや小振りな石で充



第242図 S X b 09平・断面図 (1/60)



第243図 S X b 09出土遺物 (1/6、1/4)

填している。埋土は暗灰色粘土の単一層である。石組み炉に似るが、炭化物や焼土は認められない。遺物は出土していないが、周辺遺構や埋土の土質から中世後半から近世にかけての遺構と思われる。

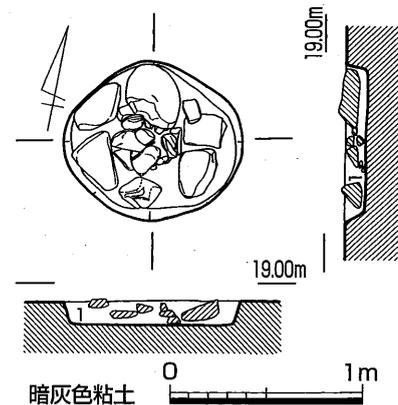
S X b 11 (調査時遺構名：I - 2区 S X 01) (第245図)

I - 2区の中央やや北寄りで見出した遺構である。平面形は直径1.25~1.4mの円形で、深さ0.85mである。埋土は暗茶褐色粘土の単一層で、その最上層には0.15~0.2mほどの砂岩を中心とした川原石を円形に敷き並べている。井戸の石組みに似るが、特に小口面を揃えたりすることなく乱雑である。円形に敷き並べた内側は0.15mほど皿状に窪み、同様の石で充填している。その中央部には五輪塔の部材が据えられている。土坑を掘削した後に埋め戻し、石によって封印しているようである。その中心に五輪塔の部材があることは、葬送儀礼的な意味合いがあるのかも知れない。

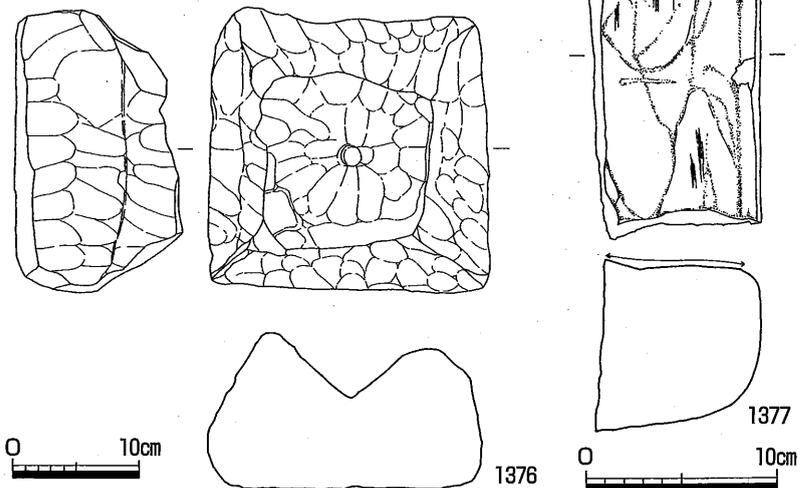
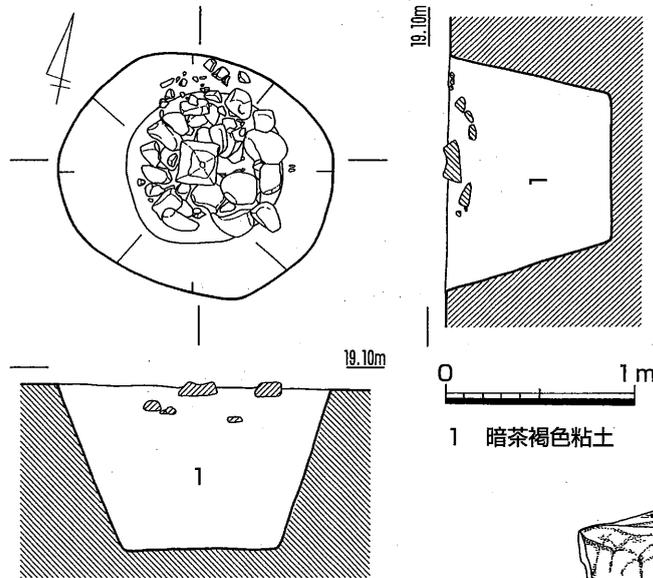
1376は凝灰岩製の五輪塔の火輪の部分である。上部に断面三角形のほぞ孔があり、側面部は反りがなく平坦である。1377は砂岩製の砥石で、1面が使用されている。石敷きの一部として並べられていた。

S X b 12 (調査時遺構名：I - 2区 S X 03) (第246図)

I - 2区の中央やや西寄りで見出した遺構である。平面形は方形であるが、西側は丸みを帯びており、逆に東側は内湾している。南北方向3.1m、東西方向3.1m、深さ0.45mである。底部の北側には円形の小穴が認められる。断面図によると中央やや北寄りに黄褐色粘土の盛り上がりがある



第244図 S X b 10平・断面図 (1/40)

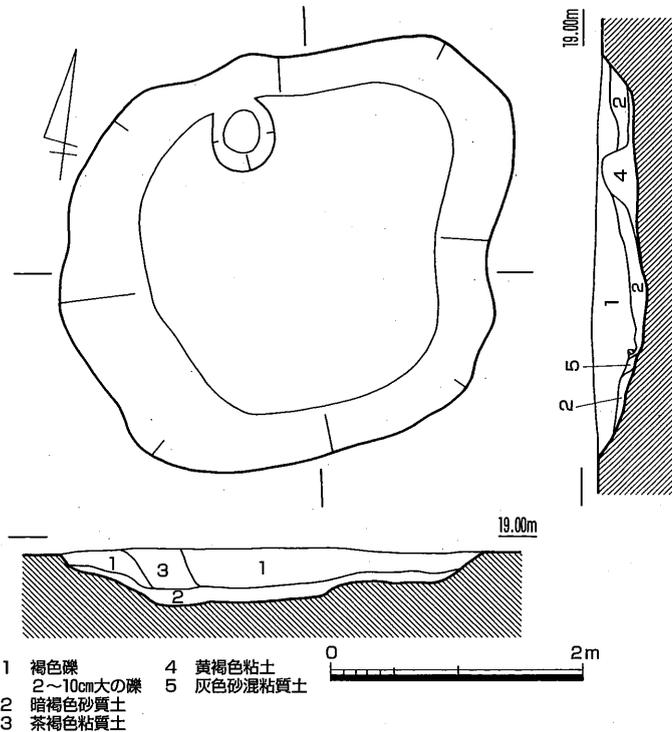


第245図 S X b 11平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/6、1/4)

るが、おそらく地山の掘り残し部分と考えられ、本来はこの隆起部分を挟んで南北に大きく掘り込みを行っていたと考えられる。埋土は上下2層に大別され、上層は褐色礫、下層は暗褐色砂質土が堆積している。遺物は出土していないが、周辺遺構や埋土の土質から中世後半から近世にかけての遺構と思われる。

S X b 13 (調査時遺構名：I - 2区 S X 04) (第247・248図)

I - 2区の南東部で検出した遺構である。東側は同じ中世の溝 S D b 41に壊されており、埋没後には近世の S X b 19が築かれている。平面形は検出部分で方形であるが、北西側は屈曲して内側に入り込んでいる。南北方向5.55m、東西方向は検出部分で4.15m、深さ0.24mである。底部は平坦であるが僅かに南から北に向かって下っている。埋土は上下2層に大別され、上層は褐色礫混じり粘質土、下層は褐色砂質土が堆積している。



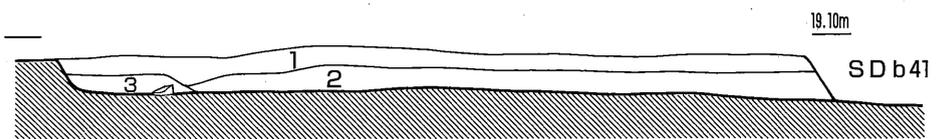
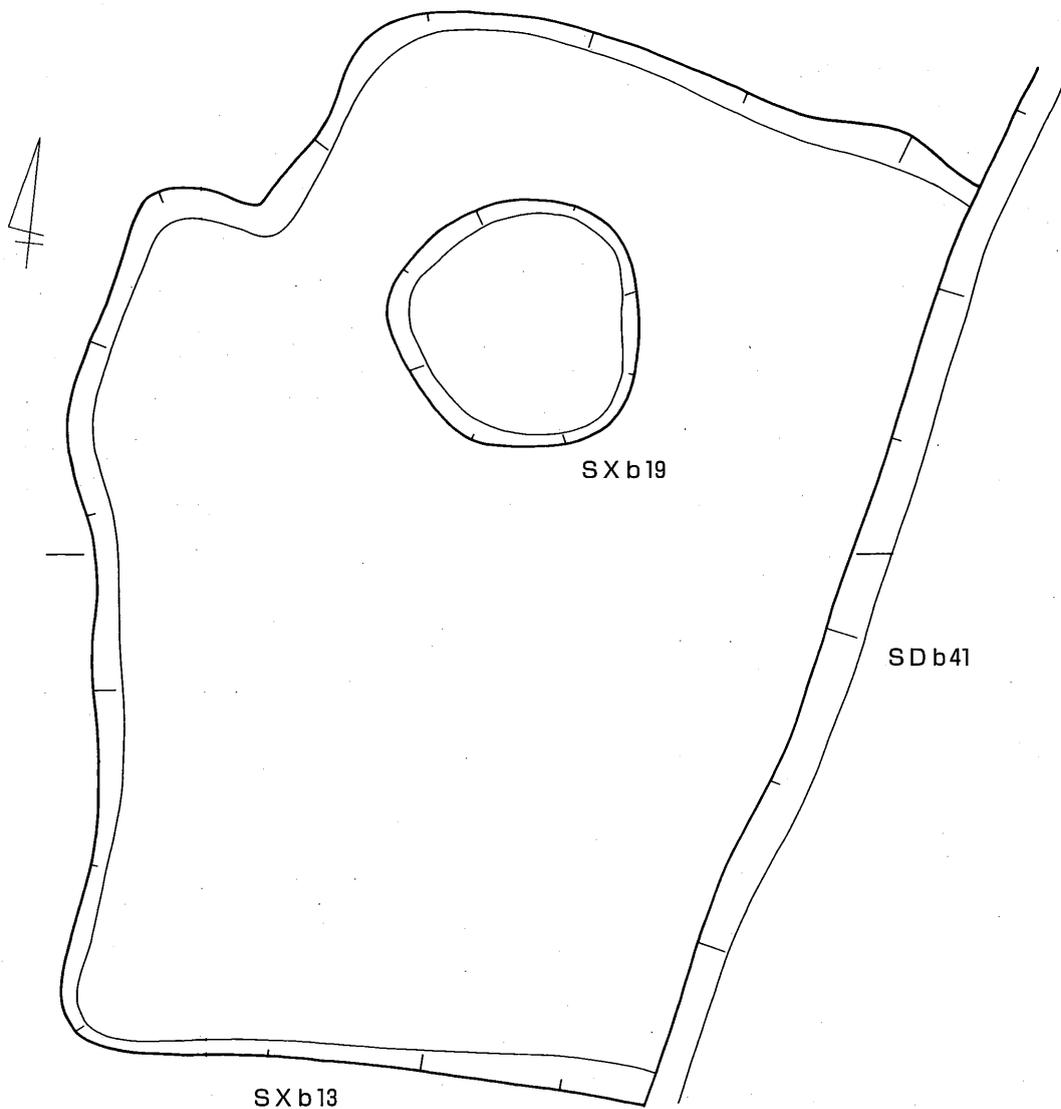
1378は十瓶山産須恵器の椀と考えられるが、外面は炭素が吸着している部分が多く瓦器に似ている。体部外面には間隔の開いたヘラミガキを、内面にはハケ目を施している。1379は土師質の土釜で、その形態から足釜になるものと考えられる。1380・1381は土師質の鍋である。把手部分に斜めの穿孔がある。1382は土師質の播鉢で、体部外面には指押さえが顕著である。1383は土師質の甕で大型品である。1384は青磁の碗で、内面見込み部に施文している。1385は肥前系陶器の刷毛目碗で、刷毛で流れるように施文している。

第246図 S X b 12平・断面図 (1/60)

一部に近世の遺物を含むが、これは近世の S X b 19からの混入と考えられ、S D b 41より古い時期の中世の遺構と考えられる。

S X b 14 (調査時遺構名：I - 4区 S X 02) (第249図)

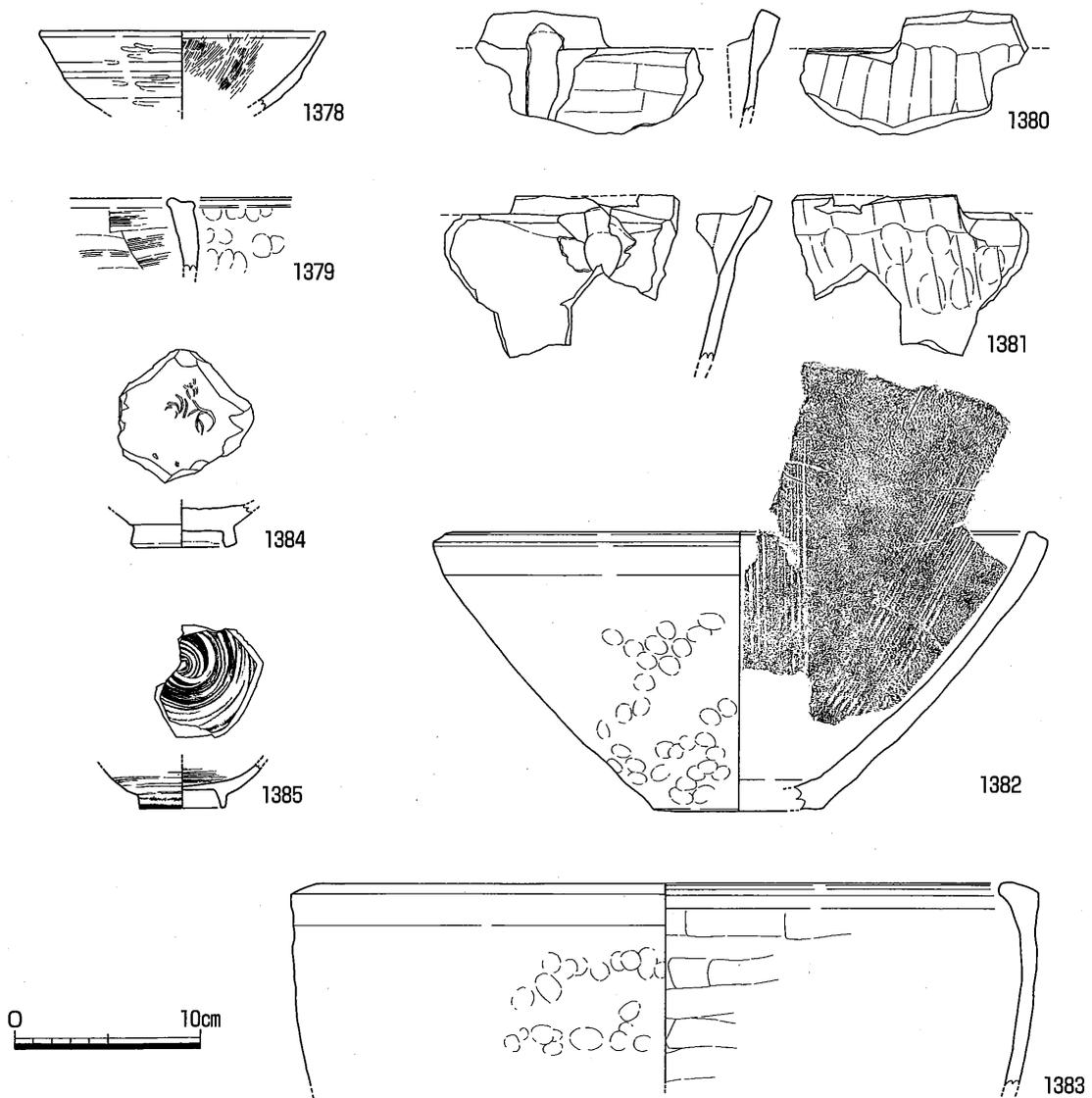
I - 4区の南部で検出した遺構で竪穴住居跡に似ている。平面形は隅丸の方形で、南北方向2.05m、東西方向2.4m、深さ0.06mである。床面の東側と南側には幅0.15~0.2m、深さ0.04mと非常に浅い溝が巡っている。また床面の中央やや西寄りには不整形な土坑が1基ある。土坑は南北方向1.15m、東西方向0.8m、深さ0.06mで埋土は暗灰色粘質土の単一層である。この土坑を囲むように4基の柱穴がある。遺構の規模や削平を考えたとしても非常に浅い造りであることなどから、通常の竪穴住居跡とは考えにくい。この S X b 14全体を取り囲む1間×1間の建物である S B b 21は、先に述べたように S X b 14の覆屋と考えられる。すると床面で検出した土坑を取り囲む4基の柱穴は、竪穴住居のような支柱穴では



- 1 褐色礫混粘質土 2~5cm大の礫混
- 2 褐色砂質土
- 3 暗灰褐色砂質土



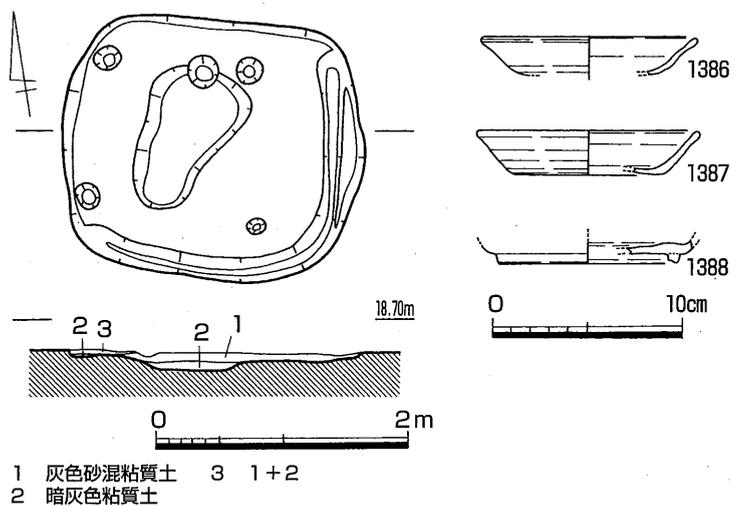
第247図 SX b 13平・断面図 (1/40)



第248図 S X b 13出土遺物 (1 / 4)

なく、土坑に関連する施設のものではないかと思われる。S B b 21と併せて簡易な工房のような建物を想定しておくが、製作に関連するような遺物は出土していない。

1386・1387は土師器の杯である。1386の体部は僅かに外反している。1387の底部外面は大部分が欠損しているものの、ヘラ切りの後の板状圧痕が認められる。1388は混入した古代の須恵器の杯である。この他に微細な遺物が少量出土している。

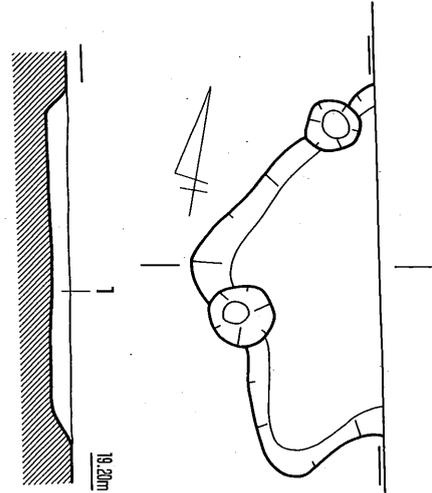


第249図 S X b 14平・断面図 (1 / 60)、出土遺物 (1 / 4)

S X b 15 (調査時遺構名: I-21区 S X 01) (第250図)

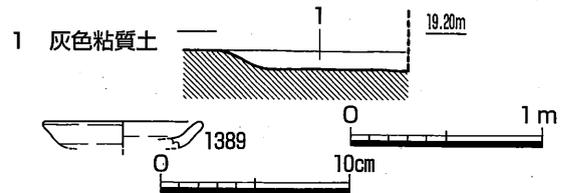
I-21区の西部の調査区壁際で検出した遺構である。東側は調査区外に続いて行くため全体形は不明である。検出部分での平面形は不整形で、南北方向1.85m、東西方向1.0m、深さ0.1mである。埋土は灰色粘質土の単一層である。

1389は土師器の小皿である。この他に中世の土師器、須恵器、瓦器を含む微細な遺物が少量出土している。



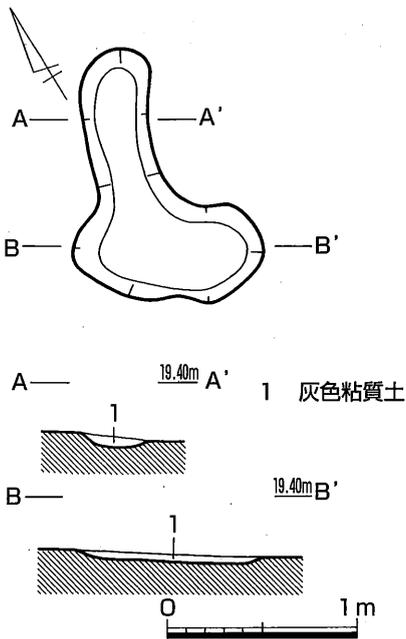
S X b 16 (調査時遺構名: I-21区 S X 02) (第251図)

I-21区の西部で検出した遺構である。平面形は不整形で、北東側に細長く突出している。この北東側の突出部分を含めた北東-南西方向で1.35

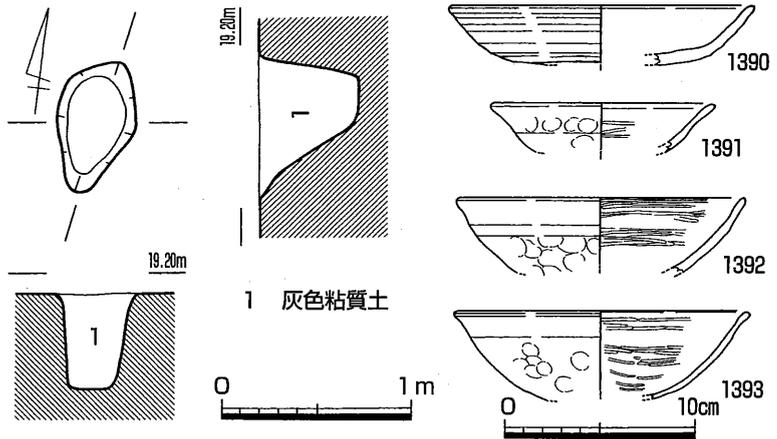


第250図 S X b 15平・断面図(1/40)、出土遺物(1/4)

m、北西-南東方向で1.0m、深さ0.06mである。埋土は灰色粘質土の単一層である。遺物は出土していないが、埋土の土質から中世の遺構と考えられる。



第251図 S X b 16平・断面図(1/40)



第252図 S X b 17平・断面図(1/40)、出土遺物(1/4)

S X b 17 (調査時遺構名: I-21区 S X 03) (第252図)

I-21区の西部で検出した遺構で、S X b 16の東側に隣接している。平面形はやや歪んでいるが楕円形に近い。南北方向0.72m、東西方向0.42m、深さ0.5mである。平面の規模の割には深く、掘り込みも垂直に近づいている。埋土は灰色粘質土の単一層である。

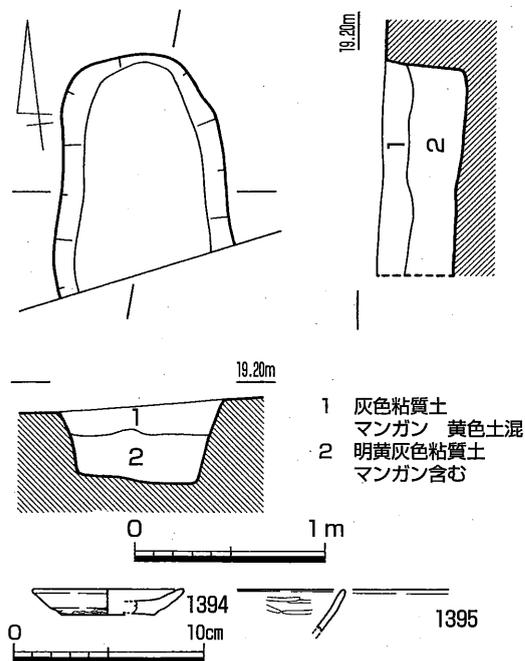
1390は土師器の杯である。体部には回転ナデによる凹凸が顕著である。1391~1393は瓦器の椀で、いずれも和泉型である。1391は細片を図化したため、口径に若干の誤差があるかも知れない。口縁部は強

くナデており、体部の指押さえも強い。1393・1394も口縁部を強くナデており、体部下半には指押さえが顕著である。体部内面にはヘラミガキを施している。

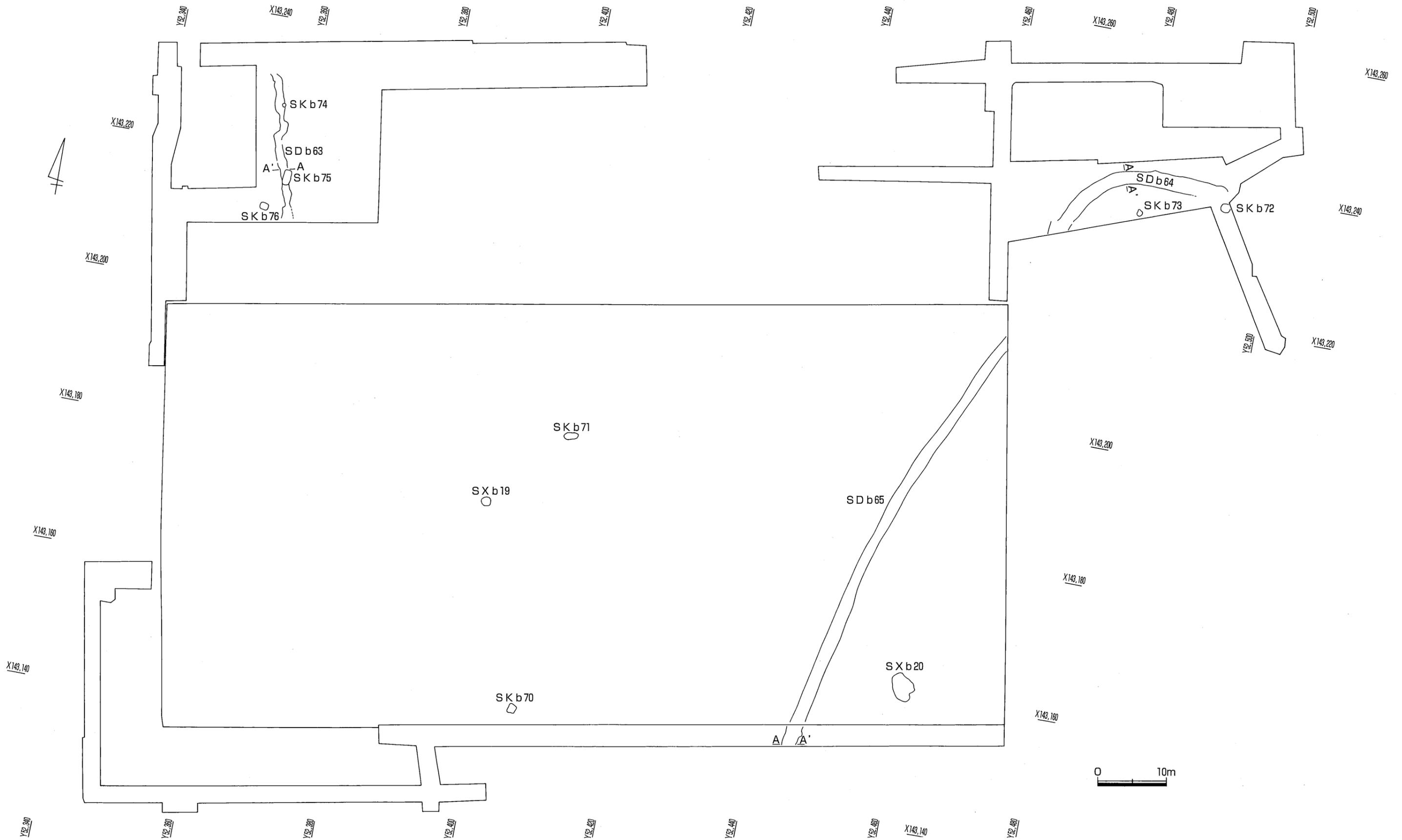
S X b 18 (調査時遺構名：I - 21区 S X 04) (第253図)

I - 21区の西部で検出した遺構で、南側は調査区外に続いて行く。平面形は検出した部分で北側が丸みを帯びているものの概ね方形である。長辺は検出部分で1.14m、短辺0.95m、深さ0.4mである。掘り込みは全体に急である。埋土は上下2層に大別され、上層は灰色粘質土、下層は明黄灰色粘質土が堆積している。

1394は土師器の小皿で、体部外面の下半には工具の当たった跡が顕著である。底部外面はヘラ切りである。1395は瓦器の椀で、口縁部はナデているが、体部は調整していない。内面には僅かにヘラミガキが認められる。和泉型と思われる。



第253図 S X b 18平・断面図(1/40)、出土遺物(1/4)



第254図 空港跡地遺跡遺構配置図 (近世) (1/500)

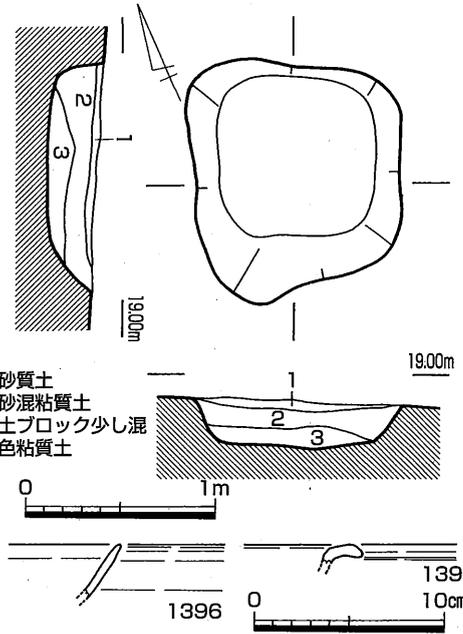
第5節 近世の遺構・遺物

土坑

SKb70 (調査時遺構名: I-1区SK03) (第255図)

I-1区の南東部の調査区南壁付近で検出した土坑である。平面形は方形であるが、南西側が少し突出している。一辺1.05m、深さ0.25mである。南西側の掘り込みは緩やかで、北東側は急になっている。埋土は3層に分かれ、上層には茶灰色砂質土が、中層・下層には茶褐色～暗茶褐色の粘質土が堆積している。

1396は古代の須恵器の杯である。1397は瓦質の焙烙で、口縁部を強くナデている。この他に微細な遺物が少量出土している。



- 1 茶灰色砂質土
- 2 茶褐色砂混粘質土
- 3 灰色粘土ブロック少し混
- 暗茶褐色粘質土

第255図 SKb70平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

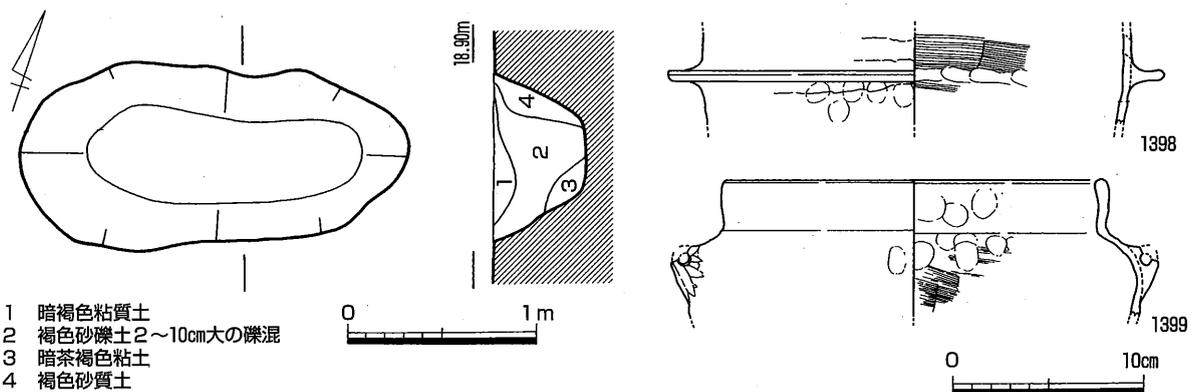
SKb71 (調査時遺構名: I-2区SK01) (第256図)

I-2区の東部で検出した土坑である。平面形は楕円形で、長径2.05m、短径1.0m、深さ0.5mである。埋土は褐色系の粘質土と砂礫土が中心になっている。

1398は土師質の羽釜で、内面にはハケ目を施している。1399は土師質の茶釜で、体部の上部に穿孔を施した耳形の把手を貼り付けている。

SKb72 (調査時遺構名: I-18区SK03) (第257図)

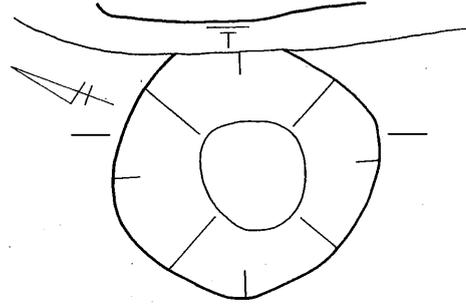
I-18区の東部で検出した土坑で、東側が僅かに調査区外になっている。平面形は一辺1.3mの隅丸方形で、深さは0.45mである。断面は丸みを帯びており、埋土は褐灰色系の粘質土と砂質土が中心になっているが、最下層には黄茶褐色砂が薄く堆積している



- 1 暗褐色粘質土
- 2 褐色砂礫土2~10cm大の礫混
- 3 暗茶褐色粘土
- 4 褐色砂質土

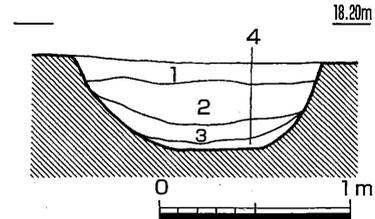
第256図 SKb71平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

1400は陶器の鉢で、口縁部は真横に屈曲しており上面は平坦になっている。体部外面には竹管の小口を軽く押し当てて中央部を盛り上がらせたような円形の突出部分が多数ある。



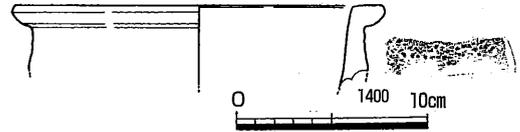
SKb73 (調査時遺構名：I-18区SK07) (第258図)

I-18区の南壁際のやや東寄りで検出した土坑である。平面形は不整形で、北側が突出気味である。南北方向0.95m、東西方向0.9m、深さ0.13mである。底部は平坦で、埋土は茶褐色粘質土の単一層である。



- 1 明褐色砂質土 濃茶色粘質土層混
- 2 褐色粘質土 鉄分含む
- 3 褐色粘土
- 4 黄茶褐色砂 3よりやや暗い

1401は瓦質の焙烙で、口縁部は短く屈曲して肥厚している。この他に微細な遺物が少量出土している。



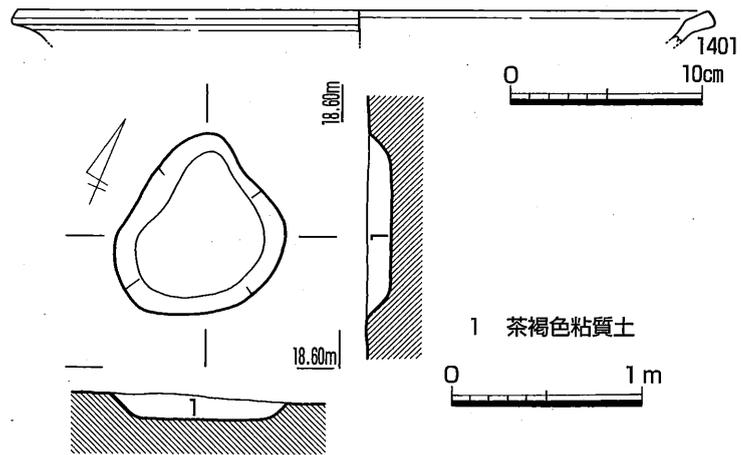
SKb74 (調査時遺構名：I-19区SK16) (第259図)

I-19区の西部で検出した土坑である。平面形は隅丸方形に近いが、南東側が丸くなっている。南北方向0.5m、東西方向0.4m、深さ0.2mである。埋土は黄褐色～茶褐色系の砂質土、粘質土が中心になっている。遺物は出土していないが、近世の溝SDb63より後出することから近世以降の遺構と考えられる。

第257図 SKb72平・断面図(1/40)、出土遺物(1/4)

SKb75 (調査時遺構名：I-20区SK22) (第260図)

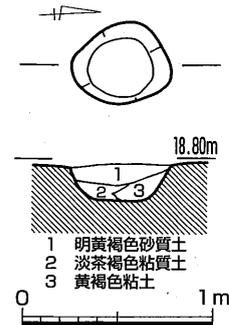
I-20区の中央で検出した土坑である。平面形は長方形で、長辺2.1m、短辺1.1m、深さ0.2mである。埋土は褐色砂質土と明茶褐色砂質土である。近世の溝SDb63より後



第258図 SKb73平・断面図(1/40)、出土遺物(1/4)

SKb76 (調査時遺構名：I-20区SK21) (第224図)

I-20区の南部で検出した土坑である。平面形は方形で、長辺1.25m、短辺1.0m、深さ0.2mである。埋土は地山ブロックを多く含む灰色砂質土の単一層で、埋め戻されたと考えられる。肥前系磁器の碗を含む微細な遺物が少量出土している。

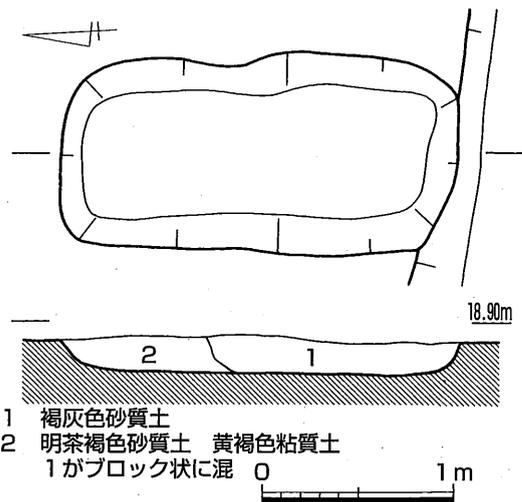


第259図 SKb74平・断面図(1/40)

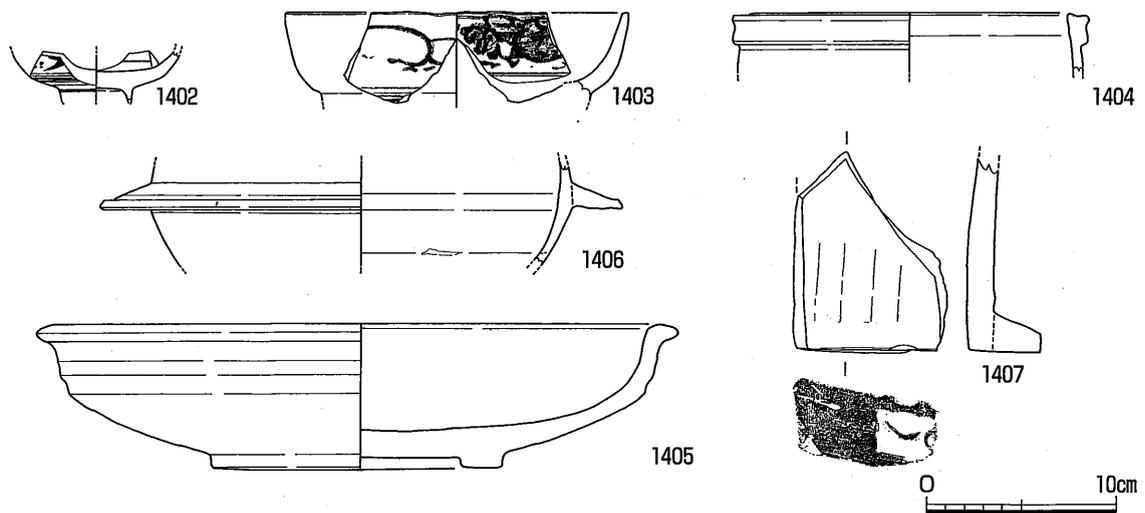
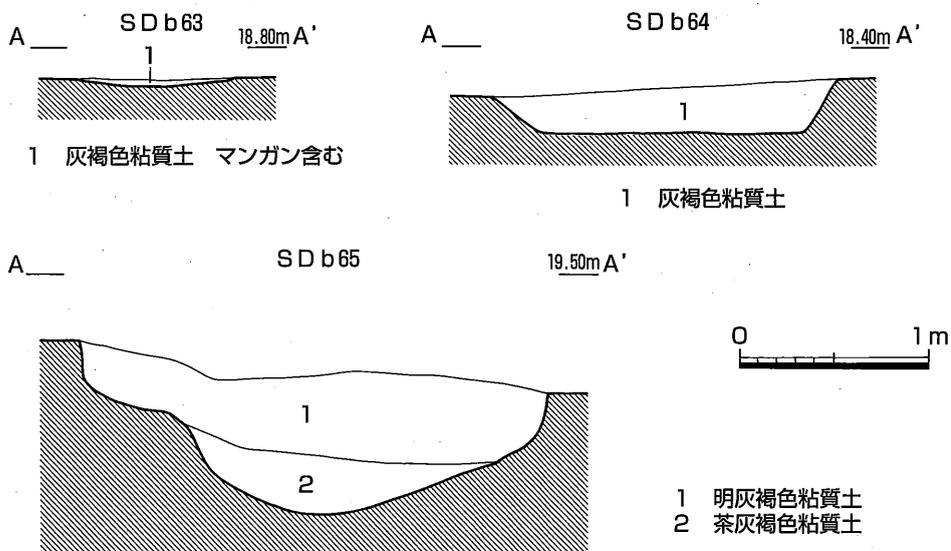
溝

SD b 63 (調査時遺構名: I-20区SD32) (第261図)

I-20区の中央部で検出した溝である。中央部分で屈曲しているが、屈曲部の南側と北側では同じN-15°-Wの方向になっている。この屈曲部で東西方向に1.0m平行移動しているが、屈曲部から北へ2.0mの箇所は極端に幅が狭くなっている。溝の北側はI-19区に入って不明瞭になり収束している。南側は調査区外に続いて行く。検出部分で全長21.0m、幅0.6~1.5m、深さ0.04~0.15mである。掘り込



第260図 SK b 75平・断面図 (1/40)



第261図 SD b 63・64・65断面図 (1/40)、SD b 64出土遺物 (1/4)

みは緩やかで、埋土は灰褐色粘質土の単一層である。弥生時代から中世の溝群を壊しているため、これらの時期の微細な遺物を含んでいる。

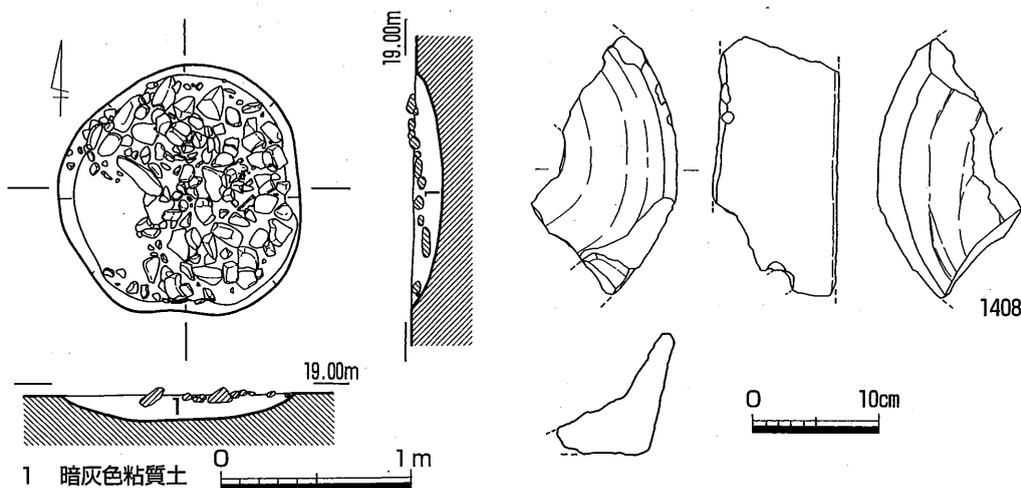
S D b 64（調査時遺構名：I - 18区 S D 01）（第261図）

I - 18区の中央から東部にかけて検出した溝である。調査区内で南から東に向かって湾曲している。東に向かって湾曲した後は国土座標上の東西方向（N - 90° - E）になっている。またこの東西方向の部分の南側のラインは東に向かうほど不明瞭になっている。南側は調査区外に続いてゆくが、後述するI - 3・4区のS D b 65に続いて行くものと思われる。検出部分で全長28.0m、幅2.0~2.7m、深さ0.27mである。埋土は灰褐色粘質土の単一層である。

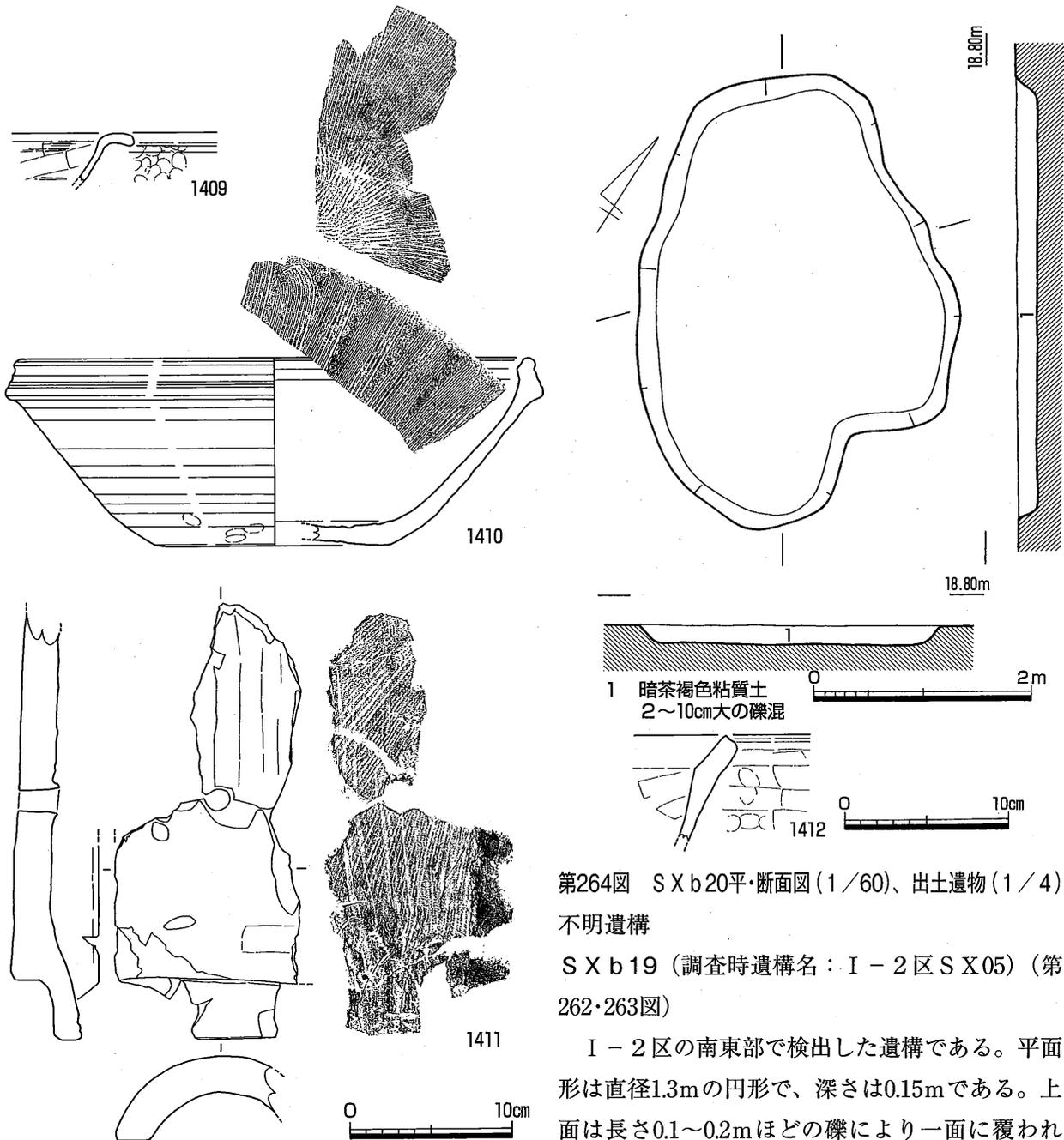
1402は肥前系磁器の碗、1403は肥前系磁器の皿である。1404は青磁の香炉と思われ、肥厚した口縁部の外面を強くナデている。1405は瀬戸・美濃産磁器の鉢である。見込み部分には砂目積みの痕跡が7箇所認められる。1406は瓦質の羽釜で、やや下向きに鏝を貼り巡らせている。1407は軒平瓦で、瓦当部を貼り付けている。瓦当面には唐草文の一部が認められる。凸面は横方向にヘラケズリを施している部分がある。

S D b 65（調査時遺構名：I - 21区 S D 16）（第261図）

I - 3・4・21区の東部で検出した溝である。昭和19年に旧高松空港を造成時まで機能していた溝で、その掘削時期は近世まで遡ると考えられる。I - 3区とI - 4区では上面を検出しただけで完掘していない。全体に直線的であるがI - 4区で僅かに東に向かって湾曲しており、北側はI - 18区で検出したS D b 64に続いて行くものと考えられる。S D b 64とともに明治21年地籍図では水路、道としての記載がある。溝の方向はI - 3・21区ではN - 13° - E、I - 4区ではN - 24° - Eになる。溝の南側は条里地割の方向に一致しているが、北側は東にずれている。これは北側がI - 18区（S D b 64）の湾曲部分につながってゆくためである。I - 3・4・21区で全長67.5m、幅1.0~2.0m、深さ0.75mである。I - 21区では西側の掘り込みが段になっている。埋土は灰褐色系の粘質土である。近世の陶磁器の細片や近代・現代の遺物が出土している。



第262図 S X b 19平・断面図（1/40）、出土遺物（1）（1/6）



第264図 SX b 20平・断面図(1/60)、出土遺物(1/4)
不明遺構

SX b 19 (調査時遺構名: I-2区SX05) (第262・263図)

I-2区の南東部で検出した遺構である。平面形は直径1.3mの円形で、深さは0.15mである。上面は長さ0.1~0.2mほどの礫により一面に覆われている。焼土や炭化物などは認められなかった。

第263図 SX b 19出土遺物(2)(1/4)

1408は角礫凝灰岩製の石臼である。上臼の部分で、下面の作業面は磨り減って窪んでいる。1409は瓦質の焙烙である。1410は備前焼の播鉢で、全体に回転ナデを施した後に内面に卸し目を刻んでいる。1411は玉縁式の丸瓦で、中央部に釘穴と考えられる穿孔がある。凹面には糸切り痕、模骨痕、吊り紐痕、布目が認められる。

SX b 20 (調査時遺構名: I-3区SX01) (第264図)

I-3区の南東部で検出した遺構である。平面形は不整形で、南東側が屈曲して内側に入り込んでいる。北西-南東方向4.1m、北東-南西方向3.0m、深さ0.2mである。底部は全体に平坦で、埋土は暗茶褐色粘質土の単一層である。

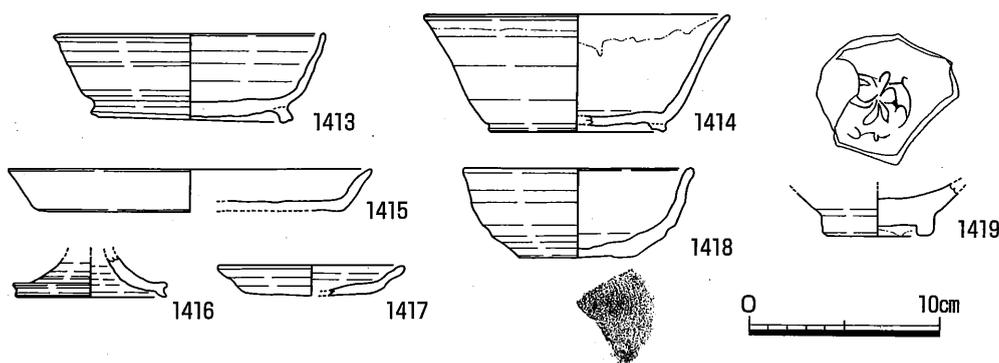
1412は土師質の鍋で、口縁部は直線的である。体部内・外面には板ナデを施している。この他に微細な遺物が少量出土している。

第6節 包含層出土の遺物

I-1区包含層出土遺物（第265図）

1413～1416は須恵器である。1413・1414は杯で、1413の底部外面には回転ヘラケズリを施し、外側に踏ん張る高台を貼り付けている。1414は器高が高く、体部は僅かに外反している。口縁部の内・外面には自然釉が付着している。底部外面はヘラ切りである。1415は皿で、底部外面は剥離している。1416は高杯である。

1417は土師器の小皿で、底部外面はヘラ切りの後に板状圧痕を加えている。内面見込み部は前製作時のヘラ切り痕をナデ消している。1418は土師器の杯で、体部には回転ナデの痕跡が明瞭に残り、最終的に中央やや下を強くナデている。底部外面は糸切りである。1419は青磁の碗で、龍泉窯産と思われる。



第265図 包含層（I-1区）出土遺物（1/4）

I-2区包含層出土遺物（第266図）

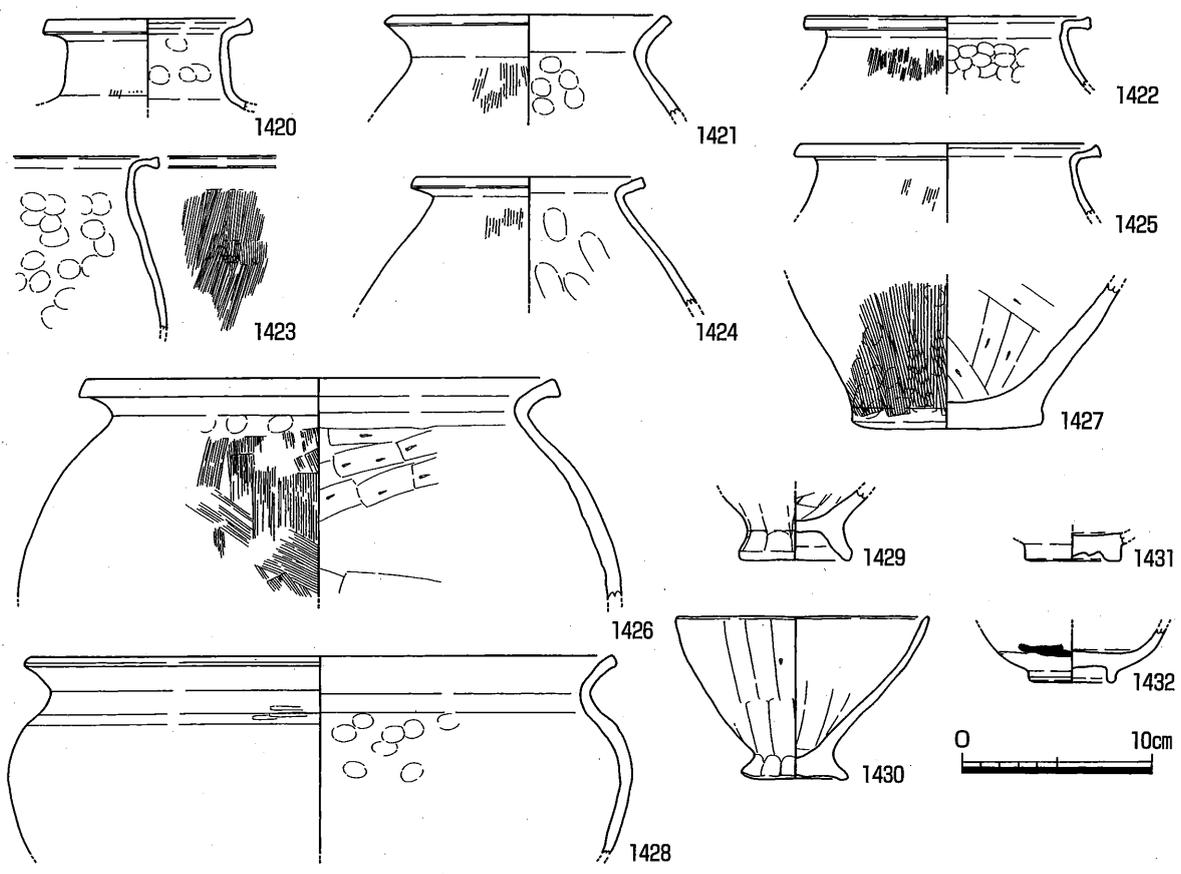
1420～1427・1429・1430は弥生土器である。1420は壺で、胎土に角閃石を含んでいる。1421～1427は甕で、1422・1423・1425は胎土に角閃石を含んでいる。1422は口縁部屈曲部の内面を強くナデている。1423は体部外面にタタキの後にハケ目を施している。1426は体部外面はハケ目、内面にはヘラケズリを施している。1427は1426と同一個体の可能性がある。1429・1430は鉢である。1430の底部は突出して台状になっている。体部外面はヘラケズリであるが砂粒の動きは弱い。

1428は古代の土師器の甕である。1431は青磁の碗、1432は肥前系磁器の碗で、高台に離れ砂が付着している。

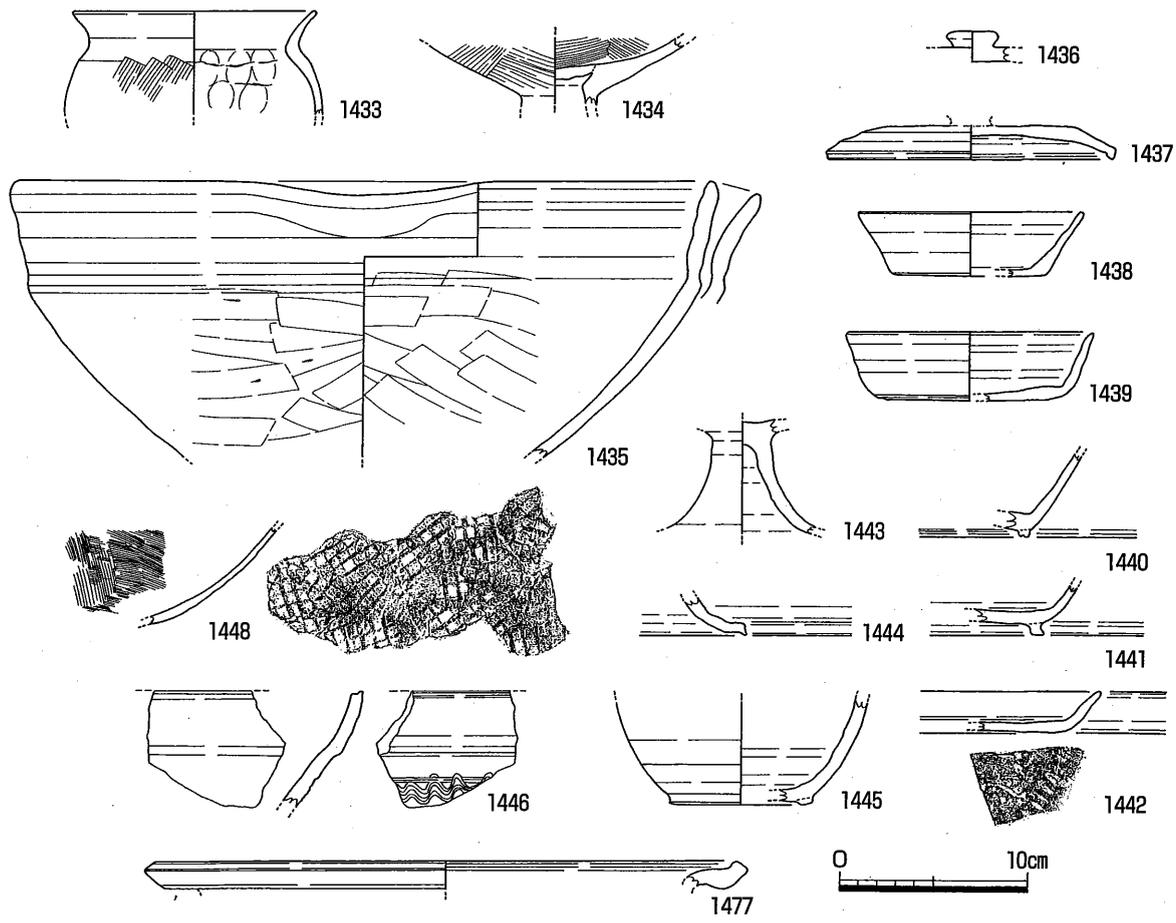
I-3区包含層出土遺物（第267図）

1433～1435は弥生土器である。1434は高杯で、杯部の内・外面には格子状に分割したヘラミガキを施している。杯部と脚部の接合は円盤充填である。1435は鉢で注ぎ口がある。口縁部は強くナデており、体部外面はヘラケズリであるが砂粒の動きは弱い。内面は板ナデである。

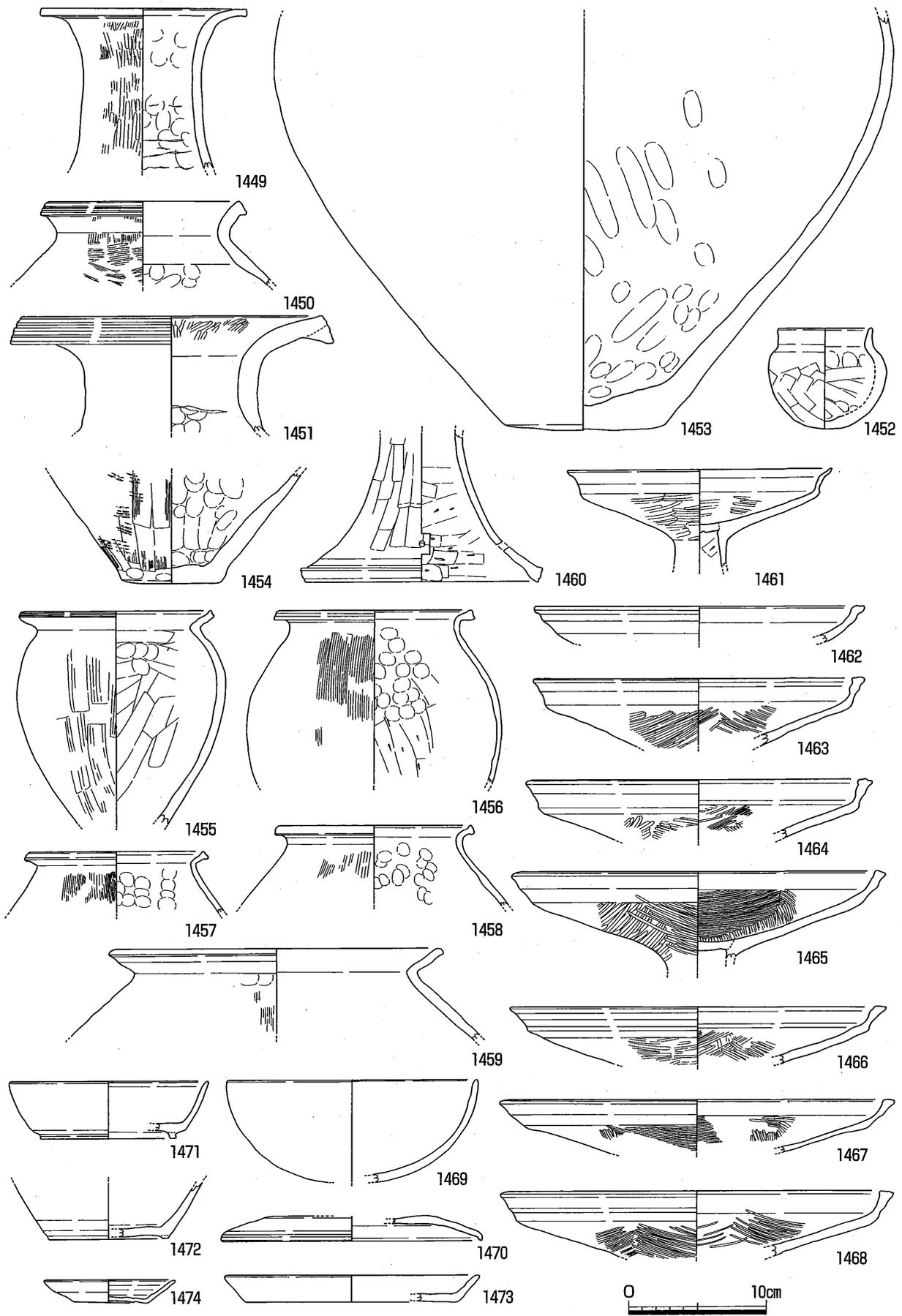
1436～1447は須恵器である。1437は杯蓋で、平坦な天井部から屈曲して口縁部に至る。天井部には回転ヘラケズリを施している。1438～1441は杯である。1439の底部外面は手持ちでヘラケズリを施している。1441の底部外面には回転ヘラケズリを施している。1442は皿で、底部外面の縁辺部にヘラ状工具の小口部分による連続した圧痕が認められる。1443・1444は高杯である。1445は壺で、体部下半には回転ヘラケズリを施している。1446・1447は甕の口縁部で、1446の外面には櫛描波状文を施している。



第266図 包含層 (I-2区) 出土遺物 (1/4)



第267図 包含層 (I-3区) 出土遺物 (1/4)



第268図 包含層 (I-4区) 出土遺物 (1/4)

1448は土師質の鍋で、体部外面には格子目タタキを施している。

I-4区包含層出土遺物 (第268図)

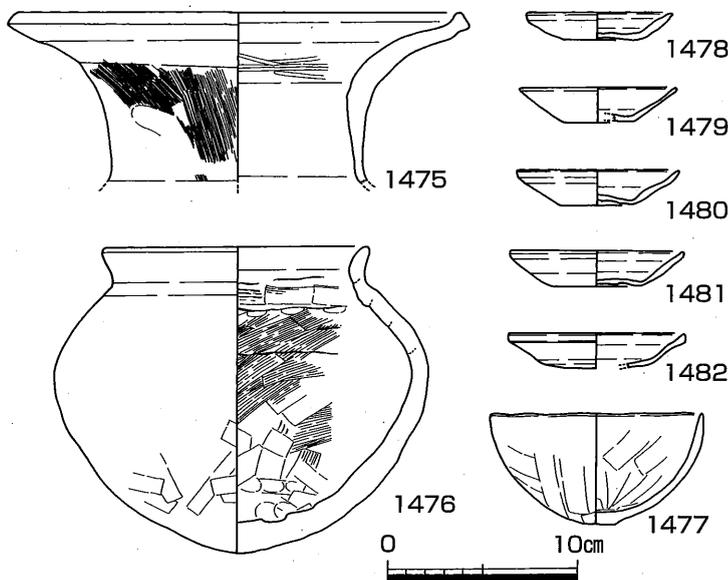
1449~1469は弥生土器である。1449~1454は壺である。1449は長頸壺で外面にはハケ目の後にヘラミガキを施している。1450の口縁部外面には凹線が巡り、体部外面にはタタキの後にハケ目を施している。1451は口縁部端部を下方に拡張し、幅広の口縁部外面に凹線を巡らせている。口縁部内面にはヘラミガキを施している。1452の口縁部は短く直立しており、底部は丸底に近い。1455~1459は甕で、1456~1458は胎土に角閃石を含み、体部外面はハケ目、内面上半部は指押さえが顕著である。1460~1468は高杯である。1460透かし穴が現存で1個あり、脚部端部は肥厚している。1461の口縁部は外反しており、杯部の内・外面にはヘラミガキを施している。杯部と脚部の接合は円盤充填である。1462~1468の口縁部は斜め上方に立ち上がり、外面を強くナデている。また口縁部端部は幅広の面を持ち1463・1464・1468は端面に凹線を巡らせている。1463~1468は杯部の内・外面には格子状に分割したヘラミガキを丁寧に施している。1465の杯部と脚部の接合は円盤充填である。1469は鉢で全体に湾曲している。

1470~1473は須恵器である。1470は杯蓋であるが外面は摩滅している。1471・1472は杯であるが、1472は体部が若干厚く、あるいは壺になるかも知れない。1473は皿で、底部外面はヘラ切りの後にナデている。

1474は土師器の小皿で、体部は直線的に開く。底部外面はヘラ切りの後に板状圧痕を加えている。

I-18区包含層出土遺物 (第269図)

1475~1477は弥生土器である。1475は壺で、頸部外面にはハケ目を施した後に上下をナデている。1476は甕で、体部最大径は上半にある。内面にはハケ目と板ナデを施し、上半部には粘土の接合痕が残っている。古墳時代に下るものと思われる。1477は鉢で、口縁部端部は先細りになり、体部は内・外面に板ナデを施している。

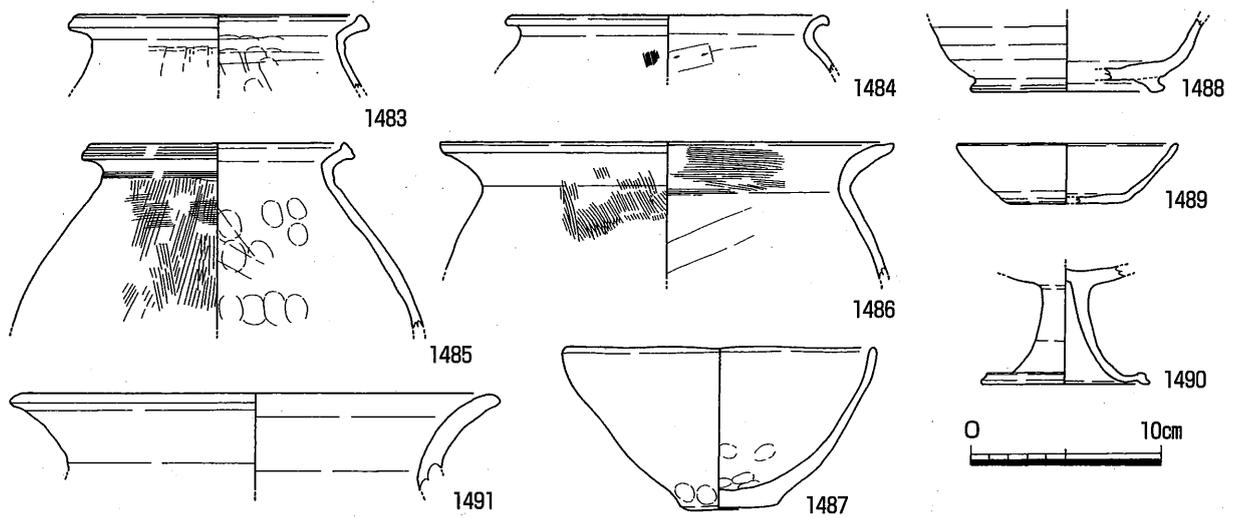


第269図 包含層 (I-18区) 出土遺物 (1/4)

1478~1482は土師器の小皿で、1482以外は底部外面はヘラ切りである。1480の体部の回転ナデは強く、底部は上げ底になっている。1482の底部外面の残存部分はナデており、ヘラ切りかどうかは不明である。

I-19区包含層出土遺物 (第270図)

1483~1487は弥生土器である。1483~1486は甕で、1483・1485は胎土に角閃石を含んでいる。1484の口縁部は外反している。1485は体部外面にハケ目を施すが、最後に横方向のハケ目を加えている。1486は口縁



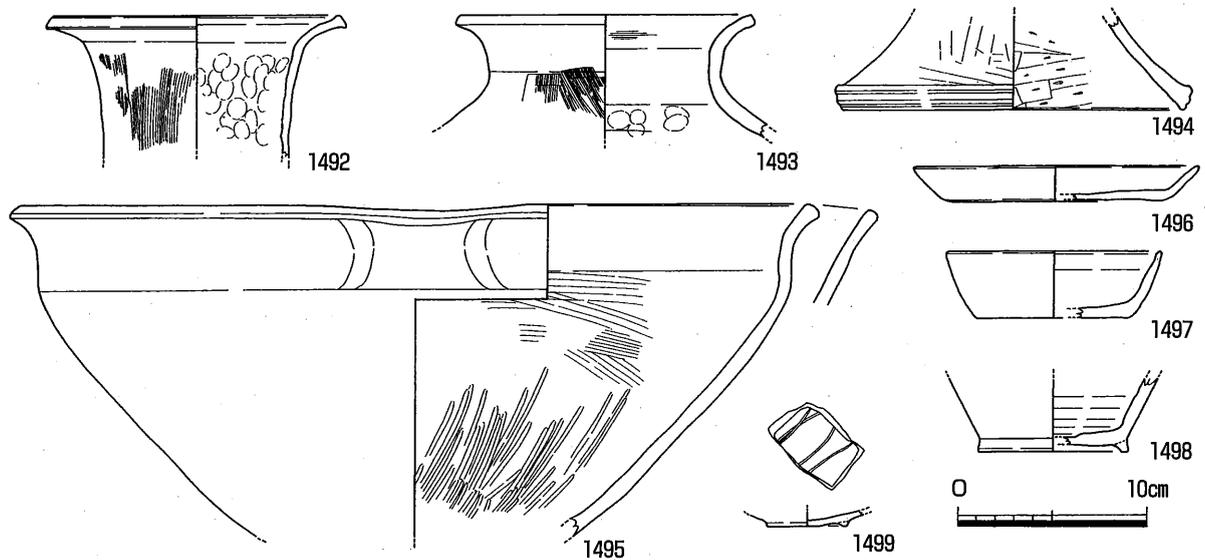
第270図 包含層 (I-19区) 出土遺物 (1 / 4)

部端部を強くナデており、口縁部内面にはハケ目を施している。体部外面もハケ目を施している。1487は鉢で、底部はやや突出している。

1488~1491は須恵器である。1488・1489は杯で、1489の底部外面はヘラ切りの後にナデている。1490は高杯、1491は甕である。

I-20区包含層出土遺物 (第271図)

1492~1494は弥生土器で、1492・1493は壺である。1492は頸部内面に指押さえが顕著である。1493の口縁部は外反しており、体部外面と口縁部内面にハケ目を施している。1494は高杯で、端部は肥厚しており外面に凹線を巡らせている。内面にはヘラケズリを施している。



第271図 包含層 (I-20・21区) 出土遺物 (1 / 4)

I-21区包含層出土遺物（第271図）

1495は弥生土器の鉢で注ぎ口がある。体部外面は摩滅しているが、内面にはハケ目とヘラミガキを施している。

1496～1498は須恵器である。1496は皿、1497は杯で、底部外面は両者ともヘラ切りの後にナデている。1498は壺である。

1499は瓦器の椀で、内面見込み部にはらせん状になると思われる暗文を施している。底部は高台が付いているものの、中央部は接地している。

第3章 まとめ

第1節 遺構の変遷（第272～275図）

弥生時代後期中葉

今回報告する地区では弥生時代後期以前の遺構・遺物は検出されていない。一時的に形成されたと考えられる自然流路SR b01が弥生時代後期中葉までに埋没した後に集落の形成が始まる。まず竪穴住居跡SH b06・07・15の3棟が築かれ、平面形はいずれも方形である。その他に若干の溝、土坑、不明遺構がある。

弥生時代後期後半～終末

I-4区に竪穴住居跡が10棟築かれ、集落の最盛期となる。竪穴住居跡群が築かれた部分は、すぐ西側のI-2区の河川の旧中州と考えられる砂礫部分からやや高くなった安定した土質の微高地に位置している。竪穴住居跡はSH b01・03・08が円形に突出部が付いており、その他は方形である。位置的にはSH b03を中心として南北に並ぶ4棟の群と、その西側にあるSH b10・12・13・14の群がある。しかし西側の群はすべて前後関係があり、SH b12→SH b13→SH b14→SH b10の順に変遷する。

これに対して突出部の付いたものは3棟あり、SH b03はSH b08より新しくなるが、SH b01とSH b03は出土遺物を見る限り前後関係は不明瞭である。突出部の付いたものの南北には方形の竪穴住居跡が突出部の付いたものに対応するように3棟ある。以上のことから、突出部の付いた竪穴住居跡1棟、その南北にある方形竪穴住居跡1棟、西側の群の方形竪穴住居跡1棟の合計3棟が1単位となって、3段階に変遷していると考えられる。

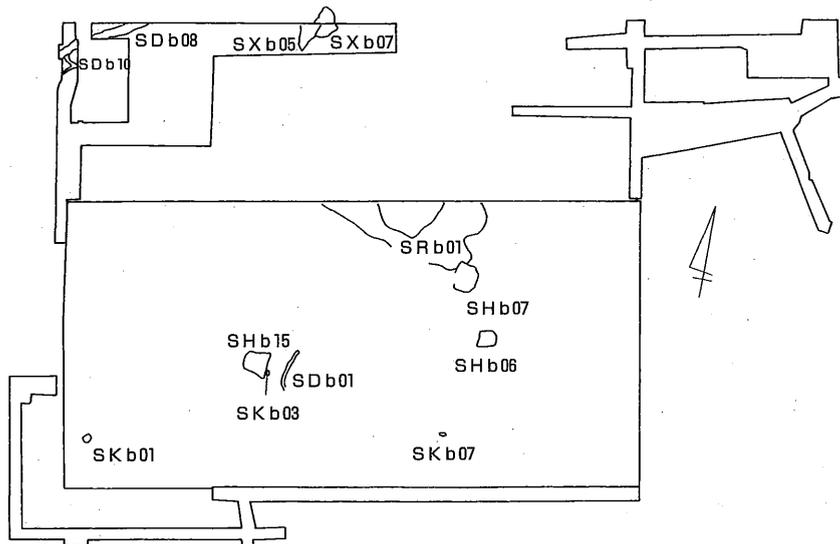
古墳時代前期初頭

I-4区では竪穴住居跡は2棟となり前段階に比べて減少する。これに対してI-19区の東西で合計2棟の竪穴住居跡が検出されている。I-19区の北側に隣接するI-6・7区では『空港跡地遺跡Ⅷ』で報告されているように当該期の竪穴住居跡が6棟検出されており、集落の中心は前段階より北側に移動している。なお、I-18区で検出されたSX b06は布留式土器が出土しており、やや時期が下るものである。

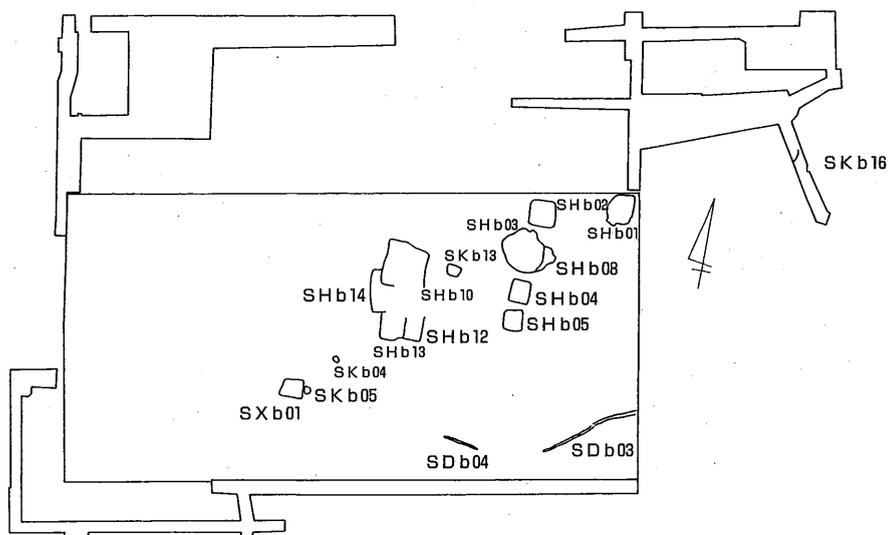
古代1（飛鳥・白鳳時代）

I-4区とI-19区に東西方向の溝SD b29・30・36が掘削されており、SD b29・36の出土遺物から7世紀前半のものと考えられる。SD b29・30は本来同一の溝の可能性が高く、I-4区の東壁際にもこの溝の続きと考えられるものが僅かではあるが検出されている。また西側の延長方向には時期の特定できる遺物はないがSD b38がある。SD b30は弥生時代後期中葉までに埋没した自然流路SR b01上にあり、SD b29は微高地にある。これまで手が及ばなかった微高地にも新たな耕作地の開発を試みたものと考えられる。またこれらの溝は条里地割の方向と同じであり、この段階で条里地割の萌芽が見受けられる。他に7世紀代の明瞭な遺構は見受けられず、周辺では『空港跡地遺跡Ⅷ』で報告された

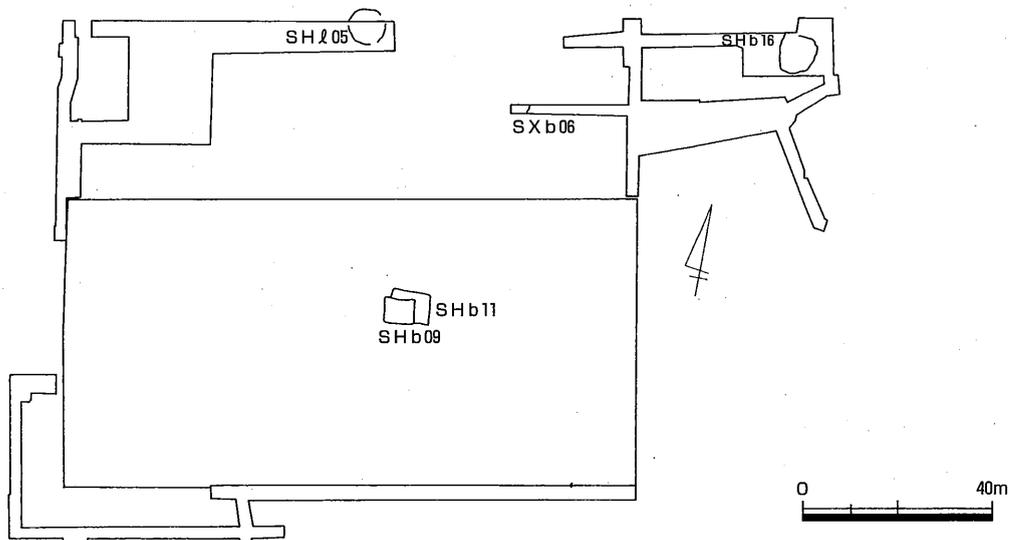
弥生時代後期中葉



弥生時代後期後半～終末



古墳時代前期初頭



第272図 遺構変遷図 (1) (1/1600)

I-7区の7世紀後半の竈付きの竪穴住居跡SH 11があるのみである。また『空港跡地遺跡I』で報告された、南東200mほど離れたII-8・14区周辺に当該期の遺構が僅かに認められる程度である。このように7世紀代の遺構が希薄であることから、同時期の周辺遺構からの混入は考え難く、SD b 29・36出土の7世紀前半の遺物はこの遺構に伴うと考えられる。しかし溝の性格から混入の可能性も残っており、SD b 29・30・36に直交する溝が検出されていないことを含めて、条里地割の形成が7世紀前半まで遡るということについて結論付けるのは早急であり、周辺地域を含めてなお慎重な検討を要する。

古代2（奈良～平安時代初頭）

I-3・4区の微高地を中心にI-20区を加えて合計9棟の掘立柱建物跡が検出され集落を形成しているが、掘立柱建物跡は散在している。SB b 01・02・04・05・06・08の6棟は建物の主軸方向が条里地割の方向に±10°の範囲内に納まっており、概ね合致していると言えよう。掘立柱建物跡は梁間1間×桁行2～3間程度のものが標準的になっているが、中にはSB b 05・07のように細長い建物もある。納屋あるいは厩のような性格の建物かも知れない。

溝はI-3・4・19西区画・20・21区で検出した。SD b 11～13・19・34・35・37など条里地割の方向に一致したり近似するものが多くなる。溝の中で注目すべきはSD b 19である。調査区を南北に縦断し、その続きは『空港跡地遺跡VIII』で報告されたI-5・6・12で検出されている。途中で屈曲して5mほど平行移動しているが、屈曲部分の南北でも同じ条里地割の方向となっている。幅も他の溝が1m以下であるのに対してSD b 19は1.0～2.4mあり、基幹的な水路となっている。条里地割の復元によると、SD b 19は山田郡8条10里2坪の東西の半町部分に位置している。途中で屈曲していることの意味は不明であるが、地割のずれを修復するためかもしれない。

また調査区西側のI-2区を中心とした遺構の空白地帯は、主に東西方向の水路によって開発を行なったと考えられるが、この一帯の遺構面は砂礫層で水田耕作には不適な場所である。なおこの部分は『弘福寺領讚岐国山田郡田図』南地区に「壟」と記載された坪の東隣の坪に相当している。東西の水路より南北の開発を試みたのかもしれない。

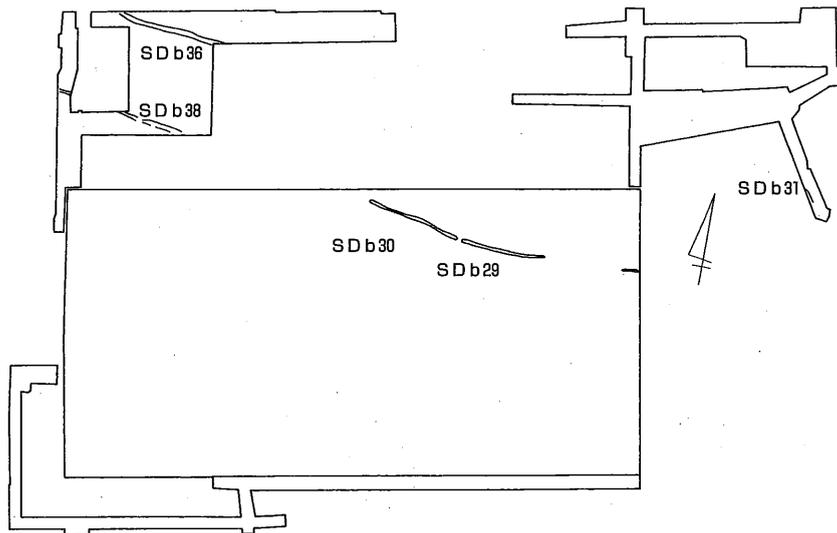
掘立柱建物跡の柱穴から出土した遺物は少ないが、SB b 04・05のように8世紀後半代を示す遺物があるとともに、SD b 19から8世紀第4四半期の多量に出土したことから、集落は8世紀後半代を中心とする時期のものと考えられる。

古代3（平安時代）

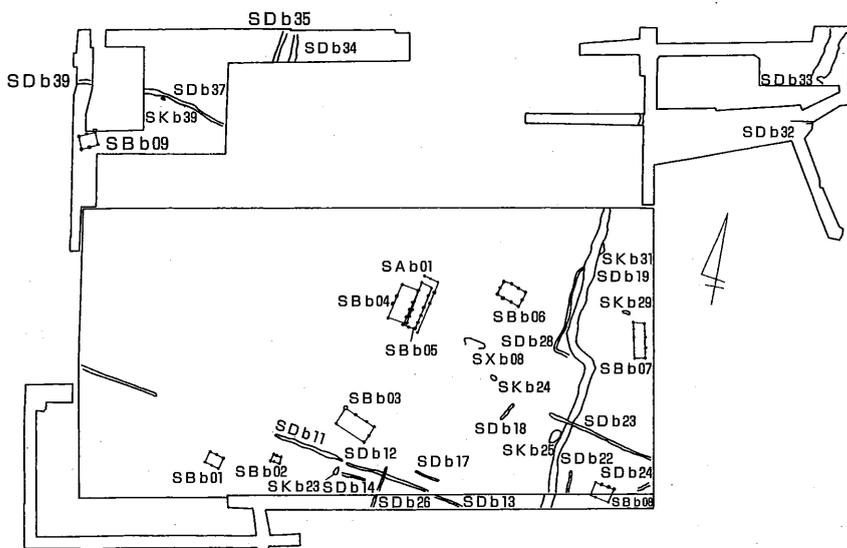
前段階の集落は廃絶され、前段階の基幹水路のSD b 19はすでに埋没している。遺構としてはI-19区で検出した溝SD b 33が前段階から継続しているにすぎない。当該期にはI-19区西区画の北西側に近接するI-8区で旧河川の埋没後の凹地を利用して水田が営まれているが、今回の調査区では開発に伴う灌漑用の水路と考えられる溝も検出されておらず、大部分は荒廃していた可能性が高い。それゆえに、条里地割に基づき開発された耕地ではなく、生産性の高い埋没河川上の凹地に耕地を求めたと思われる。

この段階の集落と開発の中心は今回の調査区の東側に隣接する『空港跡地遺跡I』で報告されたC区（II-4～6・8～10・12・14～16区）に移っていると考えられる。

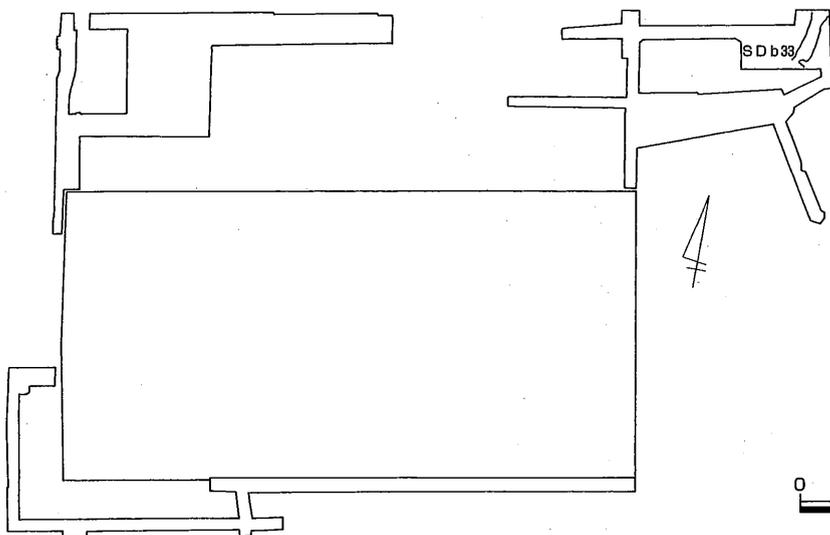
古代1



古代2



古代3



0 40m

第273図 遺構変遷図 (2) (1/1600)

中世1（鎌倉時代前半）

I-1・2区を中心に調査区を南北に縦断する基幹水路と考えられる溝SDb41を中心に、I-20区にも再びSDb57のような水路が設けられて、前段階で荒廃していた土地が条里地割に基づき再開発される。耕作地としての再開発は主にI-2区を中心とするSDb41の北西部分が中心となっていたようであるが、この部分の遺構面は砂礫層が大部分で水田耕作には不適な土地である。古代と同様にさらに北側の開発を行なったのかも知れない。

土地の再開発とともにSDb41の東側の微高地部分に再び集落が形成される。条里地割の方向に合致するSDb41は山田郡8条10里2坪と3坪との坪界に相当する。SDb41の西側にSBb10・11・12・25・26・27の一群が、SDb41の東側にはSBb20を中心とする一群とSBb22・23・24の一群の合計3群が展開している。掘立柱建物跡の主軸方位は基本的に条里地割の方向に一致している。建物規模はSBb20がやや大型である以外は2間×3間程度、建物面積で20㎡程度のもが多くなっている。

中世2（鎌倉時代後半）

SDb41の東側では掘立柱建物跡3棟で構成される一群がある。主屋と考えられる4面庇をもつ大型のSBb17を中心に、SBb17の身舎とほぼ同規模であるSBb14、それに小型のSBb18が伴っている。隣接したI-21区では石組みの井戸が検出されている。

中世3（室町時代）

前段階と同じような位置に掘立柱建物跡3棟で構成される一群と、SDb41の西側に掘立柱建物跡1棟と石組みの井戸1基で構成される一群がある。東側の一群は主屋と考えられる1面庇をもつ大型のSBb16を中心に、SBb16の身舎とほぼ同規模であるSBb19、それに小型のSBb15が伴っており、前段階と同じ建物構成となっている。SBb19は柵列SAb03を巡らせ、玄関のような張り出し部分を伴っている。柱穴から鉄滓の付着した羽口と鉄滓が出土しており、鍛冶・鑄造を行っていた建物の可能性はあるが、特定するには建物及びその周辺から羽口、炉壁、鉄滓等の関連遺物の出土は少ない。

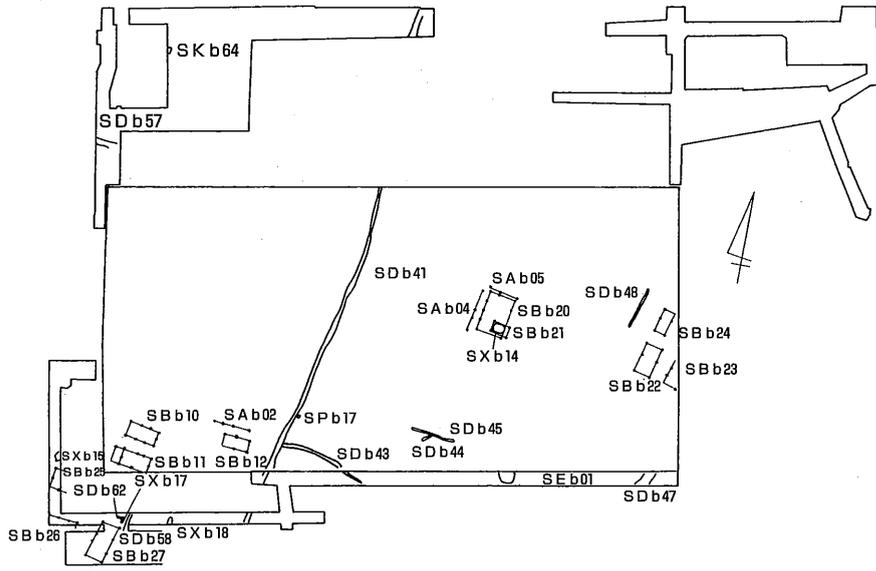
またI-20区には近世に継続する、基幹水路の一つと考えられるSDb56が設けられ、開発は展開している。

近世

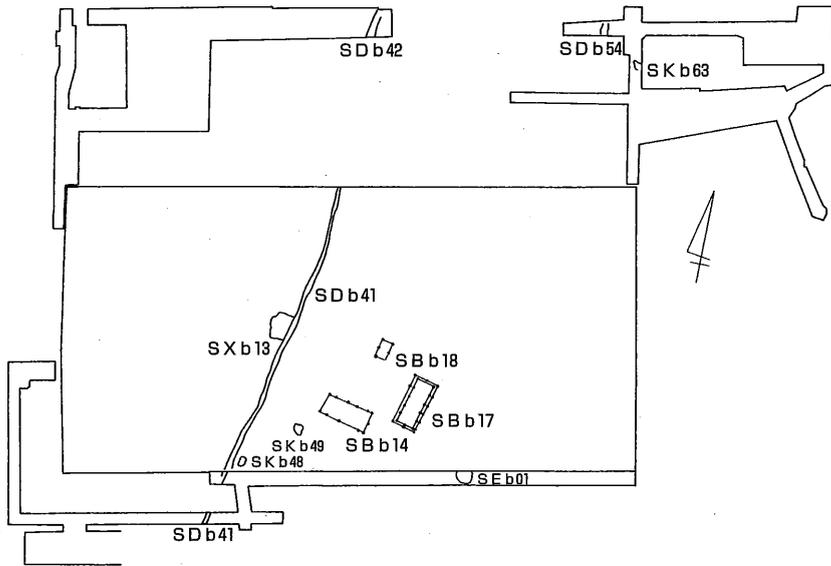
溝、土坑、不明遺構が検出されたに止まり、建物跡は検出されておらず、中世までの集落は廃絶している。調査区の東側のI-3・4・18区で溝SDb64・65が検出されているが、SDb65は高松空港造成時の昭和19年まで機能していたものである。両者は文化15（1818）年『山田郡下林村順道図絵』及び明治21年地籍図にも記されており、それによると周辺は田畑となっていたことが窺え、SDb64・65も前段階からのSDb56とともに基幹灌漑用水路となっていたと考えられる。

*条里地割の方向については、山田郡の場合はN-10°～11°-Eであるが、遺構測量の誤差、図面縮小や合成の際の誤差や歪みなどを考慮して±5°の範囲内であれば条里地割の方向に一致していると考えている。

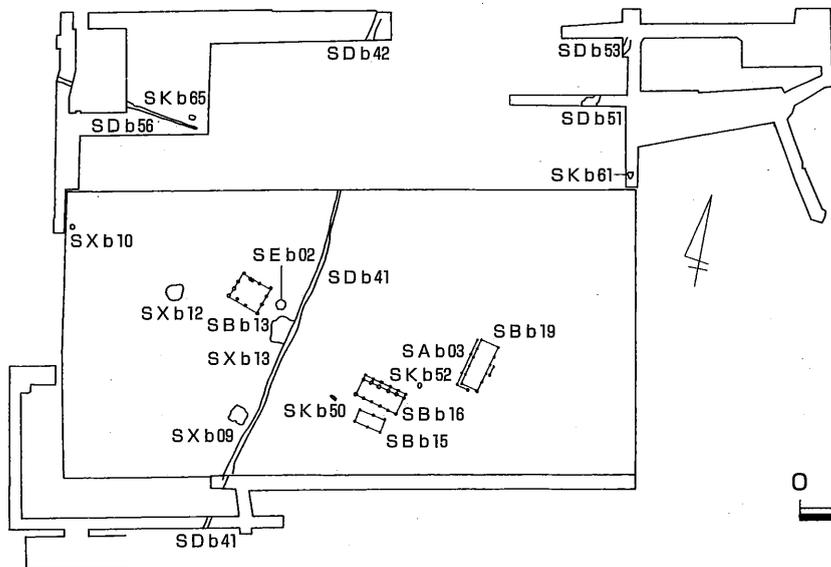
中世1



中世2

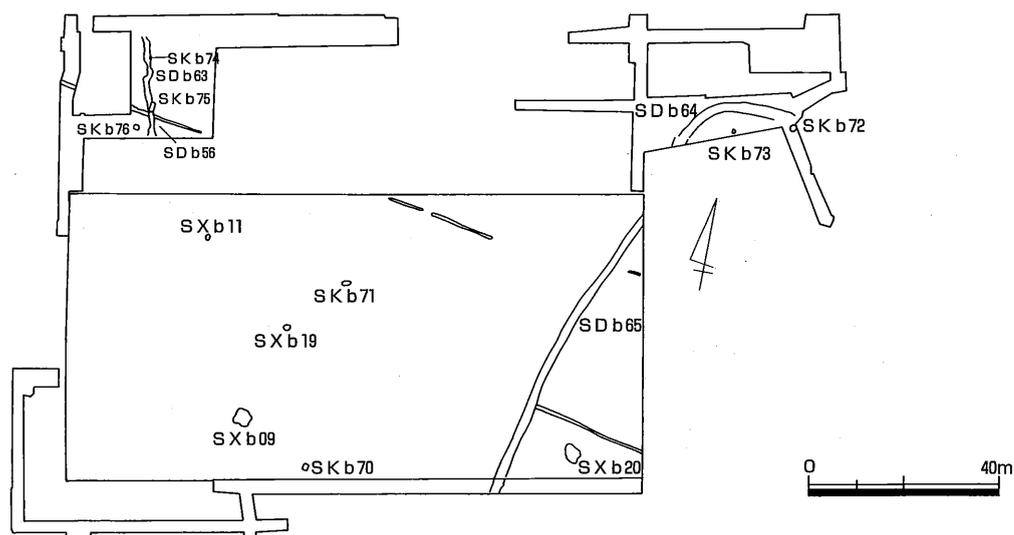


中世3



第274図 遺構変遷図 (3) (1/1600)

近世



第275図 遺構変遷図(4) (1/1600)

第5表 掘立柱建物跡一覧

	梁間×桁行	建物面積(m ²)	主軸方位	時期	調査時遺構名	備考
SBb01	1間×2間	8.0	N-75°-W	古代	I-1区SB05	
SBb02	1間×2間	2.8	N-84°-W	古代		
SBb03	2間×3間	26.6	N-67°-W	古代	I-1区SB06	
SBb04	1間×4間	29.4	N-8°-E	古代	I-4区SB01	
SBb05	2間×5間	25.0	N-14°-E	古代	I-4区SB02	SAb01付随
SBb06	2間×3間	17.1	N-71°-W	古代	I-4区SB05	
SBb07	1間×4間	18.1	N-12°-W	古代	I-4区SB06	
SBb08	1間×3間	12.3	N-79°-W	古代		
SBb09	1間×2間	10.7	N-64°-E	古代	I-20区SB01	
SBb10	2間×3間	19.8	N-76°-W	中世	I-1区SB01	
SBb11	2間×3間	21.4	N-82°-W	中世	I-1区SB02	
SBb12	1間×2間	14.0	N-85°-W	中世	I-1区SB03	
SBb13	3間×3間	22.9	N-70°-W	中世	I-2区SB01	
SBb14	2間×5間	45.7	N-74°-W	中世	I-1区SB04	
SBb15	1間×2間	15.7	N-77°-W	中世	I-3区SB04	
SBb16	1間×5間	身舎 34.2	N-76°-W	中世	I-3区SB03	1面庇
		底込み 43.7				
SBb17	2間×5間	身舎 38.4	N-17°-E	中世	I-3区SB02	4面庇
		底込み 57.7				
SBb18	1間×2間	8.6	N-14°-E	中世	I-3区SB05	
SBb19	1間×5間	40.8	N-15°-E	中世	I-3区SB01	SAb03付随、張出し
SBb20	3間×4間	48.2	N-11°-E	中世	I-4区SB03	SAb02・03付随
SBb21	1間×1間	8.3	N-77°-W	中世	I-4区SB04	SXb14の覆屋
SBb22	1間×2間	22.1	N-13°-E	中世	I-3区SB06	
SBb23	1間×3間以上	-	N-19°-E	中世	I-3区SB07	
SBb24	1間×2間	12.2	N-15°-E	中世	I-4区SB07	
SBb25	2間×1間以上	-	N-81°-W	中世		
SBb26	1間以上×3間	-	N-85°-W	中世		
SBb27	2間×3間	30.4	N-17°-E	中世		SB03

第2節 S D b 19出土遺物について

S D b 19はI - 3・4・21区で検出し、周辺の調査区の調査からも空港跡地遺跡を南北に縦断する溝であり、その方向はN - 8° ~ 9° - Eで山田郡の条里制地割の方向に合致しているものである。この溝から須恵器を中心とした古代の土器が多量に出土しており、S D b 19直上の包含層出土のものも含めて本文中に掲載できたもので355点を数える(第156~167図)。古代の山田郡を考えるうえでも重要な資料と考えられるため、これらの土器群から直上の包含層出土遺物、中世からの混入品と石製品、瓦を除いた336点について若干の考察を加えることとする。

(1) 須恵器

(i) 杯蓋(第157図、第6表)

杯蓋は57点図化した。天井部が平坦で途中で屈曲して口縁部に至るものと、全体に丸みを帯びた傘形のものがあるが、前者の方が圧倒的に多い。天井部はヘラ切りの後ナデているものが4点、回転ナデ・ナデのものは6点、摩滅しているものが3点以外は回転ヘラケズリを施している。口径は14.0~19.2cmの幅があり、平均は15.5cmであるが14cm代のものが21点、15cm代のものが16点ある。天井部の中央が欠損しているものが多いが、基本的につまみがあるものと考えられる。

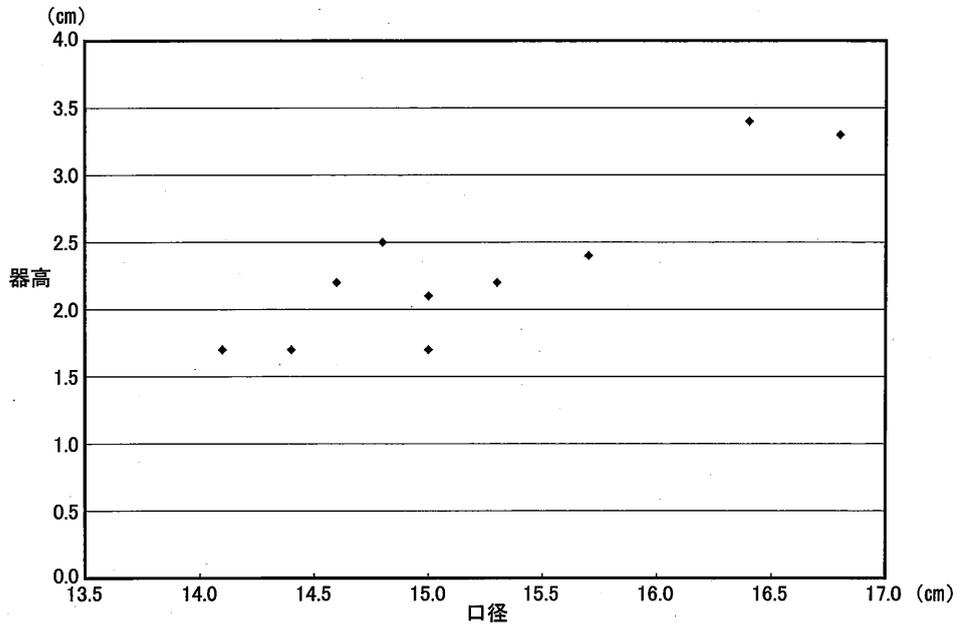
(ii) 杯(第156・158~160図、第7・8表)

底部に高台をもつタイプ(杯B)は35点図化した。体部全体に直線的なものと、口縁部が僅かに外反するものがある。底部は回転ヘラケズリを施すものが18点、ヘラ切りの後にナデているがヘラ切りの痕跡が認められるものが6点、その他は全体にナデや板ナデになっている。口径は12.6~18.4cmの幅があり、平均は16.2cmである。器高は4.3~7.0cmの幅があり、平均は5.8cmである。平均値での径高指数は36になる。分布域からみると口径13.4cm、器高4.5cm、径高指数33程度の一群と、口径17.0cm、器高6.2cm、径高指数36程度の一群に分かれている。

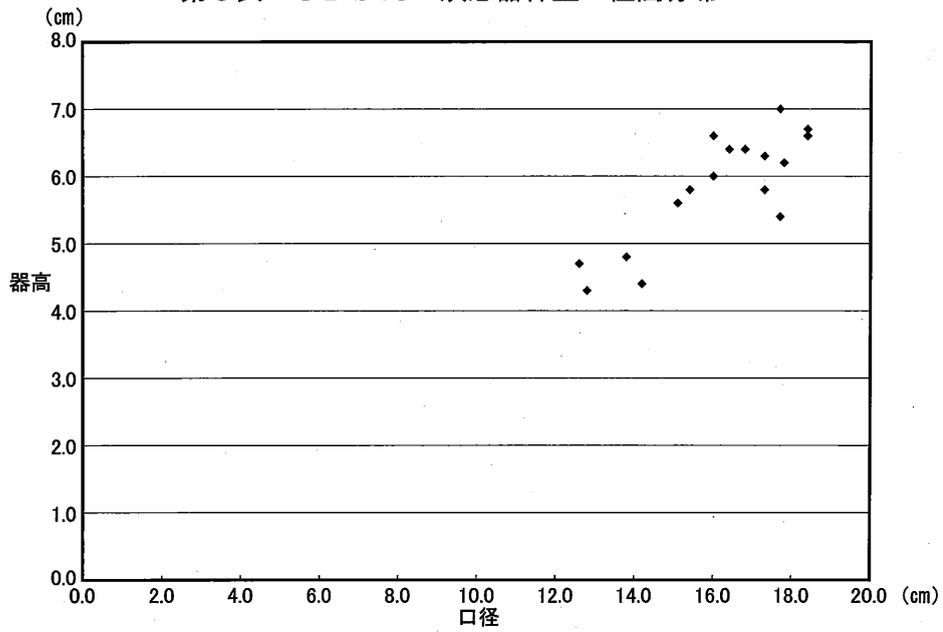
底部が平底のタイプ(杯A)は90点図化した。体部全体に直線的なものと、口縁部が僅かに外反するものがあるが前者の方が多くなっている。底部は残存しているもので、回転ヘラケズリを施すものが20点、ヘラ切りの後にナデているがヘラ切りの痕跡が認められるものが37点、ヘラ切りや回転ヘラケズリの痕跡が認められずナデているものが11点、ヘラ切りのままで未調整のものが4点となっている。口径は9.8~16.7cmの幅があり、平均は13.4cmである。器高は3.1~5.1cmの幅があり、平均は3.8cmである。平均値での径高指数は28になる。分布域からみると口径10.8cm、器高3.7cm、径高指数34程度の一群と、口径13.5cm、器高3.9cm、径高指数29程度の一群、口径14.5cm、器高3.5cm、径高指数24程度の一群に分かれている。

(iii) 皿(第161・162図、第9表)

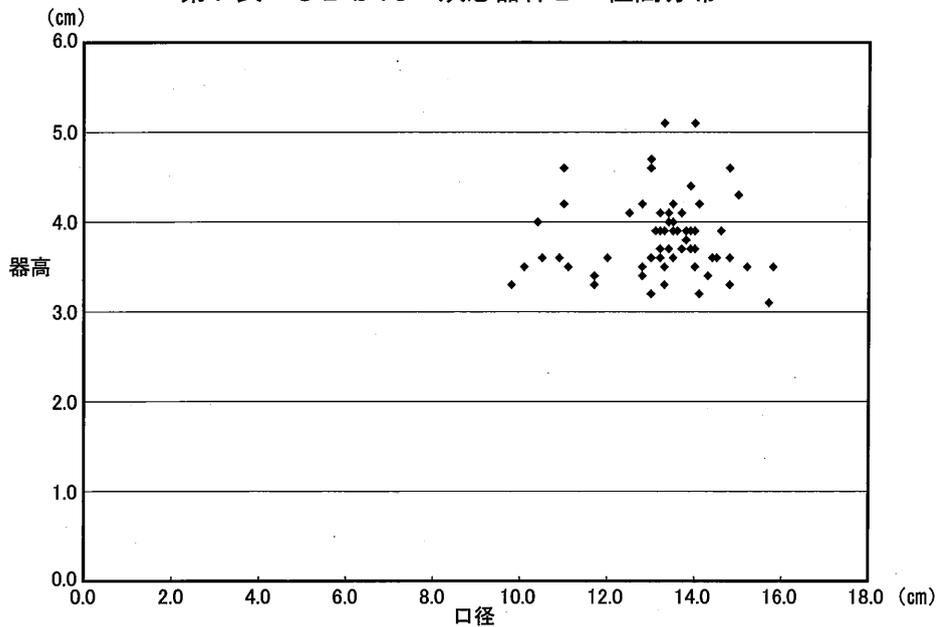
皿は71点図化した。体部全体に直線的なものと、口縁部が僅かに外反するものがあるが、前者の方が全体の2/3程度の割合である。底部は残存しているもので、回転ヘラケズリを施すものが8点、ヘラ切りの後にナデているがヘラ切りの痕跡が認められるものが30点、ヘラ切りや回転ヘラケズリの痕跡が認められずナデているものが27点、ヘラ切りのままで未調整のものが3点となっている。口径は15.1~19.8cmの幅があり、平均は17.4cmである。器高は1.9~3.4cmの幅があり、平均は2.5cmである。平均値での径高指数は14になる。



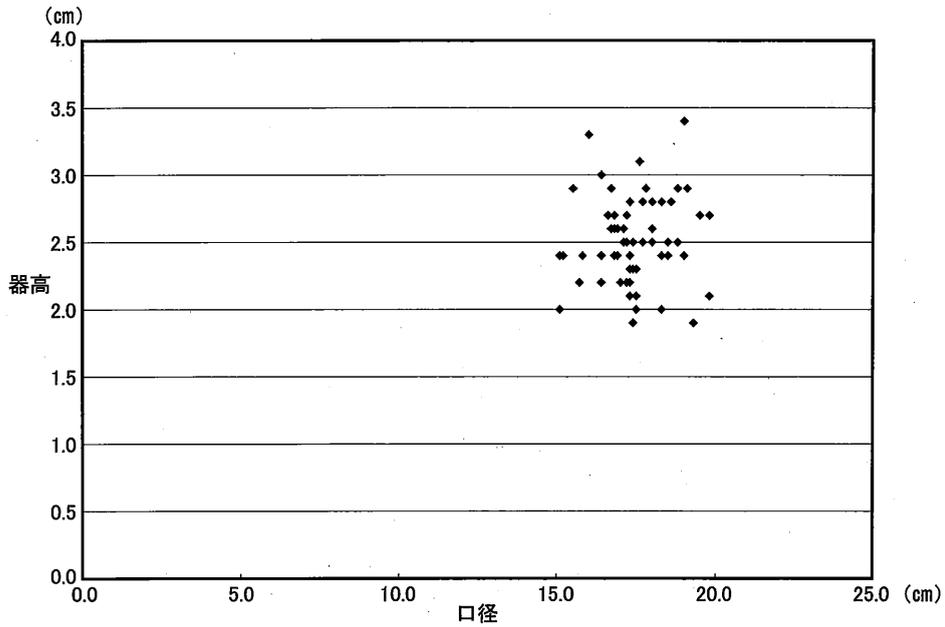
第6表 SD b 19 須惠器杯蓋 径高分布



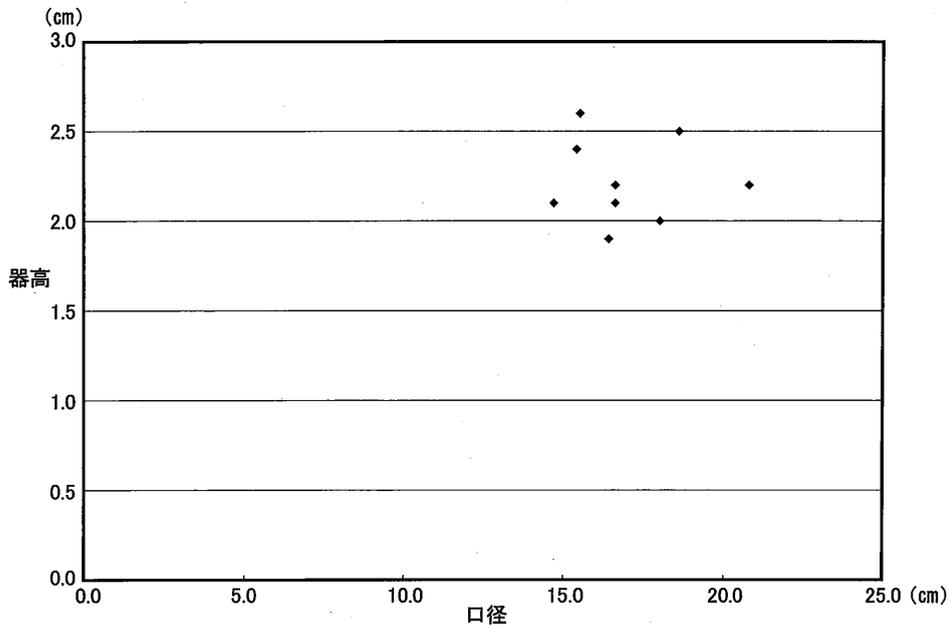
第7表 SD b 19 須惠器杯B 径高分布



第8表 SD b 19 須惠器杯A 径高分布



第9表 SD b 19 須恵器皿 径高分布



第10表 SD b 19 土師器皿 径高分布

(2) 土師器 (第165図、第10表)

(i) 杯

出土量は少なく、回転台成形のものを除くと3点を図化しているにすぎない。2点は口縁部内面を強くナデており凹線状の段を形成している。また3点とも体部外面にはヘラミガキを施しているが、内面に暗文を施すのは1点で、暗文は1段の斜放射状暗文である。また体部下部から底部にかけてヘラケズリを施すものも1点である。3点ではあるが、口径の平均は15.2cm、器高の平均は復元値を含めて3.5cm、平均値での径高指数は23になる。

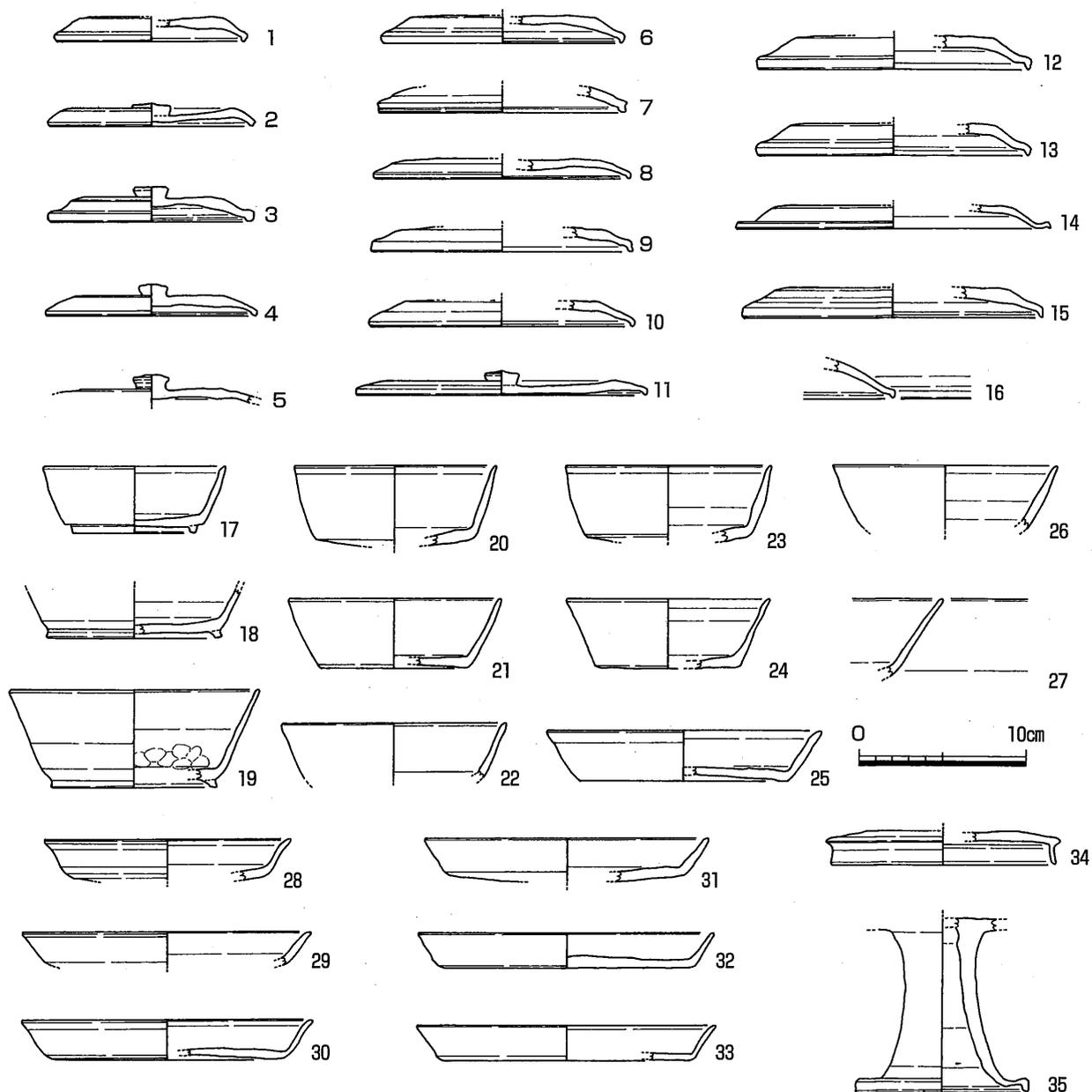
(ii) 皿

皿は20点図化した。このうち細片であるが底部に高台を貼り巡らせるものが3点ある。調整手法は口縁部をナデて、底部外面にヘラケズリを施すもの (b手法) が14点、ナデだけのもの (a手法) が2

点ある。体部外面にヘラミガキを施すものは2点、内面にヘラミガキ及び暗文を施すものは5点である。口径は14.7~20.8cmの幅があり、平均は17.0cmである。器高は1.9~2.6cmの幅があり、平均は2.2cmである。平均値での径高指数は13になる。

(3) 器種構成

S D b 19から出土した古代の土器で本文に掲載した348点は、須恵器295点、土師器51点、製塩土器2点である。須恵器が全体の85%を占めていることがわかる。さらに須恵器の内訳は杯・皿・高杯・鉢・盤の食器が270点、壺・甕・平瓶・横瓶の貯蔵器が25点である。土師器の内訳は杯・皿・高杯・碗の食器が40点、甕の煮炊具が11点である。食器でみると、須恵器：土師器=270：40≒7：1の割合となり、須恵器のほうが優位になっている。



第276図 讃岐国府跡第1次調査 A II区第6層出土遺物 (1/4)

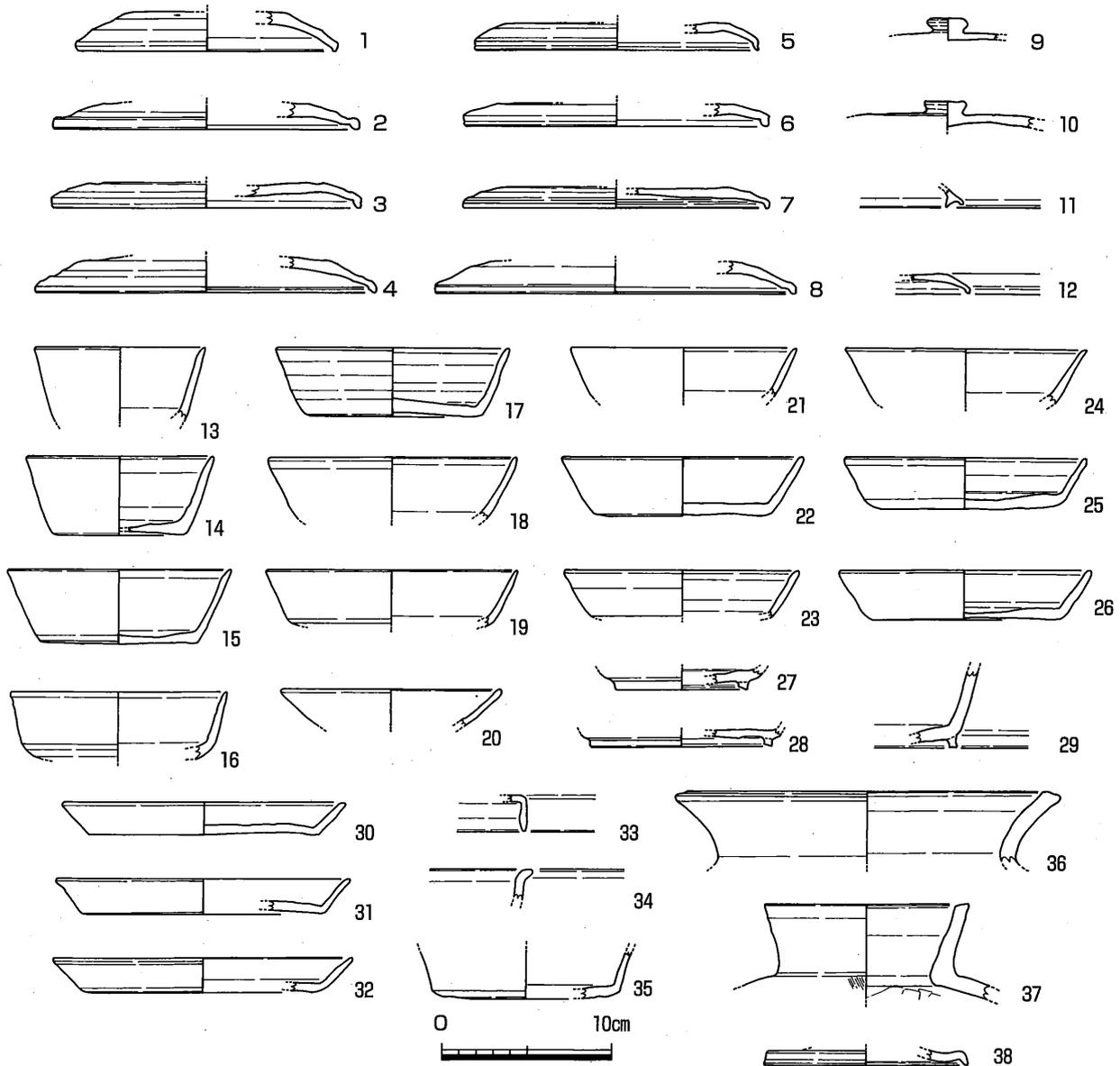
(4) 香川県内の出土類例

(i) 讃岐国府跡⁽¹⁾ 坂出市府中町

昭和52年度に香川県教育委員会により発掘調査された1次調査のもので、国府関係の遺構は検出されなかったが、奈良～平安時代の遺物包含層（第5層・第6層）が検出された。第5層からは奈良時代後半～平安時代の遺物が、第6層からは奈良時代後半の遺物が出土している。今回は空港跡地遺跡のSD b 19出土遺物との対比のため、須恵器を抽出して図化した。また第5層のものは平安時代初頭までのもの限定して抽出した。

A II区第6層出土須恵器（第276図）

1～16は杯蓋で、天井部は平坦で屈曲して口縁部に至るものである。中には天井部は窪んでいるものもある。中央部分が欠損しているものが多いが、基本的につまみが付くものと思われる。17～27は杯で、



第277図 讃岐国府跡第1次調査 B II区第6層出土遺物（1 / 4）

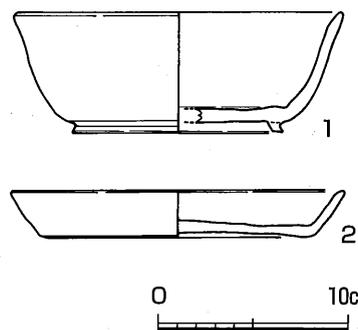
17～19は底部に高台を貼り巡らせるもの（杯B）である。18・19の高台は外側に踏ん張っている。20・21・23・24・25は平底のもの（杯A）である。底部はナデているが、21以外はヘラ切りの痕跡が残っている。25は器高が低く皿に近くなっている。底部はヘラ切りの後に板でナデておりハケ目状になっている。28～33は皿である。28の底部は残存部分はナデている。30～33の底部はヘラ切りの後にナデている。31は板ナデも加えている。

B II区第6層出土須恵器（第277図）

1～12は杯蓋で、A II区第6層のものと同様に天井部は平坦で屈曲して口縁部に至るものであるが、1は器高が高くなっている。13～29は杯で、14～17・22・25・26は平底のもの（杯A）である。底部は16が回転ヘラケズリを施す以外は、ヘラ切りの後にナデている。22はさらに板ナデを加えている。27～29は底部に高台を貼り巡らせるもの（杯B）である。30～32は皿で、底部は30がヘラ切りの後にナデ・板ナデ、31がヘラ切りの後にナデ、32は少ない残存部はナデている。

A II区第5層出土須恵器（第278図）

1は杯で、底部に高台を貼り巡らせるもの（杯B）である。器高は6.4cmと高く、高台は外側に踏ん張っている。底部はヘラ切りの後にナデている。2は皿で、底部はヘラ切りの後にナデており、切り離し部分に板ナデを施している。



第278図 讃岐国府跡第1次調査 A II区第5層出土遺物（1/4）

B II区第5層出土須恵器（第279・280図）

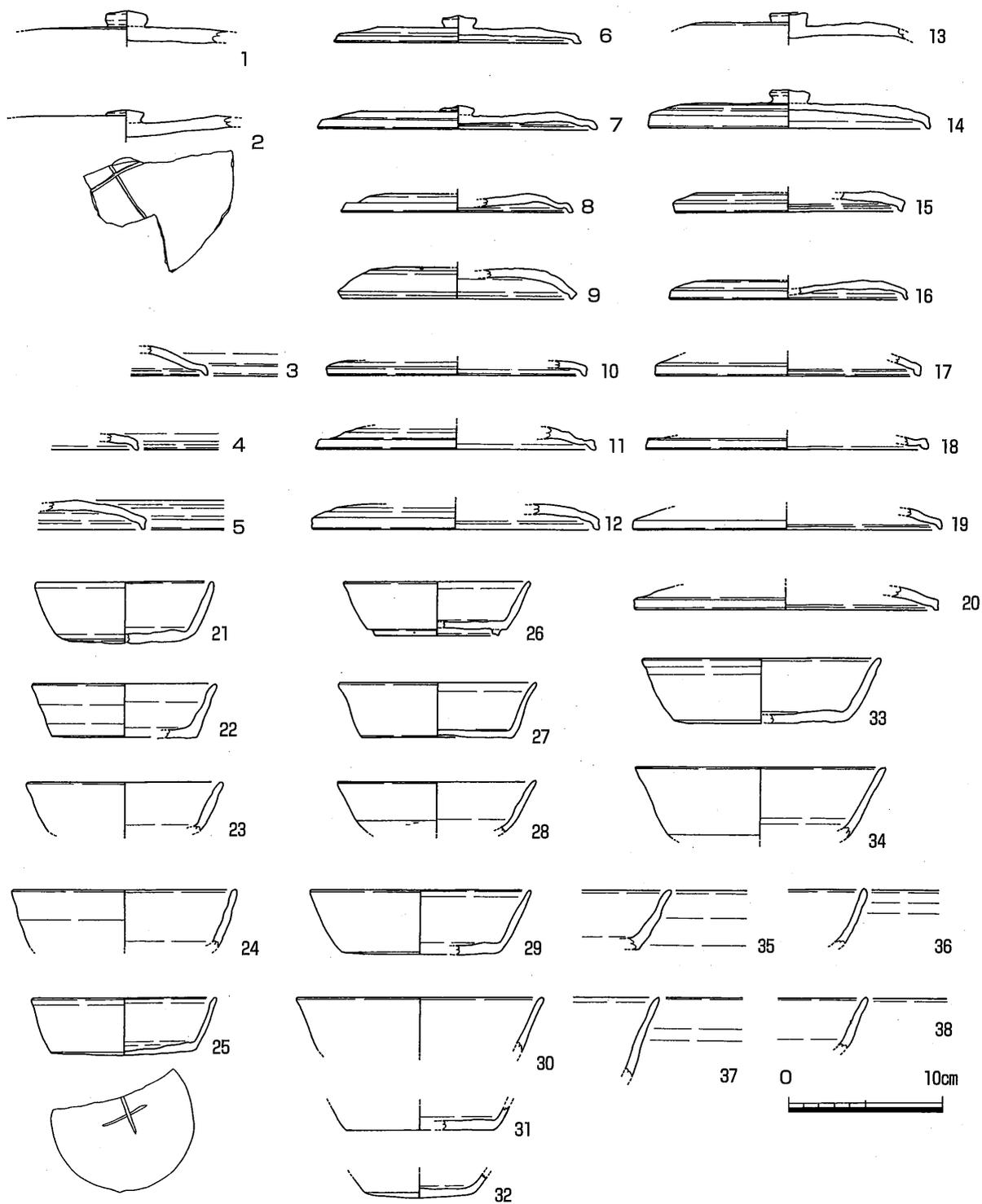
第279図1～20は杯蓋で、天井部は平坦で屈曲して口縁部に至り器高の低いものが多いが、9は器高が高く丸みを帯びている。21～38は杯で、21・22・25・27・29・31～33は平底のもの（杯A）である。21はヘラ切りの後に僅かにナデているが

未調整に近い。22・25・27・29・31・33はヘラ切りの後にナデているが、25・27・33は板ナデを加えており、27の板ナデは圧痕状になっている。32はヘラ切りの後に回転ヘラケズリを施し、その後にナデている。体部最下部から底部縁辺部には回転ヘラケズリが残っている。26は底部に高台を貼り巡らせるもの（杯B）で、ナデと板ナデによりヘラ切りの痕跡はほとんど認められない。連続したヘラ圧痕が認められる。

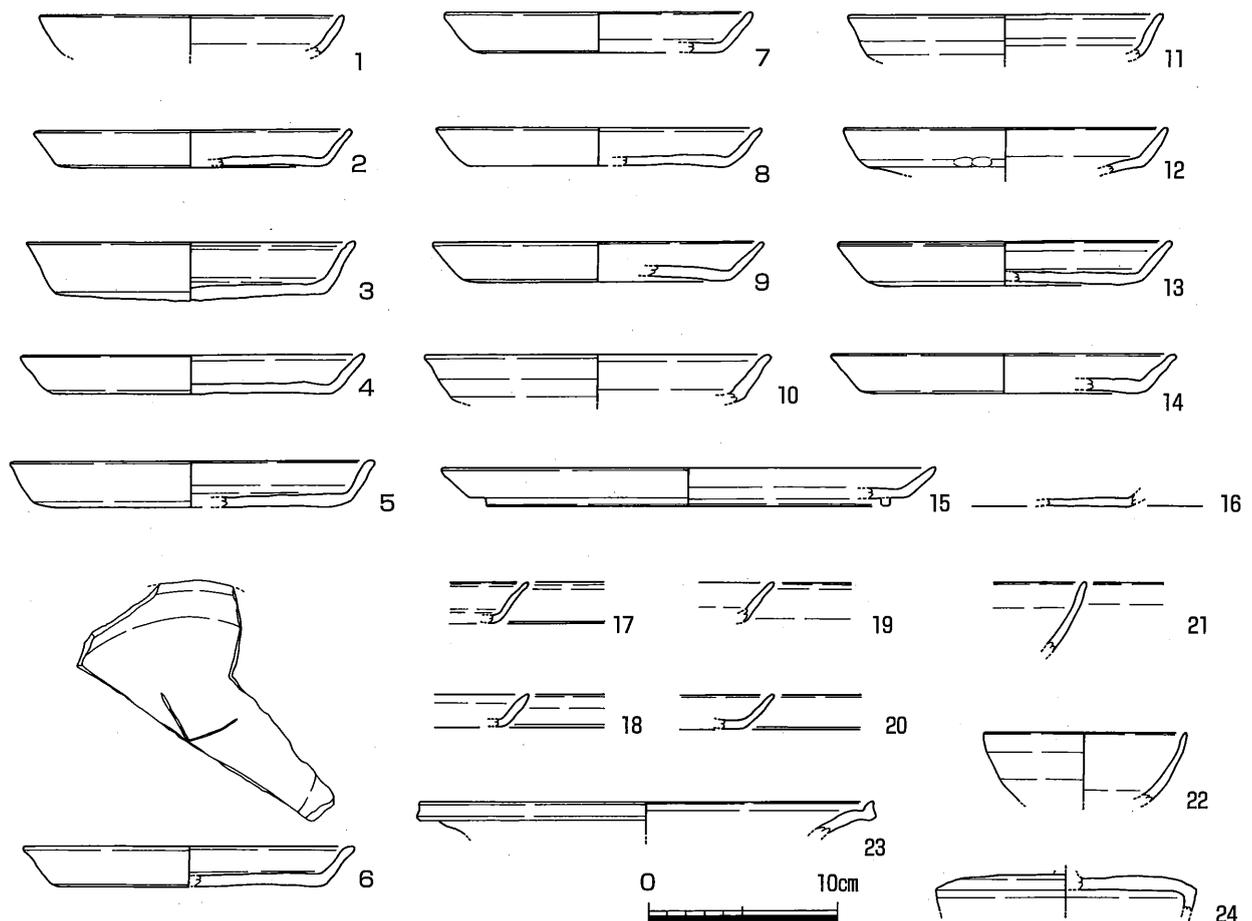
第280図1～20は皿である。底部は基本的にヘラ切りの後にナデているが、3のナデは弱くヘラ切り痕が明瞭に残っている。大部分はナデが強く、ヘラ切り痕は僅かしか残っていない。7・12・16はヘラ切り痕はナデによって消されている。

A II区・B II区を含めた第6層出土の杯Aは、口径が平均で13.3cm、器高が平均で3.8cm、径高指数は29になる。第6層出土の杯Bは2点のみで、口径10.8cm、器高4.0cm、径高指数37のものと、口径14.6cm、器高6.9cm、径高指数47のものがある。皿は口径が平均で17.0cm、器高が平均で2.1cm、径高指数は12である。

これに対してA II区・B II区を含めた第5層出土の杯Aは、口径が平均で12.9cm、器高が平均で3.9cm、径高指数は30になる。第5層出土の杯Bも2点のみで、口径17.0cm、器高6.4cm、径高指数38のものと、口径12.0cm、器高3.5cm、径高指数29のものがある。皿は口径が平均で17.3cm、器高が平均で2.3cm、径高指数は13である。



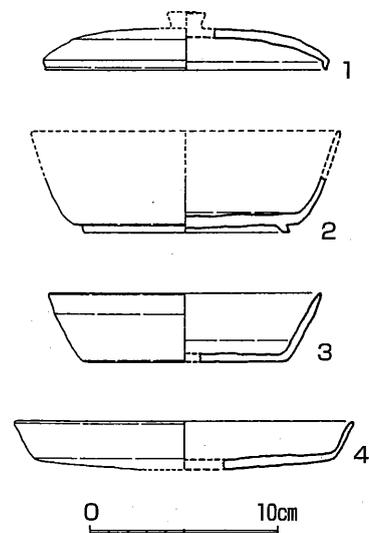
第279図 讚岐国府跡第1次調査 B II区第5層出土遺物 (1) (1/4)



第280図 讃岐国府跡第1次調査 B II区第5層出土遺物 (2) (1/4)

(ii) 定兼2号窯跡⁽²⁾ 綾歌郡綾南町 (第281図)

北条池の東部にあり、讃岐国府跡出土の須恵器の生産地のひとつと考えられているものである。発掘調査は行なわれていないが、採集された資料が4点紹介されている。それによると平底の杯Aは口径14.4cm、器高3.6cm、径高指数25、皿は口径18.0cm、器高は復元で2.5cm、径高指数14になっている。資料が少ないが、法量は讃岐国府跡出土資料に近似している。しかし杯蓋は天井部が丸みを帯びた傘形のもので、古い様相を示している。

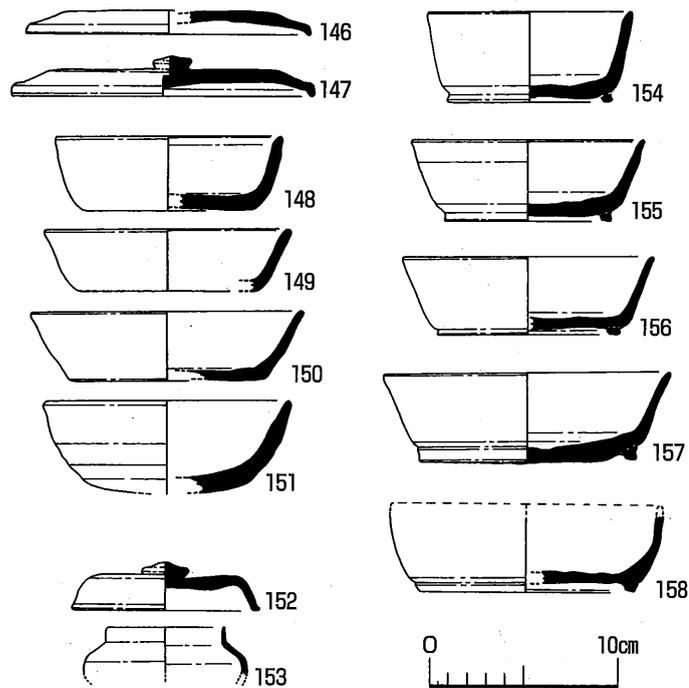


第281図 定兼2号窯跡出土遺物 (1/4)
註 (1) - b 文献より

(iii) 正箱遺跡⁽³⁾ 高松市檀紙町 (第282図)

平成2・3年度に香川県教育委員会により発掘調査が行なわれている。奈良・平安時代の集落を検出しているが、このうち集落に伴う区画溝と考えられているSD09~12から奈良時代末頃(8世紀後半~末)と考えられている遺物が出土している。これらの中から最も後出するSD10出土遺物を見ると、須恵器は杯蓋2点、平底の杯A 4点、

高台を持つ杯B 5点、壺蓋1点、短頸壺1点が報告されている。杯蓋の天井部は平坦で屈曲して口縁部に至る形態である。杯Aの底部はヘラ切りが認められるもの（報告150）1点、ヘラ切りの痕跡は認められずナデているもの2点、回転ヘラケズリを施しているもの1点である。このうち回転ヘラケズリを施している報告151は碗に近い形態である。報告148～150の口径は12.0～14.4cm、器高3.3～4.0cm、径高指数25～33である。杯Bの底部は報告154にヘラ切りの痕跡が認められる他はナデている。報告154が径高指数46、報告155～157は径高指数31～36である。



第282図 正箱遺跡 S D 10出土遺物（1 / 4） 註（3）文献より

(iv) 坪井遺跡⁽⁴⁾ 東かがわ市大内町（第283図）

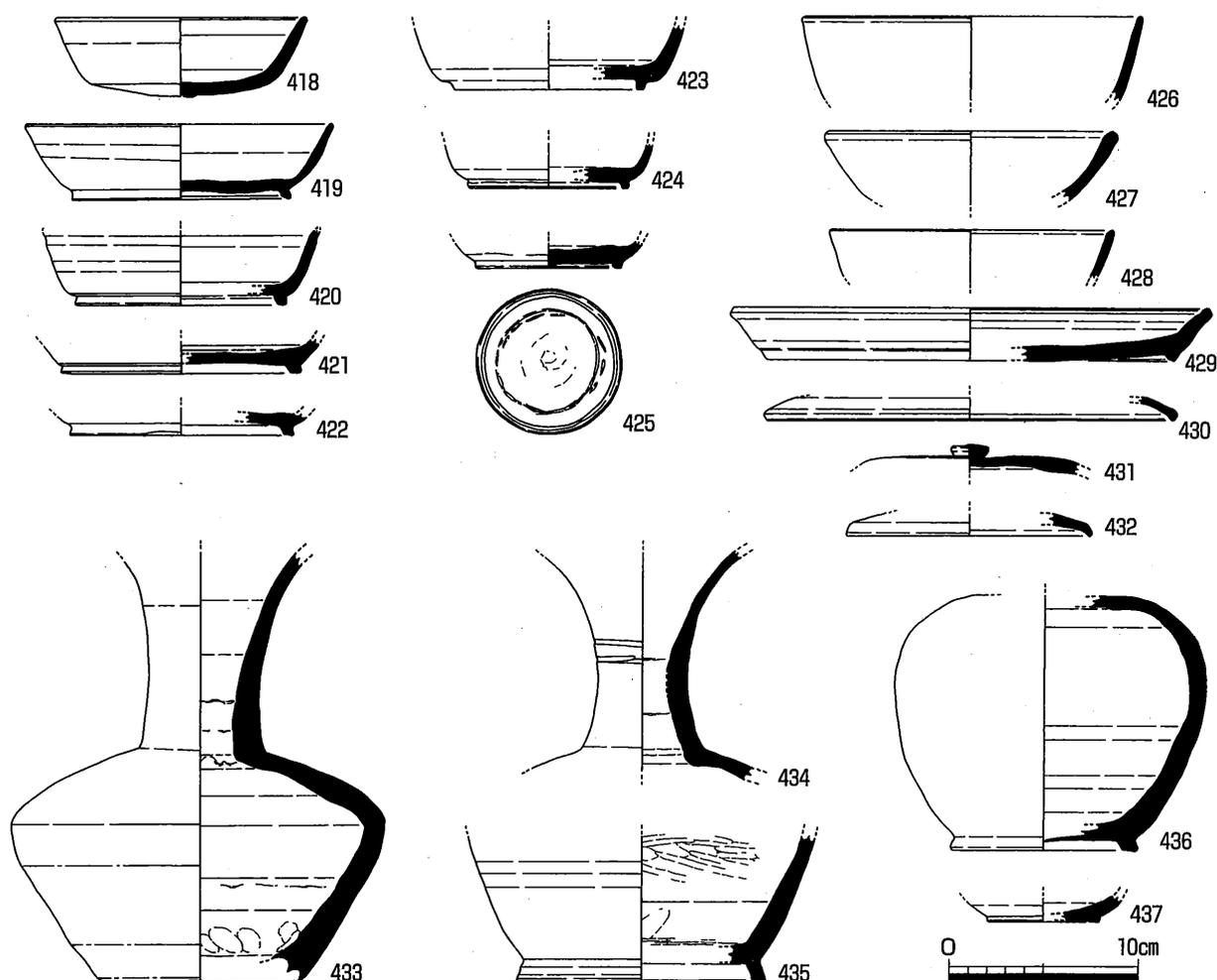
平成10年度に香川県教育委員会により発掘調査が行なわれており、奈良時代を中心とした集落跡が検出されている。遺物の大半は溝状遺構と自然流路からの出土で、8世紀後半と報告されている遺構はS D 44・86など10以上があるが、溝状遺構の性格からか時期差が認められるものが多い。しかしS B 05などの大型掘立柱建物跡を含む8世紀代の掘立柱建物跡が8棟ほどが検出されるなど、8世紀後半を含む資料としては注目される。

(5) 空港跡地遺跡 S D b 19出土遺物の所属時期について

圧倒的に出土量の多い須恵器についてみると次のような特徴が認められる。

- ・杯蓋は天井部が平坦で途中で屈曲して口縁部に至る形態のものが大部分である。
- ・杯、皿の底部はヘラ切りの後を完全に消さないで、軽くナデて凹凸を取り去る程度のものが多い。ヘラケズリを施したり、丁寧にナデるものもあるが、全体的には調整の簡略化、雑駁化の傾向がある。
- ・杯Aは法量によって3群に分かれるが、器高の差はあまりなく主に口径の差になっており、口径が15.0cmを超えるものは8点（9%）のみである。
- ・杯Bは法量によって2群に分かれ、口径・器高とも差がある。
- ・皿の法量は土師器の皿の法量とほぼ同じである。

以上のことから、法量としては平城宮Vの基準資料となっている平城宮S K 2113・S K 870出土須恵器⁽⁵⁾より縮小しており、長岡宮北辺官衙域S D 19605⁽⁶⁾や長岡宮朝堂院北西官衙S D 20620⁽⁷⁾出土須恵器に近似している。また底部調整もヘラ切り痕跡が認められるものが多くなり簡略化、雑駁化してい



第283図 坪井遺跡 S D 86出土遺物 (1 / 4) 註 (4) 文献より

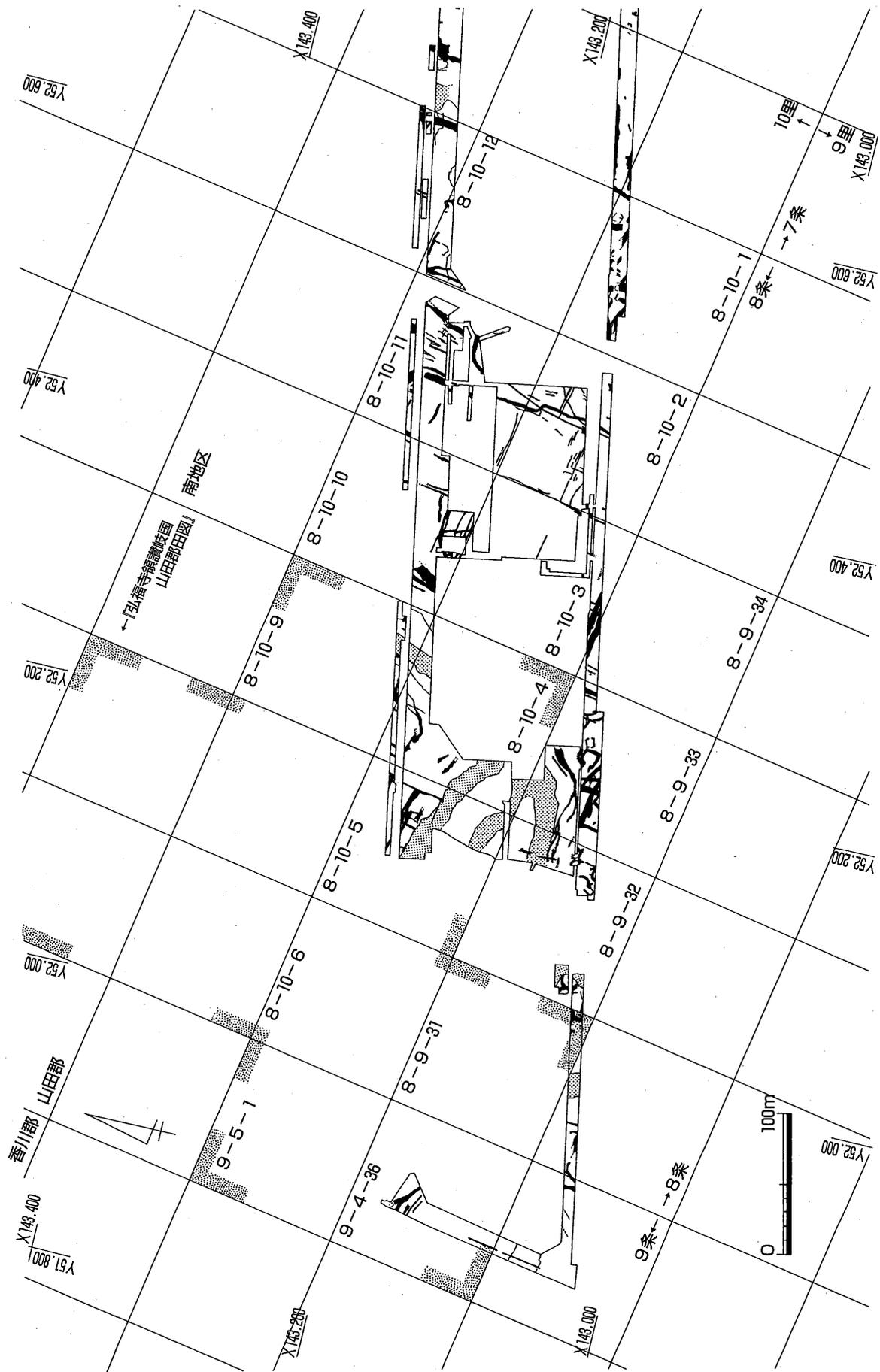
る。従って S D b 19 は 8 世紀後半から、その中心は 8 世紀第 4 半期の長岡京期頃を中心とする時期のものと考えられる。

第 3 節 条里地割との関係について

(1) はじめに

空港跡地遺跡は旧山田郡に所在している。特に空港跡地遺跡の西部から遺跡の北側一帯は、現存本は 12 世紀前後の写本と考えられているが、内容は天平 7 (735) 年の年号が記載されている日本最古の田図である『弘福寺領讃岐国山田郡田図』(以下『田図』と略する)に描かれた地域と考えられている。『田図』は北地区と南地区に分かれ、北地区は高松市林町の大池を中心とする地域、南地区は空港跡地遺跡の西部 (A 区・K 区) とその北側一帯と考えられている。そして今回報告している B 区は『田図』南地区比定地の東側に隣接していることになる。

『田図』には地割と考えられる方格線が描かれており、各々の方格内には田名や束代制関連項目などが記載されているが、条里制の呼称は記載されていない。つまり条里地割は成立しているが、条里呼称は未成立の段階と考えられている。これに対して『田図』の後に出版された、天平宝字 7 (763) 年讃岐



第284図 空港跡地遺跡（Ⅰ区・Ⅱ区西部）と条里地割（1/4000）

国山田郡弘福寺田内校出田注文には条里呼称が記載されていることから、天平7年から天平宝字7年の間、すなわち8世紀中頃に条里呼称が成立したと考えられることが指摘されている。また鵜足郡の内容を記載しているものであるが、天平勝宝9(757)年の法隆寺文書には小字地名的な名称を用いており条里の呼称はなされていないことから、さらに絞り込んで讃岐国では天平勝宝9年から天平宝字7年の間(757~763)に条里呼称が成立したと考えられている⁽⁸⁾。

以上のことから、空港跡地遺跡周辺は条里制を考えるうえでも重要な地域と言える。そこで空港跡地遺跡B区を中心として、主に検出された溝状遺構と条里地割との関係を主眼において、若干の検討を行なうこととする。

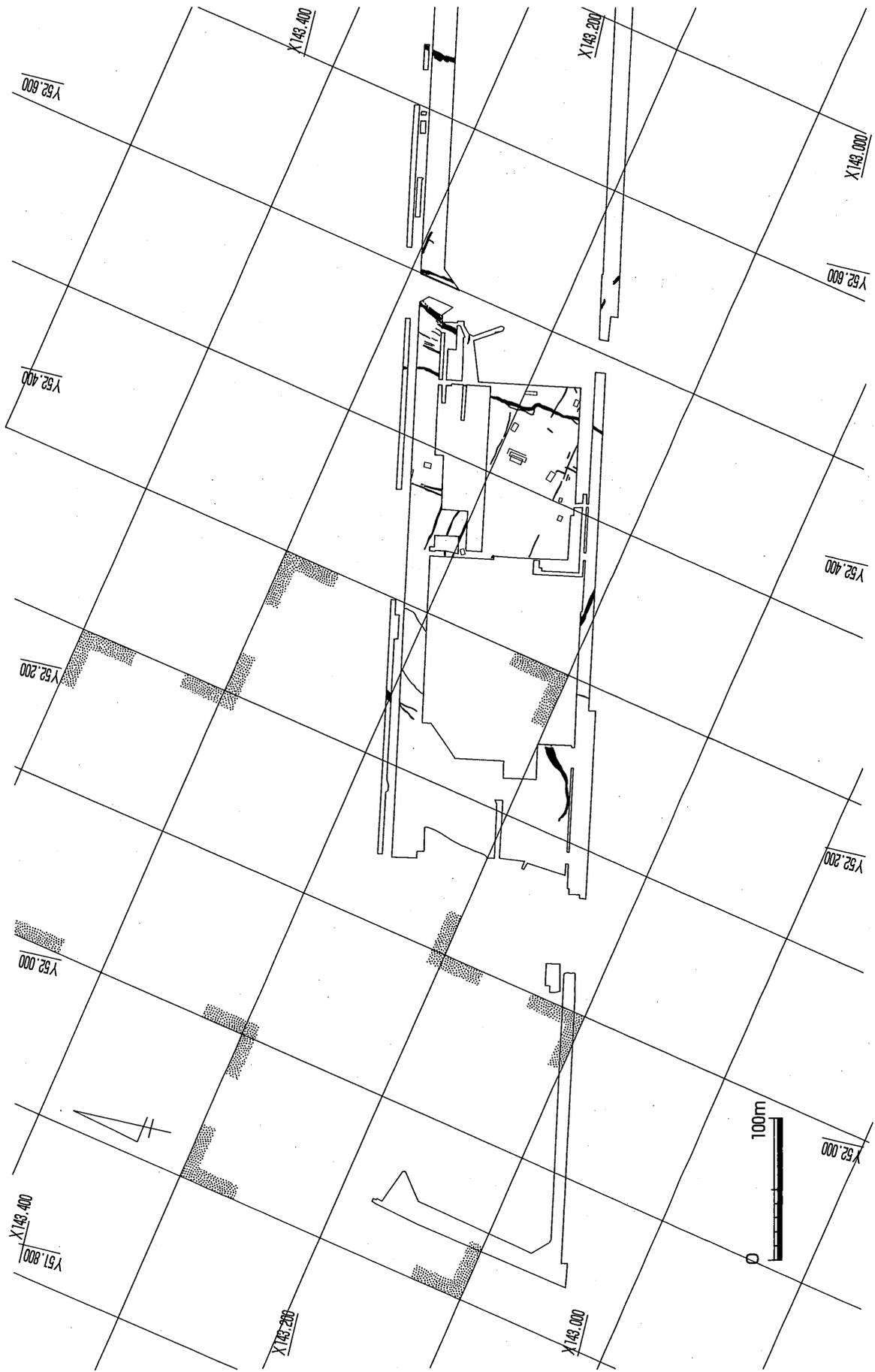
(2) 山田郡条里と空港跡地遺跡

『田図』にも記載されているように、当該地は山田郡と香川郡の郡境の山田郡側にあり、空港跡地遺跡の西端部(I-14・15・22区)が郡境に比定されている。山田郡は東から西に向かって1条から9条があり、南から北に向かって1里から数え進んでいる。坪は東南隅から西に向かって千鳥式に数えるものである。そして方格地割の南北線はN-10°~11°-Eの方位となっている。山田郡条里については高重進・福尾猛市郎・米倉二郎・金田章裕らの研究⁽⁹⁾があり、それらの成果によると空港跡地遺跡B区は山田郡8条10里2・3・10・11坪に相当することになる。そしてこれらの研究成果を基に空港跡地遺跡全体の条里地割の復元を木下晴一が『空港跡地遺跡V』で行なっている⁽¹⁰⁾。この木下の復元図の今回報告のB区を中心とした部分が第284図である。この木下の復元図は古代~近世の溝を含んでおり、木下も述べているように遺構の年代差は考慮されていないものである。そこで今回報告のB区について古代と中世について溝を抽出し、掘立柱建物跡を加えたものが第285図と第286図である。また古代・中世の詳細は本章第1節の遺構の変遷の中で述べているとおりである。

古代では、坪界に相当する溝はSD b 29・30・38の3条あるが位置的にみても本来同一の溝であった可能性があるものである。これらの溝は山田郡8条10里の中の2・3坪と10・11坪の坪界に非常に近い位置にある。このSD b 29・30・38は7世紀前半の所産と考えられるものである。しかし本章第1節の遺構の変遷の中の古代1の部分で述べたように、条里地割の形成が7世紀前半まで遡ることを直接的に証明するものではない。しかしこの段階ですでに条里地割の方向に一致する溝が掘削されており、さらにこの溝が条里地割の坪界部分に近似していることは山田郡条里を考える上で非常に重要となってくるものである。

古代で最も規模が大きく幹線水路と考えられる溝のSD b 19は8世紀第4四半期を中心とするものである。このSD b 19は山田郡8条10里の2・11里の1町方格の中央部分、つまり半町部分に位置する南北方向の溝である。そして2坪と11坪の坪界付近で屈曲して全体に西側に平行移動している。ちょうど坪界部分で位置のずれを修正しているような感を受ける。

SD b 38の北側8mの所にSD b 37がある。このSD b 37は若干湾曲しているが、ほぼSD b 38に平行している。さらに先述したSD b 29・30・38の南側50m(約半町)の部分、またSD b 37からは南側57m(約半町)の位置に、遺構番号は付与していないがSD b 11の西側27mの位置にSD b 11続きと考えられる溝が16mほど検出されている。この溝はSD b 11・12・13と同様に本来同一であった可能性が高く、8世紀第4四半期を中心とするものと考えられる。ここからさらに南側51m(約半町)の部分にも古代と考えられている『空港跡地遺跡V』で報告されたI-11区のSD a 46が平行している。このSD



第285図 空港跡地遺跡（I区・II区西部）と条里地割（古代）（1 / 4000）

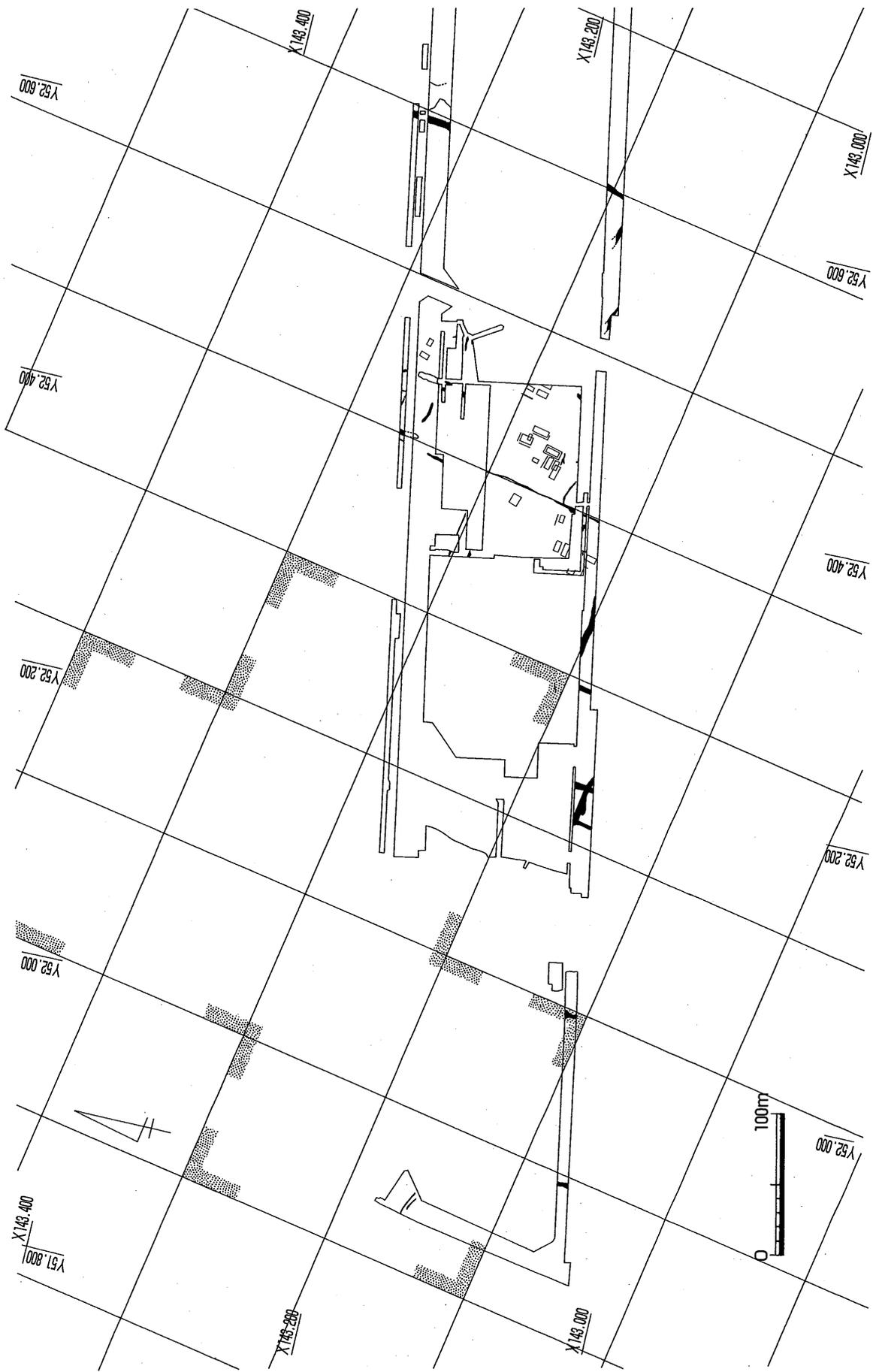
a 46は山田郡8条の9里と10里の里界のラインと5 m前後の至近距離にある。そしてSD a 46とSD b 38との距離は109m (1町) になっている。

以上のように古代にはすでに条里地割の方向に一致した規則的な溝が数条見られる。しかし古代の遺構の中心となる8世紀後半には、空港跡地遺跡B区の東側には掘立柱建物跡が建てられ居住区域になっている。律令国家が墾田の許可や所在の確認などの土地管理を行なう必要性から導入された条里制を直接的に反映している水田部分は調査区内では検出されていない。空港跡地遺跡B区の西側の遺構の空白部分が耕作地であった可能性は高いが、遺構の変遷の古代2で述べたように、この部分の遺構面は砂礫層で水田耕作には不適な場所で、この部分は『田図』南地区の南東隅に壟と記載されている坪の東隣に相当している。先述のように空港跡地遺跡B区では1町方格を基礎とする条里地割は復元されたような明瞭な形では示されているとはいえないが、半町規模あるいは周辺地区を含めると1町間隔の溝が存在する。居住区域では大山真充が指摘しているように、古代における条里地割の方向に合った溝は屋敷地に伴う区画溝の可能性もあろう⁽¹¹⁾。しかし古墳時代から古代において区画施設をもつものの大部分は首長級の屋敷地である。一般的な屋敷地に伴う区画溝は西日本では11世紀以降に見られ、13世紀以降に増加する傾向にある。従って一般的な農村集落と考えられるB区の集落で溝を区画施設と考えるのは困難である。集落内で井戸が検出されていないことから、水路は生活水を確保するためにも使用されたと考えられる。そして集落を抜ければ、また灌漑用の水路となった。居住区の周囲に生産域である条里地割が施行されていた水田が展開していたとすれば、掘立柱建物跡の主軸が条里地割の方向に合うか近似するものが多くなることから、その延長として居住区にも条里地割の方格子地割に合う屋敷地計画や建物配置計画がなされ、これらに伴い集落内の水路も計画配置されたと考えることができる。集落の中心部分を貫くSD b 19はこのような水路の中心的なものと考えられる。しかしこのような条里制に基づく計画的な村落を志向したとしても、検出遺構からみても明らかなようにその実態はまだ不完全なものであったと言える。

次に中世になると、古代の基幹水路であるSD b 19はすでに埋没しており、代わりにSD b 41が基幹水路として掘削される。このSD b 41は山田郡8条10里の2坪と3坪との坪界になっている。このSD b 41の東側は中世全般にわたり居住区域となっており、掘立柱建物跡が3棟前後で1単位となり変遷している。掘立柱建物跡の主軸は条里地割の方向と一致している。この居住区域には中世前半にSD b 41と直交するSD b 43・44と平行するSD b 48があるが、いずれも規模は小さい。これらは小規模ながら中世に普遍的に見られる屋敷地あるいは建物を区画する溝と考えられ、灌漑水路とは考え難いものである。生活水は掘立柱建物跡群の南側にある井戸SE b 01から取水していたと考えられる。

これに対してSD b 41の西側は、中世前半には南西側の微高地に条里地割の方向に一致した主軸をもつ掘立柱建物跡群がある。しかし北西側一帯は中世中頃までは遺構は検出されていない。中世後半になると西側にはSD b 41と直交するSD b 56が掘削される。このSD b 56は近世まで継続する溝で、山田郡8条10里の3坪と10坪の坪界に近似した位置にある。さらに古代の部分で検討した『空港跡地遺跡V』で報告されたI-11区のSD a 46の南側に隣接して並走するSD a 53は山田郡8条の9里と10里の里界で、山田郡8条10里3坪の南辺に相当する。当然のことながらこのSD a 53とSD b 56の間隔は1町で、これとSD b 41により山田郡8条10里3坪の北側と南側と東側の境界が示されたことになる。中世段階では条里地割の具体的な施行例が考古学的に証明されている。

近世では、中世後半からSD b 56は継続して機能しており、このSD b 56の東側の延長部分のI-4



第286図 空港跡地遺跡（I区・II区西部）と条里地割（中世）（1 / 4000）

区にも溝が13mほど検出されている。そして空港跡地遺跡B区の東端部にSD b 64・65が掘削される。SD b 65は古代のSD b 19と至近距離にあり、坪の中央を南北に貫いている。そしてSD b 65の続きと考えられるSD b 64は南北方向から東方向に90°近く湾曲している。この状況は文化15(1818)年『山田郡下林村順道図絵』及び明治21年地籍図にも記されている⁽¹²⁾。そしてSD b 64はこれら絵図や地籍図によると、空港跡地遺跡B区と東側のC区との境の現状で道路になっている部分で再び北側に向かって湾曲している。そしてこの北向きになった部分は坪界に相当している。

以上のように、空港跡地遺跡B区と山田郡条里との関連について述べて来たが、現在でも空港跡地遺跡の周辺では条里地割が認められるし、高松市六条町などその名残りが地名として残っている。

(註)

- (1) (a) 大山真充他『讃岐国府跡』香川県教育委員会 1982
上記報告書 p 8 の第7図に遺物の実測図が一部掲載されている。
また昭和52年2月に坂出市教育委員会による調査により出土した遺物については、下記文献にその一部が紹介されている。
(b) 渡部明夫「讃岐国の須恵器生産について」『鏡山猛先生古稀記念 古文化論攷』1980 p 513
- (2) 渡部明夫「讃岐国の須恵器生産について」『鏡山猛先生古稀記念 古文化論攷』1980 p 512
- (3) 廣瀬常雄・西村尋文『正箱遺跡・薬王寺遺跡』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター 1994
- (4) 小野秀幸『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第四十冊 坪井遺跡』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター 2002
- (5) 『平城宮発掘調査報告Ⅶ』奈良国立文化財研究所 1976
- (6) 松崎俊郎「長岡宮第196次(7AN12G地区)～北辺官衙(南部)～大蔵～発掘調査概要」『向日市埋蔵文化財調査報告書第24集』向日市教育委員会 1988
- (7) 松崎俊郎「長岡宮第206次(7AN13J地区)～朝堂院北西官衙～発掘調査概要」『向日市埋蔵文化財調査報告書第29集』財団法人向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会 1990
- (8) 金田章裕「高松平野の条里と弘福寺領讃岐国山田郡田図」『讃岐国弘福寺領の調査』高松市教育委員会 1992
- (9) 高重進「弘福寺領山田郡田図の集落とその比定」『史学研究』55号 1954
福尾猛市郎「讃岐国山田郡弘福寺領田図」考『社会科教育歴史・地理研究論集』1957
後に『日本史選集』福尾猛市郎先生古稀記念会 1979に再録
米倉二郎「庄園図の歴史地理的考察」『広島大学文学部紀要』12号 1957
金田章裕「条里と村落生活」『香川県史1 原始・古代』香川県 1988
金田章裕「高松平野の条里と弘福寺領讃岐国山田郡田図」『讃岐国弘福寺領の調査』高松市教育委員会 1992
金田章裕「高松平野における条里地割の形成」『讃岐国弘福寺領の調査Ⅱ』高松市教育委員会 1999

- (10) 木下晴一「『弘福寺領讃岐国山田郡田図』との関連」『空港跡地遺跡Ⅴ』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター 2002
- (11) 大山真充「弘福寺領讃岐国山田郡田図の方格線」『日本古代の社会と政治』佐伯有清先生古稀記念会 1995
- (12) 山田郡下林村順道図絵については『弘福寺領讃岐国山田郡田図比定地域発掘調査概報Ⅲ』高松市教育委員会 1990 のp 58～59に収録されている。
また下記の空港跡地遺跡の報告書にも収録されている。
『空港跡地遺跡Ⅳ』2000 p 497
『空港跡地遺跡Ⅷ』2004 p 15
明治21年地籍図についても下記の空港跡地遺跡の報告書に収録されている。
『空港跡地遺跡Ⅲ』1998 p 187～191
『空港跡地遺跡Ⅷ』2004 p 13～14

觀 察 表

遺物観察表 土器

報告番号	器種	口径	器高	底径	残存率	色調・外	色調・内	調整・外	調整・内	粘土	角四石	報告遺構名	備考
1	弥・甕	-	-	-	4/8	10YR8/2灰白	-	ナデ、タタキ後ナデ	ナデ、ハケ目、マメツ	細・少		SHb01	
2	弥・甕	-	-	-	細片	10YR6/3にぶい黄橙	-	ナデ、マメツ	ナデ、板ナデ	微・普	○	SHb01	
3	弥・鉢	-	-	1.2	8/8	5YR7/8橙	-	指押さえ、マメツ	指押さえ、マメツ	細・少		SHb01	
4	弥・鉢	-	-	3.3	2/8	7.5YR7/4にぶい橙	-	指押さえ、板ナデ、ナデ	ハケ目	中・少		SHb01	
5	弥・甕	-	-	4.0	6/8	10YR7/4にぶい黄橙	-	タタキ、ナデ	板ナデ	中・少		SHb02	
6	弥・鉢	288	-	-	細片	5YR4/3にぶい赤褐	2.5YR6/4にぶい橙	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ハケ目	細・少		SHb02	
7	弥・鉢	-	-	4.5	3/8	10YR7/4にぶい黄橙	2.5YR6/8橙	タタキ後ハケ目	ハケ目	中・少		SHb02	
8	弥・鉢	124	30	27	2/8	5YR6/6橙	-	指押さえ、ナデ	指押さえ、ナデ	細・少		SHb02	
9	弥・鉢	121	59	28	8/8	2.5YR6/8橙	-	タタキ後ハケ目	ハケ目	細・普		SHb02	
10	弥・鉢	107	73	19	8/8	5YR6/6橙	-	ナデ、指押さえ	ナデ、板ナデ、指押さえ	細・少		SHb02	
11	弥・鉢	204	-	-	1/8	10YR7/4にぶい黄橙	-	ヨコナデ、しほり目、ナデ	ヨコナデ、ハケ目	細・普		SHb02	
13	弥・甕	127	-	-	1/8	10YR8/4浅黄橙	-	マメツ	ハケ目、マメツ	細・少		SHb03	
14	弥・甕	-	-	6.4	8/8	5YR5/6明赤褐	-	板ナデ	板ナデ	細・少		SHb03	
15	弥・鉢	-	-	3.9	8/8	10YR8/4浅黄橙	-	板ナデ、指押さえ、マメツ	指押さえ、マメツ	粗・少		SHb03	
16	弥・鉢	203	81	79	1/8	5YR6/6橙	-	ナデ、ハケ目	指押さえ、マメツ	細・少		SHb03	
17	弥・鉢	174	70	39	7/8	10YR4/1褐灰	7.5YR6/4にぶい橙	ヨコナデ、ハケ目、指押さえ	ヨコナデ、ハケ目、指押さえ	中・普	○	SHb03	
18	弥・鉢	-	-	4.4	5/8	10YR7/4にぶい橙	2.5Y7/1灰白	指押さえ、ナデ、マメツ	指ナデ、指押さえ	細・少		SHb03	
20	弥・甕	161	-	-	1/8	7.5YR7/4にぶい橙	-	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、板ナデ	微・少		SHb04	
21	弥・鉢	93	35	44	7/8	7.5YR7/4にぶい黄橙	-	ナデ、指押さえ	板ナデ	中・少		SHb04	
22	弥・鉢	95	37	41	6/8	10YR7/4にぶい黄橙	-	タタキ後指ナデ、指押さえ	板ナデ	細・普		SHb04	
23	弥・鉢	100	61	16	6/8	5YR6/4にぶい橙	-	ナデ、ハケ目	ハケ目、マメツ	細・少	○?	SHb04	
24	弥・鉢	202	83	68	7/8	7.5YR8/4浅黄橙	-	ナデ、ハケ目	ハケ目	中・少		SHb04	
25	弥・鉢	227	-	-	3/8	7.5YR8/4浅黄橙	-	ナデ、ハケ目	ナデ、ハケ目	中・少		SHb04	
27	弥・甕	166	-	-	4/8	5YR6/6橙	7.5Y3/1オリーブ黒	ナデ、ハケ目、指押さえ	ナデ、指押さえ、ハケ目	中・普		SHb06	
28	弥・甕	164	-	-	6/8	5YR6/6橙	5YR7/4にぶい橙	ヨコナデ、ハケ目、指押さえ	ヨコナデ、指押さえ、マメツ	細・多	○	SHb06	
29	弥・甕	85	-	-	6/8	5YR7/6橙	-	ハケ目、指押さえ	ナデ、マメツ	細・普		SHb06	
30	弥・甕	94	-	-	4/8	7.5YR6/4にぶい橙	5YR7/6橙	ハケ目、指押さえ	ヨコナデ、指押さえ、しほり目	細・少	○	SHb06	
31	弥・甕	79	158	38	4/8	7.5YR6/4にぶい橙	-	ヨコナデ、ハケ目、ハケ目後ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、ナデ	細・普	○	SHb06	
32	弥・甕	-	-	4.4	8/8	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/4にぶい褐	ヨコナデ、ハケ目、ハケ目	ヨコナデ、ハケ目、指押さえ、ナデ	細・少	○	SHb06	
33	弥・甕	40	85	51	8/8	7.5YR4/1褐灰	2.5Y3/1黒褐	ナデ、指押さえ、ハケ目	ナデ、指押さえ	細・少	○	SHb06	
34	弥・甕	118	188	39	8/8	5YR6/6橙	-	ヨコナデ、ハケ目、ハケ目	ヨコナデ、ハケ目	中・普	○?	SHb06	
35	弥・甕	134	161	36	8/8	7.5YR6/3にぶい褐	-	ヨコナデ、ハケ目、指押さえ	ナデ、ハケ目、指押さえ	細・普		SHb06	
36	弥・高杯	253	154	168	7/8	2.5YR6/8橙	-	ヨコナデ、ハケ目	ハケ目、指押さえ、マメツ	細・普		SHb06	3方透かし
37	弥・高杯	150	-	-	5/8	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/3にぶい褐	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ハケ目	細・少	○	SHb06	
38	弥・鉢	118	54	37	8/8	5YR7/6橙	-	指押さえ、ナデ	指押さえ、板ナデ	細・普		SHb06	
39	弥・鉢	104	72	45	欠片	2.5YR7/8橙	2.5YR6/8橙	指押さえ、ナデ	板ナデ、ナデ	細・少		SHb06	
40	弥・甕	86	-	-	1/8	7.5YR5/6明褐	10YR6/2灰黄褐	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ハケ目	細・少	○	SHb07	
41	弥・甕	164	-	-	2/8	7.5YR6/4にぶい橙	-	ヨコナデ、マメツ	ヨコナデ、ナデ、マメツ	細・少	○	SHb07	
42	弥・甕	123	-	-	4/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ナデ、指押さえ	細・普	○	SHb07	
43	弥・甕	119	-	-	2/8	7.5YR6/4にぶい橙	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、板ナデ、指押さえ	細・少	○	SHb07	
44	弥・甕	140	-	-	5/8	7.5YR6/6橙	-	ヨコナデ、ハケ目、指押さえ	ヨコナデ、ハケ目、指押さえ、しほり目	細・少	○	SHb07	
45	弥・甕	132	-	-	3/8	5YR5/4にぶい赤褐	7.5YR5/4にぶい褐	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、板ナデ	細・普	○	SHb07	
46	弥・甕	154	-	-	2/8	5YR5/4にぶい赤褐	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、ハケ目、マメツ	細・少	○	SHb07	
47	弥・甕	156	-	-	6/8	7.5YR8/3浅黄橙	10YR8/2灰白	ナデ、ハケ目	ナデ、指押さえ、板ナデ	中・普		SHb07	「鹿」の線刻画
48	弥・甕	154	-	-	6/8	5YR7/6橙	5YR6/6橙	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、ハケ目、マメツ	中・少		SHb07	
49	弥・甕	155	-	-	2/8	7.5YR5/6明褐	7.5YR4/4褐	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ	細・普	○	SHb07	ヘラ描沈線
50	弥・甕	125	-	-	6/8	5YR7/6橙	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ナデ、指押さえ、ハケ目	中・少		SHb07	列点文
51	弥・甕	170	-	-	3/8	7.5YR6/4にぶい橙	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、板ナデ	微・少	○	SHb07	ヘラ描沈線3条
52	弥・甕	-	-	-	6/8	5YR6/6橙	10YR4/1褐灰	ハケ目後ヨコナデ、ハケ目、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、板ナデ、ハケ目	中・少	○	SHb07	ヘラ庄痕文
53	弥・甕	147	272	57	2/8	5YR5/4にぶい赤褐	10YR5/1褐灰	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、板ナデ、マメツ	中・普	○?	SHb07	列点文
54	弥・甕	132	復元 31.9	60	5/8	10YR7/3にぶい黄橙	-	ナデ、タタキ後ハケ目、ハケ目	ナデ、指押さえ、指ナデ、ハケ目	中・普		SHb07	ヘラ描「絵画」

報告書番号	器種	口径	器高	底径	残存率	色調・外	色調・内	調整・外	調整・内	胎土	角閃石	報告書備考名	備考
55	弥・壺	117	-	-	3/8	75YR7/4にぶい橙	-	ヨコナデ	ヨコナデ	胎・少	○	SHb07	
56	弥・壺	120	-	-	1/8	75YR5/4にぶい褐	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、板ナデ、指押さえ、マメツ	胎・普	○	SHb07	
57	弥・壺	130	-	-	1/8	75YR7/4にぶい橙	75YR6/4にぶい橙	ヨコナデ、ハラミガキ	板ナデ、ハラケズリ、ハケ目、マメツ	胎・少	○	SHb07	
58	弥・壺	103	-	-	2/8	75YR6/6橙	-	ヨコナデ、マメツ	マメツ	胎・普	○	SHb07	竹管文
59	弥・壺	148	-	-	2/8	5YR5/6明赤褐	-	指押さえ、ヨコナデ、ハケ目	指押さえ、ヨコナデ、マメツ	胎・普	○	SHb07	
60	弥・壺	160	復元 32.9	7.2	5/8	75YR5/3にぶい褐	25YR5/6明赤褐	ヨコナデ、ハラミガキ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、ハラケズリ	中・普		SHb07	
61	弥・壺	170	-	-	4/8	5YR6/6橙	75YR6/4にぶい橙	ヨコナデ、マメツ	ヨコナデ、指ナデ、マメツ	中・多		SHb07	
62	弥・壺	165	47.0	11.8	3/8	25YR6/6橙	25Y4/7黄灰	ヨコナデ、ハケ目、ナデ	指押さえ後ナデ、ハラケズリ、板ナデ	中・多		SHb07	
63	弥・壺	288	-	-	5/8	75YR6/6橙	-	ヨコナデ、ハケ目後ハラミガキ	ヨコナデ、ハケ目、ハケ目後指ナデ、マメツ	細・少		SHb07	
64	弥・壺	127	-	-	6/8	75YR6/3にぶい褐	-	ヨコナデ、ハケ目後ハラミガキ	ヨコナデ、ナデ、指押さえ、ハラケズリ	細・少	○	SHb07	竹管文
65	弥・壺	160	-	-	3/8	5YR7/6橙	10YR7/4にぶい黄橙	マメツ	マメツ	中・多		SHb07	
66	弥・壺	90	-	-	2/8	75YR7/4にぶい橙	75YR5/3にぶい褐	ヨコナデ、ハラミガキ、マメツ	ヨコナデ、ハラケズリ	中・少		SHb07	
67	弥・壺	140	-	-	2/8	25YR7/4後赤橙	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、板ナデ	細・少		SHb07	
68	弥・壺	100	-	-	1/8	5YR6/6橙	-	ヨコナデ、ハケ目	ハケ目、ハラケズリ	胎・少		SHb07	
69	弥・壺	160	-	-	2/8	75YR6/4にぶい橙	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ハラケズリ、指押さえ	胎・普		SHb07	
70	弥・壺	116	復元 16.6	5.1	6/8	75YR6/4にぶい橙	5YR5/4にぶい赤褐	ヨコナデ、ハケ目後ハラミガキ、指押さえ	ヨコナデ、工具痕、ハラケズリ、指押さえ	中・普		SHb07	
71	弥・壺	118	18.0	4.1	3/8	5YR6/6橙	-	ナデ、指押さえ、ハケ目、マメツ	ナデ、ハケ目、ハラケズリ、マメツ	中・少		SHb07	
72	弥・壺	155	-	-	1/8	5YR6/6橙	-	ヨコナデ、ハケ目後ナデ	ヨコナデ、ナデ、指押さえ	胎・普	○	SHb07	
73	弥・壺	137	-	-	1/8	5YR5/4にぶい赤褐	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ	細・少	○	SHb07	
74	弥・壺	106	-	-	2/8	5YR5/6明赤褐	5YR5/4にぶい赤褐	ヨコナデ、ハケ目、マメツ	ヨコナデ、指押さえ	胎・普	○	SHb07	
75	弥・壺	134	-	-	1/8	75YR4/4褐	-	ナデ、タタキ後ハケ目	ナデ、指押さえ	細・少	○	SHb07	
76	弥・壺	143	-	-	1/8	5YR5/4にぶい赤褐	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ	胎・普	○	SHb07	
77	弥・壺	152	-	-	1/8	5YR6/6橙	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ	胎・普	○	SHb07	
78	弥・壺	142	-	-	1/8	75YR4/4褐	-	ナデ、指押さえ、ハケ目後ハラミガキ、マメツ	ナデ、指押さえ、板ナデ	細・多	○	SHb07	
79	弥・壺	148	-	-	3/8	5YR5/6明赤褐	-	ヨコナデ、ハケ目、マメツ	ヨコナデ、指押さえ、板ナデ	胎・普	○	SHb07	
80	弥・壺	140	-	-	1/8	75YR4/4褐	-	ナデ、ハケ目後ハラミガキ	ナデ、ハケ目、指押さえ、ハラケズリ	細・少	○	SHb07	
81	弥・壺	148	-	-	2/8	75YR6/4にぶい橙	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ	胎・普	○	SHb07	
82	弥・壺	180	-	-	1/8	75YR5/4にぶい褐	75YR5/6明褐	ヨコナデ、指押さえ、ナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、ナデ、マメツ	胎・普	○	SHb07	
83	弥・壺	150	-	-	2/8	75YR5/4にぶい褐	75YR4/3褐	ヨコナデ、ハケ目後ハラミガキ	ヨコナデ、指押さえ、ハラケズリ	胎・普	○	SHb07	
84	弥・壺	140	-	-	1/8	5YR5/6明赤褐	-	ヨコナデ、指押さえ、ナデ、ハケ目、ハラミガキ、マメツ	ヨコナデ、指押さえ、指ナデ	胎・普	○	SHb07	
85	弥・壺	137	-	-	2/8	75Y6/4にぶい橙	75YR5/4にぶい褐	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指ナデ	胎・少	○	SHb07	
86	弥・壺	168	-	-	1/8	75YR6/4にぶい橙	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ	胎・少	○	SHb07	
87	弥・壺	166	-	-	2/8	75YR5/4にぶい褐	-	ヨコナデ、指押さえ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、ナデ	胎・普	○	SHb07	
88	弥・壺	174	-	-	1/8	5YR5/4にぶい赤褐	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、ナデ、マメツ	胎・普	○	SHb07	
89	弥・壺	136	-	-	2/8	5YR5/4にぶい赤褐	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ	胎・普	○	SHb07	
90	弥・壺	149	-	-	2/8	5YR4/4にぶい赤褐	75YR5/4にぶい褐	ヨコナデ、ハケ目後ハラミガキ	ヨコナデ、指押さえ、ハラケズリ	胎・少	○	SHb07	
91	弥・壺	136	-	-	1/8	5YR5/4にぶい赤褐	-	ヨコナデ、ナデ、ハケ目	ヨコナデ、ナデ、ハラケズリ	胎・普	○	SHb07	
92	弥・壺	-	-	-	細片	75YR5/4にぶい褐	75YR6/4にぶい橙	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指ナデ、指押さえ	胎・少	○	SHb07	
93	弥・壺	138	-	-	2/8	75YR5/3にぶい褐	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ナデ	胎・少	○	SHb07	
94	弥・壺	128	-	-	1/8	75YR5/4にぶい褐	-	ナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ	胎・少	○	SHb07	
95	弥・壺	140	-	-	1/8	10YR5/4にぶい黄褐	-	ナデ、指押さえ、マメツ	ナデ、指押さえ、マメツ	胎・普	○	SHb07	
96	弥・壺	166	-	-	2/8	75YR5/4にぶい褐	-	ヨコナデ、ハケ目、マメツ	ヨコナデ、ハケ目、指押さえ	胎・普	○	SHb07	
97	弥・壺	116	-	-	5/8	75YR5/4にぶい褐	-	ナデ、ハケ目、ハラミガキ	ナデ、指押さえ、ハラケズリ	胎・普	○	SHb07	
98	弥・壺	138	-	-	1/8	5YR5/4にぶい赤褐	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、板ナデ	胎・少	○	SHb07	
99	弥・壺	134	28.3	6.0	8/8	5YR5/4にぶい赤褐	5YR6/6橙	ヨコナデ、ハケ目後ハラミガキ	ヨコナデ、指押さえ、ハラケズリ	胎・普	○	SHb07	
100	弥・壺	-	-	-	2/8	75YR8/4浅黄橙	-	板ナデ、マメツ	指押さえ、板ナデ、ナデ	胎・普	○	SHb07	
101	弥・壺	-	-	-	3/8	5YR6/6橙	75YR6/4にぶい橙	ハケ目後ハラミガキ	指押さえ、ハラケズリ、指ナデ	胎・普	○	SHb07	
102	弥・壺	-	-	-	2/8	75YR6/4にぶい橙	75YR5/3にぶい褐	ハラミガキ	指ナデ、指押さえ、ハラケズリ	胎・少	○	SHb07	
103	弥・壺	-	-	-	5/8	75YR5/4にぶい褐	-	ハケ目後ハラミガキ	指押さえ、ナデ、ハラケズリ	胎・少	○	SHb07	
104	弥・壺	-	-	-	3/8	75YR4/4褐	5YR5/4にぶい赤褐	ハケ目後ハラミガキ	ハケ目後ハラミガキ	中・普	○	SHb07	

報告書番号	器種	口径	器高	底径	残存率	色調・外	色調・内	調整・外	調整・内	胎土	角閃石	報告書番号	備考
105	弥・壺	-	-	5.4	6/8	10YR5/3にぶい黄褐	7.5YR6/4にぶい橙	ハケ目後ハラムミガキ	指押さえ、指ナデ、ハラケズリ	中・普	○	SHb07	底部焼成後穿孔
106	弥・壺	-	-	-	4/8	5YR5/6明赤褐	5YR4/6赤褐	ハケ目後ハラムミガキ	指ナデ、指押さえ、ハラケズリ	細・普	○	SHb07	
107	弥・壺	-	-	6.2	5/8	7.5YR6/4にぶい橙	5YR7/6橙	板ナデ後ハラムミガキ、ハラミガキ	ハラケズリ	中・多		SHb07	
108	弥・壺	-	-	11.0	8/8	10YR7/4にぶい黄橙	10YR8/4浅黄橙	ハケ目、ナデ	マメツ	中・多		SHb07	
109	弥・壺?	-	-	7.8	5/8	2.5YR7/8橙	2.5YR6/8橙	ナデ、指押さえ、マメツ	板ナデ、指押さえ	細・少		SHb07	特異な形
110	弥・壺	-	-	5.1	8/8	2.5YR7/8橙	5YR6/6橙	ハケ目、指押さえ、マメツ	ハラケズリ、マメツ	細・少		SHb07	
111	弥・壺	-	-	5.4	2/8	5YR6/6橙	-	ハケ目	ハラケズリ	中・普		SHb07	
112	弥・壺	-	-	13.6	6/8	2.5YR6/6明赤褐	7.5YR6/4にぶい橙	ハラミガキ	ハラケズリ	中・普		SHb07	
113	弥・壺	-	-	7.0	5/8	10YR7/4にぶい黄橙	7.5YR6/4にぶい橙	ハケ目後ハラムミガキ、ナデ	ハケ目、指押さえ、ナデ	中・普		SHb07	
114	弥・壺	-	-	-	3/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ハケ目後ハラムミガキ	ハラケズリ	細・少		SHb07	
115	弥・壺	-	-	6.5	7/8	5YR6/4にぶい赤褐	5YR5/4にぶい赤褐	ハラミガキ、ナデ	ハラケズリ、指押さえ	細・普	○	SHb07	
116	弥・壺	-	-	5.9	6/8	10YR4/3にぶい黄褐	7.5YR5/4にぶい褐	ハラミガキ、マメツ	ハラケズリ	細・少	○	SHb07	
117	弥・高杯	-	-	-	4/8	5YR5/4にぶい赤褐	-	ヨコナデ、ハラケズリ後ハラミガキ	ヨコナデ、ハラケズリ、ハラケズリ	細・少	○	SHb07	
118	弥・高杯	17.4	-	-	2/8	7.5YR5/6明褐	-	ナデ、ハラケズリ後ハラミガキ	ハケ目後ハラミガキ、ナデ	細・普	○	SHb07	
119	弥・高杯	-	-	-	8/8	5YR7/6橙	5YR7/6橙・7.5YR7/4にぶい橙	ハラミガキ、板ナデ、マメツ	ハラケズリ、ハケ目、マメツ	中・少	○?	SHb07	3方透かし
120	弥・高杯	-	-	14.9	2/8	5YR5/4にぶい赤褐	-	ハラミガキ、ヨコナデ	ハラミガキ、ハラケズリ	細・少	○	SHb07	透かし穴上下2段現存4ヶ所
121	弥・高杯	22.0	-	-	1/8	5YR6/6橙	-	ヨコナデ、ハラミガキ	ヨコナデ、ハラケズリ	細・少	○	SHb07	
122	弥・高杯	24.0	-	-	1/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ヨコナデ、ハラケズリ後ハラミガキ	ヨコナデ、ハラケズリ	細・多	○	SHb07	
123	弥・高杯	24.4	-	-	1/8	7.5YR6/4にぶい橙	-	ヨコナデ、ハラケズリ後ハラミガキ	ヨコナデ、ハラケズリ	微・少	○	SHb07	
124	弥・高杯	22.0	17.1	18.6	4/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ヨコナデ、ハラケズリ後ハラミガキ、ハラミガキ、ナデ	ヨコナデ、ハラケズリ	細・普	○	SHb07	透かし穴上下2段③3方透かし⑥現存2ヶ所
125	弥・高杯	-	-	18.0	4/8	5YR6/6橙	-	板ナデ、ハラミガキ、ハケ目、ヨコナデ	ハラケズリ	細・普	○	SHb07	透かし穴⑥現存3ヶ所⑧3方透かし
126	弥・高杯	25.2	-	-	4/8	5YR5/4にぶい赤褐	-	ヨコナデ、ハラミガキ、板ナデ	ヨコナデ、ハラケズリ	細・少	○	SHb07	透かし穴現存1ヶ所
127	弥・高杯	26.2	-	-	7/8	5YR5/6明赤褐	-	ヨコナデ、ハラケズリ後ハラミガキ、板ナデ	ヨコナデ、ハラケズリ	細・少	○	SHb07	
128	弥・高杯	-	-	16.5	6/8	7.5YR6/4にぶい橙	-	ハラミガキ、ハケ目、ヨコナデ	ハラケズリ、指ナデ	細・少	○	SHb07	透かし穴現存3ヶ所
129	弥・高杯	26.8	-	-	3/8	5YR5/4にぶい赤褐	-	ヨコナデ、ハラミガキ、板ナデ	ヨコナデ、ハラケズリ	細・少	○	SHb07	透かし穴現存3ヶ所
130	弥・高杯	-	-	16.2	2/8	5YR5/6明赤褐	-	ナデ、マメツ	ハラケズリ	微・普	○	SHb07	透かし穴現存2ヶ所
131	弥・高杯	-	-	18.4	3/8	7.5YR5/6明褐	-	ハラミガキ	ハラケズリ	細・普	○	SHb07	透かし穴現存2ヶ所
132	弥・高台	23.0	-	-	2/8	7.5YR7/6橙	10YR8/4浅黄橙	ナデ、ハケ目、マメツ	マメツ	細・普		SHb07	瓣面文
133	弥・鉢	12.6	7.2	3.6	8/8	5YR7/6橙	5YR7/8橙	ナデ、ハラケズリ	ナデ、指押さえ	細・普		SHb07	
134	弥・鉢	13.1	5.8	3.4	8/8	2.5YR7/8橙	2.5YR6/6橙	ハラケズリ後ハケ目、ナデ	ハケ目	細・普		SHb07	
135	弥・鉢	8.0	5.1	2.6	5/8	7.5YR7/4にぶい橙	5YR7/6橙	指押さえ、ナデ、マメツ	指押さえ、マメツ	中・普		SHb07	
136	弥・鉢	7.5	-	-	1/8	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	ハケ目後ナデ	板ナデ	細・普	○	SHb07	
137	弥・鉢	-	-	4.0	3/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	板ナデ、指押さえ、ナデ、マメツ	指ナデ	細・普		SHb07	
138	弥・鉢	-	-	4.1	6/8	5YR6/6橙	-	タタキ後ナデ、指押さえ、ヨコナデ	ナデ	微・少		SHb07	
139	弥・鉢	-	-	4.7	8/8	10YR4/2灰黄褐	10YR8/3浅黄橙	指押さえ、ナデ、マメツ	指押さえ、マメツ	細・少		SHb07	
140	弥・鉢	-	-	3.9	4/8	5YR7/6橙	-	ナデ、指押さえ、マメツ	板ナデ、ナデ	中・少		SHb07	
141	弥・鉢	-	-	5.6	8/8	5YR6/6橙	-	ハラケズリ後ハケ目、指押さえ、ナデ	指ナデ、指押さえ	細・普		SHb07	
142	弥・鉢	-	-	6.2	7/8	5YR7/4にぶい橙	-	ハケ目、指押さえ	ハラミガキ、指押さえ、板ナデ	細・少		SHb07	
143	弥・鉢	-	-	4.3	7/8	10YR7/3にぶい黄橙	5YR7/6橙	ハケ目、指押さえ、ナデ	ナデ、指押さえ	細・少		SHb07	
144	弥・鉢	-	-	7.4	5/8	5YR7/6橙	5YR5/4にぶい赤褐	マメツ	指押さえ、ハラミガキ	中・普		SHb07	
145	弥・鉢	-	-	-	細片	7.5YR6/4にぶい橙	-	ナデ、ハラケズリ	ナデ	粗・少	○	SHb07	
146	弥・鉢	20.0	-	-	1/8	10YR6/4にぶい黄橙	5YR6/6橙	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、板ナデ、指押さえ	中・少		SHb07	
147	弥・製塩土器	-	-	4.8	3/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ハラケズリ、指押さえ	ナデ、指押さえ	中・少	○	SHb07	
148	弥・製塩土器	-	-	3.7	3/8	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	ハラケズリ、指押さえ、ナデ	板ナデ	中・普	○	SHb07	
149	弥・壺	-	-	5.9	8/8	7.5YR6/4にぶい橙	-	ハケ目後ハラミガキ、ナデ、マメツ	指押さえ、ナデ、ハラケズリ	細・普		SHb07	
150	弥・壺	13.8	-	-	1/8	5YR6/6橙	-	ナデ、指押さえ	ナデ、指押さえ	微・普	○	SHb09	ハラ掘「記号」?
151	弥・壺	16.0	-	-	1/8	2.5YR5/6明赤褐	-	マメツ	マメツ	細・少		SHb09	
152	弥・鉢	8.5	3.5	4.5	7/8	5YR7/6橙	2.5YR7/8橙	指押さえ、マメツ	マメツ	中・少		SHb09	
156	弥・壺	28.0	-	-	3/8	7.5YR7/4にぶい橙	10YR8/3浅黄橙	ヨコナデ、指押さえ、ナデ、マメツ	ヨコナデ、指押さえ、マメツ	中・普		SHb10	

報告書番号	器種	口径	器高	底径	残存率	色調・外	色調・内	調整・外	調整・内	胎土	角閃石	報告書欄名	備考
157	弥・壺	15.4	-	-	6/8	75YR5/4にぶい縞	5YR6/4にぶい縞	ヨコナテ、ハケ目	ヨコナテ、ハケ目、ナテ、ヘラケズリ	中・普		SHb10	
158	弥・壺	15.8	-	-	1/8	10YR7/4にぶい黄橙	75YR6/3にぶい縞	ヨコナテ、ハケ目、ナテ	ヨコナテ、ハケ目、ナテ	細・少		SHb10	
159	弥・壺	15.0	-	-	2/8	10YR6/4にぶい黄橙	-	ヨコナテ、ハケ目	ヨコナテ、ハケ目	微・少		SHb10	
160	弥・壺	19.8	-	-	1/8	5YR7/6縞	5YR6/4にぶい縞	ハケ目、ナテ	ハケ目、ナテ	細・少	○?	SHb10	
161	弥・壺	17.5	-	-	1/8	5YR6/6縞	-	ヨコナテ、マメツ	ヨコナテ、マメツ	粗・普		SHb10	
162	弥・壺	16.0	-	-	2/8	5YR5/6明赤縞	-	ヨコナテ、マメツ	ヨコナテ、マメツ	中・多		SHb10	
163	弥・壺	17.5	-	-	2/8	75YR7/4にぶい縞	-	ヨコナテ、マメツ	ヨコナテ、マメツ	中・少		SHb10	
164	弥・壺	27.3	-	-	1/8	5YR5/6明赤縞	-	ナテ	ナテ	細・少	○	SHb10	鱗面文、列点文
165	弥・壺	-	-	-	2/8	75YR7/6縞	10YR8/2灰白	ヨコナテ、ヘラミガキ、マメツ	ヨコナテ、ヘラミガキ、指押さえ、マメツ	細・普		SHb10	
166	弥・壺	14.0	-	-	1/8	75YR8/2灰白	-	マメツ	ヨコナテ、指ナテ	細・普		SHb10	
167	弥・壺	12.2	-	-	1/8	5Y3/1オリーブ黒	25Y7/3淺黄	ヨコナテ、タタキ後ハケ目	ヨコナテ、ヘラケズリ、板ナテ、マメツ	細・少		SHb10	
168	弥・壺	13.4	-	-	1/8	10YR8/3淺黄縞	5YR6/6縞・2.5Y8/2灰白	ヨコナテ、ハケ目	ハケ目、ナテ	細・少		SHb10	
169	弥・壺	14.7	-	-	1/8	10YR8/3淺黄縞	-	ヨコナテ、ハケ目、ナテ	ヨコナテ、ハケ目、ヘラケズリ	中・少		SHb10	
170	弥・壺	13.3	-	-	1/8	5YR7/6縞	-	ヨコナテ、ハケ目	ヨコナテ、ハケ目	細・少		SHb10	
171	弥・壺	13.6	-	-	1/8	10YR7/4にぶい黄橙	-	ヨコナテ、マメツ	ヨコナテ、ヘラケズリ、マメツ	細・少		SHb10	
172	弥・壺	12.0	-	-	2/8	10YR8/2灰白	-	ヨコナテ、マメツ	ヨコナテ、板ナテ、マメツ	細・普		SHb10	
173	弥・壺	16.0	-	-	1/8	5YR7/6縞	-	ヨコナテ、ハケ目、マメツ	ヨコナテ、板ナテ	細・普		SHb10	
174	弥・壺	17.3	-	-	4/8	10YR8/3淺黄縞	-	ハケ目、ナテ、指押さえ	ヨコナテ、ハケ目、ナテ	細・少		SHb10	
175	弥・壺	10.7	-	-	1/8	75YR6/4にぶい縞	75YR6/2灰縞	ヨコナテ、ハケ目	ハケ目、板ナテ	細・少		SHb10	
176	弥・壺	11.0	-	-	1/8	10YR8/4淺黄縞	5YR7/6縞	ヨコナテ、ナテ、ハケ目	ヨコナテ、ナテ	中・少		SHb10	
177	弥・壺	-	-	-	細片	75YR7/4にぶい縞・N2黒	75YR6/6縞	ヨコナテ、ハケ目、マメツ	ヨコナテ、ヘラケズリ、マメツ	中・少		SHb10	
178	弥・壺	-	-	6.1	2/8	75YR7/4にぶい縞	5YR8/4淺黄	ナテ	指押さえ、マメツ	中・少		SHb10	
179	弥・壺?	-	-	4.8	4/8	10YR7/3にぶい黄橙	-	タタキ後ナテ、マメツ	ハケ目、指押さえ	細・普		SHb10	
180	弥・高杯	21.0	-	-	1/8	75YR5/6明縞	-	ヨコナテ、ヘラミガキ、マメツ	ヨコナテ、マメツ	細・普	○	SHb10	
181	弥・高杯	-	-	16.7	1/8	75YR6/4にぶい縞	5YR5/4にぶい赤縞	ナテ	ヘラケズリ	細・普	○	SHb10	透かし穴現存2ヶ所(1ヶ所未定)
182	弥・高杯	-	-	-	6/8	75YR6/4にぶい縞	-	ヘラミガキ、マメツ	ヘラミガキ、ヘラケズリ	細・少	○	SHb10	
183	弥・鉢	11.8	5.4	3.4	5/8	10YR7/3にぶい黄橙	10YR8/2灰白	ナテ、マメツ	ナテ、指押さえ、マメツ	細・少		SHb10	
184	弥・鉢	11.3	-	-	3/8	10YR6/2灰縞	7.5YR6/4にぶい縞	ナテ、マメツ	ナテ、板ナテ	細・少		SHb10	
185	弥・鉢	12.4	-	-	1/8	10YR7/3にぶい黄橙	-	マメツ、指押さえ	マメツ	細・少		SHb10	
186	弥・鉢	19.3	-	-	1/8	75YR8/3淺黄縞	5YR7/6縞	板ナテ、マメツ	ナテ、マメツ	細・少		SHb10	
187	弥・鉢	21.6	-	-	1/8	75YR6/4にぶい縞	-	ナテ、ヘラケズリ	ナテ、マメツ	細・普		SHb10	
188	弥・鉢	23.9	-	-	2/8	75YR7/3にぶい縞	10YR7/2にぶい黄橙	ヨコナテ、ヘラケズリ	ヨコナテ、ヘラケズリ	細・普	○	SHb10	
189	弥・鉢	24.9	-	-	2/8	75YR8/4淺黄縞	-	ナテ、ハケ目	ヨコナテ、マメツ	細・少		SHb10	
190	弥・鉢	12.1	-	-	1/8	10YR8/3淺黄縞	-	ナテ	ナテ、指押さえ	細・少		SHb10	
191	弥・鉢	37.4	-	-	1/8	5YR5/4にぶい赤縞	5YR6/4にぶい縞	ヨコナテ、指押さえ、ハケ目	ヨコナテ、ハケ目	細・少	○	SHb10	
192	弥・鉢	36.1	-	-	細片	5YR6/4にぶい縞	-	ヨコナテ、ヘラケズリ	ヨコナテ、ナテ	細・少	○	SHb10	
193	弥・鉢	-	-	3.8	8/8	10YR7/3にぶい黄橙	-	指押さえ、ナテ、マメツ	ナテ、指押さえ、マメツ	中・普		SHb10	
194	弥・製塩土器	-	-	4.4	7/8	75YR7/3にぶい縞	10YR6/2灰黄縞	板ナテ、指押さえ	指押さえ、ナテ	細・普		SHb10	
195	弥・瓶	-	-	3.2	5/8	10YR8/3淺黄縞	-	ヘラケズリ、指押さえ、ナテ	ハケ目	細・少		SHb10	
196	弥・瓶	-	-	1.8	8/8	2.5YR7/8縞	-	タタキ	ハケ目	細・普		SHb10	
198	弥・壺	11.7	-	-	1/8	5YR4/4にぶい赤縞	-	ヨコナテ、指押さえ、ハケ目、マメツ	ヨコナテ、指押さえ、板ナテ、ナテ	細・普		SHb11	
199	弥・高杯	-	-	9.0	1/8	75YR7/6縞	5YR7/4にぶい縞	指押さえ、板ナテ	指押さえ、ナテ	細・普		SHb11	透かし穴現存2ヶ所
200	弥・鉢	-	-	2.0	8/8	75YR6/3にぶい縞	5YR6/6縞	ナテ	板ナテ、ナテ	細・少	○	SHb11	
201	弥・鉢	14.6	-	-	2/8	10YR7/3にぶい黄橙	-	マメツ	ナテ、マメツ	細・少		SHb11	
202	弥・鉢	-	-	4.1	6/8	10YR6/2灰黄縞	-	ヘラケズリ、指押さえ、ナテ	指ナテ	細・少	○	SHb11	
203	土・壺	13.2	10.8	5.0	8/8	5YR6/8縞	10YR7/6明黄縞	ナテ、ハケ目	指押さえ、ナテ、指ナテ	中・普		SHb12	
204	弥・鉢	14.4	9.2	2.1	6/8	10YR7/4にぶい黄橙	75YR7/3にぶい縞	指押さえ、板ナテ	板ナテ	細・少		SHb12	
205	弥・鉢	-	-	4.1	3/8	5YR7/8縞	10YR8/3淺黄縞	指押さえ、ナテ	マメツ	細・普		SHb12	

報告書番号	器種	口径	器高	底径	残存率	色調・外	色調・内	調整・外	調整・内	胎土	角閃石	報告書構成名	備考
206	弥・鉢	24.0	5.3	6.4	1/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ヨコナデ、ハラケズリ	ヨコナデ、ハラミガキ、マメツ	細・普	○	SHb12	
207	弥・鉢	16.8	-	-	1/8	10YR8/2灰白	7.5YR6/4にぶい橙	マメツ	ナデ、マメツ	細・普		SHb13	
208	弥・甕	13.7	-	-	1/8	10YR6/4にぶい黄橙	-	ヨコナデ	ヨコナデ、マメツ	細・普	○	SHb13	
209	弥・高杯	16.5	-	-	1/8	10YR5/4にぶい黄褐	-	ヨコナデ、ハラミガキ	ヨコナデ	細・少	○	SHb13	
210	弥・鉢	-	-	3.0	8/8	5YR7/8橙	10YR5/1褐灰	板ナデ、ナデ	板ナデ、マメツ	細・普		SHb13	
211	弥・鉢	-	-	4.6	7/8	5YR6/6橙	-	指押さえ	指押さえ、マメツ	中・普		SHb13	
212	弥・鉢	18.2	-	-	3/8	5YR7/8橙	7.5YR6/6橙	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ハラケズリ	中・普		SHb15	ハラ描文[絵画]
213	弥・壺	-	-	-	4/8	5YR5/4にぶい赤褐	5YR5/6明赤褐	ハケ目後ハラミガキ、マメツ	ハラミガキ、指押さえ、しほり目、ハラケズリ	細・普	○	SHb15	ハラ庄痕文
214	弥・壺	14.2	-	-	2/8	5YR5/6明赤褐	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ	細・少	○	SHb15	
215	弥・壺	16.0	-	-	4/8	10YR8/2浅黄橙	10YR8/2灰白	ナデ、指押さえ、ハケ目	ナデ、指押さえ、板ナデ、マメツ	中・少		SHb15	
216	弥・壺	17.3	-	-	2/8	7.5YR7/6橙	5YR6/8橙	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ハケ目、指押さえ	中・多		SHb15	
217	弥・壺	17.2	-	-	1/8	5YR5/6明赤褐	-	ナデ、ハケ目	ナデ	細・少	○	SHb15	
218	弥・壺	14.3	-	-	3/8	2.5YR6/6橙	-	ヨコナデ、ハラミガキ	ヨコナデ、指押さえ、板ナデ	細・少		SHb15	
219	弥・壺	16.3	-	-	3/8	7.5YR8/4浅黄橙	-	ヨコナデ、ハケ目後ハラミガキ	ヨコナデ、ハケ目後ハラミガキ、ナデ	細・少		SHb15	
220	弥・壺	-	-	-	1/8	10YR8/3浅黄橙	-	ナデ、ハケ目、マメツ	ナデ、指押さえ、マメツ	細・少		SHb15	鋸歯文、竹管文、貼付突帯
221	弥・壺	-	-	-	2/8	5YR7/6橙	10YR8/1灰白	ハケ目、ハケ目後ハラミガキ	指押さえ、ハラケズリ	細・少		SHb15	刺突文
222	弥・壺	8.1	8.1	3.3	1/8	5YR4/6赤褐	5YR5/4にぶい赤褐	ヨコナデ	ヨコナデ、指押さえ、板ナデ	細・多	○	SHb15	
223	弥・壺	18.6	-	-	1/8	7.5YR6/4にぶい橙	10YR7/3にぶい黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	細・少		SHb15	
224	弥・壺	22.9	-	-	1/8	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR7/6橙	ヨコナデ	ヨコナデ	細・少		SHb15	
225	弥・壺	14.0	-	-	2/8	7.5YR8/4浅黄橙	-	ヨコナデ	ヨコナデ	細・少		SHb15	
226	弥・壺	14.1	-	-	1/8	10R6/4にぶい赤橙	-	ヨコナデ	ヨコナデ	微・少		SHb15	
227	弥・壺	12.9	-	-	1/8	5YR7/8橙	-	ヨコナデ	ヨコナデ	微・少		SHb15	
228	弥・壺	13.1	-	-	1/8	7.5YR7/6橙	-	ヨコナデ、ハラミガキ	ヨコナデ、ハラケズリ	細・少		SHb15	
229	弥・壺	14.0	-	-	2/8	7.5YR8/3浅黄橙	-	ヨコナデ、ハラミガキ、マメツ	ヨコナデ、指押さえ、ナデ、板ナデ	細・普		SHb15	
230	弥・壺	11.5	-	-	2/8	5YR7/6橙	10YR8/2灰白	ヨコナデ、ハラミガキ、マメツ	ヨコナデ、指押さえ、ハラケズリ、マメツ	細・少		SHb15	
231	弥・壺	-	-	-	3/8	5YR7/6橙	-	ハケ目後ハラミガキ	指押さえ、ハラケズリ、マメツ	細・普		SHb15	
232	弥・壺	15.7	-	-	1/8	7.5YR6/4にぶい橙	5YR6/8橙	ヨコナデ、ハケ目、ハラミガキ	ヨコナデ、指押さえ、ナデ、ハラケズリ	中・普		SHb15	
233	弥・壺	20.2	-	-	1/8	2.5YR6/6橙	-	ナデ、ハケ目	ナデ、指押さえ、ハラケズリ、マメツ	中・少		SHb15	
234	弥・壺	-	-	-	細片	5YR7/6橙	-	ヨコナデ	ヨコナデ	細・少		SHb15	
235	弥・壺	18.1	-	-	1/8	5YR7/8橙	-	ヨコナデ	ヨコナデ	細・少		SHb15	
236	弥・壺	23.6	-	-	2/8	2.5YR6/6橙	-	ヨコナデ	ヨコナデ	細・少	○	SHb15	
237	弥・壺	14.2	-	-	2/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ナデ、ハケ目	ナデ、板ナデ、指押さえ、マメツ	細・少	○	SHb15	
238	弥・壺	14.0	-	-	1/8	7.5YR6/6橙	-	ナデ、指押さえ、ハケ目	ナデ、指押さえ、マメツ	細・少	○	SHb15	
239	弥・壺	14.2	-	-	2/8	10YR5/4にぶい黄褐	10YR6/4にぶい黄褐	ナデ、ハケ目	ナデ、ハケ目	細・少	○	SHb15	
240	弥・壺	16.0	-	-	1/8	7.5YR8/3浅黄橙	7.5YR8/4浅黄橙	ナデ、指押さえ、タタキ、マメツ	ナデ、指押さえ、ハケ目、マメツ	細・少	○	SHb15	
241	弥・壺	15.2	-	-	1/8	5YR6/4にぶい橙	-	ヨコナデ、タタキ後ハケ目	ナデ、ハラケズリ	細・少	○	SHb15	
242	弥・壺	15.2	-	-	1/8	5YR5/4にぶい赤褐	-	ヨコナデ、マメツ	ヨコナデ、指押さえ	細・普	○	SHb15	
243	弥・壺	14.7	-	-	3/8	7.5YR6/4にぶい橙	-	ヨコナデ、ハケ目	指押さえ、マメツ	細・普	○	SHb15	
244	弥・壺	15.1	-	-	3/8	5YR5/4にぶい赤褐	2.5YR5/6明赤褐	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、指ナデ	微・普	○	SHb15	
245	弥・壺	13.7	-	-	2/8	7.5YR6/4にぶい橙	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ハケ目、指押さえ	細・少	○	SHb15	
246	弥・壺	16.3	-	-	1/8	7.5YR6/4にぶい橙	10YR3/1黒褐	ヨコナデ、ハケ目、ハラミガキ	ヨコナデ、指押さえ、板ナデ	細・普	○	SHb15	
247	弥・壺	-	-	3.6	4/8	5YR6/8橙	7.5YR7/6橙	ハケ目	ヨコナデ、指押さえ後ハケ目、ナデ	細・普	○	SHb15	
248	弥・壺	-	-	4.2	6/8	2.5YR7/4浅赤橙	10YR6/1褐灰	マメツ	板ナデ、指押さえ、マメツ	細・少	○	SHb15	
249	弥・壺	-	-	6.0	6/8	10YR8/4浅黄橙	10YR6/1褐灰	ハケ目、板ナデ、ナデ	板ナデ	細・少		SHb15	
250	弥・壺	-	-	6.2	3/8	7.5YR8/4浅黄橙	-	ハケ目、ハラミガキ、タタキ	板ナデ	細・少		SHb15	
251	弥・壺	-	-	5.7	3/8	5YR7/6橙	10YR7/2にぶい黄橙	ハラミガキ、指押さえ、ナデ	板ナデ、指ナデ、マメツ	細・普		SHb15	
252	弥・壺	-	-	6.3	2/8	2.5YR6/6橙	-	ハケ目	ハラケズリ、マメツ	細・少		SHb15	
253	弥・高杯	12.9	-	-	1/8	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR6/4にぶい赤褐	板ナデ、ナデ、マメツ	マメツ	細・普		SHb15	
254	弥・高杯	17.2	-	-	1/8	10YR5/4にぶい黄褐	-	ナデ、マメツ	ナデ、ハラミガキ、マメツ	中・多		SHb15	
255	弥・高杯	17.8	-	-	1/8	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/6橙	ヨコナデ、ハラミガキ	ヨコナデ、ハラミガキ、マメツ	細・少	○	SHb15	
256	弥・高杯	20.9	-	-	1/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ヨコナデ、マメツ	ヨコナデ、マメツ	細・少	○	SHb15	
257	弥・高杯	29.0	-	-	2/8	7.5YR6/6橙	-	ヨコナデ、ハラケズリ、マメツ	ヨコナデ、ハラミガキ	細・普	○	SHb15	
259	弥・高杯	-	-	-	3/8	7.5YR8/4浅黄橙	10YR8/2灰白	ハラミガキ	マメツ	微・少		SHb15	

報告番号	器種	口径	器高	底径	残存率	色調・外	色調・内	調整・外	調整・内	胎土	角閃石	報告番号	備考
260	弥・高杯	-	-	-	7/8	5YR7/6橙	7.5YR8/3淺黄橙	ハケ目、マメツ	マメツ	細・普	○	SHb15	
261	弥・高杯	-	-	-	7/8	7.5YR4/2灰褐	7.5YR6/4にぶい橙	ハラミガキ	指押さえ、ハラミガキ、ハラケズリ	微・普	○	SHb15	透かし穴現在1ヶ所
262	弥・高杯	-	-	13.4	1/8	10YR7/3にぶい黄褐	7.5YR6/6橙	板ナデ、ハラミガキ、ヨコナデ	ハラケズリ、ヨコナデ	微・少	○	SHb15	透かし穴現在2ヶ所
263	弥・高杯	-	-	14.1	3/8	7.5YR6/4にぶい橙	-	ハケ目、マメツ	マメツ	細・普		SHb15	凹線、透かし穴現在2ヶ所
264	弥・高杯	-	-	15.0	2/8	7.5YR7/4にぶい橙	-	ハラミガキ、ナデ	ナデ、ハラケズリ	微・普	○	SHb15	透かし穴現在1ヶ所
265	弥・高杯	-	-	1/8	2/8	7.5YR7/4にぶい橙	-	ヨコナデ	ヨコナデ	粗・普		SHb15	
266	弥・鉢	24.8	-	-	2/8	5YR5/4にぶい赤褐	7.5YR6/4にぶい褐	ナデ、ハケ目後ハラミガキ、ハラケズリ、マメツ	ナデ、ハラミガキ、ハケ目、マメツ	細・少	○	SHb15	
267	弥・鉢	22.4	-	-	2/8	5YR7/8橙	-	指押さえ、マメツ	指ナデ	細・普		SHb15	
268	弥・鉢	8.0	6.2	2.5	3/8	5YR7/8橙	7.5YR6/3にぶい褐	ナデ、板ナデ、指押さえ	ナデ	細・少		SHb15	
269	弥・鉢	10.5	5.4	4.1	8/8	2.5Y3/1黒褐	5YR6/6橙	ハラケズリ、指押さえ	マメツ	細・普		SHb15	
270	弥・割埴土器	-	-	3.6	3/8	2.5YR6/6橙	5YR6/6橙	ハラケズリ、指押さえ	マメツ	細・普		SHb15	
271	弥・割埴土器	-	-	3.0	8/8	10R6/6赤橙	5YR6/4にぶい橙	指押さえ、ハラケズリ、板ナデ	板ナデ	粗・少		SHb15	
272	弥・壺	15.1	復元 25.8	3.8	5/8	7.5YR4/4褐	10YR7/2にぶい黄橙	指押さえ、ハラケズリ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、ハラケズリ	細・普	○	SHb16	
273	弥・壺	-	-	-	1/8	10YR5/1褐灰	10YR6/2灰黄褐	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、指押さえ、ハケ目	細・少		SHb16	
274	弥・壺	13.8	-	-	5/8	5YR7/4にぶい橙	-	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、指押さえ	細・普		SHb16	
275	弥・壺	14.7	-	-	2/8	7.5YR6/3にぶい褐	10YR8/2灰白	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、ハケ目	細・少		SHb16	
276	弥・壺	15.0	20.6	3.7	4/8	5Y7/8橙	N4/灰	指押さえ、タタキ後ナデ、タタキ、タタキ後ハケ目	ナデ、指押さえ、指ナデ、指押さえ後ハラケズリ	細・普		SHb16	
277	弥・壺	14.8	21.5	4.8	6/8	10YR6/3にぶい黄橙	7.5YR6/4にぶい橙	ヨコナデ、タタキ後ハケ目、ナデ	ヨコナデ、ハケ目、ナデ、マメツ	細・普	○?	SHb16	
278	弥・壺	15.8	24.6	1.9	2/8	7.5YR4/1褐灰	7.5YR7/4にぶい橙	ヨコナデ、タタキ後ハケ目、ナデ	ハケ目、指押さえ、ハラケズリ	細・少		SHb16	
279	弥・壺	13.7	復元 24.2	2.2	7/8	5YR6/8橙	10YR8/2灰白	ヨコナデ、タタキ後ハケ目、ナデ	ハケ目、板ナデ、ハラケズリ、指押さえ	細・普		SHb16	
280	弥・鉢	-	-	2.8	3/8	5YR6/4にぶい橙	10YR8/2灰白	タタキ、ナデ	マメツ	細・普		SHb16	
281	弥・鉢	-	-	3.4	8/8	10YR5/3にぶい黄褐	5Y3/1オリーブ黒	タタキ、指ナデ、指押さえ	板ナデ	細・普		SHb16	
282	弥・鉢	8.6	3.4	1.3	8/8	5YR5/6明赤褐	5YR6/6橙	指押さえ、ナデ	指押さえ、ナデ	細・少	○	SHb16	
283	弥・鉢	9.4	6.6	3.0	6/8	10YR8/2灰白	5YR6/6橙	ナデ、タタキ	ナデ、指押さえ	細・少		SHb16	
284	弥・鉢	10.5	6.6	2.3	6/8	5YR8/3淡橙	2.5YR6/6橙	マメツ	ナデ、板ナデ、指押さえ	細・普		SHb16	
285	弥・鉢	9.7	7.3	1.3	8/8	7.5YR8/3淺黄橙	7.5YR7/8黄橙	指押さえ、マメツ	ヨコナデ、ハケ目、板ナデ	細・多		SHb16	
286	弥・鉢	5.7	7.9	4.1	4/8	2.5YR6/6橙	-	タタキ、ナデ、指押さえ	指押さえ、板ナデ	細・少		SHb16	
287	弥・鉢	-	-	-	3/8	7.5YR8/4淺黄橙	7.5YR8/3淺黄橙	タタキ後ハケ目、ハラケズリ	指押さえ、ナデ	中・少		SHb16	
288	弥・鉢	14.7	10.8	2.0	4/8	2.5YR8/3淡黄	2.5Y7/3淺黄	ヨコナデ、ハケ目、ハラケズリ	ヨコナデ、ハケ目	中・少		SHb16	
289	弥・壺	14.8	復元 31.1	6.0	8/8	7.5YR7/6橙	5Y4/1灰・5Y8/2灰白	ナデ、ハケ目後ハラミガキ、マメツ	ナデ、指押さえ、ハラケズリ	細・普		SKb01	ハラ描写
290	弥・壺	16.3	29.9	6.8	5/8	5YR7/6橙	-	ヨコナデ、ハケ目、ハケ目後ハラミガキ、マメツ	ヨコナデ、板ナデ、指押さえ、指ナデ、ハラケズリ	中・普		SKb01	
291	弥・壺	16.3	-	-	3/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ヨコナデ、ハケ目、ハラミガキ	ヨコナデ、ハケ目、指押さえ、ハラケズリ	細・少	○	SKb01	ハラ描写
292	弥・壺	-	-	-	6/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ハケ目、ハラミガキ、マメツ	ナデ、指ナデ、指押さえ、ハラケズリ	中・普	○	SKb01	ハラ描写
293	弥・壺	-	-	5.2	8/8	7.5YR6/6橙	5YR7/8橙	ハケ目後ハラミガキ、マメツ	ナデ、指押さえ、ハラケズリ、マメツ	細・普		SKb01	
294	弥・壺	-	-	6.1	8/8	7.5YR7/4にぶい橙	2.5YR8/2灰白	ハケ目後ハラミガキ、マメツ	ナデ、指押さえ、指ナデ、ハラケズリ	中・普		SKb01	ハラ描写、列点文
295	弥・壺	16.0	-	-	6/8	5YR6/6橙	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、指ナデ	細・普	○	SKb01	ハラ描写
296	弥・壺	16.5	-	-	2/8	5YR5/6明赤褐	7.5YR6/6橙	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指ナデ	細・普	○	SKb01	ハラ描写
297	弥・壺	15.2	-	-	2/8	5YR6/6橙	7.5YR5/6明褐	ナデ、ハケ目、指押さえ、マメツ	ナデ、板ナデ、マメツ	細・少		SKb01	
298	弥・壺	13.5	-	-	7/8	7.5YR7/4にぶい橙	10YR8/2灰白	ナデ、ハケ目、指押さえ、マメツ	ナデ、指ナデ、マメツ	細・多		SKb01	
299	弥・壺	16.4	-	-	4/8	5YR7/6橙	2.5Y8/2灰白	ナデ、指押さえ、ハケ目、マメツ	ナデ、マメツ	細・普		SKb01	ハラ描写、絵文?
300	弥・壺	15.9	-	-	1/8	5YR5/6明赤褐	-	ヨコナデ、ハケ目、マメツ	ヨコナデ、指押さえ後ナデ	微・少	○	SKb01	
301	弥・壺	15.1	-	-	4/8	10YR8/4淺黄橙	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、板ナデ	細・少		SKb01	
302	弥・壺	-	-	-	6/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	指押さえ、ハケ目	指押さえ、ハケ目、ナデ	細・普	○	SKb01	ハラ描写「記号」?
303	弥・壺	16.6	-	-	5/8	7.5YR6/4にぶい橙	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、ナデ、板ナデ、指ナデ	細・普	○	SKb01	ハラ描写「記号」?
304	弥・壺	10.7	18.9	4.1	3/8	10YR6/3にぶい黄橙	10YR3/1黒褐	ヨコナデ、ハラミガキ、マメツ	板ナデ、指押さえ、指ナデ、マメツ	中・少	○	SKb01	
305	弥・壺	16.1	-	-	3/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ヨコナデ、ハケ目	板ナデ、ナデ	細・少	○	SKb01	
306	弥・壺	19.6	-	-	2/8	7.5YR6/6橙	-	ヨコナデ	ヨコナデ	微・多	○	SKb01	

報告書番号	器種	口径	器高	底径	残存率	色調・外	色調・内	調整・外	調整・内	胎土	角閃石	報告書標名	備考
354	弥・甕	16.0	20.8	11.3	5/8	2.5YR6/3にぶい橙	5YR7/6橙	ヨコナデ、ハラミガキ、指押さえ、マメツ	ヨコナデ、指押さえ、ハラケズリ、マメツ	中・普		SKb01	
355	弥・甕	18.6	18.3	7.1	8/8	10YR8/3浅黄橙	7.5YR6/8橙	ナデ、板ナデ後ハラミガキ、指押さえ、マメツ	ナデ、ハラケズリ、指押さえ、マメツ	細・普		SKb01	
356	弥・甕	13.3	19.0	3.8	4/8	10YR8/4浅黄橙	10YR8/1灰白	指押さえ、ヨコナデ、ハケ目	指押さえ、板ナデ、ハラケズリ	中・少		SKb01	
357	弥・甕	16.8	-	-	3/8	5YR7/6橙	10YR8/2灰白	ヨコナデ、ハケ目、マメツ	ヨコナデ、ハラケズリ	細・多		SKb01	
358	弥・甕	17.0	-	-	2/8	7.5YR6/4にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	ナデ、タタキ	ナデ、指押さえ、ハラケズリ、マメツ	中・多		SKb01	
359	弥・甕	15.0	-	-	8/8	5YR7/6橙	N5/灰	ナデ、指押さえ、タタキ後ハナケ目後ハラミガキ	ナデ、ハラケズリ、マメツ	中・普		SKb01	
360	弥・甕	13.2	-	-	2/8	10YR7/2にぶい黄橙	10YR6/1褐灰	ヨコナデ、ハケ目、マメツ	ヨコナデ、指押さえ、ハラケズリ、マメツ	細・普		SKb01	
361	弥・甕	13.6	-	-	2/8	7.5YR8/6浅黄橙	-	ナデ、タタキ	ナデ、マメツ	中・普		SKb01	
362	弥・甕	15.0	-	-	2/8	10YR8/4浅黄橙	-	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、ハラケズリ、指押さえ	中・少		SKb01	
363	弥・甕	11.3	-	-	5/8	5YR6/4にぶい橙	-	ヨコナデ、マメツ	ヨコナデ、ハラケズリ	中・普	○	SKb01	
364	弥・甕	15.2	-	-	1/8	5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	ヨコナデ、マメツ	ヨコナデ、板ナデ、マメツ	細・普		SKb01	
365	弥・甕	12.0	-	-	2/8	2.5YR6/6橙	5YR7/8橙	ヨコナデ、マメツ	ヨコナデ、ハラケズリ、マメツ	細・普		SKb01	
366	弥・甕	12.8	-	-	1/8	5YR7/6橙	-	ヨコナデ、ハラミガキ	ヨコナデ、ハラケズリ	細・普		SKb01	
367	弥・甕	16.8	-	-	1/8	5YR7/6橙	10YR8/2灰白	ナデ、タタキ	ナデ、ハラケズリ	細・普		SKb01	
368	弥・甕	13.0	-	-	5/8	5YR6/6橙	10YR8/2灰白	ナデ、タタキ、マメツ	ナデ、ハラケズリ	中・普		SKb01	
369	弥・甕	13.6	-	-	1/8	7.5YR7/6橙	7.5YR8/4浅黄橙	ヨコナデ、マメツ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、マメツ	細・少		SKb01	
370	弥・甕	15.0	-	-	8/8	7.5YR7/6橙	-	ナデ、指押さえ、タタキ後ハケ目	ナデ、ハケ目、マメツ	中・普		SKb01	
371	弥・甕	15.9	-	-	2/8	5YR7/6橙	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ	中・普		SKb01	ハラ描文
372	弥・甕	15.5	-	-	6/8	7.5YR6/4にぶい橙	5YR7/6橙	ヨコナデ、タタキ後ハケ目後ナデ	ヨコナデ、ハラケズリ	細・普		SKb01	
373	弥・甕	14.7	-	-	6/8	5YR7/6橙	-	ヨコナデ、ハケ目、マメツ	ヨコナデ、ハラケズリ、マメツ	細・普		SKb01	
374	弥・甕	17.2	-	-	1/8	7.5YR8/2灰白	7.5YR8/4浅黄橙	ヨコナデ、マメツ	ヨコナデ、指押さえ、ハラケズリ	中・少		SKb01	
375	弥・甕	16.8	-	-	8/8	7.5YR8/3浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	ナデ、マメツ	ナデ、指押さえ	中・少		SKb01	
376	弥・甕	21.2	-	-	2/8	7.5YR5/4にぶい褐	2.5YR8/2灰白	ヨコナデ、指押さえ、ハケ目、マメツ	ヨコナデ、ハケ目	細・少	○	SKb01	
377	弥・甕	1.2	-	3.9	8/8	10YR8/2灰白	-	マメツ	指押さえ、板ナデ、ナデ	細・少		SKb01	
378	弥・甕	12.3	-	-	1/8	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR5/6明赤褐	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ	細・普		SKb01	
379	弥・甕	15.0	-	-	1/8	7.5YR6/6橙	5YR6/4にぶい橙	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ後板ナデ	細・普		SKb01	
380	弥・甕	16.2	-	-	1/8	10YR6/2灰黄褐	7.5YR5/3にぶい褐	ヨコナデ、ハケ目、マメツ	ヨコナデ、指押さえ、マメツ	中・普		SKb01	
381	弥・甕	15.0	-	-	2/8	7.5YR6/6橙	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ	細・普		SKb01	
382	弥・甕	13.8	-	-	1/8	5YR6/6橙	-	ヨコナデ、ハケ目、マメツ	ヨコナデ、指押さえ後指ナデ、ハラケズリ	細・普	○	SKb01	爪形文
383	弥・甕	13.2	-	-	1/8	5YR5/6明赤褐	5YR6/4にぶい橙	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指ナデ	細・普	○	SKb01	
384	弥・甕	12.5	-	-	1/8	7.5YR6/4にぶい橙	-	ヨコナデ、指押さえ、ハケ目、マメツ	ヨコナデ、指押さえ	細・少		SKb01	
385	弥・甕	13.8	-	-	2/8	5YR6/6橙	-	ヨコナデ、ハケ目、マメツ	ヨコナデ、指押さえ後板ナデ	細・普		SKb01	
386	弥・甕	14.9	-	-	3/8	5YR6/6橙	-	ヨコナデ、指押さえ後ナデ、ハケ目、マメツ	ヨコナデ、指押さえ後ナデ	細・多	○	SKb01	
387	弥・甕	-	-	-	1/8	7.5YR6/6橙	-	ヨコナデ、ハケ目、ハケ目後ハラミガキ	ヨコナデ、指押さえ、ハラケズリ	細・普	○	SKb01	
388	弥・甕	18.2	-	-	3/8	7.5YR6/4にぶい橙	-	ヨコナデ、タタキ後ハケ目、マメツ	ヨコナデ、指押さえ、板ナデ	中・普	○	SKb01	
389	弥・甕	16.3	-	-	1/8	7.5YR6/6橙	-	ヨコナデ、ハケ目	指押さえ、マメツ、ハラケズリ	細・普	○	SKb01	
390	弥・甕	14.0	-	-	1/8	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR6/4にぶい橙	ヨコナデ、指押さえ、ハケ目後ハラミガキ	ヨコナデ、指押さえ、ハラケズリ	細・多	○	SKb01	
391	弥・甕	15.0	-	-	2/8	7.5YR5/4にぶい褐	5YR5/6明赤褐	ナデ、指押さえ、ハケ目後ハラミガキ、マメツ	ナデ、指押さえ、ハラケズリ	細・普	○	SKb01	
392	弥・甕	16.8	22.5	4.8	8/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ナデ、指押さえ、ハケ目後ハラミガキ	ナデ、指押さえ、ハラケズリ、マメツ	細・普	○	SKb01	
393	弥・甕	13.9	26.8	5.5	8/8	7.5YR6/4にぶい橙	-	ヨコナデ、ハケ目、ハケ目後ハラミガキ、底部外ハラミガキ、マメツ	ヨコナデ、指押さえ、板ナデ、ハラケズリ	細・普	○	SKb01	
394	弥・甕	16.4	-	-	2/8	5YR5/6明赤褐	5YR6/6橙	ナデ、指押さえ、ハケ目後ハラミガキ	ナデ、指押さえ、ハラケズリ、マメツ	中・普	○	SKb01	
395	弥・甕	14.4	-	-	2/8	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR6/6橙	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ	微・多	○	SKb01	
396	弥・甕	12.7	-	-	1/8	5YR5/4にぶい赤褐	-	ヨコナデ、指押さえ後ハケ目、マメツ	ヨコナデ、指押さえ後ハナケ目、マメツ	細・少	○	SKb01	
397	弥・甕	14.8	-	-	4/8	5YR5/4にぶい赤褐	-	ヨコナデ、ハケ目、マメツ	ヨコナデ、ナデ、ハケ目、指押さえ	細・普	○	SKb01	
398	弥・甕	14.0	-	-	3/8	7.5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ後ハケ目	細・普	○	SKb01	
399	弥・甕	15.0	-	-	1/8	5YR5/4にぶい赤褐	-	ヨコナデ、ハケ目、マメツ	ヨコナデ、ハケ目後指押さえ、ナデ	中・多	○	SKb01	
400	弥・甕	24.3	-	-	2/8	5YR6/6橙	-	ヨコナデ、指押さえ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ	細・少	○	SKb01	

報告書番号	器種	口径	器高	底径	残存率	色調・外	色調・内	調整・外	調整・内	胎土	角閃石	報告書掲載名	備考
401	弥・甕	151	-	-	2/8	25YR5/6明赤褐	75YR4/2灰褐	ヨコナテ、ハケ目後ヘラミガキ、マメツ	ヨコナテ、指押さえ、ヘラケズリ、マメツ	細・普	○	SKb01	
402	弥・甕	140	-	-	2/8	75YR5/6明褐	75YR4/6褐	ナテ、指押さえ、ハケ目、マメツ	ナテ、指押さえ、ハケ目	中・少	○	SKb01	
403	弥・甕	151	-	-	2/8	75YR6/4にぶい橙	-	ヨコナテ、ハケ目	ヨコナテ、ハケ目、ヘラケズリ	細・普	○	SKb01	
404	弥・甕	145	-	-	2/8	75YR5/4にぶい褐	75YR6/4にぶい橙	ヨコナテ、ハケ目、ヘラミガキ	ヨコナテ、指押さえ、マメツ	細・少	○	SKb01	
405	弥・甕	140	-	-	2/8	75YR6/4にぶい褐	75YR6/4にぶい橙	ヨコナテ、ハケ目	ヨコナテ、指押さえ、ヘラケズリ	中・普	○	SKb01	穿孔残存2ヶ所
406	弥・甕	146	-	-	3/8	75YR5/4にぶい褐	75YR6/4にぶい褐	ヨコナテ、ハケ目後ヘラミガキ	ヨコナテ、ナテ、指押さえ	細・少	○	SKb01	
407	弥・甕	144	-	-	1/8	75YR6/4にぶい橙	75YR6/6橙	ヨコナテ、ハケ目	ヨコナテ、指押さえ、指ナテ、ヘラケズリ	細・普	○	SKb01	
408	弥・甕	140	-	-	3/8	75YR5/6明褐	10YR5/4にぶい黄褐	ナテ、指押さえ、ハケ目後ヘラミガキ	ナテ、指押さえ、ヘラケズリ	細・普	○	SKb01	
409	弥・甕	148	-	-	2/8	5YR5/6明赤褐	5YR6/6橙	ヨコナテ、ハケ目、ヘラミガキ、マメツ	ヨコナテ、ヘラケズリ、指押さえ、指ナテ	細・普	○	SKb01	
410	弥・甕	-	-	7.1	10YR8/2灰白	10YR8/1灰白	ハケ目後ヘラミガキ	板ナテ、マメツ	板ナテ、マメツ	中・普 1cm大の 線有り		SKb01	
411	弥・甕	-	-	7.2	75YR6/4にぶい橙	10YR6/2灰黄褐	ヘラミガキ、ハケ目、マメツ	指押さえ後ヘラケズリ	指押さえ後ヘラケズリ	中・普		SKb01	
412	弥・甕	-	-	5.4	10YR5/2灰黄褐	10YR8/2灰白	ヘラミガキ、ナテ	板ナテ、マメツ	板ナテ、マメツ	細・普		SKb01	
413	弥・甕	-	-	3.1	5YR6/6橙	10YR5/7褐灰	ヘラミガキ	ナテ、指押さえ	ナテ、指押さえ	細・少		SKb01	
414	弥・甕	-	-	4.2	10YR6/6赤橙	10YR7/6橙	ハケ目後ヘラミガキ、マメツ	指押さえ後ナテ、マメツ	指押さえ後ナテ、マメツ	中・普		SKb01	
415	弥・甕	-	-	8.1	10YR8/3浅黄橙	10YR8/1灰白	板ナテ、マメツ	板ナテ、マメツ	ヘラケズリ、指ナテ、マメツ	中・少		SKb01	
416	弥・甕	-	-	6.3	75YR6/6橙	75YR5/6明褐	ヘラミガキ、底部ヘラミガキ	ヘラケズリ、指押さえ	ヘラケズリ、指押さえ	細・少		SKb01	
417	弥・甕	-	-	4.4	5YR6/7橙	75YR7/4にぶい橙	タタキ後ハケ目	タタキ後ハケ目	ヘラケズリ、指押さえ	細・少		SKb01	
418	弥・甕	-	-	6.8	75YR6/3にぶい褐	75YR6/4にぶい橙	ヘラミガキ	指押さえ、板ナテ	指押さえ、板ナテ	中・少		SKb01	
419	弥・甕	-	-	10.0	10R5/6赤	25YR6/6橙	ハケ目後ヘラミガキ、マメツ	ハケ目後ヘラミガキ、マメツ	指押さえ、板ナテ、マメツ	中・普		SKb01	
420	弥・甕	-	-	10.3	5YR6/8橙	75YR7/4にぶい橙	ハケ目後ヘラミガキ、マメツ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	細・少		SKb01	
421	弥・甕	-	-	8.0	10YR8/3浅黄橙	10YR7/1灰白	ヘラミガキ、マメツ	板ナテ	板ナテ	細・少		SKb01	
422	弥・甕	-	-	8.8	75YR8/4浅黄橙	10YR4/1褐灰	ヘラミガキ、ハケ目後ヘラミガキ	ヘラケズリ、マメツ	ヘラケズリ、マメツ	中・普		SKb01	
423	弥・甕	-	-	3.8	10YR7/3にぶい黄橙	10YR8/3浅黄橙	ナテ、ヘラミガキ、指押さえ	ナテ、マメツ	ナテ、マメツ	細・少		SKb01	
424	弥・甕	-	-	5.0	75YR6/6橙	75YR6/1褐灰	ハケ目後ヘラミガキ、タタキ、指押さえ	指押さえ、マメツ	ヘラケズリ、指押さえ	細・普		SKb01	
425	弥・甕	-	-	4.8	75YR6/4にぶい橙	5YR5/6明赤褐	ヘラミガキ、指押さえ後ナテ、底部ヘラミガキ	マメツ、指押さえ	マメツ、指押さえ	中・多		SKb01	
426	弥・甕	-	-	5.0	75YR1/4褐灰	75YR6/4にぶい橙	ヘラミガキ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	細・多	○	SKb01	
427	弥・甕	-	-	5.2	75YR5/4にぶい褐	5YR5/6明赤褐	ハケ目後ヘラミガキ	ヘラケズリ、マメツ	ヘラケズリ、マメツ	細・少	○	SKb01	
428	弥・甕	-	-	5.0	5YR7/4にぶい橙	10YR8/4浅黄橙	ハケ目、マメツ	ヘラケズリ、マメツ	ヘラケズリ、マメツ	細・普		SKb01	
429	弥・甕	-	-	4.6	25YR5/2灰赤	5YR7/6橙	タタキ後ハケ目、ナテ	指押さえ、ヘラケズリ	指押さえ、ヘラケズリ	中・少		SKb01	
430	弥・甕	-	-	7.3	75YR5/3にぶい褐	10YR4/1褐灰	ハケ目後ナテ、底部板ナテ、マメツ	ヘラケズリ、指押さえ	ヘラケズリ、指押さえ	細・普		SKb01	
431	弥・甕	-	-	4.4	10YR5/3にぶい黄褐	25YR8/1灰白	指押さえ、ヘラミガキ、マメツ	指押さえ、マメツ	指押さえ、マメツ	細・少		SKb01	
432	弥・甕	-	-	5.1	75YR6/6橙	-	ハケ目、ナテ	ヘラケズリ、指押さえ	ヘラケズリ、指押さえ	細・普	○	SKb01	
433	弥・甕	-	-	5.0	75YR8/4浅黄橙	10YR7/6明黄褐	タタキ、マメツ	ヘラケズリ、指押さえ	ヘラケズリ、指押さえ	中・多		SKb01	
434	弥・甕	-	-	5.8	75YR5/3にぶい褐	75YR6/4にぶい橙	ヘラミガキ	ヘラケズリ、指押さえ	ヘラケズリ、指押さえ	細・普	○	SKb01	
435	弥・甕	-	-	4.6	75YR7/3にぶい橙	10YR8/3浅黄橙	ハケ目、指押さえ	ヘラケズリ、指押さえ	ヘラケズリ、指押さえ	細・普		SKb01	
436	弥・甕	-	-	6.0	75YR7/6橙	75YR5/6明褐	ヘラミガキ、マメツ	指押さえ、マメツ	指押さえ、マメツ	細・少	○	SKb01	
437	弥・甕	-	-	4.5	75YR5/3にぶい褐	75YR5/2灰褐	ハケ目、指押さえ、板ナテ	ヘラケズリ、指押さえ	ヘラケズリ、指押さえ	細・少		SKb01	
438	弥・甕	-	-	4.6	75YR6/4にぶい黄橙	10YR7/2にぶい黄橙	タタキ後ハケ目、底部ヘラミガキ	ヘラケズリ、マメツ	ヘラケズリ、マメツ	中・少		SKb01	
439	弥・甕	-	-	5.0	25YR6/6橙	10YR3/1褐灰	タタキ、マメツ	指押さえ、マメツ	指押さえ、マメツ	細・普		SKb01	
440	弥・甕	-	-	3.1	10YR7/3にぶい黄橙	10YR8/4浅黄橙	タタキ、マメツ	指押さえ、マメツ	指押さえ、マメツ	中・普		SKb01	
441	弥・甕	-	-	6.4	75YR5/4にぶい褐	75YR6/4にぶい橙	ヘラミガキ、底部ヘラミガキ、マメツ	指押さえ、ヘラケズリ	指押さえ、ヘラケズリ	細・普	○	SKb01	
442	弥・甕	-	-	5.7	10YR8/2黒褐	10YR5/2灰黄褐	ヘラミガキ、指押さえ	ヘラケズリ、指押さえ	ヘラケズリ、指押さえ	細・普	○	SKb01	
443	弥・甕	-	-	5.5	75YR5/4にぶい褐	75YR5/6明褐	ヘラミガキ、底部ヘラミガキ	ヘラケズリ、指押さえ	ヘラケズリ、指押さえ	中・普	○	SKb01	
444	弥・甕	-	-	4.4	5YR8/4浅黄橙	10YR6/2浅黄橙	ヘラミガキ、底部ヘラミガキ	指押さえ、ヘラケズリ	指押さえ、ヘラケズリ	中・普	○	SKb01	
445	弥・甕	-	-	4.1	5YR6/6橙	25YR7/6橙	タタキ後ハケ目、底部ハケ目	ヘラケズリ	ヘラケズリ	細・普		SKb01	
446	弥・甕	-	-	4.5	75YR6/4にぶい橙	5YR6/8橙	ヘラミガキ	ヘラケズリ、指押さえ	ヘラケズリ、指押さえ	細・普		SKb01	
447	弥・甕	-	-	6.0	75YR6/4にぶい橙	-	ヘラミガキ	ヘラケズリ、指押さえ	ヘラケズリ、指押さえ	細・普	○	SKb01	
448	弥・甕	-	-	5.5	75YR6/4にぶい橙	10YR8/2灰黄褐	ヘラミガキ、マメツ	ヘラケズリ、マメツ	ヘラケズリ、マメツ	中・多	○	SKb01	
449	弥・甕	-	-	4.4	10YR8/2灰白	10YR8/1灰白	ハケ目、指押さえ	指押さえ、板ナテ、マメツ	指押さえ、板ナテ、マメツ	中・少		SKb01	

報告番号	器種	口径	器高	底径	残存率	色調・外	色調・内	調整・外	調整・内	粘土	角閃石	報告番号	備考
450	弥・甕	-	-	54	6/8	10YR4/3にぶい黄褐	75YR5/4にぶい褐	ハラミガキ、マメツ	ハラケズリ、マメツ	細・普	SKb01	SKb01	
451	弥・甕	-	-	50	3/8	75YR3/1黒褐	75YR6/4にぶい褐	板ナデ、ハラミガキ	ハラケズリ	中・少	○	SKb01	
452	弥・甕	-	-	42	3/8	10YR4/2灰黄褐	75YR8/4浅黄橙	タタキ後ハラミ、ハラミガキ	ハラケズリ、指押さえ、板ナデ	中・少	○	SKb01	
453	弥・甕	-	-	52	7/8	75YR7/3にぶい褐	10YR7/2にぶい黄橙	タタキ、タタキ後ナデ	ハラケズリ、指ナデ	中・少		SKb01	
454	弥・甕	-	-	56	3/8	75YR5/4にぶい褐	75YR6/4にぶい褐	ハケ目後ハラミガキ、指押さえ後ナデ、底部ハラミガキ	ハラケズリ、指押さえ	細・普		SKb01	
455	弥・甕	-	-	-	3/8	5YR6/4にぶい褐	-	ハケ目後ハラミガキ、マメツ	指押さえ、板ナデ	中・普	○	SKb01	
456	弥・甕	-	-	50	8/8	75YR5/4にぶい褐	75YR6/6橙	指押さえ、ハラケズリ	指押さえ、ハラケズリ	細・普	○	SKb01	
457	弥・高杯	264	14.8	18.6	3/8	10YR7/3にぶい黄橙・25YR6/6橙	75YR6/6橙・25YR6/6橙	ナデ、ハラケズリ後ハラミガキ、板ナデ、ハケ目後ハラミガキ	ナデ、ハラケ目後ハラミガキ、しほり目、マメツ	粗・少		SKb01	4方透かし
458	弥・高杯	287	-	-	2/8	10YR8/2灰白	-	マメツ	マメツ	粗・多		SKb01	
459	弥・高杯	239	15.6	15.8	4/8	75YR6/4にぶい褐	5YR6/6橙	ハラケズリ後ハラミガキ、ハケ目後ハラミガキ、マメツ	ハラミガキ、しほり目、板ナデ、ナデ、マメツ	中・普	○	SKb01	
460	弥・高杯	212	12.3	14.5	4/8	75YR8/3浅黄橙	-	ハラミガキ、ナデ、マメツ	ハラミガキ、しほり目、マメツ	細・多		SKb01	4方透かし
461	弥・高杯	242	-	-	5/8	5YR7/8橙	5YR5/6明赤褐	ハラミガキ、板ナデ、マメツ	ハラミガキ、ハラケズリ、マメツ	細・普	○	SKb01	
462	弥・高杯	222	13.1	14.2	完存	75YR5/6明褐	-	ヨコナデ、ハケ目、マメツ	しほり目、ハラミガキ、マメツ	中・普	○	SKb01	4方透かし
463	弥・高杯	155	-	-	4/8	75YR5/4にぶい褐	-	ヨコナデ、ハラミガキ	ヨコナデ、ハラミガキ、ハラケズリ	細・普	○	SKb01	
464	弥・高杯	168	-	-	8/8	5YR5/6明赤褐	-	ヨコナデ、ハラミガキ、マメツ	ヨコナデ、マメツ	細・普	○	SKb01	
465	弥・高杯	208	-	-	2/8	5YR6/6橙	5YR5/6明赤褐	ヨコナデ、ハラケズリ後ハラミガキ	ヨコナデ、ハラケズリ	細・普	○	SKb01	
466	弥・高杯	210	-	-	2/8	75YR5/6明褐	-	ナデ、ハラケズリ	ナデ、ハラミガキ	細・普	○	SKb01	
467	弥・高杯	190	-	-	2/8	10YR8/4浅黄橙	-	マメツ	マメツ	細・普		SKb01	
468	弥・高杯	-	-	-	細片	5YR6/6橙	5YR5/6明赤褐	マメツ	マメツ	中・普	○	SKb01	
469	弥・高杯	11.2	8.4	9.5	8/8	5YR7/6橙	5YR8/4淡橙	ハラミガキ、マメツ	ハラミガキ、しほり目、指押さえ、板ナデ、マメツ	粗・普		SKb01	4方透かし
470	弥・高杯	31.5	17.5	22.8	7/8	5YR7/8橙	-	ヨコナデ、指押さえ、ハラミガキ、ハケ目、マメツ	ヨコナデ、ハラミガキ、しほり目、マメツ	中・普		SKb01	円形浮文、刻み目、櫛歯状文
471	弥・高杯	-	-	-	1/8	25Y8/2灰白	-	ハラミガキ	指押さえ、しほり目、ナデ、マメツ	中・多		SKb01	
472	弥・高杯	-	-	14.4	5/8	10YR7/2にぶい黄橙	75YR5/3にぶい褐	ハケ目、ヨコナデ、マメツ	ハラケズリ、ヨコナデ、マメツ	細・普	○	SKb01	4方透かし
473	弥・高杯	-	-	14.1	5/8	75YR8/3	-	ハケ目後ハラミガキ、ヨコナデ、マメツ	ハケ目、マメツ	中・普		SKb01	3方透かし
474	弥・高杯	-	-	22.4	1/8	75YR5/4にぶい褐	75YR6/4にぶい褐	ハラミガキ、ヨコナデ	ハラケズリ	細・普	○	SKb01	2ヶ1単位の透かし穴現存2単位
475	弥・高杯	-	-	-	3/8	25YR7/8橙・75Y5/1灰黒	25YR7/8橙・75Y2/1黒	マメツ	板ナデ、しほり目	粗・多		SKb01	透かし穴現存1ヶ所
476	弥・高杯	-	-	14.7	1/8	10YR8/3浅黄橙	-	指押さえ、マメツ	マメツ	中・多		SKb01	4方透かし
477	弥・高杯	-	-	19.3	1/8	75YR4/3褐	75YR5/4にぶい褐	ハラミガキ、ヨコナデ	ハラケズリ	細・普	○	SKb01	透かし穴現存1ヶ所
478	弥・高杯	-	-	17.2	1/8	75YR5/2灰褐	5YR5/4にぶい赤褐	ハラミガキ、ヨコナデ	ハラケズリ、ハケ目	中・普	○	SKb01	透かし穴現存1ヶ所
479	弥・鉢	8.2	6.2	1.9	8/8	5YR6/6橙	-	ナデ、マメツ	指押さえ、板ナデ	細・少		SKb01	
480	弥・鉢	10.5	6.5	4.3	5/8	75YR7/4にぶい褐	75YR5/2灰褐	タタキ後ハラミ、ナデ、マメツ	指押さえ、ハラケズリ	細・普		SKb01	
481	弥・鉢	12.7	6.0	4.2	4/8	75YR7/4にぶい褐	10YR8/2灰白	ナデ、指押さえ、タタキ、マメツ	指押さえ、ハラケズリ	細・普		SKb01	
482	弥・鉢	12.8	7.3	4.3	6/8	75YR8/6浅黄橙	75YR7/6橙	指押さえ、ナデ、マメツ	ナデ、指押さえ、マメツ	中・普		SKb01	
483	弥・鉢	12.3	6.3	3.4	完存	5YR7/6橙	10YR7/2にぶい黄橙	指押さえ後ナデ	指押さえ後板ナデ	中・少		SKb01	
484	弥・鉢	12.3	6.1	2.8	3/8	10YR8/1灰白	-	ヨコナデ、マメツ	ヨコナデ、板ナデ、マメツ	細・普		SKb01	
485	弥・鉢	13.0	5.4	4.6	5/8	25Y2/1黒	10YR7/3にぶい黄橙	板ナデ、マメツ	板ナデ	中・普		SKb01	
486	弥・鉢	13.8	6.9	3.1	完存	5YR7/6橙	75YR8/2灰白	ヨコナデ、指押さえ後板ナデ、指押さえ	ヨコナデ、ハラミガキ	中・普		SKb01	
487	弥・鉢	12.2	5.8	3.0	7/8	5YR7/8橙	-	ナデ、マメツ	ハケ目後ハラミガキ	中・少		SKb01	
488	弥・鉢	12.8	5.0	2.9	3/8	75YR8/6浅黄橙	25YR7/1灰白	ヨコナデ、ハラケズリ、マメツ	ヨコナデ、マメツ	中・普		SKb01	
489	弥・鉢	15.0	5.9	4.2	2/8	75YR7/4にぶい褐	75YR7/6橙	ハラケズリ、マメツ	ナデ、指押さえ、マメツ	中・普		SKb01	
490	弥・鉢	15.3	6.8	3.8	5/8	10YR8/3浅黄橙	-	マメツ	ハラケズリ、マメツ	中・多		SKb01	
491	弥・鉢	17.8	7.8	3.9	2/8	5YR4/4にぶい赤褐	-	ハラケズリ、マメツ	板ナデ、指押さえ、マメツ	細・多		SKb01	
492	弥・鉢	15.8	6.5	4.2	7/8	5YR7/6橙	10YR8/2灰白	タタキ、ナデ、指押さえ、マメツ	指押さえ、板ナデ、マメツ	中・少		SKb01	
493	弥・鉢	10.7	5.8	3.6	完存	10YR8/2灰白	-	ナデ、しほり目、指押さえ後ナデ	マメツ	細・普		SKb01	
494	弥・鉢	6.5	4.3	3.7	8/8	5YR7/6橙・10YR8/2灰白	-	板ナデ、指押さえ、マメツ	指押さえ、ナデ、マメツ	細・少		SKb01	
495	弥・鉢	15.2	8.7	5.3	8/8	5YR7/8橙・25Y8/2灰白	25Y8/3淡黄	ナデ、指押さえ、マメツ	ハケ目、マメツ	中・少		SKb01	
496	弥・鉢	14.8	8.3	3.8	3/8	5YR7/8橙	-	ナデ、板ナデ、指押さえ	ナデ、マメツ	中・少		SKb01	

報告書番号	器種	口径	器高	底径	残存率	色調・外	色調・内	調整・外	調整・内	胎土	角閃石	報告書種名	備考
497	弥・鉢	12.7	8.1	3.9	4/8	75YR7/4にぶい橙	10YR5/2灰黄褐	指押さえ後板ナデ、ナデ	マメツ	中・多		SKb01	
498	弥・鉢	10.7	7.0	4.7	完存	10YR8/2灰白	-	ハラミガキ、指押さえ	指押さえ、マメツ	細・多		SKb01	
499	弥・鉢	15.2	10.4	6.1	完存	10YR8/1灰白	-	ヨコナデ、ハラケズリ、指押さえ、ナデ、マメツ	ヨコナデ、マメツ	中・多		SKb01	
500	弥・鉢	17.2	9.5	4.9	完存	75YR8/3浅黄橙	25YR8/1灰白	ヨコナデ、ハラケズリ、指押さえ、ナデ、マメツ	ヨコナデ、ハラミガキ、ナデ	中・少		SKb01	
501	弥・鉢	10.0	8.5	7.5	6/8	75YR8/3浅黄橙	-	板ナデ、指押さえ後ナデ、マメツ	板ナデ、指押さえ、マメツ	中・多		SKb01	
502	弥・鉢	9.3	7.8	3.8	8/8	75YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	ナデ、ハラケ目、指押さえ	ナデ、指押さえ、マメツ	中・少		SKb01	
503	弥・鉢	14.9	13.1	7.6	完存	75YR6/4にぶい橙	75YR8/2灰白	ナデ、ハラケ目後ハラミガキ、指押さえ	ナデ、ハラケ目後ハラミガキ、マメツ	中・多	○	SKb01	ハラ描文「絵画」あるいは「記号」
504	弥・鉢	-	-	3.8	3/8	75YR6/3にぶい褐	75YR8/2灰白	ハラケ目、ナデ、指押さえ、底部ハラミガキ	マメツ	中・少		SKb01	
505	弥・鉢	-	-	3.6	7/8	5YR7/6橙	10YR5/2灰黄褐	指押さえ、マメツ	ハラケズリ、マメツ	中・少		SKb01	
506	弥・鉢	-	-	4.5	3/8	10YR6/1褐灰	10YR5/1褐灰	指押さえ、ナデ、マメツ	板ナデ、指押さえ	微・少		SKb01	
507	弥・鉢	22.8	12.6	8.7	6/8	25YR6/8橙	25YR6/6橙	ヨコナデ、ハラケズリ後ハラミガキ、マメツ	ヨコナデ、板ナデ、マメツ	中・普		SKb01	
508	弥・鉢	14.9	10.4	4.4	4/8	75YR7/3にぶい橙	75YR4/1褐灰	マメツ	マメツ	細・少		SKb01	ハラ描文「絵画」あるいは「記号」
509	弥・鉢	17.4	-	-	1/8	5YR5/4にぶい赤褐	-	ヨコナデ、マメツ	ヨコナデ、マメツ	細・少	○	SKb01	
510	弥・鉢	11.6	-	-	1/8	75YR6/4にぶい橙	10YR6/3にぶい黄橙	ヨコナデ、ハラケ目後ナデ	ヨコナデ、ナデ、指押さえ	細・普		SKb01	
511	弥・鉢	14.0	-	-	5/8	5YR7/8橙	75YR7/2明褐灰	ヨコナデ、ハラケ目	ヨコナデ、ナデ、マメツ	微・少		SKb01	
512	弥・鉢	11.7	9.2	3.5	5/8	25YR6/6橙	10YR8/2灰白	ヨコナデ、マメツ	ヨコナデ、指押さえ、ハラケズリ、マメツ	細・普		SKb01	
513	弥・鉢	7.5	5.6	1.7	2/8	10YR8/2灰白	10YR8/1灰白	指押さえ、マメツ	指押さえ、マメツ	細・普		SKb01	
514	弥・鉢	33.9	20.0	10.0	2/8	75YR7/6橙	10YR8/1灰白	ヨコナデ、ハラケ目、マメツ	ヨコナデ、ナデ、マメツ	細・普		SKb01	注ぎ口
515	弥・鉢	35.2	18.5	8.0	7/8	10YR5/3にぶい黄褐	10YR6/4にぶい黄橙	ハラケ目、ハラケズリ後ハラケ目	ハラケ目後ハラミガキ、指押さえ	細・少	○	SKb01	注ぎ口
516	弥・鉢	38.8	-	8.1	2/8	5YR8/4淡橙	10YR8/1灰白	ヨコナデ、ハラケ目、マメツ	ヨコナデ、板ナデ、マメツ	中・普		SKb01	
517	弥・鉢	40.0	-	-	2/8	10YR8/4浅黄橙	10YR8/2灰白	ナデ、指押さえ、ハラケ目、マメツ	ナデ、ハラケズリ、マメツ	中・普		SKb01	注ぎ口
518	弥・鉢	44.3	-	-	3/8	5YR5/6明赤褐	75YR5/4にぶい褐	ハラミガキ、マメツ、ハラケズリ後ハラミガキ	ハラミガキ、マメツ	細・普	○	SKb01	
519	弥・鉢	26.8	-	-	1/8	10YR7/2にぶい黄橙	5YR7/6橙	ヨコナデ、マメツ	ヨコナデ、ハラケ目後ハラケズリ	細・少		SKb01	
520	弥・鉢	20.8	-	-	4/8	75YR8/2灰白	10YR8/2灰白	ヨコナデ、指押さえ、ナデ、ハラケ目	ヨコナデ、マメツ	中・多		SKb01	
521	弥・鉢	32.0	-	-	1/8	10YR3/1黒褐	10YR8/3浅黄橙	ヨコナデ、マメツ	ヨコナデ、マメツ	中・普		SKb01	
522	弥・鉢	22.7	9.5	6.0	4/8	10YR8/6浅黄橙	75YR7/4にぶい橙	ヨコナデ、ハラケ目、マメツ	板ナデ、指押さえ	中・普		SKb01	
523	弥・鉢	21.4	-	-	3/8	75YR8/3浅黄橙	75YR7/4にぶい橙	ナデ、ハラケズリ	ハラケ目後ハラミガキ	中・少		SKb01	結晶片岩
524	弥・鉢	20.8	-	-	2/8	5YR6/8橙	10YR7/6明黄褐	ナデ、ハラケ目、板ナデ、マメツ	ナデ、指押さえ、ハラケ目、ハラケズリ	中・普		SKb01	穿孔2ヶ所
525	弥・鉢	18.5	17.8	1.5	6/8	75YR7/4にぶい橙	-	ヨコナデ、タタキ、ナデ、マメツ	ヨコナデ、ナデ、指ナデ、指押さえ、マメツ	細・多		SKb01	
526	弥・鉢	17.5	18.6	2.0	7/8	10YR7/3にぶい黄橙	5YR6/6橙	ヨコナデ、板ナデ、ハラケ目後ハラミガキ、指押さえ後板ナデ	指押さえ後板ナデ、指ナデ、ハラケズリ、マメツ	中・普	○	SKb01	体部穿孔2ヶ所
527	弥・鉢	21.3	16.9	3.3	7/8	10YR7/4にぶい黄橙	75YR7/4にぶい橙	指押さえ、ハラケ目後ハラミガキ、マメツ	指押さえ、ハラケ目、マメツ	中・普		SKb01	
528	弥・鉢	21.4	19.5	1.0	完存	5YR6/8橙	-	ヨコナデ、タタキ後ナデ	ハラケ目後ナデ、指押さえ、マメツ	粗・少		SKb01	穿孔2ヶ所
529	弥・鉢	-	-	3.1	6/8	25YR8/2灰白	-	板ナデ、ハラミガキ	ハラケズリ、マメツ	中・少		SKb01	
530	弥・鉢	-	-	5.9	5/8	75YR5/4にぶい褐	75YR6/4にぶい橙	ハラミガキ、指押さえ後ハラミガキ	ハラケズリ、指押さえ	中・少		SKb01	
535	弥・壺	17.8	-	-	1/8	75YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙	指押さえ後ヨコナデ	指押さえ後ヨコナデ	細・普	○	SKb03	
536	弥・壺	13.8	-	-	1/8	75YR6/4にぶい橙	75YR7/3にぶい橙	指ナデ、指押さえ後ナデ	指ナデ、ハラケ目	細・少		SKb04	
537	弥・壺	12.2	-	-	1/8	5YR7/6橙	10YR7/4にぶい黄橙	ヨコナデ、指押さえ後ナデ	ヨコナデ、ハラミガキ、マメツ	細・普		SKb05	
538	弥・壺	-	-	-	細片	5YR7/6橙	25Y3/1黒褐	ハラケ目、マメツ	ハラミガキ	中・多		SKb05	貼付袋帯1条
539	弥・壺	-	-	-	3/8	10YR7/4にぶい黄橙	75YR6/6橙	ハラケ目	指押さえ、指ナデ、ハラケズリ	中・多		SKb05	ハラ庄痕文
540	弥・壺	13.0	-	-	1/8	10YR8/3浅黄橙	5YR6/6橙	ヨコナデ	ヨコナデ	細・少		SKb05	
542	弥・壺	13.0	-	-	1/8	5YR6/6橙	-	ヨコナデ、指押さえ、ハラケ目、マメツ	ヨコナデ	中・多	○	SKb05	
543	弥・壺	-	-	5.1	2/8	75YR5/3にぶい褐	75YR5/1褐灰	指押さえ、ハラケ目、マメツ	ヨコナデ	細・少		SKb05	
544	弥・壺	-	-	5.0	6/8	10YR8/3浅黄橙	10YR8/2灰白	ハラミガキ、ナデ	ハラケズリ、指押さえ	中・多		SKb05	
545	弥・壺	-	-	6.1	3/8	10YR8/3浅黄橙	10YR5/1褐灰	ハラミガキ、板ナデ	指押さえ後ハラケズリ	中・普		SKb05	
546	弥・壺	12.7	-	-	2/8	25Y5/6明赤褐	-	ハラミガキ、マメツ	マメツ	中・普		SKb05	
546	弥・壺	13.3	-	-	1/8	10YR8/3浅黄橙	75YR5/3にぶい褐	ヨコナデ、マメツ	ヨコナデ、ハラケズリ	細・普		SKb05	
547	弥・壺	13.4	-	-	1/8	75YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙	ヨコナデ、ハラケ目、マメツ	ヨコナデ、指押さえ	細・普	○	SKb05	

報告書番号	器種	口径	器高	底径	残存率	色調・外	色調・内	調整・外	調整・内	胎土	角閃石	報告書編名	備考
548	弥・甕	13.4	-	-	2/8	7.5YR6/4にぶい橙	5YR7/6橙	ヨコナテ、ハケ目	板ナテ、ヘラケズリ	細・少	○	SKb05	
549	弥・甕	12.9	-	-	1/8	7.5YR6/6橙	7.5YR6/4にぶい橙	ヨコナテ、指押さえ、ハケ目	ヨコナテ、指押さえ、ヘラケズリ	細・普	○	SKb05	
550	弥・甕	14.2	-	-	1/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ヨコナテ、ハケ目	ヨコナテ、指押さえ、後板ナテ	細・少	○	SKb05	
551	弥・甕	11.3	-	-	2/8	5YR6/6橙	7.5YR8/3浅黄橙	ヨコナテ、ハケ目、マメツ	ヨコナテ、指ナテ	中・普		SKb05	
552	弥・甕	11.3	-	-	細片	10YR8/2灰白	5YR7/6橙	ヨコナテ、マメツ	ヨコナテ、指押さえ、ヘラケズリ	細・少		SKb05	
553	弥・甕	13.4	-	-	1/8	7.5YR5/6明褐	5YR6/4にぶい橙	ヨコナテ、指押さえ、ハケ目、マメツ	ヨコナテ、指ナテ、指押さえ、マメツ	中・普	○	SKb05	鏡齒文
554	弥・器台	28.2	-	-	4/8	7.5YR8/4浅黄橙	-	マメツ	マメツ	中・普		SKb05	鏡齒文
555	弥・器台	31.8	-	-	3/8	7.5YR7/4にぶい橙	-	マメツ	マメツ	中・普		SKb05	鏡齒文
556	弥・高杯	-	-	-	6/8	7.5YR8/4浅黄橙	7.5YR7/4にぶい橙	マメツ	ヨコナテ、しぼり目、指押さえ、後板ナテ	中・普		SKb05	透かし穴現存4ヶ所
557	弥・高杯	-	-	-	細片	5YR6/6橙	5YR5/6明赤褐	ハケ目、ヘラケズリ、ヘラミガキ	ハケ目、ヘラケズリ	中・普	○	SKb05	
558	弥・鉢	21.6	-	-	1/8	7.5YR6/4にぶい橙	2.5Y2/1黒	ヨコナテ、マメツ	ヨコナテ、ヘラミガキ	中・少		SKb05	
559	弥・製塩土器	-	-	3.5	7/8	2.5Y5/3黄褐	2.5Y7/4浅黄	ヘラケズリ、指押さえ、後ナテ	マメツ	微・普		SKb05	
560	弥・製塩土器	3.5	-	-	4/8	7.5YR6/4にぶい橙	2.5YR5/2暗灰黄	ヘラケズリ、指押さえ	板ナテ	粗・少		SKb05	
561	弥・土製品	-	-	-	8/8	5YR6/6橙	-	指押さえ	ナテ	微・普		SKb05	獣足形
562	弥・甕	10.4	-	-	1/8	5YR6/6橙	7.5YR5/6明褐	ナテ、ハケ目、ヘラミガキ	ナテ、指押さえ、ヘラケズリ	細・普	○	SKb07	
563	弥・甕	14.0	-	-	1/8	7.5YR5/4にぶい褐	10YR6/4にぶい黄橙	ナテ、ハケ目	ナテ、指押さえ	細・少	○	SKb07	
564	弥・甕	15.6	-	-	2/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ヨコナテ、ハケ目、ヘラミガキ	ヨコナテ、指押さえ、ヘラケズリ	細・普	○	SKb07	
565	弥・甕	-	-	5.1	4/8	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	ヘラミガキ	ヘラケズリ、指押さえ	細・普	○	SKb07	
566	弥・高杯	16.2	-	-	1/8	7.5YR6/4にぶい橙	5YR5/4にぶい赤褐	ヨコナテ	ヨコナテ	細・普	○	SKb07	
567	弥・鉢	8.6	4.6	4.3	5/8	7.5YR8/4浅黄橙	5YR7/6橙	指押さえ、マメツ	指押さえ、マメツ	細・普		SKb07	
568	弥・甕	-	-	5.6	2/8	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR4/4褐	ナテ、マメツ	ヨコナテ、ハケ目、ヘラケズリ	細・少	○	SKb13	
570	弥・甕	13.8	-	-	2/8	10YR5/4にぶい黄褐	-	ヨコナテ、ハケ目	ヨコナテ、ハケ目、指押さえ、指ナテ、マメツ	細・少	○	SKb16	
571	弥・甕	14.3	-	-	1/8	5YR7/6橙	5YR7/4にぶい橙	ヨコナテ、ハケ目、マメツ	ヨコナテ、ナテ、マメツ	細・少		SKb16	
572	弥・甕	16.6	-	-	4/8	7.5YR5/4にぶい褐	10YR6/3にぶい黄橙	ヨコナテ、ナテ、ハケ目	ヨコナテ、ナテ、指押さえ	細・普	○	SKb16	
573	弥・甕	18.0	-	-	3/8	7.5YR5/4にぶい褐	5YR5/6明赤褐	ヨコナテ、ハケ目	ヨコナテ、指押さえ、指ナテ	細・普	○	SKb16	
574	弥・甕	17.4	-	-	1/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ヨコナテ、ハケ目	ヨコナテ、指押さえ、マメツ	細・少	○	SKb16	
575	弥・甕	16.0	-	-	2/8	10YR8/3浅黄橙	-	ヨコナテ、マメツ	ヨコナテ、指押さえ、マメツ	中・普		SKb16	
576	弥・甕	16.0	-	-	2/8	10YR4/6褐	-	ヨコナテ、ハケ目、マメツ	ヨコナテ、指押さえ、マメツ	細・普	○	SKb16	竹管文
577	弥・甕	18.6	-	-	3/8	7.5YR6/4にぶい橙	-	ヨコナテ、ヘラミガキ、マメツ	ヨコナテ、ヘラミガキ	中・普	○	SKb16	
578	弥・甕	15.2	-	-	6/8	7.5Y4/6褐	-	ヨコナテ、ハケ目、マメツ	ヨコナテ、指押さえ、マメツ	細・普	○	SKb16	
579	弥・甕	18.0	-	-	1/8	10YR4/2灰黄褐	10YR5/2灰黄褐	ヨコナテ、ハケ目	ヨコナテ、指押さえ、後ハケ目、マメツ	細・普	○	SKb16	
580	弥・甕	26.4	-	-	1/8	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/6明黄褐	ナテ、指押さえ、マメツ	ナテ、指押さえ、マメツ	細・少	○	SKb16	
581	弥・甕	17.0	-	-	2/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ヨコナテ、ハケ目、マメツ	ヨコナテ、マメツ	細・普	○	SKb16	
582	弥・甕	21.0	-	-	1/8	7.5YR7/4にぶい橙	10YR8/3浅黄橙	ヨコナテ、ハケ目、マメツ	ヨコナテ、板ナテ、ナテ、マメツ	中・普	○	SKb16	
583	弥・甕	20.0	-	-	3/8	7.5YR6/6橙	7.5YR6/3にぶい褐	ヨコナテ、ヘラミガキ、指押さえ、ナテ	ヨコナテ、板ナテ、ナテ、マメツ	細・普	○	SKb16	
584	弥・甕	20.7	-	-	4/8	7.5YR6/4にぶい橙	-	ヨコナテ、ナテ、ハケ目、ヘラミガキ?	ヨコナテ、ナテ、指押さえ、ナテ	中・普	○	SKb16	
585	弥・甕	17.9	-	-	4/8	7.5YR7/4にぶい橙	10YR8/2灰白	ヨコナテ、ナテ、ハケ目、後ヘラミガキ	ヨコナテ、指ナテ、指押さえ、指ナテ	中・普	○	SKb16	
586	弥・甕	19.4	-	-	5/8	7.5YR5/4にぶい褐	10YR6/3にぶい黄橙	ヨコナテ、ハケ目、後ヘラミガキ	ヨコナテ、指ナテ、指押さえ、ヘラケズリ	中・多	○	SKb16	
587	弥・甕	-	-	-	1/8	10YR7/3にぶい黄橙	2.5Y6/2灰黄	ナテ、マメツ	ヨコナテ、ナテ、指押さえ、ヘラケズリ	細・普	○	SKb16	
588	弥・甕	14.4	-	-	2/8	7.5YR6/4にぶい橙	-	ヨコナテ、ナテ	マメツ	中・普		SKb16	鏡齒文
589	弥・甕	-	-	-	細片	10YR8/2灰白	7.5YR8/6浅黄橙	ヨコナテ、指押さえ、後ナテ、マメツ	ヨコナテ、ヘラミガキ	細・普	○	SKb16	
590	弥・甕	21.8	-	-	2/8	7.5YR6/4にぶい橙	-	ヨコナテ、ハケ目、後ヘラミガキ	ヨコナテ、指押さえ	中・普		SKb16	
591	弥・甕	-	-	-	1/8	7.5YR6/6橙	2.5Y7/2灰黄	ヨコナテ、ハケ目	ナテ、指ナテ、ヘラケズリ	細・普	○	SKb16	ヘラ描[絵画]
592	弥・甕	17.0	-	-	2/8	7.5YR6/4にぶい橙	-	ヨコナテ、ハケ目	ヨコナテ、ハケ目、ナテ	微・少		SKb16	
593	弥・甕	25.0	-	-	1/8	10YR8/3浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	マメツ	マメツ	細・普		SKb16	
594	弥・甕	15.9	-	-	1/8	5YR6/4にぶい赤褐	-	ヨコナテ、ハケ目	ヨコナテ、指ナテ、指押さえ、ハケ目	細・普		SKb16	
595	弥・甕	13.0	-	-	1/8	7.5YR7/4にぶい橙	2.5YR6/6橙	ヨコナテ、ハケ目、マメツ	ヨコナテ、ハケ目	中・普		SKb16	
596	弥・甕	11.8	-	-	2/8	5YR6/6橙	-	ヨコナテ、指押さえ、タタキ、マメツ	ヨコナテ、ハケ目、指押さえ、ナテ	細・少		SKb16	
597	弥・甕	14.0	-	-	1/8	2.5YR7/8橙	-	ヨコナテ、ハケ目、タタキ	ヨコナテ、指押さえ、マメツ	細・普		SKb16	結晶片岩

報告書番号	器種	口径	器高	底径	残存率	色調・外	色調・内	調整・外	調整・内	胎土	角閃石	報告書標名	備考
598	弥・甕	15.9	-	-	1/8	5YR6/4にぶい橙	-	ヨコナデ、タタキ後ハケ目	ヨコナデ、ハケ目	細・少		SKb16	
599	弥・甕	14.7	-	-	1/8	10YR4/6褐	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、マメツ	細・普	○	SKb16	
600	弥・甕	17.2	-	-	1/8	7.5YR7/4にぶい橙	-	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、指押さえ、ナデ、マメツ	細・少		SKb16	
601	弥・甕	9.3	11.4	3.8	3/8	5YR6/4にぶい橙	10YR4/1褐灰	ヨコナデ、ハケ目、タタキ後ナデ	ヨコナデ、指押さえ、ハケ目後指ナデ	細・少		SKb16	
602	弥・甕	14.0	-	-	2/8	7.5YR8/2灰白	10YR8/2灰白	ヨコナデ、タタキ後ハケ目	ヨコナデ、ハケ目、指押さえ、ヘラケズ	中・普		SKb16	
603	弥・甕	12.8	-	-	8/8	5YR7/8橙	-	ヨコナデ、タタキ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ後板ナデ、指ナデ、ヘラケズリ、マメツ	粗・普		SKb16	
604	弥・甕	11.8	-	-	1/8	5YR7/6橙	10YR8/4浅黄橙	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、マメツ	中・普		SKb16	
605	弥・甕	15.6	-	-	2/8	5YR6/6橙	-	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、板ナデ	細・少		SKb16	
606	弥・甕	13.9	-	-	2/8	5YR7/8橙	5YR7/6橙	ヨコナデ、指押さえ、ハケ目後ナデ、マメツ	ヨコナデ、指ナデ、指押さえ、板ナデ	細・少		SKb16	
607	弥・甕	14.6	-	-	1/8	7.5YR7/4にぶい橙	-	ヨコナデ、タタキ後ハケ目	ヨコナデ、ハケ目後指ナデ、指押さえ	細・普		SKb16	
608	弥・甕	16.4	-	-	1/8	5YR6/6橙	-	ヨコナデ、タタキ後ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、板ナデ	細・普		SKb16	
609	弥・甕	15.0	-	-	2/8	7.5YR6/4にぶい橙	-	ヨコナデ、指押さえ、ハケ目	ヨコナデ、ヘラケズリ後ハケ目	細・普	○	SKb16	
610	弥・甕	16.0	-	-	3/8	10YR8/2灰白	2.5YR8/1灰白	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、指押さえ、ハケ目	細・普		SKb16	
611	弥・甕	14.0	-	-	2/8	5YR7/6橙	-	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、ハケ目、マメツ	細・少		SKb16	
612	弥・甕	14.8	-	-	2/8	7.5YR6/4にぶい橙	10YR8/3浅黄橙	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、指押さえ、ハケ目、ナデ	中・少		SKb16	
613	弥・甕	17.0	-	-	1/8	2.5YR6/6橙	2.5YR5/6明赤褐	ヨコナデ、タタキ後ハケ目	ヨコナデ、ハケ目	細・普		SKb16	
614	弥・甕	12.1	-	-	5/8	7.5YR7/4にぶい橙	-	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、指押さえ、板ナデ後ナデ	中・少		SKb16	
615	弥・甕	13.1	-	-	2/8	5YR6/6橙	-	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、ヘラケズリ	細・少		SKb16	
616	弥・甕	12.0	-	-	3/8	10YR4/6褐	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、指ナデ	細・普	○	SKb16	
617	弥・甕	11.2	-	-	6/8	7.5YR5/6明褐	-	ナデ、ハケ目	ナデ、ヘラケズリ	細・多	○	SKb16	
618	弥・甕	15.0	-	-	1/8	10YR5/3にぶい黄褐	10YR2/1黒	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、ハケ目	細・少	○	SKb16	
619	弥・甕	13.8	-	-	3/8	10YR6/4にぶい黄橙	7.5YR6/4にぶい橙	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、指ナデ	細・少	○	SKb16	
620	弥・甕	16.0	-	-	1/8	5YR6/6橙	-	ヨコナデ、マメツ	ヨコナデ、指押さえ	細・普	○	SKb16	
621	弥・甕	17.0	-	-	1/8	7.5YR6/4にぶい橙	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、板ナデ	細・少	○	SKb16	
622	弥・甕	14.5	-	-	1/8	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR6/4にぶい橙	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ	細・少	○	SKb16	
623	弥・甕	14.0	-	-	1/8	7.5YR6/4にぶい褐	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ハケ目、ナデ、マメツ	細・少	○	SKb16	
624	弥・甕	14.0	-	-	1/8	7.5YR5/3にぶい褐	-	ヨコナデ、マメツ	ヨコナデ、指押さえ後板ナデ	細・少	○	SKb16	
625	弥・甕	13.2	-	-	1/8	7.5YR6/3にぶい褐	10YR6/4にぶい黄橙	ヨコナデ、ハケ目、マメツ	ヨコナデ、指押さえ、指ナデ	細・普	○	SKb16	
626	弥・甕	15.6	-	-	1/8	7.5YR6/3にぶい褐	7.5YR6/4にぶい橙	ヨコナデ、板ナデ後ナデ	ヨコナデ、指押さえ後板ナデ、ヘラケズ	細・普	○	SKb16	
627	弥・甕	13.7	-	-	1/8	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR4/4褐	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、ナデ	細・普	○	SKb16	
628	弥・甕	20.0	-	-	2/8	7.5YR6/6明褐	7.5YR6/4にぶい橙	ヨコナデ、ハケ目、マメツ	ヨコナデ、指押さえ、マメツ	細・普	○	SKb16	
629	弥・甕	-	-	4.4	8/8	2.5YR8/2灰白	5YR6/8橙	タタキ後ハケ目、板ナデ、マメツ	ヘラケズリ	細・少		SKb16	
630	弥・甕	-	-	2.4	6/8	5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙	タタキ後ハケ目、ヘラミガキ、ナデ、マメツ	ヘラケズリ後ハケ目、指押さえ	中・普		SKb16	
631	弥・甕	-	-	3.0	8/8	5YR7/6橙	5YR6/8橙	ハケ目、板ナデ後ヘラミガキ、マメツ	ヘラケズリ、ハケ目	中・普		SKb16	
632	弥・高杯	-	-	-	4/8	10YR6/3にぶい黄橙	-	ヘラミガキ、板ナデ	ハケ目後ヘラミガキ、ヘラケズリ	細・多	○	SKb16	
633	弥・高杯	-	-	-	2/8	7.5YR6/6橙	7.5YR6/4にぶい橙	ヨコナデ、ヘラケズリ後ヘラミガキ	ヨコナデ、ヘラミガキ、板ナデ	細・少	○	SKb16	
634	弥・器台	9.4	8.1	8.7	8/8	5YR7/4にぶい橙	-	ヨコナデ、指押さえ、ハケ目、マメツ	ヨコナデ、ハケ目、ナデ、指押さえ、マメツ	中・普		SKb16	
635	弥・鉢	19.0	-	-	2/8	5YR5/6明赤褐	-	ヨコナデ、マメツ、ヘラケズリ後ハケ目	ヨコナデ、板ナデ後ヘラミガキ	細・少	○	SKb16	
636	弥・鉢	10.4	6.0	1.4	5/8	10YR8/4浅黄橙	5YR7/8橙	タタキ、マメツ	板ナデ、指押さえ	細・少		SKb16	
637	弥・鉢	7.6	5.1	2.6	5/8	7.5YR8/3浅黄橙	-	マメツ	マメツ	中・普		SKb16	
638	弥・鉢	22.4	7.8	1.6	3/8	5YR5/4にぶい赤褐	-	指押さえ、ナデ、ヘラケズリ	ハケ目後ヘラミガキ	細・普	○	SKb16	
639	弥・鉢	16.0	-	-	1/8	5YR6/6橙	5YR5/4にぶい赤褐	ヨコナデ、ナデ、指押さえ、ヘラケズリ	ハケ目後ナデ	細・普	○	SKb16	
640	弥・鉢	23.0	-	-	1/8	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR6/4にぶい橙	ヨコナデ、ヘラケズリ後板ナデ後ヘラミガキ	ヨコナデ、ヘラミガキ	細・少	○	SKb16	
641	弥・鉢	10.8	-	-	2/8	5YR6/6橙	2.5Y4/1黄灰	板ナデ、マメツ	ハケ目、指押さえ、マメツ	中・少		SKb16	
642	弥・鉢	-	-	4.8	2/8	7.5Y2/1黒	2.5Y5/2暗灰黄	板ナデ、指押さえ、ナデ	板ナデ、マメツ	細・少		SKb16	
643	弥・鉢	36.0	-	-	1/8	5YR5/4にぶい赤褐	-	指押さえ、ナデ、ハケ目後ナデ、マメツ	指押さえ、ナデ、ハケ目後ナデ、マメツ	中・普		SKb16	
644	弥・鉢	40.7	-	-	1/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ヨコナデ、ヘラケズリ後ヘラミガキ	ヨコナデ、ヘラケズリ後ヘラミガキ	細・普	○	SKb16	
645	弥・鉢	43.8	-	-	1/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ヨコナデ、指押さえ、板ナデ、マメツ	ヨコナデ、ハケ目	細・少	○	SKb16	
646	弥・瓶	14.5	12.7	1.4	8/8	10YR8/3浅黄橙	-	タタキ、マメツ	板ナデ、指押さえ、ナデ、マメツ	細・少		SKb16	

報告番号	器種	口径	器高	底径	残存率	色調・外	色調・内	調整・外	調整・内	胎土	角閃石	報告番号	備考
647	弥・甕	-	-	1.2	8/8	5YR7/6橙	5Y3/1オリーブ黒	タタキ	ハケ目後指ナデ、指押さえ	細・少		SKb16	
648	弥・甕	-	-	2.9	8/8	10YR8/4浅黄橙	10YR6/3にぶい黄橙	タタキ後ハケ目	ハケ目	細・少		SKb16	
649	弥・甕	16.7	16.3	2.0	7/8	7.5YR7/6橙	2.5Y3/1黒褐	タタキ後ハケ目、マメツ、ヘラケズリ	指押さえ、ハケ目	細・普		SKb16	
650	弥・甕	-	-	3.5	8/8	10YR8/3浅黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	マメツ	指押さえ、板ナデ	中・少		SKb16	
651	弥・甕	-	-	2.4	8/8	5YR6/8橙	-	タタキ?後板ナデ、マメツ	板ナデ、指押さえ、マメツ	中・少		SKb16	
652	弥・ミニア土器	6.4	5.1	3.0	6/8	5YR7/6橙	-	板ナデ後ヘラミガキ、ナデ	指ナデ、指押さえ	細・少		SKb16	
653	弥・ミニア土器	3.8	5.8	0.8	8/8	7.5YR7/6橙	-	指押さえ、ナデ、指ナデ、マメツ	指押さえ、ナデ	細・普		SKb16	
654	弥・甕	-	-	-	2/8	5YR5/4にぶい赤褐	-	ハケ目、ヘラミガキ	指押さえ、指ナデ、ヘラケズリ	細・少	○	SDb03	
655	弥・甕	14.0	-	-	1/8	7.5YR5/4にぶい褐	10YR6/3にぶい黄橙	ナデ、マメツ	ナデ、マメツ	細・普	○	SDb03	
656	弥・鉢	-	-	3.5	8/8	5YR6/8橙	-	ナデ、指押さえ、マメツ	指押さえ、マメツ	中・少		SDb03	
657	弥・鉢	-	-	6.1	2/8	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/6橙	板ナデ、指押さえ、マメツ	しほり目、指押さえ、マメツ	中・普		SDb04	
658	弥・甕	-	-	-	1/8	5YR6/6橙	10YR8/2灰白	ナデ、ハケ目、マメツ	ナデ、ハケ目、ヘラケズリ	細・少	○	SDb04	
659	弥・甕	15.0	-	-	1/8	7.5YR6/4にぶい橙	-	ヨコナデ、ハケ目	ナデ、指押さえ	細・普	○	SDb04	
660	弥・甕	9.8	-	-	1/8	7.5YR6/6橙	-	ヨコナデ、ハケ目、マメツ	ナデ、指押さえ、ヘラケズリ、マメツ	細・普	○	SDb04	
661	弥・甕	9.8	-	-	7/8	7.5YR6/4にぶい橙	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、指押さえ	中・普		SDb08	
662	弥・甕	14.6	-	-	2/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ヨコナデ、ハケ目、指押さえ	ヨコナデ、指押さえ、ナデ	細・普	○	SDb08	
663	弥・甕	15.4	-	-	3/8	7.5YR7/4にぶい橙	-	ヨコナデ、ヘラミガキ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、ヘラケズリ、マメツ	細・少		SDb08	ヘラ描「記号」
664	弥・甕	18.0	-	-	1/8	7.5YR5/4にぶい褐	10YR8/4浅黄橙	ヨコナデ、指押さえ、後ナデ	ヨコナデ、板ナデ、指押さえ、ヘラケズリ	中・多		SDb08	ヘラ圧痕文
665	弥・甕	15.8	-	-	1/8	5YR6/6橙	-	ヨコナデ、ハケ目、マメツ	ヨコナデ、指押さえ、後ナデ、ヘラケズリ	中・多		SDb08	ヘラ描「記号」
666	弥・甕	-	-	-	3/8	7.5YR6/4にぶい橙	-	ハケ目	ヘラケズリ、指押さえ	細・普		SDb08	ヘラ描「記号」「絵画」?
667	弥・甕	-	-	6.4	6/8	10YR7/3にぶい黄橙	N4/灰	ハケ目後ヘラミガキ	ヘラケズリ後ナデ	細・少	○	SDb08	
668	弥・甕	15.0	-	-	2/8	7.5YR6/4にぶい橙	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ	細・少	○	SDb08	
669	弥・甕	17.6	-	-	2/8	7.5YR7/6橙	-	マメツ	マメツ	細・普		SDb08	
670	弥・甕	16.0	-	-	2/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、後ナデ	微・少	○	SDb08	
671	弥・甕	14.2	-	-	4/8	2.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/3にぶい褐	ヨコナデ、指押さえ、ハケ目後ヘラミガキ	ヨコナデ、ナデ、指ナデ、ヘラケズリ	細・少	○	SDb08	
672	弥・甕	-	-	5.9	8/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ヘラミガキ、ナデ	ヘラケズリ、指押さえ	細・少	○	SDb08	
673	弥・高杯	28.2	-	-	1/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ヨコナデ、マメツ	ヨコナデ、ハケ目後ナデ、マメツ	中・普	○	SDb08	
674	弥・高杯	31.0	-	-	3/8	10YR7/3にぶい黄橙	-	ナデ、ハケ目後ナデ、マメツ	ナデ、ハケ目後ヘラミガキ、マメツ	粗・普		SDb08	
675	弥・高杯	25.8	-	-	5/8	10YR7/4にぶい黄橙	-	ヨコナデ、ヘラケズリ、板ナデ	ヨコナデ、ナデ、ヘラミガキ	細・少		SDb08	
676	弥・甕	12.6	-	-	2/8	7.5YR7/4にぶい褐	-	ナデ、マメツ	ナデ、ヘラケズリ	中・普		SPb01	ヘラ描絵画?
677	弥・甕	39.2	-	-	1/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ハケ目後ヘラミガキ	細・普	○	SPb02	
678	弥・鉢	-	-	-	細片	10YR8/3浅黄橙	-	ヨコナデ、マメツ	ナデ、指押さえ、マメツ	中・少		SXb01	
679	弥・甕	17.0	-	-	1/8	10YR6/4にぶい黄橙	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、指押さえ、ナデ	細・少	○	SXb05	
680	弥・甕	16.0	-	-	1/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、マメツ	細・少	○	SXb05	
681	弥・甕	15.5	-	-	1/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、マメツ	細・普	○	SXb05	
682	弥・甕	16.2	-	-	2/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ	細・少	○	SXb05	
683	弥・甕	19.2	-	-	8/8	10YR7/4にぶい黄橙	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、ハケ目、マメツ	中・多		SXb05	
684	弥・甕	22.0	-	-	2/8	5YR7/6橙	-	マメツ	マメツ	中・普		SXb05	凹線1条
685	弥・甕	16.4	36.3	7.0	8/8	10YR7/3にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	指押さえ、板ナデ、ヨコナデ、マメツ	指押さえ、指ナデ、板ナデ、マメツ	中・多		SXb05	
686	弥・甕	9.8	-	-	3/8	7.5YR6/4にぶい橙	-	ナデ、ハケ目	ナデ後指ナデ、指押さえ	細・普	○	SXb05	
687	弥・甕	-	-	5.1	8/8	5YR7/4にぶい橙	-	指押さえ、マメツ	指押さえ、マメツ	細・普		SXb05	
688	弥・甕	-	-	-	2/8	5YR6/6橙	5YR7/6橙	ハケ目、指押さえ、マメツ	ハケ目、指押さえ、マメツ	中・少		SXb05	刻目突帯
689	弥・甕	-	-	-	2/8	7.5YR6/6橙	-	ナデ、ハケ目、ヘラミガキ	ナデ、指押さえ、ナデ	中・少	○	SXb05	刻目突帯
690	弥・甕	-	-	3.2	8/8	10R6/6赤橙	-	タタキ後ハケ目	ナデ、板ナデ、指押さえ、ヘラケズリ	中・普		SXb05	結晶片岩
691	弥・甕	9.4	12.3	3.4	2/8	5YR6/4にぶい橙	10YR4/1褐灰	板ナデ後指ナデ	指押さえ、指ナデ	細・少		SXb05	
692	弥・甕	13.6	-	-	1/8	5YR7/6橙	-	ヨコナデ、指押さえ、マメツ	マメツ	細・普		SXb05	
693	弥・甕	14.7	-	-	2/8	5YR6/4にぶい橙	-	ヨコナデ、ヘラミガキ	ヨコナデ、ヘラケズリ	細・普		SXb05	
694	弥・甕	12.8	-	-	1/8	5YR5/6明赤褐	10YR7/3にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、指ナデ、ヘラケズリ	粗・普		SXb05	
695	弥・甕	12.5	-	-	1/8	7.5YR6/4にぶい橙	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ナデ、マメツ	細・少	○	SXb05	
696	弥・甕	14.0	-	-	2/8	7.5YR5/6明褐	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、指ナデ	細・少	○	SXb05	
697	弥・甕	14.2	-	-	3/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ヨコナデ、ハケ目、マメツ	ヨコナデ、指押さえ、ヘラケズリ	中・多	○	SXb05	

報告書番号	器種	口径	器高	底径	残存率	色調・外	色調・内	調整・外	調整・内	胎土	角閃石	報告書種名	備考
698	弥・甕	14.4	-	-	2/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ヨコナデ、ハケ目、マメツ	指押さえ、ハラケズリ、マメツ	細・少	○	SXb05	
699	弥・高杯	-	-	-	8/8	5YR5/6明赤褐	-	ヨコナデ、ハラミガキ、指押さえ、板ナデ、マメツ	ヨコナデ、ハラケズリ、マメツ	細・多	○	SXb05	3方透かし
700	弥・高杯	17.4	-	-	8/8	7.5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙	ヨコナデ、ハラミガキ、指押さえ	ヨコナデ、ハラミガキ	細・普	○	SXb05	
701	弥・高杯	24.6	-	-	1/8	10YR5/4にぶい黄褐	-	ヨコナデ、ハラミガキ	ヨコナデ、ハラミガキ	細・普	○	SXb05	
702	弥・高杯	-	-	-	細片	7.5YR7/4にぶい橙	-	ヨコナデ、マメツ	ヨコナデ、ハラミガキ、マメツ	細・少	○	SXb05	
703	弥・高杯	18.0	-	-	4/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ヨコナデ、ハラミガキ	ヨコナデ、ハラケズリ、マメツ	細・少	○	SXb05	
704	弥・高杯	16.8	-	-	1/8	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/4にぶい褐	ヨコナデ、マメツ	ヨコナデ、マメツ	細・普	○	SXb05	
705	弥・高杯	-	-	17.9	2/8	5YR6/6橙	5YR5/6明赤褐	ナデ、マメツ	ハラケズリ、マメツ	細・普	○	SXb05	透かし穴現在1ヶ所、部分1ヶ所
706	弥・高杯	-	-	18.0	2/8	5YR5/6明赤褐	-	ハラミガキ、マメツ	ハラケズリ、ヨコナデ	細・普	○	SXb05	透かし穴現在2ヶ所
707	弥・高杯	-	-	16.8	2/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ハラミガキ、マメツ	板ナデ、マメツ	細・普	○	SXb05	透かし穴現在2ヶ所
708	弥・鉢	-	-	3.6	8/8	5YR6/8橙	2.5Y4/1黄灰	指押さえ、マメツ	ナデ、マメツ、指押さえ、マメツ	細・普	○	SXb05	
709	弥・鉢	37.0	-	-	1/8	7.5YR4/4褐	7.5YR5/6明褐	ヨコナデ、ハケ目、ハラミガキ、マメツ	ヨコナデ、ナデ、ハラケズリ、マメツ	中・普	○	SXb05	
710	土・壺	7.9	8.1	3.0	4/8	5YR6/6橙	7.5YR8/3淺黄橙	ヨコナデ、板ナデ	ヨコナデ、指ナデ、指押さえ	細・普	○	SXb06	小型丸底壺
711	土・壺	22.0	-	-	1/8	7.5YR7/4にぶい橙	-	ヨコナデ、ハケ目	ハケ目	中・普	○	SXb06	
712	土・甕	-	-	-	細片	10YR7/4にぶい黄橙	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、板ナデ	細・少	○	SXb06	
713	土・甕	16.3	-	-	4/8	5YR6/6橙	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、板ナデ、ハラケズリ	細・少	○	SXb06	
714	土・高杯	18.0	-	-	4/8	7.5YR6/6橙	-	指押さえ、板ナデ、マメツ	ヨコナデ、板ナデ、ハラケズリ	細・少	○	SXb06	
715	弥・壺	13.1	-	-	2/8	7.5YR5/3にぶい褐	10YR6/3にぶい黄橙	ヨコナデ、ハケ目、ナデ	指押さえ、しほり目、マメツ	中・普	○	SXb07	
716	弥・壺	25.2	-	-	1/8	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR7/4にぶい橙	ヨコナデ、指押さえ	ヨコナデ、指ナデ、指押さえ	中・普	○	SXb07	
717	弥・壺	14.8	-	-	1/8	7.5YR6/4にぶい橙	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、ナデ	細・少	○	SXb07	
718	弥・甕	-	-	-	細片	7.5YR6/4にぶい橙	-	ヨコナデ、マメツ	ヨコナデ、指押さえ	細・普	○	SXb07	
719	弥・甕	16.8	-	-	1/8	7.5YR4/4褐	7.5YR6/6橙	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、マメツ	細・普	○	SXb07	
720	弥・高杯	-	-	15.9	2/8	5YR6/6橙	-	ハラミガキ、ヨコナデ	ナデ、指押さえ、しほり目	細・少	○	SXb07	
721	弥・壺	7.1	-	-	7/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ヨコナデ、指押さえ、ハケ目、板ナデ	ヨコナデ、指押さえ、板ナデ	微・普	○	SRb01	
722	弥・壺	15.2	-	-	4/8	10YR7/4にぶい黄橙	-	ナデ、ハケ目後ハラミガキ	ナデ、指押さえ、しほり目、板ナデ	細・少	○	SRb01	
723	弥・壺	11.3	-	-	3/8	5YR7/8橙	-	ヨコナデ、指押さえ、ナデ、板ナデ、マメツ	ヨコナデ、板ナデ、指ナデ、指押え	細・普	○	SRb01	竹管文
724	弥・甕	12.8	-	-	2/8	7.5YR7/4にぶい橙	5YR6/6橙	指押さえ、マメツ	指押さえ、ハケ目、ナデ	細・少	○	SRb01	
725	弥・甕	15.0	-	-	2/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ナデ、ハケ目、マメツ	ナデ、ハケ目、マメツ	微・少	○	SRb01	
726	弥・甕	17.2	-	-	2/8	10YR7/4にぶい黄橙	-	ヨコナデ、板ナデ、ハケ目	ヨコナデ、ハラケズリ	細・普	○	SRb01	
727	弥・甕	14.9	-	-	2/8	10YR6/3にぶい黄橙	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ハラケズリ	細・普	○	SRb01	
728	弥・甕	13.8	-	-	1/8	5YR6/6橙	10YR6/2灰黄褐	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、しほり目、ハラケズリ	細・普	○	SRb01	
729	弥・甕	17.8	-	-	2/8	5YR7/8橙	-	ヨコナデ、マメツ	ヨコナデ、指押さえ、ハラケズリ	細・普	○	SRb01	
730	弥・甕	12.5	-	-	1/8	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR7/6橙	ナデ、ハケ目	ナデ、指押さえ、ハケ目	細・少	○	SRb01	
731	弥・甕	18.6	-	-	1/8	5YR6/6橙	5Y5/1灰	ナデ、マメツ	板ナデ、マメツ	細・普	○	SRb01	
732	弥・甕	18.3	-	-	1/8	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR8/3淺黄橙	ヨコナデ、ハケ目、マメツ	ヨコナデ、マメツ	細・普	○	SRb01	
733	弥・甕	9.5	16.9	5.5	6/8	10YR7/4にぶい黄橙・10YR5/1褐灰	-	ヨコナデ、指押さえ、タタキ後ハケ目後ハラミガキ、マメツ	ヨコナデ、ハラケズリ	中・多	○	SRb01	
734	弥・甕	-	-	5.6	4/8	10YR3/3暗褐	7.5YR6/4にぶい橙	ハラミガキ、指押さえ	指押さえ、ハラケズリ	細・普	○	SRb01	
735	弥・甕	-	-	5.6	6/8	7.5YR6/4にぶい橙	5YR6/6橙	ハラミガキ	指押さえ、ハラケズリ	細・少	○	SRb01	
736	弥・高杯	15.8	-	-	1/8	7.5YR5/6明褐	-	ナデ、ハラケズリ後ハラミガキ、マメツ	ナデ、マメツ	細・少	○	SRb01	
737	弥・高杯	21.7	-	-	1/8	5YR5/6明赤褐	-	ナデ、ハラミガキ、マメツ	ナデ、マメツ	細・普	○	SRb01	
738	弥・高杯	30.0	-	-	1/8	5YR6/6橙	-	ナデ、マメツ	ナデ、ハラミガキ、マメツ	中・少	○	SRb01	
739	弥・高杯	24.4	18.9	16.5	4/8	10YR5/4にぶい黄褐	-	ナデ、ハラケズリ後ハラミガキ、マメツ	ナデ、ハケ目後ハラミガキ、ハラケズリ、マメツ	細・普	○	SRb01	透かし穴現在2ヶ所
740	弥・高杯	26.3	-	-	2/8	7.5YR5/4にぶい褐	-	ヨコナデ、ハラケズリ後ハラミガキ、板ナデ	ヨコナデ、ハラミガキ、ハラケズリ	細・普	○	SRb01	透かし穴現在1ヶ所
741	弥・高杯	-	-	-	3/8	7.5YR6/6橙	-	ハラミガキ	ナデ、マメツ	細・普	○	SRb01	透かし穴現在3ヶ所
742	弥・高杯	-	-	16.3	6/8	7.5YR7/4にぶい橙	-	指押さえ、ナデ、ハラミガキ、マメツ	しほり目、ナデ、ハラケズリ、マメツ	中・多	○	SRb01	透かし穴現在6ヶ所
743	弥・高杯	-	-	17.0	1/8	7.5YR5/6明褐	-	ヨコナデ、マメツ	ハラケズリ	細・普	○	SRb01	透かし穴現在1ヶ所
744	弥・高杯	-	-	20.7	4/8	7.5YR5/6明褐	-	ヨコナデ	ハラケズリ	細・普	○	SRb01	透かし穴現在1ヶ所
745	弥・高杯	-	-	15.3	3/8	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR6/6橙	ハラミガキ	ハラケズリ	細・少	○	SRb01	透かし穴現在5ヶ所
746	弥・鉢	-	-	-	細片	10YR8/3淺黄橙	-	ナデ、ハケ目、ハラケズリ、マメツ	ナデ、ハケ目、マメツ	細・少	○	SRb01	

報告番号	器種	口径	器高	底径	残存率	色調・外	色調・内	調整・外	調整・内	胎土	角閃石	報告番号	備考
747	須・鉢	-	5.3	10YR8/6黄橙	8/8	5Y3/1オリーブ黒	板ナデ、指押さえ	板ナデ、指押さえ	板ナデ、指押さえ	細・少	有閃石	SRb01	
748	須・鉢	-	6.2	10YR2/1黒	8/8	7.5YR5/4にぶい褐	ハラミガキ	ハラミガキ	ハラミガキ	細・少	○	SRb01	
749	須・鉢	11.4	-	7.5YR7/6橙	3/8	-	ヨコナデ、ハナケ目、マメツ	ヨコナデ、ハナケ目、マメツ	ヨコナデ、ハナケ目、マメツ	細・少		SRb01	
750	須・杯蓋	17.6	1.8	2.5Y6/1黄灰	1/8	-	回転ナデ、回転ハラケズリ後ナデ	回転ナデ、回転ハラケズリ後ナデ	回転ナデ、回転ハラケズリ後ナデ	細・少		SBB04-SP01	
751	須・杯蓋	-	-	N7/灰白	細片	N6/灰	回転ナデ、ハラ切り	回転ナデ、ハラ切り	回転ナデ、ハラ切り	細・少		SBB04-SP02	
752	須・杯蓋	-	-	N6/灰	3/8	-	回転ハラケズリ後ナデ	回転ハラケズリ後ナデ	回転ハラケズリ後ナデ	細・少		SBB05-SP01	
753	須・杯	-	-	N5/灰	細片	-	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SBB05-SP01	
754	須・杯	-	-	N5/灰	細片	-	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SBB05-SP01	
755	須・杯	-	-	N5/灰	細片	-	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SBB05-SP01	
756	須・杯蓋	18.4	-	2.5Y7/2灰黄	1/8	2.5Y7/1灰白	回転ナデ、回転ハラケズリ	回転ナデ、回転ハラケズリ	回転ナデ、回転ハラケズリ	細・少		SBB05-SP02	
757	須・杯	-	8.4	N5/灰	4/8	-	回転ナデ、ハラ切り	回転ナデ、ハラ切り	回転ナデ、ハラ切り	細・少		SBB05-SP03	
758	須・杯蓋	-	-	N6/灰	細片	N7/灰白	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SKb22	
759	須・碗	-	4.9	N6/灰	細片	5Y8/1灰白	回転ナデ	回転ナデ	マメツ	粗・少		SKb22	十瓶山産
760	須・壺	-	-	2.5Y7/1灰白	細片	N7/灰白・(補) 5G15/1オリーブ灰	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SKb23	灰釉?
761	須・杯蓋	-	-	N7/灰白	細片	-	回転ナデ、回転ハラケズリ	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SKb24	
762	須・杯	12.4	-	N7/灰白	1/8	-	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SKb25	
763	須・杯	14.8	-	N6/灰	1/8	-	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SKb25	
764	須・皿	17.5	1.9	2.5Y6/1黄灰	6/8	-	回転ナデ、回転ハラケズリ後ナデ、板状 圧痕?	回転ナデ、回転ハラケズリ後ナデ	回転ナデ、回転ハラケズリ後ナデ	細・少		SKb25	
765	須・皿	16.6	2.4	5Y5/1灰	6/8	-	回転ナデ、ハラ切り後ナデ	回転ナデ、ハラ切り後ナデ	回転ナデ、ハラ切り後ナデ	細・少		SKb25	
766	須・皿	17.7	1.9	5Y7/1灰白	完存	5Y6/1灰	回転ナデ、ハラ切り後ナデ	回転ナデ、ハラ切り後ナデ	回転ナデ、ハラ切り後ナデ	細・少		SKb25	
767	須・皿	-	14.0	5Y7/1灰白	1/8	-	ナデ、ハラ切り後ナデ	ナデ	ナデ	細・少		SKb25	
768	須・鉢	-	-	N7/灰白	8/8	-	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SKb25	
769	須・皿	-	13.1	5Y7/1灰白	1/8	5Y8/1灰白	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SKb29	自然釉付着
770	須・杯蓋	-	-	N5/灰	細片	-	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SKb31	
771	須・杯蓋	16.3	-	5Y7/1灰白	1/8	5Y8/1灰白	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SKb31	
772	須・杯蓋	15.2	-	N5/灰	1/8	-	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SKb31	
773	須・杯	15.5	-	N4/灰	1/8	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SKb31	
774	須・皿	18.0	2.0	5Y6/1灰白	3/8	5Y8/1灰白	回転ナデ、ハラ切り後ナデ	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SKb31	
775	須・皿	-	-	5Y6/1灰	細片	-	回転ナデ、ハラ切り後ナデ	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SKb39	
776	須・杯蓋	14.9	2.7	N6/灰・N4/灰	1/8	-	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SKb39	
777	須・杯	-	-	N8/灰白	細片	-	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SDb11	
778	須・杯	-	-	5Y7/1灰白	細片	-	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SDb11	
779	須・杯	-	-	N3/暗灰	細片	N5/灰	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SDb11	
780	須・杯	12.8	-	7.5Y8/1灰白	1/8	-	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SDb11	
781	須・杯	12.8	4.0	5Y8/1灰白	2/8	-	回転ナデ、ハラ切り後ナデ、ハラケズリ	回転ナデ、ハラ切り後ナデ	回転ナデ、ハラ切り後ナデ	細・少		SDb11	
782	須・杯	-	-	N6/灰	1/8	N7/灰白	ハラ切り後ナデ	ハラ切り後ナデ	ハラ切り後ナデ	細・少		SDb11	
783	須・杯	-	-	N7/灰白	細片	7.5Y7/1灰白	回転ナデ、ヨコナデ、ハラ切り後ナデ	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SDb11	
784	須・杯	-	-	N7/灰白	2/8	-	ナデ、ハラ切り後ナデ	ナデ	ナデ	中・少		SDb11	
785	須・杯	-	11.4	N5/灰	2/8	-	回転ナデ、ハラ切り後ナデ	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SDb11	
786	須・杯	-	3.6	N5/灰	細片	5Y6/1灰	回転ナデ、ハラ切り後ナデ	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SDb11	
787	須・皿	-	2.5	N7/灰白	細片	-	回転ナデ、回転ハラケズリ	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SDb11	
788	須・皿	-	2.5	5Y7/1灰白	細片	-	回転ナデ、マメツ	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SDb11	
789	須・皿	16.0	2.1	N6/灰	2/8	-	回転ナデ、ハラ切り後ナデ	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SDb11	
790	須・皿	16.0	2.7	5Y8/1灰白	2/8	-	回転ナデ、ハラ切り	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SDb11	
791	土・鍋	-	-	7.5YR7/4にぶい橙	細片	-	ヨコナデ、指押さえ	ヨコナデ	ヨコナデ	中・多		SDb11	
792	須・杯蓋	-	-	N7/灰白	4/8	-	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SDb12	
793	須・皿	-	-	N5/灰	1/8	5YR5/4褐灰	回転ハラケズリ、ナデ	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SDb12	
794	須・皿	-	-	N7/灰白	細片	-	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SDb12	
795	須・高杯	-	11.6	N6/灰	1/8	-	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SDb12	
796	須・壺	-	-	N6/灰	2/8	-	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SDb12	
797	須・壺	-	-	N7/灰白	1/8	-	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	細・多		SDb12	
798	須・碗	-	7.2	N6/灰	2/8	-	回転ナデ、カキ目 回転ナデ、ハラ切り後ナデ	回転ナデ、カキ目 回転ナデ、ハラ切り後ナデ	回転ナデ、カキ目 回転ナデ、ハラ切り後ナデ	細・多		SDb12	青海波文

報告書番号	器種	口径	器高	底径	残存率	色調・外	色調・内	調整・外	調整・内	胎土	角閃石	報告書番号	備考
799	黒・碗	-	-	-	細片	10YR8.2/灰白	5Y2/黒	ヨコナデ、マメツ	ハラミガキ	細・少		SDb12	黒色A類
800	須・杯	14.6	10.1	2/8	N6/灰	10YR6.3/白	-	指押さえ、ナデ、マメツ	指押さえ、ナデ、マメツ	細・少		SDb12	
801	士・皿	15.0	1.7	2/8	5YR7/6橙	7.5YR6.3/白	-	指押さえ、ナデ、マメツ	指押さえ、ナデ、マメツ	微・多		SDb12	
802	黒色・碗	-	-	2/8	5YR6/6橙	N4/灰	-	ナデ、マメツ	マメツ	中・少		SDb13	黒色A類
803	須・皿	19.4	14.6	2/8	2.5Y7.1/黄灰	2.5Y7/灰白	-	ヨコナデ、マメツ	ヨコナデ、マメツ	細・普		SDb17	
804	須・杯	11.0	2.4	1/8	2.5Y7/灰白	5YR5.4/赤褐	-	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ハケ目	中・多		SDb17	
805	須・杯	12.8	3.6	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	微・少		SDb19	
806	須・杯	13.0	3.3	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	微・普		SDb19	
807	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
808	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
809	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
810	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
811	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
812	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
813	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
814	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
815	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
816	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
817	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
818	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
819	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
820	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	中・少		SDb19	
821	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	中・少		SDb19	
822	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
823	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
824	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
825	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
826	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
827	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
828	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
829	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
830	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
831	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
832	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
833	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
834	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
835	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
836	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
837	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
838	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
839	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
840	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
841	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
842	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
843	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
844	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
845	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
846	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
847	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
848	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
849	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
850	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
851	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	
852	須・杯	13.0	3.4	3/8	N6/灰	-	-	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・少		SDb19	

報告書番号	器種	口径	器高	底径	残存率	色調・外	色調・内	調整・外	調整・内	胎土	角閃石	報告書様名	備考
853	須・杯蓋	15.5	-	-	1/8	N6/灰	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	細・少		SDb19	
854	須・杯蓋	15.4	-	-	2/8	N5/灰	-	回転ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
855	須・杯蓋	15.8	-	-	4/8	7.5Y5/1灰	10Y5/1灰	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	細・普		SDb19	
856	須・杯蓋	15.6	-	-	1/8	N6/灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
857	須・杯蓋	16.3	-	-	2/8	5Y6/1灰	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	回転ナデ	微・少		SDb19	
858	須・杯蓋	16.3	1.1	-	2/8	N5/灰	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
859	須・杯蓋	17.5	-	-	2/8	N5/灰	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ	回転ナデ、ナデ	細・普		SDb19	
860	須・杯蓋	18.0	-	-	1/8	5Y7/1灰白	5Y8/1灰白	回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
861	須・杯蓋	17.6	-	-	2/8	N5/灰、N6/灰	N6/灰	回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
862	須・杯蓋	18.2	-	-	1/8	5Y7/1灰白	N7/灰白	回転ナデ、マメツ	回転ナデ、ナデ	細・普		SDb19	報863と同一?
863	須・杯蓋	18.2	-	-	3/8	2.5Y7/2灰黄	N7/灰白	回転ナデ、マメツ	回転ナデ、ナデ	微・少		SDb19	報862と同一?
864	須・杯蓋	18.7	-	-	1/8	N7/灰白(細)10GY3/1 暗緑灰	N5/灰	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
865	須・杯蓋	19.2	-	-	1/8	5Y4/1灰	2.5Y6/1黄灰	回転ナデ、マメツ	ナデ	細・少		SDb19	
866	須・杯蓋	-	-	-	細片	N6/灰	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	微・少		SDb19	
867	須・杯蓋	-	-	-	細片	5Y6/1灰	2.5Y8/1灰白	回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
868	須・杯蓋	-	-	-	細片	N6/灰	N5/灰	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
869	須・杯蓋	-	-	-	細片	N5/灰	2.5Y5/1黄灰	回転ヘラケズリ、ナデ	回転ナデ	細・少		SDb19	
870	須・杯	12.6	4.7	9.3	5/8	5Y5/1灰	7.5Y5/1灰	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	細・少		SDb19	
871	須・杯	12.8	4.3	7.8	2/8	N4/灰	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	微・普		SDb19	
872	須・杯	13.8	4.8	8.6	3/8	2.5Y6/1黄灰	2.5Y6/2灰黄	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ヘラ切り後 ナデ	回転ナデ、ナデ	細・普		SDb19	
873	須・杯	14.2	4.4	9.8	6/8	5PB5/1青灰	5PB6/1青灰	回転ナデ、ヘラ切り、回転ヘラケズリ	回転ナデ	細・少		SDb19	曇書?
874	須・杯	15.1	5.6	8.5	1/8	N6/灰	5Y7/1灰白	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	細・少		SDb19	
875	須・杯	17.8	6.2	12.4	2/8	5Y6/1灰	N7/灰白	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、ナデ	細・普		SDb19	ヘラ記号?
876	須・杯	16.8	6.4	10.8	2/8	N5/灰	N6/灰	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、ナデ	中・普		SDb19	底部外面にヘラ工具痕
877	須・杯	17.3	6.3	11.4	4/8	N5/灰	N6/灰	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
878	須・杯	17.3	5.8	11.7	3/8	5PB6/1青灰・ (細)5GY4/1暗オリーブ 灰	N6/灰	回転ヘラケズリ	回転ナデ、ナデ	微・少		SDb19	自然袖付着
879	須・杯	16.4	6.4	10.6	6/8	5PB4/1暗青灰	5PB5/1青灰	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	細・少		SDb19	
880	須・杯	17.7	7.0	11.9	3/8	N6/灰	N5/灰	回転ナデ、ナデ、板ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
881	須・杯	17.3	5.8	11.0	2/8	7.5Y5/1灰	5Y6/1灰	回転ナデ、ナデ、板ナデ	回転ナデ、ナデ	微・普		SDb19	
882	須・杯	17.7	5.4	12.5	2/8	N3/暗灰	N7/灰白	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	微・少		SDb19	
883	須・杯	18.4	6.6	12.2	5/8	N6/灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ、回転ヘラケ ズリ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
884	須・杯	18.4	6.7	12.1	3/8	N5/灰	N6/灰	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、ナデ	中・少		SDb19	
885	須・杯	15.4	5.8	10.8	4/8	N5/灰	N6/灰	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、板ナデ	微・少		SDb19	底部内面に当て具痕
886	須・杯	16.0	6.0	10.6	2/8	N5/灰	-	回転ナデ	回転ナデ	中・普		SDb19	
887	須・杯	16.0	6.6	11.2	3/8	5YR5/2灰褐	5YR6/4にふい煙	回転ナデ、ヘラ切り	回転ナデ	微・少		SDb19	
888	須・杯	-	-	11.9	5/8	N7/灰白	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
889	須・杯	-	-	11.4	3/8	N4/灰	N6/灰	回転ナデ、ヘラ切り、ナデ	回転ナデ、ナデ	微・少		SDb19	
890	須・杯	-	-	10.3	1/8	N4/灰	N5/灰	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	細・少		SDb19	
891	須・杯	-	-	9.8	2/8	10Y6/1灰	-	回転ナデ、ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	微・少		SDb19	
892	須・杯	-	-	10.1	1/8	10YR6/2灰黄褐	7.5YR6/3にふい煙	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、指ナデ	微・少		SDb19	
893	須・杯	-	-	10.8	2/8	N6/灰	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	中・少		SDb19	
894	須・杯	-	-	11.7	細片	2.5Y6/1黄灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
895	須・杯	-	-	12.7	1/8	N5/灰	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
896	須・杯	-	-	12.0	1/8	N6/灰	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	微・少		SDb19	
897	須・杯	-	-	11.6	2/8	N6/灰	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	微・少		SDb19	
898	須・杯	-	-	12.1	2/8	N6/灰	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ	ナデ	細・普		SDb19	
899	須・杯	-	-	10.8	1/8	N4/灰	N5/灰	回転ナデ、ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、ナデ	細・普		SDb19	
900	須・杯	-	-	10.0	1/8	N6/灰	N5/灰	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	細・少		SDb19	
901	須・杯	-	-	10.0	1/8	5Y6/1灰	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ?	回転ナデ	微・少		SDb19	

報告書番号	器種	口径	器高	底径	残存率	色調・外	色調・内	調整・外	調整・内	胎土	角閃石	報告書種名	備考
902	須・杯	-	-	98	2/8	N8/灰白	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
903	須・杯	-	-	96	1/8	N6/灰	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、ナデ	微・少		SDb19	
904	須・杯	-	-	86	2/8	N6/灰	N6/灰	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	細・少		SDb19	
905	須・杯	9.8	3.3	6.9	完存	7.5Y7.8/灰白	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、ナデ	微・少		SDb19	
906	須・杯	10.1	3.5	7.2	5/8	N5/灰	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
907	須・杯	10.5	3.6	6.9	3/8	2.5Y7.1/灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
908	須・杯	10.4	4.0	7.2	3/8	N6/灰	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、指押さえ	中・少		SDb19	
909	須・杯	11.0	4.2	7.9	7/8	N8/灰白	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、ナデ	微・少		SDb19	
910	須・杯	11.0	4.6	8.3	6/8	N5/灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	細・少		SDb19	
911	須・杯	11.1	3.5	7.5	2/8	N6/灰	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	回転ナデ	細・普		SDb19	
912	須・杯	10.9	3.6	7.6	3/8	N7/灰白	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、ナデ	微・少		SDb19	
913	須・杯	11.7	3.3	7.6	5/8	5Y6/1灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ、板ナデ	回転ナデ、ナデ	微・少		SDb19	
914	須・杯	11.7	3.4	8.3	3/8	N4/灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	微・少		SDb19	
915	須・杯	12.0	3.6	8.8	2/8	5B5.1青灰・N7/灰白	10B/G6/1青灰	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
916	須・杯	12.5	4.1	9.9	1/8	5YR7.4/にぶい橙	7.5YR7.2明褐灰	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	微・少		SDb19	
917	須・杯	12.8	3.5	9.1	2/8	2.5Y7.1/灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
918	須・杯	12.8	3.4	9.0	1/8	5Y8.1/灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	細・少		SDb19	
919	須・杯	12.8	4.2	9.3	5/8	N3.暗灰	-	回転ナデ、ヘラ切り未調整	回転ナデ	微・少		SDb19	
920	須・杯	13.0	4.6	10.0	2/8	2.5Y7.1/灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	微・少		SDb19	
921	須・杯	12.8	3.5	9.2	1/8	N7/灰白	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	細・少		SDb19	
922	須・杯	13.0	3.2	10.0	2/8	N7/灰白	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	細・普		SDb19	
923	須・杯	13.2	3.6	9.0	1/8	N7/灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
924	須・杯	13.2	4.1	10.7	2/8	10Y7.1/灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	微・少		SDb19	
925	須・杯	13.2	3.9	10.2	7/8	N5/灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	細・少		SDb19	
926	須・杯	13.0	3.6	9.2	3/8	N5/灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	細・少		SDb19	
927	須・杯	13.2	3.7	10.0	4/8	2.5Y5.1黄灰	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	微・少		SDb19	
928	須・杯	13.1	3.9	9.8	7/8	N7/灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り未調整、板ナデ	回転ナデ、ナデ	細・普		SDb19	
929	須・杯	13.3	3.5	9.5	1/8	N6/灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
930	須・杯	13.0	4.7	10.3	2/8	5Y6/1灰	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	細・多		SDb19	
931	須・杯	13.3	3.3	9.7	3/8	N5/灰	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	細・少		SDb19	
932	須・杯	13.2	3.6	9.7	2/8	N6/灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ、ハケ目	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
933	須・杯	13.3	5.1	9.4	2/8	2.5Y8.1/灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
934	須・杯	13.3	3.9	9.8	3/8	N6/灰	-	回転ナデ、ヘラ切り未調整	回転ナデ、ナデ	細・普		SDb19	
935	須・杯	13.4	3.7	8.5	3/8	N5/灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	細・普		SDb19	
936	須・杯	13.5	4.0	10.7	3/8	2.5Y6.1黄灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
937	須・杯	13.4	4.1	7.4	2/8	5Y8.1/灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	細・少		SDb19	
938	須・杯	13.4	4.0	10.2	4/8	2.5Y7.1/灰白	-	回転ナデ、ナデ、板ナデ	回転ナデ	細・普		SDb19	
939	須・杯	13.5	3.9	10.0	1/8	N5/灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
940	須・杯	13.5	3.6	10.1	3/8	N5/灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ、板ナデ	回転ナデ、ナデ	微・少		SDb19	
941	須・杯	13.5	4.2	9.9	3/8	N5/灰	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、ナデ	微・普		SDb19	
942	須・杯	13.6	3.9	10.2	2/8	N5/灰	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ?	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
943	須・杯	13.7	4.1	9.1	2/8	7.5Y7.1/灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	細・少		SDb19	
944	須・杯	13.8	3.9	10.4	3/8	3Y5.1/灰	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
945	須・杯	13.8	3.8	10.2	3/8	N6/灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	細・少		SDb19	
946	須・杯	13.7	3.7	10.2	2/8	2.5Y7.1/灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り後回転ヘラケズリ、 板状圧痕	回転ナデ	細・少		SDb19	
947	須・杯	14.0	3.9	10.1	5/8	N7/灰白	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、ナデ	細・普		SDb19	
948	須・杯	13.9	3.7	10.5	2/8	5Y6/1灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	中・少		SDb19	
949	須・杯	13.9	3.9	10.9	5/8	N5/灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、指押さえ後ナデ	中・少		SDb19	
950	須・杯	14.1	4.2	10.0	3/8	N6/灰	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	細・少		SDb19	
951	須・杯	14.0	5.1	10.8	6/8	5Y6/1灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	微・少		SDb19	
952	須・杯	14.1	3.2	10.0	1/8	N5/灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
953	須・杯	14.1	4.2	10.1	3/8	N5/灰	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	中・少		SDb19	
954	須・杯	14.0	3.5	11.0	1/8	7.5Y5.1/灰	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ	回転ナデ、ナデ	微・少		SDb19	
955	須・杯	13.9	4.4	11.6	6/8	N5/灰	7.5YR6.3/にぶい橙	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	微・少		SDb19	ヘラ記号?

報告書番号	器種	口径	器高	底径	残存率	色調・外	色調・内	調整・外	調整・内	胎土	角閃石	報告書番号	備考
956	須・杯	140	37	100	1/8	25Y8/1灰白・N6/灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	中・少		SDb19	
957	須・杯	140	37	110	3/8	75Y6/1灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	細・普		SDb19	
958	須・杯	143	34	104	5/8	N5/灰	N6/灰	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	中・普		SDb19	
959	須・杯	144	36	106	5/8	N6/灰	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	微・少		SDb19	
960	須・杯	145	36	112	3/8	75Y7/1灰白	75Y8/1灰白	回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ	回転ナデ	微・少		SDb19	
961	須・杯	146	39	104	1/8	N5/灰	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	中・普		SDb19	
962	須・杯	148	46	116	1/8	N4/灰	75Y6/1灰	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	中・普		SDb19	
963	須・杯	150	43	110	1/8	5Y8/1灰白	N6/灰	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	細・普		SDb19	
964	須・杯	148	33	119	8/8	25Y6/1黄灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ、板ナデ	回転ナデ	細・少		SDb19	
965	須・杯	148	36	111	2/8	25Y6/1黄灰	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	細・少		SDb19	
966	須・杯	157	31	122	3/8	25Y6/1黄灰	N6/灰	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
967	須・杯	152	35	110	2/8	N6/灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	細・少		SDb19	
968	須・杯	158	35	126	1/8	5Y6/1灰	5Y7/1灰白	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	微・少		SDb19	
969	須・杯	152	-	-	1/8	N6/灰	-	回転ナデ	回転ナデ	微・普		SDb19	
970	須・杯	-	-	120	2/8	N7/灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	細・少		SDb19	墨書有り
971	須・杯	-	-	95	2/8	25Y7/1灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	細・少		SDb19	
972	須・杯	112	-	-	2/8	N6/灰	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ、糸切り	回転ナデ	微・少		SDb19	
973	須・杯	126	-	87	1/8	N7/灰白	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	細・少		SDb19	
974	須・杯	120	-	-	2/8	N5/灰	5PB6/1青灰	回転ナデ	回転ナデ	細・普		SDb19	
975	須・杯	127	-	-	2/8	N6/灰	-	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SDb19	
976	須・杯	126	-	-	2/8	N4/灰	-	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SDb19	
977	須・杯	139	-	-	1/8	N4/灰	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	細・少		SDb19	
978	須・杯	137	-	-	1/8	75Y6/1灰	10Y5/1灰	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	細・普		SDb19	
979	須・杯	138	-	-	2/8	N6/灰	75Y7/1灰白	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SDb19	
980	須・杯	-	-	-	細片	75Y6/1灰	N7/灰白	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SDb19	
981	須・杯	135	-	-	1/8	5Y7/1灰白	N6/灰	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SDb19	
982	須・杯	140	-	-	1/8	N5/灰	75YR6/1褐灰	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SDb19	
983	須・杯	157	-	-	1/8	5Y5/1灰	5Y6/1灰	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SDb19	口縁端部底部部分に重ね焼 灰、墨書
984	須・杯	167	-	-	1/8	N5/灰	-	回転ナデ	回転ナデ	中・少		SDb19	
985	須・杯	138	-	-	2/8	N5/灰	-	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SDb19	
986	須・杯	136	-	94	2/8	25Y6/1黄灰	-	回転ナデ、ヘラ切り	回転ナデ	細・少		SDb19	
987	須・杯	146	-	-	2/8	N7/灰白	-	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SDb19	
988	須・杯	155	-	-	1/8	N4/灰	-	回転ナデ後ナデ	回転ナデ後ナデ	細・普		SDb19	
989	須・杯	177	-	-	1/8	5Y6/1灰	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	細・普		SDb19	
990	須・杯	-	-	116	1/8	25Y8/1灰白	-	回転ナデ、ナデ、マメツ	回転ナデ、ナデ、マメツ	中・普		SDb19	
991	須・杯	-	-	105	3/8	N4/灰	N6/灰	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	微・少		SDb19	
992	須・杯	-	-	105	4/8	N6/灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後板ナデ	回転ナデ	微・少		SDb19	
993	須・杯	-	-	95	1/8	5YR7/3に、おしい、橙	-	回転ナデ、ヘラ切り後板ナデ	回転ナデ	微・少		SDb19	
994	須・杯	-	-	80	2/8	N6/灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後回転ヘラケズリ、 ナデ	回転ナデ、ナデ	微・少		SDb19	
995	須・皿	164	30	124	6/8	5Y8/1灰白・N5/灰	5Y8/1灰白	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	細・多		SDb19	
996	須・皿	171	25	147	4/8	25Y7/1灰白	-	回転ナデ、ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
997	須・皿	169	26	145	3/8	25Y7/1灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	細・少		SDb19	
998	須・皿	168	26	142	1/8	N8/灰白	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	中・少		SDb19	
999	須・皿	172	22	148	4/8	25Y8/1灰白	-	回転ナデ、ナデ、板ナデ	回転ナデ、ナデ	細・普		SDb19	
1000	須・皿	170	22	136	5/8	5Y8/1灰白	N7/灰白	回転ナデ、ヘラ切り	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
1001	須・皿	173	28	140	2/8	5Y6/1灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
1002	須・皿	175	21	140	4/8	25Y7/1灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ、板状正真	回転ナデ	微・少		SDb19	
1003	須・皿	172	27	141	6/8	75Y7/1灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ、板ナデ	回転ナデ、ナデ	中・少		SDb19	
1004	須・皿	180	25	143	4/8	25Y7/1灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19	
1005	須・皿	180	25	144	3/8	N5/灰	-	回転ナデ、ナデ、板状正真	回転ナデ	微・普		SDb19	
1006	須・皿	183	24	145	4/8	N5/灰	N6/灰	回転ナデ、ナデ、回転ヘラケズリ後ハケ目	回転ナデ、ナデ	細・普		SDb19	
1007	須・皿	186	28	151	8/8	N6/灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	細・少		SDb19	
1008	須・皿	193	19	166	1/8	5Y8/1灰白	25Y8/1灰白	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	細・普		SDb19	

報告書番号	器種	口径	器高	底径	残存率	色調・外	色調・内	調整・外	調整・内	胎土	角閃石	報告書番号	備考
1009	須・皿	19.0	3.4	14.5	5/8	5Y8/1灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	細・普		SDB19	
1010	須・皿	17.8	2.9	13.6	3/8	N7/灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り	回転ナデ	細・普		SDB19	
1011	須・皿	19.1	2.9	15.6	3/8	5Y5/1灰	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	細・普		SDB19	
1012	須・皿	19.8	2.7	15.8	1/8	5Y7/1灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り未調整	回転ナデ	微・普		SDB19	
1013	須・皿	15.1	2.4	12.2	2/8	N6/灰	5Y6/1灰	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDB19	
1014	須・皿	15.2	2.4	11.4	1/8	7.5Y7/1灰白	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	細・少		SDB19	
1015	須・皿	15.2	-	11.6	2/8	5Y7/1灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	細・少		SDB19	
1016	須・皿	15.8	2.4	12.2	1/8	N7/灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	細・普		SDB19	
1017	須・皿	15.7	2.2	13.0	1/8	N6/灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDB19	
1018	須・皿	15.8	2.4	13.0	1/8	5Y7/1灰白	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	細・少		SDB19	
1019	須・皿	16.0	3.3	13.6	4/8	N7/灰白	N6/灰	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDB19	
1020	須・皿	16.7	2.6	13.4	1/8	5Y4/1灰	-	回転ナデ、ヘラ切り、回転ヘラケズリ	回転ナデ	細・普		SDB19	
1021	須・皿	16.8	2.4	13.9	1/8	2.5Y7/1灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	細・普		SDB19	ヘラ記号?
1022	須・皿	17.2	2.5	15.4	2/8	N8/灰白	-	回転ナデ、ナデ、マメツ	回転ナデ、マメツ	細・普		SDB19	
1023	須・皿	17.3	2.3	14.5	2/8	5B6/1青灰・2.5GY6/1 オリープ灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	微・少		SDB19	
1024	須・皿	17.5	2.3	14.4	2/8	10YR8/1灰白	2.5Y8/1灰白	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDB19	
1025	須・皿	17.4	2.3	15.2	2/8	5Y8/1灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	細・少		SDB19	
1026	須・皿	17.4	1.9	14.1	2/8	N6/灰	5Y7/1灰白	回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ	回転ナデ	細・普		SDB19	
1027	須・皿	18.8	2.5	16.0	3/8	N6/灰	2.5Y8/1灰白	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	細・普		SDB19	
1028	須・皿	18.8	2.5	16.8	2/8	7.5Y7/1灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDB19	
1029	須・皿	18.8	2.9	15.1	2/8	N7/灰白	2.5Y8/1灰白	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	微・少		SDB19	
1030	須・皿	18.3	2.8	16.4	1/8	5Y8/1灰白	2.5Y8/2灰白	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	微・少		SDB19	
1031	須・皿	15.1	2.0	11.9	1/8	5Y8/1灰白	5Y7/1灰白	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	微・少		SDB19	
1032	須・皿	15.5	2.9	12.2	1/8	5Y7/1灰白	5Y6/1灰	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	微・少		SDB19	
1033	須・皿	16.4	2.4	11.7	1/8	5Y8/1灰白	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	細・普		SDB19	
1034	須・皿	16.2	-	-	1/8	5Y8/1灰白	-	回転ナデ	回転ナデ	細・普		SDB19	
1035	須・皿	16.6	2.7	13.8	7/8	N4/灰	-	回転ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDB19	
1036	須・皿	16.6	-	-	1/8	N7/灰白	2.5Y7/1灰白	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	微・少		SDB19	
1037	須・皿	16.4	2.2	12.7	2/8	5Y7/1灰白	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	微・少		SDB19	
1038	須・皿	16.9	2.4	14.0	1/8	5Y8/1灰白	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	微・少		SDB19	
1039	須・皿	16.7	2.9	13.6	1/8	7.5Y6/1灰	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	細・普		SDB19	
1040	須・皿	16.8	2.7	14.2	1/8	7.5Y6/1灰	5Y5/1灰	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDB19	
1041	須・皿	17.3	2.4	14.4	2/8	N5/灰	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDB19	
1042	須・皿	17.1	2.6	14.4	2/8	N5/灰・5Y8/1灰白	5Y8/1灰白	回転ナデ、ナデ、板ナデ	回転ナデ、ナデ	細・普		SDB19	
1043	須・皿	17.3	2.1	14.5	1/8	N6/灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	細・普		SDB19	
1044	須・皿	17.5	2.0	14.2	1/8	N4/灰	2.5Y8/2灰白	回転ナデ、ナデ、マメツ	回転ナデ	微・少		SDB19	
1045	須・皿	17.4	2.5	14.7	1/8	5Y7/1灰白・10YR6/4に ぶい、黄橙	10YR6/4にぶい、黄橙	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	細・少		SDB19	
1046	須・皿	17.7	2.8	14.1	1/8	2.5Y8/1灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	中・少		SDB19	
1047	須・皿	18.3	2.0	15.0	1/8	5Y7/1灰白	-	回転ナデ、マメツ	回転ナデ、マメツ	中・少		SDB19	
1048	須・皿	17.3	2.2	14.8	1/8	N7/灰白	N6/灰	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	細・普		SDB19	
1049	須・皿	17.7	2.5	15.3	1/8	2.5Y7/1灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	細・多		SDB19	
1050	須・皿	17.9	-	-	1/8	5Y7/1灰白	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	微・少		SDB19	
1051	須・皿	18.0	2.6	15.0	2/8	5Y8/1灰白	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	微・普		SDB19	
1052	須・皿	18.0	2.8	15.1	1/8	N8/灰白	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	微・少		SDB19	
1053	須・皿	18.2	-	-	1/8	7.5Y7/1灰白	-	回転ナデ	回転ナデ	細・普		SDB19	
1054	須・皿	17.6	3.1	14.1	1/8	N7/灰白	N8/灰白	回転ナデ、ナデ、マメツ	回転ナデ、マメツ	細・少		SDB19	
1055	須・皿	18.5	2.5	15.4	1/8	5Y6/1灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	細・少		SDB19	
1056	須・皿	18.5	2.4	16.0	1/8	N5/灰	-	回転ナデ、ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDB19	
1057	須・皿	18.8	2.9	15.9	2/8	5Y7/1灰白	5Y6/1灰	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDB19	
1058	須・皿	19.0	2.4	17.0	1/8	5Y7/1灰白	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	微・少		SDB19	
1059	須・皿	19.5	2.7	15.9	1/8	2.5Y7/1灰白	5Y8/1灰白	回転ナデ、ヘラ切り後板状圧痕後回転 ヘラケズリ	回転ナデ	微・少		SDB19	
1060	須・皿	19.8	2.1	17.0	1/8	2.5Y8/1灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	微・少		SDB19	

報告書番号	器種	口径	器高	底径	残存率	色調・外	色調・内	調整・外	調整・内	胎土	角閃石	報告書番号	備考
1061	須・皿	-	-	150	3/8	2.5Y8/1灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少	-	SDb19	
1062	須・皿	-	1.9	-	細片	5PB5/1青灰	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	細・少	-	SDb19	
1063	須・皿	-	-	-	細片	2.5Y7/1灰白	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、マメツ	微・少	-	SDb19	
1064	須・皿	-	2.5	-	細片	N6/灰	2.5Y8/1灰白	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	中・少	-	SDb19	
1065	須・皿	-	-	-	1/8	2.5Y8/3淡黄	2.5Y7/2灰黄	回転ナデ、ナデ、工具痕	回転ナデ、ナデ	微・少	-	SDb19	
1066	須・皿蓋	25.2	-	-	1/8	N7/灰白	-	回転ヘラケズリ、回転ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少	-	SDb19	
1067	須・高杯	-	-	9.7	6/8	N6/灰	N7/灰白	回転ナデ	回転ナデ	細・普	-	SDb19	
1068	須・高杯	-	-	11.2	6/8	5Y6/1灰	2.5Y7/1灰白	回転ナデ	回転ナデ	細・普	-	SDb19	
1069	須・高杯	-	-	-	6/8	N8/灰白	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、ナデ	細・少	-	SDb19	
1070	須・高杯	-	-	-	1/8	N7/灰白	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	回転ナデ、ナデ	中・少	-	SDb19	
1071	須・高杯	-	-	-	1/8	5Y8/1灰白	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、ナデ	細・少	-	SDb19	
1072	須・蓋	15.4	-	-	1/8	N6/灰	-	回転ナデ	回転ナデ	細・普	-	SDb19	
1073	須・蓋	9.1	-	-	8/8	2.5Y4/1黄灰	-	回転ナデ	回転ナデ	中・多	-	SDb19	
1074	須・蓋	9.5	-	-	6/8	N7/灰白	5Y6/1灰	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	細・普	-	SDb19	
1075	須・蓋	9.2	-	-	5/8	N4/灰	2.5Y5/1オリーブ灰	回転ナデ	回転ナデ	細・普	-	SDb19	
1076	須・蓋	9.3	-	-	2/8	N3/暗灰	N4/灰	回転ナデ	回転ナデ	細・普	-	SDb19	
1077	須・蓋	-	-	8.6	8/8	N5/灰	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	回転ナデ、板ナデ、ナデ	細・少	-	SDb19	細目痕
1078	須・蓋	-	-	11.2	1/8	N5/灰	N7/灰白	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	細・普	-	SDb19	
1079	須・蓋	-	-	-	7/8	10Y5/1灰	N7/灰白	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、板ナデ	細・普	-	SDb19	
1080	須・蓋	-	-	12.3	2/8	N7/灰白	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	微・少	-	SDb19	ヘラ記号
1081	須・蓋	-	-	10.4	2/8	N4/灰	5Y6/1灰	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	細・少	-	SDb19	
1082	須・蓋	-	-	11.8	1/8	N6/灰	N7/灰白	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	細・少	-	SDb19	
1083	須・蓋	-	-	9.1	6/8	N5/灰	N6/灰	回転ヘラケズリ	回転ナデ	細・普	-	SDb19	
1084	須・蓋	-	-	7.3	2/8	N4/灰	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	回転ナデ	細・少	-	SDb19	
1085	須・蓋?	20.3	-	-	1/8	N5/灰	-	回転ナデ	回転ナデ	細・普	-	SDb19	
1086	須・平瓶	8.9	-	-	8/8	N7/灰白	-	カキ目	回転ナデ	細・普	-	SDb19	
1087	須・横瓶	-	-	-	細片	N6/灰	-	カタキ後カキ目	当て具痕	微・少	-	SDb19	
1088	須・鉢	13.4	-	-	2/8	2.5Y8/1灰白	N7/灰白	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	青海波当て具痕	微・少	-	SDb19	
1089	須・鉢	13.8	-	-	1/8	N4/灰	-	回転ナデ	回転ナデ	細・少	-	SDb19	
1090	須・甕	14.5	-	-	1/8	2.5Y7/1灰白	-	回転ナデ	回転ナデ	微・少	-	SDb19	
1091	須・甕	17.7	-	-	1/8	5Y7/1灰白	-	回転ナデ	回転ナデ	細・少	-	SDb19	
1092	須・甕	21.6	-	-	1/8	5Y6/1灰	5Y6/1灰	回転ナデ	回転ナデ	細・少	-	SDb19	
1093	須・甕	-	-	-	細片	5RP5/1紫灰	N5/1灰	回転ナデ	回転ナデ	細・普	-	SDb19	
1094	須・甕	-	-	-	細片	N3/暗灰	N4/灰	回転ナデ	回転ナデ	細・普	-	SDb19	
1095	須・甕	-	-	-	細片	N3/暗灰	N5/灰	回転ナデ	回転ナデ	細・普	-	SDb19	
1096	須・甕	-	-	-	1/8	N7/灰白	-	回転ナデ、カタキ後カキ目	回転ナデ、当て具痕	微・少	-	SDb19	
1097	土・杯	13.0	3.0	8.1	1/8	5YR6/8橙	-	マメツ	マメツ	微・少	-	SDb19	
1098	土・杯	12.8	3.7	10.3	2/8	5YR7/8橙	-	回転ナデ	回転ナデ	細・普	-	SDb19	
1099	土・杯	17.9	3.7	9.9	6/8	7.5YR7/4にぶい橙	10YR7/3にぶい黄橙	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	細・多	-	SDb19	回転台土師器
1100	土・杯	15.1	-	-	1/8	2.5YR7/8橙	-	ナデ、ヘラミガキ、マメツ	回転ナデ、マメツ	細・少	-	SDb19	
1101	土・杯	15.8	-	-	1/8	2.5YR6/6橙	-	ヘラミガキ、マメツ	ナデ、マメツ	細・少	-	SDb19	
1102	土・杯	14.5	2.0	12.3	1/8	5YR5/6明赤褐	-	ナデ、ヘラケズリ	ナデ	細・少	-	SDb19	
1103	土・杯	16.0	2.6	13.7	4/8	5YR6/6橙・7.5Y2/1黒	5YR6/6橙	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ、マメツ	中・少	-	SDb19	
1104	土・杯	14.8	2.8	11.0	1/8	5YR7/6橙	-	ナデ、ヘラミガキ	ナデ、ヘラミガキ?、暗文	細・少	-	SDb19	
1105	土・皿	16.4	1.9	13.1	3/8	7.5YR7/4にぶい橙	-	ヘラミガキ、ヘラケズリ、マメツ	ヘラミガキ	細・少	-	SDb19	
1106	土・皿	18.6	2.5	16.0	2/8	5YR5/4にぶい赤褐	5YR5/1褐灰	ナデ、ヘラケズリ後ヘラミガキ	ナデ、暗文	微・少	-	SDb19	
1107	土・皿	14.7	2.1	10.9	1/8	2.5YR6/6橙	-	ナデ、ヘラケズリ	ナデ、マメツ	中・少	-	SDb19	
1108	土・皿	15.5	2.6	12.1	1/8	7.5YR6/4透黄橙	2.5YR6/6橙	ナデ、ヘラケズリ	ナデ、マメツ	中・少	-	SDb19	
1109	土・皿	15.4	2.4	12.7	3/8	5YR5/8明赤褐	-	ヨコナデ、ヘラケズリ、マメツ	ヨコナデ、マメツ	中・少	-	SDb19	
1110	土・皿	16.4	-	13.4	1/8	5YR8/3淡橙	5YR8/4淡橙	ナデ、ヘラケズリ、マメツ	ナデ、マメツ	細・少	-	SDb19	
1111	土・皿	16.6	2.1	15.1	1/8	2.5YR6/6橙	7.5YR8/4透黄橙	ナデ、ヘラケズリ	ナデ、マメツ	中・少	-	SDb19	
1112	土・皿	16.6	2.2	13.2	1/8	7.5YR7/3にぶい橙	-	ナデ、ヘラケズリ	ナデ、マメツ	細・普	-	SDb19	
1113	土・皿	16.6	-	14.0	1/8	5YR6/6橙	5YR6/6橙	ナデ、ヘラケズリ	ナデ、暗文、ヘラミガキ	細・少	-	SDb19	
1114	土・皿	18.0	2.0	16.1	1/8	10YR8/3透黄橙	-	ナデ、ヘラケズリ	ナデ、ヘラミガキ	微・普	-	SDb19	赤彩

報告書番号	器種	口径	器高	底径	残存率	色調・外	色調・内	調整・外	調整・内	胎土	角閃石	報告書種名	備考
1115	土・皿	20.8	2.2	18.0	2/8	2.5Y6/6橙	10YR8/2灰白	ナデ、ハラケズリ	ナデ、マメツ	細・少	角閃石	SDb19	赤彩
1116	土・皿	20.6	-	19.1	2/8	5YR7/6橙	7.5YR7/4にぶい橙	ナデ、ハラケズリ	ナデ、マメツ	微・少		SDb19	
1117	土・皿	19.4	-	-	1/8	2.5YR6/6橙	-	ナデ	ナデ、暗文	微・少		SDb19	
1118	土・皿	-	-	-	細片	5YR7/6橙	5YR5/6明赤褐	ナデ、ハラケズリ、マメツ	ナデ	中・少		SDb19	赤彩
1119	土・皿	-	-	-	細片	7.5YR8/4淺黄橙	5YR6/8橙	ナデ、マメツ	ナデ、マメツ	微・少		SDb19	
1120	土・皿	-	-	15.0	4/8	2.5YR5/6明赤褐	-	ハラケズリ	ナデ、ハラミガキ	細・少		SDb19	
1121	土・皿	-	-	12.8	1/8	2.5YR8/2灰白	2.5YR7/8橙	ナデ、ハラケズリ	ナデ、ハラケズリ	細・普		SDb19	
1122	土・皿	-	-	-	細片	2.5YR6/6橙	5YR7/6橙	ナデ、ハラケズリ	マメツ	細・普		SDb19	
1123	土・皿	-	-	-	細片	2.5YR6/6橙	5YR7/4にぶい橙	ナデ、ハラケズリ	ナデ	細・少		SDb19	
1124	土・皿	-	-	-	細片	2.5YR6/6橙	-	ヨコナデ	ヨコナデ	微・少		SDb19	赤彩
1125	土・高杯	-	-	-	細片	5YR6/8橙	5YR6/8橙	ナデ	ナデ	中・少		SDb19	
1126	土・高杯	24.0	-	-	1/8	7.5YR8/6淺黄橙	-	ハラケズリ、マメツ	マメツ	細・少		SDb19	
1127	土・高杯	-	-	12.6	1/8	2.5YR6/6橙	-	ナデ	ナデ、暗文、指押さえ	細・少		SDb19	
1128	須・壺	-	-	12.0	2/8	10YR5/1褐灰	2.5Y5/1黄灰	回転ナデ、回転ハラケズリ	回転ナデ	細・少		SDb19	
1129	土・碗	11.9	-	-	2/8	5YR6/6橙	-	ナデ	ナデ	微・少		SDb19	
1130	土・板	13.3	5.3	3.3	4/8	7.5YR8/4淺黄橙	-	ハラケズリ、ナデ、マメツ	ハラケズリ、ナデ、マメツ	中・多		SDb19	
1131	土・碗	17.7	-	-	1/8	5YR6/8橙	-	回転ナデ	回転ナデ	細・普		SDb19	
1132	土・壺	13.6	-	-	1/8	5YR8/3淺黄橙	10YR8/3淺黄橙	ヨコナデ、指押さえ後板ナデ	ヨコナデ、指押さえ後ナデ	細・普		SDb19	
1133	土・壺	14.1	-	-	1/8	7.5YR6/3にぶい褐	5YR5/3にぶい赤褐	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ハケ目	細・多		SDb19	
1134	土・壺	16.0	-	-	1/8	2.5YR6/4にぶい橙	10YR7/3にぶい黄橙	ヨコナデ、剥離	ヨコナデ、板ナデ、ハラミガキ	細・多		SDb19	
1135	土・壺	17.9	-	-	1/8	7.5YR6/4にぶい橙	10YR4/1褐灰	ヨコナデ、ハケ目	板ナデ、ナデ	中・少		SDb19	
1136	土・壺	22.0	-	-	1/8	2.5YR6/6橙	10YR6/4にぶい黄橙	ヨコナデ、ハケ目、マメツ	ヨコナデ、指押さえ後ナデ、板ナデ	細・普		SDb19	
1137	土・壺	27.0	-	-	2/8	7.5YR7/6橙	7.5YR7/3にぶい橙	ナデ、ハケ目	ハケ目、ナデ、指押さえ	細・多		SDb19	
1138	須・壺	30.0	-	-	1/8	5YR6/6橙	7.5YR7/4にぶい橙	ナデ、ハケ目	ナデ、ハケ目、板ナデ	細・多		SDb19	
1139	須・壺	17.6	-	-	1/8	7.5YR5/3にぶい褐	-	ナデ、ハケ目	ナデ、板ナデ	細・普		SDb19	
1140	土・壺	14.3	-	-	1/8	5YR6/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ハケ目	細・普		SDb19	
1141	土・壺	27.7	-	-	1/8	7.5YR6/3にぶい褐	10YR7/3にぶい黄橙	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ハケ目、ナデ	細・普		SDb19	
1142	土・壺	27.9	-	-	1/8	5YR6/6橙	7.5YR7/4にぶい橙	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ハケ目、ナデ	細・多		SDb19	
1143	土・羽釜	23.7	-	-	1/8	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR3/1黒褐	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ	中・普		SDb19	
1144	土・羽釜	-	-	-	細片	5YR6/6橙	7.5YR5/4にぶい褐	ヨコナデ、指押さえ、ハケ目	指押さえ後ナデ、マメツ	中・多		SDb19	
1145	土・製塩土器	11.6	-	-	2/8	7.5YR5/4にぶい褐	5YR5/6明赤褐	指押さえ	指押さえ	中・普		SDb19	
1146	土・製塩土器	14.8	-	-	1/8	5YR7/6橙	7.5YR8/4淺黄橙	指押さえ	指押さえ	中・多		SDb19	
1147	平瓦	現存長	最大幅	最大厚	細片	-	-	ハラケズリ、ナデ	ハラケズリ、ナデ、布目痕	中・普		SDb19	
1149	須・杯蓋	14.8	-	-	2/8	5YR8/1灰白	N8/灰白	回転ハラケズリ、回転ナデ	回転ナデ	微・少		SDb19直上 包含層	
1150	須・杯蓋	18.4	-	-	2/8	N5/灰	-	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SDb19直上 包含層	
1151	須・杯	13.0	4.0	10.4	3/8	N6/灰	-	回転ナデ、ハラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19直上 包含層	
1152	須・杯	15.0	3.8	10.0	1/8	7.5YR6/3にぶい褐	-	回転ナデ、ハラ切り、ナデ	回転ナデ	微・少		SDb19直上 包含層	
1153	須・杯	15.3	6.7	12.2	1/8	N6/灰	N5/灰	回転ナデ、ハラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	微・少		SDb19直上 包含層	
1154	須・壺	-	-	6.0	6/8	N6/灰	5Y7/1灰白	回転ナデ、回転ハラケズリ、ナデ、ハラ切り	回転ナデ	細・少		SDb19直上 包含層	回転台土師器
1155	土・杯	11.8	3.8	9.2	1/8	2.5YR7/8橙	-	回転ナデ、回転ハラケズリ、マメツ	回転ナデ、マメツ	細・少		SDb19直上 包含層	回転台土師器
1156	土・杯	16.4	3.5	13.0	1/8	5YR7/6橙	7.5YR8/4淺黄橙	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SDb19直上 包含層	回転台土師器
1157	土・皿	-	-	-	細片	5YR7/6橙	5YR6/6橙	ナデ、ハラケズリ	ナデ、ハラミガキ	微・少		SDb19直上 包含層	
1158	土・皿	15.0	1.7	15.6	2/8	2.5YR7/6橙	2.5YR7/6橙	回転ナデ、ハラ切り、回転ハラケズリ、ナデ	回転ナデ	細・少		SDb19直上 包含層	

報告番号	器種	口径	器高	底径	残存率	色調・外	色調・内	調整・外	調整・内	胎土	角閃石	報告書機名	備考
1159	土・皿	15.0	1.6	12.6	1/8	75YR8/4浅黄橙	-	ナデ、マメツ	ナデ、マメツ	細・普		SDB19直上 包含層	赤彩
1160	土・皿	19.7	-	-	1/8	5YR6/6橙	-	ナデ、ヘラケズリ、マメツ	ナデ、マメツ	細・少		SDB19直上 包含層	赤彩
1161	土・羽釜	21.0	-	-	2/8	5YR7/6橙	10YR6/2灰黄褐	ナデ、マメツ	ナデ、マメツ	細・多		SDB19直上 包含層	
1162	須・蓋	11.9	-	-	1/8	N6/灰	-	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SDB23	
1163	須・杯	14.8	-	-	1/8	2.5Y8/1灰白	-	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SDB23	
1164	土・皿	23.0	-	-	1/8	5YR7/6橙	10YR8/3浅黄橙	ヘラミガキ、マメツ	マメツ	細・少		SDB23	
1165	須・皿	-	-	-	細片	N6/灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	微・少		SDB26	
1166	須・杯蓋	-	-	-	細片	N6/灰	-	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SDB28	
1167	須・杯	9.8	3.5	-	4/8	N6/灰・(編)5GY4/1暗 オリーブ灰	N6/灰	回転ナデ、自然釉、ヘラ切り未調整	回転ナデ	細・少		SDB29	
1168	須・器	-	-	3.4	8/8	7.5YR4/2灰褐	10YR4/2灰黄褐	板ナデ、ナデ、ヘラケズリ	板ナデ	細・普	○	SDB30	
1169	須・杯	9.0	-	-	1/8	7.5Y8/1灰白	5Y6/1灰	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SDB31	
1170	須・蓋	18.4	-	-	1/8	N4/灰	N5/灰	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SDB32	
1171	須・杯蓋	16.0	-	-	1/8	N6/灰	N5/灰	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SDB33	
1172	須・杯	10.1	-	-	1/8	N7/灰白	-	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SDB33	
1173	須・杯	-	-	7.6	2/8	5Y6/1灰	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	微・少		SDB33	
1174	須・杯	-	-	6.9	6/8	5Y7/1灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り	回転ナデ	微・普		SDB33	
1175	須・蓋	-	-	13.5	1/8	N8/灰白・(編)5GY4/1 暗オリーブ灰	N6/灰	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	回転ナデ	細・少		SDB33	自然釉
1176	須・蓋	-	-	12.4	2/8	N6/灰	-	タタキ、回転ヘラケズリ、回転ナデ	回転ナデ	細・少		SDB33	
1177	須・蓋	27.0	-	-	1/8	N4/灰	N5/灰	回転ナデ、タタキ後カキ目	回転ナデ	微・少		SDB33	
1178	黒色・碗	-	-	-	細片	2.5Y7/2灰黄	5Y2/1黒	指押さえ、マメツ	ヘラミガキ、マメツ	微・少		SDB33	黒色A類
1179	黒色・碗	-	-	6.2	2/8	10YR7/2にぶい、黄橙	2.5Y4/1黄灰	ナデ、ヘラ切り後ナデ	指押さえ、ヘラミガキ、マメツ	微・多		SDB33	黒色A類
1180	黒色・碗	15.8	5.4	7.5	7/8	7.5YR8/4浅黄橙	10YR1/7黒	ヘラミガキ、ヨコナデ、ヘラ切り後ナデ	板ナデ後ヘラミガキ、マメツ	細・少		SDB33	黒色A類
1181	土・壺	17.0	-	-	1/8	7.5YR6/4にぶい、褐	7.5YR6/2灰褐	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ナデ	細・多		SDB33	
1182	須・杯蓋	14.8	-	-	3/8	5YR8/4橙	-	ヨコナデ、タタキ、ハケ目、マメツ	ヨコナデ、指押さえ、ナデ、板ナデ、マメツ	中・普		SDB33	
1183	須・杯蓋	11.5	3.4	6.1	1/8	N6/灰	-	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SDB36	
1184	須・杯	11.0	-	-	1/8	N5/灰	-	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SDB36	
1185	須・蓋	-	-	-	1/8	5YR6/6橙	-	指押さえ、ハケ目、マメツ	マメツ	微・普	○	SDB36	
1186	須・杯	11.4	3.4	7.0	2/8	10YR6/1褐灰	10YR4/1褐灰	回転ナデ、ヘラ切り	回転ナデ	微・少		SDB36	
1187	須・杯	13.4	-	-	細片	5Y8/1灰白	-	回転ナデ	ナデ	微・少		SPb03	
1188	須・杯	-	-	7.8	2/8	N7/灰白	-	回転ナデ	回転ナデ	微・普		SPb04	
1189	須・杯	13.0	3.6	8.8	2/8	5Y6/1灰	-	回転ナデ、ヘラ切り、板状圧痕?	回転ナデ	微・少		SPb05	
1190	須・杯	17.6	-	-	1/8	5Y6/1灰	-	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SPb06	
1191	須・杯	14.5	3.4	10.5	1/8	N6/灰	-	回転ナデ、ヘラ切り	回転ナデ	微・少		SPb07	
1192	須・杯	-	-	12.0	2/8	N6/灰	-	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	微・少		SPb08	
1193	須・杯	15.5	-	-	1/8	N3/暗灰	N4/灰	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SPb09	
1194	須・杯	12.3	-	-	1/8	5Y7/1灰白	N7/灰白	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SPb09	
1195	須・高杯	-	-	12.2	2/8	N5/灰	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	細・少		SPb10	
1196	土・杯	-	-	-	細片	5YR4/3にぶい、赤褐	5YR4/2灰褐	ナデ、ヘラケズリ	ナデ	微・普		SPb11	
1197	須・蓋	-	-	10.7	1/8	N6/灰	N7/灰白	回転ヘラケズリ、格子目タタキ	回転ナデ、ヨコナデ	微・少		SPb12	
1198	須・杯蓋	-	-	-	細片	N6/灰	N7/灰白	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SPb13	
1199	須・杯	-	-	7.3	8/8	2.5Y5/1黄灰	2.5Y6/1黄灰	ナデ、ヘラ切り後板状圧痕、ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SPb14	
1200	須・杯	-	-	-	細片	N4/灰	-	ナデ	ナデ	細・少		SPb15	
1201	須・杯蓋	16.0	-	-	1/8	N5/灰	N6/灰	回転ナデ	回転ナデ	微・普		SPb16	
1202	須・杯	-	-	-	細片	N6/灰	-	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SXB08	
1203	土・杯	-	-	-	細片	7.5YR8/3浅黄橙	-	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SBB10-SP01	
1204	土・杯(小 皿?)	-	-	6.0	2/8	10YR8/2灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り	回転ナデ	微・少		SBB10-SP01	
1205	土・足釜	-	-	-	細片	10YR7/2にぶい、黄橙	10YR8/3浅黄橙	板ナデ、ナデ	ハケ目	細・普		SBB10-SP02	
1206	土・鍋	26.4	-	-	3/8	10YR7/2にぶい、黄橙	10YR8/3浅黄橙	ナデ、ハケ目後ナデ、タタキ	ナデ、ハケ目	中・少		SBB10-SP03	

報告書番号	器種	口径	器高	底径	残存率	色調・外	色調・内	調整・外	調整・内	胎土	角閃石	報告書権名	備考
1207	須・碗	13.9	4.0	5.2	3/8	10YR7/1灰白	-	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SBb10- SP03-SP04	十瓶山産
1208	土・小皿	9.0	1.6	6.3	6/8	7.5YR7/4にぶい橙	-	回転ナデ、ヘラ切り後板状圧痕	回転ナデ、ナデ	微・少		SBb11-SP01	
1209	土・杯	-	-	-	細片	7.5YR8/4浅黄橙	7.5YR8/6浅黄橙	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SBb11-SP01	
1210	土・杯	-	-	-	細片	10YR8/3浅黄橙	-	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SBb11-SP02	
1211	須・碗	14.3	5.3	4.8	1/8	N5/灰	2.5Y8/2灰色	回転ナデ、指押さえ、ヘラミガキ	回転ナデ、ヘラミガキ	微・少		SBb11-SP02	十瓶山産
1212	土・小皿	8.4	1.3	6.2	2/8	5YR7/6橙	-	回転ナデ、回転糸切り	回転ナデ	細・普		SBb11-SP04	見込み糸切り痕
1213	土・小皿	9.5	1.3	7.2	2/8	5YR7/6橙	5YR8/4淡橙	回転ナデ、ヘラ切り後板状圧痕	ヨコナデ	微・少		SBb11-SP04	
1214	土・小皿	8.9	1.6	6.4	4/8	5YR7/4にぶい橙	7.5YR8/3浅黄橙	ヨコナデ、ヘラ切り後板状圧痕	ヨコナデ	微・少		SBb11-SP05	
1215	土・小皿	7.2	1.4	5.0	5/8	5YR7/6橙	-	回転ナデ、ヘラ切り後板状圧痕	回転ナデ	微・少		SBb11-SP05	
1216	土・小皿	8.0	1.1	6.6	1/8	2.5YR6/6橙	2.5YR6/6橙	ヨコナデ、糸切り	ヨコナデ	細・普		SBb11-SP05	
1217	土・羹	-	-	-	細片	7.5YR3/2黒褐	10YR7/2にぶい黄橙	ヨコナデ、板ナデ	ヨコナデ、ナデ	細・普		SBb11-SP05	
1218	土・鍋	-	-	-	細片	10YR7/4にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	ヨコナデ、板ナデ後ヨコナデ、指押さえ、 後ナデ	ヨコナデ、板ナデ後板 ナデ	細・普		SBb15-SP01	
1219	平瓦	-	-	-	細片	N4/灰	5YR7/6橙	ナデ	布目痕	微・少		SBb16-SP02	
1220	土・釜	19.6	-	-	1/8	10YR7/3にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	ナデ、指押さえ、ハケ目	ナデ、指押さえ	細・普		SBb16-SP02	
1221	陶・鉢	23.2	5.8	13.6	1/8	2.5Y8/3淡黄	-	ナデ、指押さえ、ハケ目後ナデ	ナデ、板ナデ	細・普		SBb16-SP03	SB03、内面に花文状のスタ ンプ
1222	須・碗	-	-	4.8	3/8	5Y8/1灰白	N8/灰白	ヨコナデ	ナデ	微・少		SBb16-SP01	十瓶山産
1223	土・小皿	6.3	0.9	5.4	2/8	7.5YR8/3浅黄橙	-	回転ナデ、ヘラ切り	回転ナデ、ナデ	細・少		SBb17-SP01	
1224	土・小皿	6.2	0.9	5.6	3/8	7.5YR8/4浅黄橙	-	回転ナデ、ヘラ切り後板状圧痕	回転ナデ、ナデ	細・少		SBb17-SP04	
1225	土・杯	11.0	2.5	6.9	1/8	7.5YR8/4浅黄橙	-	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SBb17-SP04	
1226	土・杯	12.0	2.8	8.2	2/8	10YR8/3浅黄橙	-	回転ナデ、ヘラ切り後板状圧痕	回転ナデ	微・少		SBb17-SP02	
1227	土・杯	-	-	-	細片	2.5Y8/2灰白	2.5YR6/6橙	回転ナデ	回転ナデ、ヘラ切り	細・少		SBb18-SP01	
1228	珧口	現存長 6.8	最大幅 5.6	最大厚 2.7	細片	10Y3/1ネリ・ブ黒	2.5YR4/1赤灰	鉄滓付着	ナデ	微・少		SBb19-SP01	
1229	土・小皿	8.7	1.4	6.2	1/8	5YR7/4にぶい橙	5YR7/6橙	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	細・普		SBb25-SP01	
1230	土・小皿	8.8	1.5	6.0	4/8	5YR7/3にぶい橙	-	回転ナデ、ヘラ切り後板状圧痕	回転ナデ	細・少		SBb25-SP02	
1231	土・小皿	9.0	-	6.3	1/8	7.5YR8/3浅黄橙	10YR8/2灰白	回転ナデ、ヘラ切り	回転ナデ	細・少		SBb25-SP02	
1232	土・小皿	8.6	1.2	7.0	1/8	10YR6/2灰黄褐	10YR7/2にぶい黄橙	回転ナデ、ヘラ切り	回転ナデ	細・少		SBb25-SP02	
1233	土・小皿	7.8	1.5	6.1	3/8	7.5YR8/3浅黄橙	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ、ヘラ切り痕	細・少		SBb25-SP02	
1234	土・小皿	9.6	-	7.4	1/8	2.5Y8/2灰白	10YR8/2灰白	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	細・普		SBb25-SP02	
1235	土・杯	14.0	-	-	1/8	10YR8/2灰白	-	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SBb25-SP02	
1236	土・杯	15.8	4.2	10.6	1/8	5YR8/3淡橙	-	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	微・少		SBb25-SP02	
1237	土・小皿	8.7	1.6	6.0	7/8	5YR7/4にぶい橙	-	回転ナデ、ヘラ切り	回転ナデ、ナデ	細・少		SBb25-SP03	
1238	土・杯	15.6	2.9	9.0	1/8	10YR8/3浅黄橙	2.5Y8/2灰白	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ	回転ナデ	微・少		SBb25-SP03	
1239	土・杯	14.2	-	-	1/8	5YR7/4にぶい橙	-	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SBb25-SP03	
1240	土・杯	15.0	-	-	2/8	10YR8/2灰白	-	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SBb25-SP03	
1241	土・羹	32.4	-	-	1/8	10YR5/4にぶい黄褐	2.5YR6/6橙	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、ナデ	中・多		SBb25-SP03	
1242	土・杯	14.8	3.0	6.4	1/8	10YR8/2灰白	-	回転ナデ、ヘラ切り後板状圧痕	回転ナデ	細・少		SBb27-SP01	ヘラ指の暗文状の文様
1243	瓦器・碗	-	-	6.8	1/8	N4/灰	-	ナデ、指押さえ	回転ナデ、ヘラミガキ	微・少		SBb27-SP01	
1244	土・小皿	8.2	-	6.9	4/8	2.5YR6/6橙	-	回転ナデ、ヘラ切り	回転ナデ	細・普		SBb27-SP02	
1245	須・鉢	-	-	-	細片	N4/灰	N6/灰	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SKb48	
1246	青磁・碗	-	-	-	細片	7.5Y6/1灰・(釉) 7.5Y6/2灰ネリ	-	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケケズリ	縁着		SKb48	施釉
1247	土・羹	-	-	丸底	6/8	7.5YR7/6橙	-	ハケ目、タタキ後ハケ目	板ナデ、指押さえ	中・普		SKb49	
1248	土・小皿	6.1	0.7	5.0	1/8	7.5YR8/4浅黄橙	-	回転ナデ、ヘラ切り	回転ナデ	細・少		SKb52	
1249	土・小皿	7.3	0.9	5.8	1/8	5YR7/4にぶい橙	-	回転ナデ、ヘラ切り	回転ナデ	微・少		SKb52	
1250	土・杯	10.3	-	-	1/8	10YR8/2灰白	-	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SKb52	
1251	土・杯	10.4	2.7	7.2	2/8	7.5YR8/4浅黄橙	-	回転ナデ、ヘラ切り後板状圧痕	回転ナデ	微・普		SKb58	
1252	土・杯	11.9	-	-	1/8	7.5YR8/4浅黄橙	-	回転ナデ	回転ナデ	細・普		SKb58	
1253	土・小皿	6.2	1.9	5.0	1/8	5YR7/6橙	-	ヨコナデ、ヘラ切り	ヨコナデ	細・少		SKb61	
1254	青磁・碗	15.0	-	-	1/8	N8/灰白・(釉)淡緑	-	回転ナデ	回転ナデ	縁着		SKb63	施釉
1255	土・土釜	19.4	-	-	1/8	2.5Y6/4にぶい橙	5YR6/6橙	ナデ、指押さえ	回転ナデ	細・普		SKb63	
1256	土・小皿	7.9	1.2	5.0	2/8	7.5YR7/4にぶい橙	-	ナデ、ヘラ切り後ナデ	ナデ	中・普		SKb64	

報告書番号	器種	口径	器高	底径	残存率	色調・外	色調・内	調整・外	調整・内	胎土	角閃石	報告書番号	備考
1257	須・杯蓋	15.7	-	-	細片	N5/灰	N6/灰	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SB601	
1258	須・壺	-	-	5.9	2/8	N5/灰	N6/灰	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SB601	
1259	瓦器・小皿	10.0	-	-	2/8	5YR8/4淡橙	5YR8/3淡橙	回転ナデ、マメツ	回転ナデ	細・少		SB601	
1260	瓦器・小皿	6.8	1.2	5.3	1/8	N5/灰	N4/灰	回転ナデ、指押さえ後ナデ	回転ナデ	微・少		SB601	和泉型？
1261	須・杯	-	-	7.5	1/8	N8/灰白	-	回転ナデ、マメツ	回転ナデ	微・少		SB641	
1262	須・壺	-	-	-	細片	N4/灰	N6/灰	ハケ目、ヨコナデ、指押さえ、マメツ	指押さえ、マメツ	中・普		SB641	
1263	須・鉢	-	-	-	細片	25Y8/1灰白	10YR8/1灰白	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SB641	注ぎ口 和泉型
1264	瓦器・瓶	14.0	-	-	1/8	N4/灰	N5/灰	ヨコナデ、指押さえ	ヨコナデ、ハラミガキ、ナデ	微・少		SB641	
1265	土・土釜	-	-	-	細片	10YR8/2灰色	7.5YR7/4にぶい橙	ヨコナデ、指押さえ、マメツ	ヨコナデ、マメツ	中・多		SB641	
1266	土・壺鉢	-	-	11.2	1/8	7.5YR7/4にぶい橙	-	指押さえ、板ナデ	指押さえ、板ナデ	中・普		SB641	
1267	陶・壺鉢	35.0	-	-	1/8	7.5R4/1暗赤灰	10S5/2灰赤	回転ナデ、重ね焼痕付着	回転ナデ	粗・少		SB641	備前
1268	土・壺鉢	22.0	-	-	1/8	10YR8/4浅黄橙	7.5YR8/3浅黄橙	ナデ、マメツ	ナデ	中・普		SB641	
1269	土・足釜	-	-	-	細片	10YR5/4にぶい黄橙	-	ナデ、板ナデ	ナデ	粗・普		SB641	
1270	土・足釜	-	-	-	細片	2.5Y7/2灰黄	-	指押さえ、板ナデ	ハケ目	中・多		SB641	
1272	土・小皿	6.8	1.0	5.6	2/8	10YR8/3浅黄橙	-	回転ナデ、ハラ切り	回転ナデ	細・少		SB644	
1273	土・小皿	7.0	1.0	5.3	3/8	10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙	回転ナデ、ハラ切り後ナデ、マメツ	回転ナデ、ナデ、マメツ	細・少		SB647	
1274	土・小皿	7.0	1.3	4.7	3/8	2.5YR7/6橙	-	回転ナデ、ハラ切り	回転ナデ、ナデ	微・少		SB647	
1275	土・杯	9.8	2.7	6.2	1/8	10YR8/2灰白	-	回転ナデ、板ナデ	回転ナデ	細・少		SB647	
1276	土・杯	10.4	2.6	5.9	2/8	10YR8/4浅黄橙	7.5YR8/6浅黄橙	回転ナデ、ハラ切り	ハラ切り後ナデ、マメツ	細・少		SB647	
1277	須・碗	11.9	-	-	1/8	N4/灰-2.5Y8/1灰白	2.5Y8/1灰白	回転ナデ、ハラミガキ、マメツ	回転ナデ、ナデ	微・普		SB647	十瓶山
1278	須・碗	14.0	-	-	1/8	2.5Y8/1灰白	-	回転ナデ、指押さえ	回転ナデ、ナデ	細・普		SB647	十瓶山
1279	土・足釜	-	-	-	細片	7.5YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	指押さえ、板ナデ	指押さえ後ナデ	細・普		SB648	
1280	土・土釜	22.0	-	-	1/8	10YR8/3浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	ヨコナデ、板ナデ、指押さえ、マメツ	ヨコナデ、板ナデ、マメツ	中・普		SB648	
1281	土・土釜	23.0	-	-	1/8	10YR4/1褐灰	10YR8/3浅黄橙	ナデ、指押さえ、ハケ目	ナデ、板ナデ	中・普		SB648	
1282	土・土釜	27.1	-	-	1/8	10YR4/1褐灰	10YR7/4にぶい黄橙	ヨコナデ、指押さえ	板ナデ	中・普		SB648	
1283	土・小皿	6.4	0.8	6.0	1/8	7.5YR8/4浅黄橙	-	回転ナデ、ハラ切り	回転ナデ、ナデ	細・少		SB653	
1284	土・鍋	-	-	-	細片	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR7/4にぶい橙	ヨコナデ、ハケ目後ナデ	ヨコナデ、ハケ目、ナデ	細・普		SB653	
1285	土・羽釜	15.8	-	-	1/8	5Y7/6橙	-	ヨコナデ、板ナデ	ヨコナデ	細・普		SB653	
1286	土・足釜	24.0	-	-	1/8	10YR5/3にぶい黄褐	-	ナデ、板ナデ、指押さえ	ナデ、指押さえ、ハケ目	微・少		SB653	
1287	須・杯蓋	11.9	-	-	1/8	N7/灰白	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	細・普		SB653	
1288	須・杯	-	-	-	細片	N6/灰	N7/灰白	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SB657	
1289	黒色・碗	-	-	4.0	2/8	5Y3/1オリーブ黒	7.5YR8/2灰白	指押さえ後ナデ	マメツ	微・少		SB657	黒色B類
1291	土・小皿	8.1	1.6	6.0	2/8	10YR8/3浅黄橙	7.5YR8/4浅黄橙	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SB658	十瓶山産
1292	須・碗	-	-	-	細片	N4/灰	-	ナデ、ハラミガキ、マメツ	ハラミガキ	微・少		SB658	和泉型？
1293	瓦器・碗	-	-	-	細片	N4/灰	-	回転ナデ	回転ナデ	細・普		SB662	
1294	土・碗	14.0	-	-	1/8	2.5YR7/4淡赤橙	2.5Y8/1灰白	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SPb18	
1295	土・小皿	8.0	1.2	5.8	2/8	7.5YR8/3浅黄橙	-	回転ナデ、ハラ切り	回転ナデ	微・少		SPb18	
1297	土・小皿	8.9	1.4	6.3	2/8	7.5YR7/4にぶい橙	-	回転ナデ、ハラ切り	回転ナデ	微・少		SPb18	
1298	瓦器・小皿	9.4	2.0	3.1	7/8	N3/暗灰	-	ヨコナデ、マメツ	ヨコナデ、ハラミガキ、暗文	微・少		SPb18	
1299	土・小皿	8.8	1.9	5.7	完存	2.5YR6/6橙	10YR7/2にぶい黄橙	回転ナデ、ハラ切り後板状圧痕	回転ナデ	微・少		SPb19	和泉型
1300	瓦器・碗	15.6	-	-	1/8	5Y7/1灰白	-	ヨコナデ、指押さえ、ナデ	ヨコナデ、ハラミガキ	微・少		SPb19	和泉型
1301	瓦器・碗	17.0	-	-	1/8	N5/灰	-	ナデ、指押さえ、マメツ	ハラミガキ	細・少		SPb20	和泉型
1302	瓦器・碗	14.2	-	-	1/8	N6/灰	-	ヨコナデ、指押さえ、板ナデ	ハラミガキ	微・少		SPb20	和泉型
1303	須・碗	16.0	-	-	1/8	5Y8/1灰白	N5/灰	回転ナデ、ハラミガキ、指押さえ	指押さえ	微・少		SPb20	十瓶山産
1304	土・壺	-	-	-	2/8	7.5YR6/6橙	7.5YR7/4にぶい橙	マメツ	ハラミガキ	細・普		SPb21	
1305	須・碗	-	-	-	細片	N5/灰-N8/灰白	-	ナデ、ハラミガキ、指押さえ	ナデ、ハラミガキ	微・少		SPb22	十瓶山産
1306	黒色・碗	-	-	-	細片	7.5YR3/1黒褐	-	回転ナデ、指押さえ、ハラミガキ	ナデ、ハラミガキ	微・少		SPb22	黒色B類
1307	瓦器・碗	-	-	-	細片	N3/暗灰	N5/灰	ハラミガキ、指押さえ	ハラミガキ	微・少		SPb23	和泉型
1308	土・小皿	-	-	-	細片	10YR8/2灰白	-	回転ナデ、ハラ切り	回転ナデ	微・少		SPb24	
1309	瓦器・碗	15.4	-	-	1/8	N4/灰	N5/灰	ナデ、指押さえ	ナデ、ハラミガキ	微・少		SPb24	和泉型
1310	須・碗	-	-	6.2	5/8	N4/灰-5Y8/1灰白	5Y8/1灰白	ハラミガキ、指押さえ	板ナデ、ハラミガキ	微・少		SPb24	十瓶山産
1311	須・鉢	31.0	-	-	1/8	N8/灰	N8/灰	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SPb24	

報告書番号	器種	口径	器高	底径	残存率	色調・外	色調・内	調整・外	調整・内	胎土	角閃石	報告書番号	備考
1312	土・碗	12.2	-	-	1/8	25YR7/3淡赤橙	5YR8/3淡橙	回転ナデ、指押さえ	ハラミガキ	細・少		SPb25・ SPb26	
1313	土・小皿	8.3	1.9	7.2	2/8	10YR7/4にぶい黄橙	10YR8/3浅黄橙	回転ナデ、ハラ切り	回転ナデ、ハラ切り	微・少		SPb27	
1314	須・碗	-	-	5.1	4/8	5Y8/1灰白	-	回転ナデ、ハラ切り	板ナデ、マメツ	細・少		SPb28	十瓶山産
1315	瓦器・碗	12.0	-	-	1/8	N3・暗灰	-	ヨコナデ	ヨコナデ、ハラミガキ	微・少		SPb29	和泉型？
1316	瓦器・碗	-	-	4.2	1/8	N4・灰	-	ヨコナデ	ナデ、ハラミガキ	微・少		SPb30	
1317	土・小皿	9.0	1.1	7.4	1/8	5YR5/4にぶい赤褐	5YR5/3にぶい赤褐	回転ナデ	回転ナデ	細・普		SPb31	十瓶山産
1318	土・杯	14.0	-	-	2/8	8YR5/4にぶい赤褐	-	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SPb32	
1319	須・碗	-	-	6.1	8/8	N8・灰白	-	回転ナデ、ハラ切り	ナデ、ハラ切り	細・普		SPb33	
1320	土・小皿	8.5	1.7	6.8	完存	10YR6/1褐灰	10YR7/2にぶい黄橙	回転ナデ、ハラ切り	回転ナデ、ハラ切り	細・少		SPb34	黒色A類
1321	土・小皿	7.8	1.3	7.1	3/8	5YR5/1褐灰	-	回転ナデ、糸切り	回転ナデ、ナデ、板ナデ	細・少		SPb35	
1322	土・壺	-	-	-	1/8	5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/4にぶい褐	ヨコナデ、ハラ切り	ヨコナデ、指押さえ、板ナデ	中・多		SPb36	
1323	土・壺	-	-	-	1/8	5YR6/4にぶい橙	5Y3/1オリーブ黒	指ナデ、マメツ	ハラミガキ、マメツ	微・少		SPb37	
1324	黒色・碗	-	-	5.0	1/8	7.5YR6/6橙	10YR8/3浅黄橙	ヨコナデ、ハラ目	ヨコナデ、ハラ目	細・普		SPb38	
1325	土・鍋	34.4	-	-	1/8	10YR5/2灰黄褐	-	ヨコナデ、ハラ切り	ヨコナデ	細・普		SPb39	
1326	土・小皿	8.0	1.6	5.0	1/8	5YR6/6橙	-	ヨコナデ、ハラ切り	ヨコナデ	細・普		SPb40	
1327	土・杯	-	-	7.0	3/8	2.5YR6/4にぶい橙	10YR7/3にぶい黄橙	回転ナデ、ハラ切り	回転ナデ、ナデ	細・少		SPb41	黒色B類
1328	土・杯	13.2	-	-	1/8	5YR7/6橙	7.5YR8/2灰白	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SPb42	
1329	土・小皿	8.4	1.4	5.9	2/8	5YR7/6橙	10YR8/3浅黄橙	回転ナデ、糸切り	回転ナデ、ナデ	微・少		SPb43	
1330	瓦器・碗	-	-	-	細片	5Y5/1灰	-	ナデ	ハラミガキ	微・少		SPb44	和泉型
1331	土・碗	13.8	-	-	1/8	10YR8/2灰白	-	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SPb45	
1332	土・杯	-	-	9.6	2/8	7.5YR8/2灰白	-	回転ナデ、糸切り	回転ナデ	細・少		SPb46	
1333	須・碗	12.4	-	-	1/8	5YR7/2明褐灰	-	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SPb47	
1334	黒色・碗	13.9	6.9	6.5	7/8	10YR2/1黒	-	ナデ、ハラミガキ	ナデ、ハラミガキ	細・少		SPb48	
1335	土・小皿	8.6	-	-	2/8	5YR7/6橙	-	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SPb49	スス付着
1336	土・碗	9.6	-	-	1/8	10YR8/4浅黄橙	10YR7/4にぶい黄橙	ナデ	ナデ	微・少		SPb42	
1337	土・小皿	6.3	1.0	5.4	1/8	10YR8/4浅黄橙	-	ナデ、ハラ切り	ナデ	微・少		SPb43	
1338	土・小皿	9.2	1.4	7.8	1/8	5Y8/1灰白	-	回転ナデ、ハラ切り	回転ナデ	細・少		SPb44	
1339	土・小皿	8.0	1.4	4.8	1/8	7.5YR8/3浅黄橙	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	微・少		SPb45	
1340	土・杯	12.3	-	-	1/8	5YR6/4にぶい橙	-	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SPb46	
1341	土・小皿	9.8	1.2	7.0	1/8	5YR7/6橙	-	回転ナデ、糸切り	回転ナデ	細・普		SPb47	
1344	土・杯	14.1	3.1	8.6	1/8	10YR7/3にぶい黄橙	5YR6/4にぶい橙	回転ナデ、糸切り	回転ナデ、ナデ	細・普		SPb48	
1345	黒色・碗	15.6	-	-	1/8	10YR7/3にぶい黄橙	10YR6/2灰黄褐	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ハラ目	細・少		SPb49	黒色A類、十瓶山産
1346	瓦器・碗	14.4	-	-	1/8	10YR8/2灰白	7.5YR3/1オリーブ黒	指押さえ、ナデ	ハラミガキ	細・普		SPb50	和泉型
1347	土・小皿	8.6	1.3	6.7	7/8	2.5Y8/1灰白	-	回転ナデ、ハラ切り	回転ナデ	微・普		SPb51	
1348	土・小皿	8.8	1.4	6.7	1/8	7.5YR8/3浅黄橙	-	回転ナデ、ハラ切り	回転ナデ	細・少		SPb52	
1349	土・小皿	9.0	1.3	7.2	1/8	10YR8/2灰白	-	回転ナデ、ハラ切り	回転ナデ	微・少		SPb53	
1350	土・小皿	8.7	1.4	6.6	1/8	10YR8/2灰白	-	回転ナデ、ハラ切り	回転ナデ	微・少		SPb54	
1351	土・小皿	8.6	1.4	6.4	8/8	10YR8/2灰白	-	回転ナデ、糸切り	回転ナデ	微・少		SPb55	
1352	土・小皿	9.8	1.5	7.2	1/8	10YR8/3浅黄橙	10YR8/2灰白	回転ナデ、糸切り	回転ナデ、ナデ	細・普		SPb56	
1353	土・碗	13.8	-	-	1/8	10YR8/2灰白	-	回転ナデ	回転ナデ	細・普		SPb57	
1354	土・小皿	8.8	1.6	6.2	1/8	7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR7/2明褐灰	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	細・普		SPb58	
1355	土・小皿	8.5	1.3	5.2	5/8	7.5YR8/3浅黄橙	5YR7/6橙	回転ナデ、ハラ切り	回転ナデ	細・普		SPb59	
1356	土・小皿	8.8	-	6.3	完存	2.5Y7/1灰白	2.5Y6/1黄灰	回転ナデ、ハラ切り	回転ナデ、ナデ	細・少		SPb60	
1357	土・小皿	8.6	1.5	6.1	2/8	10YR8/2灰白	-	回転ナデ、ハラ切り	回転ナデ	細・少		SPb61	
1358	土・杯	15.4	3.4	8.5	6/8	5YR7/6橙	-	回転ナデ、ハラ切り	回転ナデ	細・普		SPb62	
1359	土・杯	15.0	2.9	8.4	1/8	5YR7/4にぶい橙	-	回転ナデ、ハラ切り	回転ナデ	中・少		SPb63	
1361	土・小皿	8.0	1.2	7.5	1/8	5YR5/2灰褐	5YR5/1灰褐	回転ナデ、糸切り	回転ナデ	細・少		SPb64	
1362	土・小皿	8.9	1.2	7.0	1/8	10YR5/2灰黄褐	2.5Y8/2灰白	回転ナデ、ハラ切り	回転ナデ	細・普		SPb65	
1363	土・小皿	7.6	1.3	5.7	完存	5YR7/6橙	-	回転ナデ、ハラ切り	回転ナデ、ナデ	細・普		SPb66	
1364	土・小皿	7.8	1.4	5.7	完存	10YR8/3浅黄橙	-	回転ナデ、ハラ切り	回転ナデ、ナデ	細・普		SPb67	
1365	黒色・碗	17.0	-	-	1/8	5YR7/6橙	10YR6/1褐灰	回転ナデ	マメツ	細・少		SPb68	黒色A類
1366	青磁・碗	-	-	-	細片	N6/灰・(釉)5Y5/2灰オリーブ	-	回転ナデ	回転ナデ	霏密		SPb69	釉釉
1367	須・碗	-	-	5.1	7/8	2.5Y6/1黄灰	-	ナデ	板ナデ、マメツ	細・少		SPb60	十瓶山産

報告番号	器種	口径	器高	底径	残存率	色調・外	色調・内	調整・外	調整・内	胎土	角閃石	報告・運搬名	備考
1368	土・碗	-	-	5.0	4/8	10YR8/1灰白	2.5Y2/1黒	指押さえ後ナデ、ヨコナデ、ナデ	ナデ	細・少		SP b 61	吉備系?
1369	土・小皿	9.0	1.2	5.9	3/8	5YR8/4黄緑	5YR8/4黄緑	回転ナデ、ハラ切り後ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少		SP b 62	
1370	土・土釜	23.6	-	-	1/8	7.5YR6/4にぶい黄緑	10YR7/2にぶい黄緑	ヨコナデ、指押さえ、マメツ	ヨコナデ、板ナデ	細・中		SXb09	施釉
1371	磁・碗	-	-	6.0	1/8	5Y8/2灰白	(釉)10GY4/1暗緑灰	回転ナデ	回転ナデ	緻密		SXb09	施釉
1372	丸瓦	現存長 11.2	最大幅 7.5	最大厚 1.8	1/8	7.5Y2/1黒	-	ナデ	布目、ハラケズリ、ナデ	細・少		SXb09	瓦
1373	丸瓦	現存長 24.0	最大幅 7.5	最大厚 1.6	3/8	N3/暗灰	-	板ナデ	ハラケズリ、ナデ	細・少		SXb09	瓦
1378	須・杯	15.2	-	-	1/8	N5/灰	N8/灰白	回転ナデ、ハラミガキ	回転ナデ、ハラケズリ、ナデ	微・少		SXb13	
1379	土・釜	-	-	-	細片	10YR8/2灰白	2.5Y8/2灰白	ナデ、指押さえ	ナデ、ハラケズリ、ナデ	中・普		SXb13	
1380	土・鍋	-	-	-	細片	10YR8/3浅黄緑	-	板ナデ	板ナデ	中・普		SXb13	
1381	土・鍋	-	-	-	細片	10YR7/4にぶい黄緑	-	板ナデ、指押さえ後板ナデ	ナデ	細・中		SXb13	
1382	土・罐鉢	31.0	15.0	9.2	2/8	5YR5/4にぶい赤褐	7.5YR4/2灰褐	ヨコナデ、ナデ、指押さえ	ナデ	中・普		SXb13	
1383	土・甕	37.2	-	-	1/8	10YR8/3浅黄緑	-	ナデ、指押さえ	ナデ、板ナデ	中・普		SXb13	
1384	青磁・碗	-	-	5.7	8/8	N7/灰白(釉) 2.5GY6/1オリーブ灰	-	回転ナデ	回転ナデ	緻密		SXb13	施釉
1385	陶・碗	-	-	4.7	5/8	10YR4/3にぶい黄褐・ (釉)5Y8/4黄	-	回転ナデ	回転ナデ	緻密		SXb13	施釉
1386	土・杯	11.2	復元2.0	-	1/8	5YR7/6橙	5YR7/4にぶい橙	ナデ	ナデ	微・少		SXb14	
1387	土・杯	11.6	2.3	7.8	1/8	7.5YR8/4浅黄緑	-	ナデ、ハラ切り	ナデ	細・普		SXb14	
1388	須・杯	-	-	9.4	2/8	N3/暗灰	N4/灰	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	微・少		SXb14	
1389	土・小皿	8.2	-	-	1/8	7.5YR7/4にぶい橙	-	回転ナデ	回転ナデ	細・少		SXb15	
1390	土・杯	15.8	-	-	1/8	2.5Y8/2灰白	-	回転ナデ、ハラ切り後ナデ	回転ナデ	細・普		SXb17	
1391	瓦器・瓶	11.6	-	-	1/8	N4/灰	-	ナデ、指押さえ	ナデ、ハラミガキ、マメツ	微・少		SXb17	和原型
1392	瓦器・碗	15.0	-	-	1/8	N4/灰	-	ヨコナデ、指押さえ、ナデ	ナデ、ハラミガキ	微・少		SXb17	和原型
1393	瓦器・碗	15.3	-	-	1/8	N4/灰	-	ナデ、指押さえ	ハラミガキ	微・少		SXb17	和原型
1394	土・小皿	7.9	1.4	4.8	1/8	7.5YR8/4浅黄緑	-	回転ナデ、ハラ切り	回転ナデ	細・少		SXb18	
1395	瓦器・碗	-	-	-	細片	N3/灰	-	回転ナデ	ハラミガキ	微・少		SXb18	和原型?
1396	須・杯	-	-	-	細片	2.5Y7/1灰白	-	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SKb70	
1397	瓦質・焙烙	-	-	-	細片	N4/灰	-	ヨコナデ	ヨコナデ	中・少		SKb70	
1398	土・羽釜	-	-	-	2/8	2.5Y6/1黄褐	10YR5/4にぶい黄褐	ヨコナデ、指押さえ	ハラケズリ、指ナデ	微・少		SKb71	
1399	土・茶釜	20.0	-	-	2/8	2.5Y6/2灰黄	10YR6/3にぶい黄緑	ナデ、指押さえ	ナデ、指押さえ、ハラケ目後指押さえ	細・少		SKb71	
1400	陶・鉢	19.3	-	-	1/8	2.5YR6/6橙	2.5YR5/4にぶい赤褐	ヨコナデ	ナデ、マメツ	微・普		SKb72	
1401	瓦質・焙烙	36.0	-	-	細片	N3/暗灰	N8/灰白	ナデ	ナデ	微・少		SKb73	
1402	磁・碗	-	-	-	3/8	N8/灰白(釉)10BG6/1 青灰	-	回転ナデ	回転ナデ	緻密		SDb64	染付、施釉
1403	磁・皿	17.8	-	-	細片	5Y8/1灰白(須須) 5B7/1明青灰	(須須)7.5GY4/1暗緑 灰	回転ナデ	回転ナデ	緻密		SDb64	染付、施釉
1404	青磁・香炉?	16.7	-	-	1/8	10GY7/1明緑灰・(釉) N7/灰白	-	回転ナデ	回転ナデ	緻密		SDb64	施釉
1405	磁・鉢	34.0	7.6	15.3	3/8	5Y8/1灰白(釉)5Y7/4 浅黄	-	回転ナデ	回転ナデ	緻密		SDb64	施釉、露胎、砂目襷
1406	瓦質・羽釜	-	-	-	1/8	N4/灰	N5/灰	回転ナデ	回転ナデ	微・少		SDb64	
1407	軒平瓦	現存長 10.6	最大幅 8.2	最大厚 3.9	1/8	N3/暗灰	-	板ナデ、ナデ	ナデ、ハラケズリ	細・少		SDb64	
1409	瓦質・焙烙	-	-	-	細片	2.5Y4/1黄灰	-	ナデ、指押さえ	ナデ、板ナデ	微・少		SXb19	
1410	陶・罐鉢	30.9	11.5	14.6	2/8	2.5YR5/1赤灰	-	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	細・少		SXb19	備前焼
1411	丸瓦	現存長 26.9	最大幅 11.3	最大厚 2.3	3/8	5YR6/8橙	10YR7/3にぶい黄緑	板ナデ	ナデ、布目、糸切り痕、組痕	細・少		SXb19	瓦
1412	土・鍋	-	-	-	細片	N6/灰	-	回転ナデ	回転ナデ	細・普		SXb20	
1413	須・杯	14.0	4.6	9.5	6/8	N8/灰	-	回転ナデ、ヨコナデ、ハラケズリ	回転ナデ	細・少			
1414	須・杯	16.0	6.2	9.0	2/8	N8/灰白	-	回転ナデ、ハラ切り	回転ナデ	微・少			
1415	須・皿	19.0	2.2	16.6	2/8	5Y7/1灰白	-	回転ナデ、ハラ切り?	回転ナデ	細・少			

報告書番号	器種	口径	器高	底径	残存率	色調・外	色調・内	調整・外	調整・内	胎土	角閃石	報告書標名	備考
1416	須・高杯	—	—	7.8	2/8	N7/灰白	—	回転ナデ	回転ナデ	微・少			
1417	土・小皿	9.8	1.6	6.9	2/8	5YR7/6橙	10YR8/2灰白	回転ナデ、ヘラ切り後板状瓦裏	回転ナデ	細・少			
1418	土・杯	12.0	4.3	6.1	2/8	5YR6/6橙	10YR8/2灰白	回転ナデ、糸切り	回転ナデ	細・少			
1419	青磁・碗	—	—	5.2	8/8	N8/灰白・(釉)2.5GY6/1オリーブ灰	—	回転ナデ	回転ナデ	緻密			
1420	弥・壺	10.5	—	—	3/8	7.5YR6/4にぶい赤褐	—	ヨコナデ、ナデ、指押さえ	ヨコナデ、ナデ、指押さえ	細・普	○		
1421	弥・壺	14.3	—	—	2/8	5YR7/6橙	—	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ	細・少			
1422	弥・壺	14.8	—	—	1/8	7.5YR5/4にぶい褐	—	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ	微・多	○		
1423	弥・壺	—	—	—	細片	5YR5/4にぶい赤褐	—	ヨコナデ、タタキ後ハケ目	ヨコナデ、指押さえ	細・少	○		
1424	弥・壺	12.0	—	—	1/8	7.5YR6/4にぶい赤褐	—	ヨコナデ、ハケ目、マメツ	ヨコナデ、ナデ	中・少			
1425	弥・壺	15.6	—	—	1/8	7.5YR6/6明褐	—	ナデ、ハケ目、マメツ	ナデ、マメツ	微・少	○		
1426	弥・壺	24.6	—	—	2/8	10YR6/4にぶい黄橙	2.5YR6/3にぶい黄	ナデ、指押さえ、ハケ目、マメツ	ナデ、ヘラケズリ、マメツ	粗・普			報1427と同一?
1427	弥・壺	—	—	10.0	8/8	7.5YR7/4にぶい赤褐	10YR4/1濁灰	指押さえ、ハケ目、ナデ	ヘラケズリ、マメツ	粗・普			報1426と同一?
1428	土・壺	30.5	—	—	1/8	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR7/4にぶい赤褐	ヨコナデ、ヘラミガキ?、マメツ	ヨコナデ、指押さえ	中・少			
1429	弥・鉢	—	—	5.7	3/8	5YR7/6橙	7.5YR8/4淺黄橙	指押さえ、ナデ	指押さえ後板ナデ	細・少			
1430	弥・鉢	13.2	8.6	5.7	3/8	7.5YR8/6淺黄橙	—	ヘラケズリ、指押さえ、ナデ、板ナデ	板ナデ、マメツ	細・普			
1431	青磁・碗	—	—	4.9	8/8	5Y7/1灰白	(釉)5Y6/2灰オリーブ	回転ナデ、ヘラ切り	回転ナデ	緻密			施釉
1432	磁・碗	—	—	4.5	4/8	5Y6/1灰・(釉)10Y6/1灰	—	回転ナデ	回転ナデ	緻密			施釉
1433	弥・壺	12.8	—	—	1/8	5YR7/6橙	7.5YR7/4にぶい赤褐	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ	微・少			
1434	弥・高杯	—	—	—	7/8	7.5YR6/4にぶい赤褐	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	細・普	○		
1435	弥・鉢	36.5	—	—	2/8	7.5YR6/4にぶい赤褐	—	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、板ナデ	細・普	○		注ぎ口
1436	須・杯蓋	—	—	—	細片	10B6.5/1青灰	—	ナデ	ナデ	微・少			
1437	須・杯蓋	15.0	—	—	5/8	N6/灰	—	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ	回転ナデ、ナデ	細・少			
1438	須・杯	12.0	3.4	8.2	2/8	5Y7/1灰白	—	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	細・少			
1439	須・杯	13.0	3.6	10.0	2/8	N5/灰	—	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	中・普			
1440	須・杯	—	—	—	—	N5/灰	—	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	微・少			
1441	須・皿	—	—	—	—	2.5Y7/1灰白	—	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	中・少			
1442	須・高杯	—	—	—	—	N6/灰	—	回転ナデ	回転ナデ	細・普			底部に連続するヘラ圧痕
1443	須・高杯	—	—	—	—	N7/灰白	—	回転ナデ	回転ナデ	細・少			
1444	須・壺	—	—	—	—	2.5Y4/1黄灰	—	回転ナデ	回転ナデ	中・少			
1445	須・壺	—	—	7.6	1/8	2.5Y4/1黄灰	—	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	細・少			
1446	須・壺	—	—	—	—	N6/灰	—	回転ナデ	回転ナデ	細・普			
1447	須・壺	30.6	—	—	—	N6/灰	—	回転ナデ	回転ナデ	細・普			
1448	土・鍋	—	—	—	—	7.5YR5/2灰褐	—	タタキ	ハケ目	細・普			
1449	弥・壺	14.8	—	—	2/8	7.5YR6/4にぶい赤褐	10YR7/2にぶい黄橙	ヨコナデ、ハケ目後ヘラミガキ	ヨコナデ、指押さえ、ナデ	中・少			
1450	弥・壺	13.6	—	—	2/8	10YR7/4にぶい黄橙	2.5Y6/2灰黄	ヨコナデ、指押さえ、ハケ目、タタキ後ハケ目	ヨコナデ、指押さえ、指ナデ	中・少			
1451	弥・壺	21.6	—	—	4/8	5YR7/8橙	10YR7/3にぶい黄橙	ヨコナデ、指押さえ、ナデ、マメツ	ヨコナデ、指押さえ、指ナデ、指押さえ	中・多	○		
1452	弥・壺	6.7	7.3	2.5	8/8	7.5YR6/4にぶい赤褐	5Y6/6橙	ヨコナデ、板ナデ	ヨコナデ、指押さえ、マメツ	細・普			
1453	弥・壺	—	—	11.5	6/8	2.5YR6/8橙	2.5Y4/1黄灰	マメツ	指ナデ、指押さえ、マメツ	中・普			
1454	弥・壺	—	—	7.1	8/8	7.5YR8/4淺黄橙	2.5Y5/2暗灰黄	タタキ後ハケ目、指押さえ、マメツ	指押さえ、指ナデ	中・少			
1455	弥・壺	13.6	—	—	7/8	7.5YR7/3にぶい赤褐	7.5YR6/2灰褐	ヨコナデ、ハケ目、マメツ	指押さえ、指ナデ、指押さえ	細・少			
1456	弥・壺	13.8	—	—	1/8	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	ヨコナデ、ハケ目、マメツ	ヨコナデ、ナデ、指押さえ、ヘラケズリ	細・少	○		
1457	弥・壺	12.5	—	—	1/8	7.5YR6/4にぶい赤褐	—	ヨコナデ、ハケ目	ヨコナデ、指押さえ	細・少	○		
1458	弥・壺	13.9	—	—	1/8	5YR6/4橙	—	ヨコナデ、ハケ目、マメツ	ヨコナデ、指押さえ、ナデ	細・普	○		
1459	弥・壺	23.2	—	—	1/8	7.5YR6/6橙	7.5YR8/4淺黄橙	ヨコナデ、指押さえ、ハケ目、マメツ	ヨコナデ、マメツ	細・少	○		
1460	弥・高杯	—	—	16.6	2/8	7.5YR6/4にぶい赤褐	7.5YR5/4にぶい褐	板ナデ、ヨコナデ	板ナデ、ヘラケズリ、ヨコナデ	細・少	○		透かし穴現存1ヶ所
1461	弥・高杯	19.0	—	—	4/8	7.5YR5/6明褐	—	ヨコナデ、ヘラミガキ、マメツ	ヨコナデ、マメツ、ヘラミガキ、ヘラケズリ	細・少	○		
1462	弥・高杯	23.8	—	—	2/8	10YR5/3にぶい黄褐	10YR5/4にぶい黄褐	ヨコナデ	ヨコナデ	細・少	○		
1463	弥・高杯	23.8	—	—	1/8	7.5YR5/4にぶい褐	—	ヨコナデ、ナデ、ヘラミガキ	ヨコナデ、ヘラミガキ	細・少	○		
1464	弥・高杯	23.8	—	—	1/8	7.5YR5/4にぶい褐	10YR6/4にぶい黄褐	ヨコナデ、ヘラケズリ後ヘラミガキ	ヨコナデ、ヘラミガキ	細・少	○		
1465	弥・高杯	25.5	—	—	2/8	7.5YR5/3にぶい褐	7.5YR5/4にぶい褐	ヨコナデ、ヘラミガキ	ヨコナデ、ヘラミガキ、ヘラケズリ	中・少	○		